有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について（意見・情報の一覧）

通し番号	ご意見・情報
0001	PFOSは、国際がん研究機関で、昨年4段階中最も高い「発がん性がある」に評価が引きあがりました。この結果を受け、米国や欧米諸国では規制を強化すると聞いています。食品安全委員会は、国民の健康保護が最も重要であるという基本認識のもと組織された委員会であるならば、国際基準にしたがって規制を強化することが、組織存立の原則に則った対応ではないでしょうか？２４年２月６日の朝日新聞掲載記事を読み、さらにその思いを強く持ちました。再考をお願いします。
0002	発がん性については証拠不十分としているが、IARCの発がん性分類　2023,12,1では　PFOAを従来の２Bから１に変更し、PFOSもあらたに２Bにしている。これに従うべきである。 　農水省ダイエットスタディーでは１日推定摂取量上限がPFOA0.79ng/kg体重　PFOSが1.2ng/kg体重であり、当時の欧州食品安全機関の許容１日摂取量がPFOA1500ng/kg体重　PFOS150ng/kg体重であったことから、健康への懸念はないとしているが、同機関は2020年にはPFASの血中濃度とワクチン抗体濃度低下との関連性についての疫学研究に基づいて再評価を行い、出産可能な女性がこの値を超えなければ、長期間母乳で育てられた子供であっても健康への悪影響は予想されないことを根拠に１週間の耐容摂取量を 4.4ng/kg体重に変更している。 新基準では推定週間摂取量は5ー14ng/Kg体重で耐容摂取量の1.1ー3.2倍となり健康への懸念はないとはいえない。 　こどもの未来の健康を守る事を基準にするのは、人類の生存のために何より重要であり、　日本も欧州食品安全機関の規制値を採用するべきである
0003	諸外国よりも高い安全基準値をもっと低く調査してほしい。「体重50kgの人が水を一生涯にわたって毎日２リットル飲用したとしても、この濃度以下であれば人の健康に悪影響が生じないと考えられる水準」というのはとうてい安心できる数値でない。現在一日に２リットルの水分摂取はすすめられているし、体重の軽い子供などはもっと多く飲んでいる。市民目線での安全基準値を検討してほしい。
0004	外国文献などによると魚介類の PFAS 含量が他の食品群に比べて高い傾向が示されましたが、我が国の分析例が養殖カキではほとんどなく、早急に公定法（８訂食品成分表参考）を確立、調査すべきす。また科学誌Nature2023年２月９日号 Comprehensive characterization　o f　per- and polyfluoroalkyl substances in waste water by LC-MS and screening by algorithms のように今後、炭素安定同位比と共にカキ魚介類食品残座排出源特定に利用すべきです。
0005	この度の指標は欧州食品安全機関がさだめた許容摂取量の数十倍となる。再評価が必要と考える。
0006	貴委員会の設定した基準は高すぎると思います。なぜ、欧州や米国並みの値に設定しないのですか。日本での知見が不十分な場合には、既に基準を設定している国や機構の基準を参考にすべきではないですか。せめて、同程度の値での基準設定を要望します。
0007	PFASの危険性について、欧米の基準より劣る基準を設定することに反対します。
0008	*今回の案はPFOS20ng/kg体重/日、PFOA20ng/kg体重/日　ですが、他国にくらべ、両物質で40ng/kg体重/日とはあまりにも緩すぎます。他国との差の理由をうかがいます。 *本当に海外の論文を読み検討したのですか？　他国の基準を無視する理由はなぜですか？　他国の基準設定が不必要と国際的に公言できますか？ *日本国内の疫学データを根拠の１つにしないのはなぜですか？　関係が認められないのではなく、疫学データ収集・考察を行っていないから根拠にできないのでしょう？ *2020年の水の暫定目標値はEPA2016のRfDを踏まえ決めたそうですが、今回はEPA2023踏まえないのはなぜですか? *東京・多摩や大阪府摂津市の住民の血中濃度が高く水汚染と血液汚染に相関ありという民間のデータがあります。低体重児出産比率や腎ガン発生実態について調査したのですか？ *日本でもまず、公費でアメリカ並みに万人単位での疫学調査を実施して下さい。 *健康被害が出てからでは遅いです。予防原則に立って未然に健康被害を防ぐことを望みます。PFAS ゼロを目指した長期的な視野に立った対策も望みます。
0009	総じてリスク評価が緩すぎると考えます。過去の公害事件の繰り返しをしてはなりません。優先すべきは経済活動より、人の生命、身体、健康であり、とりわけ子どもたち将来世代への影響が第一です。 摂取許容量が低すぎること、IARCによる発がん性の可能性の指摘を取り入れないこと、PFOA、PFOS以外の要素を評価外とすることについて反対です。 文献調査、疫学調査が足りなければ、大至急行うべきです。
0010	その１： １．　有害性の評価に関してメタアナリシスを行った論文の所見は採用すべき：今回の評価書のTDIは、リスク管理に当たり2019年に我が国の飲料水の暫定基準に際して採用された動物実験データにのみに基き行われており、疫学データの採用は行われていない。疫学研究には、研究間で通常その結果の変動や、異質性が認められるのはよく知られた事実である。そのためそのような問題を解決する手法としてエビデンスベースドメディスン（EBM)では、メタアナリシスがもちられてきた。本評価書の作成に当たって、数報の疫学論文をまとめたメタアナリシスの所見は採用すべきだと考えるがいかがか？ ２．　発がん性に関して：疫学研究間の不一致をもってIARCの発がん区分１が無視されているが、EBMに基づき科学的に判断すべきであると考える。また、IARCの発がん区分１の物質に関しては、従来行政は「閾値あり」あるいは「閾値なし」の用量反応曲線の選定にIARCの区分に基づき判断を行ってきた。メタアナリシスでの根拠も示さず無視し採用を却下している理由は何か？
0011	またこの点に関して我が国の質の高い発がん疫学を行うべきであろう。腎がんにおいては支持するメタアナリシスの論文がある。 ３．　体重抑制に関して：ヒトの疫学データにおいて、SGAや低出生体重児などの指標に寄ることなく、「発育の抑制」を健康に対する有害性として認めこれを指標にPODを決め、より安全な値をとるべきではないか。支持するメタアナリシスの論文あり。 ４．免疫毒性に関して：本評価書で採用されている論文３本のCOVID-19の研究対象年齢は12歳以上である。乳幼児という年齢階層に注目し、ワクチンの疫学調査や、易感染性を含めてPODを算出すべきではないか？

	５．今回の TDI が安全性の担保を欠いている点：今回 TDI として PFOA、PFOS とも動物実験を根拠に 20ng/Kg/日を提案している。この値は、基となった EPA の動態モデルを用いており、PFOS の TDI に対応する血中濃度は 250ng/mL, PFOA については、143ng/mL となる。一般人口の疫学調査でこのレベルの血中濃度をカバーする研究は見当たらず、妊産婦、乳幼児、など感受性の高い集団に関する安全性の担保はできていないと考える。
0012	有機フッ素化合物の食品や水質基準は直ちに国際基準または、それ以下に下げるべき。 日本の有機フッ素化合物に対する対策が信用できない。 国費によって 過去に遡り住人の血中検査濃度、疾患との因果関係の解明を行うべき。 偏り過ぎた大企業優先の税制や法制 水道事業の民営化など棄民政策がひどい。 経済活動も自由化すべき所と取り締まりを強化すべきところが、余りにも時代にそ即していない。
0013	評価書が２０ｎｇが妥当としたと聞いて驚いています。欧州食品安全機関許容摂取量の６０倍も許容することは日本人の健康を守る姿勢とは考えられません。ヒトの疫学調査も考慮して少なくとも欧州や米国の許容量並みに引き下げるよう見直してください。
0014	米国環境保護庁の　PFOA　0.03ng/kg 体重/日　の 666 倍、 PFOS　0.1ng/kg 体重/日　　の 200 倍も許容しようとしているのは 考えられません。　横田基地からの垂れ流しを不問にしようとしているとしか 言えません。
0015	食品安全委員会の PFAS「評価書(案)」が一日許容を摂取量体重キログラムあたり 20 ナノグラム、PFH×S は「指標値の算出は困難」とされたことに危機感を持っています。専門家はこの基準は健康影響の懸念をはるかに上回る数値だと指摘しています。我が国も欧米並みの基準が当然だと思います
0016	評価書が「20ng が妥当」と判断したことが不安ですし、驚きました。米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。もっと論文を集めて再評価して下さい。国内ではヒトの疫学データがないため 2020 年の水の暫定目標値は EPA2016 の RfD を踏まえ決めていたはず。なぜ今回は EPA2023 を参考にしないのですか？東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く水汚染と血液汚染に相関があると学びました。多摩地区に住むものとして、これから子どもたちにどう影響するのか、もっと真剣に考え、もっと厳しい基準を考えて欲しいです。PFAS は発がん性のあるものと WHO は分類しています。もっと調査、研究そして、がんを未然に防ぐような対策を取ってください。
0017	PFAS は西東京市の水道水や井戸水から検出されただけでなく、市民の血液中からも発見されて大きな不安が広がっており、食品安全委員会が国民の立場に立って規制していただくことに大きな期待を持っていました。 ところが食品安全委員会が示す摂取許容量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準と聞いており、とても納得できません。 案を撤回して、水俣病などの反省にたった「予防原則」による厳しい規制値にしていただくようお願いします。
0018	岡山県加賀郡吉備中央町円城地区に居住しています。情報が知りたくて、こちらのホームページに入室させていただきました。
0019	健康被害が出るほど深刻な問題なので、政府の都合で基準を緩くするのではなく、世界基準に合わせた数値にしてください！
0020	PFAS の食品安全基準が国際規格よりだいぶ緩められたことに大きな不安を覚えます。世界保健機関傘下の国際がん研究機関が昨年１１月に公表した評価結果で、ＰＦＯＡを「ヒトに対して発がん性がある」と分類しているとの報道もあります。また専門家も今回の基準の危険性を指摘しています。 貴委員会は私たち日本国民が安心して食品を口にできるような指針を策定してほしいです。今回の基準は白紙に戻し、再度国民目線に立った検討をお願いします。
0021	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果(案)の PFAS、PFOA の基準値は、アメリカの基準値からすると、何百倍もの甘い基準です。アメリカでは、多くの検査と訴訟が行われての基準値が確立されているのですから、日本もこの基準に倣うべきです。（案）の基準値では、多くのがん患者を作り出してしまう可能性が、高いです。 基準値を見直してください。 　また、PFAS は、多くの有機フッ素化合物を含む総称で、新たな有機フッ素化合物が生み出されてくるものです。別の原子記号による有機フッ素化合物にも予防策も講じる必要があると考えます。ご検討ください。
0022	何故、諸外国に比べ、日本の値が高いのか、その理由と安全性の保証に関する、簡易で分かりやすい言葉での十分な説明が欲しいです。記載された数値だけをみると、不安感を煽られます。
0023	PFAS 汚染に対する我が国の対策は甘すぎます。最新の研究に基づく、基準値の大幅な引き下げが、必要です。
0024	政府および行政府は　まずは情報を集めることが大事。内容に関して検討するのはそのあとではないでしょうか。 市民が心配に思っている事に関して、ただ単に取り合わないというのはおかしい。流言飛語が飛びかったり、いたずらに不安にすることになる。 例えば、節目検診などの機会を使って、血液検査の項目に追加すれば、多くのデーターが取れるのでは。今、の検査項目はどのようにして決められたかわからないが、単に、個人の状態を知るためだけでなく、疫学的な調査にも使われているのでないでしょうか。 知らさないことは、市民に対する人権が損なわれると感じます。 また、コロナワクチン等は、個人に対して郵送で送られてきますから、いずれにしても、協力者を依頼することはできるはず。国民の健康に生きる権利を守るのは行政が行う事だと思います。
0025	私が住んでいる岐阜県各務原市では、PFAS が水道水に高い数値で含まれていることがわかりました。民間団体と京都大学が共同して血液検査した結果、アメリカの基準の 20ng／ＭＬを 7 割の人が超える結果がでた地域がありました。そして水道水に含まれるＰＦＡＳは暫定目標値以下にはなりましたが、他市の水道水と比べても高い数値です。特にＰＦＨｘＳの数値が高いのですが、規制対象は 2 種類だけでそれ以外は含まれませんでした。世界的に見ても甘い規制であり、問題であると考えます。これでは安心して水道水を飲むことができませんので規制の強化をすべきです。
0026	2024 年 2 月時点の最新の評価書内容からも、日本の PFAS 問題に対する取り組みは、欧米の取り組みと比べて、毒性評価対象の少なさと指標値設定の甘さから、対応が雑で遅れているように感じてならない。 評価対象物質として「国内外の規制等における動向を踏まえて」 PFOA, PFOS, PFHxS としているが、それら以外の

	PFAS について、現状では少なくとも海外評価機関が評価対象としている PFNA 等をなぜ評価対象から外しているのか、分からない。 また、指標値の算出方法について、海外評価機関の算出する指標値を参考にしておきながら、疫学研究による設定値を除外している理由も不明。 単純に、摂取許容量が、欧米の定める値と比べて数十倍～数百倍と桁違いに多く、危険性を正しく認識できていないのではないかと大きな不安を感じる。 長期的にはあくまで摂取量ゼロを目指すべきであり、直近の暫定値としても、現状、明確に安全性が確認できていない以上、安全側に倒した厳しい値を設定すべき。
0027	ご苦労様です。 　食品安全委員会が米国や欧州より数百倍高い摂取量を示したことに不安を覚えています。行政のなすべきは国民の安心と安全ではないでしょうか。 　何故、欧州や米国よりも高い値が示されるのでしょうか。 　国民を無視するのではなく、国民の立場に添った仕事を希望します。
0028	日本で有期フッ素化合物が問題として一般に知られるようになったのは最近で、欧米に大きく遅れています。 日本での汚染状況もよく分かっておらず、汚染規模や被害の程度も調査は緒についたばかりと聞いています。 発がん性がはっきりしているのに、欧州食品安全機関（EFSA）が採用する摂取許容量よりも大幅に上回った許容量を採用するのは困ります。 また全国的な環境調査や疫学調査を大至急実施し、その上で評価しなおす必要があると思います。
0029	基地におけるピーファス問題は、人に影響を与える重要課題です。 　全国にある、基地の地下水を全て調査して、国民に正直に順次公開する事が求められていると思います。
0030	海外の知見をふまえて「20 ナノグラム」という基準なのか。 日本と海外で人体にかかわる事柄でこれ程違いがあることの根拠を示して頂きたい。 国として、国民に対して責任ある検討をお願いします
0031	化学物質に係る評価値の算出方法等について 閾値の有無の検討に当たっては、国際がん研究機関（IARC）の発がん性評価を基本とし、米国環境保護庁（USEPA）等その他の発がん性評価の結果も参考とするのではないのでしょうか。 IARC の 2023 年１２月の結果を直視できないのでしょうか。 ご存じだとは思いますが、NHK ニュース（https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231205/k10014277891000.html）を引用すると 2023 年１２月の報道では、この 2 種類について、WHO のがんの研究機関 IARC は ▽PFOA について、4 段階ある分類のうち最も高い「発がん性がある」に 2 段階引き上げ、 ▽PFOS については、上から 3 番目の「発がん性がある可能性がある」に初めて位置づけたと公表しました。 とあります。 基準については最新データをもとに IARC を基本とする原則を守っていただきたい
0032	淀川本川調査における PFOA、PFOS の検出状況（淀川水質汚濁防止連絡協議会（国交省開催）で入手）
0033	今回の評価書の TDI は、リスク管理に当たり 2019 年に我が国の飲料水の暫定基準に際して採用された動物実験データにのみに基き行われており、疫学データの採用は行われていない。本評価書の作成に当たって、数報の疫学論文をまとめたメタアナリシスの所見を採用すべきで、飲料水基準を米国同様の基準（PFOS,PFOA 共に４ｎｇ未満）にすべきだと思います。
0034	アメリカより低い基準での水道水は嫌です。 せめてアメリカと同程度の水質基準を設定してほしいです。
0035	疫学調査のメタアナリシスを行った所見を採用せずに PFAS による発がん性、体重抑制、免疫毒性を軽視するような基準値の評価書が出されたことが問題であると思います。発がん性がはっきりしているのに、欧州食品安全機関（EFSA）が採用する摂取許容量よりも大幅に上回った許容量を採用するなどあり得ないことです！国民の安全や健康を第一に考えてください！
0036	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。また、この摂取許容量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いています。　子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないことです。 かつて水俣病やイタイイタイ病などの公害問題でどれだけ多くの方が苦しんだことでしょうか。また同じ過ちを繰り返すのですか。欧米並みの基準値にすべきだと思います。
0037	ご苦労様です。 内閣府に、高濃度地域への速やかな対策を求めます。 内閣府から各地方自治体へ、この問題の認知と調査と検査の指導を求めます。 今回出した基準を最低ラインと考えて、より良い環境を未来に残せる様に、今後も、しっかりとした対策を求めます。 宜しくお願いします。
0038	委員会は PFOS・PFOA・PFHxS・PFAN の 4 PFAS 合計で、１週間に体重１キログラム当たり、4.4 ﾅﾉｸﾞﾗﾑまでは許容量としています。これは欧州食品安全機関が 2020 年に定めた基準値の 60 倍を超えるもので、この基準を当てはめると、血中濃度は PFOA＜250 ﾅﾉｸﾞﾗﾑ/ml、PFOA は 143 ﾅﾉｸﾞﾗﾑ/ml（小泉昭夫京大名誉教授）に相当し、その濃度を安全と主張するものです。米国科学アカデミーは血中濃度について[PFOS・PFOA・PFHxS・PFAN＝４PFAS 合計 WHO がん評価研究機関である IARC は、4 ランクある発がん性の可能性のある物質のうち、PFOA はダイオキシンやアスベストと同様にランク（１）の「人への発がん性物質」に、PFOS は、「人への発がん性の可能性がある」（２B）に変更し、健康管理の必要性について警鐘を鳴らしました。 こうした国際的な知見に逆行し、また住民の健康不安をよそにあまりにも健康への影響を低く評価したものです。今後の水の規制・目標値にも影響を及ぼすものです。 このような危険な基準を策定しないでください。
0039	すごく緩い基準になるそうですが、不安でたまりません。もう一度考え直してください。
0040	東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知りました。研究デー タが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないでしょうか。

	この問題の厄介な点は、汚染源が特定できないこと。よって、国内で除去技術ができても完全除去しきれないと言う点。そして、米軍の泡消火剤の処理について焼却は莫大な費用がかかるから、その方策とらず。だけど、どういったやり方で処理したか等、具体的な調査については現在進行形の問題でないと軍の敷地内調査できないとは。市民に出来る対策は、血中検査をやることと、PFAS 取り除く除去機を水道水に取り付けることと話されてました。
0041	ＰＦＡＳの摂取許容量（案）は、欧州の６０倍、アメリカのＰＦＯＳの２００倍超と知り、戦慄を覚えています。 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知りました。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないでしょうか。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきです。
0042	有機フッ素化合物による飲料水、土壌等の汚染はいまや日本の各地に広がり、私たち国民の健康を日々脅かしています。そうした中、内閣府食品安全委員会は PFAS 規制の大まかな指針を策定したと伺いました。私は PFAS の専門家ではありませんが、安心して飲める飲料水、安心して食べることのできる食品が将来に向かって提供できる環境がいつまでも続くことを願って、意見を述べます。 有機フッ素化合物による環境汚染は、明らかな公害ですがいまだ汚染源の特定も、汚染情報の開示さえまともには国民に知らされていません。 その状況のもとで WHO や欧米のそれとと比べても著しく緩い規制値が設定されたのは驚くばかりです。 また有機フッ素化合物の人体に与える影響の研究や、知見も到達点でとしてはよく知られておらずこれからというのが現状ではないでしょうか。 食品安全委員会がいかなる知見や専門性を持って規制値を定めたのか知る由もありませんが、米軍や経済活動への忖度など仮にもあってはならないと考えます。
0043	欧米では「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進める流れになっているのに、食品安全委員会が「２０ng が妥当」としたことに大変驚いています。これは欧米の摂取許容量より数百倍も高い数字です。影響を受けやすい妊産婦、子どもたちの健康を守るため、「予防原則」に立って総合的な判断を求めます。また、この問題について安全委員会は国民にきちんと説明すべきだと考えます。
0044	ヨーロッパやアメリカは基準を０に近づけるように対策しています。健康への被害が確認できないとか、動物実験だからヒトに換算することが適切でないというような評価しかできないのがおかしい。内閣府の食品安全委員会の皆さんが科学的に調べることができないとか、評価できないというのは何か別な思惑があるとしか思えません。であるとしても、せめて欧米が出した基準を取り入れるべきではないですか？　少なくとも、様々な健康被害が出ていたという米国の実態をもっと研究して、「予防する」という観点に立ち、米国並みの基準にして日本もゼロに近づける基準にしてください。国民を守るのが国の使命です。
0045	石油製品から作られるプラスチック問題に取り組んできています。マイクロプラスチックが環境に与える危険性を知る途中で PFAS・PFOR 問題に出会いました。ごみの焼却、工場の廃液、泡消火剤使用後などで空気中や河川にも入り込み知らない間に私たちの血液中に入ってきています。将来大きな健康被害を引き起こし賠償問題に発展する可能性もあると思います。プラスチックなど生活からは切り離せないものと理解していますが、その製造方法や代替えの研究、規制値を今よりも厳しくするなど国は将来のことを考えて対処するべきです。経済優先の今の国の方向性に一般市民は大きな疑問を持っています。
0046	有機フッ素化合物の毒性が少しずつ明らかになってきており、未来を担う子供達が更に有機フッ素化合物に晒される事のないよう環境を急いで整えていく必要があると思います。 又、採血で高濃度の検査値が出ている方達の健康リスクが高いと諸外国の調査でも明らかになっているので、アメリカの基準 20 ナノグラム以上の方の健康観察、あるいは治療を保障できるよう発生原の企業に負担させるよう働きかけてください。
0047	私は、ＰＦＡＳ汚染問題の原点が「予防原則」にあると確信している。「予防原則」は、因果関係が科学的に十分証明されていない状況でも規制を可能にする制度や考え方であり、因果関係が科学的に十分証明されない限りリスクに関する被害を避けるために未然に規制を行う「未然防止」とは全く異なる。 日本政府は、ＥＵの「予防原則適用の指針」を「予防的な取組み方法の考え方」と言い換えている。 例えば、環境省は、「ＰＦＡＳに対する総合戦略検討専門家会議」の「ＰＦＯＳ、ＰＦＯＡに関するＱ＆Ａ集」（２０２３年７月）のＱ１「製造・輸入禁止という非常に厳格な措置が採られた理由」に対する回答で「将来への影響を未然に防止するため」、解説で「予防的な取組み方法の考え方に立ったＰＯＰｓ条約」と誤解を与えそうな文章を書いている。 食品安全委員会は、ＥＵと同様な「予防原則」の観点から、評価書案の修正と指標値の設定を行うように要請する。 多くの被害者が発生してからでは遅いのです。先手を打ってください。
0048	公害は、長い時間を経過して現れます。 イタイイタイ病、水俣病、大気汚染等が出て国の対策の遅れが重大な結果をまねいています。 PFAS 汚染も欧米等では、発がん物質と対策をとっています。いつも国は、国際協調と言っています。是非 PFAS 汚染も国際協調をお願いします。
0049	化学物質に係る評価値の算出方法について、厚生労働省の第６回厚生科学審議会生活環境水道部会水質管理専門委員会（２００３年２月）が「閾値の有無の検討に当たっては、国際がん研究機関（IARC）の発がん性評価を基本とし、米国環境保護庁（USEPA）等その他の発がん性評価の結果も参考とする」と定めているにも関わらず、IARC が２０２３年１２月に認定した発がん性評価結果を切り捨てている。更に、USEPA の報告のうち、２０１６年の報告だけに固執し、２０２３年の報告には注目せずに切り捨てている。 このようなことは、化学物質に係る評価値の算出方法における原則に反している。 ２０２３年１２月の IARC の発がん性評価結果と２０２３年の USEPA の評価結果を「予防原則」の観点から指標値として採用するように要請する。
0050	評価書案の耐容一日摂取量は、中央環境審議会第５次答申（２０２０年５月）と同じ値の 20ng/kg 体重/日に設定されている。今後、現在の水道水の暫定目標値（PFOS と PFOA の合計で５０ng/L）がそれぞれで５０ng/L 或いは PFOS と PFOA の合計で１００ng/L に改定され、その後、そのまま水道法の水質基準に設定される可能性がある。 米国政府は、２０２３年に両物質ともそれぞれ 4 ng/L で規制する提案を行い、ミネソタ州議会は２０２３年４月に「ＰＦＡＳを２０３２年に全廃する法案」を可決している。ＥＵもＰＦＡＳ全廃の方向に動いている。 このような状況の中で、耐容一日摂取量を２０ng/kg 体重/日に設定し、水道水の暫定目標値や水質基準を改悪するような

	ことは断じて許されない。 耐容一日摂取量は、「予防原則」の観点から、米国環境保護庁（２０２３年）の評価結果に基づいた値（ＰＦＯＳが 0.1、ＰＦＯＡが 0.03）に設定するように要請する。
0051	東京新聞の情報によれば、国際がん研究機関（IARC）の議論に参加した菅野純国立医薬品食品衛生研究所毒性部客員研究員が「PFAS の発がん性には、学者間で一切異論はなかった。PFOS と PFOA の有害性は、動物実験でわかっていることが多く、既に環境中に放出された『後始末』を行っている段階だ。問題は、似た構造と性質を持つたくさんの PFAS が、今後、世に多く出回ることだ。評価書案では、PFOS と PFOA だけしか評価できないとした。１万種類超の PFAS に言及しないのは、保守的で、今後のことを一切見据えていない。次の健康被害と環境汚染を未然に防止することが重要だ。これには、PFAS を利用する企業との対話も重要だ。」と批判している。 この警鐘を真摯に受け止めると、評価書案を大幅に修正しなければならなくなるが、「予防原則」の観点から大幅に修正するように要請する。
0052	評価書案では、PFOS、PFOA、PFHｘＳの３物質のみを検討対象にして、最終的にはＰＦＯＳとＰＦＯＡだけの指標値が設定された。 ＰＦＨｘＳは、化審法で第一種特定化学物質に指定され、沖縄県などの河川において高濃度で検出され、血液中にも残存していることが報道されている。それにも関わらず、指標値が設定されなかった。 ＰＦＮＡについては、血液中に残存しているという結果が報道されているにも関わらず、検討対象にもなっていない。 両物質とも「予防原則」の観点から指標値を設定するように要請する。
0053	2002 年に全国の河川で行われた調査で多摩川流域での PFOS 汚染、大阪湾および神崎川流域での PFOA 汚染があると聞きました。 また京都府綾部市でも河川の汚染、福知山市での飲料水の汚染があると聞いています。 PFAS 自体が体内にとどまる事で長期的な病気(発がん性、脂質代謝異常)や新生児の発育不全など世界的にみても汚染地域の除去や排せつ基準の規制など日本の基準について他国基準を含め検討するべきだと思います。
0054	評価書案の「要約（ｐ．７）」では、「PFOS、PFOA について、・・・関連は否定できないと判断した。ただし、・・・証拠は不十分であると判断した。・・・報告した研究は限られており、・・・まだ不明であると判断した。発がん性については、・・・ヒトに当てはめられるかどうかは判断できないと評価した。疫学研究から、・・・研究調査結果に一貫性がなく、証拠は限定的であると判断した。・・・証拠は不十分であると判断した。」などと否定する文章ばかりが目立つ。 ところが、「３．健康影響に関する指標値」の最後の方（ｐ．２３１）では、「但し、将来的に・・・科学的知見が集積してくれば、TDI を見直す根拠となる可能性はある。」などと弁明めいた言葉で結ばれている。 必死になって研究して来られた研究者の皆さんの結果や考え方を葬り去るのではなく、「予防原則」の観点から採用するように要請する。
0055	アメリカの基準と比べて 200 倍、666 倍、ヨーロッパの 64 倍もの高い基準にしている根拠を世間に公表すべきです。国民のがん発生率がこれによって高くなった根拠が出た場合に、がん患者に対してどう責任を取るつもりでしょうか。国民の生命の安全性向上に責任を持ってください。
0056	申し訳ございません。今日お送りした６つのパブコメのうち、最初のものに間違いがありました。差し替えて下さるようにお願い申し上げます。 私は、PFAS 汚染問題の原点が「予防原則」にあると確信している。「予防原則」は、因果関係が科学的に十分証明されていない状況でも規制を可能にする制度や考え方であり、因果関係が科学的に十分証明されたリスクに関して被害を避けるために未然に規制を行うとする「未然防止」とは、意味が全く異なる。 日本政府は、EU の「予防原則適用の指針」を「予防的な取組み方法の考え方」と言い換えている。例えば、環境省は、PFAS に対する総合戦略検討専門家会議の「PFOS、PFOA に関する Q&A 集」（２０２３年７月）の Q1「製造・輸入禁止という非常に厳格な措置が採られた理由」に対する回答で「将来への影響を未然に防止するため」、解説で「予防的な取組み方法の考え方に立った POP s 条約」と誤解を与えそうな文章を書いている。 食品安全委員会は、ＥＵと同様な「予防原則」の観点から、評価書案の修正と指標値の設定を行うように要請する。 多くの被害者が発生してからでは遅いのです。先手を打ってください。
0057	多摩地区住民の PFAS 血中濃度は高いと知りました。日本の食品安全委員会の摂取許容量案はアメリカ案の PFOS の 200 倍、PFOA で 666 倍と知り驚いています。体への影響が心配です。
0058	有機フッ素化合物（PFAS）の値の高い地域の周辺自治体を含めて精密に調査し分析を行うべきだが、その間に健康被害が広がる恐れがあることから「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らす対策が大切であると思います。
0059	現在、日本では子供への化学物質の影響調査として”エコチル調査”が継続しているのではないかと思います。PFOS PFAS は少量でも子供への影響は大きいと推察されます。科学的根拠も重要ですが、鋭敏な対応や規制が大切だと強く思います。悪影響が出てからでは遅いと考えます。
0060	耐容一日摂取量（ｎｇ／ｋｇ体重／日）は、日本がＰＦＯＳもＰＦＯＡも２０、米国の環境保護庁（２０２３年）がＰＦＯＳで０．１、ＰＦＯＡで０．０３、ＥＵの欧州食品安全機関がＰＦＯＳ、ＰＦＯＡ、ＰＦＨｘＳ、ＰＦＮＡの合計で０．６３である。米国と比較すると、日本の耐容一日摂取量は、ＰＦＯＳで２００倍、ＰＦＯＡで６６６倍も高い。ＥＵの耐容一日摂取量と比較すると、日本の耐容一日摂取量（ＰＦＯＳとＰＦＯＡの合計）は、ＥＵの６４倍も高い。 更に、日本の耐容一日摂取量から血中濃度（ｎｇ／ｍＬ）を導出すると、ＰＦＯＳが２５０，ＰＦＯＡが１４３になると聞いている。これは、全米アカデミーズの委員会のガイダンス値である２０ｎｇ／ｍＬの１２５倍、７２倍も高い。 このようなことでは、市民の安全・安心を守ることができないことは明らかである。「予防原則」の観点から、摂取量の低減を最優先にすべきである。評価書案の耐容一日摂取量を米国の値に設定するように要請する。
0061	食品安全委員会の評価は、私達や将来の子ども達の健康と安全に大きな力と責任を持つところです。その委員会が今話題となっている PFAS に評価を出したというので注目していました。でも正直がっかりし、ますます不安になりました。 まず気になったのが、その摂取許容量の大きさです。PFAS は実に多くの種類があり生活のあらゆる物に使われているのに PFOS と PFOA 合計 40 ng/kg 体重/日とはびっくりです。 すでに欧米では 4 種の PFAS で 0.63 ng/kg 体重/日と厳しくなっていて更に 0 ng に近付けるよう取り組まれているのにです。何故こんなに高くてもいいのでしょうか。おかしいです。私の体重は 48 kg、単純計算で 40×48=1920 ng/日となりますよ！欧米なら 0.63×48=30.24 ng となり 63.5 倍！どうしてこれが食品安全と言えますか。 ２つ目は既に有害性が明らかになっているのに、なぜ規制に動かないのか、と言うことです。予防の観点に立てば疑わしいものは規制して、そのリスクを減らしていくことが大切なのに、動物実験だけでは不満ですか。いったい何人病人が出ればリスク評価として認定されるのでしょう。

	日本のあちこちで汚染が明らかになっているのです。PFOA と PFOS の 2 種類だけでなく他にも疑しい PFAS が明らかになっています。分解されずらく体内に留まる性質が明らかになっている以上、一日もはやく規制し、低減の取り組みを始めるよう進言するのが食品安全委員会の仕事だと思います。
0062	WHO が発ガン性を認めている物質について、日本の食品安全委員会が、欧米各国より緩い摂取許容量で是としていることに驚いています。米国並みの厳しい基準とすべきです。再考を求めます。
0063	この度食品安全委員会「評価書」で打ち出されています PFAS の摂取許容量があまりにも高いので、再考をお願いします。 PFOA と PFOS の合計許容量が、日本４０ng、米国０．１３ng、ヨーロッパ 0.63ng（4 種合わせて）です。違いがありすぎます。基準の立て方がおかしい。 私は大阪府摂津市のダイキン工場の近くに 55 年暮らしてきました。中学生からの 14 年間は淀川をはさんで向かい側です。最近 PFAS を調べるための血液検査を受けました。まだ結果は出ていませんが不安です。 体内に取り入れた PFAS はなかなか排出もされなければ、分解もしないと聞きます。私たちのように体内に蓄積してからはもう手遅れです。 未来ある子どもたちが健康で生活できるよう、米国やヨーロッパ並みの基準にしてください。
0064	発がん性が解明されてからでは遅いので、欧米と同等の摂取許容量にしてほしいです。今回の摂取許容量の案は高すぎるのでたいへん不安です。
0065	PFAS の摂取許容量が多すぎます。欧米並に下げて下さい。私達の周りの人は血液検査で 60 から 150ng/ml の血中濃度が分かっています。これ以上体内に PFAS を入れないようにと努力している最中です。1 日 1kg 当たり 20ng では現在の血中濃度を下げることはできません。また、摂取許容量にＰＦHxS が含まれていません。私達国分寺市民の血中濃度はＰＦHxS が近隣市民に比べて異常に高く、環境省の 2021 年度調査結果の 17 倍も高くなっています。大変心配な部分です。是非ＰＦHxS の摂取許容量を示して下さい。
0066	摂取許容量についですが、欧米と比べて日本はどうしてこんなに緩いのか不思議です。日本人は PFAS の影響は受けにくいという根拠をしめした上で数値を決めるべきではないでしょうか。これでは、世界中の PFAS が日本にやってくる危険があります。もっと、国民の方を向いた議論をしていただきたいと思います。
0067	PFAS の規制は世界的に強化されていることを考えると、今回の食品安全委員会の摂取許容量 PFOS,PFOA 各 20ｎｇ／ｋｇ体重／日はあまりにも緩いと言わざるを得ません。欧州食品安全機関の４ＰＦＡＳ０．６３ｎｇ／ｋ　ｇ体重／日や米国環境保護庁ＰＦＯＡ，ＰＦＯＳ０．１３ｎｇ／ｋ　ｇ体重／日に近い摂取許容量にすることを強く望みます。
0068	有機フッ素化合物に関するヒトの疫学データがあるのであれば、それを踏まえる必要があります。国際がん研究機関（IARC）が、「ヒトに対して発がん性がある」に分類を変更したことも考慮されなければなりません。 環境面からの評価も大事な視点です。海水での半減期はどうでしょうか。水性動物において、濃縮されることはないのでしょうか。 2 月 6 日の食品安全委員会の評価書案に反対します。 もっと厳しい指標に設定すべきです。
0069	欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めようとしています。日本もゼロを目指すべきです。この摂取許容量をもとにしたら、飲水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。子どもたちの健康を考えるととても心配です。
0070	有機フッ素化合物の健康影響評価について、人が一日に摂取する許容量の設定にあたって、このリスク評価は「欧米に比べてあまりに多い摂取量」「発がん性は限定的」など、国際的な動きや知見に逆行し、今後、国内の飲料水や食品の規制にも大きい影響をもたらす可能性があります。私の住む府中市でも市民が自主的に血液検査で血中濃度を測定し、PFAS の高い値が出て不安を感じています。全国で問題になって新たな公害が指摘されはじめています。許容量の再評価をすべきです。
0071	(1)PFAS の摂取許容量が、欧州やアメリカと比較して、圧倒的に高いが、根拠を が不明確です。血中濃度半減期は、５年と言われ、身体にとどまるわけですから、ただちの健康被害ではなく、将来数十年にわたる身体への影響を考えるべきです。 (2)WHO：IARC が、PFOA を「ヒトへの発がん性がある」、PFOS を「発がん性がある」と認めたわけですから、日本における「証拠は限定的」との判断における客観的根拠を示してほしい。全国規模の疫学調査を実施して下さい。
0072	日本の基準はあまいです? アメリカ並みの許容摂取量にしてください。 環境発がんを少しでも減らしていく必要があると思います
0073	恐ろしい PFAS の記事を　テレビのニュース　新聞等で目にしてから　数年経ちます。 日本人の国民性なのでしょうか　あまり怒りの声が聞けません　また実際怒りは何処に向けたらいいのでしょうか？米軍でしょうか　大企業でしょうか? PFAS 然り　身体に良くない　欧米では許可されない　いろんな食品添加物も　日本では OK　OK。　日本人の２人に１人がガンで死ぬ現状。 子や孫に安心して　誇れる　日本を残してやりたいです。 政府は　先ず国民の幸せを考えて欲しいと思います。
0074	明石川の近くに住んでおり、今後、健康にどんな影響が出るのか、とても不安です。原因究明や、近隣住民の血液検査等、早急に対策をお願いします。
0075	IARC 国際がん研究機関が PFOA に発がん性があると公表している。国際的知見を受け止めなかった理由を教えて下さい
0076	沖縄本島では、雨量が少なくダムの水が少なくなっています。 そのため県はＰＦＯＳ濃度の高い河川から県民に水を供給せざるを得ません。 比謝川のＰＦＯＳ濃度は２０２３年４～１２月の平均で１３８ナノグラムと高い値となっています。 現在は比謝川からの供給は行われていませんが、将来どうなるか分かりません。 市販の浄水器ではせいぜい１割くらいまでしか濃度を落とせません。

	そのためミネラルウォーターを利用する県民が増えているのが現状です。 一方、家計の厳しい世帯ではミネラルウォーターを購入するゆとりはありません。 その格差が、健康に及ぼすかもしれないのです。 不安が募ります。国民に安全な水を供給するのが行政の役割だと思います。 米軍由来のＰＦＯＳ汚染と言われています。それは明かではないでしょうか。 違うというなら、米軍基地の土壌を調べるべきです。 政府は、海水を真水にする機器を導入するなど何らかの対策をとるべきです。
0077	(1)食品委員会は予防原則に立ち、アメリカ並みの数値に接種許容量を設定すること。 アメリカやヨーロッパの摂取許容量より数百倍になる「20ng/kg/日」を妥当とするのは、国民の命や健康をないがしろに考えているのではないでしょうか？永遠の化学物質と言われる PFAS を非常に高い血液濃度を安全とすることに理解できません。安全というのであれば国民にきちんと説明を求めます。 (2)発がん性の評価をすること。 国際研究機関が PFOA は発がん性がある、PFOS 発がんの可能性があるとしているのに、証拠は限定的としていることに驚いています。 (3)未規制 PFAS についても有害性調査研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐ対策をすること。 PFAS は 1 万種類以上存在しているのに評価はたったの 2 物質のみ。国民の安全・健康を守る立場からすべてのリスク評価をすべきです。 (4)日本でも「PFAS」ゼロをめざし対策を進めること。 欧米では「PFAS ゼロ」をめざし進めようとしています。今回の接種許容量を基にすると飲み水の暫定目標値は５０ｎｇのまま、子どもたちの健康を考えてほしい。
0078	東京国分寺、沖縄をはじめ PFAS 汚染が確認されています。住民の健康を守るために全国規模で汚染状況を確認し原因を明らかにする必要があります。汚染が確認された地域は住民の体内に蓄積された汚染物質を確認する必要があります。手遅れにならないよう対策をお願いします。
0079	食品安全委員会が妥当と判断した 20ng は欧米の接種許容量の数百倍も高く、これを安全と説明できる根拠もありません。国内の検証が「証拠不十分」とするのであれば、疫学調査（血液検査）をすべきです。健康への影響がはっきりしないのなら予防原則に基づき摂取量を可能な限り減らす対策を求めます。
0080	当院では京都大学と協力するかたちで PFAS 相談外来を開設し地域の方の血液中に含まれる PFAS 濃度測定や相談活動を行っております。欧米では健康被害の検証も進められ基準は限りなくゼロにする見直しがされているにも関わらず、今回提示された基準は今まで通りで問題ないという判断に疑問があります。地域からも健康被害に関する不安の声が寄せられています。将来の健康を守るため欧米並みの厳しい基準設定をお願い致します
0081	国分寺で生まれ育ちました。多摩地域で有志の血液検査を受けました。 米国科学アカデミーの示す健康被害のリスクのある２０ng/ml を 超過する（およそ３倍）数値でした。PFAS は半減期がながく、体内からも排出されずらいと聞きます。摂取し続ければ体内に溜まる一方です。 予防原則に立った対応をしていただきたいと思います。 よろしくお願いいたします。 国分寺で生まれ育ちました。多摩地域で有志の血液検査を受けました。 米国科学アカデミーの示す健康被害のリスクのある２０ng/ml を 超過する（およそ３倍）数値でした。PFAS は半減期がながく、体内からも排出されずらいと聞きます。摂取し続ければ体内に溜まる一方です。 予防原則に立った対応をしていただきたいと思います。 よろしくお願いいたします。
0082	結論のお粗末さに、あきれています。 欧米の基準の何百倍ものゆるい数値は、日本社会に生きる人びとの命と健康をないがしろにしたものとして、後世に渡って批判され続けるでしょう。 専門家の名のもとに、このような文書を出すことは、自らの存在を否定することであり、直ちに撤回を求めます。
0083	①昨年一月に血液検査をうけて PFOA＋PFOS の値が 20 ng/ml を越えました。 ②健康被害がアメリカで実態調査で検証され、低い基準値が定められています。 ③今回評価書が 20 mg/kg が妥当と判断したことにおどろいています。その根拠はなんでしょうか。十分な疫学調査がされているのでしょうか。 ④基準値を米国や欧州並に厳しくして下さい。
0084	アメリカの PFOA20 ng＋PFOS20 ng　660＋200 倍であり、これで安全（安心）とは言えないと思います。 水俣病を思い起して下さい
0085	発がんのおそれのある PFOA、PFOS の規準はゆるめずに規制して下さい。 特に東淀川区では PFOA 製造メーカーダイキンの工場があるので心配です。 米国、ヨーロッパなみに規制して下さい。
0086	よくわかりません。 もう少しわかるように説明して下さい
0087	生きることに欠かせない水のことなので関心をよせています。 WHO が PFOA を発癌性分類のグループ 1 に分類したのに、日本の食品安全委員会が示した摂取許容量の案は高すぎると思います。 再検討し、アメリカ、欧州並の基準にしてほしいです。
0088	食品安全委員会がこの度出した「20 ng が妥当」の結果にビックリです。アメリカではこの数字を超えると健康影響が心配！と注意を勧めているのに、なぜ安全を説明できるのか！ 東京、多摩地域の住民の PFAS 血中濃度はかなり高いと出ました。私も血液検査を受けたひとりです。 飲み水の汚染と体内汚染に関係があると知りました。 欧米は PFAS ゼロを目指し対策を立てようとしています。

	この摂取許容量をもとにしたら、乳幼児や妊婦、そこに我々高齢者の安全は守られるのか、すごく不安です。 予防原則に立ち、許容摂取量（案）の見直しを求めます。
0089	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。 また、この摂取許容量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。 子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないことだ。
0090	今、言わないと子ども達の未来が心配 安心して生活したい 安全な水と土、空気を子どもたちに手渡したい PFAS リスク評価は子どもたちの健康にも大きく影響します 世界の知見を集めて再評価して、PFAS 対策に取り組んで下さい。
0091	WHO 傘下の国際がん研究機関（IARC）が昨年末、PFOA を発がん性がある、PFOS を発がん性の可能性があると発表しましたが、評価書ではこの発がん性について評価していないのは何故ですか 「予防原則」という考え方が取り入れられてきているとききます。人の健康や環境に重大なかつ不可逆的な影響を及ぼす恐れがある場合科学的に因果関係が十分証明されない状況でも規制措置を可能にする制度。これをもって健康被害を未然に防ぐことを望みます。
0092	多摩地域では既に沢山の方が血液検査をしてその結果に驚ろいています。 今全国で水の汚染が明らかになり、長年にわたる飲水の影響に住民は不安をもっています。 生活用品にも数多く使用され、多くの国民は知らずに使用しているのが実態です。 欧米では「PFAS ゼロ」を目指して国をあげてとりくんでいて、その暫定目標基準も日本とは比較にならない厳しいものです。日本でもまずは調査を確実に行ない、国民にその実態を知らせ、国が責任をもって汚染源への対応をして欲しいと強く要望します
0093	PFAS の血中濃度について、西東京市では 39 人が採血して、4 割超のひとが米国の基準値を超えていたそうです。それに加えて、地下水に含まれる PFAS の値も濃度の高さが心配されています。その他にも懸念されることがいくつもあります。 過去にはイタイイタイ病、水俣病、アスベストなど対応が遅れたために多くの犠牲者や長年苦しんでいるひとびとがいます。 国民の命を守ることを第一に早急に検査と対策をたててください。
0094	PFAS の学習会に行ってびっくりしました。 明石川の上流の産業廃棄物処理場に、産業廃棄物業者が有害のフッ素化合物が含まれているごみをいっぱい、廃棄しているとの事。 水道水の安全、魚介類も汚染されないよう、国の責任で取り締まって下さい。また、今年の国の安全基準評価は、ヨーロッパやアメリカに比べると、めちゃくちゃ甘く、60 倍を超えると聞きました。 国民の健康と命を守るのが、食品安全委員会の第一の仕事だと思います。 多くの国民が癌で苦しむ事の無いよう、安全な基準値を出し、きちんと取り締まって頂く様お願いします。
0095	東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。多摩地域に長く住んでいる身として、何気なく飲んだり生活に使っている水によってそのような影響があるとは想像もしておらず怖さを感じた。 摂取許容量をアメリカ並みに下げてほしい。証拠不十分ということなので、なおさら疫学調査が必要だろう。血液検査を進めてほしい。また、ＩＡＲＣ等の世界の最新の知見を取り入れてほしい。
0096	1. 摂取許容量の決め方が間違っています 欧州やアメリカは有害性を評価する研究をすすめた結果、ヒトでのデータが蓄積されてきました。そのヒトのデータを根拠に摂取許容量を定め、また、発がん性を考えています。 この時期に、なぜ日本では動物実験のデータを根拠にして、摂取許容量を求めたのか理解できません。間違っています。 2　PFOA の発がん性について PFOA の発がん性に関する IARC の評価を認めないのは間違っています。 　東京新聞（2024 年 1 月 29 日）によると「PFOA に発がん性が『ある』という結論には学者間で一切 異論はなかった（ 菅野純)」とあります。 データ的な根拠もなしに、 内閣府食品安全委員会が IARC の評価を認めないというのは間違いです 3　PFAS と PFOS だけが有害なのではありません 　せめて 4PFAS,　6PFAS についてもリスク評価をしてください
0097	「PFAS 摂取許容量（案)」について、「発がん性がある PFAS 類」の摂取許容量基準を日本は欧州の６０倍、アメリカの２００倍で大丈夫としようとしている。よくこんなことをヒッソリとこのパブリックコメントで国民の合意を得たとできるものだと常識を疑う。企業の負担を考慮して国民は健康被害にきづかないだろうろ判断したとしか思えない。PFAS の環境汚染で将来、裁判になることも想定してこの案で OK とした責任者を公表し、コメントを公にしてもらいたい。あわせて、この基準値は取り下げていただきたい。
0098	摂取許容量が高すぎるうえに国際的な発がん性評価を取り入れていません。再評価を求めます。
0099	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発ガン性があるならば将来的な医療費に大きな影響をあたえます。まずは厳しい基準で設定すべきです。

0100	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ニュースを見ておどろいた。発がん性がうたがわれているのに外国より転い基準になるのが理解できない。
0101	審議結果（案）の摂取許容量が高すぎます。こんな国はありません。人命（健康）より企業の利益を優先することは止めてください。
0102	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく、「予防原則」にたち、総合的な判断を求めます。
0103	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカ、ヨーロッパと同じにして下さい。
0104	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 報道では、米の当局は、厳しい基準値を設定し、規制を強化しますとしています。日本でも国際基準で国民の生活と健康を第一に対応すべきです。善処を希望します。
0105	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 高い安全基準を設定することです。人の命、人生にかかわる内容です。守って下さい。
0106	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカ並に下げて下さい。
0107	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 米国や欧州と同等以上に厳しくして下さい。
0108	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 米国や欧州並の基準にして下さい。
0109	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」

	PFAS は人体に蓄積される化合物です。私は乳癌をしまして、癌に対しては非常に恐怖を感じるものです。 予防医学の立場からの評価がされたのでしょうか。とてもそうは思えません。再評価を求めます。
0110	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいと思います。
0111	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 許容量はキビシクしてください。 アメリカ並みにしても心配
0112	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 健康で安全な生活環境を守ることは大切です。 そのために大事なことは食品と水道水です。 発癌性のある水道水（飲料水）を飲まされてはたまりません。日本もアメリカなみの基準を守るようにしてください。
0113	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 東京の水を汚すな。 健康を守れ。水をまともな状況にしろ!
0114	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 発がん性の制限規定をゆるめることは殺人行為だ。許せない。
0115	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカ、欧州の基準と比べて大幅にゆるい基準は理解できません。何故、アメリカ、欧州と同じレベルの基準にできないのですか。
0116	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 明らかに有害であることが判明している。即刻対策を立てるべき。 危険である PFAS を除去することを求めます。
0117	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 西東京市に住んで 50 年以上、西東京市の水道水に慣れ親しんでいました。PFAS の検査を受けたところ、20 ng 以上の値が知らされました。どこで PFAS と出合ったのやら全く不明です。 全く不安でなりません。 米軍基地を始めに、消化剤をあつかっている事業所を明確にして、住民にさらに注意をかんきするように願いたい。
0118	有機フッ素化合物は容易に消え去らない環境汚染化学物質であり、すでに環境中に存在するものであり、汚染が拡大する前に対策を取らなければならない。特定できる汚染源（米軍基地やダイキン工業）を確定させ、汚染物質の環境への排出を止めなければならない。他の汚染源も調査し、対策を取らなければならない。

	健康影響について、審議結果（案）は「情報は不十分」「証拠は不十分」とあるが、リスクが明確になるまで規制を保留するなら、汚染してしまって取り返しのつかない手遅れとなる可能性がある。それは水俣病を取り上げるまでもなく、深刻な健康破壊を招く。 米国で行われた「Ｃ８科学調査会」による約７万人の血液調査によると、ＰＦＯＲと次の６種の病状との関連性が確認されている。妊娠高血圧症ならびに妊娠高血圧腎症、精巣がん、腎細胞がん、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎、高コレストロール。 健康影響評価というなら、少なくとも汚染地での大規模な血液検査と健康調査を行うことで、現状把握をすることが欠かせないだろう。健康破壊の危険性に関しては安全側に立ち、くれぐれも手遅れにならない規制を行うよう心掛けなければならない。
0119	有機フッ素化合物の食品健康影響評価を設定して頂きありがとうございます。 全国で汚染が広がっており、健康への影響を懸念しております。 しかし、1日の摂取量指標値がＰＦＯＳとＰＦＯＡそれぞれで２０ナノグラムは欧州食品安全機関が２０２０年に定めた１週間で４種のＰＦＡＳの合計値が４．４ナノグラムの６０倍を超えています。 指標値の算出には、海外評価機関が厳しい値をだしているヒトの疫学研究を排除せず、欧州と同様に厳しい指標値の設定をお願いします。 過去に国の規制が遅れたことで被害が拡大した水俣病等の公害がたくさんあります、早急に厳しい規制をお願いします。
0120	今、進めようとしている PFAS,PFOA の摂取基準は欧州やアメリカ基準よりもはるかに高く、国際的にはなるべく摂取しないようにという流れに逆行しています。 健康への影響が否定できない以上、摂取量を制限するべきと考えます。
0121	国の食品安全委員会の評価案は、欧州食品安全機関、米国の基準に照らし合わせても危ない基準値と思います。血中濃度は PFOS＜250 ナノグラム、PFOA＜１４３ナノグラムに相当し、「安全」と主張しています。しかし、米国科学アカデミーは血中濃度について PFOS、PFOA 含めた 4 PFAN の合計値が 2 ナノグラムでは妊婦などへの悪影響を指摘、４ＰＦＡＮ合計値 20 ナノグラムでは腎臓がん、、甲状腺、潰瘍性大腸炎などの異常を疑う提言を出しています。ＰＦＯＡはダイオキシンやアスベストの「人への発がん性物質」、PFOS は「人への発がん性の可能性がある」と健康管理の必要性について警鐘を鳴らしています。今回、国の食品安全委員会の「評価案」は国際的な知見に逆行し、住民の健康不安をよそにして、健康への影響を低く評価していると考えます。そして今後の水の規制・目標値に影響を及ぼすものだと思われますのでアメリカ並みの基準へ再評価を求めます。
0122	食品安全委員会はなぜ国際的な基準値を大幅に超えた摂取許容量を妥当だと判断したのか、アメリカや欧州の基準の何が違うのかを示してほしい。 ダイオキシンの基準も同じように最初は欧州と離れていたが、徐々に欧州基準と同基準に近づいたように、早く対策を打つべきではないか？ 経済優先とせず将来未来のための安全施策をお願いいたします。
0123	蓄積が怖いです。 許容量は限りなくゼロにすべきと思います。
0124	日本の食品安全委員会が示す摂取許容量（案）の高い水準に驚きです。研究データが十分になく健康への影響がはっきりしない状況で何の為の食品安全委員会なのか？と疑問に思ってしまいます。せめて、国際的な基準にするとか、予防原則に立ち総合的な判断を求めます。
0125	PFOA に「発がん性」があると WHO が公表しているのに、日本でそれを認めないのはおかしいです。発がん性評価が低く不安が増します。アメリカ、ヨーロッパ並みの基準とするように求めます。摂津市に約 50 年近く住んでいますが、全国最高レベルの PFOA が検出され、発出元のダイキン工業には責任を明確にしてほしいです
0126	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本は PFOA、PFOS の発ガン性を早急に認めるべきです。私は国分寺市、国立市に 60 年近く居住したため、健康被害が心配です。これからの孫世代への影響も大きいでしょう。未来の子どもたちのためにも適正な評価、国民への周知をして下さい。
0127	何も知らされずに有害物質を含む水を何十年も摂取していたかと思うと、恐怖と怒りでいっぱいです。国外の何十倍もの値を基準値内の安全値とする姿勢に断固抗議致します。
0128	食品安全委員会が安全と提起している血中濃度の基準値は、疫学的なデータでは安全は担保されません。国際レベルに則った基準値に変更することを強く望みます。そうでなければ、私たちの健康は守られません。 経済が最優先される世の中は、必ず未来にツケが回ってきます。それを回避することが食品安全委員会の使命だと思います。
0129	海外の基準より数十倍緩いことの妥当性が不明。 ALALA の原則にも触れてあるが、”合理的に”できるだけ低く設定であり、”現実的に”可能で影響少なく設定、とは違うのではないか 基準値の再考をお願いします。
0130	PFAS は発ガン性や赤ちゃんの体重増加抑制等が指摘されています。 私の住む地域でも、高濃度の PFAS 汚染が指摘されていますが、原因も分からず自治体も政府も詳しい調査をしてくれません。 我が家には 1 歳半になる子どもがいます。 子どもは大人より化学物質の影響を受けやすいと聞きます。 とても心配で、子どもに水道水を飲ませないようにしています。 子どもの成長はとても楽しみですが、PFAS 影響で将来、健康被害に遭ってしまわないか、時々とても憂鬱になります。 まずは PFAS 汚染の実態を国が責任を持って調査してほしいと思います。その上で、健康への影響を長期的なサンプリン

	グ調査、若しくはそれに値する世界の研究調査をもとに健康影響評価を行なって下さい。 また、現時点で、PFAS 汚染がわかっている地域の住民に対しては、浄水器等の支給や購入補助を検討してください。 子どもに安心して水道水を飲ませたい。私の願いはそれだけです。どうか、慎重な議論とこの国を担う子ども達の将来を見据えた慎重な判断をよろしくお願いいたします。
0131	摂取許容量がアメリカやヨーロッパに比べてあまりにも高過ぎる。 国民の命を軽視している。 日本も PFAS 全品目を規制するべきだ。 薬害エイズの過ちから何を学んだのか。 汚染させた企業にも当然責任を負わせるべき。
0132	食品安全委員会が摂取許容量を「20ng が妥当」と判断したことにとんでもなく驚いています。米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高い、と聞いて子ども将来が不安です。日本も対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち未来志向的な人間的な判断を求めます。 米国アカデミーの見解では PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるとかなりつっこんだ見解をだしているようですが、どうして食品安全委員会は「感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られる」のでしょうか。 研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、許容量を減らすことが人類の科学的知見として大切ではないでしょうか。 欧米ではできるだけ「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしているように思われますが。日本でも「PFAS ゼロ」を目指すべきではないでしょうか。 また、この摂取許容量をもとに、水道などの飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないともいわれていますが、子どもたちや未来の日本人の健康問題を考えると「より厳しく変える」必要があると思います。
0133	国際がん研究機関が PFOA を「人に対して発がん性がある」、PFOS を「人に対して発がん性がある可能性がある」と分類した判断を無視、過小評価せず、予防原則に立って、人のいのちを守ってください。
0134	「食品安全規制委員会」が示した有機フッ素化合物（PFAS）に関する一日当たりの摂取許容量は，欧州食品安全機関や米国アカデミーが示している許容量を数十倍から数百内も上回る値となっており，世界的な知見に逆行するものです。安全性についてわからない部分もあるかもしれないが，それであれば，予防的な見地から，厳しめに考えておくことが，将来に対するまともな姿勢ではないでしょうか。過去の公害の歴史・教訓に学び，許容量の見直しを求めます。
0135	証拠不十分ということなので、なおさら疫学調査が必要です。是非血液検査を進めて下さい。 摂取許容量はＰＦＯＡとＰＦＯＳについてしか示されていませんが、国分寺市民はＰＦＨｘＳが大変高く心配です。ＰＦＨｘＳについても摂取許容量を示してください。
0136	以前よりフッ素加工のフライパンなどを利用してます。今回のこの問題が大きく取り上げられるようになってから、不安が大きくなっています。 もともと消化器系の難病も持っていますので食べ物や飲料水には人一倍気になります。しかも今回の 1 日当たりの摂取許容量がアメリカの 200 倍となっていることに疑問を感じています。とても信じられません。信用に値するデータがあるのならぜひ公表してください。よろしくお願いいたします。
0137	有機フッ素化合物の問題は新しい公害問題と言われています。がんとの因果関係についても研究が進む中身体への影響は計り知れません。半減期の長さなどをみると排出されにくく身体に長期にわたって影響があると懸念せざるをえません。その中で、欧米などでは規制の強化が進んでいることなどを鑑み、日本でも同様の基準に厳格化していくべきだと思います。健康被害があるのではないか…という不安を抱えながら生活するのはとても恐ろしいことです。今考えうる最善の対策を欧米諸国に倣って予防原則に基づいて国民を守ってください。どうぞよろしくお願いします。
0138	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂取許容量が高すぎで、子どもたちの健康を守れるのか心配です。ヨーロッパでは『PFAS ゼロ』をめざしています。日本でも規制を！！
0139	PFOS の許容摂取量がアメリカの 200 倍も多い案に驚いています。むろん科学的な調査に基づいた数値とは思いますが、彼我の差はあまりにも大きすぎます。この国はかつての富山や水俣のように発症する人が出なければ良いと考えているのでしょうか。発症者が出てからでは遅いのです。問題は未来を生きる人たちです。その人たちも健康への心配をしなくてもよい安全基準をしっかり検討してくださるようお願いします。
0140	ＰＦＯＳは 20ｎｇ/ｋｇ体重/日、ＰＦＯＡは 20ｎｇ/ｋｇ体重/日の設定値は、全米アカデミーやドイツの専門委員会が健康への影響の可能性が懸念されるとする勧告値の十数倍と報道されています。（しんぶん赤旗 2024 年 2 月 20 日、13 面） １）米国、ドイツの勧告値に比べ日本が高い理由が理解できません。本当に科学的な検討をしたのか疑問です。 ２）日本の勧告を出した委員はこの勧告値に近い水を自身の身内（親、伴侶、子どもなど）に自信をもって飲ませますか？委員自身も飲みますか？ ３）ＰＦＡＳを利用する半導体製造メーカーに忖度していませんか？国の半導体推進に忖度しているのでは？ 以上のように、疑問点があります。人ごとでなく自身の問題として科学的に再検討を望みます。
0141	今回の摂取許容量では、心配です。子どもたち、妊娠をしている人にも安心なように、疫学調査をして許容量を引き下げてください。
0142	2012～2014 年の日本人の日平均摂取量は、PFOS が 0.6～1.1ng、PFOA が 0.066～0.75ng といわれてます（朝日 1.27）。 今回の評価案は、その現状をはるかに上回り、PFOS、PFOA ともに 20ng/日/体重 1 kg という許容量です。 なぜ現状すら上回る数値を許容量とするのか。さらに摂取してもかまわないということでしょうか。PFAS の有害性がは

	っきりしてきた今日の流れのなかで、もっと慎重に安全性を確認し高めるのが、食品安全委員会の役割だと思います。再検討をお願いします。
0143	日本の食品安全委員会はいったいどのように考えて許容摂取量を出してきたのか、疑問なのですが、この数値は安全なのでしょうか？疑問です。
0144	WHO の国際がん研究機関 IARC は、昨年 11 月 30 日、PFOA と PFOS の発がん性についての評価結果を公表し、PFOA では「ヒトに対して発がん性がある。」PFOS については「ヒトに対して発がん性の可能性がある。」と認めました。またアメリカの学術機関は PFAS の血中濃度が高いほど、さまざまな健康リスクが上がることを指摘しています。これらの情報をどれほどの国民に伝わっているのか疑問です。 ヨーロッパや、米国では PFAS ゼロをめざしての対策を進めるようですが、日本でも未来を支える子どもたちの健康を考え、命を繋ぐ「水」、PFAS ゼロを目指して取り組んで頂きたい。
0145	審議結果（案）は、欧米などの PFAS をめぐる最近の研究の成果や知見を?証拠不十分??情報不十分?などとして退けています。食品安全委が人への悪影響の表れがはっきり分かったと?判定?できることをもって?証拠?とするのなら、それは汚染による疾病の広がりを容認することが前提となりかねず、「健康への悪影響が未然に防止されるようにする」（食品安全基本法５条）という原則からは本末転倒です。しかも一方で、審議結果（案）は、欧米より何十倍、何百倍も多い摂取を許容しても「健康への悪影響が未然に防止される」という証拠は示していません。欧米の人たちに比して私たち日本人の命と健康が粗末に扱われているようで、不安がつのるばかりです。また審議結果（案）が、私も含む国分寺住民にも汚染が広がっていると確認されているＰＦＨｘＳの毒性を度外視していることも不安です。「国際的動向及び国民の意見に十分配慮しつつ科学的知見に基づいて」（同）、悪影響を「未然に防止」するという使命感をもって、再審議・再検討してください。お願いします。
0146	便利さ故、軍需ばかりでなく長年多岐にわたり使われてきた PFAS の有害性が明らかになり、PFOA は発がん性であると認定されています。低出生体重、高脂血症、免疫力低下、肝疾患、腎臓がんは広く認めれています。暴露や容量による反応に関しては、意見の違いもあるかもしれませんが、未来を担う子どもたちのことを考えれば、 予防原則に立って、ゼロが望ましいと思います。特に命のもとである水に関しては最も厳しいゼロに近い規制値の設定を希望します。PFAS 廃棄物についても保管や処理が安全に行われるよう指導し、安全を確保してください。汚染された地域に関しては原因究明と健康検査を行ってください。新たに代替品として開発される F の少ない PFAS に関しても厳格に検査し必要な規制を行ってください。 被害が広がってからでは遅い。令和の水俣病と言われないように対処をお願いします。
0147	PFAS の基準は欧米並みの厳しい基準値にしてください。
0148	日本の PFAS の摂取許容量を、これからの子どもたちに為にも、日本の環境の為にも、アメリカ並みの摂取許容量にかえてください。
0149	・TDI はヒトが一生涯にわたって食品から摂り続けても健康に影響が出ないと推定される量ならば、提案された TDI を摂取し続けると血中濃度が最大いくらになると推定されるのかを明記するべきです。その値で安全性が担保されるのか再度検討していただきたい。 ・発がん性物質の閾値に関して IARC の判断を基本とする原則を守っていただきたい。 ・新生児の体重抑制効果について、国内外の複数の疫学研究から血中 PFOS,PFOA 濃度と出生児体重の低下が多く報告されているにも関わらず、限定的として取り上げず、一方動物実験のデータを採用しているのは論理的でない。疫学研究を取り入れて評価していただきたい。 ・免疫毒性について可能性があるとしているが、証拠不十分として取り上げていない。安全性を担保するという立場に立つのであれば、可能性があるものを取り上げて予防するべきと考えます。 ・水道水の汚染が見つかった地域と国民を代表する全国での大規模な血液検査と疫学調査を実施するべきと考えます。
0150	食品安全委員会の「食品健康影響にかかる評価（案）」での PFAS の一日当たりの摂取許容量が米国安全基準に比べて高すぎます。 他の欧州の基準と比べても高すぎで安全性に疑問があります。 まだ、判明していないところがあるのであれば、逆に一番低いとことに基準を合わせるべきです。 できる限りの取得しないように基準を設けるよう再評価を求めます。
0151	食品安全衛生委員会が示した PFAS の摂取基準が、欧米に比べて何十倍も高い数値になっていることに納得がいきません。国際がん研究機関が発がん性があると示し、国際的に抑制する対策が取られているにも関わらず、それを無視した数値は、国民に納得のいく説明ができるのでしょうか。国民の健康を第１に考えると、取り込まないことが一番であるはずです。身体の小さな子供たちは大人よりも影響が強くでるでしょう。国際的知見に背を向ける姿勢は、到底受け入れられません。欧米並みの摂取基準にしてください。
0152	日本が PFOS と PFOA の摂取許容量をそれぞれ 20ng/kg としたのは科学的根拠に基づいたものではなく、欧米の値からすると大変に高い値です。このままでは健康被害が出る可能性があり、国民の健康の安全性が脅かされることが必至です。限りなくゼロにすることを求めます!
0153	食品安全委員会が示した、20ｎｇ/ｋｇ/日は米国や欧州と比べて著しく高い摂取許容量です。アメリカのＰＦＯＳで 200 倍、ＰＦＯＡで 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準です。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのか。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせるのではなく、「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 PFOA に「発がん性」があると国際がん研究機関（IARC）が世界に公表しているが、食品安全委員会の健康影響評価にもこれを反映してほしい。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事です。国際的知見を受け止めてほしいです。 PFAS は 1 万種類以上存在するが、食品安全委員会の評価はたった 2 物質のみです。岡山、大阪含め各地で発覚している深刻な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA、PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めてほしいです。
0154	※ 北名古屋市でも、ピーファスが検出されていますよ! 市長の考えは前向きでは有りません。 アメリカ??並みの規制にして欲しいものです 国としても、基準を厳しくし日本??として統一基準を早急に定めて下さい。
0155	私の住んでいる地域の東側に神戸市があり、そこの産廃処理場から、PFAS(有機フッ素化合物)が漏れ出し、近くの明石川に流れこみ、その川から取水している明石市の水道水を汚染しています。 さらに神戸市の産廃場から漏れ出た水が、近くの土地に染み出し、農地を汚染しています。そのため知らずに買ったブロ

	ッコリーなどの野菜をスーパーに産地を聞き、汚染された農地のものであることを知り、捨てました。農家の方にも申し訳ないですが、私たちの健康を守るためには、仕方ありません。このようなことにならないように、アメリカなみに暫定指針値を厳しくして、排出企業の責任で、除染するような法律を作ってください。さらに不安を感じる市民の健康影響調査をしてください。発生源を特定し、規制してください。日本でも、バイデン政権のような「スーパー対処法案」を作ってください。
0156	E PA の摂取許容量は、Ｐfos 0.1ng/kg/日、Pfoa 0.3ng/kg/日とされているのに、日本のＰfos200 倍、Pfoa666 倍となる根拠が問題。 アメリカ人と日本人の違いはあるのでしょうか。 他のことは、アメリカに従うのだから、同じでもいいのではないでしょうか。
0157	PFAS についての食品健康影響評価に係る審議結果（案）に対する意見―１／４ 審議結果全体を見て日本だけが国際的知見から大きく立ち遅れたものであり、議論に参加した専門家の皆さんの見識を問われるような内容になっているのは極めて重大であり、日本という国家の不誠実な態度を正秋中に知らしめる愚かな行為であると考えます。 PFAS に対する最新の学術的研究の多くは、人だけでなく全生物に影響を及ぼす可能性があることを示唆しています。PFAS の特徴は地球上にこれまで出現したことのない全く新しい物質であることと自然界で容易に分解さないことです。これは、地球史的な時間、つまり数万年～数億年という途方もない期間地球上のあらゆる物質に影響することを意味します。このような特殊な性質を持つ物質であるがゆえに、完全に安全だと言い切れるまではこれ以上地球環境に放出されないようにすることを求めるものです。 日本は何度も悲惨な公害を経験してきました。再び公害に我が国の国民を巻き込なないために、科学者の良心を汚すことのないよう、PFAS の許容摂取量を国際的な基準に倣って、PFAS 合計値で１～０．５ｎｇ／ｍｌにすべきです。
0158	PFAS についての食品健康影響評価に係る審議結果（案）に対する意見―２／４ 人類はこれまで自然界に多くの化学物質と放射性物質をまき散らしてきました。ある時は戦争に勝利するために。またある時はお金儲けのために、地球上のすべても声明を危険に陥れてきました。人類によるこうした行為による生物大量絶滅は人類の未来の生存確率を限りなくゼロに近づけてきました。 PFAS は人類が地球環境に新たな脅威を与えることは避けようがありません。人類が使い始めてまだ日が浅いというのに、すでにいくつかの「不都合な真実」が明らかになりつつあります。私が最も懸念するのは、米国の PFAS 製造現場の労働者に起きた幾つかの悲劇的な病変と、製造現場などから漏出した地域住民の子供たちから低体重症児が多数出現していることです。私には７人の孫がいます。みんな元気に育っています。しかし、この子供たちが飲む水は PFAS に汚染されており、世界基準の何十倍もの値であることを考えると「安全」という言葉を信じることはできません。
0159	日本の pfas の許容摂取量が高すぎる。欧州食品安全機関の数十倍になっている。特に子ども、乳児、妊産婦への影響が心配。日本の pfas の許容摂取量（pfas20,pfoa20)を欧州安全機関（PFAS　4 種 0.63）に引き下げるべき。
0160	最近、マスコミでも話題にされ注目しています。いろいろと調べていると、貴委員会の PFAS の１日当たりの接種許容量が、アメリカ基準より高すぎるのではありませんか？ 貴委員会は食品安全基本法に基づき、国民の保護が最も重要であるという基本的認識の下、科学的知見に基づき中立公正に評価する機関です。 国際的な発ガン性評価を取り入れないのはおかしいと考えます。 日本でも、厳しい基準をすべきです。アメリカ並みの基準にしてください。そして、PFAS ゼロをめざすべきです。 貴委員会は、将来の日本を背負っていく子どもたちに責任ある評価をすべきだと思います。 厳しい基準とすべきです。
0161	PFAS についての食品健康影響評価に係る審議結果（案）に対する意見―３／４ 私自身も東京都国分寺市に在住し、血液中に PFAS が４５ｎｇ／ｍｌ含まれていたことです。元々は低血圧に悩まされていた私は５年前から高血圧となり、生涯降圧剤を飲まなければなりません。昨年には心房細動発作も始まりました。こうした症状は PFAS との因果関係を証明することは難しいかもしれませんが、健康被害を受けているのではないかという不安を抱いています。 私は科学技術開発の最前線で仕事をしておりますので PFAS の有用性についてよく理解しています。しかし、だからと言って身体あるいは生物に買いがあることが少しずつ分かってきたのであれば、放射線物質や PCB のように、製造を停止し、使用を厳しく制限することこそ取るべき方策ではないかと考えます。 PFAS の許容摂取量を国際的な基準に倣って、PFAS 合計値で１～０．５ｎｇ／ｍｌにすべきです。
0162	PFAS についての食品健康影響評価に係る審議結果（案）に対する意見―４／４ 次に、PFAS を製造・販売した会社に対して、社会的責任を課すよう求めます。 PFAS 製造を直ちに停止させるとともに、出荷した相手先をすべて明らかにし、保管状況を把握して、PFAS 安全に保管するよう国家が管理義務を課すとともに、無許可で廃棄しないように罰則を設けることが必要です。 さらに、PFAS 製造者は製造者責任として、PFAS を製造した会社に環境被害が出ない物質に分解する方法の研究を進めるための資金と設備と人材を供出するよう求めるべきです。 PFAS と同様の構造を持つ化学物質の研究は、生物化学的な特性（毒性）について、毒性のメカニズム、安全に使える閾値、分子構造のどの部分に毒性があるのかなどを解明する研究に補助金を拠出して奨励するとともに、補助金の一部は製造者責任として製造企業に負担させる必要があります。製造企業は製造者責任を全うすることで汚名をそそいでもらいたいと考えます。
0163	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性があるといわれる物は極力さけることが国民を守る政府の責務です。何でもアメリカ言いなりの政府がアメリカの基準を大幅に超える基準、おかしくないですか。再考を。

0164	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 いつもアメリカに従属し、右へならえの日本が、PFAS については、米国に比べ桁違いにゆるい安全基準でよしとする日本の食品安全委員会は何を考えているのか！
0165	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守るために国でしっかり規制をして下さい。子どもの成長に心配です。
0166	国際的な基準とは異り、むしろ国際的潮流に反した水準で PFAS 汚染された地域の人たちを蔑ろにする内容で怒りを覚える。摂取許容量を新たに定めるのではなく、PFOS による健康被害を明らかにし、その対策を急いでほしい。許容量（案）を示したことで国が考える基準は理解できた。しかしこの内容では、今暮らしている人のことは全く考えられていない。同じ日本に暮らしているのにこの内容はあまりではないか。もし自分が同じ立場にいたらという点で再考してほしい。
0167	大阪はダイキン工場から PFOA が敷地を通して市民の生活の場に浸透してきていると見られ、井戸水や畑に高い検査値がみられるということです。私はその近辺に住んでいるわけではありませんが血液検査で中等度の心配があります。早く、子供や孫世代の健康を考えて全国で対策を臨みます。PFAS とり扱い”ゼロ"汚染地の対策、広げないように一刻も早く行って下さい。
0168	たとえ微量でも消滅しない有害物質が体内に堆積すれば、やがてからだに異常が出てきます。対策を急ぐべきです。これから長く生きていく子や孫、これから生まれてくる子供へ、きれいな水、土じょう、空気を手渡したいです。
0169	東京多摩地区住民の血液検査により、住民の PFAS 血中濃度が高いということがわかりました。健康被害が出ないよう、欧米並の「PFAS ゼロ」対策を早急に進めるべきです。
0170	今回の評価におどろきました。私達は動物ではありません。人間です。なぜ海外の評価と基準に対して大きな違いがあるのでしょうか？日本人としてはずかしいと思うだけでなく怒りを感じます。直ちに再検討し、海外評価を基準にすべきです。
0171	私も血液検査をしました。昭島で検査をした 50 人中の 1 人です。20 ng を大きく超えていました。毎日飲んでいる水（昭島は東京で一番おいしい井戸水）だと言われて、全くうたがったことがありませんでした。驚きと同事に恐りを覚えました。今、家では浄水器を取りつけて水は飲んでいますが、お金が高いです。食品にも水は多く使われています。日本中どこでも汚染がされているとしたら、日本で作られている食料品なども食べることができないと思います。風評被害も出ています。原因をしっかり調べ対策をしっかりとってもらいたいと思います。横田基地周辺に住む者として、横田基地の土壌検査を一刻も早くやってもらいたい。小池都知事に強くいいたいです。知らんふりしないで！また、国としても PFAS の検査をするために予算を組んでもらいたいし、次世代の人たちに健康への悪影響が未然に防止されるように力を注いで欲しいと願います。私たちは水までアメリカの実験台にされるのは絶対に反対です！
0172	わが国においても汚染基準を欧米並に厳しくすることが当然である。
0173	日本国民のいのちと健康を本気で守る基準をめざしているのか疑わしい案では納得はえられない。なぜ、世界的な知見を正面から参考にしないのか…なぜ米国や EU よりも甘い値で案を示したのか。国民は、じっと見ています。
0174	指標値はひどすぎる。せめてヨーロッパなみに!!
0175	東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染に相関があると知った。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば「予防原則」に基づいてまず取り込む量を減らすことが大切ではないか。子どもたちの未来のために、ぜひ、「PFAS の摂取許容量（案)」を見直してほしい。
0176	なぜ日本の摂取許容量は米国や欧米と比べ著しく高いのでしょうか。どんな根拠でこんなに高くても、体に影響がないのでしょうか。きちんと根拠を明らかにしてほしいです。
0177	国際がん研究機関（IARC）では、PFOA は発がん性がある。PFOS は発がん可能性があると評価しています。食品安全委員会で、この評価を取り入れないのは何故ですか。食品安全委員会とは、誰のため何のためにあるのでしょうか。人が生きていくために、絶対に必要な食べ物（食品）に対してはっきりと健康被害のある物は、評価すべきだと思います。許容量ではなく、少量でも許容してはいけないと評価すべきだと考えます。
0178	我が家の井戸にも高い数値が出ました。庭に水をまく事、野菜の水やりも身体に影響があると言われています。いつから？どうしたら良いのか？国民の健康を守るのが国のする事と思ったら、この現実をちゃんと見てほしいです。ちゃんと対策に動いてください。
0179	国民が幸福に暮らしていくために、一番大切なものは生命です。健康に生きていかれることが最も大切にされなければなりません。そのために飲み水が PFOS、PFAS で汚染されるなどということはあってはならないことです。全国各地で、心配される地域の地下水等の調査を早急に進め、その原因をつきとめて、汚染源に対しての対策をとってほしいと思います。私たちの子どもたちや孫たちの生命を守ってください！！
0180	欧州やアメリカよりも高い摂取許容量で、国民の安心・安全は得られません。このような数値は認められません。
0181	PFAS は人体の有害です。消火剤で問題となりました。米の基地内で使用、漏らしを平気で汚染、米は許せません！人間の命を大切にしない他国（日本）だからいい・・・。許せません。半導体には反対します。
0182	私も病院で血中濃度を調べていただきました。西多摩の国分寺市は PFOS16.5、PFOA6.5 と高い値が出ています。日本の食品安全委員会が示した「PFAS の摂取許容量（案）は、あまりにも高すぎて驚き、あ然としています。とんでもないことです！私も高齢者です。孫が二人います。未来の子どもたちのために、欧米が「PFAS ゼロ」を目指しているように日本も「ゼロ」を目指し対策を進めてほしいと訴えます。

0183	国民の健康を守る評価をして下さい。
0184	POFA と PFOS については有毒性があると報道されています。「発がん性がある」といわれているのになぜ過少評価されているのでしょうか。多くの住民ががんになりたくないと望んでいます。積極的に「発がん性」を評価して下さい。
0185	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子どもの健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 汚染による影響を永い期間にわたって”えき学”的に調査する活動を是非国に要求して下さい。現状を無策で過ごすための許容量の設定は単なる異見封じにすぎないように思われます。
0186	血液検査をしたら、高い数値がでました。大変驚いています。（健康にはいつも気を付けていますのに。）20 ng が妥当と判断しないでほしい。国際的な流れに反しています。安心して飲める水のために予防原則に立ち、このような高い数値はやめてほしい。
0187	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 76 歳の高齢医師です。大切な未来のある子供達の為にも世界に誇れる基準をしっかり作って下さい。
0188	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日常にあふれかえっている PFAS だからこそ、きちんと調査をし、水俣病やアスベストに続く被害者でないように大企業に規制するべきです。
0189	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来ある子供たちの安心できる未来づくりをお願いします。
0190	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 水俣病から学んで、命最優先で、設定すべき。未来にはずかしい決断をしないで！！
0191	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	健康被害に対する不安をとりのぞく為にも、世界的知見をもとに、実態調査をふまえた規制をはかって下さい。
0192	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0193	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病 、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守るために予防原則にもとづいて、積極的な施策を！
0194	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の責任で国民の検査をおこない、摂取許容量は欧米と同量まで下げて下さい。
0195	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米は「PFOS」ゼロを目指しています。日本もゼロをめざすべきです。
0196	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害の可能性、発がん性の可能性がある以上は、一日も早く予防策、改善策をとって下さい。後手に回ることは許されない。人の命は最優先されるべきです！
0197	日本の疫学調査は欧米に比べ極端に少ない。今言わないと子どもたちの未来が心配。安心して生活したい。安全な水、空気を子どもたちに手渡したい。PFAS リスク評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。世界の知見を集めて再評価して PFAS 対策に取り組んで下さい。
0198	日本の疫学調査は欧米に比べ極端に少ない。今言わないと子どもたちの未来が心配。安心して生活したい。安全な水、空気を子どもたちに手渡したい。PFAS リスク評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。世界の知見を集めて再評価して PFAS 対策に取り組んで下さい。
0199	※ 空欄
0200	生活の源である水ですが、安心して使用できるようになりたいですね。 何故、現在このような高い水準にあるのかきっ

	ちり説明し、今後の対応などもお知らせして欲しいです。
0201	有機フッ素化合物の摂取許容量を米国並みにしてほしい 国民の命を守る、また医療費削減という観点からも早急に摂取許容量を下げ、対策を実行してほしい
0202	食品安全委員会が示す「TDI（耐容一日摂取量)」について、欧米並みに引き下げることを要求します。理由を以下(1)~(6)に示します。 (1)高すぎる摂取許容量 日本の食品安全委員会が示す TDI（PFOS 20ng/kg bw/日、PFOA 20ng/kg bw/日）は米国（US EPA 2023 Draft）の PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州（EFSA 2020)の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準です。血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当します。米国アカデミー臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのか。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者、すでに体内汚染を蓄積した住民の生涯を通じた健康・安全は守られるのか、食品安全委員会は評価書の中で何の説明もしていない。なぜこのような著しく高い摂取許容量を何を持って安全域と主張するのか、この TDI は容認できない。
0203	(続き） 2 通目： 食品安全委員会が示す「TDI（耐容一日摂取量)」について、欧米並みに引き下げることを要求します。理由を以下(1)~(6)に示します。 (2)国際的な発がん性評価を無視している 従来、国が化学物質の基準値策定する場合は「国際がん研究機関（IARC）の発がん性評価を基本とし、米国環境保護庁（US EPA）等の発がん評価結果も参考」としてきました。今回、食品安全委員会 PFAS WG の委員たちはこの定法を無視し、「証拠は限定的」と判断し、その反論も示していません。国際がん研究機関（IARC)は昨年 11 月、PFOA「発がん性がある(Group1)」、PFOS「発がん可能性がある（Group2B)」と評価しました。米国・環境保護庁（EPA 2023)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と結論づけています。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事。食品安全委員会も「予防原則」に基づき、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう PFOA、PFOS の「発がん性」を認めた上で、TDI を再考してください。
0204	(続き）3 通目： (3)PFOA、PFOS の 2 物質だけを評価（その他 PFAS の健康影響は考慮したのか) 米国（EPA 2023 Draft)は飲料水で 6 つの PFAS 、欧州（EFSA 2020）は食品中で 4 つの PFAS の毒性を評価し規制する。 食品安全委員会 PFAS WG の広瀬明彦専門委員は 2 月 21 日に開催された令和 5 年第 2 回水質基準逐次改正検討会の中で、分岐鎖の毒性について問われた際に、「分岐鎖の毒性についてはデータ収集していない。その他の PFAS もデータ収集していない」と驚きの回答をしました。これは食品安全委員会は「時間がなかったので不十分なリスク評価の結果、一生涯を通じて安全かどうかわからない TDI を出しました」と言うに等しい発言で容認できない。国内には PFHxS、PFNA の高汚染地域が存在する。国分寺市、各務原市、沖縄など ECF 法製造の AFFF 汚染の地下水を飲んだ住民血中 PFHxS 濃度は非常に高く、多くの分岐鎖が蓄積していることも明らかになっている。PFOA・PFOS 以外の PFAS 及び、分岐鎖について早急に毒性評価を行い、国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めるべきだ。
0205	(続き）4 通目： (4)日本は EPA が 2016 年に採用した古い動物実験結果を採用。 食品安全委員会は、2016 年以降のヒトの疫学研究結果を「十分な知見がない」と全て退け、EPA が 2016 年に飲料水基準値を策定時に採用した動物実験結果を基に許容摂取量を導き出した。対して、欧米は「低出生体重」「ワクチン接種に対する抗体価低下」など子供達に関わる重大な有害性を認め、厳しい指標値を設定している。日本も「予防原則」に立ち、国内外の陽性所見をすくい上げ、健康への悪影響が未然に防止される指標値を示すべきだ。 (5)すでに深刻な体内汚染がある住民にとって健康・安全は？ 多摩、沖縄、岐阜、岡山、大阪の深刻な PFAS 体内汚染は国がより先見的な「予防原則」で PFAS を規制せず放置したことから、汚染された地下水を含む水道水等を経由して深刻な体内汚染を引き起こした明らかな例。これは国内 PFAS 汚染の氷山の一角で、今後、同様汚染は全国各地に発覚する。PFAS 高濃度汚染地域の住民（特に妊産婦、乳幼児、高齢者含めた感受性の高い集団）にとって、今回、国が示す PFAS 許容摂取量で生涯を通じた健康・安全が担保されるのか。
0206	(続き）5 通目： (6)食品安全委員会 PFAS WG のリスク評価の「独立性と中立性」は確保されているのか疑問 　今回、食品安全委員会でリスク評価を担った広瀬明彦専門委員は、リスク管理を行う水質基準逐次改正検討会の委員を兼ねている。リスク評価は最新の「科学的根拠」に基づいて「有害性の特定」と用量反応評価、曝露評価、リスクの定量化を行う必要があるが、この体制では「リスク管理のし易さ」や経済性を優先した歪んだリスク評価を行う危険があるのではないか。それが今回の欧米と比較し著しく高い TDI につながったのではないかと考えます。リスク評価の独立性が確保されているのか大いに疑問です。内閣府食品安全委員会には PFAS WG の委員選定プロセスとなぜ評価と管理を兼務した委員がいるのかの理由についても国民に開示・説明するよう求めます。
0207	水は、人間にとって命に関わる大事な資源です。 摂取許容量についても、他国に比べて高すぎます。 健康への影響がよくわからないからこそ慎重に進めてほしいです。また、摂取許容量はＰＦＯＡとＰＦＯＳについてしか示されていませんが、国分寺市民はＰＦＨｘＳが大変高く非常に心配です。ＰＦＨｘＳについても摂取許容量を示してください。 特に影響を受けるのは小さな子どもたちです。未来を担う子どもたちのためにも許容範囲量の引き下げをお願いします。
0208	毎日飲んでいる水なので、安心して飲めないのは困ります。特に子どもたちへの影響が気になります。国際的な判断基準を反映したものにしてください。日本だけ基準が甘いのは、国民の命を蔑ろにされているように思えます。
0209	科学的知見に基づいた編纂作業に感謝と敬意を払います。 リスクの許容具合は人によって異なるため、様々な意見が寄せられるかと思いますが、多くの知見を批判的に吟味した上での専門家達の見解が市民に誤解されることなく伝わるよう、報道機関だけでなく公的機関からも丁寧に広報していくことが必要なのだろうと感じています。

	今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
0210	PFOA および PFOS における分岐鎖の考え方について PFOA および PFOS には直鎖型及び分岐鎖型の複数の異性体が存在するため、国際/諸外国の評価機関では「混合物として評価対象としている。」と明記してあります。一方で、「VIII ５． まとめと今後の課題 」内に分岐鎖異性体等の測定上の課題は考慮しなかったとありますが、食品安全委員会として評価対象の範囲については明記されていないように思います。例えば、「II ４．評価の基本的考え方と対象の範囲」に評価対象について明記して頂けたらと思います。 TDI の設定根拠となった毒性試験についても、直鎖型/分岐鎖型あるいは混合物であるのか情報を追記されているとありがたいです。
0211	食品安全委員会が PFAS の１日の許容摂取量（案）を PFOS　PFOA の 20ng/kg ずつと判断したことに、どうして？なぜ？と驚いています。 この値は、米国・環境保護庁（EPA）の示した基準の PFOS が 200 倍、PFOA で 666 倍です。環境保護庁マイケル・リーガン長官は「PFAS は非常に低いデベルでもがんを含む健康に重大なリスクをもたらす科学的根拠は明らか」と述べ、PFAS ゼロを目指す姿勢をみせました。わたしが住む小平市をはじめ、多摩地域では水の PFAS 汚染が存在していることがわかっています。PFAS の生物蓄積性、難分解性により、汚染が水から、土壌へそして野菜や魚介類、肉類などの食べ物にも広がり、蓄積されます。人の口に入った時点で、何倍にも濃縮されるのは、米国でも事実としてあります。日本ではまだ実証研究がすすんでいませんがだからこそ、予防の措置で、基準は欧米並みに厳しくすべきだと思います。血液調査や水、河川、土壌などの調査も必要で、環境と人への影響を最小限に食い止めるための対策を早急に求めます。今回の許容摂取量をぜひとも見直してください。
0212	兵庫県明石市に流れている明石川の上流の産業廃棄物処理場に有害のフッ素化合物が含まれているゴミをいっぱい廃棄してると言うことを聞きました。 水道水の安全や瀬戸内の魚介類も汚染されないよう国の責任で取り締まっていただくようお願いします。 また、一般的に不安が高いので、科学的に分かりやすく住民説明してください。 また、環境基準を欧州並みに厳しくしてください。 第二の水俣病やイタイイタイ病を明石から出さないように、原因をしっかり究明して、再発防止してください。
0213	明石川の上流の産業廃棄物処理場に、産業物業者が有害のフッ素化物が含まれているごみをいっぱい、廃棄しているとの事。 水道水の安全、魚介類も汚染されないよう、国の責任で取り締まって下さい。 また、今年の国の安全基準評価は、ヨーロッパやアメリカに比べると、ちゃくちゃ甘く、60 倍を超えると聞きました。 国民の健康と命を守るのが、食品安全委員会の第一の仕事だと思います。 この国民が苦しむ事の無いよう、安全な基準値を出し、きちんと取まって頂くお願いします。
0214	1. 国内の摂取許容量が高すぎる。アメリカないしヨーロッパ並にすべきと思います。 2. PFOA が WHO の発がん性ランク１となりました。国はもっと情報提供を行い国民に危険性を知らせるべきと思います。 3. 同時にとくに PFAS 濃度の高いとされる地域を中心に疫学的な調査を行ってください。 4. PFAS に関する具体的な規制をすすめてください。
0215	米の基準の 200 倍というのはあり得ません。 欧米と同等、又はそれより厳しい基準の設定を求めます。
0216	生活用水の安全性は大事。しっかり調べて公表してください。
0217	１日の摂取量指標値がＰＦＯＳとＰＦＯＡそれぞれで２０ナノグラムと設定されました。これは、欧州食品安全機関が２０２０年に定めた１週間で４種のＰＦＡＳの合計値が４．４ナノグラムの６０倍をはるかに超えています。 PFAS は一度、体内に吸収されたら、３年間、体内に残留されます。 食事は毎日のことなので、どんどん体内に PFAS が貯まっていきます。 過去に国の規制が遅れたことにより被害が拡大した水俣病では、現在も苦しんでおられる方がたくさんいらっしゃいます。 第二の水俣病とならないよう、早急に厳しい規制の再設定をお願いします。
0218	上水道水内に混入している PFAS、その他農作物内にも入っているかもしれないと考えると　この人体にとって有害物質は規制値 zero がいいがせめて欧米並みの規制値にしていただきたい。　なぜ日本の規制値は緩いのかわからない。　農薬の規制も欧米と比較して緩やかであることも考えると　日本で安心安全な生活するうえでも規制強化、といっても欧米並みにすることは必須である。
0219	東広島市では昨日(令和６年２月 22 日)井戸水の PFAS 濃度が国の暫定指針値を 300 倍もの価で越える事がわかった。全国でも極めて高いレベルの検出値である。日本全国で疑わしい地域の水を調べると、もっともっと危険な水を飲料にしているところがあると思われる。国指針値が諸外国に比して高いのは如何なものか。もっと、国民の健康を熟慮して、水質調査と安全な水への対策を推進して欲しい。せめて、諸外国並みの指針値へ、できる限り近づける対策を行うよう望む。
0220	基準値を世界基準にして欲しいです。
0221	米国環境保護庁（EPA）の 2016 年ではなく、最新の指標値を採用する必要があります。少なくとも、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用、または、EPA の最新版が発表されるまで審議を継続してください。
0222	健康被害を与える可能性が高い物質の制限を厳しくするどころか緩める理由が理解出来ない。科学的根拠もないことでとても先進国が実施することとは思えない。PFAS が検出された地域にお住まいの方々に被害が無いのか調査するなどの扱いを経た上で基準値を設定することが科学的だと考えます。
0223	東京の三多摩に育ち、働き、暮らしています。何十年も水道水を飲んでくらしています。この間、血中濃度の話を知りました。 知らないことは怖いことです。 国際的基準でわかっていることもあるとのこと。健康被害や環境汚染を防ぐために必要な対策を急いでほしい。
0224	日本だけ、なぜ高い基準で大丈夫と言うのかわからない。 きれないな水を飲みたい。
0225	貴委員会による有機フッ素化合物 PFAS の評価について、私見を述べます。PFAS が環境や人体にどのような影響があるか、知見が限られているようですが、発がん性、胎児・幼児の低成長など、重大な影響が危惧されてます。その危険性が

	否定できないので、PFAS を強く規制すべきと思います。PFOS、PFOA の 1 日許容摂取量を体重 1 kg 当たり 20ng ではなく、欧州食品安全機関並み(０．６３ng；PFAS4 種類の合計)に規制を強化してほしい。水道水や人体への PFAS 汚染が問題になってます(しんぶん赤旗 2024.2.20 など)。それによると、岡山県吉備中央町の浄水場の水 1 L から平均 1000ng（最大 1400ng）もの PFAS が検出され、27 人の住民の血液 1 ml 当たり平均 171ng もの PFAS が検出された。この血中濃度は米国・ドイツにおける勧告値をかなり超えてるとのこと。PFAS の環境汚染や健康被害の実態を国や自治体はしっかり調査すべきです。水俣病、四日市公害など過去の過ちを繰り返してはなりません。小泉昭夫京大名誉教授、原田浩二京大准教授が環境や人体の PFAS 汚染について調べてるので、意見を聞きべきです。
0226	西東京市では、「基準以下だから」という理由で、市民が要望しても対応をしてくれません。それでさえ不安なのに、その「基準」そのものが欧米と比べても甘すぎるとなれば、人体への悪影響はどれほどのものになるのか。。。これからを生きる子どもたちの健康を考えると、早急に基準を下げ、「いのち」を最優先に考えてもらいたいです。
0227	有機フッ素化合物に関する食品安全委員会の評価は、国民の健康に直結する問題なのにもかかわらず、国民に分かりやすい説明をしていないと思います。特に、WHO のがん専門機関「IRAC（国際がん研究機関）」が２０２３年１１月の会議で、これまで PFOA は、「グループ B＝発がん性の可能性がある」という評価にとどまっていたが一気に 2 段階引き上げられ「動物実験での十分な証拠と、PFOA を暴露したヒトにおける強力な証拠が揃った」に引き上げている状況の中、このことを考慮せず２０１６年の指標値を採用するのは不誠実だと思います。私たち国民は、有機フッ素化合物がどんな物質なのか知ることさえも難しいにもかかわらず、日本の基準が欧米の基準と大幅に違う理由が分かりません。私は以下のとおり意見を提出します。 （1）食品安全委員会が「２０ナノグラムが妥当」と判断したことに大変驚きました。欧米の摂取許容量よりも数百倍も高いと聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に、基準の設定を遅らせることなく、国民の健康を第一に「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
0228	（2）この摂取許容量「２０ナノグラム１ミリリットル１日あたり」を血中濃度に換算すると PFOS＜２５０ng/ml、PFOA＜１４３ng/ml に相当する。米国アカデミーの臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が２０ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血中濃度を安全と説明できるのか。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだ。 （3）検査を受けた兵庫県明石市の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水と体内汚染に相関関係があると疑いがある。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないか。 （4）欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「PFAS ゼロ」をめざすべきだ。また、この摂取許容量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は５０ナノグラムのまま変わらないと聞いた。未来を生きる子どもたちの健康を考えると心配で、とんでもないことです。
0229	（5）PFOA と PFOS について、動物実験が沢山行われ、有毒性がかなり分かっているようです。がんの国際がん研究機関（IARC）では様々な国から 50 人以上の研究者が集まり論文を精査し、証拠が多かったので「発がん性がある」「可能性がある」と評価されています。誰しも「がん」になりたくないと思うので、積極的に「発がん性」を評価してください。 （6）がん患者の体験を聞くにつけ闘病と仕事、医療費や家族ケアなどと課題が多い。がん発生のメカニズムなども判明してきている。PFOA に「発がん性」があると国際がん研究機関（IARC）が世界に公表しているが、食品安全委員会の健康影響評価にもこれを反映してほしい。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事です。国際的知見を受け止めてください。 （7）「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については、多くの人が知りたい事項です。全国各地で PFAS 汚染が発覚し住民の血液検査で高い値が検出されています。今こそ、国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性評価と管理・対策に動くべきです。
0230	沖縄、東京などすでに体内汚染のデータが存在するというデータがだされています。それにもかかわらず国や自治体はアメリカ議会の顔色をうかがい、なんの発表、具体的発表や手当もしていません。 戦後 80 年も経過していいにもかかわらず、アメリカの顔色を伺う政治から脱してください。 早急な対応を、希望いたします。 よろしくお願いします??♀???♀??
0231	一貫性のない毒性評価に驚き 去る 1 月 26 日、内閣府食品安全委員会の専門家会議「PFAS ワーキンググループ」は PFOS と PFOA の 2 物質で摂取許容量を体重 1kg 当たり各 20ng との指標(案)を了承した。 これは、厚生労働省が 2020 年水道水の PFOS と PFOA の暫定指針値を算出したときに使用したもので、米環境保護庁(EPA)の摂取許容量を借用したものだ。2016 年 EPA は、ラットの児動物における体重減少から PFOS の摂取許容量を 20 ng / kg / 日とし、マウスの発生毒性試験から PFOA の摂取許容量を同じ 20ng /kg / 日とした。小動物実験に基づいた摂取許容量を日本も踏襲したのである。 しかし 2023 年 3 月 EPA はヒト疫学調査を含めた研究に基づき摂取許容量(案)を引き下げ、PFOS が 0.1ng / 体重 /20 日、PFOA が 0.03 ng / kg / 日とした。専門家会議は、前回の動物実験より今回のヒト疫学調査を含む知見を優先すべきである。比較考証できる日本独自のデータがなければ、EPA の数値を今回も踏襲した方が安全原則に適うのではないか。
0232	日本でももっと規制を厳しくしてください。農産物、水はどうなるんでしょうか。子や孫が安心して日本で暮らせるようにしてほしいです。
0233	国際がん研究機関（IARC)による PFOA の発がん性評価を入れないのは理解できません。全国各地の水道から PFAS が高濃度で検出されており、子どもへの影響が危惧されます。日本の子どもたちを守るために、予防原則に則って、欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用してください。
0234	目先だけのことだけではなく この先の子どもたち、またその先を考えてください。 どうかよろしくお願いします。
0235	発がん性のリスクの高い PFOA の摂取に対し、不安がとても大きい。 食品安全委員会は、国民の安全や健康を守るための検査と評価をしてほしい。 健康被害や環境汚染の防止と対策を早急にしてほしい。
0236	・評価書案のなかでも、「データが足りない」と言われているが、それなら私たちの居住地のような高濃度汚染地の調査

	をするべきではないでしょうか。その提言を評価書に加えてください。エコチル調査だけでは不十分ではないですか。 ・証拠不十分、結果が一致しない、と様々な健康影響を切り捨てていますが、先々に証拠として認めたときには、公害被害として手遅れな状況になるのではないでしょうか。国民を守る立場で評価を示してください。この摂取許容量では何のための評価書なのかわかりません。むしろ、高濃度汚染水の摂取を許容する内容であり、国民の安全にとって有害です。
0237	なぜ摂取許容量がアメリカや欧州の何百倍や何十倍もの値なんですか？ ちゃんと説明してほしいし、調査もしっかりやってほしい。 摂取許容量の見直しを求めます。
0238	食品安全委員会が示した摂取許容量が、米国の 200 倍、欧州の 64 倍と聞きました。横田基地から東側の地域に住む住民にとっては、とても不安な日々を過ごしています。発がん性も指摘されている中、臨床や実証的検証に基づいた許容数値を示していただきたい。国民に対してわかりやすく丁寧な説明を求めます。「評価書（案）」の再検討および国民への周知方法の再考を求めます。
0239	許容摂取量(案)の見直しを求めます。 今回食品安全委員会が 20ng/kg/日とした事に驚きを隠せません。 本当に国民の命を守る気があるのか、不信感でいっぱいです。 欧米が目指している、「PFAS ゼロ」を日本も目指してください。 国民の命を蔑ろにするような機関はいりません。 きちんと仕事をしてください。
0240	現在の水道法の水道水の暫定目標値である PFOS、PFOA 合計で 50ng/L を規制基準にしてください。 　水質汚濁汚染防止法の暫定指針値である PFOS、 PFOA 合計で 50ng/L を規制基準にしてください。 なぜなら、明石川流域に産廃処理場から垂れ流されている PFOS、PFOA を兵庫県や神戸市が、取り締まり規制できない状態が続き、水道水や農水産物が汚染されているからです。 　欧州食品安全機関の基準である ４・PFAS の合計で４．４ng/kg 体重/週を再評価するよう検討してください。
0241	国はなぜ、飲水の毒性が高いと言われる PFOA 値がアメリカの 666 倍という高い値をゆるしているのですか?ＰＦＯＳもアメリカの 200 倍という高さじゃないですか。もっと国民の安全をしっかり真面目に考えてください。［PFOS ゼロ］を目指すべきです。
0242	PFAS の影響で、子どもたちへの害がとても心配で困ります。考え直してください。
0243	今回の摂取許容量（体重 1 kg 当たり 20ng）は、世界中が否定した値です。新たにその数値を制定することは、大変恥ずかしいことです。 また、人間だけでなく、生物全般にも害があることも考慮する必要があります。 マスコミの報道もほとんどなく、決められていくことに、命の軽視、誰のための政策かと、この国の行く末に不安が高まるばかりです。 以上のことから、今回の摂取許容量の撤回を求めます。
0244	私達は３年以上も１００ｎｇ/L 近くの高濃度の PFAS 入り水道水を飲まされ、血液検査の結果 20ng の３倍近くの値が出ました。 まだまだ未知の危険な物質に対してアメリカや欧米の基準を参考にきびしい基準に是非見直してください。 何より国民の生命を守る機関がこの指標では 文明国とは言えません。
0245	・2023 年 12 月に出された国際がん研究機関（IARC)による PFOA の発がん性の判断を取り入れること。 発がん性物質である PFOA について、PFOS と同じ許容量は理解しがたい。 特に、関西は PFOA に汚染されていることへの留意が必要です。 ・米国環境保護庁（EPA）の 2016 年ではなく、最新の指標値を採用すること。 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用、または、EPA の最新版が発表されるまで審議を継続すること。 ・PFHxS は子どもへの影響が危惧されることから、予防原則を充分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用すること。
0246	食品安全委員会が示した PFAS の摂取許容量がヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超える数値に驚きます。日本は先進国ですよね。何故この数値で良しとしたのか？とても納得がいきません。飲み水ですよ。国民にきちんと説明をしてください。国民の健康を第一に考えてください。
0247	食品安全委員会が示した「PFAS の摂取許容量（案）」は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるもので、PFAS をできるだけ取らないようにとい う国際的な潮流に反しています。強く再考を促します。
0248	アメリカにおいては、PFOS の 1 日あたりの許容摂取量は 0.1ng/kg 体重／日、PFOA については 0,03ng/kg 体重／日、欧州においては 4PFAS で 0,63/kg 体重／日です。それらと比較すると、現在出されている許容摂取量案である PFOS20ng/kg 体重／日、PFOA20ng/kg 体重／日は、非常に高すぎます。同じ人間であるので、許容量がそれほど違うことはあり得ないです。この許容量が認められれば、がん等様々な病気が今後さらに増え、医療費がさらに増大する可能性は十分にあると思います。医療費の削減のためにも、「予防」として、できる限り危険が予測されるものを避けるべきです。医学的な結果がはっきりしてからではすでに遅すぎます。PFAS を原因とする疾病や障害は、欧米ですでに様々な症例が出ています。それを考慮すべきです。日本においても、血液検査を行い、まず実情を調べるべきです。そして、この異常な「許容接種案」を見直すべきです。
0249	PFAS の摂取許容量案はアメリカなどと比較して高くなっていることに大きな不安を感じる。安全性の基準やデータなどの根拠は信頼できるものなのか？なぜ、こんな高い数値の許容量にしているのか？他国では体への影響があるとされている物質に対して基準が甘すぎる。子どもや妊婦などへの影響が心配である。許容摂取量の見直しと安全対策を検討して欲しい。
0250	他にも参考にすべき知見は多い 2010 年代の、デュポン社の PFOA 汚染を訴えた裁判では、独立科学委員会が住民約 7 万人の血液サンプルと健康データ

	から PFOA と 6 つの疾患(精巣がん、腎臓がん、潰瘍性大腸炎、甲状腺疾患、妊娠高血圧症、高コレステロール症)との関係を特定し、莫大な和解金が支払われた。 米国の一部の州では、PFAS 使用製品禁止の方向に進んでいる。以前から州による厳しい水質指針値も存在する。米国は、PFAS 製造?使用の先進地であり、被害の研究も日本より進んでいる。 2021 年 5 月、米国毒性物質疾病登録庁(ATSDR)は摂取許容量を PFOS で 2ng/kg/日、PFOA で 3ng/kg/日、PFHxS で 20ng/kg/ 日、PFNA で 3ng/kg/日としていた。また、多種類の PFAS と精巣がん、腎がんなど、多くの疾患との関連付けを行っていた。 さらに、欧州?食品安全機関(EFSA)は、すでに 2020 年ヒトの脂質代謝や免疫の問題から PFOA、PFNA、PFHxS、PFOS の合計で 0.63 ng/kg/ 日の厳しい摂取許容量を公表していた。
0251	PFAS は、癌の発現物質ないしその可能性の物質に指定されたので非常に恐怖を感じています。国分寺市内の水道水を 20 年以上飲んでいますので、影響が出るのではないかということです。今回の規制値案は、高過ぎます。我が国での実証値はないでしょうが、それならばアメリカなどの規制値を取り入れのが次善の策です。是非、そのようにして下さい。お願いいたします。
0252	この審議結果は 2023 年に国際がん研究機関によって PFOA が発がん性が「ある」されたことを全く無視しています。TDI を設定するにあたって、食品安全委員会を称する団体が、国際的な専門機関の最新の知見を無視することなど考えられません。 2023 年 12 月に発表された国際がん研究機関（IARC）による PFOA の発がん性の判断を取り入れてください。 欧州食品安全機関（EFSA）は 2020 年に許容量を体重 1 キロ当たり 0.63 ナノグラムに設定しています。 今回、食品安全委員会が設定した許容量は PFOS と PFOA の合計は 40 ナノグラムになり、EFSA の数値の 64 倍となってしまいます。 米国環境保護庁（EPA）の 2023 年の草案を無視して、2016 年までの古い情報だけを採用するのは食品の安全を守ることにつながりません。 PFHxS についても最新の知見を採用し、子どもへの影響や予防原則を十分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用して下さい。 PFAS 規制の強化に向けて動いている世界に流れをそった規制値を作って下さい。
0253	動物実験や疫学調査で PFAS の発がん性が明らかになり、米国や欧州などが水質基準を限りなく低い基準へ見直すなかで、今回の食品安全委員会が非常に高い血中濃度を上限にしたことに、驚きを隠せません。これでは国民の命と安全は守れないと考えます。過去にアスベスト規制が遅れ、今なおアスベスト健康被害が続いていることと重なります。現時点で得られる科学的知見全体を反映しないで基準を設定し、その結果の健康被害に対し食品安全委員会はどのように責任をとるのかと問いたいです。
0254	WHO の毒性見直しを尊重すべき 2023 年 12 月、WHO のがん専門研究機関(IARC)が、PFOA は「発がん性がある」、PFOS は「発がん可能性がある」と公表した。 報道によると、世界各国から多くの研究者が集まり、多くの文献に基づき判定したのである。 日本から参加した 2 人の専門家は、国際的な動向や知見に遅れをとる日本の現状を指摘している。国立がん研究センターの岩崎基氏は「IARC の議論を通じ、日本で実施した疫学調査の少なさが米欧に比べて際立った」と言い「国内での疫学調査を早急に実施する必要がある」と訴えている。国立医薬品食品衛生研究所の菅野純氏は「PFOA に発がん性があるという結論には学者間で一切異論はなかった」「問題なのは、似た構造と性質を持つたくさんの PFAS が今後、さらに世に多く出回ることだ」「食品安全委員会では 2 種類の PFAS の評価しかできないとした。一万種類を超える PFAS に言及しないことは保守的で、今後のことを一切見据えていない」と厳しく批判している。 食品安全委員会は、外国のデータと付き合わせる独自のデータが不足していたら、もっと謙虚であるべきだ。
0255	予防原則を軽視する食品安全委員会 食品安全委員会は、PFOA、PFOS による健康影響が軽微であること、将来的な臨床的な意義が不明であること、用量反応関係が不明瞭であること、などと言いエンドポイントとして採用するためにはいずれも証拠は不十分であると判断した。動物実験を軽視し、「ヒトに外挿できるかどうかは判断できない」、PFOA の発がん性については「研究調査結果に一貫性がない」、PFOS や PFHxS の発がん性については「強い証拠が得られているとは言い難い」などという。 IARC の専門家に対して失礼ではないか。 日本の専門家会議のいい加減さだが、研究調査の少なさにも関わらず「一般的な国民の食生活(飲水を含む)から食品を通じて摂取される程度の PFOS、PFOA によって著しい健康リスクが生じている状況にはない」という。最後に視野狭窄について指摘したい。PFOS、PFOA、PFHxS について「使用規制や排出源対策を行うことが望ましい」という。はたして、沖縄、東京などの米軍基地から排出される泡消化剤の排出源対策が地位協定の壁で不可能になっている状況は見えているのか。
0256	PFAS は分解され難く体内に蓄積する性質を持っており、様々な健康障害の危険が既に指摘されている物質です。今、まず優先されるべきは PFAS 汚染のリスクから国民の命と健康を守ることです。多くの犠牲者を出した過去の公害では、その原因や責任問題の議論に長期間を要し、その間に被害がどんどん拡大して事態を深刻化させてしまいました。この痛恨の歴史を繰り返してはなりません。 PFAS の危険度が科学的に確定されるまで対応を先送りして、その間に健康被害が拡がっていく事態は絶対に避けなくてはなりません。南海トラフ地震などの大災害への対策では「正常化バイアス」を厳しく戒め、最悪の場合を想定した備えをするよう求めています。食品安全委員会がこの度発表した許容摂取量（案）は、PFAS 汚染についての「正常化バイアス」に陥ったものと言わざるを得ません。公害の重要な教訓は「予防原則」です。健康被害のリスクが既に指摘されている以上、事前にリスクを避ける「予防原則」に基づいた対応が速やかに取られるべきです。国民の命と健康を守ることを最優先にした検討を行って下さい。
0257	1．国際がん研究機関（IARC)が、2023 年 12 月に PFOA の発がん性について発表しています。この知見をふまえると、発がん性物質である PFOA の許容量が PFOS と同じでよいはずがありません。特に、関西での汚染は PFOA が主因なので、当事者として、IARC の新知見に基づく見直しを強く求めます。 2．援用している米国環境保護庁（EPA）の指標地は、2016 年のものではなく、最新の指標値を採用することを求めます。少なくとも、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用してください。 3．PFHxS は子どもへの影響が危惧されます。「予防原則」を充分考慮して、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用することを求めます。
0258	環境省の判断が問われている

	水道水の水質監督の権限は厚生労働省から環境省に移った。今後、懸念されるのは食品安全委員会の専門家会議が下したPFOA、PFOS の許容摂取量(20ng / kg / 日)を、環境省がどう受け止め、新たな水道水の PFAS 指針値を導き出すのかである。従前の計算式を採用すれば、結論は変わらない。PFOS、PFOA ともに 50 ng / L である。 EPA は健康勧告値(案)として PFOA が 0.004 ng / L、PFOS が 0.02ng / L を提示し、目標値はいずれもゼロを勧めている。ただ、法的拘束力のある最大許容濃度は、検査能力等を考慮し、PFOS、PFOA ともに 4ng / L としている。他にPFHxS、GenX 化合物、PFNA、PFBS の指針値から導くハザード指数 1.0 を設定している。これをどう実現するか。各水道事業者に検査結果の公表も求めている。 環境省は、欧州連合が 23 年 2 月に、約 1 万種類の PFAS 製造と使用、販売を禁止する草案策定を開始したということも念頭に置くべきだ。
0259	PFAS による地下水、水道水の汚染が日本各地で見つかっています。 昨年 11 月に、国際がん研究機関が PFAS の一種である PFOA に対して「人に対する発がん性がある」と判断し、アメリカでは非常に厳しい水道水基準を決定する見込みだと聞きました。ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」を目指しているとも聞きます。 日本も PFAS の規制をしてほしいです。せめて、アメリカ並みの基準にして下さい。国際的な発がん性評価を入れないのはおかしいと思います。
0260	PFOA と PFOS について、動物実験が沢山行われ有毒性がかなりわかっているようですね。 がんの国際がん研究機関（IARC)では様々な国から 50 人以上の研究者が集まり論文を精査し、証拠が多かった ので「発がん性がある」「可能性がある」評価されています。だれしも「がん」になりたくないと思うので、積極的に「発がん性」を評価して下さい。 吉備中央町での水道水問題で、会社で毎日飲むコーヒーの水に使用していたので毎日飲料していました。 必ず安全であると思い込んでいた水道水からこんなにも基準値をオーバーした水が使われていたなんて信じられません。 国の政治家は国民のことを他人事と思いすぎです。たくさんのお金を国民から巻き上げているのに。 もっと自覚してなぜ政治家になったのか、たくさんのお金をもらうためになったんですか？きちんと国民のために動いてください。
0261	先ずは水質検査をキチンと実施してください。特に米軍基地への調査を行ってください。有機フッ素の除去、対策を早急に実施してください。水は生命の源です。原因の救命と対策を。国民を守れ。
0262	貴食品安全委員会での許容摂取量基準値案はとんでもなく緩すぎて話になりません。　米国や欧州に比較して「科学的根拠を理解できていない」と言わざるを得ません。ぜひ見直してください。　「判断データ不足」というならば、率先して予算をつけて早急に研究してください。　すくなくとも「人体に取り込まないようにしたい」というほどの猛毒性並びに”重篤な疾病を誘発する危険物質”であると認識しておられるならばなおさらです。
0263	これからを生きる子どもたちへの影響を思うと、日本の基準がゆるいことは不安です。国際的の基準をを参考にしたり、より詳しく研究を進めたりして、対策して欲しい。
0264	欧米並の厳しい基準で、取り締まりをしていただきたいです。 また、排出企業に厳しい基準を設けて、遵守していただきたいです。 癌にもつながる物資ということなので、迅速に取締をよろしくお願いいたします。
0265	私の住んでいる各務原市でも昨年 7 月に上水道から高い値の PFAS が検出され、強い不安と憤りを感じています。市は健康不安を訴える市民に対して国の見解をたてに、血液検査を拒否しています。WHO 国際がん研究機関の評価を取り入れ、健康不安を感じている地域住民の血液検査をすみやかに実行してください。
0266	今、世界ではこの PFAS が大問題になっているにもかかわらず、日本では米国や欧州とは比べ物にならない低い基準の許容摂取量（案）を示すとはあり得ません。その基準数字は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるものです。 国民の命を健康を守るために、ぜひ許容摂取量（案）を見直してください。 よろしくお願いします。
0267	(1)審査結果（案）の内容を国民に問うというパブリックコメントですが、文書自体が国民向けの文書となっておらず、これでは一般市民にはちんぷんかんぷんで、これで国民の意見を聞いたと結論付けるのは基本的に民主的ではない。 (2)今回の文書によって国内「飲料水」の基準が決まるのに、欧米の６０倍以上の緩い規制基準なんて、後で問題になっても責任を誰も取らない極めて無責任な内容だと怒りを感じています。疑わしきは安全最優先で提言してほしい。 (3)WHO が発がん性で問題視しているものとして、喫煙、アスベストと並んで、PFAS を挙げているのに、なぜわが国だけ「証拠は限定的」として敢えて発がん性評価を取り入れないのか理解に苦しむ。この点でも前述(2)同様、極めて無責任だ。
0268	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。水道水だけでなく、作物からも摂取してしまうことを考えると、いまの許容値では、血中濃度は健康被害が出る濃度になってしまう。特に臓器が未熟な子供たちが心配だ。
0269	欧米で規制の動きにあるのに、なぜ何もせず現状維持なのか理解できません。 わたしたちの健康を第一に考えた取り組みをしてください！ 見直しを強く求めます。
0270	PFAS の学習会や映画「ダーク・ウォーターズ」で PFAS の怖ろしさを知り、知らない事の怖ろしさを知りました。 国の「PFAS の摂取許容量(案)」が欧州・食品安全機関（EFSA）の 60 倍、アメリカ・環境保護庁（EPA）の 200 倍を超えるもので、PFAS をできるだけ取らないようにという国際的な潮流に反しています。 より安全な数値での見直しを求めます。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだと思います。これからの子ども達の健康を考えると心配になりますし、とんでもないことです。 「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については、多くの人が知りたい事項です。 全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。今こそ、国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性を評価と管理・対策に働くべきだと強く思います。
0271	全国各地で PFAS 汚染が明らかになっており、岡山県吉備中央町では高濃度の水道水汚染により、人体への影響が大変懸念されています。にも関わらず、環境省は血中濃度と健康影響の関連について知見がないから、血液検査は推奨しないというスタンスを取り続けています。各地で明らかになりつつある事実に向き合い、国内で汚染が発覚したエリアにおいて血液検査を含めた健康影響調査を行い、積極的に知見の収集に努めるべきです。

	今回の食品健康影響評価については、限定的な動物実験を根拠とするのではなく、より幅広いリスクを考慮した欧米の評価のように、予防原則に立った基準を設けて欲しいです。環境規制のために必要なコストをかけないと、医療や福祉など社会全体のコストが増えてしまうことを考えて欲しいです。
0272	明石川流域の明石市民です。　水道水に有機フッ素化合物が入っています。 　子供を中心に　街造りをしている明石市ですが、水道水に有機フッ素化合物が入っています。明石市の保育園や小学校、中学校、高校には浄水器はついてません。　国の基準があいまいだからです。　　外国の基準がいいとは言いませんが、 もし　この国の国民に健康被害が出た場合の責任者の名前を公表してください。 数年後に基準が改定されたときにも、2024 年の会議のメンバーの名前も公表してほしいです。　食品安全委員会のメンバーの方の有機フッ素化合物の安全性の考え方はどこの企業からきているのか教えてください。
0273	情報をご提示頂きありがとうございます。 資料を拝見し、普段の生活に関わるところでとくに、 「PFAS の一種であるパーフルオロオクタンスルホン酸（PFOS : Perfluorooctane sulfonate)、パーフルオロオクタン酸（PFOA : Perfluorooctanoic acid）及びパーフルオロヘキサンスルホン酸 （PFHxS : Perfluorohexane sulfonate）については、難分解性、高蓄積性及びヒト や高次捕食動物への長期毒性を有する」 と言う情報が気になりました。 PFAS が水に含まれていて、その水で育てた農産物、その水や農産物を食べた畜産物、その水が流れ込んだ海の海産物を食べたら、長期に渡り毒性を有する物質が人間の体内に分解されないまま蓄積されると認識しました。 生物濃縮により、水俣病のような公害病が発生する可能性もあると思いました。 私は食を扱う仕事をしており、自給用で畑もやってますので、PFAS の除去対策や流出制限を厳しく対応してほしいです。 米軍の基地付近では PFAS 濃度が高いとも聞きますので、そちらも調査と対応をして頂きたいです。
0274	私の住んでいる小金井市は長年、水道水に地下水を含んでいて、それゆえ美味しいのが自慢でした。 しかし、この地域の地下水に PFAS が高い濃度で含まれることがわかり、水道水に地下水を混ぜることは中止しましたが、それまで飲んでいたことで、小金井市市民には少なからず影響があると考えられます。 今後、PFAS の影響で健康被害が出た場合、補償してほしいです。 また、これ以上地下水に PFAS が混入しないように米軍基地へ、申入れしてほしいです。 地下水入りの水道水が飲めなくなり、とても残念です。 よろしくお願いします。
0275	明石川上流の高濃度 PFAS 汚染が 2023 年に確認され、明石川流域の土壌、地下水、周辺住民の血中濃度の自治体・国の定期的調査（検査）を月に 1 回以上行うことを求めます。また、そのデータの公開をし、流域の環境状況を HP 上だけでなく紙媒体として広報してほしい。 安全委員会の「PFAS 評価書（案）」による摂取許容量の値については PFOS、PFOA が 20ng/kg 体重/日の値は、血液濃度レベルの安全域の上限であり乳幼児や子どもへの影響を考えると安全とは思えない。米国や欧州基準にしてほしい。この値は IARC(国際がん研究機関）の発がん性判断が考慮されていない。疫学のデータでは摂取許容量の血中濃度では安全は担保されないので、規制値を下げてほしい。 浄水場の取水口の水質検査の他にも各地域の水道水の水質検査も行い定期的に公表してほしい。 希望する住民には血中濃度の血液検査が受けられる制度を設け、正確な検査機関を通して相談窓口を置くことを望みます。検査費用は自治体や国が補助金を用意し、18 歳未満の若年層は無料でできるようにしてほしい。 河川流域以外のため池や湧水地の PFAS 濃度の水質もしてください。
0276	アメリカ、ヨーロッパでは実験等をもとに日本の基準より数十分の一から百分の一と厳しく規制しているにも関わらず緩いままで放置しているのは危険に思われる。独自の基準を設けるならそれなりの実験を行い基準を策定すべきです。 なお、日本国内の汚染は米軍基地の消火剤が流出したものが多く、日米安保が有っても日本国民の安全のためには強力な調査と罰則や補償を求めることも実現しなければならないと考えます。
0277	最近発表されたアメリカの環境保護局の飲料水に含まれる PFAS の基準は，「ＰＦＯＳ」と「ＰＦＯＡ」の基準値をいずれも 1 リットルあたり 4 ng である．大人の 1 日の水の摂取量を 2 リットルとして，体重 60 kg で割ると，0.13 ng/kg 体重/日である．これに対して，食品安全委員会が出した許容値は，20ng/kg 体重/日である．なぜ，日本がアメリカより 150 倍以上の PFAS の摂取を認めるのか，説明を求めたい．国土が狭く生産拠点と居住地の距離が近い日本では，もっと厳しい基準が定められるべきであると考える．
0278	PFAS の摂取許容量が高すぎる！！外国と比べて日本の許容量が多すぎてびっくりしました。
0279	評価案の見直しを求めます がんの話が多く出回るようになったのに、がんの発生率を下げるのに大事なことなのに、 そのリスクを「現状維持」では良くない、 被害者が出る前に規制を強くしておかなくてはならない。 全国各地の汚染地域の住民から疑問や懸念の声が相次ぐのは当然と思う。 欧米では疫学研究の成果を取り入れたのに食品安全委員会がそれを殆ど採用しなかった、とのことで、「おい」と苛立ちを感じた。「疫学専門家の意見をもっと聞いていたら」という意見を読み、私もそうであって欲しかったと思う。 先進各国と、足並みを揃えて発がん性物質等の規制を強化してもらわなくてはならない。もしそうしないとなると、それは食品「安全」委員会とはいえないのでは、と思う。
0280	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに、大変失望した。アメリカやヨーロッパの許容摂取量よりも数百倍も高いと聞いて、不安です。科学的不確実性を口実に、対策を遅らせることなく、「予防原則」にたち総合的な判断をしてください。 　「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については多くの人が知りたいことです。全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。国は、全国で調査、追跡し、PFAS の発がん性を評価と管理・対策に動くべきです。
0281	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS２５０mg/ml、PFOA１４３ng/ml に相当し、米

	国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で２００倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 全国民の健康診断で検査する必要があるのではないでしょうか。
0282	食品安全委員会が出した PFAS の摂取許容量の案は、欧米のものより数十倍、数百倍も高いと聞いて驚いています。 子どもたちの健康を考えると、とても心配です。
0283	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS２５０mg/ml、PFOA１４３ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で２００倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 発がん性がある・摂取許容量が高すぎることを世間的に公表する、また健康診断での血液検査で PFAS の数値を検査対象にすることを求めます
0284	摂取許容量をせめてアメリカと同じに下げてください。 その数を守れているか、半導体の事業展開が公害につながらないように、継続的に市民に詳細説明と細心の配慮をお願いします。 知らないうちに摂取することが無いように、水処理のデータを公開してください。
0285	PFAS、PFOS など有機フッ素化合物の環境汚染について報道されて以来、深刻に懸念しています。なぜここまで対策が取られなかったのか、なぜ徹底した調査を現在も行っていないのか、非常に理解に苦しみます。 日本国内の半導体工場でも PFAS などの化学物資は使用されるようです。これは安全なのでしょうか。熊本の地下水や海を汚染することはないのでしょうか。これまでの無策、未来への無策。怒りを感じます。水俣病やイタイイタイ病などのかつての公害の教訓はなんだったのか。当局の人たちはあまりに愚かなのではないですか。なぜ政策の失敗を繰り返すのか。果てしなく強い怒りを感じます。 予防原則で強い基準で規制してください。 また海外の米軍基地からの PFAS 汚染では、調査がしっかりされてるようですが、在日米軍は基地内の汚染度など、協力がなされていないという話も聞きます。日本は主権国家ではないのですか？ 予防原則から厳格な規制をしてください。
0286	発がん性があることがはっきりしているのに、なぜ海外より甘い規制にするのかわからない。海外と同じ規制にするべきだと思う。
0287	有機フッ素化合物についての嘆願書 ネットニュースにて、有機フッ素化合物の規制強化についての記事を見ました。発ガン性があると言われ、各国で禁止や規制強化が進む中、日本は規制強化されていないと知りました。フッ素は、日用品など、生活のあらゆる所に使われております。日本国も、有機フッ素化合物の規制強化がされますように、嘆願いたします。よろしくお願いいたします。
0288	PFAS の規制強化を出来るだけ早く進めて欲しい。日本は先進国どころか、科学的にも政治的にもまだまだ発展途上国のようだ。水俣病しかり、イタイイタイ病しかり、早くに手を打っておけばという事例は過去にあったはずなのに、まったく学習されていない。なぜ欧米と比べてゆるい基準になってしまうのか理解に苦しむ。食品安全委員会が科学的に信頼出来る機関ではないと国民に判断されても仕方がないようだ。
0289	PFAS は輸入も国内生産も禁止にしてください テフロンのフライパンなど生産時の廃棄物排水による各地の土壌汚染で深刻な健康被害が懸念されています
0290	食品安全委員会が示した摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、 PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、市民の安全は守られません。毒性評価においては、動物実験よりも疫学調査が重視されるべきところ、疫学調査を軽視して、都合のよいデータのみを採用しており、毒性評価の基本が守られておらず、学術的にも社会的にも恥ずべき評価と言わざるをえません。このような、食品および環境衛生行政にかかわる専門家と行政官の劣化、あるいは退化を証明するような審議結果を提出すべきではないでしょう。再評価されることをお勧めします。
0291	私は、43 年前から岐阜県各務原市に住んでおります。昨年、各務原市の水道に高濃度の PFAS が含まれているということが分かりました。PFAS は体内に取り込まれると排出されるのに 40 年もかかるということです。毎年受ける健康診断でいろいろ医師から指摘されますが、いっこうに改善されません。これが 40 年間にわたって体内に蓄積された PFAS の影響によるものかも分かりません。このような健康面での心配を、他の人にも味わわせたくないという立場で、本審議結果(案)についての意見を 3 点述べさせていただきます。 1.「発がん性については、動物試験でみられた事象は・・・」とありますが、人体での比較を行っていただきたい。長年にわたって摂取してきた人とそうでない人との比較をしていただきたい。 2.PFAS は、体内に摂取されると 40 年間排出されないので、「食品健康影響の指標値」をヨーロッパ基準まで引き下げていただきたい。 3.「食品健康影響評価を速やかに実施するため・・・」とありますが、PFAS は全国のあちらこちらで検出されているのですから、実際に検出された現場に出向いて聞き取り調査をしていただきたい。
0292	食品添加物や農薬などもそうですが、諸外国が規制強化しているにもかかわらず何故日本は全て逆方向なのでしょうか。国は敢えて国民を不健康にしたがってるとしか思えません。真に国民の健康の為の、規制の強化をお願いします。
0293	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからを生る若い世代への影響が心配です。きちんと対策を立ててくださるように、強く希望します。
0294	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混

	ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども　の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 米国の言うことには、易々諾々と従う日本の政府でありながら、日本人の命にかかわる水・食品については全く無関心でやる気がない行政には怒りを覚えます。『植民地』であるなら『植民地』らしく、せめて米国の基準に合わせるべきだ。
0295	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども　の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 大切なのは、企業の繁栄よりも人間の命であり、暮しです。
0296	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 横田基地近くに住む身としては、PFAS についての「内閣府食品安全委員会（どんな人がやっているのか現内閣の下に集められているのか不信を持つ）の摂取許容量（案）の数字に恐怖を感じた。『国民の命を守る』と確信を持てるような摂取許容量の再評価を強く求めます。
0297	・PFAS の汚染が広がり、特に大阪一私の住む摂津市には世界的な PFOA 製造メーカーのダイキンの工場があり、汚染は深刻で、とても不安です。摂取許容量が高すぎます。アメリカ、ヨーロッパ並みの基準とするように、強く求めます。 ・規制を強め、原因企業に対策させて、私たちの健康を守ってください。基準値の再検討を強く求めます。
0298	血液検査を受けました。PFOA・PFOS、その他の PFAS の検査結果が、非常に高く、不安を感じています。ヨーロッパなみに「PFAS ゼロ』をめざしてください。
0299	PFAS は、約 4,700 種類以上あると言われ分解されにくく、体内に容易に蓄積する。特に有害なものは、PFOS、PFOA, PFJxS この 3 化学物質は現在、国際条約で製造・使用禁止されています。PFAS は、米軍基地や工場周辺の地下水など各地で汚染が広がり、発がん性のほか、新生児の体重増加抑制や免疫抑制、脂質異常など、健康への影響が懸念されます。 食品安全委員会が PFAS と PFOS のヒトの 1 日の許容摂取量をそれぞれ体重 1 kg あたり 20 ナノ g（1 ナノ g は 10 億分の 1 g）とする指標値を示しています。体重 50 kg ならこれら 2 種類をそれぞれ毎日 1000 ナノ g を摂取しても問題ないとするものです。しかし、日本は全米アカデミーズやドイツの専門委員会が健康への影響が懸念されるとする勧告値の数十倍。 食品安全委の評価案について、あまりにも高い血中濃度を容認する内容に加え、国際がん研究機関（IARC）が発がん性があると判断した内容を無視しています。新生児の体重増加抑制効果や免疫毒性を示すデータをきちんと評価していない等、指標値の算定過程に疑念を抱かざるを得ません。 世界で健康が懸念されているレベルが、日本では安全だとされてしまう事には納得がいきません。
0300	PFAS の汚染は今日本中に広がっているといっても過言ではなくなっています。特に大阪摂津市には世界的な PFOA 製造メーカーのダイキン工場があり、汚染は深刻です。私もダイキンの近くに住んでいて、最近ガンで亡くなった人達も PFOA のせいではないかと疑心暗鬼に落ちいっています。安心して住める日本を守るため、アメリカ・ヨーロッパ並みの規制をお願いします。
0301	評価書案が判断した数値の PFOS 20 ng/kg 体重/日、PFOA 20 ng/kg 体重/日は米国の摂取許容量 PFOA 0.03 ng/kg 体重/日に比べ 666 倍となっており大変な不安を感じます。体重 60 kg の人は 1 日 1200 ng も摂取することになります。健康被害が出てからでは遅いので予防原則に立ち未然に健康被害を防ぐことを強く要望します。決して「令和のミナマタ」にはしないで下さい。
0302	PFOA・PFOS の摂取量の許容基準がゆるすぎはしませんか。本当に国民の健康を守りたいなら許容量を厳しくすべきではないでしょうか。大企業や米軍におもねる事がない様に安全基準を決めて下さい。
0303	評価書案が判断した数値の PFOS 20 ng/kg 体重/日、PFOA 20 ng/kg 体重/日は米国の摂取許容量 PFOA 0.03 ng/kg 体重/日に比べ 666 倍となっており大変な不安を感じます。体重 60 kg の人は 1 日 1200 ng も摂取することになります。健康被害が出てからでは遅いので予防原則に立ち未然に健康被害を防ぐことを強く要望します。決して"令和のミナマタ"にはしないで下さい。 尚、全国で最高値といわれる 10 万 ng/ℓ が検出された明石川上流には産業廃棄物処分場があり PFAS の汚染源の可能性大と指摘されています。そしてこの水が海へ流れ込み鯛・蛸・玉筋魚をはじめ明石ブランドの魚貝類への汚染の不安が高まっています。国として魚貝類の PFAS 汚染調査をすると共に産廃場から PFAS 等の有害物質が流出しないように早急に法的規制を実施して下さい。日本の未来を担ってくれる子ども達の命と健康を守るため必要不可欠な施策として御検討願います 2024-2-26
0304	・摂取許容量が高すぎます。 ・発がん性評価を取り入れて下さい。 ・血液検査を全国的に行って下さい。 ・PFAS 全品目を規制して下さい。
0305	ご自分や子や孫達に安全な水や食物を食べて健康な生活が送れるように切に望みます。 少量でも長い間蓄積されれば、人体に影響があるものがわかった以上、基準を決めて慎重に対処して下さい。 PFAS は自然界にはないものと聞いています。人が作ったものは、人によるコントロールが必要です。
0306	いつもいろいろお世話になっております。 　お忙しいでしょうが、小生の意見を述べますのでご拝読下さい。 　私は幼い時、夏休みになるとよく多摩川に行って泳いでいました。拝島の河原です。年を取ってからその河原で釣りをして取れた魚を夕食のおかずにしています。驚いたことにいま多摩川には福生の横田基地から出た汚染水が流れ込んでい

	るではありませんか。この汚染水は PFAS 入りの泡消火剤から出ているとのことです。「横田基地の撤去を求める西多摩の会」によると漏れだした PFAS の日本の暫定指針値 50 ナノグラムの 5 万 4400 倍に上回ったといいます。これは昨年の 11 月に「沖縄タイムス」が報道したものだそうです。なぜ沖縄で報道されているのに地元では報道されないのでしょうか。言論統制か? 横田基地では PFAS 汚染漏れが、2010 年以降 6 件起きている（2023 年 11 月現在）ことが明らかにされています。日本の空は日米地位協定によって航空管制が米国に握られ民間航空は横田空域の外を飛ばされています。ドイツ、イタリアは自国で管制しています。 もう多摩川の川魚は食べません。
0307	毎日安全だと思って飲んでいる水道水が汚染され健康への害が指摘されています。 日本の食品安全委員会が示した PFAS の摂取許容量は米国や欧州と比べてあまりにも高いのでおどろいています。 2023 年 3 月、米国環境保護庁はピーフォスとピーフォアのそれぞれの飲料水の法的規制が伴う規制値を 4 ng/ℓ としています。 国際がん研究機関の評価を取り入れ、許容量をきびしくすべきです。 欧米が PFAS ゼロを目指し対策を進めている国際的な流れの中で、飲み水の暫定目標値が 50 ng/ℓ のままで安全だと言えるのでしょうか、説明して下さい。
0308	今回の食品健康影響にかかる審議の結果については、WHO の国際がん研究機関の判断とは異なり、「発がん性」についての評価の甘さにびっくりしています。ヨーロッパでも PFAS について全品目での規制の動きがある中で、今回の審議結果は甘すぎると言わざるを得ません。食品の摂取による国民の健康の立場からも規制を強化する方向での再検討を求めます。
0309	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
0310	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本人だけが PFOA 汚染に影響されないとでもいうのでしょうか！？国際的な基準に合わせて､規制強化してください！子どもたちの未来が心配です。
0311	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
0312	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 活性炭と業者処分との事、高温処理が出来ない燃えカスは埋立等に大丈夫なのかな?
0313	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安しかない。規制強化をして下さい。ダイキンは社会的責任をとらせるべき。
0314	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカやヨーロッパなみの規制をして下さい。影響を過小評価しないで下さい。
0315	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 身近かな商品に使われていることに不安があります。規制の基準を、見直してください。
0316	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も国際並みの規制強化を！
0317	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価をとり入れない日本は人間を犠牲にして、もうけだけ考えている。許せない！
0318	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守るために規制をきびしく
0319	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の血液検査を受けました。結果は高い値でショックでした。海外の様に規制強化を 1 日でもはやく実施し、日本国民の健康を守ってほしいです。
0320	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 令和 2 年に自閉スペクトラム症と診断されました。Total 4PFAS は 31.0 ng/mℓ です。PFAS と発達障害の関連をしっかり調べ対策を切望します。
0321	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 フッ素加工の調理器具で毎日調理して食物摂取してい場合の発がん性の評価は？評価結果を知りたいです。評価が出ているなら。
0322	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になったことをきちんと反映する指標値に改善を!!
0323	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 国民の健康のため摂取許容量を欧米なみに厳しくして下さい。
0324	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 がん患者の体験を聞くと、闘病と仕事医療費等、課題が多い。がん発生のメカニズムも判明してきている。PFOA に「発がん性」があると IARC が世界に公表しているが、食品安全委員会の健康影響評価にもこれを反映してほしい。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事だと思う。国際的な知見をぜひ受け止めて下さい。お願いします。
0325	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS は急性毒ではないので影響が見えにくい。だからこそ血液検査・健康調査を行って人体への汚染実態を明らかにし健康被害を明らかにし、健康被害を未然に防ぐための対策をとってほしい！！
0326	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでほしいです。
0327	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心安全な水で生活したい。子・孫の代までも安全な生活を守りたい！！
0328	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際基準をきちんとふまえてください。
0329	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米国なみの安全基準をお願いします。
0330	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 一番厳しい基準に合わせることが安全への道理だと思います。
0331	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 知らないでフッソ樹シ加工のおなべ、フライパンを使い続けてきたのが心配。安全な対策を是非！！
0332	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 血液検査で PFOS＋PFOA 26.2 ng/mℓ でした。国分寺に 8 年、立川市に 44 年住んでいます。子供や孫への影響が心配です。
0333	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準である。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされ

	る妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0334	PFOA・PFOS の摂取許容量は、アメリカ・ヨーロッパ案から比較して、桁ちがいに高いのではないでしょうか。発がん性や予防的観点から、せめて欧州並みに低く設定して下さい。また、環境汚染への対策や実態を把握して下さい。
0335	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 あきらかに危険な PFOS、ストップしてほしい。同時に正確な調査を！
0336	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 地球の環境をよくしましょう
0337	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 行政自治体も国も、工業会も化学者も環境安全に対する認識が水俣病・大気汚染公害の昔から弱いと思います。
0338	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発ガン物質は、大阪にはいりません。石川県にもいりません。
0339	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きびしく調査基準を決めてほしい。
0340	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA・PFOS 国際的な基準をとり入れないのはおかしいと思います。

0341	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発ガン性物質はよくありません。
0342	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守る為にも「PFAS」ゼロに規制強化をして下さい。
0343	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人が生きて行く上で必要とするもの以外はみな、不要。
0344	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康が一番なので PFOA を流されるのは困りますのでやめて下さい!
0345	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も規制してほしい。ゼロめざして。
0346	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0347	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
0348	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本政府はなにをしているのか
0349	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 正確な情報を公開しろ
0350	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
0351	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さる様に
0352	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 接種する基準をもっときびしくして下さい。
0353	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。

0354	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
0355	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0356	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守る。ください。
0357	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れてほしい。
0358	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってほしいです。
0359	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 過去の病気に対する国として企業としての反省が全く無い。国民の健康の為に力をつくすのが国の責務であると思う。国は国民を大切にする事を一番に考え、企業にきびしい管理をするべきだ。
0360	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 市民の不安を解済する責任を果すことを求めます。
0361	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか、疑問です。市民の安全をもっと考えていただきたい。
0362	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米・ヨーロッパ・他に比べてかなり基準値が高いにもかかわらず、血液濃度を「安全に問題なし」と言うのはおかしいと思う。今回の結果をきちんととらえ、反映させて欲しい。うやむやにしないでほしい！！
0363	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 都合の良いデータだけ出さずに、国際的な基準にあらため様！！
0364	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の責任で命を守ってほしい。
0365	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 疫学調査を軽祖せず摂取許容量血中濃度など厳しく調べる事。
0366	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の摂取許容量を、米国・欧州並みに設定して下さい。特に妊婦・乳幼児・障がい者・高齢者の健康を守ってくださるようお願いします。
0367	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人々キケンをおよぼすような物質について、きっちりとりしまりをしていただいて人々のいのちを守るようにお願いします。
0368	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 すでにアメリカでも対策をとりはじめているのに、どうして日本政府のとりくみはこんなに遅いのでしょう。ぜひ早急な対策を求めます。
0369	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0370	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0371	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の責任で安心安全の生活ができるようにして下さい。
0372	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

0373	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0374	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0375	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0376	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品接取は少量でも体におよぼすえいきょうが蓄積すれば健康被害を生ずる。基準をきびしくしてほしい。
0377	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本に住んでいることで、健康の安全性が危険にさらされるようにならないよう、国際基準に照らした対応をしてください。
0378	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子孫の健康は皆なで守りましょう。
0379	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	もっと広く、広告して、基準をきびしくしてほしいです。害が出る前に、知しきが広まってほしいですが、まだ私のまわりではしらない人が多様に思った。
0380	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人の健康を守ってください。
0381	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0382	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0383	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 古い井戸が所々にあります。災害があった時、その井戸水を使うと思います。その水を調べて下さい。
0384	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 情報の公開をもっともっとしていって欲しいと思う。
0385	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今回の輪島地震での水不足に一番困っている三国の商店街北側の住宅の中に多くの井戸が有るのが分かった。それらの井戸は災害時に必要な時機が来ない様に希望する。
0386	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0387	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の健康を守るのが使命と思う。情報をきちんと公開して欲しいです。
0388	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的に危険なことが明らかな物質を、日本はなぜほったらかしにするのですか。国民の健康に責任をもってください!
0389	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 血液検査や水質、食品など実態調査をして下さい。又、WHO など国際基準を尊重し、規制して下さい。
0390	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 住民の健康や命を守ることに勝るものはないはずであり、諸外国と同様の厳格な基準とすることを求めます。
0391	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国は、正しく、しっかり調査して下さい。
0392	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0393	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0394	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 かつては日本の食品は輸入品よりも安全とされていましたが最近は欧米で禁止されている食品添加物が認められているなど国産よりも輸入品のほうが安全という意識が高まっています。今回の食品安全委員会が示す摂取許容量はどういう実験をもとにしたのか分かりませんが欧米の基準に比べて桁違いに高いものとなっています。これでは日本人の健康が守れませんし海外から日本の水は怖いという評判が立ってしまいますので欧米並みの基準にすべきです。
0395	評価書案が判断した指標値は欧州の安全許容量の 60 倍、米国の安全許容量の数百倍と知り、大変不安を感じています。 PFAS 研究の第一人者である京都大学名誉教授の小泉昭夫氏による血液検査の結果、明石市民の 9 人中 6 人がアメリカの指標値を超える PFAS が検出され、中でも 13 歳の中学生が高い数値だったことが判明しました。（R/5/9/21）明石市が水道水として取水している明石川上流の神戸市西区には数カ所の産業廃棄場があり、10 月中旬にその周辺を調査したところ、国の標準値（1ℓ あたり 50 ナノ g）の 2 千倍に当たる 1ℓ 当たり 10 万ナノ g が検出されました。水道水の危険性はもちろんのこと、すべてが明石市の海に流れ込んでいるので魚介類に相当蓄積されている可能性が高く不安が募ります。 WHO 傘下の国際がん研究機関が発がん性に対する評価について PFOA を 4 段階の最も高いグループに引き上げ、PFOS を新たに下から 2 番目のグループにそれぞれ分類したと発表しました。 国の責任において PEFS の汚染源を特定し産廃業者に有害物質を出さないよう法律を作り規制してください。県や市などの地方自治体に任せずに国の責任として、早急に対応策を作成して実行に移すことにより、国民の命と健康を守ってくださいますようお願いいたします。
0396	評価書案が判断した数値が米国や欧州の摂取許容量より高くなっていると聞き不安を感じます。健康被害が出てからでは遅いので、未然に健康被害を防ぐため再評価、さらに規制強化を求めます。
0397	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 花の命がみじかいが、新い花。
0398	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れないのはおかしい！！
0399	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカの基準と同じにして下さい。
0400	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0401	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食の安全はあたりまえに守まれていると思っていた。
0402	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 体に害のあるものを、口に入れることはしたくありません。
0403	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への影響がある物質を食べる（口にふくむ）ような環境を改善して下さい。
0404	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしていると聞きます。日本でもゼロを目指して欲しいです。 子どもたちの健康を考えて欲しいです。
0405	岡山県の吉備中央町で、2023 年 10 月に 問題が、発生！ 未だに、調査、検討、とか 4 月から、 ボーリング調査とかのらりくらりと 肝心の地元住民の健康調査は、まだ！ 問題なのは、岡山県の国会議員の方々は、 何ら声をあげず！ 一番問題な方々は、「加藤勝信議員」 厚生労働大臣、官房長官を経験で 本件を自ら先頭に立つべきのはずが、 なんら発言がない！ 次に「橋本がく議員」 厚生労働副大臣を経験で何ら発言なし！ そして、岡山市の大森市長！ かろうじて、岡山県知事のいばらぎ氏は、 10 月に県がやるの声明のみ！ 未だにこの廃棄物の会社名は、公開なし！
0406	食品安全委員会の設定する許容量が、アメリカや欧州と比べてあまりにも高い数値設定で驚きました。血中濃度に換算すると PFOS で 250ng/ml、PFOA で 143ng/ml になり、妊産婦や乳幼児、高齢者、現状すでに高濃度摂取している者を守ろうとしていないとしか思えない。既に海外では規制を強め今後のリスクを下げようとする中、国内の知見だけに頼らずとも IARC のような研究機関で様々な国から 50 人以上の研究者が集まり精査したような事も積極的に参考とし、日本の指針にも反映させるべきと思います。子供たちの未来を守る為にもよろしくお願いいたします。
0407	体内残留性が高く、発がん性があり製造禁止にされている物質の許容値が、明確な影響が認められる毒性試験結果から算出されていることに驚いた。疫学的調査を根拠不十分として退けているが、それは不安全の証拠がないだけで、安全を保障することにはならない。許容値を算出するのであれば、せめて規制がない状態で自然界に放出されている、現状の河川などの濃度平均値が最大と考え、それを基準にして、今後はより低下させるように働きかけるべきではないか。今回出された許容値が一人歩きして、廃棄物から環境への汚染が認められたとき、対策を怠るようになれば未来に禍根を残すことになる。
0408	姫野座長は 2/22 オンラインセミナーで発がん性について説明する際、「実は EPA は遺伝毒性がないとは言えないという非常に我々がわかりにくいこともあるのですが、閾値がないことを前提とした評価を行なっている」と説明したが、この説明はおかしい。

	EPA は「遺伝毒性がある」から「閾値なし反応」と評価しているわけではない。 「PFOA の閾値についての十分な情報がないため」、発がん性の影響は直線的にゼロに外挿されるべきであると仮定する保護的アプローチ「Liner default extrapolation approach（線形ディフォルト外挿アプローチ）」を採用している。EPA 2023 Draft でも免疫毒性をターゲットに使っていることから「閾値あり反応」だと明確にしている。 PFAS WG が「遺伝毒性なし・閾値あり」と判断したのであれば、IARC「発がん」評価を基本とし「発がん物質」「閾値あり」反応として、入手できる最新の疫学研究データを基に用量反応曲線の選択を行わなければならない。 「手元にある知見から値を設定することは難しい」という理由でリスク評価を先送りすることは許されない。
0409	他国での禁止が主流になる中、なぜ日本は PFAS を禁止にしないのですか？国民としては安心して暮らしたい。しかし、国民目線で見た時、許容できない危険な添加物を認める意義はどこにあるのか？　この国では 3 人に 1 人がガンになると言われているが、その姿勢のままでいるのなら当たり前の結果のように思える。結果として国の医療費は嵩み、税金は上がる。我々国民としては許容出来ない。
0410	IARC のプレスリリース（原文）では「PFOA は発がん性がある」それは「実験動物の発がんの十分な証拠」と「曝露されたヒトにおける強力なメカニズム証拠」に基づく。」と評価した上で、「ヒトのがん（腎細胞がん、精巣がん）の限られた証拠もある。」と書いてある。 食安委「証拠は限定的」の評価と、IARC の「PFOA は発がん性がある」「ヒトのがん（腎細胞がん、精巣がん）の限られた証拠もある」では、文脈も結論も全く異なる。 姫野座長は 2/２２オンラインセミナーで「一番重要な「ヒトに対する発がん性」が疫学データである=証拠があるのかないのかということに関しては、IARC も証拠は限定的であると結論を出して、我々も限定的であるという結論で、IARC と実は結論はほぼ一致している」という説明は事実ではない。 「入手できる疫学データから発がん性について何らかの安全性の値を設定するのは困難」と姫野座長は発言したが、すでに環境中 PFAS 汚染は次世代生殖・免疫に重大影響を及ぼす大きな社会問題。十分とは言えないデータでも前提条件を置いて「確率論的」に早急に結論を出すことがリスク評価機関としての責務ではないのか。
0411	ＰＦAS は自然界に分解されづらい物質として世界基準では既に使用禁止や基準値を低く設定されてきていますが、日本ではまだ基準値が高い設定でまだ全国的な調査もこれからだそうです。しかし、すでに工場や消炎材などで環境に流出されており、今後、新らしく開設予定のラピダス千歳の半導体工場でも大量に半導体を洗浄する水を使うため千歳川への排水する予定がでており、千歳川から上水道を使っている江別の市民の健康や、千歳川周辺の農業用水、井戸水、生態系環境に配慮する為にも国の基準を厳しく評価していく事を求めます。
0412	食品安全委員会が示す摂取許容量(案)は血中濃度に換算すると PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ｶﾞｲﾀﾞﾝｽと比べ PFOS で 200 倍　PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血中濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ、市民の安全は守れません。又、今回は国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」にもとづいてまず、取り込む量を減らすことを優先すべく。再評価をお願いします。 市民が安心できる基準をつくってください。
0413	誰のための委員会ですか？ 安心安全のあらゆる基準が緩過ぎで、日本人の健康寿命が縮み…日本人は絶滅危惧種となってます。 是非とも欧米並みの基準に全てを見直し下さい。
0414	PFAS は自然界で分解されない化学物質。PFOA などは毒性が認められています。他の PFAS の毒性が現在認められていなくても、PFOA 同様将来どうなるか分かりません。そういう人工合成化学物質は予防原則で「使用不可」「環境中に絶対流さない」のが公共の福祉にかなっています。 昔はなくても大丈夫だったんですから。 企業が献金で飼いならした政治家が「コレは毒だ」と言い出すころには、企業はたっぷり金儲けした後ですよね。そして、そんな会社に天下りする公務員……犠牲者は、何も知らされない市民と、汚された環境です。
0415	有機フッ素化合物 PFAS は近年、その発がん性や様々な毒性が明らかになり、欧米などで厳しく規制されるようになりました。 近年、その発がん性や様々な毒性が明らかになり、欧米などで厳しく規制されるようになりました。 日本も欧米と同じように規制強化は厳しくすべきです。
0416	吉備中央町で有機フッ素が、検出されましたがその地区だけでなく、他の地区に住んでいても、風評被害があります。以前その地区で働いていて、その時水も飲んでいます。血液検査を実施するのは今そこに住んでる人のみです。しかも希望者のみ。全町民を対象に検査してほしいです。
0417	有機フッ素化合物 PFAS の規制の強化を求めます。 欧米並みの規制にして、国民の健康を守って下さい。 このままでは怖くて水道水を飲むことが出来ません。
0418	「愛着を持って国分寺に住んで４５年、日ごろ運動、食事に留意し生活をして、何とか自立した生活をと頑張っている８０代半ば。まさかその間に喜んで飲んでいた水が健康によくない水だったことを知り、ショックを受けています。 これまでの努力がそれこそ水の泡？として消えてくれるものならまだしも、 身体に残り、病気を起こすかもしれないという恐怖を残されて。 我が身より、恐ろしいのはこれからの子どもたちへの影響です。他国でできることなら、日本でもできることだと思います。国民のための機関がしっかり責任を持って、取り組んでいただくことを心から願っています。」
0419	1.審議結果では、主に動物実験データに基づいて TDI が設定されていますが、人間における疫学データの採用が行われていません。疫学研究は、人間集団における実際の曝露と健康影響の関係を明らかにするために重要であり、これらのデータは、動物実験データだけでは把握できない人間特有のリスクを評価する上で不可欠なはずです。また、より信頼性の高い結論を導くためにはメタアナリシスの所見が必要だと考えます。 2.妊産婦、乳幼児、高齢者などの感受性の高い集団に関するデータが不足しています。そのため、感受性の高い集団を想

	定してより厳しい基準で TDI を設定する必要があると思います。
0420	私は明石市在住です。友人が明石川のこの検査に応じ、一番高い濃度が検出されました。それ以降私もまともに水道水が飲めずに、市販の飲料水を買ってしのいでいます。人の命に係わる基準です。グローバルな視点で見直してください。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当し、PFOS で 200 倍、 PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問です。 大阪で自主的に行った１１９３人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきです 今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用し、過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上、取り込む量を減らすことを最優先すべきであると考えます。
0421	国分寺市在住の職員に、検査で高脂血症が見つかり、全体にも不安が広がっている。 介護保険サービス利用者も情報が少ない中、大量にミネラルウォーターを購入しなければ安心できず、生活に支障をきたしている。 市民の生活を守るべく、基準の再検討をするべき。
0422	高濃度の PFAS が水道水に含まれているのを知らされず 8 年間も飲んでいました。今後家族に健康被害が現れるのでは？と精神的ストレスをとても感じています。これ以上被害を増やさないためにも国の基準をせめて世界レベルまで厳しくしてほしいです。未来を生きる子どもたちにこれ以上負の遺産を残さないでください！！！
0423	知見が無いから過度の不安は必要無いとのニュアンスが分かりません。何年後か何十年か後にやっぱり問題がありました。と言う事が 100%無いとも言えないのであれば知見を増やし、規制強化の必要性があると思います。
0424	食品安全委員会が「２０ng が妥当」としたことに、大変驚いてます。米国の 200 倍、欧州の 60 倍をこえるのですから。それがなぜ安全といえるのでしょうか。 今回の許容摂取量（案）を撤回し、見直してください。子どもたちと私たちの命と健康を守るためです。
0425	PFAS による健康被害は明らかであるにも関わらず、日本の摂取許容量の決め方に強く疑問をいだいています。 アメリカ同様の厳しい規制を要望します。
0426	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また、今回は国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「要望原則」に基づいて、まず取り込む量を減らすことを優先すべきです。再評価を求めます。子どもや孫たちの健康を守ってください。
0427	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の怖さを学ぶたびに、食品を日々摂取す中に含まれていることに危機を感じます。取り込む量をもっともっと減らして下さい。
0428	たべものと水の PFAS を 0（ゼロ）にしてください。わたしはガンになりたくありません。
0429	謹啓　早速ですが貴会の評価書を拝見し、有機フッソ化合物の、わが国の一部地域における高い摂取量がとても気になりました。私もそうですが、子どもたちが体内にどのくらい蓄積させているのかを考えると恐ろしくなります。血液検査にはたくさんのお金がかかりますので、貴方としては、調査を続けるのが大変なのは察しますが、恐ろしいのは、農作物にまで影響が及んでいるということで、ぜひ、有機フッソによる害が立証される前に、人体実験をくいとめていただきたい旨、書かせていただきました。敬具
0430	日本の摂取許容量を見直し、日本国民を守ってほしいと思います。
0431	東京・多摩の住民の友人は不安を感じています。今まで体に汚染された飲み水を飲んできたこと、これからどんな生活をしたらいいのか。説明が足りないと思います。住民が安全・安心に生活できるように飲み水の汚染に注意し、住民の PFAS 血中濃度と体内汚染、健康への影響を調べて、「PFAS ゼロ」を目指してください。東京・多摩の住民はこのまま生活できるのでしょうか。じゅうぶんな説明をしてください。
0432	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 自らの家族に安心して摂取してもらえる基準値を示すべきである。
0433	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査実施し、問題あれば、必要な対処をして欲しい。

0434	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども　の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 恐ろしい数値案にびっくりしています。絶対に認められません。是非見直して下さい。2024 年 2 月 22 日
0435	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の許容量が低いのは許せません。日本の人たちの健康を大事にしてください。
0436	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 各地域で PFAS 血中濃度が高いのに、知らない顔をしているのはとても不誠実です。ぜひ情報を公開して、住民の安全性を守って欲しい。
0437	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 有害な有機フッ素化合物について、国・県は全国の状況を速やかに調査し、企業に対しては規制していくことを求めます。
0438	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来のため、今正すことが大切。安心して暮し続けるため調査して下さい。先延ばしにしても、イイことなんてない！
0439	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民が安心・安全に生活できるように速やかに対応すべきである。
0440	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の安全を考えて、行動して下さい。
0441	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国は早急に調査をして、国民が安全・安心に生活できるようにすべきである。
0442	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 とにかく早く行動してほしい
0443	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS が誰でもが知っていないので国ももっと情報など発信し健康などの被害・安全を調査してほしい。
0444	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の基準値では安全だと思えない。きっちり調査し安心して暮らせるようにしてほしい
0445	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちゃんと調査し公開して下さい。安全を第 1 に考えて！
0446	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ぼくが大人になった時に、やっぱりおかしかったんだとならないよう、今ちゃんと調べて下さい。
0447	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。
0448	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 最低でもアメリカ並みの基準に！
0449	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業の責任で、調査を徹底して下さい。
0450	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもや孫の健康を守って下さい。
0451	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守れ
0452	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください
0453	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	子や孫の健康を守って下さい
0454	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0455	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 海外の摂取許容量の基準が日本は違うのか？
0456	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0457	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0458	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0459	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい
0460	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	子や孫の健康を守って下さい
0461	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0462	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米国のように死者が出てから厳しい規制では遅すぎます。被害の未然防止を。
0463	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 また、私の職業柄、土壌汚染も危惧しております。
0464	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的に発がん性が証明されています。日本だけ基準を引き下げるのはどうしてですか。安全だといわれる基準を採用してください。
0465	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食の安全を守る委員会は、なぜ私達の体の害になるような数値をゆるすのですか？これでは、この先不安ばかりか信用できなくなります。命の問題･･･。
0466	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOS などが東京多摩（特に横田基地より東部に位置する市）の住民の血中濃度が高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があるのではないかという研究者の報告を聞いて下さい。
0467	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0468	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の摂取許容量があまりに高く、非常に不安です。
0469	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国の食品安全委員会の出した指標値で、毎日摂取し続けると発ガン性が確実。令和の"ミナマタ"と呼ばれる死の恐怖へつながる。国は軍事優先でなく国民の健康といのちを守る責任をとるように！！
0470	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の国の基準が、あまりにも遅れています。安全・安心のない規制では困ります。
0471	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康友の会の一員として誰もが安心できる規制が実現するよう「評価案」の再検討を求めます。
0472	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	人間が生きていく上で、空気と水は必要。安全でなければならない。国として安全安心を守って下さい。欧米並みの基準にして下さい。
0473	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0474	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 毎週あずみのの水を買って、煮たき飲料水として使っています。命の水です。安全でなければならないものです。
0475	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本は米国、欧州の比べ著しく高い許容摂取量なのはなぜですか？子供たちが安全・安心に無事成長できるように考えて下さい！
0476	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
0477	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパやアメリカで出来ている事が日本で出来ない事は無いと思います。
0478	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0479	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こんな高い安全値をゆるすわけにはいきません。国民の命を守って下さい。
0480	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 自国民の健康と生命を守る仕事をして下さい。なぜこんな高値を認めるのでしょう。
0481	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 許容摂取量を見直し国民のいのちを守れ！
0482	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 この安全値では心配です。もっと国民を大切にして下さい。
0483	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任を明らかにし、とらせて下さい。
0484	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にするべき
0485	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子どもたちの健康を守って下さい。
0486	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカを始め世界的に規制強化されヨーロッパでは「PFAS ゼロ」を目指している。是非子供たちに安全な水を飲ませて下さい。
0487	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は国際的知見にも逆行するものです。再評価を求めます。 ・子や孫の健康を守ってください。 ・アメリカ並の基準にしてください。
0488	PHAS について、欧米は全面禁止に向けて規制強化に取り組んでいる中、日本は全く反対の立場をとっています。 欧米と日本との齟齬はどこから来るのでしょうか。具体的に知りたいです。 癌サバイバーの家族がいるので、毎日、水道の蛇口をひねる時不安な気持ちになります。 西東京市については、PHAS に汚染されている井戸水を水道水に混ぜて各家庭に届けていると伺いました。それが本当なら、1 秒でも早くやめてほしいと切望します。
0489	PFOS 20ng/kg/日 ， PFOA 20ng/kg/日は安全なんでしょうか。 アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上も高い、と聞いて不安です。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのかどうなのでしょうか。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断をお願いします。
0490	発がん性のリスクを「証拠不十分」としたとしても、他国で設定されている摂取基準よりはるかに多いのは、国民の健康に責任を持つ立場とは思えません。「不十分」ならもっと慎重にすべきでしょう。 PFAS 関連の成分は、半導体にも使われていると聞きました。株価が上がって「企業が好調で、半導体産業が重要」とのニュースを見るたびに、企業が利益を上げるために国民の健康を後回しにしている国の姿勢が見てしまいます。見えすぎるので、このパブコメも国民に分かりにくくいとっているのかなと思いました。 今回発表された基準はひとまず取り下げて、再度検討願います。
0491	アメリカ環境保護局より飲み水に含まれる「PFOS」「PFOA」の基準値案が公表されました。 日本の目標値の 50ng/L よりはるかに厳しい 4ng/L というものです。 これを受けて、日本も WHO 飲料水水質ガイドラインの改定を待たずに数値目標の改定を検討する必要があると考えます。 また、管理目標設定項目から水質基準への格上げを行い定期水質検査の義務化も併せて検討する時期と考えます。
0492	私達、国民、県民は安全に安心して暮らしたい。そして平和な未来を子ども達に残していきたい。これは全人類に共通した思いだとおもいます。 そのためにも、安全な水を、生命にとって大切な水、安全な水を守っていく事は地球上に住む我々の義務であり権利です。 PFAS や汚染された物質が混ざった水を、基準値内だから安全だと言う安易な考えは今すぐにでもやめてください。 最低でも PFAS 基準値を海外と同等にするなど、もっと厳しくして下さい。
0493	東京、多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないか。
0494	担当者様 私の住んでいる岡山県では、吉備中央町の水道水から「PFSA」の基準値を大幅に超えていることが発覚し、大きな問題となりました。 原因については、同町と県が調査した結果、水源へ汚染物質が流入していることがわかりましたが、どの程度摂取したら発癌性があるのかについては、多くの市民が不安を感じています。 今回、日本が定めて評価基準は、欧州の約 60 倍、米国の約 200 倍と高い水準となっています。 国際基準と照らし合わせて、あまりにも基準が低いことから、本当に大丈夫なのか不安になります。 今後の食品生産流通に係る評価基準になるものと存じます。

	十分にその安全性を担保していただいた上で、基準値を定めていただきたく、再度審査をお願い申し上げます。 合掌
0495	アメリカ、ヨーロッパよりも高い摂取許容量で安全性が担保されるか不安。 食品の輸出にも影響が出そう。 食品の安全基準はきびしめが良い。
0496	一万種以上あるという PFAS のうちのわずか 2 種類 PFOS・PFOA の評価であり、しかも 20 ng/kg 体重/日という高い許容量評価に大変な驚きと不安を覚えます。国内の研究の遅れ、検査量が少なく疫学データー不足だからこそ、欧州・米国の研究や疫学データーを参考に入れて評価してほしいです。高い許容量で進む間にも、PFAS の蓄積は進み、汚染が進みます。健康被害が出てからでは遅いのです。何よりも子ども達の未来に大きく影響します。予防原則に立って欧米並みの基準にし、未然に健康影響を防ぐことを望みます。
0497	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0498	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本に住む方は、海外や欧州に比べ PFAS に対して耐性が高いのですか。何故海外や、WHO が人に対して発がん性があると分類しているのに、日本では情報が不十分と許容量を多くしてしまうのですか。日本に住む方の健康維持の為にも、十分な基準を設けてもらうことを希望します。
0499	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国や欧州と比べても日本の高い数値に不安も大きい。血液検査含む調査で明らかな結果も出ているのに、国は何故早急に対策を進めないのか。未来の子供たちの為にも安全を守ってほしい。
0500	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害がとても心配です。安全な飲み水にしてほしいです。
0501	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	摂津のダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
0502	今、言わないと子どもたちの未来が心配です。安心して生活したい。安全な水と土　空気を子どもたちに手渡したい。PFAS 評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。世界の知見を集めて再評価して、PFAS 対策にとりくんでください。
0503	今、言わないと子どもたちの未来が心配です。安心して生活したい。安全な水と土　空気を子どもたちに手渡したい。PFAS 評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。世界の知見を集めて再評価して、PFAS 対策にとりくんでください。
0504	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の許容量は、欧米に比べて高すぎます。これでは日本人をガンの危険から守ることができません!!
0505	国分寺市の水道水に含まれる PFAS 含有量は三多摩で最も高いという報道がありました。市はこの事実を確認していると思いますが何か対策をとっているのでしょうか。市民が安心して飲める水道水を提供して下さい。また、PFHxS の値も大変高いとのこと。PFHxS についても摂取許容量を示して下さい。市として血液検査を進めて下さい。
0506	WHO や IARC では PFAS は「発がん性の可能性」を指摘しています。国際的な機関が健康評価をしていることは採用する必要があります。住民による血液検査でも水道水や井戸水による血中汚染が判明しています。リスクを低くするためにも基準値の見直しが必要です。
0507	PFAS は数 1,000～1 万種あると聞きます。食品安全委員会では 2 種だけの評価のみ　総量規制をしないのでは意味がないのではないでしょうか？人体に長くとどまり、悪影響があると思います。未然に防ぐという観点に立つことを求めます。基準値が高すぎますので改善を求めます。
0508	沖縄では低体重児の出産が多いと聞いています。最も感受性が高い乳幼児や子どもたちに 20 ng/kg/日という基準はあまりに高すぎます。/ml に対し 1000 倍もの値を基準にしては国際的にみても安全とは言いがたい。見直して下さい。
0509	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0510	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパ、米国の基準は大変低いのに何故日本は高いのか？委員会は国民を守る為に、国と、企業の責任で基準を示せ！
0511	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい！
0512	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS 自体、知らない人が多いと思うので、分かりやすく、国民に知らすべきだと思います。
0513	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。新たな公害を生まないで下さい。
0514	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全のため調査しっかりして。
0515	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国とのちがいは何ぜか。国際キ準はきまっているのか。
0516	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査をお願いお願いします。
0517	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0518	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	何故、アメリカより基準が大幅にユルイのに、検査が進まない？もっと全体にひろげるべき。
0519	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会は、市民の安全を守るために何をなすべきなのか、原点に立ち返って欲しい。食品安全委員会が科学的な不確実性を主張する根拠は何なのでしょうか。国際がん研究機関の発がん性の判断を無視するのは何故か。ヨーロッパの基準、アメリカ基準より非常に甘い値を示すことで、市民の健康を守れると思っているのか。しかも、PFAS は 1 万種類以上存在するといわれているのに貴委員会の評価はたった 2 物質であります。健康被害や環境汚染を未然に防ぐ立場で、積極的に有害性調査研究に取り組み、世界にはじない値を示し管理・対策を急いで下さい。
0520	評価書案の 1 日摂取量の指標値として PFOS も PFOA も 20 ng/kg 体重/日とあるが算出における重大なミスがあります。厚労省の第 6 回厚生科学審議会生活環境水道部会水質管理専門委員会（2003.2.3）が「閾値の有無の検討に当たって国際がん研究機関（IARC）の発ガン性評価を基本とし米国環境保護庁（USEPA）等、その他の発がん性評価の結果も参考にする」と定めているにも関わらず 2023 年 12 月に IARC が認定した発ガン性評価結果を参考にせず指標値が算出されたことは受け入れ難いです。　2024.2.27
0521	飲み水の安全は生在存の土台です。アメリカ並の基準にして下さい。IARC の基準を導入して下さい。
0522	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たちの健康が守れるようにもっと規制して下さい。
0523	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も規制してほしい。
0524	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ基準にしてほしい。子どものためにきっちりしてほしい。
0525	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供のために何とかして下さい。
0526	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

0527	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化を！！
0528	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界の基準に合わせてほしいです。
0529	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパ、アメリカ並にして下さい。
0530	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめてアメリカ、ヨーロッパなみにお願いします。
0531	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 自分と猫の為に
0532	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ基準にして下さい。
0533	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 まず国民の健康を第一に考えて、国際的レベルにするべき。日本が恥にならないように。
0534	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS」ゼロ！！をめざしています。日本も、きびしく規制して下さい。国際的な発がん性評価を取り入れてください。
0535	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の将来のため、よく考えて下さい。
0536	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安が増しています。ちゃんと、きびしい規制へ強化して下さい。子や孫の健康を守って下さい。
0537	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0538	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて欲しい。
0539	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
0540	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人体にえいきょうする有害物質の規制を日本政府は世界に率先してすすめてほしいです。
0541	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
0542	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0543	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
0544	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安が大きいです。規制強化をして下さい。
0545	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA の発がん制を国民に知らせ、規制強化して下さい。

0546	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。
0547	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今回の評価書で出された PFAS の「摂取許容量」の数値にとても不安を感じます。
0548	今回の摂取許容量では心配です。国民の健康を守る為に引き下げてください。 証拠不十分ということならば、なおさら疫学調査が必要です。是非血液検査を進めてください。
0549	健康被害があると聞いているので不安が大きいです
0550	日本よりも早くに研究されている欧州や米国が大人の１日摂取量３２ｎｇ、7ｎｇ以下とされているのに、どうして日本は 2000ｎｇでも大丈夫と言えるのでしょうか？不思議でなりません。日本独自で１から始めるのでなく、他の国のデーターを持って早急に研究して欲しいです。私はまさにＰＦＯＡの被害に合ってます。近所の方は調べてもらって、血中濃度が２００ｎｇ以上の数値が出たと聞きました。おそらく私もそのくらいあると思います。症状が出る出ないは人の体質によって違うと思います。私は数年前から異常にコレステロールが上がりました。今は薬を飲んで下げています。猫もまだ７歳だったのに腎臓病で最近死にました。熱帯魚も 3 年前から次々死にました。水が改善されてからは熱帯魚は死んでいません。絶対安全ではないです。日本のきれいな水すべてが汚染される前に、国が動いて汚染を止めるべきだと思います。将来のある貴重な子供達の健康のためにもこのまま放っておいて欲しくないです。
0551	私は宇土市在住の 59 歳です。 子供や孫達の未来を真剣に心配する毎日です。新型コロナワクチンでも、治験中で安全性が確保されないまま、子供や妊婦にまで接種を推奨し、今熊本県の超過死亡は、熊本地震の時をはるかに上回っています。何故動物実験だけで、安全性が定かでない有機フッ素化合物の基準をあいまいに決めようとするのか、もはや行政を全く信用できません。安全性が確保されるまでは厳しくするのが筋です。国民の命を何だとおもってるのでしょうか？ 今回の案に絶対反対です。
0552	なぜ、日本の官僚は日本の子どもたちの健康に、親の気持ちになって、配慮しないのでしょう。 先進国の最新の基準値を採用してください。 子どもたちが、将来、ガンになったところで、要因がおおすぎて、特定できません。誰も、責任をとれないことだからこそ、国が、子どもたちの健康に責任をもって、厳しい規制をすべきだと思います。
0553	有機フッ素化合物（PFAS）汚染は深刻です。欧米の対応を見習ってください。
0554	PFAS の規制は海外基準と同等にしてください。諸外国が有害であると認定したものを規制しない意味がわかりません。WHO が発がん性に言及しているのに、規制強化しない理由を国民が納得できる言葉で説明してください。PFAS に限らず、日本はさまざまな添加物や農薬の安全基準が他国に比べて極端に低い（他国では禁止されているものが、日本ではなんの問題なく使えてしまう）のはなぜなのでしょうか？他国で禁止されたものがなだれ込む「世界のゴミ捨て場」という立ち位置に甘んじるのは本当にやめていただきたいです。
0555	今回の摂取許容量では心配です。乳幼児、妊婦、高齢者、障がい者をはじめ市民の安全は守られません。だれでも安心できるように摂取許容量を欧米並みに引き下げてください。
0556	日本で許容される「1 日当たりの PFAS 摂取量（案）」は米国の PFOS で 200 日分、PFOA で 666 日分、欧州の 64 日分以上に相当します。この高い水準で一生涯を通じて継続摂取した場合の国民の懸鼓・安全は担保されるのでしょうか？せめて欧州並みの基準値の設定を求めます。子どもの未来の安全を担保してください。また、今回の（案）には、国際的な発がん性評価が取り入れらておりません。国際的知見を受けとめて下さい。さらに、PFOA,PFOS の 2 つだけが評価されております。ほかにも代替物質である、PFH x S、PFNA などの PFAS もあります。早急に毒性評価を行い、国民の安全健康を守るためのリスク評価を進めてほしいです。
0557	欧米各国との評価基準にあまりに大きな開きがあり、不安を感じるます。 この価格物質は非常に毒性が強い発がん性があると WHO や欧米では広く認められているのに、日本のこの評価基準はおかしくないでしょうか。 食品添加物や農薬などの安全基準も低すぎると思います。 正直、日本人の食と安全を守る気があるのか疑問に思います。 安全基準は厳しくすべきだと思います。
0558	日本の評価書は 20ng が妥当と判断されていますが、米国や欧州の摂取許容量より数百倍も高く不安です。子どもたちの未来が心配です。 PFAS 汚染は全国に広がっています。国の責任で、疫学研究と対策に取り組んで下さい。
0559	食品安全委員会の設置を定める食品安全基本法は、「国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識」をうたっています（第３条）。さらに、「食品の安全性の確保は、このために必要な措置が食品の安全性の確保に関する国際的動向及び国民の意見に十分配慮しつつ科学的知見に基づいて講じられることによって、食品を摂取することによる国民の健康への悪影響が未然に防止されるようにすることを旨として、行われなければならない」（第５条）と規定しています。 予防原則の立場で、「より安全な基準」を定めてほしい。国際的には PFAS フリーの対策を産業界でも進めているの、なぜ PFOA と PFOS だけなのでしょうか？他の PFAS は安全とは言えません。欧州のようにせめて 4PFAS 総計料を提示してほしい。 今回の摂取許容量は、血中濃度に換算すると PFOS で 250ng/ml、PFOA で 143ng/ml に相当します。米国アカデミー

	の臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、しかも感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、納得できません。
0560	議事録の一部を読んだが、基本的姿勢に疑問を抱いた。かなり多くの委員の発言が、「知見が不十分」であるとか、「情報が不足している」ことを規制不要の理由に挙げている。しかし、健康被害が出てから規制するのでは遅いのであり、早期に厳格な基準を設定すべきである。これまでの公害事例の教訓は全くいかされてない。 PFAS については、WHO が発がん性を指摘し、EU も規制を強化している中で、日本がはるかに緩い規制でよいとする根拠は何か。まさか日本人は欧州人に比べて有害物質への耐性が強いと信じているわけではなかろう。
0561	ヨーロッパ諸国は『明らかな安全性』がない限り使用できないのに対し、日本は『明らかな危険性』がない限り使用禁止にはしない。 子どもの発達障害が増えている原因の多くは食物だと言われています、毎日の食事の原料が農薬や添加物まみれです。ただ、それらの物は完全ではないにしろ避けようと思えば減らせます。でも、命のもとの水が汚染されているのですから恐ろしいことです。 外国でさえ、こんな環境では子どもを産めないと若者が訴えています。添加物まみれ、農薬まみれ、汚染水の日本はもっと産めないです。 昨年の日本の出生数は過去最低でした、若い人達はこんな安全でない社会で子どもを持つのは不安だと言います。 国は日本を潰したいのかと思うことばかりしています。 せめて命のもとの水だけでも先ずヨーロッパ諸国の基準にならってください。 この先の日本を担う子ども達のために一日も早い改良を望みます。
0562	将来の子供たちに対する影響で反対です。
0563	摂取許容量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当する。米国アカデミーの臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのか。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品 安全委員会はきちんと国民に説明すべきです。
0564	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）についての意見　1／4 ［意見］ 「有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）」の食品摂取許容量は緩すぎます。2020 年以降の欧米の基準を受けとめ、再検討するべきです。PFOS・PFOA・PFOS のみならず PFAS 送料の基準を設けるべきです。 　以下［趣旨 1］～［趣旨 3］を分割送信します。
0565	趣旨１　食品安全委員会の責務 　食品安全委員会は、「国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識」（食品安全基本法第 3 条）に立ち、「食品を摂取することによる国民の健康への悪影響が未然に防止」することを責務としている。 　今次審議結果では、「情報が不充分である」「証拠は不十分である」との記述が多用されている。外国・国際機関等の先行研究や評価に対して、不一致や限界性を殊更に上げ、結果として「未然防止」の鉄則を蔑ろにしている。研究が進んでいないから健康被害はやむを得ないという姿勢は容認できない。「疑わしきは止める」が委員会の責務である。 「PFOS、PFOA 等のリスクを過剰に懸念して食生活を変更すること」のリスクは、有害物質を摂取することのリスクとは比べられない。住民の健康や食に対する理解・意識を侮蔑し、それを梃子に国の責務を免責するものである。 「今後への課題」で「使用規制や排出源対策を適切に行うことが重要」としているのは、大阪府、東京都、沖縄県などで汚染に向き合う住民の不安を逆なでするものである。未だに十分な調査も対策も打っていないのは誰なのかと。
0566	意見　3／4 趣旨２　先行摂取基準を超えことへの恐れ・虞を 　日本の担当諸機関の調査研究は質量ともに遅れている。にもかかわらず、国際がん研究機関の２０２３年に PFOA の「発がん性」評価を除外し、欧州食品安全機関（２０２０年）・アメリカ環境保護庁（２０２３年）の摂取許容量を２桁、３桁緩い摂取許容量を提案している。 　厚生労働省は、２０２０年に水質暫定目標値（５０ｎｇ／L）を定めた。この時参照した米国環境保護庁は７０ｎｇ／L であったが、２０２２年には PFOS・PFOA 各２ｎｇ／L を提示するなど厳格化する方向である。厚労省も「さらなる科学的知見等が得られた場合には、適宜、必要な見直しを行っていく」と説明している。今次の摂取基準案は、２０２０年水質暫定目標値に相当する極めて甘い見方である。とりわけ２０２０年以降、各地で水質調査、住民の血液検査が広く行われ、心配が拡がっているが、今次の摂取基準案はこれらを見ないものである。先行摂取基準を顧慮しない、ゆるい基準がもたらす被害の深刻さ、不可逆性への恐れ・虞をもつべきであろう。
0567	意見　4／4 趣旨３　製造業での PFAS 使用拡大を見据えた基準を 　PFOA・PFOS 汚染への関心と危惧は、大阪府ダイキン工業や沖縄・東京の米空軍基地の水汚染から拡がった。しかし今後住民が直面するのは、多種多様な代替 PFAS へ、拡大される半導体生産での PFAS に因る健康被害であろう。 　すでに国際的には、規制の趨勢は PFAS 全体へとすすんでいる。その意味で、今次の摂取基準案は後追い的で観念的なものである。PFOA・PFOS に限定した基準が破綻して、それに基づく半導体生産が停止した場合の経済的生活的損失は計り知れない。食品安全委員会はそのようなリスクをも先取した検討が求められる。　以上
0568	PFAS の基準値はアメリカと同じにしてほしい。健康不安があります。
0569	国際的に規制が強められる中、今回出された摂取指標値案では安全に生活し、飲食できるものではないと思います。 たとえば欧州では PFAS 4 種の合計で 1 週間に 4.4 ナノグラム/kg で日本の数値とは大きく離れています。 「情報が不十分」「不明な点がある」などの文言が出てくるが、そうであるなら厳しい基準値に定めたうえで、疫学調査をしっかり行い、人体に影響がない数値を改めて定めるべきではないでしょか。
0570	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量より数百倍高い!とても不安。科学的な不確実性を口実に対策を遅らすなんて、だめです!まずは予防のために厳しい規制をしてください!
0571	国はコロナ禍の時は世界の知見を取り入れながら自国独自の研究、対策を進めてきた。しかし、ＰFAＳ禍に対する姿勢にそれが全く見えない! ＰFAＳで金儲けしてきた企業に忖度しているかと疑う。 ＰFAＳ汚染水は人にとって命、健康に直結する問題です。取り分け将来ある子供たちにはＰFAＳ汚染水は絶対に飲ませ

	てはいけない。 少子化の上、ＰＦＡＳ禍による健康リスクが上がることで国民の病人が増えれば国力が下がる。 ともかく摂取量の指標値を 0 を目指すくらいの気概で取り組んでほしい。
0572	昨年 11 に「大阪 PFAS 汚染と健康を考える会」が発足、10～12 月に、49 会場で 1193 人の方が血液検査を受けられました。その内、淀協では 536 人の方が検査を受けられています。摂津市などで行った血液検 118 人分の分析を行った、原田浩二京都大学大学院医学研究未教授の報告は衝撃的でした。摂津市民 80 人中、米国科学アカデミー出した臨床ガイドラインの 20ng／mL を超えた方が 31 人（44%）、めて高い値を示しています。（ng：ナノグラム） 水や油をはじく、熱や薬品に強い性質から、フライパンや鍋のフッ素樹脂加工や泡消火剤などの工業製品に広く使われてきた。分解されにくく蓄積しやすい。◆工業や軍事基地から排水と共に放出された PFAS は、地下水や河川水から水道水などを通じて体内に取り込まれ健康被害や発がん性の恐れがあり世界的に規制が強められている。
0573	貴委員会オンラインセミナーを視聴しました。 国際がん研究機関（IARC)が PFOA の発がん性を認めた事を取り入れて指標値を定めてください。セミナーで、「知らない間にルールが変わっていた」「昔はこれでは発がん性は認められなかったのに」の旨を姫野誠一郎 PFAS ワーキンググループ座長が発言していましたが、IARC の発がん性認定のルールも知らないで、無視しているということでしょうか？専門家として、ルール変更を知らないなどありえないと思うのですが？　おそらく予防原則を重視してのルール変更かと推測できますが、専門家ならば、そのルール変更の根拠を説明した上で、なぜ取り入れないのか説明してください。
0574	生活の中には、たくさんな化学物質が多くある。専門な知識がないと、有害か否か、一般人では判断もできない。数値やデータどの情報を信頼したらいいのか。専門的な知識がないと吟味もできない。 身の回りにあるもの、体内に摂取するものに対しては、正しい情報発信をしてほしい。
0575	食品安全委員会が妥当とした 1 日摂取量 20ng をもとにして、水道水や河川水の数値を決めないでほしいです。東京、多摩の住民の PFAS 血中濃度はとても高く、水・体内汚染に相違があるそうです。 沖縄在住ですが、子供たちに安全な水を飲ませたいです。どの親も思いは同じではないでしょうか。 「PFAS ゼロ」をめざして対策を進めようとしている欧米に日本も続いて欲しい。 また、PFAS の被害は全国に広がっています。一万種類超える PFAS 対策は地球規模の課題です。持続可能な日本、地球のためにここに国家予算を投じて積極的に疫学研究と対策に取り組んで欲しいです。 是非ともよろしくお願いいたします。
0576	飲料水取水源の汚染から、水道水や農産物、加工食品への PFAS 汚染に強い不安を持ちます。米国は予算も更に追加し調査しています。日本でも予算を取り調査、対策に当たるようにして下さい。 フォーエバーケミカルである PFAS の人体、飲料水、食品、土壌などの規制値を 0 ゼロとするよう求めます。
0577	東京では横田基地での有機フッ素化合物による環境汚染が問題になっていますが,熊本でも TSMC が来ることで地下水の汚染が問題になってくると思います。これから育つ子供たちの健康を考えて、慎重な取り扱いと欧米なみの厳しい基準での運用を望みます。
0578	体重 1kg/1 日あたりの摂取許容量が「20ng が妥当」と判断されたことは衝撃で大変な不安を覚えます。米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高いからです。ここが緩いと飲み水の暫定目標値にも影響し、現に健康被害が懸念されている都道府県やその中の自治体での対策がなかなか取られないままとなってしまいます。 科学的な不確実性が理由であるのなら、まず疫学調査を進めていただきたいです。地下水・土壌・住民の血液の各検査です。そして、同時にその他必要な医学的調査、分析も行い、そういった自国のデータに基づいて判断をし直していただきたいです。 PFAS の問題は、水俣病やイタイイタイ病、四日市ぜんそくのような地域限定でなく、全国的、広範な公害になる恐れがあります。いまから対策を打てばまだ間に合うと思います。「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
0579	なぜ、米環境保護局、欧州食品安全機関と接種許容量が違うのでしょうか？欧米並みの許容量に下げてほしいです。
0580	基準値がアメリカの 200 倍なんてあり得ません。 こんなに摂取して平気なのか心配です。 国が検査体制を作り組織的に検査を実施するべきです。 全国的な調査、影響を明確に示すべきです。 PFAS だけでなく広く健康に被害を及ぼす恐れのあるものは規制すべきです。
0581	有機フッ素化合物（PFAS）の規制を強化し、アメリカの基準と同等以上にして下さい。日本の基準は甘すぎます。健康被害が出ないような基準に規制してください。
0582	有機フッ素化合物を使用するメリットを感じられない。欧米では限りなくゼロになるようすすめているというのに、なぜ、日本では逆行するのか。健康や環境にデメリットが大きいというのに国が率先して減らしていくべきであるのに、おかしすぎる。何か利権が絡んでいるのではと勘ぐってしまいます。
0583	発がん物質である危険性が高いものを何故、日本だけが無視して強引に推し進めるのですか？ 日本人がガンになると医療業界、製薬会社等が儲かるからですか？ 食品安全委員会、とは一体何をどう調査し決定されているのですか？国民の口に入るもの、体に入るもの、危険性が高いものをわざと摂取させてるとしか思えません。何故、日本人だけが毒を摂取しなければいけないのか？ 食品安全委員会とはなんの意味があるのですか？今一度、検討し直して頂きたいと強く思います。
0584	IARC には、このフッ素化合物は実際の発癌の確率や重篤性を示すものではないとありますが、安全性を証明したものではありませんね！ もともと一般の食品にも微量ながら含まれているのに！ 健康的に過ごすには何でも適量超えては害になります。　もう既に歯磨き粉にも含まれてる。 ナチスドイツを見習ってるんですか？ 他国では規制を強めてますよね？ フッ素化合物にこだわるのは何の理由があるんでしょうか？ 日本は癌患者数、右肩上がりですよね？なら食品安全委員会としてはフッ素化合物はリスクの可能性がある物を許可するべきではないでしょう！ 私は断固反対！　　規制を強める一択！
0585	欧米と比べて許容量が多いと感じます。

	欧米では、PFAS の残留数値は 0 が望ましいとされています。 日本でももっと基準を考えて欲しいです！
0586	PFAS がない未来を子どもに残したいので欧米のように日本も、PFAS ゼロを目指して欲しいです。
0587	昨今、PFAS 汚染が全国的に見つけられる中、食品安全委員会が PFAS についてリスク評価を行われたことは歓迎したいと思います。しかし、その審議結果については大変驚き、落胆しています。 まず、1 日に摂取する許容量が高すぎます。アメリカやヨーロッパの最新の数値と比べて、数十倍、数百倍に当たります。 昨年、私の住む明石市で行われた住民の血液検査では、9 人中 6 人の血液からドイツの基準値を上回る PFAS が検出されました。健康に悪影響を与える可能性があるということです。特に PFOA の数値が非常に高く出ましたが、PFOA は昨年 WHO 国際がん研究機関により「ヒトへの発がん性がある」とアスベストと同じレベルに分類されました。このような住民の実態と、世界の最新の知見を貴委員会はどのように捉えておられるのでしょうか。 米国環境保護庁（EPA）の 2016 年ではなく、最新の指標値を採用してください。 少なくとも、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用、または、EPA の最新版が発表されるまで審議を継続してください。 住民の健康を守ることを第一義に、予防原則に立った評価を求めます。
0588	基準値が諸外国と比べて、だいぶ高くなっていることに不安しかありません。どうか再考願います。
0589	2011 のセシウム汚染された水や魚介類や野菜の値すら世界に公表していない食品安全委員会が、また、PFAS の日本の汚染を世界に公表していない。それくらい日本の汚染が酷いという事なのか？ 汚染濃度が高い練馬区住民としては、地下水は飲まないものの、地下水で育つ、練馬の野菜の汚染が心配です。その対策は未だとられず、相変わらず地下水使用してます。 思うに、PFOA は血管内をコーティングしてしまい、なので、コレステロール値が高く出てしまうのだろう。 コレステロール値高いは、万病の元なので、代謝の少ない、50 代以降の高血圧が心配。
0590	世界的に危険であるとされている物を何故導入するのか？ 科学的根拠、特に注目されている免疫学的な研究調査は必須。 農薬の件でも同じだが、だれかの圧力を感じる。
0591	問題点１、欧米と比べ著しく高い許容摂取量 １、食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したのおかしい。欧米の許容摂取量よりも数百倍も高い。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせずに「予防原則」に立ち総合的な判断を求める。 ２、この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算するとＰＦＯＳ＜250ng/ml、ＰＦＯＡ＜143ng/ml に相当する。米国アカデミーの臨床ガイダンスではＰＦＡＳ血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、日本の食品安全委員会では、非常に高い血液濃度を安全と説明している。安全において、欧米と日本の設定が違う、というのはおかしい。 ３、欧米では「ＰＦＡＳゼロ」を目指し、対策を勧めようとしている。欧米と同じく国際的な先進国である日本も「ゼロ」を目指すべきだ。この許容摂取量としたら、飲み水の暫定目標値は５０ナノグラムのまま変わらないと聞いた。子供たちの健康と、益々子供が少なくなる未来を考え、欧米と標準を合わすべきだ。
0592	問題点２、国際的な発がん性評価を取り入れず １、国際がん研究機関では昨年１１月、ＰＦＯＡ「発がん性がある」、ＰＦＯＳ「発がん可能性がある」と評価した。米国の環境保護庁もＰＦＯＳ，ＰＦＯＡは「発がん可能性がある」と結論している。日本の食品安全委員会も、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止できるように「発がん性」を認めるべきだ。 ２、ＰＦＡＳをどのくらい接種すると、がんのりすくとなるのか、については、多くの人が知りたい。全国各地でＰＦＡＳ汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されている。今こそ、国は全国で調査・追跡し、ＰＦＡＳの発がん性を評価と管理・対策に動くべきだ。
0593	問題点３、PFOA、PFOS の２つだけを評価している。 １、国分寺市、岐阜、沖縄を筆頭に全国で汚染された地下水を水道水としている地域住民の血中 PFH x S 濃度は非常に高い。岡山、大坂含め各地で発覚している申告な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA や PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、国民の安全と健康を守るためのリスク評価を進めてほしい。 ２、PFAS は１万種類以上存在するが、食品安全委員会の評価はたった２物質のみ。欧米では PFOS、PFOA 以外の PFAS も健康への悪影響を引き起こす可能性があるため、PFAS をグループとして規制しようとしている。利用可能な毒性値がないと問題を先送りせず、代替物質を含めた毒性評価を急ぐべきだ。
0594	未来の子どもたちに残す地球、我々が住むこの土地や海が汚染されていることは人類全員で考えて対処するべき問題だと思います。綺麗な心地よい地球になりますよう、よろしくお願いします。
0595	食品安全委員会評価書(案)では PFAS の健康影響評価を人が一日に摂取する量として、体重１キロ当たり一日の摂取量を PFOS は 20ng/kg 体重/日　PFOA 20ng/Kg 体重/日としている。 アメリカ環境保護庁では、PFOS は 0.03ng/kg 体重/日　PFOA 0.1ng/Kg 体重/日としている。日本はアメリカの実に 666 倍,200 倍の値としている。企業よりと言われても仕方ないのでは。PFOS、 PFOA は発がん性もあり、環境中では分解がほとんどされません。環境への残留性や生物への蓄積性が問題視されています。 　また私の住む明石地域でも PFAS が検出され、発生源か特定されていません。 PFOS、 PFOA のリスク評価が、子どもや孫の健康にも大きく影響します。 　アメリカ並みの数値に再検討、再評価をして対策に取り組んでくださるようよろしくお願いします。
0596	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、 PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。 食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った１１９３人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。 国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。
0597	水は人間にとって必要最低限のものです。子供のためにも地球のためにも、きちんと研究精査して水の安全性を確立してほしいです。
0598	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。 個人的に学生時代を過ごした国分寺市あたりの値が高いことに衝撃を受けています。何ら安全性を疑わず過ごしてきました。今回、安全性に疑いがある以上は「予防原則」に基づいて行動すべきと思います。今までの事はどうにもならないかも知れませんが、少なくともこれからの事は、いくらでも方向修正が出来ると思いますので再評価を求めます。
0599	国際がん研究機関は、PFAS を発がん性の恐れがある物質に分類しています。 腎臓がんや前立腺がん、潰瘍性大腸炎、甲状腺疾患の発症の他、赤ちゃんの体重減少、コレステロール値の上昇などとの関連が指摘されているのに「証拠は限定的」として発がん性を認めないのは理解できません。 発がん性以外の健康被害も指摘されており、海外では pfas の規制が進んでいるのに日本は基準値の見直しをしないのは職務怠慢に思います。 消費者は食品の pfas 含有量を細かく調べる手段がありません。 国民の健康を守るため欧米諸国と同じ基準値への見直しをして下さい。
0600	なぜ海外基準と日本の基準がこんなにも違うのか、 本当に健康被害はないのか、 疑問でなりません。 国民の健康のことを本当に考えてくれているのでしょうか？
0601	吉備中央町フッ素垂れ流し事件は、行政の責任大です。 経過を明確に住民に説明して、責任者を処罰すべきです。 廃棄料金、お金が発生していればもってのほかです。 再発防止策、を作り、住民の健康経過観察を行い同様の事件が怒らないように、情報公開し、問題を喚起して下さい。
0602	水は人間にとって最も重要インフラであることは論をまちません。その安全性に関しては何より増して厳しい基準で監視する必要があります。それは PFAS にとどまらず全ての化学物質や細菌等についてもいえることです。このたひ食品安全委員会は PFAS と健康被害との因果関係が明確でないとし米国やヨーロッパと比べ極めて緩い接種許容量を明示しましたが納得いきません。アメリカ映画ダークウオーターはデュポン社と汚染された土地に暮らす住民とのたたかいが描かれておりますが、国はそのような重大な事態に陥る前に「世界中のお手本となるような水質基準」をとるべきではないのでしょうか。時代は変化しています。アメリカや大企業に忖度する時代は終焉を迎えています。勇気をもって踏み出してください。
0603	PFAS の健康被害はまだ未知の部分が多いが、IARC は PFOA の発がん性分類をグループ 1 にした。 評価書の PFAS1 日あたりの摂取許容量は、欧米の基準に比べて高すぎる。 健康被害を予防するためにはもっと基準を厳しくすべきだと思う。
0604	証拠はないとして欧米の基準値の 200～600 倍を許容するのであれば、その基準値が過剰である証拠をこそ示してください。不作為の正当化を直ちにやめてください。
0605	国民、特にこどもたちの健康、いのちを 守るための審議をして、指針を出して欲しい?
0606	西東京市柳沢在住　75 歳の主婦です。西東京市では 23 地区のうち柳沢と東伏見だけまだ水道水に井戸水を 45%も入れてます。署名を集め、井戸水からの取水を止めるよう西東京市議会に諮りましたが、自民、公明他保守系の反対で否決されました。理由はデータを公表したら風評被害で地価が下がるからというあきれる答えでした。 なぜ同じ市内でこのようなことが起きているのか水道局技術課に問い合わせても、PFAS 計 50 ナノグラム以下の安全な水を供給してますので安全です‥を繰り返すばかりで話になりませんでした。 当該地区には保育園、小学校はじめ、たくさんの子どもたちが住んでいます。どうか取水をやめて、実体を明らかにしてほしいです。
0607	フッ素化合物を製造していた、ダイキン工業周辺、　米軍基地周辺などで、被害が出ているのに、調査も少なく、心配してきました。 いくらか検討する機運が出てきたこてゃうれしいことですが、規制が遅れすぎです。 さらに規制の数値が大きすぎる。本来はゼロにすべきですが、もっと厳しい数値に、外国並みにするべきです。 水俣病の場合も、影響は長く残りました。
0608	摂取許容量は 0.003ng にしてください。
0609	PFOS、PFOA の摂取許容量が米国や欧州と比べてかなり高いことにびっくりしています。これで日本人の健康が守れるとは思いません。大変不安であり、もう一度評価し直して頂きたいです。東京・多摩の方々の血中濃度が高く、水汚染と血液の汚染に相関があることはもうわかっているはずです。再評価してください。するのなら妊娠中の胎児への影響を考慮して最低基準として考えてほしいです。また、発がん性のリスクについても、WHO の分類を踏まえて積極的に評価に反映させてください。お願いします。
0610	海外の知見をもっと集めて再評価すべきです。実際に沖縄県では未熟児が多いなどデータが出ています。未来のためにおねがいします。
0611	日本の摂取許容量とアメリカ・欧州の許容量の差に驚きました。 本当に妥当な値なのか疑問に思います。再検討を求めます。 また、PFOS/PFOA の血液検査を希望者が無料でできる体制を整え、血中濃度の高い人が治療を行える環境を整えてください。
0612	世界の趨勢は、ＰＦＡＳの有害性・危険性を認め、規制を強化する方向で動いています。なぜ、日本だけが規制強化でなく、むしろ緩める方向で動こうとしているのですか？現在の日本政府が、国民のいのちとくらしを大切にしているとはとても思えません。パブコメで寄せられた国民の声に、真摯に耳を傾けて頂くことを、切に願います。
0613	水は生きていくために必要不可欠なもの。安心して生活していくために、健康被害を起こさず健康寿命を長くできるようにするためにも改善に取り組んでいただきたい。子供たちの未来のために今出来ることをさきのばしにせず、取り返しがつかなくなる前に動いていただきたい。 どうかよろしくお願いします。

0614	疫学調査などで知見を得て、既に規制を始めている欧米諸国と比べて、許容摂取量（案）が高過ぎる。 初めから高い基準を設けていては、健康が守られるかどうか疑わしい。 欧米の知見があるにもかかわらず、発がん性評価を低く見積もったり、古い動物実験結果を採用したり、予防原則など夢もまた夢の態度には呆れる。 ＰＦＯＳ，ＰＦＯＡだけでなく、すべてのＰＦＡＳ，それが無理なら、今後の規制策が決まっているＰＦＨｘＳだけでも、現時点で一緒に許容摂取量を定めるべきである。 ＰＦＡＳ汚染は、日本各地で確認されており、既に体内汚染されている国民は、今から設定される、この許容摂取量（案）で、健康を守れるのか。 ＰＦＡＳを用いるという半導体工場が日本に誘致されている今、管理をきちんとしなければ、更なる水質、土壌汚染の広まりすら懸念される。 予防原則に立ち、出来る限り、厳しい許容摂取量にしておくべきである。
0615	発ガン性があると言われている有機フッ素化合物の許容摂取基準量が他の国に比べ数百倍はとんでもないことです。 国民の健康をどう思っているのでしょうか。
0616	有機フッ素化合物の血中濃度基準を、国際的な知見より突出して高く設定するのをやめてください。予防原則に基づき、健康被害を出さないための規制を行なってください。
0617	国際的な発ガン性評価を取り入れ、アメリカ並みの基準を設ける事により、こどもが安心して育てられる国にしてください。
0618	安全な水が飲める権利を大切にして欲しい。 水が買うものになって安心安全が保証されていないように感じます。 どんな影響が出るのか分かっている部分に関してて対応できないのはなぜなのか？ 不安になるような水を飲みたい人はいないと思います。 今すぐにでも対応していける事からアクションを起こしてほしい。 宜しくお願いします！
0619	１．　食品安全委員会の示している PFOS と PFOA の許容摂取量が、欧米と比べて　　極端に高いので、誰が見てもこの基準はおかしいです。欧米の示した基準の根拠を調べて再検討し、信頼できる数値を設定してください。合わせてその根拠について説明する追記が欲しいと思います。 ２．　日本では、PFOS と PFOA の２物質だけ評価していますが、欧米では他の PFAS も数物質評価しています。日本は少なくても欧米と横並びに、あるいは、それ以上に評価して示すべきだと思います。少なくとも欧米と同じ評価基準に立つべきだと思います。
0620	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本中で PFOA の検査をして、国としての健康被害を明らかにしてほしい。
0621	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちの健康を守って下さい。
0622	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA 汚染の社会的責任を明らかにし、今すぐ、国際的基準をとり入れ、検査体制の確立をして下さい。
0623	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今すぐ、PFOA 汚染を国会で話しあい、国民の検査を公費で、できるようにして下さい。
0624	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA の基準をアメリカ並みにして、日本でも検査の確立をして下さい。
0625	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 何よりも国民のいのちを大切にする視点で規準を決めて下さい。
0626	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民が安心して生活できる基準に見直して下さい。
0627	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ・「20 ng が妥当」との判断は理解できません。せめてアメリカ・欧米並みにすべきです。 ・日本人は動物並みの扱いは許せません。 ・企業が使用する PFAS 類は極力さける努力をすべきです。 ・半導体の利用がさけばれていますが半導体企業に忖度して基準を弱めることに反対です。 ・国民の健康第一に考えてほしいです。
0628	IARC は PFOA について発がん性があると評価しています。私自身血液検査を受けた結果、基準値の 6 倍の高さで、不安をかかえたままの毎日です。日本中のいたる所で、この問題は起きています。国はきちんと国家予算を投じて、疫学研究と対策に取り組んで下さい。大切な子供達を守って下さい。PFAS リスク評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。米国や欧米なみにリスク評価をして下さい。
0629	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民が安全に生活出来るようにしてほしい。
0630	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 まだまだ、世間に知られていないので、発がん性の評価を知らせるべきと安全性の為に規制を強化して下さい。
0631	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」を目指しておられるとのこと。日本でも規制を強めてほしいです。
0632	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 正しい情報を公開して下さい。未来ある子供達の安全を守りたい。
0633	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 将来の為に早めの対策を。
0634	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0635	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国がしっかりした規制をしてもらいたいと思います。
0636	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の許容量　何故こんなに日本は高いか
0637	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業周辺の調査をきっちりして、社会的責任を取らせて下さい。
0638	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0639	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大阪に住む人の健康を守って下さい。
0640	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全な水をお願いします。
0641	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0642	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0643	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の基準は低すぎます。恐ろしい。国民の健康第一にして。
0644	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
0645	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 いい方向に向かいます様に願います。
0646	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東京の多摩地域の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知りました。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないでしょうか。
0647	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0648	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私の家では浄水器はつけていません。孫たちもいるので安心して飲める水にして下さい。
0649	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心飲める水になる様に基準をきびしくして下さい。

0650	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 命を脅かす事例が海外でも出ているのに、国と企業の責任で、研究を進めてほしい。検査を希望するすべての方が受けられるよう、高濃度だった方の治療ができるよう（無料で）しっかり保障して下さい。
0651	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 海外でこれだけ危険視されている PFAS 問題を海外並みに受け止め、未来の子供たちに負の遺産を残さないため対策を国・企業（ダイキン！！）の責任で、早くの対応をお願いします。
0652	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供の未来のために汚染を防止下さい。
0653	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
0654	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にして下さい。
0655	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
0656	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 岸田首相今一度反省して下さい。
0657	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たちの未来守って下さい。
0658	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供のためにもっと力を入てほしい。
0659	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守る為、アメリカ並みの基準にしてほしい。
0660	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 海外では規制できているのに、日本も努力してほしいです。子供たちの健康を守って下さい。
0661	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
0662	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0663	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0664	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本は遅れている！！！
0665	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0666	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0667	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本だけが野放しの状況です。せめて欧米並みに規制しましょう。
0668	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
0669	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0670	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 がんを減らしてください。
0671	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害がとても心配です。欧米にならって「予防原則」に基づいて取り込む量を減らして下さい。
0672	全国民に公表してください。
0673	安心して暮していくためにこどもの調査をひろくして欲しい。
0674	こどもの調査をして欲しい。
0675	用水路の水で小さな畑で野菜を作って食べている。国立の地下水が心配。野菜を食べても大丈夫なのか? 早く調査して欲しい。
0676	こどもの調査をして欲しい。
0677	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的知見に基づき再評価して下さい。
0678	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 万国博覧会で各国の人を呼ぶならヨーロッパ規準と同じレベルに基準をかえて下さい。
0679	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 後から身体に表れるのか恐わいです。
0680	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安です。規制強化をして欲しいです。
0681	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	孫も同区に住んでいます。健康被害がおこらないよう PFAS を規制して下さい。
0682	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 早急に検討を。死亡原因 1 位はガンとなった時代です。人が生きていくために必要な水・空気の問題は早急に。
0683	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子ども達の健康を守ることに力を入れて下さい。妊婦、乳幼児、障がい者の健康を守る為に力を入れて下さい。安全の数値を見直して対策や調査をして下さい。
0684	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国分寺の水を愛飲？して 50 年以上。早目の検査で、ビックリするほどの高濃度。たぶん寿命が短くなっていると思います（怒）89 才
0685	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 先進国と云えますか？国民の命を優先する仕事をして下さい。
0686	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ①無料で血液検査を行なうよう願います。 ②PFAS の出所を明確にし、直ちに対策を取るように！！
0687	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 立川に 90 年以上住んで井戸水・水道水を飲んでいます。現在肺がんになっています。
0688	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0689	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 目にみえない物しつです。私達にはこれ以上きおつけられません。水、土の検査を 1 番にとりくんで下さい。そしてそのごのことも私達国民にしらせて下さい。先日の新聞では案心といいますがあの数値では案心できません。
0690	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本中で PFAS のことが問題になっています。国は国民の命を守る立場でしっかり取組んで下さい。
0691	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0692	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 立川に 27 年住んでいました。血液検査で高めだったので心配しています。子どもたちが成長していく時、水が安全でないとしたら、とてもこわい事です。安全な水をお願いします。
0693	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる

	妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の食品安全委員会が示す摂取許容量は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるとの事。影響を受けやすい子どもたちをはじめ市民の安全を守るために許容摂取量（案）の見直しを求めます。
0694	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 半導体の絶縁体として最新兵器に不可欠の PFAS 関連物資が国際的に行きづまているため科学、生命を軽視することは許されません。
0695	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の摂取許容量を何故国際的知見に逆行した非常に高い水準にするのですか。！！市民の安全を守ることが一番です。市民が健康だから、市も国も成り立つのです。
0696	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して水がのめるように、摂取許容量をアメリカなみに引き下げて下さい。国として血液検査して病院にかかれるようにして下さい。
0697	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 予防原則に基づいた再評価を求めます。
0698	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0699	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0700	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の規準はあまりにもゆるすぎます。納得できる安全安心を保証して下さい!
0701	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私も高齢者の一人ですが、健康には充分に注意を払っております。目に見えない健康被害は悪です。数値は明確にして欲しい。
0702	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量を下げよ。国民の命を守れ！
0703	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 地元の不安は、高まっています。国際的知見に逆行した審議結果を出したことを、多くの市民が知った時、怒りは爆発します！
0704	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	上記の通りです
0705	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ケタ違いの基準値ですね。これでは規制ではなく、「リスクはありません。何でも OK」になります。国際的知見にあった値にして下さい。
0706	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制してください
0707	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れ子や孫の健康を守って下さい。
0708	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な水を飲みたいです。
0709	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れ「PFAS ゼロ」をめざして基準を決めてほしい。
0710	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 経済・軍事を優先している間に、環境が壊れて病気になるよ！危険
0711	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 生命が一番大事です！子や孫の健康を守って下さい。日本も国際的な基準にすべき！
0712	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康、環境のために規制して欲しい。
0713	子どもたちの未来を考えて、自分自身日々勉強しながら考えて行きたいと思っています。 なぜ日本はアメリカや欧州と比べ許容量違うのか。 こういうところに時間とお金をかけていって欲しいと思う。大切なもの、大切なことに気づいていけたらいいと思う。 明らかに数値は出ているのだから。

0714	食品安全委員会が示す摂取許容量は、諸外国と比較して格段に高く、これでは安心出来ません。都合のよいデータばかり採用せず、国民の命を守ること最優先に考えるべきです。評価のしなおしを求めます。
0715	海外の規定に比べてなぜこんなに日本は緩いのでしょうか。ゼロを目指すべきです。基地のすぐ側に生活していて、子どもの未来が不安でしかありません。
0716	欧米に比べ許容摂取量が緩いのではと思います。臨床からもまだ不確定な部分が多いのであれば、より慎重になるべきではと思います。 もはや蓄積しているので、できれば今からでもゼロを目指すべき。
0717	1.コレステロールは実験動物では PFAS によって下がるが、ヒトでは上がる。また、ヒトでは腎臓がんが報告されているが、実験動物では腎臓のがん報告されていない、という報告を示されています。 逆の結果が出ているような場合もある状況で、ヒトに対る疫学研究を採用せず、動物実験結果だけをもとにヒトへの影響を推測して耐用摂取量を出すというのは、無理があるのではないですか。 2.汚染地のでの血中濃度の測定と健康影響調査を行うよう、評価書に記載してください。評価書案では「継続的な情報収集及びその充実が必要である」としながら、「国や自治体等が、血中 PFAS 濃度測定を実施する場合は、その目的や対象者、実施方法等について慎重に検討する必要がある」としています。 質問ですが、「慎重に」検討する必要というのは、どのような意味でしょうか。 3.EPA や EFSA の評価を批判しておられるので、こちらの方たちとも議論できるよう、必ず全文を英訳してください。 要望は、「全文」をすることです。
0718	米国では、PFOA で「血液中 0.03ｎｇ／ｍｌ」を超えると健康被害の恐れありとされています。日本でも、国が指標を示さなければならないと思います。アメリカ並みに日本も 0.03ng にして、住む人の健康を守ってください！
0719	PFAS：水の安全性の規制を緩めないでほしい。 WHO など世界の流れに逆らっているのではないでしょうか。 予防原則であり、疫学調査に基づいて決めてほしい。 市民の健康診断の中に検査を含めてほしい。 そして沖縄のように浄水場に活性炭を設置してほしい。 私は８歳の子どもがいます。これから長く調布に住むのか、より環境の良い／真剣に取り組む自治体に引っ越すのか…これから調布市がどのような対策／行動を取るかによって決めたいと思いますので、動向を追っています。
0720	沖縄県は特に基地由来と思われる PFAS が基地周辺の住民の血中濃度が高いことに現れているのではないか。 米軍が居座ってこの 80 年近く汚染され続けている。癌を初め、様々な病因のリスクを伴う PFAS は 1ng でも体に取り入れてはいけない。 当のアメリカは 1ng 以下である。 日本の許容量はとうてい容認できない。 限りなく 0 に近づけるのが国民の健康安全を守るために必要だと思う。
0721	なぜ、国際的に発がん性が認められた PFOA.PFOS の基準値を、日本は他国より大幅に緩めたのでしょうか？ また、アメリカでは飲料水で 6 つの PFAS、欧州は食品中 4 つの PFAS の毒性を規制しているにも関わらず、日本は PFOA.PFOS の２つしか規制しないのでしょうか？ 危険とわかっていながら、なぜ日本政府は世界と逆行することをするのか、不思議でなりません。 どうか、 PFOA.PFOS は発がん性があることを認め、日本の基準値をアメリカや欧州の基準値と同レベルにしてください。 また、血液中の PFAS が測れるように研究を進めて、誰でも容易に各医療機関で血液検査ができるようにしてください。 よろしくお願いします。
0722	多摩地区に住む者として、また看護師として世界に比べて安易に考えられたようなこの値は納得出来るものではありません。多摩地区以外に住んでいるから関係ないのですか？いつか知らずにその水を飲むかもしれませんよ？政治家の方々、ぜひすすんでその水を飲み続けてください。それが出来ますか？
0723	PFOA が IARC が 2B から 1 になり、PFOS が 2B になり、国際的に規制が厳しくなっていく中で、日本の基準が、他に比し緩いのはおかしいと考えます。アスベストは IARC が 1 で規制が年々厳しくなってきています。国民の健康を守る視点が欠けていると思われます。日本も、欧米のように積極的な採血を含めた疫学調査をすべきと考えます。
0724	摂取許容量 20ng/kg/日を血中濃度に換算すると、PFOS＜250ng/ml,PFOA＜143ng/ｍｌに相当する。米国アカデミー３）の臨床ガイダンスでは、PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めています。なのに食品安全委員会はどうしてこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのでしょうか。特に感受性が高いとされている、妊婦・乳幼児・高齢者の安全は守られるのでしょうか。国民にきちんと説明すべきです。
0725	食品安全委員会が示す摂取許容量案は、血中濃度に換算すると PFOS２５０ng/ｍｌ、PFOA１４３ng/ｍｌに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で２００倍、PFOA は６６６倍で IARC はじめ国際的治験に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等を始め市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用しているのは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。
0726	子どもの健康を第一に考えてください
0727	健康への影響を考え、基準の見直しをお願い致します。
0728	このたび示された「有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価」の審議結果（案）について、以下の点について、早急に取り組みを進めていただきたい。 １．健康影響の評価として取り上げるエンドポイントとして、血清 ALT 値や血清総コレステロール値の増加等との関連は否定できないと評価しているものの、増加の程度が軽微であること、後に疾患に結び付くか否かが不明であるなど、健

	康影響のためのエンドポイントとして採用するためには、証拠が不十分であるとしている。 また、発がん性についても、動物試験で見られた事象がヒトに当てはめられるか同課は判断できないと評価されるなど、PFOA、PFOS が健康に及ぼす影響については、証拠不十分、あるいは不明である点が多い。 ついては、早急にヒトに対する健康影響、毒性評価等を進めていただきたい。
0729	２．食品健康影響の指標値として、TDI を PFOS は 20ng/kg 体重/日、PFOA は 20ng/kg 体重/日とすることが妥当と判断され、あわせて一日当たりの平均摂取量について、PFOS が 0.60～1.1ng/kg 体重/日、PFOA が 0.066～0.75ng/kg 体重/日と、化学的知見に基づいて設定された TDI と比較すると低い状況にあるものと考えられる、としている。 しかしながら、国内の各種食品中の PFAS 濃度、濃度分布に関するデータ等、摂取量の推定に関する情報が不足しており、この推計値にかなりの不確実性があることに留意が必要とされている。 農業従事者や農作物を摂取する市民等の不安の声も寄せられていることから、農作物をはじめとする食品中の濃度等に関して、引き続き情報の集積を進め、より正確な情報の提供・共有を早急に図っていただきたい。
0730	３．PFOA、PFOS 以外の有機フッ素化合物のうち、PFHxS については、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）において、第一種特定化学物質に指定され、2 月 1 日より製造や輸入が原則禁止されたところであるが、本評価においては、評価を行う十分な知見が得られていないことから、現時点で TDI の算出は困難であると判断されている。 この PFHxS に代表される PFOA、PFOS 以外の有機フッ素化合物についても、早急に TDI を設定し、健康影響の評価等を進めていただきたい。
0731	４．食品影響評価書（案）「５．まとめと今後への課題」として記載されているとおり、正しい情報に基づいて、分かりやすく丁寧なリスクコミュニケーションに努めていただきたい。環境省においては、「PFAS に対する総合戦略検討専門家会議」の監修の下、「PFOS、PFOA に関する Q&A 集」を作成し、これを活用して、国民とのリスクコミュニケーションを図ることが求められている。しかしながら、専門的な表記も多く、国民には理解が難しい内容となっている。 また、現在、不確実な情報、不明な点が多い状況にも関わらず、不安を助長するような情報が報じられることも多いことから、この評価書案の内容について、啓発資料を作成するなど、広く国民に正しく理解されるよう発信していただきたい。
0732	食品安全委員会が摂取許容量（案）で示した 1 日の摂取量を 20 ナノグラムは、国際的知見に逆行した非常に高い水準です。また、発がん性リスクを引き上げた WHO の知見も「証拠不十分」としています。 すでに、安全であるべき地下水・水道水などを通じて人体が PFAS に暴露されています。しかも、全国の汚染の全貌は明らかになっていません。 摂取許容量を決める前に、水質汚染が明らかになった地域の住民の血中濃度検査を実施し体内蓄積量および健康状態を把握することが優先されるべきです。その評価を行ってから、摂取許容量を決めるのが科学的な方法です。 「影響なし」を前提に進めるべきではありません。いのちと健康を第一にする政策を実施するよう強く望みます。
0733	私たちは、安心してお水を使いたいです。 アメリカ同様、もしくはそれ以上の数値に変更してほしいです。
0734	ＰＦＡＳ問題に詳しい小泉昭夫・京都大学名誉教授は、今回示された許容量を摂取し続けた場合に、疫学データから健康影響が懸念される血中濃度レベルをはるかに超えることなど、問題点を指摘しています。 米国や欧州の許容摂取量より数百倍高い数値をなぜ日本政府はは採用するのでしょうか。20ng/日だったら安全だという根拠はなんですか？安全だというエビデンスを示してください。大企業の利益を守るために国民の健康を犠牲にするつもりなのでしょうか。これでは先進国とはとても呼べない。公害は予防原則で防ぐのが一番コストがかからず犠牲が少ない合理的な方法です。PFAS 類はもちろんのこと、化学物質はすべてせめてヨーロッパ並みの規制にしてほしいです。
0735	有機フッ素化合物の発がん性について、WHO でも「動物実験での十分な証拠と、PFOA を暴露したヒトにおける強力な証拠が揃った」に引き上げています。最近、あまり聞かなかった有名人の方の腎臓がんになったという報道を耳にすることが増えているように思います。そうすると、一般人にも腎臓がんが増えているのではないかと想像してしまいます。有機フッ素化合物との関連を疑っています。 先日、北海道と熊本県に政府が補助金を出している外国の大きな半導体工場を誘致したとのニュースをみました。半導体工場にはきれいな水が欠かせないとのことです。食品安全委員会の評価がこんなにゆるければ、北海道と熊本県の水が汚染されるのではないかと心配です。もっと基準を厳しくして、工場排水が汚染を拡げないようにしてほしいと思います。 また、排水処理をした活性炭等の処理剤からも汚染されないように、企業に対しても厳しい指導をお願いします。
0736	たくさんの人が PFAS についてわかり始めてきています。 小さな子供達の未来のために、 医療費負担を子供達が背負わないためにも限りなくゼロに近づけて欲しいと強く感じます。
0737	以下を求めます。 ・世界的基準に基づいた基準値での詳しい調査と、規制づくり ・汚染に責任のある企業や組織にきちんと責任を取らせる ・健康被害を受けた一般市民への保障
0738	許容量が高すぎて、今後がさらに不安になります。 もう一度基準値を見直す必要があると思います。
0739	他国に比べて水道水への許容量が多すぎませんか？再検討してほしい。お風呂に湯を張ると塩素の匂いもきついし、肌もかなり乾燥します。改善してほしい。
0740	PFAS の許容範囲が高すぎます。私は 0 歳と 3 歳の子どもがおり、子どもに発がん作用があるものをあげたくないです。私の子どもだけでなく、これから未来を担う子どもたちに負担をかけるのはおかしいのでは。
0741	子ども達の未来、さらに次の世代も安心して暮らせる世の中であってほしいです。私達も安心して暮らしたいです。 摂取許容量が欧米の数百倍なのは見直しが必要だと思います。大変驚いています。
0742	WHO でも有害と認められている物質 PFAS の日本の基準値は何故こんなに高い数値なのでしょうか？何を根拠にその数値を設定したのかが気になりますので、 どれくらいの数値なら人体に影響がないのかという根拠のあるデータをもとに、基準を設定してほしいと思います。またいかなる数値でも、人体へ悪影響というデータがあるのであれば、健康に害がない飲める水を確保する方法を議論して頂きたいです。
0743	欧米では規制強化の流れであり、かつ対象物質も限定からより近類まで拡大されている。環境汚染と人体への影響は、未来に判明するとして、最新の知見を反映しないで本邦独自の規制濃度は、理解しがたい。少なくともアメリカか欧州どち

	らかに近似した濃度が妥当ではないのでしょうか。
0744	本評価書案を再検討するようお願いします。その理由は以下の通りです。 １　PFAS の健康影響については、本審査書案では日本では研究が遅れており知見が乏しい何度も認めながら比較的研究の多い欧米の許容摂取量基準を欧米より高い値で大丈夫とした内容は全く説得性がなく、納得できない。また世界的な評価に耐えないと思います。科学的に証明がなされ合い場合には予防原則にのっとり、健康上安全なサイドに厳しく基準を設定すべきです。少なくとも欧米を下回らないよう再考を求めます。 ２　欧米では数千種あると言われる PFAS をまとめて規制する方向に進んでいます。本評価書案が PFOS とＰＦＯＡの２種に限られている理由が示されていません。将来すぐ不十分な評価であることわかる。最近の日本各地の水、土壌、血液中の分析結果では、PFHxS が　PFOA，PFOS と同程度あるいはそれ以上の濃度で検出される地域が多くなっています。これには米軍の泡消火剤の成分として改良版として PFHxS が使われるようになったからです。評価の再検討が必至です。
0745	本評価書案を再検討するようお願いします。その理由は以下の通りです。 ここでは許容摂取基準の設定において PFAS の発がん性からのアプローチが弱く、科学的根拠が乏しいとして避けている。IARC は昨年 11 月、PFOA「発がん性がある」、PFOS「発がん可能性がある」と評価しました。米国・環境保護庁（EPA)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と結論づけています。食品安全委員 会も「予防原則」に基づき、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう「発がん性」を認めるべきです。このままでは世界的な評価に耐えないと思います。恥ずかしいです。また、毒性反応には種差があるため、有害性の特定ではヒトの疫学データが最も望ましくも最も優先されるべきです。なぜ古い動物実験のデータを採用し、このような許容摂取量を導き出すのでしょうか。再検討を求めます。
0746	欧米と比較して、日本の PFAS の許容数値が 600 倍以上も高い事は異常です。 発がん性も認められているのは明らかな現状で、今こそ再評価を求めます。 子供達の健康と未来のために、どうか欧米同等の厳しい審査基準をお願い致します。
0747	今回のアンケートか来るまで意識のしたことのない項目だったとで少しでもしれることができてよかったです。
0748	知識がなかったので、今回知れていい勉強になりました
0749	有意義なことだとおもいます
0750	フライパンのフッ素加工には助けられてきましたが健康被害があるのであれば規制を強化して欲しいです
0751	※ 未来のために解決してください。
0752	７８歳になり、水俣病・イタイイタイ病等見て来た中、二度と繰り返さないために、最低アメリカ並みの基準にしてほしい。
0753	基準値が高すぎます。 そもそも体内で分解できない化学物ですが、欧米人より体の小さい日本人への基準値が欧米に比べて明らかに高いのはおかしいと思います。 これからを担う子どもたち、日本人を大切にしてください。 基準値を低くしてください。よろしくお願いします。
0754	PFAS の基準が日本は欧米と比べて甘すぎることが不安です。今後こどもたちが大人になる頃に影響がでないのか？なぜ基準値が高いのか、詳しく説明していただきたいです。
0755	食品安全委員会が「20ｎｇが妥当」と判断していますが、欧米などの許容摂取量よりもけた違いに高く非常に不安です。予防原則に立ち総合的な判断をするよう求めたいです。また、欧米は「ＰＦＡＳセロ」を目指して対策をすすめています。日本も同様に目指すべきです。
0756	PFAS の日本の摂取許容量が欧米諸国よりはるかに多いのは、明らかにおかしいと思います。同じ先進国として、子どもの未来、世界の安全のためにすぐに再評価を実施してください。
0757	：PFAS は人体、自然環境で分解出来ません。蓄積されます。 未来を生きる子どもたち、地球環境のためにも、PFAS ゼロを目指してください。 欧米は PFAS ゼロを目指そうと動いています。日本も目指すべきです。
0758	日本の基準値が欧米に比べてゆるいです！ 欧米と同等の基準値、対策、お願いします。 未来の子供達の為にお願いします。
0759	「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会」は、ＰＦＡＳが住民の体内にどれだけ蓄積されているかを明らかにしようと血液検査を２０２２年 11 月～２３年５月、３０市町村で７９１人が参加して実施しました。 検査報告は、主なＰＦＡＳ４種類の血中濃度の合計値でみると、７９１人のうち３６５人（４６％）が米国科学・工学・医学アカデミーのガイダンスの指標値（２０ナノグラム/リットル）を上回りました。この指標値は、臨床医が脂質代謝異常や甲状腺ホルモン、腎がん、潰瘍性大腸炎などのリスクが高まるので精密検査を勧めるべきというレベルです。 検査報告では、主な曝露源として地下水を使用した水道水が指摘されました。私も血液検査を行いましたが、ＰＦＡＳ４種類の血中濃度は１７.７ ng/ml でした。日野市に４０年在住し、東京都水道局の水を飲用してきましたが、高コレストロールを抑えるための薬を飲んでいます。 今回、食品安全員会が示した許容摂取量（案）は、ＰＦＯＡでは米国の２０２３年基準の６６６倍、ＰＦＯＳでは２００倍となります。こんな高い許容摂取量では多摩の住民の健康は守れません。評価をやり直してください。
0760	日本は欧米に比べて、基準値が 600 倍。 そんな事あります？ しかも未だ水道水を飲むこどももいる。 発がん性が含まれているにも関わらず。 そして皮膚から吸収される経皮吸収にも関わります。お風呂のシャワーから出る水にも PFAS が含まれます。 頭皮や脇、陰部は腕の肌より高い吸収率です。 そのままでいいわけがないと思います。 早急な改善を求めます。 日本のあらゆる規制がゆるすぎます。 みんな、こどもたちの未来を守りたいのです。あなた方にもこどもや孫がいるのではないですか？ そのこどもたちの健康被害は相当なものです。

	本当に自分の事として考えて頂きたいです。
0761	許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当する。米国の臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が 懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度が安全といえるか説明せねばならない。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児の安全が危惧される。食品安全委員会は確かな科学的背景を持って国民に説明しなさい。
0762	WHO でも発ガン性があると認められている PFAS を米国や欧州の摂取許容よりも何百倍も高いと聞いて本当に不安です。それを認めている理由が知りたいです。日本もゼロを目指すべきです。取り組みよろしくお願いします。
0763	欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めている。日本の案では高すぎる。日本もゼロを目指すべき。子どもたちの健康を考えるととても許容できない。
0764	生命活動の中で 1 番大切な役割を果たす「水」が汚染されていると考えるととても怖くて、日本の水道水が綺麗だと言うことが嘘となり、他国との信頼関係に影響を与えるではないか。また、国民が安心して生活できるように管理するのも国の仕事だと思うので、しっかりとはたらいてほしい。
0765	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への影響が心配です。基準を、もっと厳しくして下さい。
0766	いろんなところで高い数値が出ているのに国は”大丈夫"と根拠のない答え。ヨーロッパやアメリカの指標値並みにして検査したい人への援助も考えてほしい。子どもの方が影響が大きいなら 1 日も早く対策を。
0767	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 許容量を下げて、米国と同じにして下さい。血液検査も早急に実施して下さい。
0768	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会はガンのリスクになる有機フッ素化合物の摂取許容量（案）を高い値にしたのですか。水、食品などに含まれているであるものなら、再検討をして下さい。
0769	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川周辺の住民の健康と安全を考慮し、PFOS・PFOA の摂取許容量の基準値を 0.03 ng/mℓとして下さい。
0770	○WHO は 2023 年 PFAS は「発がん性の可能性がある」から「発がん性がある」に 2 段階上げて断定しました。又 PFOA は「発がん性について分類できない」から 1 段階上げて「発がん性の可能性がある」に引き上げました。 ○私の住む各務原市内でも水道水から 100 人超の血液検査の結果、73%の人が当面（？）の基準値（20 ng/mL）を超えるきびしい状況となりました。この水源を利用する市民は 7 万 2 千人おり、検査結果から健康リスクを抱える市民が 5 万人ほどいると推定されます。 ○上記の血液検査の血中濃度の「数値」と「発がん性がある」との因果関係は現状確たる証明データは整っていませんが、今後近い将来にはそれらが整うことでしょう。しかし、整うことを待っていては発がん性等のリスクが極めて大きすぎます。市民、国民への健康影響、被害を及ぼさないように安全対策を考えるならば、子供たちの未来のためにぜひ後年に悔いを残すことなく、今世界の先進的な動きに目を向け、その先見的に数値基準、規制を採用されることを強く、強く望む

	ものであります。
0771	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米の数 10～100 倍の摂取許容量の設定は、受け入れられません。予防原則に基づき、国際的知見と整合性のある摂取許容量にしてください。
0772	欧米は「PFAS ゼロ」を目指しているようです。日本も「ゼロ」を目指すべきと思います。
0773	有害だとはっきりしてる事をそのままにしてはいけない反対です。子供達の未来はどうなるんですか？基準値をもっと下げて下さい。
0774	明石市民が水道水として取水している明石川上流から 10 万 ng/ℓ の PFAS が検出され、又血液検査によって明石市民の 9 人中 6 人が健康を害するリスクが生じるとされるドイツの基準値を超え、そのうち 13 歳からも高い数値が検出されました。この度の審議結果（案）は欧米に比べ高すぎます。安全な上にも安全が求められる故、米国や欧州などと、同レベルの基準値を設けるべきです。
0775	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 何を信じたらいいのか国民にわかるように説明してください。
0776	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全、安心で暮らせるように調査をして対応してください。
0777	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0778	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0779	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0780	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
0781	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 海外では基準値がきびしく設定されているのに、日本でも政府はしっかり動いてほしい。
0782	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 厳重な対処対応をして下さい。
0783	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0784	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心の水をお願いします。子供達の健康を守って下さい。
0785	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

0786	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0787	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の責任で住民の疫学調査を早急に実施し、情報を公開して下さい。
0788	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0789	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0790	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0791	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0792	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0793	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
0794	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本もアメリカ並みの基準にしてほしい。
0795	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化をしてほしい。
0796	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいです！
0797	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 後世に発がん性のあるものは規制強化して健康を守って下さい。
0798	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ、ヨーロッパ並みの基準にして下さい。
0799	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	健康被害が出ない基準にして下さい。
0800	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちの健康を守って下さい。
0801	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害者が出ない規準を作って下さい。
0802	PFAS が体から排出されるまでには、生物学的半減期は、PFOS で 5 年、PFOA で 3 年、PFHxS で 6 年と長く、体内に蓄積していくものです。岡山県吉備中央町では、10 年にわたり水道水に PFOA が含まれていた可能性が高く、平均血中濃度（ng/mℓ）171.2 と深刻な数値となっています。長期に体内に PFOA にさらされていたことが考えられ、今後の健康管理と支援は欠かせません。甲状腺疾患や、高コレステロール血症、乳癌、肝障害、腎臓癌、精巣癌、潰瘍性大腸炎と発がん性や健康被害は、欧州で証明されています。また、つらいのは、胎児への影響です。この度、食品安全委員会が示した摂取許容量（案）は、欧州などでの治検を無視した非常に異常に高い水準であり、とうてい許せるものではありません。今、全国でおこっている PFAS の問題を、なかったことにしたいのでしょうか。誰のための食品安全委員会なのかが問われています。企業や発生者に「ソンタク」したと言われても、仕方ないものではないでしょうか。国際的な水準に正すよう求めます。また、4PFAS の評価を求めます。
0803	○日本の食品安全委員会の摂取許容量（案）は欧米の基準と比べると非常に高いです。安全だという確実な証拠がない時にはできるかぎり厳しい基準に合わせるべきだと思います。 ○PFOA に発がん性があると国際がん研究機関が公表しています。国際的な知見を大事にしてください。 ○PFOA・PFOS 以外の有機フッソ化合物の毒性についても早急に評価をすすめてください。
0804	データーが少ないからといって国際的な摂取目標値と比べてあまりにも高すぎる。人的被害が多くでて摂取目標を下げる今までのやり方でいいのでしょうか？国民の生命と安全を守ってほしい。予防原則の立場で危険の可能性が少しでもあれば汚染を防ぐ対応をしてもらいたい。
0805	PFOS と PFOA を排出する企業や会社に対し、PFOS と PFOA をきちんと環境中に出さない様に処理する、させるのを徹底して下さい。国民の命健康第一で処理する迄が企業の責任です。会社の義務です。規制を又、罰則を課する様にしないといけないです。被害が出てから治療というか、対処するより、始めから汚染物を出さない様にするのがベストだと思います。先に環境中に排出している場合、その土や水を除染してほしいと思います。勿論、血液検査、健康検査等、国や企業が責任を持って調査する必要があると思います。
0806	1. 日本の食品安全委員会が定めた摂取許容量は、PFOS→アメリカの 200 倍、PFOA→666 倍、欧州の 64 倍以上と、いずれも国際的に見て、非常に高いものになっている。国際的にみて、同程度の値に改めることを要求する。 2. 過去日本国内の全国各地で、公害問題が発生し、多くの被害者が出た歴史を我々は経験している。最近、時々、新聞報道で、報道されるようになっている PFOA、PFOS、PFAS 問題は、無視できない問題である。円域地域の人々の不安を取り除くため、国として、問題の発生源である原因となっている製造元の企業に責任をとらせること。
0807	私たちの町の 1000 人余の人々が PFAS 汚染水を飲食させられて来た事は大問題だと考えられます。 ①円域の住民の健康への影響を今後 10～30 年続けて観察して下さい。 ②円域の調査を全国の安全基準の一助にしべきだ。 ③この問題の原因を大元まで明らかにすべきだ。
0808	吉備中央町円域地区約 1000 人の住民は、かなり長期（10 年以上）にわたって PFOA で汚染された水道水を飲みつづけて来た可能性が高いことがだんだんと判明して来ています。一方で国際的（IARC）には、「PFAS 摂取許容量」をよりきびしく設定して来ています。それだけに PFOS 汚染水を飲みつづけて来た円域地区 1000 人の心配は予想以上と推測します。ところがマスコミ報道から「有機フッ素化合物、飲料水目標値」の見直しは「現状維持で決着するとの雰囲気が政府内に漂う」と知った。作業部会であれこれの理由が語られているようですが、「重大な被害の恐れがある場合、因果関係が十分に証明されていなくても、『予防原則』を適用すべきだと思います。住民の立場にたっての厳しい基準を作る必要」を強く訴えます。
0809	PFAS の研究がすすんでいる米国や欧州などでは人への健康への配慮から規制がすすみ IARC でも PFOS は発がん性がある。PFOA は発がん性可能性があると断定しています。それにもかかわらず貴委員会が海外評価機関が厳しい値を出しているのに疫学データをとり入れず動物実験だけを根拠にして指標値を算出しているとしか思えません。これでは健康被害や環境汚染は防げず重大な事態を招きかねないと思う。今回示された許容量を摂取し続けると健康への影響が懸念される血中濃度レベルをはるかに超えるという疫学データがあると聞いています。国策に忖度することなく国民の命と暮し環境を守るという立場を優先して指標値を見直すことを求めます。
0810	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の命と健康を守ることを第 1 に考えて下さい。安心して飲める水、安心して食べられる食物、皆が健康に暮らしていける社会にするために、PFAS の安全な基準を求めます。
0811	汚染された土壌で取れた野菜をずっと食べているかと思ったらぞっとします。皆がそう思っているはずなので絶対に「ゼロ」にして下さい。
0812	汚染された土壌で取れた野菜をずっと食べているかと思ったらぞっとします。皆がそう思っているはずなので絶対に「ゼロ」にして下さい。
0813	PFAS 汚染対策を私たちと一緒に取り組んでください。健康被害が出てからでは遅いです。子どもたちの健康がとても心配です。
0814	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人間が住める清流をとりもどそう。
0815	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 企業の利益よりも国民の健康を優先してください。
0816	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0817	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0818	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0819	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0820	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れるべきです。
0821	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0822	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
0823	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にして欲しい。
0824	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にして下さい。
0825	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめてアメリカ並みの基準に、健康でありたいです。
0826	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0827	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食は命と直結！健康を守る為に、規制強化を！！
0828	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0829	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並み規準
0830	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0831	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0832	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大阪府民が安心して生活できるよう早急に予防処置を優先して取り組んでいただくよう求めます。
0833	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカなみにきびしくして。
0834	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供達のために規せいして下さい！
0835	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0836	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0837	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0838	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0839	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめてアメリカやヨーロッパ並みにして下さい。
0840	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0841	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0842	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国は国民の命と健康を守るため責任をはたすべきです。原因をつくった大企業には真相を明らかにし責任をとらせよ。
0843	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0844	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0845	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準をハッキリしてほしいです。
0846	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0847	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の規制はゆるすぎます。せめて欧米並に！
0848	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 沈黙の未来をつくらないでください。
0849	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0850	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大阪市内全域の地下水　河川の調査をして下さい。
0851	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
0852	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカの基準にしてほしい！
0853	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0854	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
0855	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私達一般人にわかりやすく、安全性に問題があることを広く説明してください。
0856	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発がん性の可否も含め、PFAS の摂取許容量も検討していただきたい。健康に影響がないか、米国や欧州との差がありすぎ。本当に身体に影響はないのでしょうか？子供たちの将来は？基準が高すぎる！
0857	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の許容量の多さにおどろいています。本当に国民の事を考えて下さっていますか。
0858	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 どんな毒も目標はゼロを目指してください！「○△×までは OK」とかいうのではなく。
0859	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
0860	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	子や孫の健康はどのようになりますか。心配でなりません。
0861	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめて国際的な水準の規制基準に！
0862	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 危険は把握していたのではないですか
0863	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0864	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子供たちに健康な食品、体を守る為考えて欲しいです。
0865	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康に危険をもたらすような物質は地上からなくすことが大切です。
0866	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0867	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水は水道のみ使用しております。浄水器を使用しても汚染されていると聞きます。是非安心して飲める水、世界にほこれる水道にしていただきたいと思います。
0868	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私の検査結果は 2021 年に環境省が実施した 119 名の値（平均値）と比べて見ると PFOS が 23 倍、PFHxS が 4.4 倍、PFNA が約 2 倍の値です。感受性の高い集団では悪影響の可能性。日本は国民の安全を考え「予防原則」に基づき、再評価を！
0869	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 大変なお仕事。ご苦労様です。何も力になれませんが、ご自愛の程。
0870	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 評価書の日本は 20 ng と判断は米国や欧州の数百倍も高いことにとても不安とどうしてそうなったか知りたい。20 ng をもとに水道水の数値を決めないで未来の子どものためにしっかりした対策をお願いします。
0871	「大阪 PFAS 汚染と健康を考える会」趣旨に賛同し入会する賛同金一口 1000 円入金いたしました。
0872	他国に比べて基準が高いというのはどうしてか？調査・論文が少ないと書いてあるのに、高い基準をどうして示せるのか？このままでは不安がある。

0873	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカやヨーロッパの基準に比べて日本は高すぎます。国民の健康を本気で守ろうとしていない！怒っています。
0874	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 わが子は発達障害があり、食物や口にするものにとても敏感です。より安全な基準にしてください。
0875	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 上記を強く求めます。
0876	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「さしあたって大丈夫」という言葉は福島原発の事故後に何度も国から聞かされた。これからの環境汚染はどこまでも厳しい条件を法制下して、安全をたんぽすべき。
0877	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 昭島市の水道は地下水です。自慢が、PFASで一気に不安になりました。基準値は米国、欧州と同様にして下さい。健康は何にも変えられません。
0878	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私達の健康が守れるようにお願いします。
0879	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発ガン性の評価を取り入れるべきだ。子供や孫の健康を守る国になって！
0880	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「世界人権宣言・第三条　すべて人は生命、自由及び身体の安全に対する権利を有する」水は生命線です。
0881	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0882	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	国際基準に合わせ規制を強化しないと日本の食品に対する信頼がどんどん低下していきます。
0883	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れてください。子や孫の健康を守ってください。
0884	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子、孫の健康を守りましょう
0885	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。日本も規制してください。
0886	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいことなので規制強化を求めます。
0887	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供に害がないか？
0888	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
0889	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命を守ることを大原則にして下さい。危険と思われるものは体に入れたくありません！
0890	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 責任ある大人として行動してください。
0891	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	水は、生命の源だと思います。体に入る大切な水です。ヨーロッパでは、「PFAS ゼロ」をめざしているそうです。日本も規制してください。
0892	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 危険は把握しているのではないですか。
0893	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカなどの摂取許容量より数百倍も高いと聞いて不安でたまりません。再評価を。
0894	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS ゼロを目指してほしい。
0895	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心、安全に生活できる様対策をお願いします。
0896	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米は「PFAS ゼロ」を目指している。せめてアメリカと同じ摂取許容量に日本もしてほしい。日本に生まれてきてよかったと思える国にして下さい。これまでの公害のことを踏まえてゼロを目指して下さい。
0897	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもを持つ親としては、子どもたちの健康・未来が心配です。安心して暮らせるよう、早急に対策して下さい。
0898	能登の被災地を見てもわかる様に水というものの大切さが今更ながらに実感する今日この頃です。が、その水が汚染されているという実態に、子、孫を思う時、暗たんなる思いになります。アメリカに物を言えない日本！！この現状を何とか打開していかなければなりません。まず、泣き寝入りせず、どんどん意見を言っていきたいと思います。
0899	健康被害を未然に防ぐ為には元から断たないとダメだと思います。日本も厳しくしてもらわないと国民が納得しないだろう。
0900	PFOA「ゼロ」をめざしてほしい全国民の為にも。
0901	自分の健康被害だけでなく子や孫の代までも続く事に危険を感じます。もっと真剣に再検討してほしいと思います。
0902	発ガン性物質が含まれている為甘く考えないでしっかり取り組んでほしいです。
0903	PFOA に発がん性があると聞き、市民の健康を守るために再検討して下さい。
0904	PFOA、PFAS どちらも健康被害や環境汚染があるのにしっかり標価し再検討して下さい。私は PFOA の検査して数値が高かったです。再検査をしましたが、体の中に入り込んでいるので様子を見るようです。不安がいっぱいです。
0905	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 現在、日本各地から検出されている有機フッソ化合物（PFAS)。特に米軍基地周辺からは、高い数値が検出されているという。食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は果たして何年の知見で安全と言われているのか。IARC や国際的知見に逆行した高い数値で、数十年後に表面化を考慮しての許容量案なのでしょうか。長年体内へ蓄積された化合物を排除するのは不可能です。過去にあった水俣病やチッソのような事があってはならないと思うのです。国民の健康を守るのが政治の仕事だと思うのです。基準は、国際基準以下に！を希望します。
0906	国の目標値を下げてもらいたい。
0907	評価書が 1 日の許容量を 20ng としたことに驚いています。アメリカなどと比べてあまりにもゆるい。WHO が「発がん性がある」としたことを入れていないことも驚きです。何を根拠に、こんなに評価が甘いのか理解できない。危険があっても、察知できても、それを見過ごすのだな、と評価自体を信頼できない。規制がないと、社会・企業は対策をしません。

	ダイキン工業の工場のある摂津で暮らす身としては、汚染は過去のことではなく現在進行形です。規制を強め、次代の命と健康を守るために、知見をもとにした科学的な再評価を求めます。
0908	科学的立証を待っていたら取り返しのつかないことになります。 疫学研究のデータをもっと参考にするべきです。 人間の身体というのは異物が入れば入るほど、健康への影響が高くなることはこれまでの様々な研究から明らかです。最近ではワクチンなどの薬害による健康被害がその代表です。 実際に健康被害が起きる前に、アメリカの一部の州や EU のように予防原則の立場から先手を打って規制強化すべきと考えます。
0909	PFOS,PFOA の摂取許容量が、アメリカ EPA の基準に比べ常識外れに高いことに驚いています。PFOS で２００倍、PFOA で 666 倍などは論外です。飲料水の暫定目標値は、アメリカの計算方式に準じて 50ng/L としていますが、アメリカが格段に厳しい摂取許容量を目指しているのに、今回はそれに準じないのは理解できません。沖縄をはじめ全国各地で飲料水の暫定目標値を大きく上回る地域が、続々と出ているので飲料水の浄化費用や汚染土壌の膨大な浄化作業等を勘案して緩く決めようとしているとしか思えません。特に、沖縄は基地由来の PFAS 汚染が深刻なので、「米軍基地の存在」を前提に常識外れの非常に高い許容量を決めようとしているとしか思えません。
0910	沖縄県内の県民の血中 PFAS を検査してほしい。その中で、頚椎症など整形疾患の有無を調べてほしい。
0911	PFAS の基準値をせめて欧米並みに合わせて下さい。食品安全委員会の皆さんは数十年先の日本人の健康に責任が持てますか?
0912	子供たちの未来が心配です。水を安全に飲めるよう、他国並みに厳しく安全基準を設けて欲しいです。 PFAS は体内で消化することができず、少量でも体に悪影響があると聞きました。どうか私達の生活を守って下さい！
0913	沖縄県北谷町に住んでいる者です。 私の住んでいる北谷町は PFAS の濃度が高いと言われています。 基地の問題もありますが、 こんなに規制がゆるいのか？ もっと、国民にも伝えるべきでは？ こんな規制の緩さ、あってはならないと思います！是非ともやめていただきたい！
0914	国際がん研究機関（IARC)が 2023 年 12 月に出した PFOA の発がん性の判断を取り入れてほしい。発がん性物質である PFOA について、PFOS と同じ許容量というのは理解しがたい。特に、私の住む兵庫県は深刻な汚染状況にあると知り、一刻も早い改善を要求する。 米国環境保護庁（EPA）の指標値は、2016 年ではなく最新の値を採用してほしい。少なくとも、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用、または、EPA の最新版が発表されるまで審議を継続すべき。 PFHxS は子どもへの影響が危惧されることから、予防原則を充分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用してほしい。
0915	海外と比べて以上に高い日本の基準値…。 なぜこんなに高いんですか? それで日本人の健康が守られるんでしょうか? 水道水に対する信頼、そもそもあまりありませんが、その事すら知らない人たちも多くいます。 日本人の健康をないがしろにしてもらいたくないです。ピーファスゼロを目指してもらいたいです!!
0916	残留基準あますぎると感じました。 このままの基準ではとても不安です。
0917	日本の食品安全委員会は、日本人の食の安全を考えているのか。 　日本の許容摂取量は欧米に比べ数桁違いに緩い。 　許容量を決める場合、国民の安全を考えるならば、既に有る許容量と同等かそれ以上に厳しくするのが常識ではないか。 　余計なことは考えず、その名に恥じない数値にして欲しい。
0918	発がん性の可能性があると言われているものが入っている水なのにどうしてそれを飲んでも大丈夫というふうになっているのでしょうか？体の小さな子ども達、胎児は私たち大人よりも大きな影響を受けていると思います。私は浄水器をつけていますがそうでない家庭もたくさんあります。浄水器のない家は安心してお水を飲むことができないのでしょうか？生きていくうえで必要な大切な命の水を守るためにも再評価をお願いします。
0919	PFOA は発がん性ランク 1 になっています。規制強化をお願いします。 あと、大阪府摂津市の「ダイキン工業」は PFOA 汚染で、周辺住民の飲み水に多大な被害を与えています。社会的責任をとらせ、情報公開をさせてください。
0920	日本もゼロを目指すべきです！！
0921	他の国よりも数値が高すぎてそんな、日本の水を、安全だとおもって飲んでいる人が多いのが現状、、とても怖いことだと思う。浄水器もつけてるけどそれではだいたいとれないという話もきく。日本の良さは安全だということなのに、最近は安心できない日本へとかわってきているとおもう。どうか素晴らしい日本、ヒトを守るためにも、安心安全にしてください。このままでは皆癌でしぬ。薬、抗がん剤でお金目当て、薬漬けにしてると思われたくないならちゃんと大切なことを守り、行動してほしい。こどもたちの未来、環境を守っていこう。
0922	内閣省のみなさまこんにちは！ PFOS、PFOA、などの化学物質残留量について、 米国環境保護庁（EPA 2023 年） PFOS → 0.0 3ng / 1kg あたり/日 PFOA→ 0.1ng/1kg あたり/日 一方、日本の許容量評価案がこちら PFOS→2 0ng/1kg あたり/日 PFOA→2 0ng /1kg あたり/日 なんと PFOS は 666 倍、PFOA が 200 倍の数値になります。 『1 日の摂取許容量』が

	欧米に比べて高すぎる！！！ 出来れば残留ゼロを目指して欲しいです。 うちの猫は、沖縄の水道水を飲むと膀胱炎になってしまい自然の綺麗な水を飲ませると治りました。 水道水に残留した化学物質が原因ではないでしょうか。 シャワーも浄水器をつけないと肌があれる人達がまわりにいます。 人間にも健康被害があると考えられます。海の生態系にも影響が出ているのではないでしょうか。 どうか、環境を破壊せずに全ての生き物が安心して暮らせるようにみんなにとって大切な水を綺麗に戻したいです。ちなみに私はお風呂に入る時も洗剤も使わないようにして水を汚さないように心がけています。みんな繋がっていますから。
0923	3 食品安全安員会が受当とした一日摂取量 20mg をもとにして、水道水や河川水の数値を決めないで下さい。東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、水汚染と体内汚染に相関があるという。欧米は「PFAS ゼロ」をめざし対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきです！
0924	p-fas 被害者が出る前に禁止にできませんか？ 安全な水を作る方法を税金に使ってください。
0925	有機フッ素化合物については近年欧米で研究が進み人体への影響が問題視されています。欧米各国の規制基準をみても厳しくなっています。今度日本で決めようとしている規制基準は、あまりにも緩いものではないでしょうか。これでは、かつてのアスベストや血液製剤によるエイズ被害と同じように、将来有機フッ素化合物による健康被害が発生する恐れがあります。私たち国民は有害物質の実験台になりたくない。未来の子どもたちを実験台にしたくないです。欧米並みの規制をするべきです。
0926	子どもたちの未来がすごく心配 安心、安全な水と土であってほしい
0927	PFAS の安全と言われる基準値を米国並みの厳しい数値にしていただきたい。私が住む沖縄の基地がある自治体の出生体重は全国平均を下回る。PFAS による健康被害と言われる症状と合致する。未来のこども達に少しでも危険の可能性がある水を飲ませたくない。PFAS の基準値の見直し、及び汚染された水の浄水を国に求める。汚染源が米国基地なら、米軍基地にその責任を求める。
0928	子供を通わせてる学校や保育園には除去できる浄水器をつけなければいけないことを義務付けて欲しい。 その他、飲食店にも義務付けることが必要ではないでしょうか？ その際の国からの援助があってもいいのではないでしょうか？
0929	品安全委員会というからには、人体実験するような基準のゆるさをやめませんか。ヨーロッパのように予防医学の考えに立った基準値を、聡明で有識者といわれる方々の脳を回転させて、ぜひ厳しい基準で人を守ってくださいませ。有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価について、よろしくお願いいたします。
0930	WHO で発がん性が認められている物質なのにも関わらず、日本の基準値が甘すぎだと思います。日本の、国民の、未来を守るためにもしっかり基準値を定めて対策をして欲しいです。
0931	水道水の危険性があると、安心して暮らせません。 仕事でも食品をあつかっている身なのですが、なんでもかんでも水を使います。 改善してもらわないと大変困ります。
0932	保育園、幼稚園、学校、飲食店に PFAS 等問題な物質が除去できる浄水器を設置する義務を定時する。 また、設置に伴い、国が補助金を支援する。 設置時のみでなく、フィルター等、定期的な交換や修理等、浄水器設置に関してかかる費用に関しては補助金を出す。
0933	評価書案では、一日摂取量の指標値として PFOS と PFOA だけに 20ng/kg 体重/日を設定しています。私の体重は 72kg ですから、毎日、PFOS と PFOA をそれぞれ 1440ng 飲んでも、PFOS と PFOA 以外の PFAS をどれだけ飲んでも、一生涯健康に対する有害な影響が現れないことを意味することになります。このようなことを信じることができません。安心することができません。 何故なら、一日摂取量の指標値として米国の環境保護庁が２０２３年に PFOS で０．１、PFOA で０．０３、EU の欧州食品安全機関が２０２０年に PFOS+PFOA+PFH x S＋PFNA で０．６３と設定しているからです。 米国のミネソタ州や EU が PFAS 全廃の方向に向かっていることを考慮して、まず、最低限、日本でも「予防原則」の観点から米国の環境保護庁（２０２３年）或いは EU の欧州食品安全機関（２０２０年）の値を採用すべきです。
0934	幼稚園、保育園、小中学校、養護施設などでこれら危険物質が取れる浄水器の設置を義務付ける事をお願いしたい。特に公立保育園ではミルクを作る時にいまだに水道水なので赤ちゃんにとっても危険だと思います。子ども達の健康を守ってほしいです。
0935	子どもたちの安全に生きる権利を保障してください。 現在、小学 6 年生と 2 年生の二人の娘がいます。沖縄県では、PFAS の問題があるため子どもたちの普段の食事に気をつけています。子どもたちが入学する際に、学校の給食センターに確認したところ浄水器が使用されていないこと、学校の冷水機も浄水がされていないことを確認した為、お弁当と水筒を持参して登校しています。県内の浄水場では PFAS を基準値以下としていますが、日本の基準値では子どもの安全性は担保できないと感じでいます。浄水場での活性炭などでの除去もこれまで以上に必要ですが、学校の給食センターなど子どもたちの直接口に入る水の浄水器設置をお願いします。 PFAS だけでなく、塩素やサビなどは浄水場では除去できません。 水道管の腐食の問題も多くあります。 保育園、小中学などから対策をお願いします。
0936	堀久男神奈川大学教授は、２０２３年４月１０日の NHK「クローズアップ現代」で「PFAS が産業にとって重要な化学物質であることから規制は慎重に行うべきである。PFAS が全て危険と捉えると未来の社会にマイナスの効果をもたらしてしまう」と産業界を擁護するような趣旨を、スウェーデン国際化学物質事務局広報のピーター・ピエル氏は、２０２３年１１月２８日の TBS テレビ「報道１９３０」で「EU は PFAS の全面禁止に動いている。リスクが非常に高いので大きな危機になる前に回避しようというのだ。拒み続けているのは PFAS 使用の産業界だ。その中で最大のロビー団体の一つが日本の産業界」と産業界を批判する趣旨をそれぞれ述べていました。 一方、日本政府は、半導体産業が国内産業の根幹を支えるとして破格の予算を投入して工場建設を推進しています。半導体工場は PFAS 排出源の一つと想定されます。食品安全委員会が PFAS の規制を厳しくしないように忖度しているように思えてなりません。経済より国民の健康を優先して、評価書案の指標値として、最低限、EU の欧州食品安全機関の指

	標値０．６３ng/kg 体重/日を採用するように要請します。
0937	基準が、他の国と比べて高いのはなぜですか。食物連鎖もあり、このままだとこの日本は病気になる人もふえるし、さらに医療費もかかってきます。基準を見直し再評価願います。
0938	PFAS の発ガン性　あるいはその可能性が国際がん研究機関からも指摘される中で日本の食品安全委員会が出した許容摂取量案はアメリカの 200 倍　欧州の 64 倍という非常に高い値となっています 日本でこの分野の研究が進んでいて根拠があるならまだしも　全く遅れた状況でこのような値を出すことは　国民の健康に責任を持った態度なのかはなはだ疑問です 最低でも欧州や米国にそろえるべきではないでしょうか 委員のご家族がもし被害に遭ったらという想像力を持っていただきたいです かつての公害の経験を生かすべきです 真摯な検討を求めます
0939	アメリカの基準などを参考に、基準値をもっと正確にしていただきたいです。 なんでもそうですが、日本は情報更新が遅すぎするので、未来を見据えて、きちんと調査研究し納得できる数字を掲げていただきたいです。
0940	ただただ安心安全な水、食と環境を求めます。
0941	健康を優先してください。米国やヨーロッパより高い許容量になっています。米国やヨーロッパ並みにしてください。
0942	有機フッ素化合物（PFAS）の使用禁止をお願いします 他の国はここまで米軍のいいなりではないと聞いています。悪いことは悪い、有機フッ素化合物（PFAS）浄化処理費用などアメリカに負担させてください。 ダイキン工業などに厳しく取締をせまり、令和の公害事件をなくしてください
0943	日本のあちこちで国の暫定指針値を越える濃度が検出されています。 瀬野川水系の地下水から、有害性が指摘されている有機フッ素化合物（PFAS）が国の指針値を大幅に超えて検出された問題で、東広島市は、24 日、付近の地下水利用者を対象に説明会を開きました。 東広島市などを流れる瀬野川の源流付近の地下水 12 カ所から、有機フッ素化合物（PFAS）の PFOS と PFOA が、国の暫定指針値を超えて検出され、高いところでは、300 倍となりました 欧米では規制強化の動きが強まり、米環境保護庁は昨年 6 月、目標値で水道水 1 リットル当たり PFOS（ピーフォス）は 0.02 ナノグラム以下、PFOA（ピーフォア）は 0.004 ナノグラム以下とする新基準を発表しました。 　一方、日本は暫定目標値は PFOS と PFOA の合計で 50 ナノグラム以下と米国よりも緩いのに、国は規制強化は見送った。 欧米よりも日本は基準値が緩いのにその基準値を大幅に越えたり 300 倍の値が出ている所もあります。 日本の水を守るために基準値を欧米並みに上げてしっかり規制してください。 水道水を飲むのが怖いです。
0944	毎日飲む水は害のがないものでないといけない。微量だとかいう問題ではなく、蓄積されれば、いずれ病になり、死に至る。国の責任は大きい。
0945	日本の基準値があまりにも、緩すぎると思います。各家庭に浄水器の補助とかあれば少しは不安が抑えられます。 検討宜しくお願いします
0946	早急な原因の解消と住民の安全確保
0947	沖縄県の問題でなくなった途端、政府が動き出したことに無意識の差別、自発的隷従、思考停止を感じております。でも、私もあなたたちも今生きてて、子どもたちの未来を心配したり、自分の未来を心配する一人であると思っています。 是非とも自分自身・子どもたちのために今できることを！(1)保育・福祉・教育施設に PFAS 除去する浄水器設置をするべきだと考えます。(2)疫学調査を行ない（そのために税金を上げるなどはせず税金を正しく使う）汚染原因を突き止め、米軍や企業に責任を。(3)基準値を見直す。この世にない物質を生み出し、永遠に蓄積されるものなでもっと厳しい数値を出すべき。(4)日米地位協定の見直す。立ち入り調査できるようにする。日本だけできないということは相当舐められているか自発的に隷従しているとしか思えない。こんな大人でいいのか。と自分達の国・仕事を疑っていただきたい。リテラシーを高めて共にいい社会を日本をつくりたいですね。 是非ともよろしくお願いします。
0948	わが国ではカミネ油、森永ヒ素ミルクなどの食品公害や有機水銀による水俣病など数多くの口に入る物からの健康被害を経験してきています。これらの健康被害から同じ過ちを引き起こさない経験も得たはずです。それなのに国際基準を数百倍も上回る摂取基準を国が定めるなどまったく理解に苦しみます。国はどのような安全への担保をもっているのでしょうか？国際社会へ向けてもきちんと説明できるエビデンスをお持ちなのでしょうか？国民の命と健康を守る立場であるのなら、最低でも国際基準に合わすことが必須ではないのでしょうか。 再考を強く求めます。
0949	今回の評価書の一日の PFAS 摂取許容量（PFOS20ng/ｋｇ体重/日、ＰＦＯＡ20ng/ｋｇ体重/日）は、米国・欧州の摂取許容量よりも数百倍（米と比較で PFOS200 倍、PFOA666 倍／欧州と比較で 2PFAS で 64 倍）も高い。血中濃度に換算するとＰＦＯＳが 250ng/ml、PFOA が 143ng/ml と非常に高い数値を許容することになり、これもまた欧米の数値と比べるととんでもなく高い。日本ではやっとＰＦＡＳの汚染が明らかになってきて、すでに各地の住民が高濃度のＰＦＡＳ血中濃度を取り込んでいることも市民団体の血液検査等で分かってきた。でもまだまだその調査も十分ではない。健康への影響が分からないのだから「予防原則」であるべきだ。さらに血中濃度の高い住民、妊婦、子どももこの数値で摂取し続けたらどうなるのか？この国は守ってくれないと感じる数値だ。国際がん研究所（IARC）での PFAS のがんリスク評価を反映した上での数値再検討を望む。国際的知見を取り入れてほしい。今回の評価書では 2 物質のみ評価されましたが、PFAS は 1 万種類以上ある。未規制 PFAS の有害性、健康影響、環境調査なども望む。
0950	PFAS は沖縄、日本で各所で水環境の指針値を超過してる箇所が環境省の令和元年度に発表された調査内容で 37 地点もあり、年々その水質汚染は悪化の一方です。PFAS は発がん性、免疫力の低下、環境ホルモンのかく乱作用、コレステロール値の上昇、肝臓への毒性、男性は精子の質の低下、女性の乳がんや不妊の増加、子供の脳神経の発達遅延など本当に様々な人体への悪影響が懸念されており、血液に残留するため母体から胎児へも移行曝露し、様々な健康上の合併症への関連付けも米 CDC が発表しています。WHO の専門組織である国際がん研究機関 IARC も 2023 年 12 月の発表で PFOA の発がん性を「可能性がある」から「ある」に、PFOS も「可能性がある」に引き上げ認定されています。そんな中、日本の PFAS 接種許容量は欧米に比べて PFOA が 200 倍以上、PFOS が 600 倍以上と桁外れの数字となっており、日本における年々のがん発生者数、がんでの死亡率も増加傾向にある事実から、日本の許容基準値を国際的な基準と合わせてい

	く見直しを要求いたします。
0951	食品安全基本法には「国民の健康の保護が最も重要」と記されている。健康影響について科学的に証拠不十分だからという理由で TDI を見直さないというのでは、その基本的認識が蔑ろにされてしまう恐れがある。委員会は行政のためでなく国民のために TDI の見直しをしていただきたい。
0952	今回の摂取許容量がアメリカの 666 倍とは、ナントひどい話。私たちだけでなく、子どもや孫にも多大な被害が起こります！蓄積するためガン患者が増えます。守るために、絶対に下げて下さい。日本の将来のために！！
0953	アメリカの 200～660 倍の危険な状態なのに何も対策がないのはどんなものでしうか。 早々に対策をお願い致します。
0954	国立 PFAS の会では多摩地域での汚染の解明対策を求める各市と協力し、血液検査や地下水などの調査を行ってきました。国立市では検査に参加した 63%の方が米アカデミー基準 20 ナノをこえています。健康への不安の声が多くの市民から寄せられています。以下要望します。 1. 世界の流れに逆行する著しく高い摂取許容量は問題です。研究データ不足を言うのであれば、予防原則で対応すべきです。 2.IARC では PFOA の発がん性と PFOS の可能性を打ち出しました。この国際的知見を受け止めるべきです。 3.PFOS・PFOA この 2 種にとどまらず他の PFAS 毒性も評価すべきです。 4.最新の疫学調査こそ参考にすべきで、古い動物実験を持ち出されても納得できません。 5.すでに体内汚染がある住民への健康影響は？ 多摩地域の住民で行った 791 名の血液検査は、汚染された地下水を水源とする水道水の利 用で、半数近くの方が米アカデミー基準 20 ナノをこえています。今回の規制値では規制強化ですらなく、現行の追認です。将来への健康・安全が担保されません。見直しを強く求めます
0955	確かな安全性(または危険性)が確保される基準を明確に示して、定期的な調査を行い、暮らしの水を守ってほしい。 命に関わる大切な水、特に子供、妊婦さんの体への影響を出来るだけ避けてほしい。 基準地を超える地域への浄水器の提供や、影響のある農業従事者への支援をしてほしい。 また、今後各地に被害が広がる事が懸念されているため、原因とされる企業や業者への罰則を設け、地方自治体任せではなく、政府が問題の解決に向けて主体となるべきだと考えます。
0956	沖縄県在住です。子ども達への影響が心配です。小学生などはそのまま水道水を飲んだりするので、体内に PFAS が蓄積されていないか気になります。 税金にて保育や教育の現場、福祉施設に浄水器の設置を求めます。
0957	食品安全委員会が 20ng としたのは驚いた。なぜ、食品安全委員会は非常に高い濃度を安全だと言えるのか。国民に説明すべき。許容摂取量の見直しを強く求めます。人の命を何だと思っているんだ。
0958	次世代にも影響するので是非世界水準と同じ規制を望みます
0959	PEAS 規制に賛成します。人体に有害かどうかわからないなら、なおのことしっかり調べてください！　とても不安です。子どもたちの明るい未来のためにも規制をお願いいたします。
0960	有機フッ素化合物（PFAS）の基準を 0 にしてください。少なくともアメリカ並みにと考えます。
0961	なるべく使いたくないだ思って、鉄製品などを使っておりましたが、 若い者が使っていて置いていった鍋、 高齢のおばが便利に使っていて亡くなった後もらってきた卵焼き器など、 手元にあれば、現在つい、使ってしまいます。便利が良いことだろうか、手元に置くとつい使う、と気づき，やめようと思います。
0962	飲料水を含む～身体に取り込む物質は大人が選別して成長期の子供に与える義務があると思います。身体に危険な化学物質は絶対に市場に流通させてはなりません。国の方針に反対します。
0963	昨年 8 月兵庫県議である私が明石市民 9 人の血中 PFAS 濃度を調べたところ 4 PFAS 合計平均 23.5ng/ml となり、全米アカデミーズ委員会基準 20ng/ml を 3 人が超えドイツ基準 PFOS20ng/ml、PFOA10ng/ml を 6 人が超えた。PFAS 汚染された明石川の水を浄化して使用している明石市水道水 PFAS 濃度は、2020 年度最高値 48ng/L、2021 年度 38ng/L、2022 年度 19ng/ml となっている。 小泉昭夫京都大学名誉教授によると、食品安全委員会が素案で示した TDI20ng/kg/日は血中濃度 PFOS<250ng/mL、PFOA<143ng/mL となるが、全米アカデミーズ委員会及びドイツの血中濃度基準とかけ離れて高く安全性に大きな疑問が残る。 評価にばらつきがあり判断が難しいのであれば、予防原則を考えた上で、欧米の基準を暫定的に採用し、知見を集めた上で判断を変更するのが妥当。 また、昨年 6 月頃 EU の PFAS 規制案について、経産省や経団連などが、規制強化に反対でパブコメ意見を提出している。他国の規制強化に、経産省までが、規制強化に反対する姿勢を鮮明にするのは異常だと考える。
0964	食品安全委員会パブコメ案についても、産業界などから多数の意見が寄せられていると思うが、PFAS で 1 人も健康被害と出さないと強い意志を示し　科学的に中立で予防原則の立場に立ち、TDI を欧米並みに厳しく設定すべきである。 2023 年の EPA データ（低出生体重、免疫等）などの TDI 再評価が不可欠。
0965	とにかく安心して暮らしたいんです。 国がきちんと PFAS 類の安全基準を示して、水質と土壌汚染から国民を守ってください。 私たちは農作物、海産物を毎日食べて生きているんです。そして子どもたちは育つのです。 昨今、大人も子どもも凡ゆる健康問題が顕著です。 人間の身体は、食べたもので出来ていますから大至急ご対応ください。 風評被害・風評加害に留意も必要ですが、誰かを責める前に『やるべきこと』があります。 STOP 公害です。
0966	安全な水を安心して飲みたいです。ちゃんと調べてください。
0967	水道水は安全にのむことができると思っていました。有機フッ素化合物（PFAS）が混入している可能性のある水道水は飲みたくありません。また、安全性についても調べることが必要です。
0968	アメリカや他国では健康被害があると立証されているにもかかわらず、日本の対応が何十年単位で遅すぎる。早急に対応し、基準や規制をする必要あり。 日本の環境問題がそのまま健康問題になってるのは明らか。

0969	欧米の数値と比べても高い基準設定となっていることに不安を感じました。私の住む地元では、ダムの貯水率が低下したことから、PFAS 問題で中止していた川の水を使うことが再開され不安に感じているところでした。日常生活が安全に安心して過ごせるように、基準をゼロに近づけて頂くことを切望します。
0970	日本政府による PFOS・PFOA の規制値は非常に緩く、納得できるものではありません。このままでは、今後も人々の健康に悪影響を与え続けることになり、とても憂慮しています。即刻、基準値を欧米並みに厳しくし、法的拘束力を伴うものにして下さい。PFHxA などの代替 PFAS も予防原則により、同様に規制して下さい。関西では最大の汚染源である、大阪摂津市にあるダイキン工業淀川製作所による環境汚染、及び人体汚染と被害の実態を明らかにして下さい。そして血液中の濃度の高い人々、健康被害が生じている人々の支援を要請します。
0971	東日本大震災の際の、地震そのものや津波の大きさについての予測、放射線の測定やその後の対応についてアメリカの申し出を断ったこと、古くは水俣病などの公害の歴史…etc を眺めると、日本の行政機構の、その独善性、視野の狭隘さ、悲劇的で滑稽なまでの楽観性…etc を感じずにはいられません。 どう考えても敗戦は不可避なのに、非科学的な「精神性」のみで戦局を乗り切れると信じていた、先の大戦での為政者たちの考え方に通底する「心性」を見る思いです。 ですので、今回の PFAS の基準に関しても、人々の「命」を脅かす恐れがあるものに対しては「悲観的な予防原則」に基づく対応を、ぜひお願いします。 下手な打算や忖度や警戒や保身や矜持…etc に基づく判断をしなければ、できないことはないはずです。 台湾有事の脅威に対しては、沖縄本島や先島諸島の軍事施設を、まさに「予防原則」に基づいて、次々と新設し補強しているのですから。
0972	食品安全委員会は有毒性が高い PFOA, PFOS の摂取許容量を見直してほしいです。体力的にも弱い子どもたちの健康被害がとくに心配です。こんなに大変な問題なのに 10000 人の署名がないと総務省が対応しないことに驚いています。 お願いです。国は早急に有機フッ素化合物汚染問題に取り組んでください。
0973	実際に健康被害が起きる前に、 EU のように予防原則の立場から規制強化を求めます。 命と健康を守るために 欧米並の低い基準にすることをお願いします。
0974	おかしなことには断固抗議しましょう！
0975	危険なことはわかっているので、規制強化してください。健康被害が出てからでは遅いです。
0976	厳しい規制値をお願い致します?
0977	PFAS・PFOA などは化学的安定性により、体内に蓄積されていく。その発生源は、主に在日米軍・自衛隊関連施設といわれている。また国内で特許取得したダイキン工業の工場周辺や、その処理として使われた活性炭仮置場から流出したものが多いとされている。しかし、立地する自治体や伝える報道は、あいての強力な権力と情報制限、立ち入り制限により内部調査ができないことが一様に見られる、また、企業側の真摯な対応では無く住民懐柔に力を注ぐ姿勢も見られる。欧州パブコメでも日本企業が大量に組織的に応募している状況があるように報道されている。日本企業のこの問題に対する姿勢が表われている。深刻な公害加害を繰り返した日本企業は率先して、この問題の科学的解析を行い公表すべきである。知っていながら隠しているという疑いさえもたれかねない。国際的に遅れない基準と対策、使用制限・禁止処置を講ずるべきと考える。
0978	米軍基地が集中する沖縄では、米軍基地で使用される PFAS を含む泡消化剤では周辺の土壌、水、食物等が汚染されました。特に 45 万人の県民に給水されている北谷浄水場の水は長年、高濃度の PFAS で汚染されてきました。PFAS はとりわけ胎児や乳児への影響が大きく、出生体重の減少、感染症の免疫力を低下させる等、国内外の多くの資料で指摘されています。長年、高濃度の PFAS 汚染水を飲まされていた沖縄県民の低出生体重の出生率はこの 50 年間、全国 1 位から 2 位を推移しています。食品安全委員会は PFAS の乳胎児に対する影響も調査されたのでしょうか。科学的な不確実性を口実に PFAS 対策を遅らせるのではなく「予防原則」に基づいて、PFAS 濃度を欧米なみに低くすべきです。
0979	今回の許容量では心配です。 アメリカ並みに下げて下さい。 多摩地域だけでなく全国的に有機フッ素化合物の汚染が表面化しています。今のうちに摂取許容量を下げないと子供や孫の世代まで健康被害が心配です。 証拠不十分ということなのでなおさら疫学調査が必要です。多摩地区はじめ汚染地区を中心に血液検査を始めてください。
0980	食品安全委員会が、「20ng が妥当」と判断したことに、大変驚きました。 米国や欧州よりも数 100 倍高い値です。 高齢者や乳幼児、妊婦の人達の安全は、守られるのか？ 大変心配です。
0981	せめてアメリカやドイツと同等の基準にしてください。将来的に健康リスクが高くならないように厳格な基準をお願いします。
0982	標題：有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）についての意見・情報の募集について 大阪 PFAS 汚染と健康を考える会の関係から、PFOA がアメリカの基準と比べ 666 倍、PFOS は 200 倍を超えていると聞きました。発ガン性の可能のあるものを外国と比べ異常なほど、緩い基準で、人体実験でもしているかのようです。 食品健康影響の再評価や水こ規制強化を求めます。 癌になる人を一人でも減らすために、お願いします。
0983	PFAS 問題の原因は米軍・自衛隊基地とダイキン工業などの製造企業及び、吸着した活性炭の保管場所にほぼ特定されている。こうした発生基地、企業は権力を振りかざしたり、自治体の雇用などの関係で調査協力に消極的か否定することが多い。周辺で汚染が確認された場合、自治体・周辺住民の希望で、敷地内の調査の受け入れを義務化し、その費用負担も法制化する事を求める。日米地位協定を盾にする事があるが、当然この国は日本国憲法の命と暮らしを守る＝生存権が優先する。この原則を法律として打ち出すことを求める。
0984	PFAS の摂取量の基準が海外と比較して日本は甘すぎると思います。長期的に健康被害が出ていてもそれが原因だと気づいていないだけなのではないかととても不安です。自分たちのこともそうですが、子どもたちに出来得る限りいい社会を遺したいです。基準を甘くするのは、企業などの目先の利益の為でないかと推察されますが、目先のことばかりに囚われていたらより良い方向へは向かいません。私たちの健康と生命に関わる問題です。どうか安全と安心を最優先に。

0985	有機フッ素化合物の健康被害を懸念します。もっと 広く周知して 基準値を世界レベルに してください。国民の健康健全な 生活を目指すことをしなければこの国の将来 こどもたちへの安全な未来が 損なわれることを危惧します。
0986	あまりにも基準が緩すぎます。これではアメリカでおきてる被害よりも多く起きてしまう。発がん性もかなり高く、自然に分解されないものをこんな緩くしてしまうと海外から日本の輸出品が忌諱されてしまうと思う。
0987	子どもが通う小学校（東久留米市内）の専用水道が PFAS 汚染されているということを知らされて以降、大変憂慮し関心を寄せている。自分なりに新聞や本で調べてきたつもりだが、今回の貴会の健康影響評価の結果には衝撃を受けた。欧米と比べて全く話にならない。１１月末には WHO も「発がん性あり」という評価を発表したのに、貴会は何をどう研究してこのような結果を出したのか、意味がわからない。国際社会からもどのような目で見られるか考えてほしいし（無知蒙昧さが恥ずかしい）。何より、国民の命を守らなくてはいけない責務があるということを、胸に手を当てて考えてほしい。貴方達にも子どもや孫、大事な家族がいるのではないですか？　いないとしても、ご自分の健康について心配ではないですか？　誰かに脅されてこんな結果を出さざるを得ないのか？何に忖度しておもねっているのか？　科学者・医学者として後悔しないのか、貴方達の矜持や尊厳も心配です。これでは PFAS 鎖国です。今からでも開国して、国際社会と同じ土俵に上がって考え直してください。どうかお願いします。
0988	欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍というのはむちゃです。 信じられません。改訂するべきではありません。
0989	多摩はじめ、PFAS の汚染が問題になっている地域が多くあることを知り、大変不安です。 欧州、米国に比べ、許容摂取量が格段に高いのはなぜでしょうか。 発ガンリスクがあると言われているならば、予防原則の意識で対策していただきたいです。
0990	基準案を見て驚きました。 なんと国民の命を軽く見ているのかと。 日本の基準がなぜ欧州の 60 倍、米国の 200 倍に設定されるのか。 怒りしかありません。 東京多摩地区では検査の結果、癌発生の危険のある人が多く出ています。 命の水、1 日も欠かせないものが安心して飲めるようやり直しを強く求めます
0991	日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い基準を安全とする根拠がなく、不適な基準と考える。 私の居住地域の PFAS 血中濃度が高いことは既に調査で明らかになっている。国際がん研究機関ならびに米国・環境保護庁は PFOS、PFOA は発癌可能性を認めた。将来的に癌のリスクが高まった当事者として、アスベストのように補償もないなか何の対策もされないことに不信感と憤りを感じている。 また欧米は「低出生体重」「ワクチン接種に対する抗体価低下」など子供達に 関わる重大な有害性を認め、厳しい指標値を設定しているにもかかわらず日本の食品安全委員会は 2016 年の古いデータに依拠している。日本も「予防原則」に立ち、国内外の陽性所見をすくい上げ、評価を更新すべき。 食品安全委員会は「予防原則」に基づき国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう「発癌性」を認め、「PFAS ゼロ」を目指す欧米と共に日本も先進国として「ゼロ」を目指すべきだ。
0992	基準が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍で、この数値が飲み水の水質基準に使われるとの情報があり、非常に不安です。 日本もせめて欧州並の基準にし、国民に分かりやすく情報提供してください。
0993	評価書（案）の『国内での PFOS/PFOA の 1 日あたり平均推定摂取量』は、飲料水の曝露実態を正しく反映していません。この推定摂取量の算出に「農水省」2012 年～2014 年度 18 食品群での調査を基礎としましたが、うち「飲料水」については「ペットボトル２L＋東京都水道水２L の混合水」を分析したものであることを確認しています。1 日に飲用・調理で摂取する水の半分をペットボトル水を利用する国民はどれほどいるでしょうか。実際には 100%水道水を飲料・調理の水として使用しています。小中学校の給食でも浄水器利用はなく水道水をそのまま麦茶や給食で使用しています。同じ 2012～2014 年に、東京多摩の浄水では 2013 年「府中武蔵台浄水所」で 159ng/L、「東恋ヶ窪浄水所」では１３４ng/L の水が配水されました。水は３～４L 使用しますが、国民の曝露実態を反映せず飲料水の摂取寄与率を過小評価したデータを元に「平均推定摂取量」を算出している点で、この評価書案は信用できません。 つまり、食品安全委員会の「推定摂取量」は、飲料水について、一般的な（特に汚染地域）住民の生活実態を反映していないと考えられます。
0994	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚きました。また米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いと聞いてとても不安です。そんなに日本では有機フッ素化合物が井戸水に浸透してしまっているのでしょうか？子ども達が長い年月飲んだらどうなってしまうのでしょうか？科学的な不確実性を口実に対策を送らせることなく、「予防原則」に立ち、総合的な判断を求めます。
0995	PFAS の許容摂取量が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍なのはどう考えてもおかしい。再考すべき。
0996	沖縄で PFAS の問題が大きく取り上げられてから、瞬く間に全国の自治体で、PFAS 汚染の実態が次々に発覚し拡がりました。 (1)発がん性等の危険性が確かであること (2)米軍基地や自衛隊基地周辺に多い (3)PFAS 関連の工場や企業周辺に多い 日本政府及び食品安全委員会は、PFAS の食品影響評価に係わる審議を厳密に行い、欧州やアメリカのように、国民の生命を守り、安心安全な生活と子供たちを元気に生み育てられる環境を確立してください。
0997	基準値をアメリカ並みに下げて下さい。
0998	健康被害が危惧される PFAS の基準値をなぜ変更するのですか？ その値はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍、あまりに日本に住む人の命を軽視し棄損していると思います。 私は、きれいで安全な水は日本の大事な資源であり、日本が世界に誇れるものの１つだと思っていますが、ますます世界からも日本国民からも信用、信頼を失うと思います。
0999	有機フッ素化合物に係る食品健康影響評価に係る審議結果案について、反対です。

1000	ありえないです。 欧州アメリカは人体への影響があると結論付けているのに、何を根拠に影響は限定的と判断したのですか？ 基準値が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍、異常です。 行政は企業活動の支障になる要因を排除するために動いてるのですか？ 市民の健康を守るために動いて下さい。
1001	日本の官僚や政治が　国民の健康　未来の子供達を大切にするのであれば 当然規制は厳しくなる 経済を優先するのであれば規制は緩くなるでしょう 地球上で一番厳しい規制値にして欲しい 単純に今後の使用を禁止　＋　　除染を進める
1002	PFAS の基準値が、欧米と比較して高すぎます。 市民の健康をいかがお考えか。 直ちに欧米並基準に変更し、超過している地域に対処願います
1003	PFAS の許容摂取量案。欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍と驚愕の数字ですね。この数値が飲み水の水質基準になれば健康被害の恐れがあるのではないでしょうか？企業に不利な状況を避けようとしていると勘ぐってしまいます。 国は医療費の心配はするのに、国民の健康には関心が無いことがよくわかります。
1004	PFAS の許容摂取量案、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とのこと、この数値が飲み水の水質基準に使われることに懸念します。飲み水は安全とは言えないのではないでしょうか。
1005	PFAS の基準値があまりにも緩すぎです！おかしいです。何よりも市民の安全を第一に考えて下さい。人は水がないと生きていけません、できる限り厳しい基準値を設定しなければいけないと思います。PFAS が原因でがんに罹ってしまう人を増やしたくありません。去年がんを宣告された身からすれば尚更そう思います。特に基準値の見直しを強く求めます。
1006	なぜヨーロッパと日本でこれほど規制に差があるの？ おかしくないですか？ 誰かに忖度しているのではないですか？ 誰かの圧力があるのではないですか？ お願いだから、ヨーロッパと同じ基準で規制してください。 お願いだから、これ以上、有害物質で私達の健康を阻害しないでください。 国民の健康を必ず守れる基準にしてください。
1007	食品安全委員会による PFAS の許容摂取量案を拝見しました。 日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍というのは全く理解できません。水なしで人は生きていけません。国外の脅威ばかりがいわれますが、国が国民の安全を守るべきだと思います。国民の安全を守る方向性で、許容摂取案の大幅な見直しをお願いいたします。
1008	食品健康影響の指標値を、厳しさにおいて世界最高レベルである米国の値を参照して、PFOS　0.1ng/kg/日、PFOA 0.03ng/kg/日とすることを求める。 その理由は、次のとおりである。 アメリカ・環境保護庁の摂取許容量（2023 年案）は、PFOS　0.1ng/kg/日、PFOA　0.03ng/kg/日である。 これと比較して、食品安全委員会が今般示す値は、PFOS 及び PFOA のいずれも 20ng/kg/日であり、桁違いに大きい。 PFOS 及び PFOA の摂取による人体健康影響の評価については、科学的に相当の不確かさを伴っているのが現在の研究状況である。そのような現状において、国民の健康を守る上から、世界的に最も厳しい規制値を採用すべきである。
1009	日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍。日本人だけは耐性があるのか？あるのであればエビデンスを示すべき。ないのであれば、米国基準と同様にすべきである。本基準案を破棄し、再検討すべき。 ※記入例を欄内に記載するようなありえない仕様については改善すべき。必須でない FAX 番号をそのままにして内容確認に進もうとするとエラーが出るとか設計が無能すぎる
1010	日本の基準値は、現在高すぎるので米国の基準値と同等レベルまで引き下げてください
1011	PFAS 一日当たりの許容量が欧米と比較して高すぎると思います。 国際的な知見への逆流ではないでしょうか。 地元のダイキン工業による PFOA 汚染の調査が緩すぎます。 摂津市、大阪府、政府がまともに取り上げていないのは不満です。
1012	PFOS と PFOS の発がん性について、「証拠は限定的」と記しているが、これは国際がん研究機関（IARC)による「発がん性がある」との評価に一致しない表現であり、一致するように修正を求める。 その理由 「発がん性がない」ことが全面的に証拠立てられない限り、「発がん性がある」と評価すべきである。また、国際的な評価を尊重すべきである。
1013	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量(案)の数値が 20ng と知って愕然としました。SNS ではアメリカの 200 倍と騒がれていますが、心配して当然の数値だと思います。いったい国民の命を何だと思っているのでしょうか？発がんや奇形児が生まれる可能性が高いものなのに、本当にこの数値で大丈夫と言いきれるのですか？食品安全委員会やこの数値を良しとする政治家の皆さんは、この数値の水を半年でも 1 年でも毎日接種してみて安全かを検証していただきたいですね。それが出来ないなら、もっともっと微々たる数値にするべきだと思います。
1014	有機フッ化化合物（PFAS）の飲料水や食品中に含まれる基準を、勝手に高くしないでください。単なる線引きを緩くしたクリアランスはやめて下さい。飲料水や食品中の有害物質は限りなくゼロに近づけるべきものです。井戸水などが使えなくなる、知らずに井戸水を飲み続けてしまったなど、日本国内での被害は余りにも大きいと考えます。 ニュースや報道でこれだけ日本国内に PFAS 汚染が広がっていた事を知り、健康被害が懸念しています。見えない物に対策を怠れば、多くの国民の健康が損なわれ医療費の増大や医療資源の逼迫、早死や不妊少子化につながります。 健康診断内の血液検査で、PFAS 濃度の検査項目を追加できるようにして、現在での PFAS 汚染濃度状況をデータとして残すべきです。

	米軍基地からの汚染は、米国政府に回収や浄化の賠償請求をすべき事です。出来ないなら思いやり予算を減らしてでも賠償させてください。 日本政府としても、PFAS 汚染を浄化改善を速やかに計画して行なってください。
1015	私は、東京・多摩の住民の血中 PFAS 濃度の検査の取り組みに参加しました。東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知りました。原因として米軍基地の PFAS を含む泡消火剤の大規模漏出により、汚染された井戸を水源とした水道水を取り込んだ可能性があると指摘されています。私自身は、汚染が強い地域に住んではいませんが、それでも少なからず暴露していることがわかりました。これは日常生活から摂取しているのではないかと思います。 　食品安全委員会が「２０ng が妥当」と判断したことに驚いています。 日本の食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、アメリカの PFOS で２００倍、PFOA で６６６倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準と聞いて不安になります。米国のミネソタ州は先陣を切って、世界で最も厳しい PFAS 規制（２０３２年までに PFAS を使用した製品を原則禁止する州法が成立）に動き出したと報道されています。リスクが非常に高いから大きな危機になる前に回避しようというのは当然なことであり、子供の未来のためにも日本も「PFAS ゼロ」を目指すべきであると思います。
1016	日本の食品安全委員会が PFAS の許容摂取量案は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍となっているのは何故でしょうか？健康影響を考えれば、そのような高い基準で良い事にするのはおかしいのではないでしょうか。このまま大丈夫という事であれば、問題ないという調査結果などを示していただきたいです。
1017	人間に不可欠な水の安全性をせめて欧州並みの基準にして下さい。催奇性などの不安もあり、未来に禍根を残す物となります。日本を日本人を守ってください。
1018	PFAS の安全基準値をゆるくすることに反対です。ＥＵ並みの厳格化を望みます。
1019	令和 4 年度での東京の地下水質調査結果の時点で府中市は現行の基準値を大きく上回っているにもかかわらず、住民に何の説明も行われておらず、非常に不安です。 水道水でなくなるべく市販の水を使うようになり、家計への負担も半端ではありません。にもかかわらず、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍の基準値を提案するなどもってのほかです。ゴールポストを動かしても何の意味もない。真面目な調査と対策、そしてオーバーしている地域住民にはきちんとした現状の周知と説明を強く求めます。
1020	PFAS 規制を強化してください。在日米軍基地含め、立ち入り調査の権限を強化してください。
1021	食品安全委員会が策定している PFAS の基準を国際的潮流に反した非常に高い水準に設定する理由が全く理解出来ません。断固反対です。 令和 5 年度も基準値以上の濃度を検出された府中市の企業として不安しかありません。 将来を見据えず無責任としか言えない許容摂取量（案）の見直しと改善を求めます。
1022	実家が多摩地域にあります。 PFAS の許容摂取量案、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とは到底理解できるものではありません。限りなくゼロに近いものにすることが世界の常識ではないでしょうか。 安全保障と言うなら、これほど優先すべきものはありません。飲み水は国民の健康の基本となるものです。しっかりしていただきたい。
1023	東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないか。
1024	私の住む大阪府吹田市の隣に摂津市があり、そこにダイキン工業がありますが、PFAS の中の PFOA を製造していて周辺の川に流していたのに その事実を隠しているようです。会社、行政も含め調査できるようにするべきです。現在の国の基準値は欧米諸国と比較しても高く、安心できるものとは思えません。もっと下げるべきです。
1025	許容摂取量が、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上とのことで、驚きました。どうして日本だけ有害物質に対してこうも寛容なのでしょうか。国際的な発がん性評価を取り入れてください。日本の水は安全だと海外の人からも評価されていたのを過去のことにせず、国を大事にしてください。お願いします。
1026	東京民報を読んで、日本は国際的な流れに反して、許容摂取量（案）が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えている事を知りました。 許容摂取量（案）の見直しを強く求め、国民の健康・安全を担保される様に対応をお願いします。
1027	PFAS の許容摂取量案は、欧州の 60 倍、米国の 200 倍とのこと。日本国は国民の生命や健康をここまで軽視しているかと驚きました。広島県東広島市では米軍弾薬庫近くの井戸水から高濃度の PFAS が検出されているそうです。米軍は自国ではＰＦＡＳの扱いに気をつけているでしょうが、原案は「日本ではどうぞお気楽に」というメッセージになります。 PFAS の許容摂取量は米国より厳しくあるべき。植民地根性はやめて、自国民の生命や健康をしっかり守ってください。
1028	最近ニュースや SNS で PFAS の問題を知りました。欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍の許容摂取量案が示されているとのことですが、これで通すのであれば安全性について根拠を持って一般市民が理解できるような説明が必要であると考えます。また、すでに地下水汚染が問題化している中でのこの案は人命を軽視し忖度された数値と思われかねません。見直しをお願いします。
1029	諸外国と比べて極端に緩い基準に設定する根拠は何ですか？ エビデンスを元に「こうだから日本だけこんなに緩い基準」と言うことを示してください。 また、パブコメに住所等を必須項目にするのは何故ですか？ 個人情報まで聞き出しす必要はまったくありません。 どの立場からの意見かで何か対応が変わるんですか？ 意見に先入観や偏見を持ち込むんですか？
1030	なぜ他国と基準が違うのですか？ 毒性がかなりきついものだということを知らないわけがありませんよね。 できる限り厳しい基準値で設定してください。 人の命と健康に関わることですから。
1031	報道では検討中の有機窒素化合物の安全基準は諸外国と比べ桁外れに緩い基準とのこと、せめて欧州並みに厳しくすることを求めます。
1032	摂取許容量（案）20ng/kg/日を低く改めるよう求めます。米国環境保護庁 EPA の 2023 年規制値である PFOS で 0.1ng/kg/日、PFOA で 0.03ng/kg/日とすべきです。 　従来、国の基準値策定では、国際がん研究機関 IARC の発がん性評価を基本としてきましたが、今回はこの基本を無視

	しているので問題です。国際がん研究機関 IARC では、PFOA は「発がん性がある」」、PFOS は「発がん可能性がある」と評価しました。食品安全委員会でも国際的知見を受け止め、「発がん性」を認めるべきです。 　また、2016 年以降の疫学研究結果を退け、米国環境保護庁 EPA が 2016 年に飲料水基準値を策定する際に採用した動物実験結果をもとに摂取許容量を導き出しましたが、有害性の特定ではヒトの疫学データを優先すべきです。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく、「予防原則」にたち、健康への悪影響が未然に防止される指標値にすべきです。 　PFAS は 1 万種類以上あり、PFOS、PFOA 以外も健康への悪影響の可能性があり、PFHxS などの毒性評価も行うべきで、欧米のように PFAS ゼロを目指すべきです。
1033	大切な家族が日野市に住んでいます。米国や欧州の許容摂取量より、大幅に緩い基準値で問題ないとされてることに怒っています。最低限、米国や欧州の許容摂取量を基準にすることを強く求めます。
1034	将来の子供たちに対する影響を考え、反対します。
1035	人体に甚大な被害を与える PFAS の許容基準値が日本は緩すぎる！ なぜ欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍にも上げるのか許せない！ 高い水道料金支払わせ、病気まで発生させようとしているではないか！ 日本の未来を見据えて、国民が安全、健康でいられる国を目指すべきだ。
1036	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。また、 この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。 子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないことだ。
1037	PFAS については健康被害の可能性が高いことから、日本国内で規制の基準を厳しくすることを求める。人体における影響を調べるための研究を推進し、実際に健康被害に遭っている方達がいれば、治療法を啓蒙するなど国としての責任を求める。
1038	世界の趨勢に反して、このような緩い基準にすることは納得できません。TDI をいったん設定してしまえば、その値以下であればいい、ということになり、むしろ汚染は進むでしょう。しかも、被害から回復するすべもまだわかっていないのです。このような段階では厳しい予防原則の適用が必要です。TDI の早急な見直しを求めます。
1039	少なくともアメリカ、欧州と同じ基準にしてください。 地下水は何時でも飲めるようにして下さい。
1040	欧州の 60 倍 アメリカの 200 倍 とても日本国民の健康を考えている方々の意見とは思えないです。健康被害が明らかに出始めてからでは遅いのです。人口がこれほど減ってきている状況で、水までですか。人間にとって 1 番大切な水を危ないものにしないで頂きたい。
1041	PFAS の許容摂取量案が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍との事。 この数値が飲み水の水質基準に使われる事は反対です。 いい加減日本人が不健康になる為の政策を止めてください。
1042	食品安全委員会による PFAS の許容摂取量案が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍ということですが、同じだけ再現するようにしてください。 日本の飲み水は汚い、 日本の食品は汚い、 そんなふうに決めたくありません。きれいな水とおいしい食品にしたいです。
1043	なぜこのような数値になったのか、発ガン性を WHO は認めました。世界中で問題になっている PFAS、対応の鈍さ、本気で取り組む姿勢がない。水の汚染は飲料水のリスクに、とどまらない、EU では、0.65ng/l、魚を摂取した人に有害となる可能性に基づいて設定されたもの。各国で基準値が低くなってきているのに、なぜ？予防原則という意味、水俣など過去の公害を見てゆくと、後手に回った結果を憂う。命よりケーザイを優先した結果、今だに水俣問題は、続いています。それは、国の基準の誤り、嘘の上塗りを重ねた結果です。一刻でも早く基準値をせめて欧米並みに、4ng／l に、してください。兵庫県明石川での神戸市、明石市をまたがる汚染をとめるには、基準値を低くして、産業廃棄物処理を厳しく管理することが急務です。これ以上の汚染を止めてほしい、すでに 10 代の子どもに高い血中濃度が出ています。水を明石川から取水しないようにする、そんな問題ではありません。これは、公害問題です。自治体任せにして地域を分断するようなことをしないでほしい。
1044	欧米と基準値が全く違っていますが、どういった理由からでしょうか？安全性に不安を感じてしまいます。
1045	米国許容量の基準に近づけていただきたい。 国民の健康を守るのが皆さんの役割です 危険性があるならば、より低値に設定することが必要と思います その他の食品添加物基準値の異常さや認可種類の多さは 現在の国民の健康に悪影響を及ぼしています これ以上国民の健康を阻害する物質を増やさないでいただきたいです 病院受診者数や薬の消費量がすべてを物語っています 病人だらけの日本！　これで良いのでしょうか？
1046	PFAS の許容摂取量案が欧州の約 60 倍、アメリカの約 200 倍とはあまりに緩すぎではないですか。飲料水等として身体に入るものですから影響が出てからでは遅いです。より厳しい基準にすべきと考えます。 再考をお願いします。
1047	この許容摂取量「20ng/kg/日」は欧米の基準に比べ著しく高く緩過ぎる。欧米ではこれよりはるかに厳しい基準なのにさらに厳しくする動きもあるというのに、なぜ日本ではこのような結論になったのか。特に感受性が高いとされる妊婦や乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだ。これでは裏で利害関係者からの圧力や利益供与があったのではないかと疑わざるをえない。本当に国民の安全と健康を考えられないなら、委員会の存在意義がない。強く抗議したい。
1048	東京多摩地域付近に住んでいます。 ニュースで東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知りました。 水道水に関する農薬残留濃度もどんどん基準が緩くなっています。 本当にこれで守れるのでしょうか。 研究データも十分ではないようで、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすように対策を講ずる必要があります。

	利益優先でいろいろ開発し、それにより問題を後回しにする企業にも問題があります。 将来の子供たちの事も考え、もっと厳しい基準にすべきです。 過去、日本で起きたことを学んでください。
1049	人体に有害な物質は、削除して下さい。
1050	欧米が基準を厳しくしている中で日本の対応が遅れているように感じます。 発がん性など先の長い子供たちや若い人たちが苦しむ可能性のあるものは少しでもなくしていった方がいいと思います。
1051	PFAS の一日摂取量の基準値が高すぎるので見直してください。
1052	欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍の基準値にするとは人間の命を何だと思っているのか。 国民を馬鹿にしているにもほどがある。 基準の厳格化を強く要望する。
1053	環境立国を標榜して久しい我が国にあっては、かつ水俣病をはじめとした公害病の反省に真摯に向き合う我が国として、有害物質の基準値を国際基準よりも厳しくし、もって国家の威信とし国際的な地位の確立に資するべきと考える。PFAS の基準を国際基準よりも厳しくすることは、我が国の国益に資するものであり、かつ我が国の技術力をもってすれば容易いであろう。また、本技術開発を他国は買い求めるであろう。何よりも国民と全世界の人々の健康と安全を第一義とする誇りある日本として、国際基準よりも厳しい基準は当然の責務であるとともに、基準値を緩めることは、売国行為であり、国民への裏切り行為との誹りを免れないであろう。以上、PFAS をはじめとする有害物質や有害物質と目されるものへの国際基準よりも厳しい国内基準を求める。
1054	なぜ、日本人は薬品漬けにしたがるのか、理解出来ない。無駄な薬品投与には、反対です
1055	水道水暫定指針値 50ng/L を維持するために今回の提言を出したように見える。 新しい疫学調査程、厳しい結果が出ている。知見が積み増された結果である。今回の耐容 1 日摂取量 20ng/kg/日はそれを無視している。 TDI　PFOS、PFOA 共 20ng/kg/日に設定すれば血中濃度は 100ng/ml を超え、全米アカデミーズ委員会が健康へのリスクが高くなると指摘している血中 7 PFAS 合計 20ng/ml、ドイツが緊急に暴露対策を取る必要な値とする PFOS20ng/ml、PFOA10ng/ml を大きく超え、危険である。 PFOS、PFOA の発がんリスクを調べるために、高濃度汚染地域での住民の血液検査と疾病の状況についての疫学調査を実施すべきである。
1056	立川市で働いており水道汚染のニュースに怒りを感じています。PFAS は発がんの可能性があり、日本での研究はあまりなされていません。アメリカでは基準値が近年見直されました。日本の基準値より遥かに下回っており、日本の基準値では危険だと思わざるを得ません。20 年以上立川市で働いており水を利用しているので私自身健康被害があるのではと、恐ろしいです。もしこのまま行くのであれば、日本の 50 ナノグラムの基準値が本当に安全なのかその根拠を公式に示して下さい。安全な水が飲めなくなるのは困ります。また長年暮らしてきた住民の健康被害の検査も合わせてお願いします。
1057	水は人の体に欠かせない命に関わる大切なもの なぜ日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎている、やり直しを切に望む
1058	私は明石川を水源の一つとする水道水を飲んできました。明石川と水道水における PFOS+PFOA の年度毎の最大濃度(ng/L)は、2020～2023 年度で 226（27）～490（38）の範囲に入っています。（　）内は私が飲んできた水道水の濃度です。神戸市と明石市は法的根拠がないとの理由で住民の不安解消につながる施策を講じていません。いつになったら、汚染がなくなるのか不安で仕方ありません。 米国では、デュポンや 3 M が 2017～2023 年に個人・州政府・水道業者・自治体水道局からの訴訟で合計約１１８．６億ドルもの和解金を支払うことで合意しています。PFAS 汚染が莫大な被害を与えていることの証左です。この状況を踏まえて環境保護庁は PFAS の法的規制を順次強化し、2023 年 3 月には PFOS も PFOA もそれぞれ 4 ng/L という規制案を発表しました。 米国で起こっていることが日本では起こらないと想像することができません。日本でも水道水や公共用水域に関して米国と同様な上記規制値を採用した上で法的規制を行い、評価書案の指標値に基づいた値では法的規制を決して行わないようにしていただくことを要請します。
1059	他の国に比べて多くありませんか。人体実験みたい。
1060	地元の鮮魚店では汲み上げた井戸水で魚を下処理し、氷を作っていて味がとても良いと評判でした。ですが本件で足を運ぶのを躊躇うようになってしまいました。その氷で割る酒も大好きだったのに。 国民の健康を守る為の基準値が各国より甘いのは由々しき問題です。国際標準の基準値に設定を改めて下さい。また食の安心、安全の為、より細やかで大規模且つ定期的な調査に予算をつけて下さい。また原因とされる米軍基地に今後の対策費の捻出の交渉を希望します。
1061	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量案。なんと、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍。水は生命を保持するために絶対必要なもの。 安全性を疎かにする基準値は納得できない！ 日本人が PFAS に免疫でもあると言いたいのか？ 企業と自民党にお金が入るなら国民の安全などどうでも良いのですね。 日本で適用する数値は安全性を無視したもので、今後日本国製が安全を欠いたものと見做され輸出も出来なくなるでしょう。 こんな基準値に賛成はできません！せめて欧州並みの数字にせよ！
1062	道の PFAS の基準が変更になると聞いて、ご意見申し上げます。現在すでに高濃度の PFAS が東京都の水道から出ていると聞いています。その為の基準引き上げでしょうか？このタイミングでは、そう思われても仕方ないです。なぜ、欧米と比べ物にならないほどの高濃度なのでしょうか？日本は、本当の独立国ではないことは知っていますが、せめて役所は抵抗していただけませんか。このようなことを言うと、陰謀論で括られてしまいそうですが、敢えて言います。今の日本は、全てにおいて国民ファーストではありません。まるで、絶滅させたいみたいです。高い理想を持って公僕のお仕事を目指した皆様は、今、どのような思いで日々お仕事をさえれているのでしょう？農薬も添加物も欧米とは桁違いに緩い基準で作られる食物や食品を食べさせられている日本で、今度は一番大事な水まで安全でなくなろうとしています。私たちを守ってくれない政府や役人の中で、私たちはどのように自分の命を守ればいいのですか？皆様は、仕事をされているだけと言われるのかもしれませんが、良心というものはどこにおありなのでしょうか？ご自分の子供さんに、安心してお水

	を飲ませられるのですか？
1063	PFAS が基準の数値が欧州の 50 倍、アメリカの 200 倍というのを聞くと、もはや日本は敗戦してるから、虐げられてるから、とか、他国に忖度してるとか、そんなことは当然のような感じなのかと思ってしまいます。 健康でいたいので、医療費そんなにあげなくてすむかもしれない。自分達だけでなく、自分達の孫達を守るような行動をとってください。
1064	アメリカの 200 倍の基準値なのはどうしてなのでしょう！？まず、決める与党議員自民党の国会議員の方々に５年摂取してから決定していただけませんか？
1065	去年 10 月に突然水を飲まないでっと言う放送があり、内容は有機フッ素化合物 給水車の方々には大変お世話になりました。 でも、たかが１ヶ月で給水車も無くなり その後どうすれば良いかわからないまま 終了。 今回の件で 私は水道水が飲めなくなってます。 今現在は、お金を払って買いに行く毎日を送ってます。 役場は信頼、信用を取り戻すっとか言ってますが 役場が嘘をついたのもある意味悪いっと思います。 こんな状況で何をどのように信頼を戻すのかも今現在住民は分かりません。 役場を守る第三者委員会になってる気がして仕方ないです。 住民に寄り添うのならそれだけの見える動きをしてもらいたいです。
1066	PFAS の問題は新しい、しかし大きな環境問題だと思います。すぐに影響が出ないからと言って、見過ごしてはいけないと考えます。きちんと対応することを強く望みます。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきだと考えます。この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。 少子化が国の大きな問題になっている今、子どもたちの健康を守ることは重要な課題だと思います。そのためにも再考されることを求めます。
1067	食品安全委員会のＰＦＡＳ許容摂取量（案）の数値を見て、高すぎる基準に驚いています。科学的な内容に関する意見ではないのですがどの国よりも高い数値で本当に安全に問題なしと言えるものとは思えません。取り込む量を減らすことが最優先ですが許容摂取量の数値の再検討、再評価をお願いします。
1068	食品安全委員会が示している摂取許容量（案）は欧州やアメリカの示す値を遥かに越える高水準です。健康への影響への安全性が懸念されます。予防原則に基づき、欧米並みに設定していただきたい。
1069	欧米では「代替物質」を含む PFAS をグループとして規制しようとしています。規制された PFOS、PFOA 以外にこれらの代替物質も健康への悪影響を引き起こす可能性があるためです。自然環境下で分解しづらく蓄積しやすい、人の体内にも長くとどまるという PFAS。様々な製品にも使用され、生活のいたるところに存在する PFAS。利用可能な毒性値データがないと問題を先送りせず、日本でも代替物質の毒性評価を急いでください。
1070	PFAS の食品健康影響の指標値を見直して下さい。 PFOS が 20ng/kg 体重/日、PFOA が 20ng/kg 体重/日は、EPA(米国環境保護庁)、EFSA(欧州食品安全機関)で設定した許容量に比べ、高過ぎます。 2023 年国際がん研究機関によって、PFOA が発ガン性が最高レベルに引き上げられました。EFSA が 2020 年に設定した許容量は、体重 1kg あたり 0.63 ナノグラムで今回の設定は、64 倍になります。PFOS、PFOA それぞれ 20ng/kg/体重/日を、血中 PFAS 濃度にすると、PFOS<250ng/ml、 PFOA <143ng/ml になり、全米アカデミーズ委員会が示した健康へのリスクが高くなる血中濃度 20ng/ml を大きく超過します。ドイツが緊急にばく露対策をとる必要な対策をとる必要な値とする PFOS、20ng/ml、PFOA、10ng/ml を大きく上回り健康への影響への不安が高まる値です。 胎児や子どもへの影響を予防するための指標がなく、予防原則に立脚していません。
1071	何故日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのでしょうか。 毎日飲食にも使っている水道水が安全ではなく、原因がわかっているのに誰も責任をとらず汚染されたまま健康の被害が出ても放置されるようなことがあってはならないと思います。 日本に住む人の命を軽く見過ぎています。 安心して暮らせる状態を作ってください。
1072	食品安全委員会の 20ng が妥当との判断は欧米の摂取許容量より数百倍と聞き不安です。我が国は科学的知見を重要視するあまり公害病対策が後手に回ることが多々あります。予防原則に立ちより厳しい数値設定を求めます。 自然界で分解するのに数千年を要する PFAS を全面規制しなくては食物連鎖の頂点に立つ人類は永遠に PFAS に曝露し続けることになります。PFOS.PFOA 以外の PFAS についても早急に規制することを求めます。
1073	国分寺市の自主調査により、住民の血中濃度が米国で健康被害があると疑われる基準値を超えていることが判明しています。多摩地区住民として非常に不安を感じています。以下 3 つの対応をお願いします。 1.　現状調査の早急な実施 強力な汚染源として、米軍基地が使用した泡消化剤があげられます。基地周辺（東京では横田基地周辺の多摩地区）住民の血中濃度を調べ、現状調査をしてください。 2.　1 日 20 ナノグラムの基準値の見直し アメリカの最新の基準は 0.4 ナノグラム以下であったはずです。 予防原則にもとづき、同じ米軍基地のあるアメリカ本土の基準値を採用してください。日本は基準が甘すぎます。 3. 飲料水以外の汚染状況の把握 飲料水だけでなく、農作物への影響について早急に調査してください。 京都大学の研究において汚染された地下水から農作物への残留が確認されています。調査結果にもとづいて、農作物への残留基準を設けるとともに、市場の農作物の検査体制を強化してください。
1074	沖縄は基地が多く PFAS 問題があります 安心して水を飲み生活したいですし、これからの子供達の健康の為にも税金で保育、教育、福祉施設に除去する浄水器をつけて。
1075	この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当する。米国アカデ

	ミー3)の臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのでしょうか。食品安全委員はご家族にこの水を飲ませても良いと思っておられるのでしょうか。是非自分ごととしてお考えいただきたいと思います。
1076	国の指針値だけでは、具体的な対策にはならない。欧州の化学物質管理規制である REACH 規則において、有機フッ素化合物（PFAS）を規制する提案が公表されている。まだ日本でも、早急に法律規制すべきだ。また予防原則に立ち、国内外の陽性所見をすくいあげ、健康への悪影響を未然防止させる指標値についても示すべきだ。
1077	なぜこんなにゆるい基準を示すのですか。ヨーロッパの６０倍、アメリカの２００倍の基準なんて、あってなきがごとしです。政府は国民を守ろうという意思がないのですか。日本よりもアメリカ軍が大切なのですか。先進国として恥ずかしくない基準を示してください。政府は国民の命を守る仕事をしてください。
1078	PFAS の許容摂取量案に反対します。 飲み水の水質基準の数値が、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とはあまりにも基準が緩すぎませんか！？ せめて欧州の基準まで厳しくするべきです！ ただでさえ、日本各地で PFAS による水汚染が発覚して問題になっているのに、これでは住民の健康を守れないと思います。 そして水は毎日摂取する物ですから、その分体に蓄積されます。その事も考慮して基準を決めるべきです。
1079	この審議結果は大反対。 緩すぎる。 欧米の基準値を参考にしてやり直してください。
1080	PFAS の我が国の基準値となるべく数値を知り驚きました。国民の健康を守るべき指針が 何故欧米と同じ基準にはならないのでしょうか？しかも何百倍もの差は流石に棄民ではないのでしょうか。 同じ人間ではないのでしょうか？ 健康被害が出てからでは遅いのではないのでしょうか？ 苦しむのは国民です。国を支えているのは国民です。どうか国民の健康を守る最低基準は守って頂けないでしょうか？ そのような国の政策一つ一つが国民の希望を奪い、少子化にも繋がっているとは思いませんか。 子どもたちにできる限りの未来を渡していくような政策をお願いします。 そのような重要な情報が知らないところで勝手に決められて、しかも欧米基準とは程遠くい全く理解出来ない現実を、SNS でしか情報が漏れて来ない事にも憤りを感じます。
1081	沖縄県は、米軍基地があり PFAS 問題があります。 子供たちの健康のためにも、国の補助で保育、教育、福祉施設に除去する浄水設備をつけてほしい
1082	PFAS の基準値はアメリカと同等にすることが必要です。
1083	食品安全委員会が出された PFAS の「許容摂取量（案）」について，日本が米国欧州と比較して圧倒的に高い水準である理由が不明確なままです。様々な影響が明るみになっている今もう少し深刻にとらえないと色々と訴訟問題に発展するのではないでしょうか。今一度考えなおしていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
1084	今回の評価は、海外での疫学的調査結果を全く考慮していない結論です。再検討を求めます。
1085	アメリカ、ヨーロッパより何故基準が高いのですか？ はっきりした理由を示していただきたい。 はっきりしていないならば、予防原則の立場に立つべきと考えます。
1086	日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と非常に高い水準です。「予防原則」に立って欧米よりも低い数値に留め、「ゼロ」を目指す方策を実施していくことを求めます。 また、PFOS、PFOA 以外の PFAS も健康への悪影響を引き起こす可能性があるため、欧米のように PFAS をグループとして規制していくべきです。
1087	有機フッ素化合物の水道水中の規制基準の緩和に反対です。世界中で PFAS,PFOS の発がん性が問題となり日本では米軍基地周辺及び東京多摩地区のの水源が汚染されているのが分かった段階。この時期に規制を大きく緩めることは国民の将来にわたる健康及び保健に大きな懸念材料である。昨年春には水道水中の残留農薬数値が大きく緩和された。複合汚染水を毎日体内に取り込むリスクをどう考えるのか。2 人に 1 人がガンどころか全員がガンになる危険すら考えられる。絶対に反対です。
1088	なんで日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか？ ありえない。やり直してください。
1089	自分は専門家ではないが今回の評価書には大きな関心がある。しかし評価案を読み説明動画を見てこの評価案は一体誰の為に誰に向けて出すのかと疑問を抱く。以下３点につき修正を願いたい。 １．高すぎる摂取許容量　＝　評価案の摂取許容量で国民の健康を守れるか大変疑問だ。５０ng/kg/日は現在の水道水暫定値と同じで不安に思う。科学的因果関係の証明がなければ低い規準を設定できないなら実害が出るのを待つのか。それでは遅い。日本が豊富な水資源に恵まれても飲水や農業、畜産用水が安全でなければ価値がない。 ２．発がん性の危険が考慮されない　＝　IARC は PFOA、PFOS に発がん可能性を認めている。PFAS をどの位摂取すると癌になるか皆が懸念する。件数が少ないから証拠不充分とあるが症例がある以上因果関係を疑うのは当然で「疑わしいものは極力避ける」のが命を守る上で正しい考え方だ。発がん性要因をぜひ入れてほしい。 ３．世界から見た日本の位置の視点　＝　産業界の要請は各国共通だが日本は国民の健康より業界や既成制度を守りたいと見える。長寿国日本は国民の健康を優先する姿勢を水や食品の安全基準値で具体的に示してほしい。
1090	なんで日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、甚だ疑問です。
1091	人の体に水は欠かせない大切なものです。 何故、日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのでしょうか。 世界の基準と遜色ない値に見直すべきです。 日本に住む人の命に関わる問題です。 PFAS は 0 を目指すべきですし、それが普通にならないといけません。 やり直しを要求致します。

1092	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚きました。 米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い」と聞いて不安です。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 国民を、子供たちを殺さないでください。 殺さないでください。
1093	PFAS の基準がアメリカやヨーロッパに比べて高すぎると感じる アメリカやヨーロッパと同じくらい厳しい基準にするべき
1094	自然界にも体内にも残るという物質が、将来どんな影響があるか明確でない場合、予防原則に立つべき。重大な悪影響が出てから責任はとれるのか。アメリカと同レベルの規制基準にしてほしい。
1095	水は人間が生きていくための最も基盤となるものです。なぜ、日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、大変疑問です。完全に安全性を無視した基準案であり、日本に住む人の命を軽んじているとしか思われません。 基準案の見直しを求めます。
1096	PFAS の汚染状況を直ちに調査し、安全基準値を世界と同レベルにして排出を規制してください。
1097	あまりにも海外の基準から遥かにかけ離れ、健康被害を考えない愚行な数値を許可しようとしています。 現在の数値での決定に強く反対し、厳格な基準を求めます。
1098	・ 食品安全委員会（以下「委員会」）が妥当とする「20ng」は、欧米の許容摂取量より数百倍高く、被害拡大の恐れあり。委員会結果が欧米と違う場合、国民の健康保護のために予防原則に従い、欧米基準をまず暫定的に適用すべき。さすれば委員会の検討や結論は急ぐ必要ない。科学的不確実性を口実に対策を遅らせてはならぬ。 ・ この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜50ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当。米国アカデミー3)の臨床ガイダンスは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、委員会はなぜこの非常に高い血液濃度を安全というのか。特に感受性が高い妊婦、乳幼児の安全は守られるのか、説明すべき。 ・ 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲料水汚染と体内汚染に相関あり。研究データが不十分で健康影響が特定できぬなら「予防原則」に基づき取込量を減らすべき。 ・欧米に見習って日本も「PFAS ゼロ」を目指すべき。また、この許容摂取量からは飲み水の暫定目標値は 50ng のまま変わらぬ。　子どもの健康からは許容できぬ。
1099	PFAS の許容摂取量案。 20ng/kg/日 20ng/kg/日 ー 2024 年（案） なんと、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とは。 この数値が飲み水の水質基準に使われるのはあり得ない。 特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、きちんと国民に説明すべきだ。
1100	給食調理員をしています。 調理の際水道水を浄水器を通すことなくそのまま使います。 日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎています。 日本の未来を担う子供たちのことを考えて絶対にやめてください！
1101	・国際がん研究機関（IARC)では２０２３年 11 月、PFOA「発がん性がある」、PFOS「発がん可能性がある」と評価しました。米国・環境保護庁（EPA)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と結論づけています。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事。食品安全委員会も「予防原則」に基づき、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう暫定的に欧米の基準にならって「発がん性」を認めるべきです。 欧米より緩い結果が出た場合も同様です。 ・ 「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については、多くの人が知りたい事項です。全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。今こそ、国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性を評価と管理・対策に動くべきです。 ・EU 域内に輸出する製品に「REACH 規制」が適用されます。それに従って国内法が整備されています。国民の健康や安全も同様です。食品安全委員会が結果的に国民の健康保護にブレーキをかけてはなりません。
1102	・米国は飲料水で 6 つの PFAS、欧州は食品中で 4 つの PFAS の毒性を評価し規制している。 最新の研究結果を考慮し、2 物質以外の PFAS の複合曝露を評価する必要が出てきたためである。国内にも PFHxS、PFNA の高汚染地域が存在するが、国はこれら毒性評価を見送った。 ・国分寺市、各務原市、宜野湾市をはじめ全国で汚染地下水を水道水として取込んだ?地域住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い。岡山、大阪含め各地で発覚している深刻な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めるべき。 ・PFAS は 1 万種類以上存在するが、食品安全委員会の評価はたった 2 物質のみ。欧米では PFOS、PFOA 以外の PFAS も健康への悪影響を引き起こす可能性があるため、PFAS をグループとして規制しようとしている。利用可能な毒性値がないと問題を先送りせず、代替物質を含めた毒性評価を急ぐべき。 ・自前の結果が出るまでは、欧米の基準を暫定規制値として適用すべきである。それが、食品安全委員会としての正しい責任の取り方である。
1103	・食品安全委員会は、2016 年以降のヒトの疫学研究結果を「十分な知見がない」と全て退け、EPA が 2016 年に飲料水基準値を策定時に採用した動物実験結果を基に許容摂取量を導き出しました。対して、欧米は「低出生体重」「ワクチン接種に対する抗体価低下」など子ども達に関わる重大な有害性を認め、厳しい指標値を設定しています。日本も「予防原則」に立ち、国内外の陽性所見をすくい上げ、健康への悪影響が未然に防止される指標値を示すべきです。 ・リスク評価において「有害性の特定」が最も重要です。毒性反応には種差があるため、有害性の特定ではヒトの疫学データが最も望ましくも最も優先されるべきです。なぜ古い動物実験のデータを採用し、このような許容摂取量を導き出すのか。 ・欧米の結果や基準と異なる場合は、予防原則に従って、欧米の規制値等を暫定的に適用すべきです。
1104	毎日とる飲み水が、安全でない 、とは驚きます。 しかもまだ、安全かどうかの調査もキチンとされていないとは、どういうことですか。私たちで人体実験でもしているのでしょうか。何か影響が出てから手を打つのでしょうか、遅過ぎます。将来の子ども達の健康を考えてください。 PFAS ゼロを目指してください。

	安全安心とは、なにを指すのですか。 早急に手を打ってください。
1105	米国や欧州と比べ著しく高い摂取許容量について、 今、言わないと子どもたちの未来が心配。安心して生活したい、安全な水と土、空気を子どもたちに手渡したい。PFAS リスク評価は子どもたちの健康にも大きく影響します。世界の知見を集めて再評価して、PFAS 対策に取り組んで下さい。 国際的な発がん性評価を取り入れないことについて、「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については、多くの人が知りたい事項です。全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。今こそ、国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性を評価と管理・対策に動くべきです。
1106	健康にどれくらい影響があるのか。 そもそも、なんで流出しているんですか。
1107	日本も PFAS ゼロを目指すべき！ 安心して飲める水道水を！
1108	・東京・多摩地域住民の血中 PFAS 濃度平均値(ng/ml)は高い。国分寺市、立川市、武蔵野市、国立市、府中市、小平市、あきる野市、調布市の住民の（PFOS PFOA PFHxS PFNA）検査参加者数の過半数が米国の指針値を超えている。 ・この結果は、国がより先見的な「予防原則」に立ち、PFAS を規制せず放置したことから、汚染された地下水を含む水道水等を経由して深刻な体内汚染を引き起こした明らかな例である。 ・特に、米軍横田基地が汚染源として疑われているが、日米地位協定によって、基地の調査が進んでいない。企業についても基準なしに規制できません。汚染源を野放しにして、規制値も甘いままでは、国は国民の健康や安全を守ることを放棄していると言わざるを得ない。 ・同様の事例は全国各地で発覚している。これら PFAS 汚染地域の住民（特に妊産婦、乳幼児、高齢者含めた感受性の高い集団）にとって、今回、国が示す PFAS 許容摂取量で生涯を通じた健康・安全は担保されない。許容摂取量（案）は、欧米並みの規制値に低減すべきである。
1109	安全性の不確実な物質が、生活環境にばらまかれるのは許せない。 PFAS を使わなくても事足りるのになぜ使うことをよしとするのか？ 過去、公害がそうだったように、危険性が確認できる時とは被害が出たときである。自然界で生成分解ができない化学物質が将来世代に及ぼす影響を考えると恐ろしくなる。 欧米の基準を見ても日本の基準は甘すぎる。むしろ日本こそ率先して厳しい基準を設定すべきだ。
1110	なぜ日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのですか。 日本に住む人の命を軽く見過ぎています。 基準の見直しをしてください。
1111	以下の通り、疑問を投げかけるかつ、意見します。 欧米が安全性を踏まえて、基準値を下げているのに、何故日本は追随しないのか。 日本だけ高くしても問題がないと考えている理由は何か。 行政の中で異論を唱える人はいないのか。 もし目先の対応コストを考えた結果だとすると、健康被害による結果的なコスト増も考えられるが、その点も検討したのか。 無駄な税金をこういった必要なところに充てるべきではないか。政治家に言うことかもしれないが、予算をとりに行って、対策できる分のリソースを確保して欲しい。
1112	国民全体の命に直結する大問題です。 お願いします。ただちに、欧米並みの基準にしてください。 人類が培ってきた科学の歴史にも大いに逆行しています。知性を取り戻してください。
1113	西欧諸国に比べてバカ高い基準にするのは何故なのか！　危険でしょう！ 見直しを！
1114	全国的に汚染の正確な情報を集め、きちんと民間の利害関係ない専門家による調査を継続してください。誰もが、その調査、情報を途中経過を含めて、見たり、調べたり、出来る形で、公開してください。米軍基地も含めるかたちで、調査してください。たくさんの一般市民が、苦しんでいる、未来に不安を抱えていることを、お忘れなく。
1115	アメリカやヨーロッパでは危険だとされているのであれば日本はそれよりも厳しくするべきです。日本の食は評価されているので、安全安心なもの、基準も厳しくあって欲しい。
1116	フッ素化合物は有害であると、日本のマスコミでも報道しています。欧米諸国では、既に規制されているものを旧態依然として、規制の対象にしないのは、国民の健康を無視しているとしか思えません。いつも有害事象について、先進国の中で、日本の対応が遅れています。是非、有機フッ素化合物の規制を強化してください。
1117	基準値の甘さに驚きました。アメリカやヨーロッパと比べてなんとゆるいことか。 日本国民を守る気はないのですか？ダイキンや、米軍への忖度ですか？ もっと厳しい値に設定し直してください。
1118	PFAS は、免疫機能を低下させる作用があると考えられており、感染症にかかりやすくなる可能性があります。世界保健機関（WHO）の専門組織である国際がん研究機関（IARC）は、2023 年 12 月の発表で、PFOA・ピーフォアの発がん性を「可能性がある」から 2 段階引き上げ「ある」に認定しました。また、分解されにくく永遠の化学物質とも呼ばれています。 したがって、アメリカと同様の厳しい基準で規制することが必要です。他国に比べて日本だけ緩い基準で企業や米軍がＰＦＡＳを垂れ流すままにすることは、市民の健康と安全を確保するうえで最も回避すべきことであると考えます。
1119	体重 1k あたり day20ng 本当にこれで良いと、大丈夫だと思っているのでしょうか。 評価委員の方々は自身もさることながら、家族に子に孫にこの数値の化学物質を摂取させる覚悟があるのでしょうか。
1120	水は人間が生きていくための最も基盤となるものです。なぜ、日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、大変疑問です。完全に安全性を無視した基準案ではないでしょうか。 基準案の見直しを求めます。 国民の健康と安全を脅かす事が政治なのか、憲法違反に疑問しかありません。
1121	基準値を緩くする意味がわからない。間違えた？ 理由は何ですか？ほんとうの。

	水は日本の大切な大切な資源。運が良く恵まれた宝。 水の本当の旨み、知らされないでおくのでしょうか？
1122	日本の許容摂取量は、PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準である。血中濃度に換算すると、米国アカデミーの臨床ガイダンスで健康影響が懸念される値を大幅に超える。 国際がん研究機関（IARC）や米国環境保護庁（EPA）は、PFOA を「発がん性がある」、PFOS を「発がん可能性がある」と評価しているが、国はこれらを無視した。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害性を評価するかが大事であり、「予防原則」に基づいて「発がん性」を認めるべきである。 アメリカは飲料水で 6 つの PFAS、欧州は食品中で 4 つの PFAS の毒性を評価し規制しているが、国は 2 物質しか評価していない。国内にも PFHxS、PFNA の高汚染地域が存在するが、国はこれら毒性評価を見送った。
1123	PFAS は、極めて人体にとって有害な永遠の化学物質であり、これを水道水に含ませる事に強く抗議致します。
1124	示された数値は、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とお聞きしました。 どのような根拠から算出された数値でしょうか。大変不安です。 見直してください。
1125	日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準であることが心配でならない。 ぜひとも、アメリカや欧州の基準の根拠を確認して、日本も、「予防原則」に基づいてできるだけ 0 を目指してほしい。 許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。 国際がん研究機関（IARC)では昨年 11 月、PFOA「発がん性がある」、PFOS「発がん可能性がある」と評価しました。 米国・環境保護庁（EPA)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と結論づけています。日本でも調査・研究をしてほしい。そして発がん性を確認し、対策や予防を進めてほしい。 子ども達の将来のためにも、事実を正確に把握する行動をとってください。
1126	水質の問題は、生活基盤に直結するものです。審議する皆様におかれましては、決められる数値に適合した水を、御自身が、御自身の御家族や大切な知人が、安心して飲み続けられるような、そんな審議をしていただければと思います。そこに僅かでも懸念が残るのなら、細部まで検証していただきますよう、お願い致します。
1127	なんで日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのでしょうか。 日本政府は日本に住む人の命を軽く見過ぎています。 水質改善のやり直しを希求します。
1128	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川の高い数値が検出されたとのこと、不安です。もっと国民に説明してほしい。
1129	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の摂取許容量案を示されたのをきいて、おどろきました。米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高いときいて安全性にすごい不安感・不信感をもちました。安全・安心してくらせるようにきめてください。おねがいします。
1130	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会が「20 ng が妥当」と判断したことにびっくり。日本は外国にくらべ摂取許容量よりも数百倍も高いと聞いて不安になりました。
1131	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1132	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 環境、人体への悪影響が心配されています。早急に調査、公開、基準をはっきりすべきです。
1133	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会が「20 ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高いと聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく、「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
1134	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の摂取許容量がアメリカや欧州に比べてあまりにも大きすぎると思います。
1135	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米に較べ何倍も高い摂取許容量であり、安全のため許容量を欧米なみに下げるべきである。
1136	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発がん性物質の入った水。全国各地で！早急に止めて。日本の基準　見直しを！
1137	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 なぜ欧米と比べて甘い規制？国民の健康・安心・安全をどう考えているのか、怒りをおぼえる！自民党政治を早くおわらせなくては。
1138	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会が「20 ng が妥当」と判断したことに大変おどろいた。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則総合的な判断を求めます。
1139	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発がん性のリスクが疑われる以上、PFAS ゼロを基本とすべきで、食品安全委員会の"20 ng が妥当"は極めて危険と思われる。
1140	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の安全をいつもあとまわしにしているように感じます。国民が安心して暮らせるよう、見直しをお願いします。
1141	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の不安をとりのぞいて欲しい！日本の水は、大丈夫でしょうか？命の水が、汚染されていたら、安心安全な日本という国の信用を無くします。しっかり調査して問題にとりくんで下さい。
1142	1.欧米の規制強化の動き、IARC の発がん物質 1 類への動きから、規制を強化する方向を期待していたが、まるで真逆な動きに驚きと大きな失望を持ちました。 2.米国科学アカデミーも IARC も、ワーキンググループが検討したより、はるかに多い文献を調査検討して出された結果で規制強化や「発がん物質」の方向に動いたものです。それより少ない文献数で、しかもヒトでの影響評価を除外して、都合よくいくように文献を分別して、選んで検討されたのではないかと考えざるを得ません。検討の仕方、方法論が間違っているのではないでしょうか。 3.今回の審議結果では、通常の環境中では起きえない汚染がない限り、対策は「何も必要なし」と言えます。日本がこの

	ような基準を出すとしたら、「新しい安全神話」を作ることになります。 4.この答申で、将来、やはり健康被害が出たということが起きた時に、食品安全委員会はどういう責任ある立場を取られるのでしょうか？ 5.ワーキンググループの恣意的ともいえる結果を採用されないことを強く願います。
1143	1.「消失半減期」が動物の種により大きく異なることについて再三触れておられる。ヒトの場合、長く体内に存在し続けて、その過程の中で、健康への影響が一定頻度で現れると考えられる。「消失半減期」がヒトと比べて、けた違いに短い実験動物の、高濃度曝露からの結果から得られた、摂取する水の PFAS 濃度をそのまま人間に当てはめてよいかどうかは未知といえるのではないか？ 2. 人間で観察された健康への影響は、非特異的な影響（疾病など）であるので、疫学的な調査を重視してこそ異常が見つけ出せる。今回は、傾向が一致しないという理由だけで、恣意的ともいえるヒトでの結果を除外しているのは出発点から間違っている。 3. ヒトへの影響を起こさないための安全基準を求めるものだから、現在までに分かっていることから、米国、ドイツなどのように、これなら健康影響を起こさないだろうという数値を導き出すべき。 4. 公害による「被害は、すでに発生しているもののほか、将来発生する恐れがあるものも含まれます」（総務省・環境基本法）の立場から、今あるデータを生かして厳しめに設定すべき。 5. 今回の見解は将来に責任を持てなく、再度検討が必要だ。
1144	・PFAS 1 日あたりの摂取許容量が高すぎます。日本のあちらこちらで問題が起きている中で、知らず知らずのうちに水道水や農作物から摂取しているのではないかと思うだけでゾッとします。調べていないのでどのくらい体の中に溜まっているのかいないのか分かりませんが、これからは体の中に入れたくありません。せめてヨーロッパ並の基準にしてもらいたい。安心して食品が買える環境を整えて頂きたいです。これ以上、健康被害が増えないように国としても動くべきところまできているのではないですか？ ・国内で生産される野菜の農薬の基準がある程度厳しいのにも関わらず、発ガン性がある物質の規制をしないのはおかしい。血液中から高濃度の値が出ている人が多くいる。一日でも早く厳しい規制をすべき。
1145	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国がちゃんとした調査をするようお願いしたい。
1146	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちゃんと調査して下さい！！
1147	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと調査して下さい。
1148	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査してほしい
1149	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査してほしい
1150	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査してほしい
1151	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1152	化学物質に係る評価値の算出方法について厚生労働省の第 6 回厚生科学審議会生活環境水道部会水質管理専門委員会（2003.2.3&2.4）が「閾値の有無に当たっては国際がん研究機関（IARC)の発ガン性評価を基本とし米国環境保護庁（USEPA）等その他の発ガン性評価の結果も参考とする」と定めているにも関わらず、IARC が 2023 年 12 月に認定した発がん性評価結果を最終的には採用していません。更に米国環境保護庁（USEPA）の報告のうち、2023 年の報告には注目せず 2016 年の報告だけに固執し、2023 年の結果を最終的には採用していません。化学物質に係る評価値の算出方法における基本原則に反します。2023 年 12 月の IARC の発がん性評価結果と、2023 年の USEPA の評価結果を予防原則の観点からも指標値として採用して頂くように要請します。 2023.3.2
1153	今や日本の各地で PFAS 問題がおきています。私達各務原市でも水道水に混入されていることが明らかになりました。食品安全委員会が妥当した一日摂取量を 20ng としましたが、米国や欧州と比べると許容量がはるかに高いので心配です。WHO 国際がん研究機関は PFOS は「ヒトへの発がん性がある。」PFOS は「発がん性の可能性がある。」と分類しました。このような物質が水や土壌に蓄積され続けたら、これからの子ども達の未来が不安です。健康被害がでてからでは遅いですので是非早急に対策をしていただきたいと思います。
1154	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1155	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れて下さい。
1156	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際基準の規制を求めます。
1157	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心してくらせる基準にして下さい。
1158	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS ゼロを目指す基準を作って下さい。
1159	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1160	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1161	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1162	PFAS の影響は胎児に及ぶと知って本当に未来が心配です。ヨーロッパの許容摂取量の指標値より日本の指標値が 60 倍超なんてとんでもありません。もともと日本の水質は世界にほこれる水準です。安心安全な水を！きちんと守って下さい。
1163	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 我々の命を軽視しないで！！よく「欧米を参考に・・・」と答返する政府。都合に合わせてするのではなく、一人一人の命にてらして許容量を減らしてください。

1164	各務原市に住み初めて 45 年に成ります。住み初めた頃、地元の方から各務原の水は地下水だから良い水です、と聞いてなるほど美味しいような気がして、安心しておりましたが、昨年突然 PFOS とか PFOA の事を聞きびっくりいたしました。それから近所の方からお誘いを受け血液検査を受けました。高い値が出てびっくり怒りが込み上げましたが、もうなってしまった私はどうにもならない。問題はこれからの若い人、子供、孫達です。心配です。もっと真剣に取り組んで頂きたい。成人の体の中の水分は 50%～60%と言います。水がなくては生きて行ません。安心して飲める水を供給して頂きたいです。お願いします。健康被害が出てからでは遅い。予防原則に立ち健康被害を防ぐ事を望みます。
1165	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ環境保護庁の摂取許容量以下にして下さい。日本・食品安全委会ですぐ検討して下さい。
1166	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1167	PFAS 等のあまりに高い摂取許容量に驚くばかりです。生命の維持にかかせない飲料水にこのような高基準の PFAS が混入する事は当低許されません。居住地が米軍横田基地に隣接している為、不安が増すばかりです。未来を生きる子供達にとっても、このような摂取許容量は絶対に許されません。
1168	PFAS の汚染が広がっており、特に大阪には世界的な PFOA 製造メーカーのダイキン工場があり、汚染は深刻です。私が住んでいる摂津市でも汚染が広がっていることがわかり子どもや両親の健康が心配でなりません。アメリカ、ヨーロッパ並みの基準とするように求めます。
1169	自主的な血液検査を受けた。PFAO の数値が基準以上の結果。子供達は、生れた時から摂津に居る。私達以上に PFOA の健康被害が気になる、PFOA・PFAS を含むすべての規制をすべき。
1170	欧米に比べ著しく高い PFAS の摂取許容量にとても不安です。県のダムの水量が減り、北謝川の取水が始まってしまいました。基地に隣りあわせの川からの取水、本当に大丈夫なのでしょうか。米国が許容量を下げています。日本も国民の健康を第一に下げるべきだと思います。
1171	PEAS の摂取許容量がアメリカの 200 倍を超える物と知ってびっくりしています。これからの日本の子供達の未来の為にも大反対です。
1172	1. PFAS は難分解性で生体内や自然環境中に長く残留、蓄積し、発がん性があり、胎児や乳児の発育障害、免疫力を低下させウィルスなどによる感染症にかかりやすくなるといわれています。欧米では「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。食品安全委員会が示した PFAS の摂取許容量（案）20ng/kg/日は非常に高すぎます。せめて欧米並みの摂取許容量にすべきです。 2. 南デンマーク大学のフィリップ・グランジャン博士たちの研究で北欧の沖にあるフェロー諸島の母子 656 組を追跡調査した。その中で、子どもへの代表的な予防接種であるジフテリアと破傷風のワクチンによって生成される抗体量を調べた。子どもが 5 歳段階で血中の PFAS 濃度が 2 倍になるとジフテリアと破傷風の抗体量は 49%減少した。つまり体内の PFAS 濃度が高い子供たちは、せっかくワクチンを受けても生成される抗体の量は半分にすぎず、感染症にかかるリスクが 2～4 位高くなるという。米国環境保護庁（EPA）も EU 食品安全研究機関（EFSA）もこの子どもへのワクチン効果の減少を重要視し、安全摂取許容量の見直しを行い、激的に下げています。EPA では 2016 年段階では摂取許容量を 20 ng/kg/日だったのを 2023 年の案では PFOS が 0.1 ng、PFOA が 0.03 ng と提起しています。EFSA は 2020 年度の評価では 4 種類（PFOS,PFOA, PFHxS, PFNA）の PFAS の合計値として 0.63 ng としています。今回日本の食品安全委員が提示している 20 ng は、EPA の数百倍、EFSA の数十倍になっています。日本の許容量 20 ng はどのような実験や調査に基づいて決められたのでしょうか。科学的な不確実性を口実に PFAS 対策を遅らせるのではなく、「予防原則」に基づいて少なくとも PFAS 濃度を欧米なみに低くく厳しくすべきです。 3. 米国基地が集中する沖縄では、米軍基地が主な汚染源として飲料水が高濃度の PFAS で汚染され、沖縄県民の 45 万人が長年、高濃度の PFAS 汚染水を飲まされてきました。胎児や乳児に対する影響が大きく、出生体重や体格の減少、感染症の免疫力低下などが起こることが、外国の資料や国内の資料（岸玲子北海大学名誉教授や小泉昭夫京都大学名誉教授などの研究資料）で報告されています。長年高濃度 PFAS 汚染水を飲まされてきた沖縄県民の低出生体重児の出生率は 1975 年～2020 年の 45 年間常に全国 1 位から 2 位を推移している。食品安全委員会は PFAS の胎児や乳児に対する影響も調査して摂取許容量を 20 ng と決められたのでしょうか。沖縄県民とりわけ、妊婦や小さい子を持つ親は大きな不安と疑念を持っています。 4. 摂取許容量「20 ng/kg/日」を血液濃度に換算すると PFOS<250 ng/mℓ、PFO<143 ng/mℓ に相当する。次の理由により、この値はもっと低くく、欧米並みに厳しくすべきである。 ①2022 年 7 月に刊行された「米国科学アカデミーのガイダンス」は、世界各国から出版された約 5000 以上の論文からまとめたもので、2023 年段階では最も信頼性が高いと小泉昭夫京都大学名誉教授は言っています。このガイダンスによると PFAS 血中濃度が 20 ng/mℓ を超えると健康への影響の可能性が高いと言っています。だのに食品安全委員会はこのように非常に高い血中濃度をどうして安全といえるのですが。 ②ドイツでは HBM-II という管理目標値を定めており、血中濃度 PFOS は 20 ng/mℓ、PFOA は 10 ng/mℓ、妊娠適齢期

	女性はそれぞれ半量を超えると健康に影響があると考えられるレベルであり、行政は緊急に曝露低減策を取る必要があると指摘しています。
1173	①内閣府食品安全委員会が今回はじめて「PFAS の摂取許容量（案）」として 20 ng/kg/日を示したが、日本の子供からお年寄りまでの健康を安全に守る保障のない値です。とんでもない数値で驚いています。「世界でまだ科学的知見がない」という口実が、専門家や内閣府の言い分です。そもそも PFAS 汚染問題に注視もせず、科学的知見さえ集めようとしてこなかった環境省・厚生労働省・内閣府・消防庁の責任が問われているのです。 　米国・欧州などの摂取許容量（案）の 64～666 倍の日本の食品安全委員会が示す（案）は、どこを向いて仕事をしているのか！科学を真摯に学んできたのか！とさえ思う。「日本国民の期待を裏切る」案になっていると指摘をし、絶対反対の意思を表明します。 ②国際がん研究機関（IARC）は、昨年末 PFOA を「発がん性がある」と断定しました。非常に重要な見解であり、日本の健康影響評価にも反映させる必要があります。国際的知見を受け止め、素直にリスク評価の有害性を評価すべきです。まだまだ未知の課題もありますが、「予防原則」の立場を専門家は忘れてはいけないと思います。 ③PFAS は、PFOS/PFOA だけではありません。そのほかの有機フッ素化合物のリスク評価は、もっと大事になるでしょう。欧米では、「代替物質」もグループとして規制する動きが強まっています。毒性値データがないとして問題を先送りせず、「代替物質」の毒性評価を日本でも急いでください。日本の有力者や大企業に忖度せず、世界に恥じない日本の「科学の目」を持っているなら、後世に語り継がれるような「案」を全国民へ提示してください。 ※欧米並みの「PFAS 摂取許容量（案）」を再提示されよう願います。 今回の「案」には反対します。 以上
1174	テレビの報道で、わが街に危険な物質が垂れ流しに海に放出されていることを知りました。我が街は、入口増加を促し、子育て支援に厚く、高齢者にも優しい中核都市を獲得してまいりました。私は明石市に生まれ、育ち、三人の子育てをし、それぞれ独立して、七人の孫もいる七十六歳です。子供や孫達の世代を「令和のミナマタ」にしないで下さい。健康被害が出てからでは遅いので、予防原則に立ち、未然に健康被害を防ぐことを強く強く要望します。明石川上流にある産業廃棄物処理場から PFAS が流出している可能性が指摘されており、産廃場から有害物質が流出しないように国として早急に法的規制を実施して下さい。明石市は気候も穏やかで市長になられた丸谷市長も温厚な方です。市民も穏やかに多くの恩恵を受けて暮らしています。この平穏が末永く続きますことを切に願います。
1175	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会は早く欧米なみに基準を引き下げるよう要望します。
1176	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1177	PFAS ゼロを目指してほしい。子供達の未来の為に基準値をもっと下げてほしい。
1178	毎日飲む水が、「PFAS」に汚染され安心安全でない事を知り、心痛めています。これから未来を担う子ども達の為にも早急に欧米が「PFAS ゼロ」を目指しているように、日本も「ゼロ」を目指すよう努力すべきと思います。
1179	欧米は「PFAS ゼロ」をめざしているようで、日本も「ゼロ」を目指すべきだと思います。
1180	PFAS の汚染が広がっており、特に大阪には世界的な PFOA 製造メーカーのダイキンの工場があり、汚染は深刻です。ヨーロッパ、アメリカ並みの基準とするように求めます。
1181	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発生源をつきとめて下さい
1182	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちの健康を守って下さい。
1183	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
1184	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1185	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子ども達の健康を守る為に、規制を強化して下さい。
1186	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来の事を考え、今のうちに出来るだけの手を打って下さい。
1187	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1188	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫たちが安心して暮らせるためにも規制を強化し、健康を守ってください。
1189	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私も PFAS の検査を一度受けてみたいです。
1190	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 体を作る大切な食品です。安心して食品を食べれる様に摂取許容量を下げて下さい。
1191	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1192	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 子供の健康を守って下さい。
1193	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいです。子や孫の健康を守って下さい。
1194	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 大阪府にはダイキン工業がありますので、心配しています。基準は厳しく決めないと！国際基準にも合わせないような基準では安心してくらせません。
1195	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私自身、4PFAS で 20 ng/ml を超えています。どうかアメリカの 7 万人の知見を無視しないでください。
1196	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守る立場にたち、厳しい評価を行い再評価を行うよう求めます。
1197	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパは PFAS ゼロをめざしている。日本も規制してほしい
1198	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も規制してほしい！！
1199	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準にしてください。
1200	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1201	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	目に見えない物質に脅かされる人生を歩みたくありません。問題が明らかにされ、きちんと行政としての対策をとって下さい。
1202	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1203	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量は、絶対に見直すべき!
1204	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1205	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 育ちいく子供達の健康を守って下さい。
1206	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「PFAS ゼロ」を目指して日本も規制して欲しい！！
1207	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 現状でデータが十分でなく、健康への影響がはっきりしないのであれば、安全優先で取り込む量をおさえることを望む。
1208	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
1209	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命が一番
1210	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本でがんのリスクを高めないで下さい。住民の健康優先で考えてください。
1211	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 人間の命を守って下さい。
1212	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守って下さい。正しく公表して下さい。
1213	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に汚染の責任をとらせてください。
1214	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1215	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準を守って欲しい。
1216	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 企業の儲け優先で国民の健康は後回しか。世界的な発がん性評価を取り入れるべき。
1217	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康が一番大切
1218	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際基準に合わせて！
1219	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来にわたって不安物「PFAS」はいらない。日本も規制を強めて！
1220	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1221	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制をして下さい。
1222	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って！！
1223	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 IARC などの科学的知見を意識的に排除したこと、断じて容認できません。
1224	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 目に見えない物はこわいです！国は国民守らんでどーすんの！！
1225	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全で適切な基準を設定して国民全体の健康を守るべきでしょう。
1226	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アスベストのように、害を知りながら対策をとらず被害者を拡大しない様に規制して下さい。
1227	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1228	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化をして下さい。
1229	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1230	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1231	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS 絶対にゼロに！！
1232	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準とあわせてほしい
1233	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の命を最優先にすべき。きちんとした基準にして下さい。
1234	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心できる評価を！！
1235	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 みんなの未来を守る為に
1236	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 正しい評価を求めます。
1237	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	子ども、孫の世代まで公害を残すべきではありません。全国の実態を調べて下さい。
1238	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水準があまりに高すぎます。アメリカ並みの基準にして下さい。
1239	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめてアメリカ並みの基準にして！
1240	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
1241	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 予防原則にもとづき世界一きびしい基準を！
1242	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界の基準に合わせて、市民の健康と安全を守るべきだと思います。
1243	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
1244	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 何が大切かよく考え「PFAS ゼロ」を目指して欲しい。
1245	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の規制必要です。生命守りましょう。
1246	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 住民に知らせてください。
1247	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来の子どもたちの健康を守ってください。
1248	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 菊陽町（熊本県）の半導体製造工場でも PFAS 汚染が懸念されています。総合的・包括的な対策と規制の早期実現をはかって下さい。
1249	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国の責任で環境健康調査を行え。ダイキン工業に情報公開、汚染対策等の責任を問え。欧米レベルの規制基準をつくれ。
1250	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守るために、国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。
1251	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米の基準と肩を並べる基準として下さい。
1252	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「PFAS ゼロ」をめざして日本も規制してほしい。
1253	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性評価ランク 1 になり不安が増しています。規制強化をして下さい。
1254	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
1255	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
1256	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして！！
1257	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
1258	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
1259	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国は、PFAS への規制強化とともに、企業への社会的責任をとらせて下さい！
1260	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 どもたちの未来のためにも再評価を求めます。
1261	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量は、現在の知見を結集して、国民が本当に安全と考える水準にするのが当然ではないか。沖縄での米軍基地関連での現状は許しがたい。
1262	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてください。
1263	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して健康に生活をしたっと

1264	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたち、今、生きている人たちの健康を守ってください。
1265	人の体に水は欠かせない大切なものなのに、なぜ日本の水質基準案はヨーロッパの60倍、米国の200倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎている、やり直しをしてください。
1266	基準が緩すぎますしっかりしてください
1267	かつては水道水が安心して飲める国と言われていた日本で、世界基準から著しくかけはなれた乱暴な設定に反対です。 裕福な人々は口に入れる水すべてを市販のミネラルウォータにすることができるでしょうが、庶民は赤ん坊のうちからこれを飲用するのです。その危険性をきちんと評価してください。
1268	最新の米国の基準よりかなり高い数値を日本の基準にしようとするところに疑問を感じる。 今までの公害問題の健康被害を鑑みると楽観的な緩い基準ではなく、考えられる一番厳しい基準で運用すべきと考える。
1269	どうして日本の水質基準案は ヨーロッパの60倍、米国の200倍なのでしょうか。 日本の基準は本当に適切なのでしょうか？ とても不安に感じました。 国民の健康の維持の為に、 もっと厳しい基準を設けて欲しいです。 再考をよろしくお願い致します。
1270	欧州やアメリカに比してあまりにも基準が緩すぎます。公共サービスの品質管理を通じて市民に健康被害が生じないよう最善を尽くすのは行政の義務です。日本国内で被害が出ていないことは、アメリカの研究で確認されたリスクを無視する理由にはなりません。生活に、そして飲料にも用いる水として、当該地域の住民が安心して使えるものが供給されることを強く求めます。
1271	PFASは分解できず体内に残ります。日本の摂取許容量は諸外国に比べて格段に高い。摂取していく子ども達の健康がとても心配です。許容量を諸外国並みにして下さい。また米軍基地由来と推測されるので、主権国日本はきちんと調査すべきです。
1272	基準をアメリカ合衆国並みに規制してください。 国民の安全を担保してください。 生きていく権利を保障してください。
1273	岡山の吉備中央町に息子夫婦と孫が生活をしています！住み出したのが 2012 年頃でした、のぞかで空気の良い所でした。 移住の条件が、活断層がなく地震の揺れが少なく、自給自足が出来る環境が整っている場所を探して吉備中央町に辿り着きました。私達夫婦も大阪にいますが、いずれ移住を考えて土地を購入して自宅を建てました。そんな希望を持った生活をしておるときに、今回の PFOS の問題が発生しました。なぜこんな環境の良い所に有害物質が湧き出るのか解明して行くと、やはり人災でした！放置してはいけない物質を放置して土壌から水源に流れ混んで行ったみたいです。私達にはまったく知らされていない状況下で生活をしており、戸惑っております。町の責任者も動いてくれていますが対応が弱くなかなか前進んでいません！やはり岡山県の知事ならびに日本政府環境省が取り組まないといけない大きな環境問題です！何時になったら安心な生活が出来るのか不安でいっぱいです。はやく解決して安心して子育て出来る様にお願い致します。
1274	許容摂取量案が。なんと欧州の60倍、アメリカの200倍。 欧州並みの60分の1に許容摂取量はせよ
1275	本の水質基準案はヨーロッパの60倍、米国の200倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎている、やり直しを
1276	日本の水質基準案がヨーロッパの60倍、米国の200倍では、日本に住む人の命を軽く見過ぎていると思います。国民の安心安全のために厳しい基準を設けて対処して下さい。
1277	日本の水を完全に信頼していたのでとてもショックです。 未来のためにも、問題の減少と解決を目指していかないとと思います。
1278	欧米基準などを参考に、PFASの人体に対する影響を十分に検討して審議してください。
1279	基準値はアメリカと同じにして欲しいです。 何より基準値設定の理由があまりにも不明瞭です。 影響がよく分かっていないのなら、念の為低い基準値に合わせるのがベストだと思います。影響があるかどうかも分からないからこそ、基準値は低く設定すべきです。 水俣病と同じ失敗を繰り返すつもりですか？影響が分かった時には遅いのですよ。昭和の公害で散々経験したはずなのに、忘れたのですか？ アメリカ人も日本人も同じホモ・サピエンスです。耐性に大きな違いがあるとは思えません。 国民の健康のために、また大規模公害問題にならないために、アメリカの基準値に合わせて下さい。
1280	健康を害するようなPFAS.PFORの規制緩和には反対です。 これ以上、健康被害が出るようなことはあってはならないと思う。
1281	欧米諸国は、PFASの健康被害への懸念から、摂取許容量を厳格化しています。一方、日本はアメリカの200倍という、国際的に突出した高い許容量を設けようとしています。これは、国際的な潮流に反し、国民の健康を軽視する姿勢と言えます。 食品安全委員会は、許容量設定にあたり、動物実験の結果を基に算出した無毒性量を参考にしています。しかし、動物実験と人の健康への影響は必ずしも一致するわけではありません。また、PFASは種類によって発現する健康被害が異なるため、一律の許容量を設定することは適切ではありません。

	PFAS 汚染は全国各地で深刻化しており、多くの国民が不安を抱えています。この状況下で、科学的根拠が不十分なまま許容量を大幅に引き上げれば、国民の不安をさらに高めることになります。 PFAS の摂取許容量をアメリカの 200 倍にすることは、科学的根拠が不十分であり、国民の健康を軽視する行為です。国際的な潮流に沿い、科学的知見に基づいた慎重な判断を求めます。
1282	知らないということは、大変恐ろしいことだと痛感しました。これからは、危険なものが含まれていないかをチェックしてから食べようと思いました。
1283	PFAS の許容摂取量を緩めないでください 国民の健康を守ってください
1284	水質基準案について。PFAS。なぜ欧州の 60 倍、米国の 200 倍なのか。昔、日本の食べ物は農薬規制が厳しくて安全と謳っていたが、いつのまにか海外も驚くほどの規制の緩みが出ていると知ってびっくりしました。水は食品のように選べません。健康被害が出ても知らぬふりというのは同じ国の人間として何も感じませんか。生命に関する事は真剣に考えるべき。それが先進国と言われた国のプライドでしょう。まさか利権が？と勘繰られてもおかしくない案件です。欧米レベルに厳しくすることを望みます。
1285	日本の摂取許容量の基準が高すぎる。 他国の基準量と比較して数値を下げてほしい。 目に見えない健康被害なので基準値の評価を甘くしないで下さい。
1286	PFAS の水質基準が緩すぎる。子孫を殺すつもりなのか？なぜこんなに自国民の尊厳を傷つける政策を考えつくのか全く理解できない。世界で最も厳しい基準にすべき。
1287	データ提供でなく申し訳ありません。 しかし今あるデータから、危険性が証明されないという項目が多く見られますが、実際危険という文献もある中全く規制されないことに危機感を感じます。 日本ではまだ統計がないにしても、諸外国のデータより十分に危険性が推測されると思います。
1288	欧州と同じレベルでの規制をお願いします。 国民を殺す気ですか？
1289	川越市に住んで 36 年になります 次女が自立し国立市で暮らしております PFAS の危険なことを数年前に知り、フッ素加工の調理器具の使用を止めていたところこの土壌汚染の真実を目の当たりにしてがく然としました　次女には引っ越すか家や近所での飲水を避けるように言いましたが、この世の中、老若男女は働けど賃金上がらず職場と家の往復で疲弊し、TV ニュースでは報道扱いが薄い米国絡みの悪報は流れません　このままでは日本人は死に絶えます　PFAS だけでは無く農薬も添加物も世界一の許容　信じられない数値です ヨーロッパでは禁止されてても日本人には大丈夫という国の方針は国民殺しです 日本を無くすような政策や行動に断固拒否します　米国やヨーロッパの国々と対等にビジネスをして下さい　敗戦植民地から脱却して下さい 日本国民を殺さないで下さい
1290	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したとのこと。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いた。日本国民に対しては、許容摂取量を高くしても大丈夫だという根拠は明確なのか。科学的な不確実性を口実にすることなく「予防原則」に立ち少なくとも米国や欧米などの基準に合わせるべきだと考えます。国民の健康を害した後では、取り返しがつきませんから。
1291	日本全国、地下水及び上水道の PFAS の残留濃度検査を定期的に行って頂きたいので、規制基準をより厳しくしてもらいたい。
1292	東京都立川市在住です。季節の野菜は近所の農家の方たちの青空市場から買っています。新鮮で安価で大変助かっています。農家の方たちの応援にもなりますし。 　しかし PFAS のことを知ってから、地元野菜に対する不安が常にあります。 国際的にみても安心できる安全基準を作っていただけないうちは、不安は解消されません。国民の健康のためにも、農業の維持のためにも納得できる安全基準をお願いします。
1293	何故日本だけ世界の流れに反してるのですか？健康を害し人生を害するフッ素に規制をかけて下さい。
1294	１．海外では、評価書（案）では証拠が限定的・不十分とされた近年の肝臓、脂質代謝、出生時体重の低下、ワクチン接種後の抗体応答の低下、発がん性を示す疫学研究等の結果を採用し、評価書（案）より厳しい規制値（米：水道水 PFOS、PFOA 各 4ng／L、カナダ：水道水総 PFAS 30 ng/L、独：水道水 20 種の PFAS 合計 100 ng/L、4 種の PFAS 合計 20 ng/L、欧州食品安全機関(EFSA)：4 種の PFAS 合計 TWI 4.4 ng/kg 体重/週など）が提案・設定されています。 　評価書（案）でも関連・可能性は否定できない等と評価するエンドポイントが複数あることも総合的に評価して、予防的な見地に立ってより厳しい TDI を設定することを求めます。その上で、今後の研究成果を踏まえて、TDI の強化あるいは緩和を柔軟に実施することを求めます。 ２．PFAS の健康影響評価は研究途上の分野と認識しています。TDI が評価書（案）どおりに設定された場合においても、食品安全委員会として今後の研究の進展を注視し、機動的に TDI の見直しを行うことを求めます。
1295	発がん性のあるものの基準をどうして、、理解できません。
1296	私は東京の多摩地域に住むものです。知らぬままに汚染された水道水を飲み続け身体に取り込んで来たので健康への不安はつきません。 食品安全委員会が示す摂取許容量(案)では、妊婦や乳幼児、障害を持つ方、高齢者等の方々の健康の安全は守られないのではないでしょうか。PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めて下さい。再評価を求めます。
1297	PFAS の摂取許容量の値について、健康被害との関連性が確実ではない、不確定であるということで、非常に甘い値で設定されていると思います。 水は、子どもから高齢者まで、必ず口にするもので摂取を避けることができないものです。 従って、健康被害が少しでも疑われる場合は、規制するべきです。健康被害がないと確定される値にまで、規制値を厳しく設定するように見直してください。
1298	現在悪性リンパ腫を患っています。 「PFAS 評価書（案）に関する Q&A（2 月 13 日）」を拝読しましたが、

	「II. 評価書（案）の概要　Q6　ハザードの特性評価（PFAS の健康への有害影響の性質と程度の評価）においては、どのような項目がどう評価されたのか？（中略） (8)発がん性：・・・疫学研究では、PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関連については、結果に一貫性がなく、証拠は限定的※であると判断。PFOS と肝臓がん、乳がん、PFHxS と腎臓がん、乳がんとの関連については、証拠は不十分※と判断。」 とありますが、このように不確定要素があるなかで、 「TDI を、PFOS 20 ng/kg 体重/日、PFOA 20 ng/kg 体重/日とすることが妥当」 という設定することの不合理さ・不誠実さを痛感します。体内蓄積に関してはどう考えてているのか？本気なのか？可能性がゼロ出ない限り全面禁止するべきです。しっかりしてください。よろしくお願いします。
1299	基準がおかしすぎます 日本を滅ぼすおつもりなのでしょうか？ 是非真っ当な安全な基準にしてください。
1300	有機フッ素化合物は発がん性リスクがあると WHO でも認定されています。そのような健康影響があるにも関わらず、アメリカや欧州の基準を緩和した摂取許容量としたことに疑念を抱かざるを得ません。まず、健康影響をはっきりさせてから基準を示すべきではないでしょうか。
1301	日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍は不安過ぎるので、やり直しを求めます。
1302	PFAS は極めて安定で、生体内や自然環境中に長く残留、蓄積するので「永遠の化学物質」とも呼ばれています。PFAS は発がん性があり、胎児や乳児の発育障害、免疫力を低下させるといわれています。岸玲子北海道大学名誉教授は次のように話しています。「世代を超えて汚染が伝わるのが PFAS のこわさです。日本食品安全委員会が示した 20ng/kg/日はアメリカの摂取許容量の数百倍、欧州の数十倍で国際的潮流に反する非常に高い値です。次世代のことを考えるとせめて欧州並みの許容値にすべきです。
1303	国民の安全性側に立った判断をすべきである。 「PFOS 及び PFOA について、疫学研究で報告された血清 ALT 値の増加、血清総コレステロール値の増加、出生時体重の低下、ワクチン接種後の抗体応答の低下との関連は否定できないと評価した。」それなら但し書きを付けずに規制すべきである。 「出生時体重の低下については、SGA 児、低出生体重児（2,500 g 未満）等の影響を報告した研究」があるので、規制すべきである。 「発がん性については、動物試験でみられた事象は、げっ歯類特有のメカニズムである可能性がある」可能性だけで「ヒトに当てはめられるかどうかは判断できないと評価した。」するのは間違いで、規制すべきである。 「疫学研究から、PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関連については、研究調査結果に一貫性がなく、証拠は限定的であると判断した。」関連がある点に着目して規制すべきである。 「PFOS と乳がん、PFHxS と腎臓がん及び乳がんとの関連については、証拠は不十分であると判断した。」十分でなくとも証拠があれば、規制すべきで、判断が間違っている。
1304	有機フッ素化合物の基準が「20ng/kg/日」とのこと、米国や欧州と比べるととても高いことに不安を募らせています。発がん性評価も入っていません。また、有機フッ素化合物のうち、PFOA, PFOS しか測定対象にしていないことも心配です。　実験結果も古いものを採用しています。以上の点から、基準の見直しを強く求めます。
1305	世界保健機関（WHO）の国際がん研究機関（IARC）では多くの国から 50 人以上の研究者が集まり、論文を精査し、多くの証拠に基づいて、PFOS は「発がん性の可能性がある」と評価し、昨年の 12 月発表しました。発がん性の観点からしても、欧米は「PFOS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本の食品安全委員会はその流れに逆行しています。日本も「PFOS ゼロ」を目指すべきです。
1306	PFAS 有機フッ素化合物は、発がん性、免疫低下、その他健康を大きく害するのに、規制しないことは考えられません。再度しっかり話し合って、規制強化をしてください。国民の命ファーストで、食の安全を守るため、改革を強く推進して下さい。宜しくお願い致します。
1307	ＰＦＡＳの発がん性の評価についての意見を追加します。 　米国・環境保護庁（ＥＰＡ)はＰＦＯＳ、ＰＦＯＡは「発がん可能性がある」と結論づけています。 　今回、食品安全員会が示した許容摂取量（案）は、ＰＦＯＡでは米国の２０２３年基準の６６６倍、ＰＦＯＳでは２００倍となります。こんな高い許容摂取量では住民の健康は守れません。 　国際がん研究機関（ＩＡＲＣ)は昨年 11 月、ＰＦＯＡ「発がん性がある」、ＰＦＯＳ「発がん可能性がある」と評価しました。 　食品安全委員会も予防原則に基づき、国際的な知見を受け止めて、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう「発がん性」を認めるべきです。リスク評価は、ＰＦＡＳの有害性を不確実なものも含めて、きちんと評価すべきです。
1308	食品健康影響評価に係る審議結果（案）について反対いたします。 大変疑問に思うのは、なぜ日本だけがこのように非常識な値で 許容としようとしているかです 日本で許容される 1 日あたりの PFAS 摂取量（案）は 米国の PFOS で 200 日分、PFOA で 666 日分 欧州の 64 日分に相当します。 日本人だけ国によって不健康に生きる事を強制されるとしたら もうこれは人権侵害です。 また見方を変えて、子供（体重 20kg）の暴露をみていくと 世界各国との差は歴然です。 日本：800ng/日（2 物質 PFOS400ng/日、PFOA400ng/日） 欧州：13ng/日(4 物質 PFOS,PFOA,PFHxS,PFNA) 米国:7ng/日(2 物質 PFOS 2ng/日,PFOA 0.6ng/日） 一体何を目的に、あるいは何の権利があって

	国民の健康を損なう決意をもっているのですか。到底その目線は国民の健康と幸せを見ているとは言い難いです。 これは許されない犯罪とも言える決断です
1309	ごく恐ろしいです。 どうかやめてください。
1310	有機フッ素化合物の基準値を下げて欲しいです。 そして、現在数値の高い地域にお住まいの方への血液検査を国先導で お願いしたいと思います。 よろしくお願い致します。
1311	科学的に確実な PFAS の有害影響が突き止められないうちは、海外のさまざまな有害試験のデータの中から最も低い値を元に TDI を策定してください。
1312	欧米と比較すると、日本は基準値が高いと知りました。将来がある子供への影響も大きいと思います。 欧米と同じレベルまで、基準値を下げていただいたいです。 国の責任として、健康被害への調査をしっかり行ってほしいです。
1313	食品安全委員会が「20ｎｇが妥当」と判断したことですが、なぜ米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い数値が日本の許容摂取量になるのですか？ 人体に影響がある可能性があるからＰＦＡＳの一種であるＰＦＯＡがＷＨＯにより「発がん性がある」に分類されたのではないですか？しっかりした対策と調査を強く望みます。
1314	自治体ごとに水中濃度と人体への現在までの被害を確認するために血液検査を実施してください。先進国であるアメリカやフランスよりも基準値の濃度が高く、それをそのまま放置しておくのはおかしい。
1315	私は地下水の PFAS 汚染が深刻な東京多摩地区に住んでいます。 今回、食品安全委員会が初めて示した「PFAS の許容摂取量（案)」は諸外国の基準と比べて非常に高い数値です。 アメリカの基準の 200 倍、ヨーロッパの基準の 60 倍も高い数値です。このようなゆるい基準値では住民の健康を損なう恐れが非常に高くなります。 是非、アメリカと同等の基準値を採用し、すべての種類の PFAS を規制対象にしてください。
1316	本当に人体に影響のない健康を守れる基準値（できれば 0）に設定してください。 発がん性物質だと言われている有機フッ素化合物の基準値が、欧米や世界の 50 倍なのはおかしいと思います。
1317	利益と効率を優先して、健康被害を軽視することは、してはならないことと考えます。
1318	PFAS の基準値を下げてほしいです。(水道水中の暫定目標値など)
1319	国民の健康を守る気があるなら、なぜ欧米水準なみに規制しないのか、全く理解ができません。(ひょっとして、そうすると水道が使えなくなる地域が続出するから、なんでしょうか) 米軍基地や半導体工場等、汚染源を厳しく取り締まってください。農薬や遺伝子編集食品などの規制の緩さも、理解できません。 医療費を抑制していくために、原因から対策してください。
1320	フランスやアメリカの基準値を聞いてびっくりしています。 フランスは　1 日本は　５０ とのこと。 影響は本当にないのでしょうか？どうぞ長い目で見てください。 基準値の見直しを強く希望いたします。
1321	リスク評価が低すぎる 欧米と同じ基準にしてください。
1322	PFAS の基準値が他国より随分高く設定されているようです 四季折々美しい日本と日本人を守ってください 今と未来のために目先の利益などに振り回される事なく 安全な数値に設定し直してください よろしくお願い致します
1323	水なしでは生きていけません。未来の子供たちのためにも、PFAS ゼロを日本でも目指していきたいです。
1324	食品健康影響評価に係る審議結果（案）について反対いたします。 日本だけがこのように非常識な値で 許容としようとしているか大変遺憾に思います。 --- 世界各国との暴露許容の差 --- 1.大人（体重 50kg） 日本：2000ng/日（2 物質 PFOS400ng/日、PFOA400ng/日） 欧州：32ng/日(4 物質 PFOS,PFOA,PFHxS,PFNA) 米国:7ng/日(2 物質 PFOS 2ng/日,PFOA 0.6ng/日) --- 2.子供（体重 20kg） 日本：800ng/日（2 物質 PFOS400ng/日、PFOA400ng/日） 欧州：13ng/日(4 物質 PFOS,PFOA,PFHxS,PFNA) 米国:3ng/日(2 物質 PFOS 2ng/日,PFOA 0.6ng/日) ---

	断固反対致します。
1325	健康に害する可能性のあるものなら、予防医学の観点からも、厳密な基準を決めて対処して貰いたいと思います。
1326	日本の基準値は高すぎます。健康被害が出てからの対応では遅すぎます。諸外国がなぜ低い基準値を設定しているのか。日本はもっと長期的な視点で物事を見るべきだと思います。
1327	欧米諸国の基準値を知って愕然としました。世界最先端の環境基準に日本も倣うべき。一時的に経済を優先してＰＦＡＳ、PFOS 対応を後回しにすれば、遠くなく人が住めない場所になり、健康被害ももちろん、経済衰退に繋がるだろうと容易に予測できます。
1328	岡山県吉備中央町に住んでいる友人から PFAS の健康被害について聞きました。 これからの子ども達が健康でいられるように全国で PFAS の数値規制をアメリカ並みにしてほしいです。
1329	PFAS 規制のあり方の検討にあたっては、将来世代の健康問題に影響をきたすことがないよう、以下の点を十分、かつ、慎重に考慮して、審議いただきたい。 将来世代に健康な身体と豊かな自然環境を残すことは、私たち現役世代の最も重要な役割です。 1 規制の対象となる PFAS の種類について、種類を限定することなく、網羅的、かつ、包括的に検討すること。 ２　規制数値や規制対象の PFAS の検討に際しては、現存する世界各国の数値や対象物質のみを参考とすることなく、各国及び EU や国際機関等において、現在検討、審議されているより先進的な取り組みを十分に精査して、反映すること。 3　特に日本よりもより厳格な規制基準の検討を進めている国（アメリカ、フランス等）や EU 等の取り組みや方向性を十分に研究し、日本における今後の規制や取り組みに反映すること。 4 国内における PFAS 物質による汚染の実態を把握するための継続的かつ網羅的なモニタリング及びその結果の取りまとめ、公表についての具体的な道筋を示すこと。
1330	吉備中央のニュースで今回の PFAS のことに疑念を持ちました。 これからの未来の子供たち、大地のために今一度立ち止まり 考えてくださることを願っています。 基準値は日本独自ではなく世界基準にしていただきたいです
1331	科学的に証拠不十分とされた健康影響についても保護されるよう TDI を見直すべき。他国の基準と比べて高い基準が理解不能。
1332	アメリカやフランスと同じ基準値にしていただきたいです。 PFAS の一部の物質について、WHO＝世界保健機関のがん研究機関が発がん性の評価の引き上げを公表しています。 日本だけ目標値あるいは基準値をものすごく高くして、日本の国民の健康に影響がないとは、全く思えません。 アメリカやフランスがなぜその基準値にしているのかきちんと把握する必要があると思います。
1333	吉備中央町での検出について耳をして、信じられない情報に ただ驚いている。欧米諸国に比べて日本の基準値、目標値があまりに高く、 自然への配慮が全くないこの国へ何を期待するのか。この先の未来に、何を残していくのか。ぜひ、改善のためにアクションをしてください。
1334	まず、基準値を大幅に上回る値が、水道水に混入されていた地区があった事も問題ですが、健康被害があるものを欧米の基準値と比較しても相当高い値を許容している事にも問題があると思います。 毎日飲まなければ生きていけない大切な水には、フッ素を入れるのをやめて頂きたいと切に願います。
1335	ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指しています。 日本も目指して欲しいです。 今の基準値では子供達の未来の健康が保証されるのか心配です。 基準値の再評価を求めます！
1336	今検討させれいる PFAS の規制値はとても甘いと思います。ぜひ欧米の規制値に合わせてください。今を生きる人のためにも、未来の子供たちのためにも、お願いいたします。
1337	日本の基準値はヨーロッパとアメリカよりはるかに高いですが、それでいいんでしょうか？ 安全な水も飲めない日本はどうなっていくのでしょうか？
1338	フッ素化合物には害があると考えますので反対です。
1339	食品安全委員会が示す摂取許容量の案は 血中濃度に換算して、アメリカの基準と比較すると PFOA が 20ng で 666 倍、PFOS も 20ng で 200 倍。 許容量が高すぎます。 国際的な発がん性評価を取り入れて 、予防原則に基づいて、 取り込む量を極力減らすことを最優先してください。子ども、妊婦、乳幼児など、感受性の高い人々に配慮して未来の命を守ってください。 ヨーロッパでは PFAS 全品目を規制する動きになっています。 日本は 2 つだけを評価しています。水も空気も、食品も命の基です。厳しい規制を一刻も早く取り組む体制を整えてください。　もっと厳しく再評価してください。
1340	PFOS　PFOA の摂取量を 20ng/日まで許容する今回の決定に疑問があります。まず IARC が昨年末に PFOA を発がん性あり　PFOS を発がんの可能性ありとランクを引き上げたにもかかわらず、「発がん性の有無は不明」として今回の数値決定の過程に反映されていないことです。第二に小泉昭夫京大名誉教授の試算によると毎日２０ng を摂取すると血中濃度が 140ng/ml 程度にまで上昇するとされています。これはアメリカ科学アカデミーが２０２２年にガイダンスで公表した「20ng/ml 以上は健康観察を推奨する」とい基準を大幅に上回ります。第三に IARC のメンバーである国立がん研の岩崎基先生が指摘しているように、わが国の PFAS に関する疫学データが際立ってすくないこと。第四に同じく IARC メンバーの国立衛生研の菅野純先生が指摘しているように PFOA　PFOS 以外の PFAS について何もふれていない点です。不明な点が多い場合は予防原則に則ってより厳しい基準を設け、早急に疫学研究をすすめるべきだと思います。結果的に健康被害があったとわかった時点ではすでに手遅れだからです。
1341	今と未来の住民市民の健康・福祉を積極的に追求することが行政の役割です。 予防原則に基づきアメリカと同等の基準を採用すべきです。
1342	今の基準値はこれから大人になる世代の健康被害が心配です。 欧米に比べて許容しすぎていませんか。 再評価を求めます。
1343	安心安全に暮らせるように、どの地域でもしっかり水質調査をしてほしい。

1344	地元である岡山の吉備中央町での PFAS 問題で知りました。 欧米での基準値と比べて日本の基準値が余りにも緩く、安心して水道水が飲めなくなりました。 検査クリアの基準値見直しを求めます！
1345	実家のある岡山県で PFAS の問題が起こっていることを知りました。 健康に直結する水の問題、また知らないうちに取り込んでいる可能性があること、とても恐ろしいことだと思います。 子供を育てる親として、国や自治体にはこういうことを後回しにせず、解決し周知してほしいと願います。
1346	ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指していると聞きました。 未知の部分も多いとのことで、不安があります。これからも日本で過ごす子供達の健康の為にも、基準値の引き下げをお願いします。
1347	基準が緩過ぎます。 3 歳の娘にも安心して水を飲ませられるよう基準を見直してください。
1348	基準値が他国よりもとても低いそうですがなぜ日本は改善しないのでしょうか？ リスクの基準が低いのはとても危険なことだと思います。
1349	PFAS の許容摂取量は、海外の基準と比較して日本の基準が甘すぎます。 PFAS の許容摂取量の見直しを求めます。
1350	東京都多摩地区の近隣住民（世田谷区在住）です。 多摩地区の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染が体内汚染につながっており社会問題化しています。 アメリカ合衆国、EU の安全基準を大幅に超える基準値の設定は受け入れられません。同等の基準値(下記)を求めます。 PFOS 0.1ng/kg/日 PFOA 0.03ng/kg/日 4PFAS 合計　0.63ng/kg/日
1351	欧米の基準値に比べ、数値が高めに設定されていますが、本当にそれで大丈夫なのでしょうか？ 安全な未来が保証できるのでしょうか？ 逆に、欧米はなぜそんなに厳しい基準値を設定しているのか… それだけ危険性があるのでは？と思ってしまいます。 もう少し考える必要があると思います。
1352	水道水の汚染が気になっています。 日本の基準値はアメリカやフランスなど外国と比べてみるとリスク評価が高すぎませんか？未来の子供達の健康が保たれません。 再評価を求めます。
1353	私は安全なお水が飲みたいです。 欧米並みの基準にして下さい。 よろしくお願いします。
1354	有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響について、情報公開を求めます。 欧米よりも許容範囲がかなり低いと聞き、子どもへの健康の影響を心配しています。 水道水を飲んでも本当に大丈夫なのか、またこれから調査を進めて、汚染を止めることができるのか、教えてもらいたいです。
1355	健康被害が出てからでは遅いです 未来のために今きちんと調べてください PFAS の基準値をほぼ 0 まで下げてください よろしくお願いします
1356	PFAS が生活の中に入り込みすぎている現状に今更驚き、それを調べずにいた自身にも腹がたっております。 どうか基準値の見直しをお願いします。 基準数値が高すぎます。 過去に何度も起きた水質汚染での被害を繰り返すことは本当に愚かです。 豊かな水の国を守って下さい。
1357	食品安全委員会が PFAS の許容摂取量案は、欧州の 60 倍と高い数値となっています。 この数値が飲み水の水質基準に使われるので、大変な事態です。再検討して下さい。
1358	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量案は、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とのことです。あり得ないです。日本人は欧州やアメリカの人と同じ人間です。 この数値が飲み水の水質基準に使われるのでは、安心して水を飲むこともできません。水は命です。 PFAS の許容摂取量案を欧州並みにしてください。
1359	わたしたちの源である“水”を守ってほしい。真の安全とは何かを、示してほしい。
1360	一度体内に取り込んでしまうと排出できず蓄積されていく PFAS、水道水に含まれているとしたら、生きている間に摂取してしまう量は長大になりうるのではないでしょうか。 安全基準はできるだけゼロに近い数値にすべきです。ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指すと言われています。海に囲まれ大小の川が流れる日本では、同じくらい、それ以上の安全性を目指すべきではないでしょうか。 検査が出来ない、事例がない、少しでも不安なことがあるようなら、摂取しない方向で安全基準を設けて頂きたいです。 人の健康を考えない経済優先主義は誰を幸せにするのでしょうか、、
1361	PFAS の日本の基準値について、他国（アメリカなど）と比べとても恐ろしい 基準値だと思いました。このまま、何も意見しないと、熊本などの綺麗なお水も 汚染されていくのではないかと、とても心配になります。 日本の基準値の再評価をお願いします。 私たちの日本の未来を、考えて欲しいです。
1362	IAEA で発がん性があるとされています。ヨーロッパでは PFAS ゼロにしようとしています。今の基準値では国を信用できません。
1363	子どもの未来のために基準値を再検討してほしいです。

1364	フランスでは基準値 1、ヨーロッパでは基準値 0 を目指しているとのこと、知りました。 日本でも同様の基準値で、この先の安全を守ることは必須です。 未来の安全が 1%でも不確定なら、基準値を緩く設定するべきではないと思います。
1365	2014 年に愛猫 3 匹と共に立川市へ越してきました。PFAS のことは知りませんでしたが、3 年以内のうち約 6 歳だった猫たち前頭が原因不明の急性腎不全等で亡くなってしまい、こちらで保護した 2 匹の猫も数年で亡くなりました。 人間はミネラルウオーターを主に飲料水にしていましたが、猫には水道水でした。 私自身も腎機能は徐々に下がっています。 PFAS がどのような健康被害をもたらすか、疑念も払拭できないため、徹底して調べていただきたいと思います。
1366	PFAS について最近知った物です 評価基準を緩い設定に変えることで 基準はクリアできているから大丈夫 というカラクリに賛同することはできません 私にとって大切な人が今の基準値を大きく上回る地域で暮らしています 健康の被害が心配です どうか、諸外国に比べて緩い評価基準を同等レベルまで引き上げていただきたい 私の根本は自然の中で生かされています それ以上に大切なものなどないはずです どうかよろしくお願いします
1367	今回の有機フッ素化合物だけに限った事ではありませんが、日本のリスク評価が低すぎませんか？ ヨーロッパやアメリカと比べても、驚きの低さに、自分が住んでいる国にガッカリする事が多過ぎます、、、。 「東洋のゴミ箱」とまで言われている日本、、、恥ずかしいです。 恥ずかしい国に住んでいると、これ以上思いたくありません。 どうか、政府の底力を見せていただきたく、ご意見させてください。 どうぞよろしくお願いいたします。
1368	吉備中央町での水道水の問題で、自分にとって大切な方々、子供たちの体内に大きな数値の影響が出ていることを知り、自分にとっても他人事ではないと感じました。 リスクについて証拠が不十分、わからないという記載を読みましたが、健康影響評価を予防の視点から行い、基準をヨーロッパやアメリカと同じ程度まで下げてもらいたいです。今の基準値で子供たちやこれから続く世代の人たちが、安心して暮らし健やかな体を育んでいくことのできる環境を残していけるのでしょうか。
1369	ずっと日本が一番だった安全基準を崩すのはなぜですか？ 国民の健康はどうでもいいんですか？ 日本人から健康と安全を奪わないで下さい。
1370	現時点の科学的知見に基づいて指標値として PFOS は 20ng/kg 体重/日、PFOA も同様の数値としているが、PFHxS は十分な知見が得られないとして指標値の算出は困難としています。 しかし、国際的視点から許容摂取量をみるとアメリカでは、PFOS は 0.1ng/kg/日、PFOA は 0.03ng/kg/日となっています。日本の指標値は、余りにも高いように思います。 また、2 種類の PFAS だけでなく、それ以外の PFAS についても「知見が得られない」と切り捨てるのではなく、人体の安全と健康を守る為に評価を急いでください。
1371	世界各国と比べて、日本の基準の甘さに驚いています。再評価お願いします。
1372	欧米の基準値に比べてあまりにも高すぎると思います。環境後進国にならないためにも、どうか見直しをお願いします。
1373	直ちに PFAS の基準を欧米のそれまで引き上げてください
1374	PFAS に係る食品健康影響評価について、以下の理由により、再評価を求めます。 食品安全委員会が示す摂取許容量の案は、血中濃度に換算すると PFOS、PFOA ともに高すぎます。アメリカ科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べて PFOS は 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような高い血中濃度を「安全性に問題なし」とすれば、市民の安全は守れません。とりわけ、妊婦や乳幼児、障がい者や高齢者などへの影響が懸念されます。また、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは食品安全衛生委員会の信用を問われる問題です。ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしています。せめてアメリカ並みの基準にすべきです。
1375	日本の安全基準値を欧米並みにしてください。健康の保証ができないのであれば、最も安全な数値にすべきではないでしょうか。 子どもがいます。未来の日本を担う子どもたちの健康を守れる日本にしてください。目先の利益にとらわれず、きちんと未来のことを考えましょう。
1376	健康被害が出てからでは、遅いです。 私達の住むエリアでは水道からとても濃度の濃い有機フッ素化合物が、ずーっと出ていました。飲んでいました。浴びていました。なにも知らずに。。毎日毎日。。。助けて下さい。
1377	公的検査ではないですが、立川市は井戸水や採血結果で大変高い異常値が出ています。食品安全委員会の許容摂取量は、米国や欧州に比べて大変高いです。このまま、水や食物を取り続けるのが心配です。是非安全な数値の見直しをお願いします。 水や農作物への被害も作成者へ保証をしてください。
1378	PFAS アメリカの 200 倍の許容値は緩すぎます。真剣に取り組む気があるのか疑います。
1379	日本の基準値も欧米並みにするべきです。 なぜそんな高い設定にしてるのでしょう。 農薬も添加物も日本は多すぎるし

	健康に過ごせる国ではなくなってしまったのですか。 安心して暮らせる国になってほしいです。
1380	減少している子供の出生数と健康的生活の出来る寿命の現在を鑑みて、pfas の基準数値を出来るだけ下げていただきたいです、
1381	米国や欧州よりも著しい数値の超過は健康被害が促進されてしまいます。
1382	京都府綾部市の犀川に高い数値の有機フッ素化合物が流れ、その水を使って米を育て、近くの畑で野菜や豆を育てているため、今、有機フッ素化合物のこの問題に直面しています。 日本に住む子どもたちの未来を保証するためにも、水、土壌、食品などが守られなければいけません。 日本もアメリカやフランス並みの基準値が設定されることを切望します。
1383	東村山で暮らし、小平も生活圏内の市民です 日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍だと聞きました 昔は日本製や基準は安全というイメージがありましたが、経済の衰退とともに逆転されていますね 今回のこの基準はあり得ません 米軍基地に立ち入り検査に入ることも、強く非難することもできない与党はまさに傀儡政権ですね オスプレイの使用再開でもそうですが自国民を守る気がなさすぎます 結果、がんが増えた時に健康保険で税金を使うはめになる 命を軽く見、長期的な視野に欠ける人たちに国を任せたくないです アメリカ本土では PFAS 規制強化されています 何が問題かわかり、解決方法もわかっているのにアメリカは日本では対応を拒んでいる 完璧になめられてるんですよ こんな国が有事に、日本と対等な立場で戦うと思ってることこそお花畑でしょう 絶対に屈せずちゃんと対応させ、日本国民が健康に暮らせる水質基準にしてください
1384	ＴＨＩを見直して欲しい
1385	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。 日本も「ゼロ」を目指すべきだ。 （また、 この摂取許容量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。） 日本の自然環境を考えると山から海に流れる水の働きはとても大切です。 人は水がないと生きられない。
1386	日本の基準値の再検討を求めます。 日本に住む人が健康に生きられるようリスクを考慮ください。
1387	他の米国や欧州に比べて基準が甘すぎる。 国際がん研究機関で発がん性がある、と評価されたにも関わらず日本で証拠が限定的とされてる点。 証拠が出てからで遅いのは明白なのでは。 被害が明らかになってから対策するということは、健康的に暮らすことを保証されてないということです。 子どもたちの未来に安心して生きていける土地を残したいです。
1388	アメリカやヨーロッパでは発がん性物質として危惧しているにも関わらず、日本の目標値は諸外国と比べて高い値でありながら「危惧するようなものではない。」となぜ断言できるのか理解ができない。 日本各地で水道水から検出されつつある PFAS の発生源をきちんと調べていただきたいです。 生きていくために必要な水が安心して飲めるように調べて、情報を広く伝えてください。水道水が将来自分の子どもに安心して飲ませられるものであって欲しいです。日本の目標値をきちんとした基準として認定し、その値は検出可能範囲の限界まで下げてください。 発がん性が危惧されるのであれば、なるべく使わないのが健康のために必要な考えだと思います。健康に生きていきたいです。きちんと話し合ってください。国民の声を無視しないでください。
1389	PFAS の摂取量の値を、欧米の中でも、一番厳しい値と同じかそれ以下の値にする事を求めます。 欧米人より体の小さい日本人が、摂取許容量が欧米の値より多いのはおかしいです。 現在の私達日本人、未来の子供達の健康を守る権利が私達にはあります。 その権利を犯す（犯した）企業、放置している国にも厳格な処罰を望みます。
1390	健康に関わる重要な問題であるために、慎重に対応する必要があるので、最低限、国際基準に沿った、基準を日本でも作るべきだと考えています。
1391	厳しい規制をお願いいたします。 体に良くないものを緩和するのは どうしてでしょうか。 日本の為にも将来に続く健康な体を 持って生き続けるのが必要なのではないでしょうか。 くれぐれも宜しくお願いいたします?
1392	PFAS とＰFOS の、摂取しても安全だ、という基準を、アメリカ並みに厳しくして下さい。
1393	有機フッ素化合物 PFAS の基準値の見直しをお願いします。 未来ある子供達に安全な水をお願いします。
1394	PFAS の規定値は海外では年々基準値を下方修正しています。 現状日本は大変高い数値のままですが、このままで大丈夫なのでしょうか。 私の家の近くにも廃棄物置き場が多数あります。 地中に流れ出していないかが不安です。 どうぞ、確実に安全と言える基準、伴っての廃棄物処理を始め安全確保をお願いしたいです。
1395	PFAS の基準をアメリカと同等にしてください。
1396	ＰＦＡＳも沢山種類があるようです。 規制ももう一度見直してください。

1397	米国や欧州と比較して、著しく高い許容摂取量を、これら諸国水準にすることを強く求めます（参照ソース：https://tamapfas.wixsite.com/info)。。また、最新の PFAS 研究を広く参照し、科学的に蓋然性のある結果を導出されることを、担当諸機関に求めます。
1398	基準値が世界基準の常識を超えすぎていることに驚きと、不安を抱いています。 綺麗で美しい日本、安心安全な水、作物を，守ってください。
1399	基準値が海外と比べて著しく高い点を科学的根拠をもってきちんと示せるのか？まずはそれをするべき。安全基準が厳しかった日本が海外基準をはるかに超えているのは明らかにおかしい。健康被害を放置するのは許されない。
1400	どうか、もう一度考え直してほしいです。よろしくお願いします。
1401	発がん性については(中略)、ヒトに当てはめられるかどうかは判断できないと評価した。疫学研究から、PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関連については、研究調査結果に一貫性がなく、証拠は限定的であると判断した。PFOS と乳がん、PFHxS と腎臓がん及び乳がんとの関連については、証拠は不十分であると判断した。 とあるが、WHO は昨年末、PFOA を 4 段階ある分類のうち最も高い「発がん性がある」に 2 段階引き上げ、PFOS については、上から 3 番目の「発がん性がある可能性がある」に初めて位置づけている。今回、米国環境保護庁（EPA）の 2023 年の草案を無視して、EPA2016 年の見解を採用しており、エビデンスが古いのではないか。WHO の位置づけにも連動した評価に改めるべきである。 PFHxS や PFNA も監視対象に加え評価を行い、対策案を示すべきである。
1402	日本の基準は緩すぎます。見直しをお願いします。
1403	まさか日本の至る所で検出されているとはしりませんでした。フランスでは日本の 1/50 だと聞きました、日本人の方が体格も小さいのでフランスよりも厳しく限りなく 0 に近づけていただきたいです。 水は大切な資源です、安心して使えるように管理をお願いします。
1404	日本では、化学物質に対する許容があまりにも緩すぎます。このままでは、子どもたちの未来もない他、こういった恐怖的な事項が海外まで知れ渡り、留学?就労?移住?在住される外国人が居なくなるのではないの無いでしょうか。 既に、教育環境や添加物問題が子どもたちに対して非常にに恐ろしい事態になっている為、個人では日本の礼儀などを学ばさせたいので子どもを日本に留学させたいと仰っている外国人には、やめた方が良いと話しています。都内のホテルに宿泊した際には、水道を飲料水として飲めますと記載している所もあります。ですが、ヨーロッパ諸国からすれば毒性物質が大量にに入った飲めない水であり、濾過して透明に見せかけただけのものだと思います。国策としての目的は、企業に癒着してペットボトルの水や浄水装置を売り捌く目的?工業化を推進する為に土壌汚染を許容する事でしょうか？ PFAS 基準がヨーロッパ諸国並みになる事を望みます。有識者がこれを許容範囲するのであれば、正気の沙汰ではなく意図的に国家が有識者の人選を行ったとしか想像できません。岸田総理になってからというもの、更にとんでもない日本になっていると感じています。
1405	食品を包むラップやクッキングシート、袋など、どのような物に有機フッ素化合物（PFAS）が使用されているのか消費者にわかりやすく提示してほしい。 PFAS 汚染全国マップを定期的に公表してほしい。 （地下水、水道水、河川など） 飲料水中の PFAS 規制値をアメリカやフランスのように下げてほしい。 私の住んでいる地域では夏になると子供達が近くの川で水遊びをするのですが PFAS 汚染がとても心配です。工場からの廃棄物に関してもっと厳しく取り締まってほしいと思います。
1406	水の美味しいところに住みたくてここにいるのに、欧州や米国の数十倍を許容する基準を提示されパニックに陥っています。このままでは引っ越しを検討せざるを得ません。また水という人体に最も重要な物質に対するぞんざいな扱いに度肝を抜かれるとともに、会議体の当事者能力に対する疑問が生じてしまします。更に自分が納税したお金で活動する組織が自分の健康に害なす可能性の極めて高い審議を導くなど恐ろしいブラックジョークです。加えて日常的に住民に隈なく摂取される水が高リスクならば健康を損なう人が増え、医療費を圧迫する可能性が高まり、将来に対する巨額の負債になりかねません。しかもその回復は困難を極めるとともに、高齢化が進み税収や健康保険料の低下が予想される中ほぼ不可能、不可逆、a point of no return を超えることになりかねません。再考を強くお願いします。
1407	1，安全安心な水の供給の為、全国で水質検査を実施してください。そして PFAS の汚染が発覚した場合は汚染源を調査、追跡して対策をとって下さい。 2、汚染が発覚した場合、住民の血液検査を行なって下さい。特に子供たちの血中濃度の測定を定期的に行ない健康被害の予防に備えて下さい。 3、摂取許容量が欧米と比べて PFOA666 倍、PFOS200 倍とのこと､本当に大丈夫でしょうか?疫学調査を欧米並みに行ない許容基準を見直して下さい。
1408	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量案は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍というのは本当でしょうか？ 人種が変わると人体は急に影響を受けなくなるのですか？ 水は人類に欠かせません。安全な水を守ってください。よろしくお願いいたします。
1409	フッ素化合物は水もそうですが、数十年続くフッ素加工フライパンも無視できません。フッ素加工をしていないフライパンはなかなかありません。僕は未加工のフライパンがないので焼き料理はしていません。 製造元を規制していかないとどうにもなりません。しっかりと改善していくことを期待します。
1410	IAEA で発がん性があると言われている PFAS、まだまだ人間への健康被害、動植物への健康被害などがわかっていうちに目標値を設定をするのはいかがなものでしょうか。とても心配です。とても不安です。人間に大丈夫でも、他の動植物が大丈夫じゃないとしたらどうでしょうか。結局は人間にかえってくるのではないでしょうか。全国の水を調査していただきたいです。みな、水がなければ生きていけません。簡単に結論は出せないことだと思います。数値はゼロを目指すべきだとおもいます。
1411	以前からダイキンによる公害について同じ大阪に住むものとして関心がありました。岡山県に住むかたのお声により、今回こちらのパブリックコメントを知り、送らせていただきます。 まさか、現代にもこんな公害が起こっているなんて、信じられない思いです。基準値をせめて欧米並みにしてください。日本は広く、汚染源から遠く離れているからと言って、どなたも地続きでどこで影響を受けているかわかりません。どうぞ、自分ごととしてお考えくださり、実態をよく調査してくださいませ。
1412	基準値が高すぎるので，欧米並にするのが良いと思います。
1413	WHO 世界保健機関のがん研究機関が発がん性があると公表しています。

	アメリカ並みの基準にはしてほしいです。
1414	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち欧州、米国と同基準にしてください
1415	慢性的な影響を評価するようにお願いします。海外では疑わしいものは安全側で規制するのが常識ですが、日本国内においては規制が諸外国に比べて緩い状況です。これを反省し本件においては慢性的影響を予め評価するとともに、後から明らかになることがあれば速やかに規制を厳格にしたり、諸外国の規制で最も厳しい基準に合わせるように予め処置容量を定めることを盛り込んでください。
1416	食品安全委員会で設けられた PFAS の許容摂取量の値がとても高いように思います。 アメリカ環境保護庁が提案している値と比較して、PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍も多いです。欧州食品安全期間（EFSA）と比べても 60 倍以上です。 何故、他国とこんなに開きが出るのですか？ 化学的な不確実性を口実にして対策を遅らせず、予防原則に立って再度のご判断をお願い致します。
1417	世界中で発がん性のある PFAS を減らす運動が盛んな中、なぜ日本で今よりも増やしてもよいとするのかわからない 恥ずべきだ
1418	IARC が発癌性を認めているのだから、日本も認めるべき。 海外では、汚染ゼロを目指しているところもあるというのに、日本の値は信じられない高さです。水俣病、イタイイタイ病、カネミ油症など、数々の公害病を引き起こしてきた日本人と日本政府。今また、世界一危険な国として、悪名高くなれば、政府が目指す観光立国も危なくなるのではないですか。海外旅行先から日本が削除されるようなことにしないためにも、きちんとした規制をする必要があると思います。 ただでさえ少子高齢化で、国の存続が危ぶまれている日本。政府はもっと危機感を持って、p ファ s の問題に取り組むべき。敗戦国だから、米軍基地の垂れ流しに文句が言えない、と言っていては、国が終わってしまいます。
1419	日本の PFAS の安全基準値が高いのではないでしょうか？PFAS は発癌性物質だと聞き、怖いです。もし、癌になっても証明できないのかもしれませんが、毎日飲む水が汚染されていると不安でいっぱいです。どうか、PFAS の安全基準値を下げてください。未来を生きる子どもたちのためにも、お願いします。
1420	PFAS の発がん性その他の健康被害は、米国やオランダで実証済みである。日本の基準案では市民の健康を守れない。先人の過ちを繰り返さないでほしい。
1421	PFAS のうち PFOA は発ガン性の物質です。 （　WHO 傘下の IARC が PFOA について、４つの発がん性分類のうち「グループ１」、PFOS について「グループ２B」と評価しました。 https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/pfoa_and_pfos_faq.html　） 健康被害が出る前に、予防原則に立って厳しく規制し、未然に防いで下さい！親の体内の PFAS は孫まで影響するといいます。欧米の規制にならい、厳しく規制し、子どもたちや未来の子どもたちを守って下さい。
1422	日本の PFAS1 日あたりの摂取許容量がアメリカやヨーロッパの数百倍と言うことを知りコメントさせていただきました。 発癌性物質とも言われている中この数値は改めなければならないと思います。 目に見えないものだからこそ、体内に蓄積されてからから健康被害に気がつくのでは手遅れになってしまいます。
1423	日本の為に日々働いて下さりありがとうございます。 国民の水質汚染、土壌汚染等の関心は非常に高くなっていると感じます。 PFAS については欧米などの基準値に比べて日本の基準値の違いに恐れを感じます。このままでは更なる水質.土壌の汚染が懸念されます。基準値の見直しを求めます。 フランス並みの基準値、最低でもアメリカ並みの基準値を求めます。 良き時代の日本に戻りますように。宜しくお願い致します。
1424	基準値をアメリカと同じにして欲しい。アメリカや欧米諸国のように、もっと未来への配慮をお願いします。
1425	アメリカや欧州の基準値に比べて日本の基準値の数値の違いを知り驚きました。 これからの日本に生きる人々のためにも基準値の見直しをよろしくお願いします。
1426	基準値が国際標準よりもかなり高い数値ですが、国民の健康を守る意思があるとは到底思えません。国は医療費を抑えたい意向なのでしたら、この問題に真摯に対応しないと、将来、がんや生活習慣病が蔓延し、国が崩壊することになりかねません。今、関係企業を守ろうとして、この問題をうやむやにしようとすることは、その後に発生する医療費、処理費、損失を合理的に考えても悪手でしかありません。日本の財産である水が汚染されることは多大な損失です。海外からの日本のイメージも悪くなり、訪れる人も少なくなるでしょう。速やかに欧米並みの基準値を設定し、きちんと法整備してください。どうぞよろしくお願いいたします。
1427	身体に悪い PFAS の基準値を下げない理由は何故ですか？また発ガン性リスクがあるかないかをはっきりさせないのはなぜかを明らかにしてください。
1428	どうか、PFAS の安全値を、せめて欧米基準にまで合わせてください。 未来の子どもの安全を考えると、胸がつぶれそうです。 産業の利益と、人の命や健康のどちらが大事なのでしょうか。私たちが、勇気を持って、本当のことに向き合っていかないといけないと思います。
1429	発がん性があるものに対して、リスク評価が低すぎると思います。
1430	データがないとはいえ、国際的に PFAS 基準を厳しくする傾向の中、逆に緩くしようという動きに非常に疑問を感じます。 高齢化する中、少しでも蓄積する量を減らしていかないと国民の健康を守り医療費負担を減らしていくのが難しいと感じます。 疑わしいものにはきびしく対処するべきです。
1431	未来を生きる子どもたちに美しい日本を残したい。
1432	食品安全委員会が定めた数値 PFOS・２０ng/kg/日はアメリカの２００倍、PFOA・２０ng/kg/日はアメリカの６６７倍と非常に高い。これは日本人はアメリカ人と比較して PFOS・PFOA 共に耐性が高いとでもいうのでしょうか？

	同じヒトに対する基準値がこんなに違いのはおかしい！私の住む西東京市でも健康被害が確認されています。基本的にはPFAS ゼロを目指すべきです。食品の安全のために基準値の見直しを強く強く求めます
1433	基準値をせめてアメリカと同等かそれ以下にしてください。その他、他国と比べてかなり高い基準値にする事に、強い不安があると思います。健康に害があるとの疑いがある間から、ぜひ慎重に、むしろ過剰なぐらいに濃度に対して厳しい基準値を示してもらいたい。危険性が確実になりすでに汚染された後では、とり返しがつかない。100 年 200 年もっと先まで見据え、自然環境や生命への責任を考えて判断をお願いしたい。
1434	東京都多摩地区在住です。 多摩地区はご存知の通り pfas の値が高い。 ヨーロッパや欧米と比較すると日本はあまりにも pfas のリスク数値が高すぎる。 例えばヨーロッパが 1 に対して日本が 57、国は何を基準に設定しているのかととても不安というか恐怖でしかない。 添加物等や農薬も日本の化学分質に対する国の考え方はあまりにも安易である。国は国民の安全や健康を本当に考えているのか。 少子化の時代、未来ある子供達のためにも大人が安全を守る義務があるのではないか。 世界の基準値に近い数字で今のリスク数値を再検討して頂きたい。 切に願います！
1435	私は日本茶を淹れる店をしています。 お店を始める前に水道水や浄水、湧水など でお茶を淹れ比べましたが、水道水で淹れたお茶は美味しくないです。 保健所の関係で浄水を使用していますが、 汚染水を使ってお客様に提供するのはとても不安です。 どうか今一度、見直してください。お願いします。
1436	明石川など関西の PFAS の値の高さに驚いています。 基準値の見直しを要望します。
1437	素人の意見です。日本は動物実験に基づいて、危険だ危険でないと結果がでているようですが、これはどこまで信ぴょう性があるのでしょうか、疑問です。欧州やアメリカの人を対象とした疫学調査をもとにして、危険性をはんだんすべきではないでしょうか。それにしても、こういう審議内容をもっと広く知らせてほしいものです。吉備中央町で 2 歳の子供の血液が、アメリカ基準をオーバーしていたと報道がありましたが、ぜひ、後追いをして、病気の確立をデータ化してほしいです。
1438	日本では、化学物質に対する許容があまりにも緩すぎます。このままでは、子どもたちの未来もない他、こういった恐怖的な事項が海外まで知れ渡り、留学?就労?移住?在住される外国人が居なくなるのではないの無いでしょうか。 既に、教育環境や添加物問題が子どもたちに対して非常にに恐ろしい事態になっている為、個人では日本の礼儀などを学ばさせたいので子どもを日本に留学させたいと仰っている外国人には、やめた方が良いと話しています。都内のホテルに宿泊した際には、水道を飲料水として飲めますと記載している所もあります。ですが、ヨーロッパ諸国からすれば毒性物質が大量にに入った飲めない水であり、濾過して透明に見せかけただけのものだと思います。国策としての目的は、企業に癒着してペットボトルの水や浄水装置を売り捌く目的?工業化を推進する為に土壌汚染を許容する事でしょうか？ PFAS 基準がヨーロッパ諸国並みになる事を望みます。有識者がこれを許容範囲するのであれば、正気の沙汰ではなく意図的に国家が有識者の人選を行ったとしか想像できません。岸田総理になってからというもの、更にとんでもない日本になっていると感じています。
1439	まず、「広く国民の皆様の意見・情報を」と述べているがこの募集方法、周知方法が広く意見を集める気が無いようにしか思えない。 国内の水道水の暫定基準値が 50ng/L は緩すぎる。アメリカ等、他の先進国と同等の基準値に直ちに改めるべき。 発がん性との関連も証拠が不十分だから、とりあえず厳しい基準値に設定し、安全性が確認されてから基準値を下げるべき。 食品健康影響の指標値も PFOS・PFOA20ng/kg 体重／日も高すぎる。 PFHxS についても評価出来ないなら他国の中でも 1 番厳しい基準値を設定している国と同じにするべき。 影響が出てからでは、遅い。
1440	ＰFAS による地下水汚染が人体にもたらす悪影響、特に子どもたちへの影響を考えると不安と怒りでいっぱいです。まずは現状を知り、被害に遭わない対策を取ることが求められると思います。各自治体で、汚染値を測定し公表するようにして下さい。命を守るために、汚染された水を口にしないために、早急におねがいします。
1441	WHO の基準値に合わせて、安心安全な 基準値を示して欲しい。 危機的な数値を最小限に食い止める行動を早く実行して欲しい！
1442	PFAS の規制の基準が欧米に比べて今回のパブコメの内容を見ると緩すぎる。現実に日本各地で米軍が廃棄した PFAS が原因で水道水が汚染されて周辺住民が健康被害を受けている報告もあるのに、しっかり基準の見直しをしろ。食の安全は今だけでなく未来の子供達の健康にも関わる大事な問題だと言う事を考えたら、こんなふざけた緩い基準にしないだろ。もう一度見直しをして厳しい基準で規制するべき。こんな全国民に知らせるべき内容をコソコソ、勝手に決めようとしている事も最低だと思う。
1443	一日の PFAS 摂取許容量は、米国・欧州の摂取許容量よりも数百倍高く、血中濃度に換算するとこれもまた欧米の数値と比べるととんでもなく高い。日本ではまだ調査も十分ではない。 数値再検討を望む。今回の評価書では 2 物質のみ評価されましたが、PFAS は 1 万種類以上ある。未規制 PFAS の有害性、健康影響、環境調査なども望む。 ぐずぐずせず、一刻も早い対策をお願いします。一日の PFAS 摂取許容量は、米国・欧州の摂取許容量よりも数百倍高く、血中濃度に換算するとこれもまた欧米の数値と比べるととんでもなく高い。日本ではまだ調査も十分ではない。 数値再検討を望む。今回の評価書では 2 物質のみ評価されましたが、PFAS は 1 万種類以上ある。未規制 PFAS の有害性、健康影響、環境調査なども望む。 ぐずぐずせず、一刻も早い対策をお願いします。
1444	現在の基準値で、日本の未来の子供たちの健康は守られるでしょうか？再評価を求めます。

1445	国分寺市で市民が当該問題について声を上げ、血液検査を行ったという情報を知って以降、この問題に関して関心を持つようになりました。その後全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されております。水は命の源である故、この問題についてもっと大きく取り上げられるべきだと考えております。「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」について具体的に調査し広く知らしめる必要があると思っております。 また我が国における PFAS の許容摂取量が、米国や欧州の数十倍ということにも大変驚いております。米国や欧州の基準が「無意味である」と言うに等しい基準だと感じております。我が国の基準が、十分な調査・追跡に基づいてのものであるならばその根拠を示して頂きたいと思います。（残念ながら現段階では調査・追跡は不十分であると思いますが。）命に直接関わる問題ですので、再考の上必要な対策を講じて頂きたく思います。
1446	ヨーロッパやアメリカに比べ、日本の基準値の高さに心底驚きました。 日本も他の国と同等の基準値を目標にしてもらいたいです。 これからを生きていく子ども達のためにも、どうか再検討をお願いいたします。
1447	生活環境の根幹を成す水に、PFAS が高濃度に混ざっていることを放置を何故するのでしょうか？ 安全な水源を守ってきた日本の行政が、放置するべきではない。 原因追及と、問題の解決を強く求めます。
1448	PFAS の基準値か他国より 60 倍～200 倍も高い数値とのこと。 国民の健康を考えれば、有りえない数値です。 見直しを求めます。
1449	外国と同じくらい基準を厳しくしてください。怖いです。
1450	日本の水道水における有機フッ素化合物含有量についての基準値が高すぎると思います。アメリカやヨーロッパ並みの値に下げて頂きたいと思います。
1451	綾部市の物部地区の産業廃棄物を埋め立てている土地から、犀川に高濃度の PFAS、PFOA が流れ出続けています。 その犀川は、私の息子が通っている保育園のすぐ横 10 メートルほどしか離れていない場所に流れています。　保育園は、川の水には触れないように気をつけているとおっしゃっていますが、子供たちが高濃度に汚染されている川の横を散歩していることがおそろしいです。 水を触らなくても、その川の近くに生えている花を積んだり虫を捕まえたりしたくなるのが子供ですから。 まずは PFAS.PFOA を川に流す前に浄水する義務を産廃業者に求める法律を作ってほしいです！ そして 暫定基準値を今より厳しく、欧米並みの設定にしてほしいです！ 未来の子供達のために、お願いします！
1452	れは、急いで向き合って頂かないと間に合わない、日本全国における重要な問題という認識です。 そして動かないと。 恵まれてこの地上に生きるもの。人間最も最悪である。 原因となる事柄が便利さと引き換えに、人々自ら引き起こしているのなら、それをまず知らせなくては。 事実を知らせ、急ぎ、止めなくては。 ２人に１人は癌になるからと他人事の様に諦めずに。 手遅れにならないように。 あとに続く人たちが苦しまないように。
1453	私は、東京都調布市に住んでいます。 PFAS 問題は、身近な問題です。 現状をきちんと把握して、対策をきちんとしていただきたいです。
1454	有機フッ素化合物は体内に取り込むと、排除することが難しく発癌物質として蓄積されます。欧米では厳しくとりしまられているのに、日本の規制はゆるすぎます。これでは水道水は絶対に飲めません。子どもは学校で水道水を飲む機会があります。東京の水は安全と子どもに嘘を教えるのですか？発癌物質も入ってますと教えて、学校の水道水を飲まないようにするのでしょうか？水道水に混ぜるなら、学校の先生も食品安全委員会の方も皆さん水道水を飲んでください。 規制をもっと全国的に厳しくしていただき、安全で美味しい水が飲める日本であることを強くのぞみます
1455	米国、欧州など海外の基準に対して、数百倍も基準が緩く、その基準の安全性も十分納得できる根拠とは思えません。 海外の情報などからでも、これら物質は健康被害が出ており、安全ではないことが確実です。そのため、この基準は到底受け入れられず、安心して生活できませんので、最低限、米国、欧州などと同程度の基準、またはそれ以上に厳しい基準であるべきです。
1456	PFOS および PFOA の管理目標値をアメリカやフランスと同水準まで厳格化すべきだと考えます。今の目標値では緩すぎて不安を感じている人が大勢います。人間が生きていく上で最も大事なものの１つである「水」が、もしかしたら安全ではないかもしれないと思いながら生活することは、非常に苦しいことではないでしょうか。
1457	有機フッ素化合物についての記事を目にする機会が増えました。体への蓄積性が高く、毒性がある物だと知りました。 日本の基準値 50ng はフランスやアメリカに比べてとても高い数値だと感じています。 日本で安心して暮らして行くために基準値の見直しを希望します。
1458	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東京・多摩地域に住む住民です。血中濃度が高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があるということを知りました。健康への影響がはっきりしないのであれば取りこむ量をへらすことが大切ではないかと思います。
1459	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見

	に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOS+PFOA の一日の摂取上限が欧州の子ども 13 ng/日（PFOS、PFOA、PFHxS、PFNA)、大人 32 ng/日、米国の子ども 3 g/日（PFOS 2 ng/日　PFOA 0.6 ng/日)、大人 7 ng/日であるにもかかわらず、日本は子供 800 ng、大人 2000 ng という上限。恐ろしすぎます。国民を病気にしたいのですか？上限を欧州なみに厳しくしてください。
1460	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の健康第一の制度を！
1461	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人命に多大な悪影響を与える PFAS は諸外国並みの規制をして下さい。又住民の検査を公費でして下さい。企業、国は責任をとって下さい。
1462	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1463	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 しっかりとした調査を開始し、健康を守ることの大切さを求めます。
1464	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の責任で住民の血液検査を行い、情報をみんなに公開してほしい。
1465	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	こうした状況をしっかり会社がうけとめ、調査をかいしし、公害をやめることを求めます。
1466	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私たちの命を守りたいのです。便利さ、目先のことではなく、未来の子どもたち、地球のため、まず、取り込む量を減らしましょう！国の責任で、実施し、公開を必ず！！して下さい！！
1467	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心安全に暮らすのは国民の願いです。そしてそれは国の責任でもあると思います。わけのわからないものを国民に押しつけていることに抗ギします。
1468	評価書（案）で「20 ng」を妥当とされるのには驚きました。米国その他の国々の基準を見比べ、考え直して下さい。将来子や孫に被害が出てからでは遅いと思います。
1469	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害を招いてからでは、遅いのでしっかりと、調査をしてほしいです。
1470	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 現状をきちんと調査して下さい。
1471	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと調査して下さい
1472	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	きちんと調査してください
1473	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査をして下さい。
1474	東京新聞の報道では IARC の議論に参加した二人の研究者が次のような警鐘を鳴らしておられます。 ○岩崎基（国立がん研究センター疫学研究部長）「日本の疫学調査は欧米に比べて少な過ぎる。リスク判断の目安をつくるためにも国内の疫学調査を早急に実施すべきである」 ○菅野純（国立医薬品衛生研究所毒性部客員研究員）「PFOA の発がん性には学者間で一切異論はなかった。PFOS と PFOA の有害性は動物実験などで分かっていることが多く、既に環境中に放出された「後始末」を行っている段階だ。評価案では、PFOS と PFOA だけしか評価できないとした。1 万種類の PFAS に言及しないのは、保守的で、今後の事を一切見据えていない。次の健康被害と環境汚染を未然に防止することが重要だ。これには PFAS を利用する企業との対話も重要だ。」 上記の警鐘を真摯に受け止め、お二人の懸念を払拭して頂くように要請致します。 2024-3-3
1475	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 許容量を国際的な基準にして下さい。
1476	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 フライパン加工や歯に塗るフッ素との関係も国民に判りやすく説明して下さい。半導体工場のできる地方にも説明を果たして下さい。
1477	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 特に自覚症状があった分けではないが、気軽に検査を受け 4PFAS 合計値が 20.1 ng/mL でしたので　びっくりしています。未だ々知らない方も多いので　広めて行く必要性を感じます。
1478	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も「PFAS ゼロ」をめざしてほしい。
1479	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全に飲食できるように規制強化を求めます。再評価、検討して下さるようお願いします。
1480	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 知らない人がたくさんいると思います。健康被害についてニュースでもっと知らせてほしいと思います。
1481	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来の子供達の健康を守って下さい。
1482	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の健康を守って下さい。
1483	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も基準を見直しして国際的な評価を取り入れていってほしい。
1484	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 将来の日本のためにも、海外のように規制していくことが必要と思います。
1485	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全な生活がしたいです
1486	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来の誰かの事も思って、規制強化に取り組んでほしいです。
1487	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な基準に合わせてほしいです。
1488	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守るため、日本でも規制強化して下さい！！
1489	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今、現在は良くても未来へと続きます。身体への健康を考えましょう。
1490	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 体に悪いことが　わかっているものは　すぐに規制するべきです。私たちの健康をないがしろにしないでほしい。
1491	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	日本も国民の健康のために、発がん性評価を国際的な基準にして下さい！
1492	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的に問題になっていることを無視せず、日本国民のため、日本の子ども達の未来のために、基準を見直すべき！！
1493	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 なぜ 21 世紀に公害が繰り返されるのか。PFAS 汚染、健康問題に立ち向かおう！！
1494	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1495	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1496	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守ってください。
1497	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 早急に公費で住民の血液検査を実施して下さい。そして結果をありのままに公表し、安心・安全な基準を、国民の納得するものを示して下さい。
1498	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。健康を害するのは問題だと思います。
1499	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざして、規制強化している。日本も、国際的な発ガン性評価を取り入れて、きびしい評価基準に規制を強化して下さい！！
1500	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任を果たさせて下さい。国際的な発がん性評価を取り入れて、日本も、きびしい基準値へ（アメリカ並みの）規制強化して下さい！
1501	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会が「20 ng が妥当」と判断したことに大変残念に思いました。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いです。とても不安です。健康への影響も心配です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく、予防原則に立ち、総合的な判断を求めます。
1502	まさに国分寺に住んでいてこれ以上 PFAS を体内に取り込みたくありません。しかしこの日本の基準 PFOA の場合 1 日の摂取許容量 20 ng ではこれからも多くの PFAS が体内に入ってきてしまいます。欧米並みの規制にして下さい。
1503	米国環境保護庁（EPA）案や、欧州食品安全機関（EFSA）と比較して、数百倍～数十倍と異常に高いものです。同じ人体でありながらこの差は考えらません。日本のこの値が大丈夫ならば何故米国は日本予定案の 1/200 という低値に決めたのでしょうか？これまで日本の各地で地下水や河川水から高濃度の PFAS が検出されています。これらの影響が懸念される中での許容摂取量値の決定です。安全で安心出来る妥当な値であるべきです。許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。
1504	①米国や欧州と比べ著しく摂取許容量が高い。アメリカの PFOS200 倍、PFOA の 666 倍とも欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反しています。 ②日本は発がん率世界一です。食品安全基準は急務です。安心して子を生める日本にして下さい。 ③PFOA、PFOS 2 つだけでなく PFHxS に対しても基準を示して下さい。予防原則です。 ④異常気象は命の危機を感じます。化学物質が大気や水を汚染し続けることは、気象に影響を及ぼすことは必須です。 以上
1505	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国や欧州の基準を参考にしてください。
1506	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 ヨーロッパ並みの基準をめざしてほしい。
1507	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東京都の水道水や井戸の汚染源について、国や都が積極的でないことが健康への心配を増幅させている。製造や使用が法的に禁止されるようになっても、体内に取り込まれた有機フッソ化合物（PFAS や PFOA など）への不安は続きます。当面、都や国の汚染源特定（沖縄～北海道まで）をすすめることと、摂取許容量をせめてヨーロッパ並みに引き上げて下さい。
1508	今回の摂取許容量では、とても心配です。子や孫の健康を守るために引き下げてください。証拠不十分ということですが、なおさら疫学調査が必要です。ぜひ血液検査を実施してください。
1509	①枚方市の市民として地元の有機農産物などの提携産直運動に関わって 50 年です。2023 年 8 月号の『食べもの通信』で「PFAS 汚染」を特集しています。10 月に枚方市の穂谷川、天の川、舟橋川の検出数値が 130～160 ng/ml と高い事を新聞報道で知り、枚方市の浄水課を訪問し、現状把握の実態を聞きました。枚方市の上水は国の暫定基準値の 40 ng/ml 以下であることと枚方市内で汚染源はないとの事でした。その後、「大阪 PFAS 汚染と健康を考える会」の学習会に参加し、個人血液検査の結果待ちです。 ② 今年になって岡山県で産業廃棄物の活性炭からの PFAS の流出が原因の汚染が報告されています。枚方市でも上水のトリハロメタン対策で一早く活性炭による高度浄水装置を取り入れ、「自慢の水道水」を誇っています。おそらく日本中の浄水に使用された活性炭は産廃業者に処理させていることと思います。まだ枚方市に問い合わせていませんが、これで、PFAS 汚染が基地や工場という限定された発生源によるものではなくなったと言えます。製造、使用が禁止された現在以降も上記のルートで汚染源は無限に野放しに広がっていると思われます。これへの対策も必要です。現状での PFAS 汚染対策は市民の口に入る基準値を厳しく定めることで健康被害を食い止めるのが最初の一歩だと思います。国際的な発がん性評価を取り入れ、「予防原則」の立場から欧米並みの基準で規制してほしいです。 ③提携産直の農産物生産は地下水を利用しています。枚方市、交野市の自然環境を子育て環境として求めて転居し、産直に参加してきている次世代もいます。子や孫の健康を守るために、基準値の再評価を求めます。
1510	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカやヨーロッパの知見を何故活かした（案）ではないのですか。日本人の科学者の知見が不足しているなら　何故海外の研究者の知見を参考に、日本人の健康リスクを予防する、発癌のリスクを予防する立場に立つ基準にしないのですか。この摂取許容量（案）を決定した専門委員の皆さんの良心を疑います。科学者としての、科学を生かす健康づくりに尽力して頂きたい。
1511	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会が出した摂取許容量がアメリカやヨーロッパと比べて異常に高いことに不安を感じる。これは私達国民の健康を守れる値ではない。なぜ日本はそんなに高い数値を出したのか疑問。
1512	有機フッ素化合物（PFAS）については、私の住む神戸市西区でも、不安が広がっています。市民は、PFAS について、学習をはじめています。この度、1 日の摂取量指標値が PFOS と PFOA がそれぞれ 20 ナノグラムと発表されましたが、高い値に驚いています。欧州食品安全機関が 2020 年に定めた 1 週間で 4 種の PFAS 合計値が、4.4 ナノグラムであり、60 倍を超えています。PFAS は、排出されにくく身体に残ることを考えれば、欧州のように低い値に設定すべきだと思います。
1513	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1514	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1515	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米は「PFAS ゼロ」を目指して対策を進めています。日本も「ゼロ」を目指すべき。未来ある子どもたちの健康を考えて、根本的な対策をとって下さい！
1516	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」

	に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めている。日本も「ゼロ」を目指すべき。又この摂取許容量をもとにしたら飲み水の暫定目標値 50 ナノグラムの話変わらないときいた。子供達の健康を考えるととても心配です。
1517	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1518	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1519	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1520	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 このことが東京の西部で、公域に渡って発生していることをふまえ、国家的問題として対応すべきと思ってます。安心に生活できる環境づくりは国民の第一優先事項です。
1521	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1522	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国の水の管理がずさんすぎる。人間とって水は大切な物。健康な生活を子供・孫達の為に作っていきたい。
1523	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 何もかもアメリカに握られた日本、この国は健康問題までアメリカに売り飛ばしているようでくやしい気分。
1524	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 他の国とこんなにも違う値はこわい。
1525	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 何気なく口にしているものから、体に蓄積していき健康を害するとわかってきています。今のうちに明らかにして今後、日本を世界を支えていく妊婦さんやお子さんたちの健康を守るために再検討を求めます。
1526	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1527	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1528	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1529	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 地下水が汚れると私達の体に悪いことがいっぱいですので調査をして下さい。

1530	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1531	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水準を見直し、安心安全にみんなが生活できるようにしてください。市民の声をもっと聞いて下さい。
1532	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して水が飲めるようにお仕事してください。
1533	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命の水を安心して利用する為にもせめて摂取許容量を欧州、アメリカ並みの基準に設定して下さい。
1534	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1535	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「おいしい」と思って、安心して飲んでいた水や、まわりの畑の作物への影響を、行政の力で、調査して下さい。次世代に害を及ぼすことは、なんとしても、さけたいのです。
1536	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1537	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1538	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を第一に考えてほしいと思います。欧米並みの摂取許容量にしてほしいと思います。
1539	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 体内に入った PFAS は漸次排出されると聞いているが、体内に蓄積される期間が長い。この間の健康への影響を知りたい。とに角危険物を取り込まない施策を強く望む。 欧州の様に 0 を目指すべき!
1540	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1541	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 血液検査結果は米国の基準値を上わまっていました。府中市、小金井市の上水道水を飲用しています。基準値を下げること、各種産業での使用規制をおこなって下さい。
1542	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

1543	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的にみても、この基準で安全 OK とは考えられません。見直しを！
1544	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 なぜ、日本の摂取許容量（案）は他国と比べてこんなに高いのですか？私たちの命をつなぐための「水」が命を脅かす「水」になるなんてとても怖いです。
1545	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 なぜ最新の知見を無視しているのでしょうか。今、多くの市民が PFAS 汚染に感心をし始め、汚染実態が明らかとなってきています。決定は遅らせて、実体を知らべてから基準を決めて下さい。
1546	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1547	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国賊・安倍晋三が天罰を下され、後年岸田文雄も何ひとつ実績もなく総裁として責任も取れず、指示・命令もできない自民党ドロボー集団が、このような、重大事案を検討するはずなく、きたいする事が無理！ドロボー党を解体する事が、この問題の前進となると思う。
1548	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1549	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これから長く生きている人に病気のない人性を生きてほしいから・・・・
1550	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 立川の柴崎体育館のプールで孫が小さいころ、何度も遊びに行っていました。心配です。
1551	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1552	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 住民の健康を守るのが業政の仕事！今は仕事を放棄している。
1553	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 多摩の住民は PFA 血中濃度は高く心配はつきません。しっかりとデータを十分にしてあやふやなデーターではなくしっかりとしたデーターの素に進めてください。目に見えないものは特にきちんとして下さい。
1554	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 大きな被害が出てからでは遅い。何よりも安全をこそ優先した基準にすべきです。

1555	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1556	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 あまりにも冷酷すぎます。命、健康をどうみているのですか？水道水に有毒性のある PFAS が米国の 666 倍含まれていて「大丈夫！問題なし！」としているところに残酷性を感じます。問題は「米国基地」ということが誰の目にもあきらかです。速やかに、ご対応願います。
1557	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 沖縄の基地周辺の低体重児増のことをはじめ、全国の化学物質をたれ流してきたところがだんだん明らかになり、水俣病やカドミウム汚染など、ひどい歴史を思い出します。
1558	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全は生きる為の重要課題です。安心して暮らせる世の中になるよう願っています。
1559	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米軍の基地の中かを調べて下さい
1560	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 可能な限り「ゼロ」に近い安全値を目指すべきです。健康被害が出てからでは手遅れです（過去に多くの事例あり）
1561	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 再評価を求めます。国立市内の知りあいが沢山、血液検査を受けましたが、全員、基準値の値を大幅に超え、健康被害の恐れがあると言われました。安全な水道水といわれて飲んできたのに・・・
1562	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制を厳しくしても、差し当たり予防の強化に繋がる確かな保証がないという論法は、納得し兼ねます。
1563	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 最低限の法を守って下さい！
1564	PFAS は発がん性などが疑われている物質です。いわゆる毒だと思います。毒ならば許容摂取量をゼロにしてださないようにしてほしいです。国の食品安全委員会の指標値では、ドイツやアメリカのより十数倍も高いです。食品安全委員会は日本に住んでいる人の健康を守る委員会だと思います。こんないいかげんな指標値はやめてほしいです。真剣に日本に住む人の健康を守って下さい。お願いします。
1565	千歳にラピダスという半導体の工場ができるということで、一部は景気が良くなる、若者の働く場ができるとか、世の中の進歩の役に立つとか、いいことづくめのようにも言われていますが･･･。私の住んでいる江別市民は、千トセ川の水を

	使っています。有機フッ素化合物の許容摂取量の指標値が、世界で危険とされている値ということで納得できません。安全基準を見直して下さい。それでも安全、安心というのなら、家族をつれてこの地で住めるか？と良心に問いてみて下さい。
1566	ぼくは、お母さんよりも PFAS 濃度が高いです。ぼくの体重は 30 kg なので 1 日に 1200 ng も PFAS を取っていいことになってしまいます。アメリカのあたいと同じくらいにさげてください。
1567	日本の食品安全委員会は、米国の環境保護庁や欧州の食品安全機関が出したものとくらべて全く無責任な見解でとても恥ずかしいもの。日本でデータが未熟であるなら、上の両機関の評価を参考にすべきと強調すべきです。 *日本人は、彼等とどこがちがうのか。信じられない数値に怒りが･･･。
1568	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1569	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてください。
1570	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして欲しい。
1571	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1572	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康
1573	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 責任をとらせてください
1574	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 責任をとらせて下さい。
1575	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	子や孫の健康を守ってください。
1576	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1577	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1578	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1579	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安が増しています。規制強化を！
1580	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1581	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1582	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1583	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1584	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
1585	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1586	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1587	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1588	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 しっかり健康を守ってほしい！
1589	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1590	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1591	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1592	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1593	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1594	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1595	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
1596	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1597	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
1598	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1599	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
1600	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
1601	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。

1602	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も規制して基準をアメリカ並みに下げるべき
1603	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会が示した許容量は高すぎ！不安でしかありません。今一度許容量の見直しをお願いします。
1604	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 政府の不作為により健康被害が拡大することは許されません。国際的知見に真摯に学び、対策をとることを求めます。
1605	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 原因の究明と健康影響に対する最も悲観的な見地に立った基準の設定に正面から向きあるべきだ。
1606	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 このような（案）では未来の子供達の成長に心配です。国際的な知見も参考にして下さい。
1607	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私は血液検査でPFASの値が42 ng/mℓでした。発ガンのエコー検査を実施しましたが、2年に一度は検査が必要と診断されました。世界基準より高すぎる摂取許容量をアメリカ並みにすることを求めます。
1608	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちのために、PFASの基準を厳しくして下さい。
1609	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私達多摩地域に住んでいる者は、とても不安な気持ちで一杯です。国分寺に住む娘が、最近「がん」にかかり、ますます関連性がないか不安に思っています。
1610	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 反対します。PFASは怖い！この許容量（案）は認められません。市民の生活安全第一にしてもらいたい。
1611	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の命と健康 最優先で
1612	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の64倍以上、アメリカのPFOAで666倍とIARCはじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子どもたちのために！

1613	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本国民の健康に関わる問題です。この案では基準が高すぎて、増々不安になるばかりです。
1614	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1615	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1616	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康で安心して生活出来様にして欲しい。
1617	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米なみの許容摂取量にして欲しい。
1618	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1619	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1620	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 よろしくお願い致します。
1621	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水と空気と環境はクリーンでありたいです。
1622	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1623	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 どの地域にどのくらいを知りたい。正しい情報を伝え知らせて欲しいです。
1624	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1625	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準をヨーロッパなみに定めて下さい。これからの妊婦、乳幼児の成長が心配です。希望者全員に検査を。
1626	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	ヨーロッパ、アメリカと同じ位の許容量に引き上げてほしい。健康を守れ!
1627	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水は人間にとって無くてはならない。水は知らず知らずに飲んでいて後々影響が出るのがこわい。とに角、検査を密に！
1628	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のため PFAS は心配です。
1629	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 全国各地で高レベルの数値になっている。心配しています。徹底的に調べ再評価をお願いします。
1630	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これでよろしいですか？本当に安全が守れるのですか？不安です。
1631	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 報道では安心だきると何年でも大丈夫との事。とても不安です。水道水が安心して飲めるよう、再評価をして下さい。
1632	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私は採血検査の結果、検査項目のほとんどが基準値を超え、何が原因かわからなことが不安です。幼少期より横田米軍基地が主たる原因と思っていましたが、現在は日本各地の半導体製造の工場付近の汚染も原因とわかってきました。経済発展の為に私達の健康がないがしろにされることはあってはならないと考えます。人間の安全・安心のくらしを大切にする社会にして下さい。
1633	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1634	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も欧米と同様に「PFAS ゼロ」を目指し、摂取許容量を欧米並みにすべきだ。
1635	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 政権与党、自民党は、政治を司る事なく総理、総裁を初め、己のふところを増す事だけに必死で、貴委員会が存在する事を知らないだろうと思う。我々国民が、応援しても、むなしい事と思うが、私は貴委員会を応援します。頑張って下さい。
1636	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもや孫たちの健康が心配です。米国やヨーロッパが厳しくしているときになぜここまで逆行するのか意味がわからない。人の命と健康を守る対応をして下さい。
1637	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 このままでは心配で不安です。再評価をして下さい。

1638	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 市議会で、市の担当者は国の暫定基準内だから、水道水は安全です、といっていました。しかし海外の基準値にてらせば、とても安全とはいえません。
1639	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 予防原則に立って国民を守るべきだ。きびしい基準を検討すべきだ。
1640	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 20 ng/kg/日が妥当など許されません。米国なみの基準にしてください。
1641	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米軍基地や化学メーカーなど発生原因をつきとめ、除去してほしい。世界基準により、厳格に規制してほしい。
1642	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1643	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康第一で考えて下さい。いのちがいちばん
1644	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 いのちが一番
1645	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 市民の安全が守られるよう対策をとってくださるようお願いいたします。
1646	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 許容量指標がゆるすぎると思います。きちんと国民のいのちと健康を守るように指標として下さい。
1647	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 二人に一人が癌の時代を各種の化学物質が原因になっているのではないでしょうか？！日本は国民の健康についてもっと真検に取りくんで行くべきだと思います。
1648	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめて PFAS の値をアメリカなみの基準にさげてください。
1649	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	有害物質は良く検査して下さい。
1650	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の規準はアメリカと比べてゆる過ぎます。日本人のみが耐性があるとは思えません。
1651	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米国は質の高いエビデンスに基づいて、ほぼ検出されない濃度まで基準を厳しくしています。日本も国際的に明らかにされているエビデンスに基づき、米国、政府の水準の厳しい基準にすべく、再評価を強く求めます。
1652	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国は国民の健康を守る施策を強化すべき。法改正を求めます。
1653	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1654	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1655	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 個人の努力で蛇口に浄水器をつけるのには限界があります。格差が生まれてしまいます。水道に流す前にきれいにして下さい。安心して水をのみたいです。
1656	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1657	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1658	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1659	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 若者から聞きました。「飲み水は買っています。」その時はビックリ。PFAS 調べると更にビックリ。昔（日本の水　美味しい外国船　日本で給水）安全が何よりです。（案）見直して下さい。
1660	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康が守られるように基準を厳しくして下さい。
1661	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 清らかな水が飲める国土を創り上げように努力してください。
1662	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」

	に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1663	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1664	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1665	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1666	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1667	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1668	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1669	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1670	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1671	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1672	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1673	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1674	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
1675	お願いします。 国が定める目標値は 50 ナノグラムは、高すぎます。 考え直しほしいです。
1676	PFAS／PFOA は禁止してください。欧米でも規制が進む中で、日本だけが遅れをとれば後々健康被害が懸念されます。特に子どもを持つ家庭では将来のリスクも大きくなります。米軍基地などからの土壌汚染も心配です。健康被害が拡大すれば医療費増大にも繋がります。今の日本は子どもを持つにはリスクが大きすぎると感じています。まずは PFAS／PFOA の禁止をして、少しでも子どもの健康を守れる社会をお願いしたいです。
1677	審議結果（案）について、貴委員会の矜持が感じられませんでした。科学的に判断すると同時に、安全を最優先に、明らかに〇〇とはいえなくても、危険性が一定ある可能性があれば、適切に規制すべきでと思います。PFAS は他国で使用禁止の動きが出ているように、ヒトが生活する上で欠かせないものではありません。健康上の被害が日本で明らかになってから規制を強化するのは、ヒトの命を第一にした判断とは言えません。提案されている PFOS、PFOA の 20ng/k g /日は海外諸国に比べても異常に高くなっていますが、そのことが健康被害を生じても政府厚労省は予測できなかったと答えるつもりでしょうか。せめて日本政府が普段見習っている（と思われる）アメリカの基準まで下げる必要があります。
1678	PFAS 恐ろしいです。諸外国よりゆるくせず基準はちゃんと厳しくして下さい。使用を禁止なり漏れない対策を強化するなどして下さい。そうでなければ安心して暮らせません。体内に蓄積されるとガンになると聞いています。
1679	欧米では PFAS 基準値ゼロを目指しているなか、 日本の基準値がほんとうに 50 でよいのか不安に思っています。 ひとりひとりの健康をいちばんに考えた再評価を求めたいです。
1680	ＰＦAS の基準値について、ヨーロッパやアメリカでは 0 に近い数値を目指していると聞きました。 日本も、同様の基準にして下さい。

	日本に住む人達、未来の人達の健康の為、再評価を求めます。 どうかどうか、お願いいたします。
1681	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量案は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とのこと 全国各地で PFAS の異常数値が測定されています 許容量を高く設定すれば企業・国の責任の軽減に直結します 国民の健康・環境に十分配慮して数値を設定できないのならそれができる人たちに変更して頂くよう求めます
1682	食品　「安全」　委員会　なのに、なぜ安全ではない方へ基準を変えようとするのか理解できません。 「安全第一」　なのだから、限りなく 0（ゼロ）に近づけるべきです。 内閣府の皆様がご自分のご家族に飲んでほしいと思う水にしてください。
1683	食品安全委員会が 「20ng が妥当」 と判断し、米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高く驚きました。 2023 年に国際がん研究機関によって PFOA が発がん性が「ある」の最高レベルに引き上げられました。見直しすべき。
1684	水は人の体に欠かせない大切なものです。 どうして日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎている、やり直しを。
1685	各地で検出されていて、とても不安です。 特に米軍基地周辺の地下水を徹底的に調査してください。世界と同じくらい厳しい基準値にしてください。米軍基地に厳重に注意してください。
1686	今回、食品安全委員会が出された許容摂取量、PFOS・PFOA 各 20ng/kg/日は、アメリカの館長保護庁(EPA)案ののPFOS0.1ng/kg/日、PFOA0.03ng/kg/日や、欧州・食品安全機関（EFSA）の 4PFAS の合計 0.63ng/kg/日と比べて、異常なまでに高い数値で、我々国民にとっては、とても許容できる数値ではありません。 また、食品安全委員会は、ＰＦＯＳ・ＰＦＯＡについて、発がん性について、証拠は限定的としています。しかしながら、ＩＡＲＣやＥＰＡが、ＰＦＯＡやＰＦＯＳに対し、発がん性がある・発がん可能性がある、という評価をしております。発がんの可能性がある限りは、予防原則に基づき、検証を続けつつ、厳しく規制をしていくべきだと思います。多くの人が健康を害し、多額の医療費がかかるようになってからでは、本当に国の崩壊につながりかねません。 さらに、食品安全委員会では、PFOS・PFOA の 2 種類だけを評価していますが、欧州では上記 2 種のほか、PFHxS や PFNA についても基準値を設定しています。日本も、上記 2 種以外についても毒性評価をするべきです。（続く）
1687	PFAS、PFOA の暫定目標値について、現在日本では 50ng/L となっていますが、アメリカで出された論文では「1 ミリリットルあたり 20 ナノグラムを超える状態が続くと健康へのリスクが高く、2 ナノグラム未満だとリスクは低い」という研究結果が出ています。 水が豊かな日本で、この先現在の目標値のままでいるということは、将来病気になる可能性が高い国民が出るのを黙認しているのと同等ではないでしょうか。 目標値ではなく法律で守られる規制値として、健康被害が少ないとされる 2ng/L に数値設定をしてください。 水が豊かで美しい日本で生きたいです。 原因の一つと考えられる山林への不法投棄罰則や、基地での消泡剤使用の制限の検討をお願いいたします。
1688	USEPA が特定した PFAS の健康への影響の可能性が高いものとして、肝臓への影響、血中コレステロール値の上昇、免疫や発育への影響、甲状腺疾患、妊娠高血圧症候群などが特定されています。このような海外の知見にならい、日本も PFAS の規制へと舵を切るべきときが来ていると思います。 国民の健康を犠牲にして経済を優先させた先に見える未来とは、何でしょうか？　　後の世代に禍根を残さないためにも、許容量の見直しをしていただきたく、切にお願いいたします。
1689	PFAS、PFOA の暫定目標値について、現在日本では 50ng/L となっていますが、健康被害が少ないとされる 2 ナノグラム未満に基準値として変更してください。 食品関係の包装紙など資材に PFAS 含有のものを使用しないよう規定を作ってください。
1690	もう何年も前からピーファスにたいして嫌な気持ちが募っています。きちんと米軍基地に垂れ流しをやめさせてください。八王子市在住、井戸水のみで生活しています。健康被害を懸念します。水だけでなく、日本だけでなく、地球が汚染されることは本当に嫌です。日本政府は、浄化に取り組み、私達個人にたいしても浄化する費用を出してほしいし、アメリカには費用を請求してください。
1691	フランスやアメリカのような基準値にして欲しいです！このままで子供達の未来が健康が安心だとは思えません。
1692	ピーファスの基準値が他の国と比べ、明らかに高い基準で設定されていたり、国が勝手に決めた基準で押し通そうとしているのはどう考えてもおかしいです。
1693	免疫毒性：「なぜ EPA、EFSA が採用したフェロー諸島の論文を採用しないのか」 EPA も EFSA も感受性の高い時期（0～7 歳未満）の PFOA/PFOS 曝露後に観察されたワクチン接種に対する免疫反応の低下という悪影響を重視し、ヒトにおける健康の悪影響を保護する為(Budtz-Jorgensen and Grandjean、2018; Grandjean et al.、2012）らの疫学研究を Draft RfD として採用した。 対して食品安全委員会評価書（案）では対象年齢の異なる新型コロナワクチンに関する研究 3 報、及び、特殊な食生活での化学物質蓄積を理由に、「一致した結果が得られない」というが、これは説明になっていない。ジフテリア・破傷風は新生児から幼児が対象だが、新型コロナは 12 歳以上が対象。研究対象年齢が異なり、小児は自然免疫、成人は獲得免疫が優位と、免疫のメカニズムも異なる。 敏感な集団（胎児～幼児期）の疫学研究(Budtz-Jorgensen and Grandjean、2018）で得られた重要な陽性所見を採用し、彼らを保護するための RfD を算出すべきだ。
1694	曝露量の評価について： 評価書（案）では曝露経路の評価で（Sunderland 2019）を引用し「食事による摂取が主な経路と考えられている」と説明しているが、近年研究で推定寄与率が増加している前駆体（Precursors）の影響にふれず、PFOA,PFOS 以外のその他 PFAS の情報収集も毒性評価もしない点でこの評価書案は問題がある。 Sunderrand 2019 では「ヒトにおける従来の PFAS の血清濃度は世界的に減少しているが、新しい PFAS および前駆体化合物への総曝露は十分に特徴付けられていない」と警告している。 規制により、血中濃度で減少しているのはあくまでも PFOS、PFOA などのレガシーPFAS で、これらから置き換えられた前駆体を含む新しい代替 PFAS についての排出は増加する一方であるが、この健康影響は全く可視化できていない。

	レガシーPFAS 曝露が引き起こす健康への悪影響（免疫、発育、生殖、内分泌、肝臓への影響、脂質異常症、がん）は、前駆体を含む代替 PFAS への曝露に関連する重大な健康への影響を示唆しており、これらに対するリスク軽減措置を遅らせることは許されない。
1695	基準値を現在よりひくく設定することで全国の不法投棄などをより規制するきっかけとしてほしい みんながより健康に過ごせる社会づくりを願います。
1696	安心して飲める水道水にしてください。
1697	いま一度見直しを希望します アメリカと同等の基準値を求めます。
1698	基準を厳しくしてほしい。
1699	子供の未来に責任を持つ大人として見直しを求めます
1700	見直しが海外でなされおり、その基準値は厳しく低濃度に変更されている中、今回日本で提案されている 20ng は桁が違う高濃度であり、なぜ海外に比べてここまで違うのかはだはだ疑問です。 JETRO の記事→ https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/3af2ad84751d41b8.html 次世代の子ども達のためにも、PFOS は 0.02 ナノグラム、PFOA は 0.004 ナノグラムの基準に変更し、そのための予算処置をお願いします。
1701	食品安全基本法の基本認識は(国民の健康の保護が最も重要である)とあります。足尾銅山、水俣、カネミ米油、東電福島核発電所からの放射能だだ漏れなどの痛ましい失敗から(現在も被害者は救済されず、差別の対象)予防原則の立場に立って、PFAS の TDI の数値を 0.1 以下にしてください。今後更なる知見により、0.1 下方修正を望みます。
1702	子供が 2 人います。小金井市で育ちました。小金井市は井戸水もあり、小金井の水は美味しい、安全と信じて、飲料として利用してきました。その水が危険な物だったかもとのこと、子供の未来が心配です。まずは水の安全確保と同時に水の影響がどの程度あるのか、市民に血液検査を実施して実態把握することを強く希望します。またこの問題を発信して、被害が最小限に留めてほしいです。
1703	国際基準をはるかに超える基準値を早急に引き下げてほしい。 健康基準に対しては、疑わしきは罰するという姿勢に立ってほしい。
1704	PFAS の基準値を緩めることの危険性は大きな危惧となります。経済、産業を優先し、環境や人体に対する配慮が後回しにされることは、あってはならないと考えます。 よろしくお願いします。
1705	食品、水道水、湧水、河川における フッ素化合物の濃度の希望基準値を下げることを検討してください。 血液検査、土壌検査、食品への含有検査を行えるシステムを整えてください。 身近な川で、高濃度のフッ素化合物が混ざっていることがわかっています。未来に残っていくものが、清らかであってほしいです。
1706	他国より遥かに緩い基準を設けないで下さい。 米国・欧州の摂取許容量よりも数百倍（米と比較で PFOS200 倍、PFOA666 倍／欧州と比較で 2PFAS で 64 倍）です。 健康あっての人生、国では無いでしょうか。 再考をお願いします。
1707	国分寺市に住み 45 年。　水道水は地下水で美味しい と信じて飲んできましたが、2019 年、ＰＦＡＳ汚染が判明して以来、不安に感じています。 2022 年、血液検査を受けたところ、私の結果 PFOS21.6 ナノグラムの数値に驚きました。 この度、食品安全委員会が出した基準をきいて、正直ガッカリしました。これまでの暫定基準と同様なので、国民の健康を守る！　と感じられません。 健康被害が判明してからでは、遅い！です。 ミナマタのように多数の健康被害が出ないとも限りません。繰り返したくありません。 規制強化をお願いします。 水道水にはＰＦＡＳが検出ゼロにして下さい。 ＷＨＯは昨年発がん性がある！と認めたのですから。　　以上
1708	健康被害に懸念がある場合や、環境に悪影響の懸念がある場合は、もう少し慎重な決定が必要かと思う。 これから先の未来の子供達のことや、自然環境のことを考えると人間にとって動物たちにとって優しい方を優先するべきだと思う。
1709	ヨーロッパでは PFAS 0(ゼロ)を目指している。日本も規制してほしい。
1710	私の住んでいるところはどうだろう　遠い街のことではないです　つながっています どうか影響が　被害が出る前にヨーロッパやアメリカのように数値を低くすることを検討してください
1711	フランスやアメリカの基準値は日本よりかなり低いと聞きました。政府の役割は、安心して暮らせる社会をつくることだと思います。本当に安全な基準値にしてください。フッ素化合物を排出する企業の顔色を見ていないでしょうか？これまでも何度も繰り返してきた公害問題から学び、企業の利益より国民の命を守ることを優先にしていただけたらと思います。
1712	多摩地域の水道から高濃度の pfas が検知され、健康被害がでている報道をみて大変不安を感じています。国として諸外国を模範にした基準値の制定と全国各地の水道総点検と地域住民の健康調査をすべきだと思う。
1713	ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指しているのに、日本は PFAS の基準値が 1?あたり 50 ナノグラムと知りました。 そして現在フランスでは PFAS は 1 ナノグラムが基準とのことです。 日本も PFAS ゼロを目指してほしいです。身体に蓄積し続けるこの化学物質は必要ありません。 自然界に異物で有害です。 今の日本と未来の日本のために、この有害化学物質をなくして自然界と命の汚染をなくしてほしいです。
1714	世界がリスクを感じている化学物質に対して、日本の規制は甘すぎると思います。再検討ください。
1715	未来の子供たちに、世界が危惧するリスクを負わせることに、かなりの不安を感じています。再検討ください。
1716	未来を担う子供たちに、世界が危惧するリスクを負わせることに、かなりの不安を感じています。再検討ください。

1717	一度汚染された水や土壌を取り戻すことは容易ではありません。世界の基準と同等にするようにお願いします。再検討ください。
1718	一度汚染された水や土壌を取り戻すことは容易ではありません。世界の基準と同等にするようにお願いします。再検討ください。
1719	フッ素は 6 歳以下の子供が接種することを WHO が禁止しています。 体に入ると脳の知能低下、不妊、甲状腺機能障害、アルツハイマーのリスクなど。(そしてフッ素が添加された水道水で作られたミルクを飲む乳幼児は IQ の低下が認められています。) フランス同様基準値を 1 以下にしてほしいです。 大切なお水を飲めない水にしないで欲しいです。それは私たちだけでなくこれからの子供たち、日本のために是非再検討お願いします。
1720	日本の誇れる水資源や自然を壊し、健康を脅かすリスクは最小限にしていただきたいです。少なくとも世界の基準と合わせるように再検討ください。
1721	日本の誇れる水資源や自然を壊し、健康を脅かすリスクは最小限にしていただきたいです。少なくとも世界の基準と合わせるように再検討ください。
1722	PFAS ゼロを目指している国があるにも関わらず、日本は逆走しているように思います。基準値、評価リスクを見直してほしいです。
1723	世界の基準と比べて、日本の基準が甘いことに不安を強く感じます。 リスクへの責任をもって、再検討ください。
1724	世界の基準と比べて、日本の基準が甘いことに不安を強く感じます。 リスクへの責任をもって、再検討ください。
1725	子どもたちに、きれいな環境を残したいです！それには国の基準値が大切。 ヨーロッパのように、ゼロを目指して、アメリカのように 1 以下の基準値をめざして、日本も設定してほしいです。
1726	PFS 許容基準値高すぎます 水道水や食品から検出される事が そもそも考えられない
1727	リスクは最小限に、他の先進国の基準に合わせて、再検討ください。
1728	リスクは最小限に、他の先進国の基準に合わせて、再検討ください。
1729	世界の流れや事実と逆行しています。 もっと基準を厳しく、世界レベルにしてください。
1730	世界の流れや事実と逆行しています。もっと基準を厳しく、世界レベルにしてください。
1731	政府が SDGS と謳っている中、地球の持続可能性について本当に真剣に考えているのか疑問があります。PFAS の基準値もその一つで、経済以前の問題である人体の健康にかかわることのリスク評価があまりに低すぎます。ただちに健康被害がないという文言は本当に酷いです。リスクがあるという研究結果をしっかりと受け止め、健康と安心を優先させた規制をお願いします。
1732	有機フッ素化合物の許容基準を欧米並みの厳しい数値にして下さい 。
1733	健康はとっても大切なので基準値は厳しい位が適切かと思います。欧米と同程度の基準値が当然かと思います。
1734	フランスの基準か 1 ナノに対して日本は 50 ナノということが疑問です。再検討お願いします。
1735	胎児・乳幼児への影響が大きいことが指摘されています。 少子化が進む中、子どもたちの健康まで害しては日本の未来はありません。 欧米並みの基準値で制限をかけるべきと考えます。
1736	食品安全委員会の基準は驚く数値です。国際的な流れをまったく理解してないのでは？日本のそういう考え方に、人の健康、命は二の次???が透けて見えます。一体どちらを向いた基準なのでしょうか。まず、国民の安心?安全を最優先して欲しいです。そもそも基準値というものは曖昧です。PFAS ゼロを目指す。そらが未来を担う子供達への攻めてもの償いだと考えます。
1737	pfas の水道水の安全基準値等を、フランスやアメリカと同等にして欲しいです。 そして、現在濃度が高い地域の原因究明もきちんとして欲しいです。企業への厳しい政策もお願いしたいです。 うちの娘はフッ素化合物にアレルギーがあると京都市のアレルギー科のある鈴木診療所で小さい頃から言われています。 小さい子ども達の明るい未来のために、危険とされるものをできる限り規制して頂きたくコメントしました。 どうぞよろしくお願いいたします。
1738	岐阜・各務原市の三井水源とする汚染された地下水の水道水を 25 年前になりますが丸 1 年住んでいました水道水も飲んでいたことになります。びっくりしました。許容摂取量などわからず健康被害がどのように現れるのか、今後どのように対処すればよいのでしょうか。
1739	日本の水は安全だと思っていたが、フッ素化合物が基準値を超えているということを最近よく耳にするようになりました。 日常生活の身の回りに、命にかかわる危険なことが迫っているという危機感を感じることが多くなりました。 国の対策を大きく見直すことがとても大切に感じます。 どうか人間の生命を守る対策をお願いします。 正しい情報を知らせていただき、国民もその危機を感じ、一体となって取り組んでいかないと、未来ある子供たちにバトンを繋ぐこともできなくなります。 どうぞ命を守ってください。
1740	ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指しています。ゼロを目指せる国々があるのですから、日本も規制を強め、ゼロの方向性を目指してください。子どもが将来に日本のために活躍するためにも、絶対に譲れません。「今だけ、金だけ、自分だけ」

	そんなものは終わらせてください。
1741	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。過去に水俣病などの公害が起こった時も、国は迅速・積極的な対策を取らず、被害が拡大した。化学物質・農薬・食品添加物等は国際的な基準に合わせ、規制を厳しくすべきだ。現在の利益を重視するのではなく、将来のこともしっかり考えた対策をしてほしい。
1742	今、飲み水の規制基準を２０２０年の暫定目標値と同様のゆるい規制にするのは時代の流れに逆行している。欧州食品安全機関が２０２０年に体重１kg あたり４．４ナノグラムの規制値を決めた根拠の研究を「それらの証拠の質や十分さに課題がある」とケチをつける。ならば自ら徹底した調査研究を行うべきなのに、「データ不足の中で評価せざるを得なかった」と言い訳するだけ。そうしているうちにアメリカ環境保護庁も２３年に体重１kg あたり４．４ナノグラムの基準を明らかにした。WHO も１２月に PFOA を発がん性において最も警戒すべきランクと発表した。日本のみが独自の調査研究をしないまま緩い規制にしがみつくのは、半導体工場の進出を見込んで緩い規制を求める産業界に忖度したと言わざるを得ない。自ら知見を得る努力をしないならばせめて、因果関係が十分に証明されていなくても対策を講じる「予防原則」にたって、欧米並みの規制基準とするべきである。
1743	基準値が 50 と聞きました。 誰が決めたのですか？ フランスは１でアメリカは 4。 基準値をフランスと同じ１にしてください。 日本の豊かで綺麗な水を日本や外国の企業から守って下さい。 よろしくお願い致します。
1744	日本だけが基準緩和して、健康被害が出て、どんどん沢山の人が病気になっていくこんな国にしないでください。 目先の経済的利益でなく、どうかどうか国民の未来をつなぐ選択をお願いします。 誰もが安心して水道水が飲める国であってください。
1745	日本はゴミ箱じゃない、これからの未来のために地球を汚染させてはいけない。 どうか国民の意見を聞いて下さい。
1746	フランスとの基準値の差を見ても明らかです。 子供達の未来のため考え直してください。 日本の未来につながります。 よろしくお願いします。
1747	基準を厳しくして下さい
1748	欧米のように PFAS ゼロを目指す取組みを要望します。 今の日本の基準案（米国の 200 倍）は、認められません。 欧米のように細かく区分し、測定し、厳しく規制してください。 国民の健康と命を守ってください。
1749	日本とアメリカの水道水基準に大きな差があるのは何か理由があるのでしょうか（資料に掲載されているのであればすみません） 人体に害がないと判断される基準を他国の動向とあわせてもっとわかりやすく説明していただける場をつくって欲しいです。
1750	食品安全委員会が「２０ng が妥当」と判断したことに、驚き、失望しています。 米国や欧州の許容摂取量よりも数倍も高いと知って、不安を感じています。 科学的な不確実性を理由に、対策を遅らせることは、とても気がかりです。
1751	1) 設定（案）した TDI (耐容 1 日摂取量)の PFOS：20ng/kg 体重／日と PFOA:20ng/kg 体重／日を、EU や米国の TDI まで下げること。 食品安全委員会は、確実性（限定的でない、十分である）のあるデータに基づいて TDI は設置したとしているが、同様の配慮をもって EU や米国の評価機関もそれぞれの TDI を設置している。なぜ同委員会の TDI と EU や米国の TDI が異なるのかについての同委員会の説明は不十分であり、納得し難い。住民としては、データによる知見が限られていると同委員会が主張しても、自らの健康・安全を守ために国際的に最も厳しい基準に揃えるべきであると考える。
1752	2) PFOS と PFOA 以外の PFASS（PFNA, PFHxS, PFBS, GenX 化合物等）も、EU や米国のように TDI の対象にすること。 食品安全委員会は、確実性（限定的でない、十分である）のあるデータに基づいて、TDI の対象を PFOS と PFOA に限定し、PFHxS は対象外としているが、同様の配慮をもって EU や米国の評価機関もそれぞれの TDI の対象を選定している。なぜ同委員会が選定した TDI の対象と EU や米国の TDI の対象が異なるのかについての同委員会の説明は不十分であり、納得し難い。例えば米国 EPA は、「PFNA, PFHxS, PFBS, GenX 化合物を、人の健康に悪影響を与える可能性があり、公衆衛生上懸念のある頻度及び濃度で飲料水から検出される可能性が高く、EPA 長官の判断により規制を行うことが健康リスクの軽減に重要である」としている。住民としては、データによる知見が限られており PFOS と PFOA のみを TDI の対象としたと同委員会が主張しても、自らの健康・安全を守ために国際的に最も厳しい基準に揃えるべきであると考える。
1753	3) 「予防原則」「予防的アプローチ」に基づいた評価書を作成すること。 食品安全委員会の評価書では EU や米国等で採用されている「予防原則」「予防的アプローチ」の概念が用いられていない。上記した TDI の数値の高さや対象の限定も、評価全体が「予防原則」「予防的アプローチ」に基づいていないものであることを示している。同委員会は、「環境と開発（発展）に関するリオ宣言」の第１５原則で示された「完全な科学的確実性の欠如が、環境悪化を防止するための費用対効果の大きな対策を延期する理由として使われてはならない」という見解を基盤にして評価書は作成されるべきである。 少なくとも、食品安全委員会の評価が、なぜ「予防原則」や「予防的アプローチ」に基づいていないのかを明確に説明すべきである。
1754	PFOS と PFOA の 2 物質のみそれぞれ体重 1 キログラム当たり 20 ナノグラムとした指標値は欧米に比べ緩すぎます。も

	っと厳しくしてください。また、PFHxS の指標値も定めてください。そうでないと、多くの自治体は PFHxS を測ろうともしません。 また、「発がん性については、動物試験でみられた事象は、げっ歯類特有のメカニズムである可能性がある」とのことですが、実話である『毒の水』によると、デュポンは 1965 年に犬で、78 年にはサルで実験し、哺乳類への有害性は明らかになっています。サルも死んだくらいですから、ヒトにも当然影響があります。 また、PFOA と腎臓がんの関連についても評価書では認めていませんが、米国の科学パネルで専門家が 7 年以上かけた調査で、PFOA と腎臓がんの関連を認めています。 TDI を見直すとともに、次世代へのリスクも評価し、PFAS グループ全体を規制する方向で検討してください。
1755	4) 設定される日本の TDI 値やその対象が、在日米軍にどのように適応されるかについて言及すること。 現在日本には約 5 万 5 千人の米軍人が駐留している。米国と日本の TDI 値やその対象に大きな違いがあること、さらには日米地位協定において公務中の活動には日本の法令は適応されないことを踏まえて、設定される日本の TDI 値やその対象が、在日米軍にどのように適応されるかについて言及することが必要である。 5) 評価書の概要部分において「TDI」と記載されているが、多くの人が理解できるように「TDI(耐容 1 日摂取量)」のように日本語もいれて記載すること。
1756	汚染された水について、国民や子供達の健康をまもるため、もっと慎重に調査し、皆が安心して暮らせるよう努めてほしいです。
1757	私の居住地では地下水を水道水に混入していないのに、血液検査で数値が高くなっている。 有機化合物には無害と思われていたものが、後に人体に不都合な結果を及ぼした例がある。 我が国として独自の規制値を設けるとしても、諸外国との比較であまりにも脳天気な数値、何十倍もの違いがある。 特に妊婦や幼児への影響に配慮すべきと思う。
1758	ヨーロッパやアメリカに比べて基準値が高すぎます。検討し直して下さい。
1759	日本は世界のなかでも、PFAS の基準値が甘いです。きちんと調査して頂きたい。
1760	新しいものには慎重に対応してほしい
1761	PFAS は本当に体や動植物に影響がないのでしょうか。３０年後、どれだけ体に蓄積されているかわからないのではないでしょうか。わからない状況で５０だとか１００だとか設定してよいとは思えません。海外での目標設定はもっと低いと聞きます。海外がどうかというよりも、原発のようにわからないものをなんとなくこんな感じで設定しておこう、みたいなのはとても不安です。今時点で高齢の人はいいかもしれませんが、小さい子や自然界の小さな生き物に本当にどのような影響が出ているのかもっと調査してから数値を設定してほしいです。そして数値はゼロを目指してほしいです。
1762	PFOA は発ガン性の物質です。健康被害が出てからでは遅い、予防原則に立って厳しく規制し、未然に防いで下さい！親の体内の PFAS は孫まで影響するといいます。欧米の規制にならい、厳しく規制し、子どもたちや未来の子どもたちを守って下さい。
1763	私は、米軍横田基地の東側に住んでいます。東京多摩地区では、横田基地を汚染源だといわれている PFAS 汚染により水道水の多くの井戸取水は停止されています。特に立川・国立・国分寺・府中などの住人の血液検査をしたほとんどの人から高濃度の PFAS 汚染が検出されました。WHO の研究機関は発がん性などを指摘しています。ことは毎日の飲み水や健康にかかわる問題です。これまでの世界の調査や知見に基づき、水道水の PFAS 規制のため、「暫定値」から「基準値」とすること。また、規制基準の値を欧米並みに厳しくすること。横田基地の汚染を特定し明らかにして、対策を講じること。以上要求し意見とします。
1764	規制を諸外国並に、もっと厳しくして、国民の命と健康を 守って下さい?? このままだと、自民、公明政権の失脚をのぞみます。
1765	なんでも勝手に決めないで下さい。利権で潤う人達のためにしかなりません。
1766	どうして欧米諸国とこんなに基準に乖離があるのか、大切な水道水については国民に広く説明するべきです。 これ以上日本人に発癌性物質を摂取させないことを最優先課題とすれば、国家の医療費削減につながるはずです。
1767	水は生命の源です。今現在とそして未来の水の環境と品質を守っていくためには、民間の力では限界があります。国こそが必ず守らなければならないものの一つだと思います。どうぞ大切な私たちの国、日本を守るために害のない安全な水を安心して摂ることのできますようよろしくお願いします。
1768	沖縄県で基地の近くの水が汚染されていることは知っていました。 基地の近くだけの問題だと思っていましたが、大阪でも河川や地下水が汚染されていることを知り愕然としました。その後学習しＰＦＡＳ が人の体に入るとなかなか出ていかず、人体に多大な影響を与えると知りました。 危険な物質だと分かった段階でなぜ政府は何らかの手立てを取らなかったのでしょうか? 調査して、情報を、国民に知らせて、危険を回避する手立てを取るべきです。 国民の健康を守る役割が国にはあります。 この義務を国は放棄しているのです。 許せません。直ぐに調査して手立てを打って下さい。
1769	発癌性のリスクがあるものなので、 リスクだからと安易に基準値を上げず、 欧州並みの PFAS 基準にしていただきたいです。将来的には 0 を目指して動いていただきたいです。
1770	何らか影響が出てから謝罪すればいいと思っているのでは？ごまかし、隠して問題をあとまわしにしたり、ないがしろにし、多くの人の不利益より、一部の人の利益を優先する考えは、本当にくだらない。
1771	綾部市では川から 49000ng という高濃度の汚染水が検出されているにも関わらず、放置され、垂れ流されている現状です。下流には田畑や学校、人々の生活があります。早急な措置を求めます。また食品安全委員会のだした 20ng/日という基準値は欧米の基準値を大きく上回って設定されており、世界における研究結果を見ても日本における水道汚染水、食品汚染は人体に非常に危険であると考えます。 　あらたな公害を未然に防ぐためにも、世界水準に合った新たな基準値の決定を求めると共に、早急な解決策、啓蒙活動を求めます。
1772	こんな安全を無視した摂取量を国民に押し付けるにはどんな根拠が？またアメリカの無理難題ですか？こんな事を続けていると日本からの農産物輸出は安全性が確認できずどこにも輸出できません。水は人の体に水は欠かせない大切なもの

	です。それなのになぜ日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのですか？日本に住む人の命をなんだと思っているのでしょうか。うつけたことをぬかしていないでまともに仕事してください。絶対反対！断固反対です！
1773	初めましてこんにちは。 先日、PFAS、PFOS について知る機会がありました。 実際に国内の水道水で、基準値を遥かに上回る物が検出されたとの事実を知りました。 それ以外の地域でも基準値を超える物が検出されている事実を知りショックを受けております。 私は人々や動植物にとって、より良い社会である事を願っています。 どうか原因究明と対策を心からお願いしたいと思います。
1774	健康影響に関する情報が不足していて、不明な点が多いという現状にありながら、この基準では不安を感じます。日本人の命と健康を第一に考えた、慎重すぎるくらい(世界的に見ても厳しいレベル)の基準を設けていただきたいです。 子育て世代が、安心して子を産み育てられる国だと感じられるような基準設定を求めます。
1775	セミナーでは、米国環境保護庁（EPA）や欧州食品安全期間（EFSA）の最新の指標値を採用しなかったのは、日本における摂取量が米国や欧州とは異なるからだとの説明でした。本当にそうですか？ 水道水が高濃度に汚染されていた地域の一つに暮らし、かつ、幼子を持つ一人の父親として、まるで「疑わしきは垂れ流す」と言わんばかりの評価には憤りを覚えます。 私は、PFOS・PFOA に関しては、EPA の最新の指標値を採用することを求めます。また、PFHxS に関しては、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用することを求めます。 なぜなら、私の体内には、市民団体の血液検査の結果、米国アカデミーによる基準の 1.6 倍もの PFAS が体内にあることが分かっているからです。だからこそ、同じ水を飲み、同じ食物を食べている子への影響、健康と命を心から心配しています。懸念が現実のものとなってからでは遅いのです。 是非、予防原則に立ったリスク評価をしてください。
1776	PFAS のように有害影響が懸念される物質については、不確実性があろうと人の安全を最も優先して基準値が決定されるべきだと考えます。これから育つ子どもたちのことを思い TDI の見直しを再考されますよう。
1777	実家が三重県四日市市です。 半導体の工場があるせいか有機フッ素化合物が多く検出されていると聞きます。 知らない人の方が多いので、なかなか声が上がらないのが現状です。水は直接私たちの健康に関わってきます。汚染されてからでは遅く、ある日突然水が飲めなくなるという未来がすぐ近くまで来ているのではないかと不安でなりません。また不法投棄から山から川へと汚染され、PFAS が検出された地区もあると聞きます。不法投棄の法を厳しく見直してほしいです。PFAS だけに限らず、添加物などにしろ、日本は全てにおいて基準値がアメリカやヨーロッパに比べて甘いと思います。目先や表面上だけ繕っても未来は明るくありません。どうか少しずつでもいいので底辺から見直しをお願いいたします。
1778	2023 年 12 月の国際がん研究機関（IARC）による PFOA の発がん性の判断を取り入れてください。 発がん性物質の PFOA の許容量はもっと低くしてください。 米国環境保護庁（EPA）の 2016 年ではなく、最新の指標値を採用してください。 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用するか、EPA の最新版が発表されるるまで審議を継続してください。 PFHxS は子どもへの影響があるので、予防原則を考えて 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用してください。
1779	日本の基準値は国際的な科学的知見に基づいて設定されるべきであり、アメリカとの比較を考慮すべきです。 市民の健康と福祉を最優先に考え、適切な対策を講じるべきです。 環境への影響や健康被害を最小限に抑えるため、適切な対応策を講じてください。 これらの観点を考慮し、適切な対応を求めます！
1780	日本もフランスやアメリカに倣って基準値を見直して欲しいです。
1781	最近、報道されてる地域以外のところでも、フッ素化合物が水道水に入っているのを度々耳にします。 日本の安全基準は欧米に比べて何でこんなに低いのでしょうか。 水は私たちの体にとってとても重要なものです 。 フッ素化合物以外の物質も含めて、ぜひ国内全ての水道水を検査していただくようお願いいたします。
1782	有機フッ素化合物の入った水を飲みたくないです。 日本の基準値をもっと下げてほしいです！
1783	「PFAS の摂取許容量(案)」の内容に関し、食品安全委員会が「20 g が妥当」と判断したことに不安を感じる。国際的潮流に倣った水準としてほしい。
1784	子どもたちが日常的に川で遊びたがります。健康被害についてとても危惧しています。安心してすごせるよう、安全基準について厳しく調査、設定するようお願いします。
1785	欧州や欧米では、毒性がより明らかになるにつれ、規制強化の動きが急速に進み始めているなか、何故日本は規制を強化しないのか本当に理解できません。 いまなんの被害もないからいいのではないと思います。実際に健康被害が起きる前に、EU のように予防原則の立場から先手を打って規制強化すべきであり、そうすることで初めて安心して生活できるようになります。 そしてこの状態が続くことで、日本に不安を持つようになりインバウンドが減ったり、輸出が制限されたりし、日本経済にもダメージがあると理解して欲しいです。 飲料水だけに限らず、農作物や家畜など間接的にヒトの口に入るものや、フライパンなどの日用品も規制強化して欲しい。 全ての人の健康のために早急に解決するべき問題であると認識し、真剣に取り組まれることを切に要望しています。
1786	科学的根拠不十分とされた健康影響についても保護されるよう TDI を見直して下さい。
1787	PFOS と PFOA の合計 50 ナノグラムは、高い数値だと思います。 5 ナノグラム以下を目指しほしいです。

	安全、安心な水を使いたいです。 お願いします。
1788	今示されている、摂取許容量案は国際的な調査のもと出されている値より非常に高い値と思います。世界の大多数が安全だと言える基準値を示して下さい。
1789	未来のこどもたち、未来の日本のために、考え直してください。よろしくお願いします。
1790	私は綾部市の高濃度の pfas が出た地域の隣町で、子供はその高濃度の町の保育園に通っています。 49000ng の検出された産廃業者の近くで、保育園側の川でも 6300ng が検出され、保育園と 10 メートルの距離の川です。 自治体が調べられて、土壌からも検出されたとも聞きました。 保育園では散歩や川遊びはやめていますが、土には染み渡り、泥んこ遊びや、畑作りもする園なのに不安です。 とても良い市の保育園なので辞めたくもありませんが、子供に何年後かに何かでるかもと不安で仕方ないです、 行政が注意喚起してくれても炭を入れても値は高いままで、そのまま流れています。どうにか委員会や国が業者を取り締まる法案に変えてほしいです。 今回委員会が出している日本の基準値があまりにも欧米に比べて高すぎるのがそもそもおかしいです。アメリカでは既に大企業による汚染で奇形や小児がんがあったと裁判でも認められ、基準が低くなり pfas 自体を減らす方向へ舵をとり始めました、日本は食品添加物と同じで長年の蓄積でしかわからないからといって健康に害のない数字、と有耶無耶にされているような気がします。
1791	今回の指標値案の撤回、または審議継続を求めます 理由：「健康に対する権利」をないがしろにしているから。日本は、健康に対する権利を認める数々の国際的人権諸条約を批准している。（以下、リンクサイトより部分抜粋）「健康への権利」とは単に健康である権利ではなく、安全な水へのアクセス、その他の健康に不可欠な条件となるものへのアクセスを含む。この権利は「漸進的実現」の対象であり、したがって、政府は、この権利の漸進的実現を計るために、指標と目標値が必要である。この権利は資源の利用可能性に影響されるもので、例えばジャマイカよりも日本のほうがより高度な要求をされる。 https://www.hurights.or.jp/archives/newsletter/sectiion3/2009/05/post-55.html 今回の PFAS の指標値案は、欧米並に強化するどころか、現状維持、あるいは規制緩和の可能性も懸念されるものであり、健康への権利を損ねるものです。よって、再考を求めます。
1792	子どもは喉が渇けば公園の水道から水を飲みます。美味しくなくても、せめてからだを侵すことのない安全な水の供給をお願いします。 至る所で発生しているこの問題は日本全体に及んでいるのではないか、よく調査して下さい。 「知らなかったから手遅れだった」では済まされないとても大切なことなので意見させていただきます。 よろしくお願いします。
1793	この基準値で今を生きる人々や未来の子供達が本当に守られるのでしょうか？再検討を望みます。アメリカなど諸外国の基準値との差も大きく、納得できません。
1794	米国や欧州と比較すると、許容摂取量があまりに高いので不安です。 食品安全委員会有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループによる PFAS 評価書（案）に関する Q&A も拝見しましたが、十分な知見がないとされている点が、米国・環境保護庁等の資料から得られる情報とは異なっており、甚だ疑問があります。リスク評価の場合、確実ではない点も含めて厳しく判断すべきではないでしょうか？ 後になって、実際に問題が起きてからやはり基準が甘すぎたというのでは取り返しがつきません。 薬害 AIDS の時のように、情報の遅れと甘い判断基準で国民の健康を危険に晒すようなことがあってはなりません。
1795	こんにちは。 初めて送ります。 この問題を耳にし、様々な利権が絡み、すぐに規制することが難しいのではと感じました。 けれど、人間に水をもとに戻す力はありません。 長い年月をかけて地球が自然の営みを繰り返していく中で徐々に癒えていきます。 で、あるならば、人間にできることは、その内の僅かな手助けにすぎないでしょう。どんなに資金を投じてもです。 なおし方が分からないものを壊さないでください。 過去に起きた公害問題から学んでください。 この問題から目を背け、目先の利益を取ろうとしている方、利益のみを享受し、責任から逃れようとしている方はいらっしゃいますか？ あなたも地球に生きる、日本に生きる人間の一人だということを思い出してください。 あなたの愛する家族、そして子孫達もまた、日本の環境で生きていく人間です。 どんなに物質的に豊かであっても、地球環境が悪ければ人間は健康に生きていけません。 今、決断の時ではありませんか？ 勇気を持って、基準値を国際レベルまで引き下げてください。 決定ボタンを押す前に、今一度国民の声をきいてください。 これからも日本が、美しい国としてありますように。
1796	京都市在住ですが、同じ京都府でも pfas の数値が高い場所が見つかっており、とても懸念しております。 私たちの身体の約 70%は水でできています。私たちの身体は一つ一つの細胞の存在達との絶妙なバランス、ホメオスタシスで、日々生きることが可能です。そこに不自然な化学物質が混入した場合、私たちの身体に何かしらの異変が起こることは容易に想像がつきます。 日本の国土、地球の水もまた同じではないでしょうか。今までになかったものを、敢えて水の中に混入する必要がなぜあるのか？人間や生き物全てにとって、太古の昔から先祖代々受け継がれてきた、自然環境を守っていくことが、政府の役割ではありませんか？

1797	PFAS の制限、せめてアメリカ並みにしてください。日本でも高いとされる国分寺市民としては、大きな不安です。 また希望する人の血液検査を無償で行ってください。
1798	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いています。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。見直しを強く求めます。
1799	PFAS1 日当たりの摂取許容量の数値が アメリカやヨーロッパと比較して、日本は数百倍も高く設定してあると知りました. なぜですか？ これからの日本を生きていく子供たちを このような脅威から守りたいです。 メディアや国が積極的にこの問題を取り上げないせいで、国民はこの危機をしりません。
1800	環境省の PFAS 総合戦略検討専門家会議の提言「PFAS に関する今後の対応の方向性」の 4 頁に「地域での血中濃度調査の実施については・・・本調査の結果や今後の研究・調査の進展等も踏まえて検討すべきである」と書かれています。これは、「慎重に検討すべきだ」となっていた原案に対して、委員が「後ろ向きの表現だ」と指摘して修正された文章です。 ところが、評価書案の２３７頁には「血中濃度については・・・国や自治体等が血中 PFAS 濃度測定を実施する場合は、その目的や対象者、実施方法等について慎重に検討する必要がある」と「慎重に」が入って「後ろ向きの表現」に戻っています。これは、至るところで「情報の不足や証拠の欠如」を強調していることと矛盾する姿勢を表わすものです。 国は、このような後ろ向きの姿勢を改めて、血中濃度だけでなく、水道水、河川、湖沼、地下水、海域、土壌、農産物、水産物などの PFAS 濃度と住民の健康状態もきめ細かく長期的に調査を推進していくよう要請します。
1801	フッ素の危険性、アメリカでは何十年とかけて訴訟問題になり、訴えた側が勝訴しています。 フッ素を垂れ流しにしてきた会社側は負けています。史上最大の血液検査のデータをもって、解析、癌の発症率の高さは裁判の結果から明らかです。　家畜もみな病気になりました。 防水加工に優れ、衣食住いたるところで便利に使われていますが、その安全性はいかに。フォーエバーケミカル、要りません。 人類の 99%が既に体内にもっているとされるこのフッ素。 作ったのも人間ですが、これ以上、日本をゴミ捨て場にする必要はありますか？ 基準値を上げてゴミを受け入れるのではなく、科学的な要らない健康問題になるゴミを宇宙空間に飛ばすような計画や実験をはじめてもらいたいです。
1802	ふだんアメリカや EU に追随するのに、なぜこれは独自の基準を作るのか？ 海外の基準を採用しない科学的な根拠をきちんと示してほしい。
1803	このように危険な物質が身近にあるのに、みんなが知らずに過ごしているのがおかしいです。きちんと国として対応すべきです。日本の規制をつくり安全に過ごせるようにしてください！フライパンなどは毎日使うもので知らないうちに子供たちにも影響していると考えると恐ろしいことです。一刻も早く対処してください。
1804	1). まずは、国民的調査を実施する事が必須と考えます。 2).特に、意欲的に住民調査を実施し、異常高値が判明した地域は重点的に再調整を実施して、原因究明に取り組むべきと考える。 3).既に発生源として注目されている、米軍基地及び企業(一例、ダイキン工業等)への立ち入り検査を避ける事は出来ません。
1805	人体への影響について、証拠不十分で評価できないとなっているため、 食品健康影響評価の意味があるのか、今後正しく規制できるのか疑問です。
1806	日本は PFAS の基準値が 50 で本当に大丈夫だと思っていますか？ヨーロッパの基準値と比べてものすごい高いですが、本当にこのままで大丈夫ですか？ 未来の子供達を守れますか？ 基準値の再検討をお願いします
1807	設定値を決める前にまず全ての水源の検査をしてもらえないでしょうか。そして国民全員の血液検査、動植物の影響を調査してほしいです。ふんわりした状態で設定値を決めるのは納得いきません。これから増えるであろう半導体工場にはたくさんのきれいな水が使用されると聞きます。PFAS は流れ出ないのでしょうか。分解されないとされる PFAS を流し続けて大丈夫なのでしょうか。不安です。
1808	食品安全委員会のホームページをみると、その役割として「国民の健康の保護が最も重要である」とうたっています。本当にその方向で仕事をされているのかと PFAS の評価書案の内容を聞いて疑問を持ちました。20ng/kg/日という科学的に確実性の高い耐用一日摂取量を選んだとのことですが、確実でないのに低い値を選ばず、おまけに独自の用量推計モデルなどを作成する予定もないというのは本当ですか？とても「国民の健康の保護」を第一に考えているとは思えません。日本に住む全員が将来にわたって PFAS による悪影響を受けることのないよう、TDI の見直しを要望します。
1809	どんなに少量だとしても川や海、土に蓄積し、水の中の値が少なかったとしても、魚など我々が口にするものに高濃度に含まれてしまうのではないでしょうか。設定値はゼロをめざしてほしいです。
1810	なぜ日本の PFAS の許容摂取量案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。 私は癌になりたくありません。水質基準の見直しをするべきです。
1811	汚染の進んだ現状を肯定するような基準ではなく、人々の命を守る為、欧米の基準、4ng/L として下さい。
1812	発癌物質のこと、健康被害がとても心配です。 飲水の安全を守ってください。子どもの生命をまもるのが政府の仕事です。安全基準をごまかさないようにお願いいたします。
1813	食品安全委員会が示した許容摂取量は、欧米の許容摂取量よりも数百倍も高く、大変驚きました。このまま、飲料水の水質基準などに使用されるのは大変不安です。欧米が採用している科学的エビデンスに基づくことを要望します。また、発がん性評価も取り入れて リスク評価をしてください。
1814	なぜアメリカや欧州より桁違いにゆるい規制にしようとするのでしょうか。 規制を緩くするなら、現在 PFAS に汚染されている地域の住民の健康調査を徹底的に国が率先してやるべきです。 それを放置したまま規制を緩くするのは何もしないのと一緒で、国としての責任放棄です。
1815	アメリカ並みの基準値にしていただきたいです。宜しくお願い致します。
1816	東京多摩地域住民が集団で行った血中 PFAS 濃度測定では、半数以上が EPA の指標値を超えた値が検出され、住民は不安になっている。全国でも同様の地域がある。その渦中で、食品安全委員会はその２００倍を許容摂取量案としたのは「健

	康不安を覚えるのがおかしい」と宣言したのに等しい。欧米の許容値を「影響は不明」「証拠は不充分」「指標値の算出は困難」等と科学的不確実性として切り捨てているが、自ら科学的確実性を持って今回の数値が許容できるという根拠はどこにあるのか？国民にわかりやすく記載すべきである。また、PFAS 規制を強化している国際的潮流にも対抗している値を示した訳なので、その点でも反論を記載し、判断した委員の責任を明確に記録すべき。 　そもそも人体生命に影響する可能性があるものについては、フェールセーフの立場が当然だと考える。今回の案は「現時点の情報は不足しているものの･･･著しい健康影響が生じる状況にはない」とか悠長な結論を導く、余りにも国民の生命を軽く扱っているものとしか思えない。案を撤回して、早急に知見・データを集め、許容摂取量の見直しや発がん性の評価をすべきである。
1817	高濃度汚染地域に健康影響を受ける可能性のある人たちがいることを念頭に TDI を見直して下さい。
1818	国民が危険に晒されないように、アメリカと同じ基準にしてください。
1819	岡山県吉備中央町で、有機フッ素化合物（PFAS＝ピーファス）が検出されたことを知り、初めてパブコメに意見を送ります。 世界的に見ても高い値が検出されたと報道されており、全国でも未調査で高濃度の PFAS が検出される可能性が十分考えられると思います。 WHO（世界保健機関）は暫定ガイドライン値 500ng/L とする方針を示しているため、日本も数値目標を世界基準にすべきです。 水俣病の二の舞とならぬよう、すでに遅れをとっている企業への基準値見直しの徹底をお願いします。
1820	基準値をアメリカやフランスと同等の数字に改正して頂く事を強く希望します。 まだ PFAS の検査がされていない地域も検査をして公表してください。 高濃度の数値がでた地域の住民にはすぐに血液検査をすぐに実施して検査結果を公表してください。 半導体の工場に対してしっかりと規制を設けてください。 半導体ビジネスの拡大より綺麗な水を守る国にしてください。
1821	日本の食品安全委員会が、20ｎｇ/kg/日を基準としたことに非常に驚いた。欧米の基準の 200 倍以上である。物によっては、600 倍以上となる。何処から導き出された基準なのであろうか。国民のいのちと健康を守ることを失念していると言わざるを得ない。失望した。血中濃度は「ゼロ」にすべきです。 米軍基地が近くにある自治体での数値が高いと言われている。国民のいのちと健康を守るために、実態調査を国の責任で、早急に実施し、原因を究明すべきである。また、毒性評価を早急に出すべきです。国際がん研究機関の発がん性評価や米国環境保護庁などの評価結果を参考に基準値を設定すべきです。国民の健康への悪影響を未然に防ぐのが食品安全委員会の役割ではないでしょうか。影響が出てからでは遅いのです。予見できなかったと言い訳をするのではなく、健康被害の可能性のある食品、有害物質は可能性の内から排除すべきです。被害が拡大してからでは遅いのです。
1822	PFAS というものを知りませんでした。 知ったので、もう知らないふりはできないと感じました。 血液をして頂きたいです！
1823	PFAS 基準値を 50 から 1 にしてください。 フランスが 1 で日本は 50 なんておかしいと思います。再検討を希望します。 国民の健康を守ってください！
1824	日本の疫学調査は欧米に比べ極端に少ない、と言われているようです。調査に協力しますから、まずは欧米並みに行って下さい。PFAS 汚染対策を私たち国民と一緒に取り組んで下さい。健康被害が出てからでは遅い。予防原則に立って未然に健康被害を防ぐことを望みます。
1825	日本の基準値も海外と同じくらいにして頂き、安心して水道水を飲めるようにしてほしい。 また、地域ごとにしっかりと検査をおこない、その上で、住民に結果を公表していただきたい。 どうぞ宜しくお願いいたします。
1826	世界の世論でも大変危険な物質として認知されているものですが、日本がその基準に遵守していかないのはなぜでしょうか。 令和の公害レベルであると思います。私が看てきた患者さんでもたくさんの方が公害で生涯にわたり苦しんでいる方を知っています。 今が勇気をもって大きく規制して、食い止める最後のチャンスだと思います。 なにか忖度しなければいけないことがあるのかと疑いたくなります。 今を生きる日本国民のため、未来の子供達のために国際基準に則った対応を切に願います。
1827	こどもたちの未来のために、まだ調べてない所も調べてほしい。 日本の基準値が高すぎるので、もっと数値を下げてほしい。
1828	基準値をアメリカと同じ 0 にすべきだ。健康への被害は、直ぐには出なくても蓄積による被害が出るのは明らかだ。 映画ダークウォーターズと同じ事が行われている。人間の命を大切にしてほしい。
1829	基準値が諸外国に比べて高すぎると聞きました。せめて欧米並にしてほしい。 産業廃棄物の不法投棄への法整備をしっかりしてほしい。 自分たちの健康、将来の子供たちの為にもお願いします！
1830	PFAS の許容摂取量を見直していただけませんか？欧米に比べてあまりにも大きいと思いますが……
1831	この基準値で、子どもの健康は守れますか？再検討、強く強く望みます！ 世界では、基準値を厳しくしているなか、日本はそれと逆行するのはどうしてでしょうか？どう考えてもおかしいです。
1832	PFAS の毒性は日毎に明らかになっている。 WHO でも毒性について明らかになっていて米国やヨーロッパでは規制値が一桁台にしてあるのに日本では 50 ナノグラムという段違いの数字です。 子供に対する影響が出ててからでは遅いので欧米並みにはやく規制値を設定しなおしてください。
1833	日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎていると思われます。
1834	含有量の再検討希望。
1835	危険な発がん性物質はきちんと規制、調査してください

1836	今年岐阜県から東京都世田谷区に越してきました。水が綺麗なところだったので東京の水がおいしくないのは仕方ないと思っていましたが、健康被害の可能性もあるとわかれば話は別です。PFAS 検出量をマップ化したものを見ると、現在住んでいる世田谷区は真っ赤でした。飲み水だけでなく料理に使ったり洗い物や入浴でも使う水が危ない物なのは不安です。このまま改善されない場合岐阜県に戻ることも検討します。 何らかの対処を求めます。
1837	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数十倍～数百倍も高い、と聞いて不安です。 再検討を願います。
1838	基準を厳しくしてください。 住んでいる地域の水道水や、普段身体に入る危険性のあるものなど知りたいです。
1839	日本は世界有数のガン大国です。 その原因が特定されているわけではありませんが、PEAS がガンを引き起こす場合があるという研究結果が出ている以上、他の様々な健康被害の可能性も考えて、欧米よりも緩い規制数値にせず、アメリカなど規制の厳しい国に基準を合わせていただきたいです。 国が行う判断として、まず命を第一優先に考えてほしいです。
1840	高い発がん性が懸念される PFAS について、長期的な調査と対応が必要な現状を鑑みると、日本の食品安全委員会の「20ng が妥当」との判断は非常に甘すぎると考えます。 アメリカやヨーロッパ諸国の基準値と同等の数値での規制を求めます。
1841	2016 年以降、諸外国の研究で、疫学的に耐容一日摂取量（TDI）が 1 以下の非常に低いレベルでも健康影響が出ています。 日本人の健康を守るという意識を持って、新しい研究を取り入れ、TDI を欧米なみの基準にしてください。
1842	PFAS は、IAEA で発がん性があると言われていますが世界の数値と日本の数値の違いに愕然としました。 ヨーロッパでは O を目指している 例えはフランスは 1 日本は 50 でいいのでしょうか？ リスク評価が低過ぎます。 真実から目を逸らさず、直ちに日本も世界基準にするべきです。 よろしくお願いします。
1843	有機フッ素化合物（PFAS）の基準値の再評価を求めます。 日本は、高すぎるため、世界基準または、0 を目指すことを望みます。
1844	「水道水の水質管理目標設定項目の改正案について」の 厚生労働省医薬・生活衛生局水道課水道水質管理室宛の意見の募集が 2020 年 3 月頃にありました。あの頃の新聞記事の報道によりますと 米国では体重７０ｋｇの人を基準に 70ｎｇ/L が水質基準値。また、 幾つかの州では飲料水がガイドラインを 20 とか 17 の数値で対応している。 対して我が国は、有価フッ素化合物の水質基準暫定目標値を５０ｎｇ/L（体重 50kg）で検討しているなどでした。 あれから 3 年余、PFOS を例で示すと、今回の食品安全委員会の数値は 20ng／kg／日。 対してアメリカ・環境保護庁（ＥＰＡ）の数値は 0,１ｎｇ/kg/日である。 実にアメリカの 200 倍で我ら日本人はアメリカの人々より 200 倍も PFOS に耐性があるような解釈となる。 発ガン性が疑われ、自然分解が困難視される PFOS・ PFOA を含む有機フッ素化合物（PFAS）は地球上から無くすべきです。 食品安全委員会は　0 値　を宣言する努力を！　ご奮闘に期待致します。
1845	半導体生産には、有機フッ素化合物が必要不可欠です。欧米では、２０２５年にも半導体部材の有機フッ素化合物の規制が始まる見通しがある。日本では今回の食品安全委員会の評価では欧米の規制とは大きく離れた甘い基準となっています。半導体関連メーカーは部材調達の見込みが滞り、日本政府の誘致に飛びついています。私は、米国ウエストバージニア州や、オランダドルトレヒト地区、イタリアヴェネト、中国山東省のような汚染地帯に日本がなってしまうことを心配しています。今までの公害問題では、問題が起こってからしか対応できてこなかった。それも、病気になった患者が辛い中、訴えていくしかない状況でした。有機フッ素化合物の問題は、発がん性や抗体反応の低下、脂質異常症、乳幼児の成長の低下がわかってきている。既に欧米では、規制を強化しています。汚染を拡げる前に、日本でも欧米並みの基準にすべきと思います。
1846	日本の未来のために欧米並みの基準値への見直しを再検討して下さい。 よろしくお願い致します。
1847	国の責任として現状究明と国民へ生活安全保障のための行動を速やかに実行してください。地域だけの問題ではなく国の課題として取り組む必要があります。 ・水から PFAS が検出された地域住民への無償血液検査 ・日本以外の国での研究・調査等を鑑みた基準値の再討論 ・該当地域の継続的な水質調査と報告、健康被害調査 水の汚染は、人が暮らし子供を産み育てる環境がないと同義と考えます。
1848	「水道水の水質管理目標設定項目の改正案について」の 厚生労働省医薬・生活衛生局水道課水道水質管理室宛の意見の募集が 2020 年 3 月頃にありました。あの頃の新聞記事の報道によりますと 米国では体重７０ｋｇの人を基準に 70ｎｇ/L が水質基準値。また、 幾つかの州では飲料水がガイドラインを 20 とか 17 の数値で対応している。 対して我が国は、有価フッ素化合物の水質基準暫定目標値を５０ｎｇ/L（体重 50kg）で検討しているなどでした。 あれから 4 年近く、PFOS を例で示すと、今回の食品安全委員会の数値は 20ng／kg／日。 対してアメリカ・環境保護庁（ＥＰＡ）の数値は 0,１ｎｇ/kg/日である。 実にアメリカの 200 倍で我ら日本人はアメリカの人々より 200 倍も PFOS に耐性があるような解釈となる。 発ガン性が疑われ、自然分解が困難視される PFOS・ PFOA を含む有機フッ素化合物（PFAS）は地球上から無くすべ

	きです。 食品安全委員会は　0 値　を宣言する努力を！　ご奮闘に期待致します。
1849	アメリカ、欧州の基準の倍の PFAS を含んだ水を国民の生活用水に流そうとするなんて、あり得ないです。絶対に見直し、改善すべきです。 将来を担う子どもの健康のためにも現状の基準を断固として認めるわけには行きません。
1850	米国アカデミーが 2022 年 8 月に公表した臨床上のガイダンスでは、PFOS、PFOA、PFHxS 等の 7 つの PFAS の合計で血中濃度が 20ng/ml を超える患者には健康影響が懸念されるため、特別の注意を勧めているという。 日本の食品安全委員会が示す摂取許容量(案)は PFOS がアメリカの 200 倍、PFOA が 666 倍。血中濃度は PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml の可能性があるという。なぜこのように高い血中濃度を安全だというのか理解できない。 特に感受性の高い妊婦や乳幼児を守るために、安全重視の基準を決めてほしい。
1851	ヨーロッパでは PFAS0 を目指しています。 日本も未来の子どもたちの為に厳しく規制してほしいです。 リスク評価が低すぎると思います。 よろしくお願いします。
1852	PFAS の人体への影響はまだはっきりわかっていないので、後々になって取り返しのつかない事にならないよう、はっきりするまでは厳しい基準にしておいて下さい。 後になって安全性がはっきりしてから規制を緩めたらいいと思います。 過去の水俣病や大気汚染による公害と同じような事になってからでは遅いです。 大阪では、過去の大気汚染からいまだに喘息で苦しんでいる人がたくさんいるのです。 国がもっと早くにきちんと規制をして、国民の健康を守る事を第一に考えてくれていたなら、こんな事にはならなかったのでは？ その時にはわからなかったのですか？ わからないのならなぜ規制をしなかったのですか？ 同じ間違いを繰り返さないで下さい。 一度損なわれた健康を取り戻すのは不可能です。 わからないものは絶対に大丈夫だと未来永劫保証できる範囲しか許可しないで下さい。 よろしくお願いします。
1853	国債がん研究機関（IARC）では PFOS について発がんの可能性がある、PFOA には発がん性があると評価しています。 食品安全委員会はこれを健康影響評価に取り入れ、安全側に立って判断してください。リスク評価が不確実であるなら、確実になるように調査・研究を行い、安全であると評価できるようになるまではリスクを前提に考えるべきです。 全国的に PFAS の汚染が明らかになっている現在、憂慮されるのはがんだけではありません。PFAS の摂取許容量を低くして、国民の健康を守ってください。
1854	基準値が高いため、欧米並みの水準になるよう慎重な審議を求めます。
1855	欧州や米国の基準値を大きく上回る基準が設定されているのはなぜでしょうか。 水を摂取するのが同じ人間である以上、基準は同等クラスでないと異常だと思います。 再検討願います。
1856	岡山、大阪含め各地で発覚している深刻な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、国民の安全・健康を 守るためのリスク評価を進めてほしい。
1857	PFAS は 1 万種以上存在すると言われていますが、食品安全委員会では PFOS と PFOA2 種類しか評価していません。沖縄や岐阜県各務原市、東京都国分寺市では住民の血中濃度を測定した結果、PFHxS の値が非常に高くなっています。 PFHxS その他の PFAS は PFOA、PFOS の代替物質として使用されているものと思いますが、自然環境下ではやはり分解しづらく蓄積しやすいものです。これらの代替物質についても毒性を評価し、健康被害や環境汚染を防いでください。
1858	この案が通過することを絶対に反対します。毎日使う水です。自然の恵みです。人がここまで手を加えていいわけがありません。今の現状にも理解ができません。これ以上私達を家畜扱いする事をやめていただけないでしょうか。私達の事を思ってやっている事を勘違いしないで欲しい。
1859	ヨーロッパは PFAS ゼロを目指されています。未来の子供たちのためにも日本も目指していただきたいです。 私たち日本の安全な水をどうかお願いいたします、守りたいです。 基準値の見直しを再度お願いいたします。 発癌性などの心配もあります。リスクはゼロではないと思います。 健康被害がでると医療費もかさむと思います。 どうかご検討よろしくお願いします。
1860	PFAS についての問題について基準値を見直してください。未来の子供達の健康のために。 基準値が高く被害に遭われた方の声を聞いて、今後の生活を守り、そして、これからの環境問題として取り組んでいただきたいです。よろしくお願いいたします。
1861	PFAS による健康被害をとても心配しています。日本国民の健康と未来を守るために、米軍基地に対しては強固な姿勢をとっていただきたいですし、欧米諸国のデータから見ても PFAS の許容される数値はもっと低くあるべきと考えます。
1862	是非調査を実施し結果を好評して下さい。遠い町の事とはいえ未来の子供たちの為、子孫繁栄の為、良くない事は早めに廃除すべきだと思います。何事もなければそれでいいんですが。
1863	PFAS の許容摂取量案によると、日本は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍。の数値です、飲み水の水質基準に適応されることになった場合、国民に健康被害や、子供の発達過程で多くの問題が生じることが、予測されます。今、日本が直面している、人口の減少、少子化をさらに加速させることになりかねません。内閣府は、国民が、安心して暮らせる環境を守るべきです。
1864	他の例えば、放射性物質の基準値と同様に、PFOS,PFOA の摂取許容量が日本は、ヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超えることは、同じ人間なのに日本人だけが多くの化学物質に強いとは思えず、人間が健康に生きる権利が大切にさ

	れていないと感じます。 予防原則で、基準値を決めていただきたいです。経済を優先しないでいただきたいです。一度土壌が汚染されたら、それをきれいにするのはとても大変なことでそれこそ莫大なコストがかかると思います。 有機フッ素は PFOS,PFOA 以外にも 1 万種類あると聞きましたが、それらにも同様に規制を設けてください。 また、吉備中央町のケースの様に、排水浄化槽のカートリッジなどの保管をちゃんと法で適正な処置が行われるよう、監視するシステムを作ってください。 また、PFOS,PFOA、その他の有機フッ素の使用自体に規制をかけてください。 直近の経済成長を優先して、未来の子供たちへ汚された土地、川、海、空を託すようなことをしたくありません。 欧米基準に合わせてください。よろしくお願いします。
1865	大人は地球を汚して平気でいます。 ヨーロッパ、アメリカでは危ないとされているのに、なぜ日本人には大丈夫なのかわかりません。 自分たちが生きていく地球をこれ以上汚さないでください。 基準値をヨーロッパ、アメリカと同じレベルにしてください。
1866	国立の地域の方々の医療と健康に携わる医療従事者として、食の安全を国家レベルで考えてください。この地域で生活している子供たちの未来をしっかりと守っていくことを考えてください。
1867	PFOA と PFOS のみに規制値があり、それ以外に規制値がないのはおかしい。 PFOA と PFOS の規制値も欧米に比べると高く、不安がある。 未来の子供たちに汚れた大地を残してはならない。 健康への影響が直ちにないとは、原発事故以後よく言われる言葉だが、予防原則に基づいて国は国民を守る必要がある。
1868	水は人間のみならずすべての生命にとって必要不可欠なものである。 なんで日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。 日本に住む人の命を軽く見過ぎている、やり直しを求める。
1869	生きていくのに欠かせない水のフッ素摂取量がアメリカや欧州の何倍にもなっているのには不安を覚えます。また、発がん性においても調査・結果を出すべきだと思います。心配や不安を抱えたまま生活したくはありません。見直しを検討願います。
1870	食品安全委員会は「20ng が妥当」と判断していますが米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いと知り不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
1871	PFOA や PFOS が国際がん研究機関で発がん性がある物質に位置付けられ、アメリカやヨーロッパで規制強化が進められようとしています。ＰＦＡＳは広範なものに使用されていて、大阪は汚染のホットスポットであり、大規模な血液検査、広範囲な環境調査を期待しています。しかし、審議結果案は最新の知見や欧米先進国の動向が反映しておらず、ＰＦＡＳの危険性を放置するもので、結果として検査や調査に取り組むことを阻むことになりかねません。急性な症状、病状が発生していなくても、PFAS によって将来的に健康を害することを危惧します。食品安全委員会の評価により新たな公害を生むようなことがないように、予防原則に基づいた対応を求めます。食品安全委員会が国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行う機関というのであれば、国際的な知見を取り入れた評価を行ってください。私たち国民の健康保護を最重視する評価を行うことを期待します。
1872	安心して過ごせるまちづくりには環境のことはとても気になります。身近な水が汚染されているかもしれないと思うと不安です。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当し、PFOS で 200 倍、 PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問です。 大阪で自主的に行った１１９３人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきです
1873	国際的に発がん性が指摘されている物質を欧米と比較して 64 倍～200 倍まで許容するとは大変驚きました。子供たちの健康のために極めて慎重に基準を設定して下さるようお願いします。ぜひ予防原則の視点をお待ち下さい！
1874	アメリカや欧州が指定しようとしている値は 1 以下。蓄積性が高いと言われているのに、何故日本は 50 なのか理解に苦しみます。将来の日本を背負う子供たちのためにも、ぜひ値を下げてください。 ヤフーのニュースにもなってるではないですか。日本は世界のゴミ箱とも言われているとか聞きました。恥ですよね！ https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/47683e12c5cf49ce522508ac6f8a01f7bc5035e4
1875	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
1876	意見をもう一度見直してください。原因の追求と安全に飲める飲み水の提供を最優先してください。お願いいたします。
1877	欧米の基準値を大きく上回る日本の PFAS 基準値。身体に蓄積され続けるリスク、それは長期にわたり、未来のこどもたちにとって多大なる害だと感じます。わたしたちの未来を守ってください。今一度、欧米基準値と同等か、それ以下への検討をおねがいします。
1878	日本もアメリカやヨーロッパの基準値に足並みをそろえて安心安全な未来になりますように、どうかよろしくお願いします。
1879	自分の体や、家族の体が大事なので少しでも毒がまじってもいいだろうという国の考え方はおかしいと思うので、岐阜も健康な水を通してください。
1880	絶対に分解されない化学物質を、わたしたちが大切に飲料する水に混ぜること自体が疑問です。少量だったらいい？というなら、長期にわたり摂取したリスクを考えていただきたい。国民の命をなんだと思っているのか？基準値が高すぎます。ゼロに近い基準で、日本の未来を美しく守ってほしいです。現基準値の撤回を求めます！
1881	欧州、アメリカ並の基準にしてください。米軍基地が原因の可能性が高いのに、アメリカの 200 倍緩い基準ってありえませんでしょう？？日本国民の健康を守るために、アメリカに対して断固として責任を追求してくださいよ！
1882	早急に住民への説明と必要な健康上の検査対応、現状の把握と事態悪化の防止、 そもそもの評価基準の見直しを求めます。 (明らかに諸外国の基準から外れています。)

	武蔵野市に住んでいるため不安が募ります。どこかへの忖度せずに住民の健康被害について第一に稼働下さい。
1883	安心安全に飲めない水道水を許容するわけにいきません。仮にミネラルウォーター等を使用となるとかなりの家計負担となります。最低限のインフラとして安全に引用できる水道水は保証すべきです。 アメリカや欧州等と同等の基準値にする必要があると考えます。
1884	PFAS PFOA 等について、現段階では不明な事が多く、人体への影響は未知数であるが、だからこそ、厳しい許容量の設定が必要だと考えます。 過去の公害、薬害などの反省を活かし、欧州や米国より厳しい許容基準値を設定するべきです。これ以上の人々への健康被害を防ぐ為の厳しい基準値の設定。そして今後の徹底した水質調査、汚染源調査。また、人体への調査を多くの予算を使って実施してください。
1885	国の pfos の基準値の見直しを求めます！ 国民の健康を守る為にせめてフランスやアメリカの基準値 1 にしてほしいです。 綺麗な水を未来に繋いでほしいです！
1886	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 温故知新 ○足尾鉱毒事件：明治時代における富国強兵政策の下で多大な犠牲が続く・・・。「谷中村滅亡史」荒畑寒村 ○水俣病：有機水銀中毒―水俣湾・阿賀野川―。「苦海浄土」「天の魚」石牟礼道子 ○農薬と環境汚染。「沈黙の春一生と死の妙薬」レイチェル・カーソン ○PCB、DDT、ダイオキシン・・・「環境ホルモン」。「奪われし未来」 ○フロン―オゾン層保護― ○アスベスト―健康被害― 熊本への TSMC 誘致・ラピダス設立などの国策工場（大量の洗浄剤・PFAS 原因使用）。米軍基地への忖度は 0 にすること。
1887	1. 「リスク評価」「リスク管理」は利益相反になりうるので、公平・公正の立場から、今回のリスク評価を行う機関（内閣府食品安全委員会）と、水の「リスク管理」を行う機関（厚生労働省令和 5 年度水質基準逐次改正検討会）において、複数名委員の重複が見られることは異常ではありませんか？（弁護士など利益相反関係になりますので、双方代理となる甲・乙両者双方を同一弁護士、所属が同一の弁護士事務所の場合代理になれないので一方について辞退するというのが常識です）せめて、選定正当性、理由の記載文があるべきです。 2. 評価書（案）で示した「国内での PFOS・PFOA の一日当たり平均推定摂取量」は「農水省」2012 年～2014 年調査を利用していますが、「飲料水」について「ペットボトル 2L＋東京都水道水 2L の混合水」を分析したものであります。普通に生活している方が「飲料水」にわざわざペットボトルを、今後においても半分はペットボトルの水を利用できるでしょうか？単純に東京都水道水を利用を前提に算出し、参考資料としての数値を示す仕方が正しいと思われます。きわめて恣意的数値の作成を疑う内容で残念です。定量根拠数値としても、人の健康、命を守る立場からの見地とは信じられないものです。 3. 食品安全委員会が「20 ng/kg/日」と判断したことに大変驚愕しています。評価（案）で、私の例で計算しますと、体重は現在 74 kg ですから 20 ng/kg/日で計算すると、20 ng×74 kg/日で 1,480 ng/kg/日までは安全な飲料規準となります。現在私の住んでいる福生市の令和 5 年 12 月 31 日（木）調査結果報告は PFOS2.8 ng/L、PFOA1.0 ng/L です。どちらも 1,480 ng/kg/日までは大丈夫、全く安全な水を飲んでいるということになります。私は福生市在住歴 75 年（75 歳）、私自身の血中濃度結果 PFOS11.6 ng/mL、PFOA4.7 ng/mL でしたので、（案）推測では余裕で安全ということかと思います。ところが、年齢で片付けてしまえばそれまでですが、採血と同日に実施した生化学検査の結果は中性脂肪 203（異常なし 30～149 mg/dL 以下）C 判定、血糖値（空腹時）94（異常なし 99 mg/dL 以下）C 判定、ヘモグロビン A1C6.8（異常なし 5.5%以下）C 判定でした。様々な生活要素が絡みますが、いづれも PFAS が及ぼす毒性、脂質異常症や糖尿病（腎機能への影響）が心配です（継続治療中）。医師に強くは指摘されていませんが、ここ 5 年間、喉・首の異常で発声困難を抱え、外来治療を受けています。甲状腺異常の疑いで検査（現段階で異常なしの診断）など、PFAS 由来の危険を感じます。実際に米国赤アカデミーの基準 PFOS11.6+PFHxS2.6+PFOA4.7+PFAN3.6=22.5（ng/mL）で＞20.0 ng/mL を超えていますので心配です。米国アカデミーの数値の方が国民の健康を守る基準の在り方として適切であると感じます。 以上述べた理由から、私を含めた国民の安全、国民の健康を守る立場に立つことを強く求め、有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）に再検討を求めます。
1888	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1889	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 上記の「意見」に賛同します。
1890	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1891	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れて下さい。
1892	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際基準の規制を求めます。
1893	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心してくらせる基準にして下さい。
1894	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS ゼロを目指す基準を作って下さい。
1895	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1896	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1897	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1898	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の健康第一の制度を！
1899	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れないのはおかしいです。きちんとした基準で国民の健康を守って下さい。
1900	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 東淀川区に住んでいます。血液検査するのがこわいです。検査結果を見れば、すべての人が血中濃度が高いと結果が出ています。ただちに、対策をとるようにお願いします。
1901	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の基準値をきびしくしてもらい安全な環境で暮らせるようにしていきたい。
1902	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」
1903	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1904	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
1905	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1906	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。アメリカ並みの基準にしてほしい。
1907	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1908	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
1909	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」
1910	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
1911	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
1912	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 規制を強くして下さい。
1913	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
1914	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1915	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもの健康、家族の健康を守ってください。
1916	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1917	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1918	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国の基準と同等、それ以下にすべき。国民の命を守る役割を発揮すべき。
1919	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1920	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1921	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1922	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1923	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上となり、IARCはじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った1193人の血液検査によるPFAS血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

1924	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1925	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
1926	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 有害性が明らかになっているので迅速に国が対応すべきだと考えます。
1927	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査お願いしたいです。
1928	危険性が確認されれば、限りなく 0（ゼロ）に近づける努力をするのが、国民の健康・生命を守る国の責務だと思います。食品安全委員会には、PFAS 関連業界につらなる委員がいると聞きます。国に忖度せず国民の方を向いて、正しい判断を望みます。
1929	1）20 ng/mL はあまりにも高い。びっくりです。胎児、幼児、病弱の人々の健康は守られますか？沖縄で実施された血液検査の結果は、非常に高く、予防原則で判断して下さい。 2）沖縄では PFHxS が高く、PFOS、PFOA 以外のリスクにも審査すべきです。 3）国際的な規制厳格化に逆行していませんか？
1930	私の地域の水道水にも基準を超える PFAS が検出されていて、しかも市民に公表されていなかった事に大変驚きました。私共高齢者は別として、子供達が将来こうしたリスクを蓄積させていくことが大変怖いです。その上影響評価が欧米に比べて各段に高いことに不安になります。この少子化の中、子供・若者の将来を大切にする施策を求めます。
1931	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 身近な公害発生として心配してとらえています。
1932	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」
1933	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 評価基準は厳しくしてほしい。健康を守る環境整備を願います。
1934	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 評価基準は、米国等の厳しい基準にしてほしい。健康を守る環境整備を。
1935	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 海外に比べて基準値がゆるい！きびしくしてほしい。調査をして、事実を公表してほしい！！
1936	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 原因を明らかにして下さい。調査をしっかりして下さい。
1937	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人に良いと書いて、「食」となります。検査を。
1938	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準をきびしくしてほしい。
1939	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 評価基準を厳しくして欲しい。健康を守るための環境整備をする。
1940	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 有機フッ素化合物の基準値を厳しくして下さい。
1941	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準は、厳しい数値で、行うべき。危険があれば、早く公表してほしい。
1942	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 公害がおこってからでは、手遅れ。早く、厳しい基準で、調査を広くしてほしい。
1943	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 評価基準を厳しくしてほしい。早く、幅広く、検査を実施してほしい。
1944	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の食品安全委員会が示す摂取許容量はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準です。日本の基準も「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
1945	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会は、きちんと国民に説明すべきだ。
1946	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 がんへの不安がある。許容摂取量がゆるすぎるように思います。もっと厳しくして、健康への不安をとりのぞいて下さい。外国はもっと厳しいですよ。
1947	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ゆるい基準を我々の要望で、きびしい基準になるよう願いたい。
1948	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本でも国際基準に基づいた数値にして欲しいです。
1949	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 昔の基準のまま現在に至っているのでそのままではいけないと思います。
1950	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、のみ水の汚染に関係があると知りました。研究データが十分でなく健康への影響がはっきりわからないのであれば「予防原則」に基づいてまず、取り込む量をへらすことが大切ではと思います。
1951	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	水俣病・アスベスト、政府は後々にして対策を講じなかったため、多くの国民が今も苦しんでいる。その二の舞にならないように早くに規制をしてもらいたい。
1952	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本は米国や欧州と比べ著しく高い許容量で安全委員会が妥当しているが、変更してほしい。
1953	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 「20 ng」は米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高い。日本人の体は特別ですか？とても不安です。見直してください。「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
1954	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会が 20 ng が妥当の判断をアメリカ、欧州並みまで下げてほしい。PFAS ゼロを目さして　未来の子どもため健康を守ってほしい。
1955	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 知らない間に飲み水などでも　体内汚染になると思うととっても　こわい。しっかり調べて　わかりやすく国民に説明して下さい。
1956	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 急いで決めないで国民に「有機フッ素化合物」の説明をすべきだと思う。健康への影響は次世代にもつながっていく。取り込み量を減らす努力すべきだ。
1957	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 摂取許容量・発がん性評価ともに、従来のままにしてはいけないと思います。最新の国際的な PFAS に対する危機意識を、日本もしっかりと反映させてください。体内の残留期間が長いので、これから健康被害がでてくると思います。公害で苦しむ人を作らないでください。
1958	国際がん研究機関（IARC）は昨年 11 月に PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」と評価したことを知りました。日本では全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。欧米では、今、限りなく 0 に近い値を目指しています。 今回の食品安全委員会の評価 20 ng/kg/日についてはショックを受けています。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い。食品安全委員会はなぜこのような許容摂取量を安全と説明できるのですか。特に感受性が強いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのですか。欧米では「PFAS ゼロ」を目指して対策を進めようとしています。日本も、国民の健康のために「PFAS ゼロ」をめざすべきです。
1959	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫が安心して暮らせる様にして下さい。
1960	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 生まれた地域で安全に暮らせる様にして下さい。
1961	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
1962	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
1963	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
1964	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
1965	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫・ひ孫の健康を守って下さい。
1966	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1967	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って下さい。
1968	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全に暮らせる様にして下さい！
1969	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供や孫の健康を守って下さい。
1970	私は多摩地域に住んでおり、基地に近いため、かねてより PFAS については大変心配しておりました。そんな折、東京多摩の住民の血中濃度が高いことが報道され、これは飲み水の汚染と体内汚染が関連していると思いました。私は特に知識もありませんが今回発表された日本の摂取許容量がアメリカの 200 倍、欧州の 60 倍を超えると知り、驚きました。研究データが十分になく健康への影響がはっきりわからないのであれば早急に調査し、対策して下さい。
1971	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供、孫世代が心配です。
1972	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。ダイキン工業に社会的責任を取らせて下さい。
1973	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカなみの基準にして、子や孫が元気にくらせるようにしてほしい。
1974	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 先進国なみの基準を。
1975	食品安全委員会の評価書が「20 ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の摂取許容量よりも高い、と聞いて不安です。昨年、各務原市の住民の PFAS 血中濃度を検査しましたが、他地域よりも高い結果が出ました。とても安心して飲める水道水ではありません。国として PFAS 対策に取り組んで、自治体に援助、支援して下さい。
1976	食品安全委員会の評価書が米国や欧州の摂取許容量より数百倍も高い「20 ng が妥当」と判断されたことにとても不安を感じます。論文を集めて再評価すると共に PFAS ゼロを目指した対策を早急にとっていただきたい。
1977	（1）審議案の内容に非常に驚きました。子どもでも分かる疑問が生ずるからです。なぜ同じ人間の人体なのに、EU の 64 倍、アメリカの 200~666 倍の摂取許容量なのですか？日本人の人体がそれを是とする「特殊性、PFAS への耐久力を持つとの科学的知見」をこそお示し下さい。それが不可能ならば、案の数値の妥当性は認められないと考えます。アメリカ並みにして下さい。 （2）ご議論判断の根拠が、今日の世界の科学的常識に基づいていないと感じます。なぜなら、アメリカでの疫学的知見、そして直近の国際がん研究機関（IARC）の知見＝遺伝子レベルでのシステム的なガン発症の結論的知見（PFOA の評価）を無視し、以前の動物実験の知見に重きをおき、あれが分からない、これが分からないと矛盾点をあげつらい袋小路に自ら入り込んでいるようにみえます。正しい科学的処理法に立ち、予防原則も踏まえて下さい。放射能、有機チッソ、自動車排ガス、タバコ、すべて有害とされています。将来、遺伝子レベル関連で 100%証明されるべきものです。PFAS も然りです。 （3）私は国分寺市民です。知人は、PFAS 血中濃度の測定に参加し、高レベルの汚染と分かりました。そういう人の中には、脂質代謝異状や、身近かな人々の不妊や少体重出生児の出産、又、甲状腺機能障害などがみられます。長年、井戸水、その水道を飲んできた私たちの不安と怒りを共有して頂きたい！そして行政による血液検査を国として促して頂ければ、アレコレの疑念は断ち切れます。検査と実証こそ、科学の元です。どうぞ、食品安全委員会こそ、その先頭に立って新たな知見、規準づくりに、まい進して下さい。 （4）今、人（ひと）新生の地質時代迄指摘されています。大地を滅ぼし、人類を絶命に向かわせる、化学物質はゼロにしていくべき時です。どうぞ、人間と地球、そして未来の人々の生命と健康のために、良き立場にお立ち下さいませ。 （5）追伸　～～～遺伝子レベルを狂わせる怖い化学物質は、そもそも”ゼロレベル”が望ましいと考えます。アメリカの水準でおねがいします。 2024.3.4　以上
1978	横田基地周辺住民として、米軍の横田基地内での泡消火剤による汚染水が漏出していたことで周辺の私達住民の健康が心配されている事。食品安全委員会の PFAS に係る評価は欧米に比べあまりに多い摂取量に愕然とします。発がん性のリスクもいわれている中、PFAS の 0 に近づける為の評価を希望します。
1979	国際がん研究機関が公表した評価結果は PFOA を「ヒトに対して発がん性がある」と分類したそうですが日本の PFAS 許容量が欧州食品安全機関が定めた許容摂取量のはるかに高い許容量が定められたそうです。これには納得がいきません。これからの日本を考えていてそれでいいわけがありません。健康を守るため適切な評価を進めてほしいです。
1980	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	米国等と比べて数百倍も高いと聞いて不安です。日本は何かにつけて後手後手で先進国と思えない事が多いですが健康については後に残された子たちのためにもきちんと調べて下さい。
1981	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米に比べて数百倍も高いと聞いて、びっくりしました。とても不安ですし、もっと論文を集めて再評価して欲しいです。
1982	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 外国のように規制を強め、安全で健康の心配のない日本を!
1983	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA は発ガン性あると WHO が公表。日本も市民の健康守るため評価を再検討して。
1984	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOS、PFOA の危険性について先行している研究を無視して基準を設定する合理性がわかりません。安全第一で。
1985	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 色々な商品に使われていると聞いて、ビックリしています。国がもっとしっかり調査して安全・安心に生活したい。
1986	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米で危険性が認識されているものが、どうして日本ではこんなにゆるい基準になってしまうのか、健康を本気で守る気があるのか疑問です。汚染をなくせるような規制と対策に取り組んでほしいです。
1987	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的にも問題視されているのに、都合のよいデータのみを採用し、問題を先送りしている様に思われてなりません。水俣病の二の舞にならないためにも早急に対処する必要があると思います。
1988	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害を出さないために、積極的に検査を実施すると共に、調査研究に予算を配分して下さい。
1989	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国立の水はきれいと信じて飲んだりいろいろなことに使っております。多摩地域の水の汚染はわからないことが多く、市民が安心してくらせるようとり測らって下さい。
1990	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染。健康への影響がはっきり分からないのであれば取りこむことが大切ではないでしょうか。
1991	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これまで、この問題に興味をもち、私なりに勉強もしてきた。専門的なことはわからないが、色んな問題を含んだ、化学物質であることは明らかになっている。米国などもその危険性が明らかになってきているための基準値を示しているのに、全く参考にもせずに、ゆるやかな基準値を日本が許せば、将来にとって、本当に心配な事態を招くはずです。見直しの検討して下さい。
1992	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 このままでは安心できません。再評価してください。
1993	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 横田基地の東側に住む私たちは、PEAS 検出について不安を抱えていました。国立は水も自然も良く住みやすい上地です。子孫にもそんな自然を残したいです。海外から見ても非常識な安全基準はひどすぎます。国民の生命を守れ！
1994	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の声明を危険にさらす許容量、絶対に認められません。見直しを求めます。
1995	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「予防原則」に基づいて、取り込む量を減らせ！
1996	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
1997	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にし安心して生活できるようにしてほしい。
1998	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的知見を尊重した許容量とすべきと考えます。
1999	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2000	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2001	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2002	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供たちの健康を守ってください。

2003	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。アメリカ並みの基準にすべきです。
2004	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な水で子育てをしたい。
2005	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからの人たちの健康を守ってください！！
2006	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいです。
2007	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な管理を！
2008	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパのように日本も規制してほしい。
2009	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康で安全に過ごせる日本にしてほしいです。
2010	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2011	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	国際的知見と同等にして、これからの子孫のためにも、規制強化は、必須です。
2012	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2013	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカやヨーロッパのように「PFAS ゼロ」を日本もめざしてほしい。誰もが健康で安心してくらせる国にしてほしい。
2014	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供の健康を守ってください。
2015	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して飲める水を給水して下さい。
2016	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の「PFAS ゼロ」をめざしてほしいです。海外に追いついてほしい。
2017	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2018	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2019	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供に安心して飲ませれる水が必要だと思う。
2020	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 いつわりのない安心・安全な国になりますように。
2021	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来にわたって、全ての人々の健康をしっかり守ってもらえるように取り組んでください。
2022	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守るためにも危険性に対する正しい判断・評価をしてほしい。
2023	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的動向をしっかりと捉えて、発がん性等のリスクを考えた正しい評価をしてほしい。
2024	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本でも海外に習い、規制強化を図るとともに、各地で起っている問題についてしっかり受けとめて、危険性の評価を正しくしてほしい。
2025	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
2026	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化を！
2027	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2028	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2029	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2030	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これから先の健康のため守って下さい。
2031	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパやアメリカのような厳しい基準にしてください。
2032	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2033	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全委員会が示す摂取許容量を最大限低くし、国際的な知見に通じるようにして下さい。
2034	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準はアメリカ並にしてほしい。
2035	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全性が担保できないものはやめて下さい。危険性のあるものはアウトです。
2036	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 高い安全性をお願いします。
2037	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	毎日が安全に暮らせる環境にして下さい。
2038	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 孫の健康を考えます。
2039	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 当事者の気持ちになって下さい。
2040	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私たちは、子どもたちの未来に責任をもたなければいけません。基準の見直しを強く求めます。
2041	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
2042	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 毎日摂取しても健康に影響がないと推定される指標値であれば、少なくともアメリカ並みの基準にすべきです。
2043	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 憲法 25 条にのっとって国民の安全を第 1 に考えて行動して下さい！
2044	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本もきびしく規制して欲しいです。
2045	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2046	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
2047	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国体的な発がん性評価を取り入れるべきだ。
2048	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫の代までの生命の安全の為 PFAS など規制して下さい。
2049	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 乳幼児や妊婦の安全第一をはかることは、少子化対策上も必須です。
2050	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も国際基準なみにすべきである。企業側に気をつかいすぎる。
2051	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパのように「PFAS ゼロ」をめざすべき。「ダイキン工業」に責任と説明を求めるべき
2052	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカは日本を守るどころか、害以外の何者でもない。いまだに「植民地」と思考がとまっているとしか思えない。
2053	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2054	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健やかに暮らしたいです。安全な数値を厳守してください。
2055	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 グルーバル社会と言いながら国際的な取り組みに逆行するのは恥ずかしいことです
2056	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に汚染について詳しく説明してほしい。
2057	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 先進国との名ばかりでいつも世界基準より下位でいらだちを感じる。
2058	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性ランク 1 不安
2059	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界のレベルからみても将来を担う子どもに食品安全委員会も真剣にとりくんで下さい。日本を見捨てる姿勢がかい間みえますよ。
2060	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性ランク 1 不安です。
2061	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本もしっかり規制してほしいです。
2062	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2063	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 孫の健康を守って下さい。
2064	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫達の健康を守ってほしいです。
2065	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい・・・。
2066	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちがこれからも安心、安全、健康に成長できる環境を作って下さい。
2067	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米国科学アカデミーの臨床ガイダンスなみに摂取許容量を設定すべきです。
2068	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2069	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 孫の成長をみていると不安でたまらないです。
2070	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来の日本を荷なう子ども達の健康を守ることを第一に対応して下さい。
2071	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水道水の基準も米国に比して約 12 倍の甘いもので問題にすることが重要では？
2072	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいです。そんな基準のもとで生活したくない！日本国民であることに誇りをもって安心して暮らせるようにしてください！！
2073	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 身体に残るのは、こわい！
2074	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ・ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。 ・国際的な発がん性評価を重視して下さい。
2075	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
2076	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS ゼロを目指してほしい。
2077	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 可愛いい子や孫、父母のためにヨーロッパ並の基準にして下さい。
2078	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2079	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心安全な水へ。国際的知見に逆行するリスク評価反対！
2080	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 少子化が非常に大きな社会問題となっていますが、若い人が安心して子どもを産み育てられる環境を是非作ってほしいです。
2081	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	子や孫の健康を守るためにも「PFAS ゼロ」をめざして規制して下さい。
2082	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2083	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 検査に協力した人たちの気持ちをたいせつにして下さい。
2084	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS ゼロをめざし、規制強化を
2085	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2086	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心安全は当たり前の事。食べる事は、生きる事！！健康に。
2087	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本もその基準で規制してほしい。何よりも子や孫の健康を守ってほしい。まずは、一人一人の検査を無料でしていただきたい。
2088	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界の基準に合わせて摂取許容量を見直すべきです。発ガン性の危険を知らせてほしい。血液検査してほしい。
2089	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 海外では規制強化しているので日本も規制強化してほしいです。
2090	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来に責任を持った「安全」確立をお願いします。
2091	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来に責任を持った、安全確立をして下さい。
2092	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 当該企業に対し、社会的 Compliance 遵守の徹底をお願いします。
2093	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからの子供や孫達のために、アメリカ並みの基準にして、安全を守ってほしいと思います。
2094	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東淀川区に住み 52 年になります。知らない間に PFAS を摂取していたのではと不安です。
2095	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは認められません。
2096	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の命や健康のことを軽視する評価については認められません。国は全国的な調査を行ない、その結果から再評価すべきです。
2097	PFAS の許容摂取量案について再度検討してください。安心して水道水が飲めるようにしてください。
2098	PFAS の許容摂取量(案)がアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍と非常に高い水準、信じられない数値、あり得ない数値です。 また、PFOA、PFOS も発がんの可能性があるとアメリカの環境保護庁が評価しています。 国民の安全と健康を守る為に、今回の許容摂取量(案)の見直しを強く要望致します。
2099	1、評価書案は、環境汚染、水質汚染、健康被害を防げることができますか。水は命の元、未来ある子供たちのため、医療費を増やさないためにも予防原則を取り入れて設定すべきです。２０２３年の IARC や USEPA 評価結果を取り入れないのは、恣意的と思われるかもしれません。米国の環境保護庁の PFOS が 0.1、PFOA が 0.03 に設定すべきです。 2、すでに一般の人の血中にも PFNA、PFHxS が検出されています。指標値は設定すべきです。新しい有機フッ素化合物に対しても同じです。 3、国民の健康不安に対応してください。少なくとも希望する人には血中濃度を測定してください。トランスポーターなど体外排出できるようなものが出来れば広く国民に知らせてください。専門家のワーキンググループの皆様「食は命です」PFAS は、水、野菜、貝などからも検出。家族の健康第一の主婦の目線で設定してください。
2100	ありえない。基準が緩すぎる。見直せ。
2101	日本の PFAS の許容値案がアメリカの 200 倍もの数値に設定されていることに疑問を持っています。

	国は違えど同じ地球に生きる人間です。 世界の基準も参照して日本の数値を検討して頂きたいです。 そして人間だけではなく全ての生物の命にも関わることだと思います。 どうか忖度なく、健康面、環境保全面から見た数値の設定をお願いいたします。
2102	使わないでほしいです！ うちはフッ素加工してあるフライパンなどは使っていません。 国は、安全でないものをもっと厳しく使用不可とし、国民の健康を守るべきだと思います！ 日本は基準が甘すぎる！
2103	海外の国と比較しても、日本の基準値は高すぎると思います。 リスク評価が低すぎるのでは。 未来のためにも、再評価を求めます。
2104	食品安全委員会が妥当とする基準の根拠は何によるものなのだろうか。２０２０年の欧州食品安全機関の０．６３、アメリカ環境保護庁が２０２３年に制定した数値 PFOS０．１、PFOA０．０３と徐々に厳しくなっている傾向と逆行したものとなっています。環境に係る規制は常識的に徐々に厳しくなるはずです。アメリカでは汚染による保証・救済のため数百億単位の費用が掛かっている事例もあるようです。アメリカ国内では厳しく規制されているのにもかかわらず、日本にある米軍基地周辺での汚染度合が非常に高いというのも、日本では厳しくしなくてよいということになるのでしょうか。 かつて日本には JIS 規格などのように世界的にも厳しいものがありましたが、世界基準の名のもとに粗悪な物や害をなすものが氾濫するようになったようです。有機フッ素化合物の有害性は明らかになってきていますので、欧州やアメリカと同程度の規制は必要だと思います。
2105	動物実験では、PFAS 投与により生まれた児の体重低下が確認されています。 ヒトの健康への影響が不明であるため、今回は動物実験データから TDI のデータを暫定的に決定したのですから、早急にヒトの健康調査を行うべきです。 すでに高濃度の PFAS に暴露されている住民（および工場で暴露した従業員）が日本国中に大勢いるのですから、調査対象に不足はないでしょう。 また、出生児の調査は母数が足りないでしょうが、それでも必須です。 成人の健康調査に加えて、児の健康調査および発達障害の検査も行ってください。 食品安全委員会自体が調査を行うことはできないでしょうが、しかるべき機関に、健康調査を行うよう提言することはできるかと思います。 現在の国の腰の引けた対応には失望しております。 他国のデータを待つだけでは、あまりにも消極的過ぎです。 是非とも、委員の方々は国民のために率先して国を動かしてください。
2106	身体に悪い影響があるものは極力なくすようにして頂きたい。 数値の見直しを要求します。
2107	現在の国の安全基準値のレベルをどうか欧州フランスレベル(日本の 50 分の 1)まで下げてください。 フランス人に日本は東洋のゴミ箱だなんて言われて悔しくてたまりません。日本の安全基準のレベルの低さには情けないを通り越して、恐怖すら感じます。まるで誰かにそうしろと言われているかのようです。敗戦国はいつまでも永遠に弱者で人体実験のモルモットにさせられ続けるのでしょうか？　それとも日本の政策を司る人々は本当に何も分かってないのですか？そんな訳ないと思いたいです。
2108	水道水に含まれている地域があることを知りました。大切な資源の水を安全な基準でこれからも使っていきたいです。
2109	食品安全委員会が 20ng/kg/日まで許容できるとするのは米国や欧州と比べて著しく高い数値です。PFAS は健康への影響が明らかにあるのですからなるべく摂取しない方向へ進めて行くべきですのに逆行していると思います。 全国各地で PFAS 汚染が発覚しています。 国主導で住民の血中濃度を測定して調査・追跡して対策に動くべきです。 PFAS に汚染された水道水を飲みつづけた者としてぜひお願いします。
2110	人工的に作られた不自然な有機フッ素化合物が、今後どのように人体や環境へ影響していくのかは全く未知であり、未来を生きる子どもたちにそんな不確かな負の遺産をこれ以上残すことは避けるべきと考えます。 飲料水水質ガイドライン値を、ヨーロッパやアメリカ並みにしていただくように強く要望いたします。よろしくお願いいたします。
2111	近隣の地域を流れる明石川でも PFAS の問題が明らかとなっています。 欧米諸国の基準と比べても日本の基準値が高すぎることは明らかです。このままの基準値でいこうとすることにどんな理由があるのでしょうか。様々な憶測を招くほかありません。 この国を担う子どもたちの将来の住む世界がより良いものになりますように、また、より健やかに成長していけますように、基準の再評価を求めます。
2112	私は北谷町に 40 余年住んでいる。北谷浄水場の水を飲んできました。水道水は安全であるある事は疑いもなかったが、源水の多くが生活排水の混入する比謝川水系と嘉手納基地内の井戸水郡からでしたので、浄水器を使う生活をしてきました。ところがこの浄水がＰFOAＰFOS に高濃度で汚染されていると、県企業局の発表の記事を見て不安になりました、毎日飲んでいる水が毒水、健康への害は？ 2022 年に北谷町、3 種類有機フッ素化合物の数値がどれも基準値を超える数値だった、国の食品、安全委員会の 20 ナノグラムは米国や欧州の許容量よりも数百倍も高い数値です。ジュネーブ条約でＰFOS(2016 年)ＰFOA(2019 年)に製造、輸入、使用が禁止された。健康被害への影響は、国際がん研究機構も発がん性があると発表している(2024 年)。有機フッ素化合物は FOS.ＰFOA だけでなく、3000 以上もあると言われて、暮らしの中で多量に使用されて今回の基準は 2 種類だけでは安全指針にはならない。有機フッ素化合物の毒性は、環境と人体に蓄され蓄積されるところです,命の水は有機フッ素化合物の値がゼロに近い数値を目指して検討してください。
2113	2016 年に沖縄県企業局は、北谷浄水場から有機フッ素化合物の PFOS が高濃度で検出された報道後、私も含めて多くの市民が、それの解明調査を国や市長に求めた。2020 年 4 月に普天間基地から大量の PFOS が漏出した。その 1 週間後に現場の土壌が剥ぎ取られた場所の土壌を調査できただけで、基地内立ち入り調査ができない中、少雨により県内 11 ダムが貯水率 5 割を切り、県は嘉手納基地内の井戸郡から再取水を予定している。命の源である水の大切さをよく知る県民は、再び PFAS に汚染された嘉手納井戸郡の水ではなく、安全な水を求め、米国や欧州で厳しい数値が設定された知見を元に日本も EPA 等と同基準に厳しく設定されますよう要請します。現場の環境汚染に法律が追いついていません、緩い

	数値では国民の信頼を得る事はできません。
2114	WHO は発がん性物質の危険性があるということで、危険度を引き上げされているにも関わらず、なぜ日本では問題ないとなっているのか違和感があります。小さな子どもを子育てする中で、生きる上で一番基本となる水を安心して飲ませてあげれていないかもしれないと思うと、日々頭を悩ませてしまいます。もう一度、基準を見直す検討をして頂きたいと思いパブリックコメントを出しました。
2115	pfoa について米国でも基準値を超えたものを規制しているのに、日本で米軍由来のものが排水から検出されても日本として国レベルの立入調査が行えないのは、米国との信頼関係だけでなく無用の生態系汚染を容認することになるので気持ち悪いです。調査、データと公開から始めて安心できる様にしてください。
2116	PFAS に関しては、日本はすべての面で欧米から遅れている。特に基準値は欧米諸国と比べても数十倍甘く、国民の健康が軽く見られている。しかも企業は何も責任を取ろうとしない。国は自治体に対し、(1)河川、地下水の調査 (2)水道水の調査 (3)土壌調査　をさせ汚染源を突き止めるように強く指導してください。また、希望する人に血液検査を公費でするようにして下さい。
2117	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
2118	この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当する。米国アカデミー3)の臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのか。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだ。
2119	許容基準値を大幅に上げることは一般市民や貧困者（水道水を使わざるを得ない人々）の健康を極めて高いリスクにさらしかねないと考えます。最大でも欧州の基準値と同等に留めるべきと考えます。
2120	欧州で規制される方向に動いていると思うので、日本もならってほしいです。
2121	岡山県吉備中央町で、水道水から基準を上回る PFAS が検出されたことを知っていました。水がきれいな田舎の町で出たことに驚きました。私が住む神奈川県でも、相模川流域で高濃度の規定値以上の PFAS が検出されています。しかし汚染源がわからないこと、下流地域の調査もされているのか不明な点も多く、調査頂きたいと思います。
2122	アメリカやヨーロッパに比べ、日本の PFAS 基準値が高いと知りました。長期的な多方面への影響を考慮した上で、今一度の基準値の見直しを求めます。
2123	そもそも添加物等の安全基準が低い日本で、例えばフランスの５０倍の暫定目標値にすること自体、不安しかありません。岡山の吉備中央町では、1600 倍の有機フッ素化合物が検出されたとか。異常でしかない。即刻、原因究明と暴露が分かった該当地域住民に対する血液検査の実施を求めます。岡山の吉備中央町の住民さんによれば、情報開示の遅れのみならず、血液検査を行政が渋っていると、聞きます。 WCH の超党派議連の勉強会の所管庁の答弁からも国民の健康に対する意識のなさを露呈したと考えています。担当者が不在などという言い訳のように、このフッ素化合物の件も国民、住民の民意を無視して国の誰が決めたかも分からない方針を推し進めることのないように、強く、この件について、健康被害がある前提での政策、対応を求めます。具体的には、安全基準値を見直し少なくとも欧米並みし、また、なぜ水道水に混入したの原因の早期追及と情報公開を求めます。
2124	要約の最後にある「本評価の対象とした PFOS、PFOA 及び PFHxS については、その難分解性、高蓄積性を考慮すると、国民の摂取量・ばく露量を可能な限り減らすための使用規制や排出源対策を行うことが重要である。 」とされているので、不安があることを認めている。そうであればこの評価書でアメリカや欧州の摂取許容量と同じ人間ですので同じにしてください。海外から多くの人が日本で働いており同じにしないといけないと考えます。 利用可能な毒性値データがないと問題を先送りせず、日本でも毒性評価を急いでください。
2125	１．　食品安全委員会が「２０ng が妥当」と判断したことに大変驚いています。欧州やアメリカの許容摂取量よりも数百倍高いと聞いて大変不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることのないよう求める。 ２．多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染は相関性があると知った。健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づき、まずは取り込む量を減らすことが大切だ。 ３．　欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めようとしている。日本もゼロを目指すべき。また、この摂取量をもとにすると、飲み水の許摂取量は 50 ナノグラムのまま変わらないとのこと、子どもの健康を考えるととんでもないことと思う。 ４．　国際がん研究機関（IRAC）では、PFOA「発がん性がある」、PFOS「発がん可能性がある」としました。食品安全委員会は「予防原則」に基づき、発がん性を認めるべきです。 ５．　全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。国は全国で検査、追跡し、PFAS の発がん性を評価すべきです。 以上の理由で、今回の PFAS の許容摂取量案に再考を求めたい。
2126	PFAS 許容摂取量をなぜ他国にくらべ恐ろしいほど高い基準なのでしょうか。 他国の発がん性評価もずいぶんかけ離れています。 他国は発がん性があると評価しているものを、証拠が限定的という不確かな理由でそのような水を国民に、未来を担う子供たちに飲ませるのでしょうか。水は毎日摂取するとても大切なものです。ゼロを目指してください。また、そうでなければ大々的に国民にわかりやすく、他国の評価も含めて説明してください。 知れば国民は大反対すると思います。
2127	相模川流域の魚から、全国平均約 340 倍の PFAS 濃度が測定され、健康被害のリスクがある値ということがわかっています。しかし、国内では食品に含まれる PFAS の指標はなく、調査や議論が進んでいない現状があると思いました。早急に具体的な指針を示していただきたいと思います。
2128	意見）評価書案の血液濃度許容レベルは、あまりにも緩い内容である。2022 年の米国連邦政府提案のガイダンスと同じレベルにすべきです。「7 種類の PFOS、PFHxS、PFOA、PFNA、PFDA、PFUnDA、MeFOSAA を対象物とし、それらの合計の血中濃度を、高くても 20ng/mL 以下とすること、できれば、2ng/mL 未満とすべきです。 理由）第一にそもそもこの問題は米国において１９８０年代にはじめて表面化し、その後のおびただしい多数の研究や調査がなされ、有害と認定され、膨大な賠償金の支払いと、現在も続く水道水対策がされている事実から判断することが重要だからです。 また、第二に、この問題は当初デュポン社工場の地元農民の牛が、急に多数病気になり死んだことから始まり、彼がデュ

	ポン社に訴えたが、繰り返し反撃されるも、粘り強く戦い偶然ですが、地元の有能な弁護士を見つけ、彼とともに長年調査し、とうとうデュポン社が秘匿した多数の「社内データ」を用いて、有機フッ素化合物という物質名を見つけ出し、２回の裁判に訴えて、約１０年かかったが勝利和解したのです。こういう歴史的背景は重要です。
2129	意見）評価書案における対象物質として、PFOS、PFOA の２つと限定することは、やめるべきです。少なくとも、PFHxS を含め、3 種類の合計の濃度規制とすること。または PFNA、PFDA、PFUnDA、MeFOSAA を加え７つ、望ましくは全 PFAS とすべきです。 理由）今回案では、PFOA･PFOS だけとして、PFHxS を除いた理由が、人の健康を守るという考えでなく、間違った判断です。すなわち、２３５頁にて「PFHxS については、評価を行う十分な知見は得られていない・・・」とあるが、例えば、２１５頁にあるように、「動物試験では、PFOS、PFOA 及び PFHxS ばく露により、肝重量の増加、肝細胞肥大等が、・・・が報告されている。」とあり、「疫学では、血清 PFOS、PFOA 及び PFHxS 濃度と血清 ALT 値の増加との関連が報告されている。」とある。こういう場合には、健康を害する危険性の調査結果があれば、この結果を優先すべきです。それを案のように「・・・明確な用量反応関係は示されていない」というだけで、その危険性を否定するのは、受け入れられない。
2130	意見）評価書案における対象物質として、PFNA を含めること、または PFDA、PFUnDA、MeFOSAA を加えた７つも対象物とすべき。 理由）２３６頁には「PFOS、PFOA 及び PFHxS 以外の PFAS と健康影響との関連については評価を行っていないため、今後は、これらの PFAS について、健康影響、環境中及び食品中濃度、ばく露等に関する情報収集の充実が求められる。」としているが、これは、全くの責任逃れである。すでに PFNA については、国内でも環境省 2021 年調査しており、米国(国民栄養調査 2015～16 年)と比較して、血中 PFNA 濃度が 8 倍も高い結果も報告されている。これは国内で PFNA が使用･排出されてきている。少なくとも並行して検討し、またすぐにでも、できる規制案を出すべきです。
2131	意見）発がん性について、２３５頁に「疫学研究から、PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関連については、研究調査結果に一貫性がなく、証拠は限定的であると判断した。PFOS と乳がん、PFHxS と腎臓がん及び乳がんとの関連については、証拠は不十分である」と判断したとあるが、これは削除し、国際がん研究機関(IARC)の発がん性評価を基本とすべきである。 理由）「案」は「発がん性」を「否定する」考え方ばかりを取り上げている。意見書のスペース制限のため、詳細に記載できないが、そもそも疫学調査ではあくまで統計学的な研究であり、１００%の確実なことはあり得ない。その「確かさ」の関係があれば充分である。これは我が国の公害問題の長い歴史で明らかで、例えば「四日市ぜんそく」では、その周辺コンビナートの「排ガス」が原因であると「疫学調査」で解明され、その疫学結果で規制し、対策をとり改善できた。食品中毒事件では「疫学」的調査結果だけで「食品工場や店舗の営業」を一時停止させ、改善させる命令を行政が出していることでも、その「疫学」が重要であることを示している。
2132	命の水、汚さないで下さい。 安全な水の提供をお願いいたします。
2133	3 人の子どもを育てています。 今の日本の PFAS 基準値で、子どもたちの未来を守れるのでしょうか？　フランスやアメリカの基準値との違いが大きすぎて不安です。最評価を求めます。
2134	意見）発がん性の閾値について、IARC の判断を基本とする原則があり、これを踏まえること 理由）IARC の発がん性の判断を無視し、閾値に関しても無視し、用量反応曲線の選択をしていない。目標レベルの提案もしていない。２２２頁において、「独自の用量推計モデルの構築は行うことなく、海外評価機関における PFAS の評価に用いられた用量推計モデル・・・及び推計手法を確認し、・・・いずれかを選択し、日本人に当てはめることは適切ではない」とあるが、そもそも、厚生労働省の第 6 回厚生科学審議会生活環境水道部会水質管理専門委員会(2003 年 2 月)の、人の健康の保護についての議論で、毒性評価に当たっては、「（５）なお、閾値の有無の検討に当たっては、国際がん研究機関(IARC)の発がん性評価を基本とし、米国環境保護庁(USEPA)等その他の発がん性評価の結果も参考とした」という経過がある。今回これをないがしろにして、IARC の 2023 年 12 月の発がん性評価結果を不採用することは間違っている。また、そもそもわが国でのこれまでの調査研究をなおざりにしてきたこともあり、現在はＩＡＲＣの判断を基本とすべきである。
2135	意見）長年、ＰＦＡＳを直接研究課題として各地の水中濃度測定、住民の血液中濃度測定、それによる疫学調査などをしている京都大学関係者の原田浩二氏らの研究グループを含めていないままに、こういう案を作成しているが、そのために偏った結論となっており、再度ＰＦＡＳを直接研究している関係者らを含めて、やり直しすべき。 理由）7 頁には「本評価においては、国際機関、各国政府機関等における PFAS の評価に用いられた科学的知見及び評価結果を整理・精査し、・・・関連する重要な文献を用いた。」「国内での・・・PFAS 濃度やその濃度分布に関するデータ等、摂取量の推定に関する情報は不足している。」とあるが、これらは、多くの国民に現実の経過とは全く違った、誤解を与える記載である。つまり、元京都大学の小泉昭夫氏や京都大学医学研究科原田浩二氏らのグループは、これまでに数多くの調査研究をしており、各地の水中の汚染濃度測定、住民の血液中濃度測定、それによる疫学調査を実施、学会に発表、論文にしている。これらについて、今回の案には、ほんの少し文献に入れているのみであり、非常に偏った検討結果と言わざるを得ない。
2136	フランスやアメリカに比べ日本の基準値の高さに驚きました。 これ以上健康被害を増やさないよう数値を見直して頂きたいです。
2137	評価書(案)の再検討を求めます。 食品安全委員会の摂取許容量(案)はアメリカの PFOS の 200 倍、PFOA で 666 倍(欧州との比較でも 64 倍以上)と高い基準であり、まったく安心できる基準ではありません。IARC 機関が「発がん性がある」としている PFOA/PFOS についても証拠は限定的とせず認めて欲しい。1 万種類もある PFAS の中でたった 2 種についても規制ができないのは憤りを感じる。誰しもガンにはなりたくない。
2138	PFAS という有害物質があり、発がん可能性のあるという危険を知ったのは最近ですが、このたび食品安全委員会が発表した「PFAS の許容摂取量（案）」が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えることに驚いて、パブリックコメントを書きます。 自分が住む文京区は米軍や自衛隊の施設からも遠く、文教地区で工場などあまりない地域ですが、それでもそれなりの数値が出ていて、「離れているから安全な場所」などないのだと痛感しています。 米国アカデミーの臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるそうですが、日本の食品安全委員会はどんな根拠があって、このような非常に高い血液濃度を安全と考えているのでしょうか。

	日本国民の安全はこの高い許容摂取量で守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明する責任があります。 水俣病やアスベストのように被害が拡大しない手前で許容摂取量を抑制し、規制をかけることで、長い目でみて将来の医療費が抑制できますし、安心して健康で住める日本であり続けることができます。 次の世代に恥ずかしくない、他国と同等レベルの許容摂取量の検討をお願いします。
2139	欧米、米国に比べて基準値がすごく緩すぎる。また、評価が直近のデータではない。直近のデータを出し、基準値を厳しく。 水は生活に直結しており、最も安全性を求められます。有機フッ素化合物（PFAS）は発がん性があり、限りなくゼロにするべきです。
2140	ヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのは納得出来ません。日全国の基準となるとの事なので意見を送ります。日本国民の健康を守って頂きたいです。官僚の皆様、宜しくお願い致します。
2141	沖縄県の普天間基地の近くの公園の水源から基準値を上回る PFAS が検出されたものの、汚染源の特定が進められていない現状がある。神奈川県でも、基地も近くにある、相模川流域で基準値を上回る PFAS が発見されている。基地は、日本全国多数の地域にあることから、発生源の特定を進めて頂き、具体的な策を練っていただきたい。
2142	PFAS の基準値の見直しをよろしくお願いします
2143	半導体工場では、PFAS が必要不可欠な物質だということです。昨今、日本では、北海道や熊本に半導体工場が建設されており、日本のきれいな水源を守るためにも、徹底的な調査、研究が必要だと思います。
2144	世界的にも安全だと言われて当たり前に使用していた水道水にフッ素化合物、 永久化学物質が水に紛れ込んでいると知った時とても不安になりました…。 元々水道水は美味しくないと思ってましたが、私たち人が生活する上で本当に切っても切り離せない関係です。 また、農業をしてますがそこでも水は本当に大切です。土に流れこんだ水は根っこを通り野菜や果物の栄養の一部となります、 その水で育った野菜や果物が人の身体に届きます。 その大切な水が大変な物質に侵されているとなると健康も害して未来への安心感は全くなくなります。 毎日使用するお水で、海にも川にも繋がるお水ですので、環境も守り、貧困層やお年寄りにも配慮した浄水器などを各家庭や、各学校、地域の施設、公園などに設ける事ができればと思います。 国民の声をここからも米軍基地の方へも届けていただきたいです。 喧嘩をしたい訳じゃない、ただ仲良く普通に暮らしたいだけです。 お互いの国を尊重できる日本、沖縄でありたいです。 よろしくお願いします。
2145	何故日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。日本に住む人の命を軽く見過ぎている。やり直しを求めます。
2146	日本の水質基準案がヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍をなぜ許可するのでしょうか。危険すぎます。水質検査基準の見直しを求めます。 水道民営化に反対します。
2147	強く強く反対します。 水は文化的生活以前に文字通り生きるための活動としての「生活」に強く影響します。 水質基準を変え、水による健康被害が出た際に、ただでさえ感染症で逼迫した状態の医療機関にさらなる負担がかかる事になります。 経済を回すため若者の〇〇離れと何かと謳っていますが、安全な水を確保するために金が使われ、家や車を買う余裕などとてもなくなるでしょう。 子育てや介護の事情があるなら尚更ですが、一人暮らしでも「水道代」を払うだけでは安全な飲み水が確保できないことがどれほど不安でしょうか。 どうかこれ以上日本の良いところを無くさないでください。 「自分たちがいなくなった後はどうなってもいい」とはどうか考えないでください。 誰でも安心できる生活を常に求めているに決まっています。 この案件に関わっている方全ての子どもや孫が、安全な水を飲めない環境におかれる事も、他の文化的な事に使えたはずの資金を水の確保に使う貧しい未来についてどうか今一度考えてみてください。 理性的で思いやりのある結果になるよう心から祈っています。これからも日本を好きでいさせてください。
2148	未来の子ども達の為に基準値をもっと下げるべき！！発がん性があるものをこれぐらいは体に摂取しても大丈夫とかやめて欲しい！！自然に寄り添った生き方をしよう！！
2149	PFAS は、永遠の化学物質と呼ばれ、未来の子供達への影響を考えると非常に恐ろしいと考えます。　ただでさえ、少子化問題を抱える日本なのに、子供の健全な成長までも脅かしかねないのであれば、日本人という種の存続自体も危ぶまれるのでは無いでしょうか？ 早急なリスク回避を求めます。
2150	食品安全委員会が示した PFAS の許容摂取量案 欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍ということで 大変驚いております！ この数値が飲み水の水質基準に使われるのですか！？ とんでもないことです！！ 水道の品質の高さを誇る日本で、 これは一体どういうことでしょうか？？ 地方では水道民営化も進んでいるとか。 信じられません。 この美しい日本の資源がどんどん外資によって汚され、浸食されていく・・・ とても見て居られません！ 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。

	日本も「ゼロ」を目指すべきです！ PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、 国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めて下さい！！
2151	国民を全員消したいのですか？この国をどうしたいのですか？ 自分さえ良ければいいんでしょうか。 恥ずかしくないのか。
2152	横田基地の近くに義実家があります。今年我が家には子どもが生まれる予定です。日本は世界でも数少ない蛇口をひねれば安全な水が飲める国だと信じてきましたが、この問題で不安になりました。子どもには安全な水を飲ませたいです。少なくとも欧米と同程度の評価に即した許容摂取量の見直しを求めます。
2153	なんで日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。 日本に住む人の命をあまりにも軽く見過ぎているので、見直しをして
2154	あまりにも数値が高すぎます。 健康被害が必ず出ます。 そうならないよう再検討を求めます。
2155	IARC では発がん性があると評価されました。リスク評価は不確実なものも含めてどう有害さを評価するかが大事。今回の許容摂取量に反対します。
2156	なぜ日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎているのではないか。水は生命に直接関わるものであり、健康を害することは自らにとっても、国にとっても都合が悪いものになるということが理解できないのか。
2157	水道民営化？冗談じゃありません。なぜそのような事が必要なのか、我々日本国民にとってどんなに良いことが有るのか全く分かりません。本来国がちゃんとお金を出してやるべきです。それをまた「水道料金の値上げ」というある意味増税で賄おうとする現状にも呆れ果てているのに国外の企業に一任するなどもってのほかです。もう黙っていられません。私事ですが、せっかく昇給してもその大半を「お上」に持っていかれるばかりでウンザリです。これもその内の一つと感じているので国民から取る以外で対応してから考えるのはいかがでしょうか。絶対に、絶対に！水道民営化しないで下さると助かります。謹んでお願い申し上げます。
2158	非常に高い濃度の pfas を含む水道水を摂取してきた住民が多数存在するにも関わらず、血液検査による血中濃度の測定及び接種者の疫学的健康影響調査を積極的に行う姿勢が見られないことは非常に大きな問題。今後起こりうる健康リスクを想定し、早めの対策を行うこと、pfas の全国的な汚染状況を積極的に調査することを望みます。
2159	PFAS 汚染は食品を含む様々な生活用品に使用されています。PFAS について市民が認識できるよう各種媒体で呼びかけてください。PFAS の暴露による健康被害を環境基準先進国に合わせて明らかにしてください。そして今すぐ汚染をやめるよう国が動いてください。 よろしくお願いします。
2160	PFAS 汚染は食品を含む様々な生活用品に使用されています。PFAS について市民が認識できるよう各種媒体で呼びかけてください。PFAS の暴露による健康被害を環境基準先進国に合わせて明らかにしてください。そして今すぐ汚染をやめるよう国が動いてください。 よろしくお願いします。
2161	許容摂取量（案）は基準数値が高く、取り込まれるＰＦＡＳによる曝露での蓄積性が非常に高いこと（排出には数年単位の時間を要する）ことを考慮して、もっと低い基準値への見直しを強く求めます。
2162	水は命のみなもとです。 日本の基準は甘すぎると思います。 せめてフランスなみの基準にしていただきたいです。
2163	日本は他の国に比べて基準値がそもそもゆるいといわれています。 そこ基準値を超える観測が相次いでいると聞いています。 外国では発がん性が認められて、基準値が厳しく見直されている国が増えています。 日本でも世界基準を見習って、世界レベルの基準値見直しをお願いします。
2164	有機フッ素化合物の基準値をアメリカやヨーロッパ並みにするべき。日本人だけ毒性に耐えれる身体な訳がない。しかも分解されず身体に蓄積するので明らかに健康被害への懸念がある。疑わしきは慎重に対処すべき。
2165	指標値が緩すぎる PFOS ではラット 2 世代生殖?発生毒性試験の無毒性量 0.1mg/kg 体重/日から安全係数 5 x 10?4 で除し、指標値を 20 ng/kg 体重/日としている。PFOA ではマウス生殖・発生毒性試験の最小毒性量 1mg/kg 体重/日から安全係数 5 x 10?5 で除し、指標値を 20 ng/kg 体重/日としている。 ヒトにおける PFOS 及び PFOA の消失半減期は、げっ歯類の数日から十数日に比べ数年と長期間であり、体内動態も不確実である。欧州食品安全委員会の提唱するように、安全係数をより大きな値に設定するべきである。欧州に比べ日本の許容摂取量を低く設定することにより、今後新たに検出される PFAS の安全性評価に悪い前例となることを危惧します。
2166	はじめましてこんにちは。熊本に住む沖潮と言います。熊本に半導体工場ができたこともあり、水問題に関することを多く耳にするようになりました。地球上に住む私たちみんなの資源です。当たり前のことですが、水がなくなると全ての生命体は生きていけません。あたり前があたり前でなくなる前に、PFAS の基準についてもう一度協議していただきたいです。せめて、世界基準（フランスやアメリカなど）に合わせていただきたい！！輝かしい未来ある子供のために。世界に誇れる美しい日本、宇宙に誇れる美しい地球のために。みんなでこの星を守りましょう！！よろしくお願いいたします。
2167	食品健康影響評価に係る審議結果案について、国際的な疫学調査を重視し、健康への影響評価について、再評価を求めます。
2168	水道水に何のために入れなければいけないのか、入れることで考えられるメリットはなにか、健康被害はどれくらいあるのかをしっかり国民に向けて発表して、意見を吸い上げて欲しいです。 健康被害は年齢や疾患ありなしでも変わって来ます。命の源である水です。人間としての行動をしっかり考えてください。
2169	沖縄県の宜野湾市に住む者として、やはり考えなければならないことかと思っております。間近でたくさんの問題を目にしています。。米軍さん達がいることが悪いことではなく、でも、日本人の老若男女も住み、暮らしていることを頭において頂きたい。そして、数値が海外とは違いオッケー基準が大きいこともしっかり年頭においてほしい。あなたが住む町

	で水が飲めないことをぜひ考えてみてください。宜しくお願いします。
2170	私の住む綾部市でも川から基準値の 120 倍もの有機フッ素化合物が去年検出されました。 説明会も何もなく、ただニュースで井戸水の飲料禁止ということだけ伝えられました。市民は不安でいっぱいです。 噂では原因は工場などからの有機フッ素化合物の不法投棄とのことでしたが、突き詰めることもなくそのままです。 ちゃんとした原因を突き詰めて欲しいです。 また、ヨーロッパやアメリカの基準値よりも日本がはるかに緩い基準値の理由も教えて欲しいです。 また、工場などからの不法投棄についての罰則も今後厳しくもうけて欲しいです。 川遊びや井戸水を飲む子供たちの未来に安全が保証されるのが明確にお答えいただきたい。 有機フッ素化合物を取り扱う工場の廃止、または厳しい規制、自然環境を優先した未来を望みます。
2171	子供達に安全な未来を残してください。 欧米諸国同等の基準を希望します。
2172	発がん性があるとのことで、昨年アメリカが飲料水１リットルあたり検出値限界の 4ng（ナノグラム）に引き下げています。 水の成分により、子どもが生まれる確率も下がっているとも指摘されています。 日本人の心も身体も豊かな自然から生まれているのではないでしょうか。検討し直してもらえるとありがたいです。
2173	摂取許容量（案）の見直しを強く求める。 欧州食品安全機関が２０２０年に定めた許容摂取量と比べると、今回の指標値は６０倍を超える。小泉昭夫・京都大学名誉教授は、今回示された許容量を摂取し続けた場合に、疫学データから健康影響が懸念される血中濃度レベルをはるかに超えることなど、問題点を指摘している。欧米は「ＰＦＡＳゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。 ヒトの疫学研究を排除し、動物実験のみを根拠としているのは問題がある。 国際がん研究機関がＰＦＯＡを「ヒトに対して発がん性がある」と分類しているにもかかわらず、今回の評価書案では「情報が不十分」として、十分な根拠を示すことなく指標値算出の際に発がん影響を考慮していない。食品安全委員会も「予防原則」に基づき、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう発がん性を認めるべきだ。 ＰＦＯＳ、ＰＦＯＡしか評価していない。欧米のようにこの２つ以外のＰＦＡＳの毒性評価を急ぐべきだ。
2174	多摩地区在住なのですが、今回出た数値を基準にしないでください。健康被害が出てからでは遅いです。やり直してほしい。
2175	安全基準について見直しをお願いいたします。
2176	この基準値では不安です。　せめて米国並みに規制してください。
2177	基準を見直してほしい 水は全国民の健康に関する重要なこと アメリカやヨーロッパの基準値をみて 本当に安全な基準値なのかを見直してほしい
2178	岡山県の吉備中央町の水質汚染問題から、PFAS のことを知りました。 岡山に限らず、東京や大阪などにも被害が出ているとのこと。 そして、海外の基準に比べて日本は規制値の基準が緩いということも知り、とても心配です。 お水は生活の根幹なくてはならないものなのに、そのお水に不安を抱えて生きることは大きなストレスですし、健康被害が起こってからではどんな対応も遅いと思います。この先、子供たちの健康維持のためにも、安心して暮らせる国として、よりよい環境を受け継いでゆくためにも、ぜひ、現在の基準を見直して、健康被害の及ばない安心できる値を求めていただきたいと思います。
2179	このままでは子どもたちの将来が心配です。 人体に悪影響が出る可能性がある物質なら、ちゃんと水質調査をして欲しいですし、体内の蓄積量も血液検査でわかるなら実施して欲しいです。
2180	最近 PFAS の健康被害のことを知りました。目標値がほかの先進国よりかなり低いことを知りました。アメリカ並みに基準値を設けてはいかがでしょうか。規制がないために土地が汚れ住めなくなる土地が日本で増えるのは日本人として悲しいです。
2181	なぜ、日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのでしょうか。日本に住む人の命を軽く見過ぎています。決めた人々も含め、子孫も絶えますよ！自分の子供も孫もどうなってもいいのでしょうか。絶対納得いきません。やり直してください！
2182	岡山県吉備中央町で高濃度のＰＦＡＳが検出され、水道水が飲用禁止になっていることを知人から聞き、とても不安を感じています。また、東京多摩地区や沖縄での同様の事例、並びに住民の方への血液検査で PFAS が長年にわたり高濃度で蓄積していた結果から、PFAS の危険性を強く懸念しています。 土壌の汚染、水の汚染は、人間だけではなく全ての生態系に大きな影響を及ぼす問題です。現時点で健康被害との明確な関連性が証明されていなくとも、米政府や欧州連合（EU）が PFAS の危険性を重く捉えて規制を強めていることを踏まえて、日本でも同等レベルでの規制強化を強く希望します。
2183	全国の PFAS の汚染状況、健康被害影響について調査を行い実態を明らかにしてください。
2184	国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしいです。 アメリカ並みの基準にして下さい。
2185	評価書（案）の P26 に記載の PFAS の体内分布の解説と、一緒に紹介されている PFOA の体内分布の具体例（(P?rez ら（2013)）の内容が大きく異なっている。以下に抜粋する。 ・PFAS の体内分布の解説：「ヒトでも PFOS、PFOA 及び PFHxS は全身の組織、器官及び体液に広く分布していることが示されており、主な蓄積部位は血液や肝臓である。」 ・P?rez ら（2013）:「PFOA 濃度は骨で 60.2（20.9）ng/g、肺で 29.2（12.1）ng/g、肝臓で 13.6（4.0）ng/g、腎臓で 2.0（1.5）ng/g、脳で検出下限未満･･･（参照 53)」（主な蓄積部位は肝臓ではなく骨で、骨は肝臓の約 4～5 倍となっている） 記載内容にこうした矛盾があると、あまり丁寧に検討しなかったのではないかと不信感を持ってしまうので、他にも内容に齟齬がないように評価書（案）を丁寧にチェックして、推敲し直して頂きたい。
2186	疫学データを使わずに、依然として動物実験データから TDI 等を算出していることに対し、大いに疑問がある。 動物（マウスやラットなど）とヒトでは、PFAS に関する体内メカニズムが大きく異なるので動物実験を基に判断するこ

	とは難しいと認識しながら、これまでに得られているヒトの疫学データは使用せずに動物実験のデータのみから暫定目標値を決めてしまっている。 高曝露量と低曝露量との間に明確な用量反応関係が見られないことを理由の１つにして疫学データを採用していないが、これについては食品安全委員会「PFAS ワーキンググループ」第 2 回議事録 P36 で長谷川専門参考人が PFAS 分子（特に C8 である PFOS と PFOA）の挙動が、低濃度と高濃度で違いがある可能性を指摘しており、まだ知見に乏しい PFAS 分子にこうした性質がないとは完全に否定できないので、PFAS 曝露と関連する健康影響が示された疫学データを安易に無視せず、それなりの信頼性・再現性があれば目標値の算出に組み入れるべきだと思う。
2187	欧米は「PFAS０」を目指し、対策をすすめようとしている。日本も「ゼロ」をめざすべきだ。また、この摂取許容量をもとにしたら、飲水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。子どもたちの健康をかんがえるとしんぱいてとんでもないことだ。
2188	日本の基準値が他国に比べて圧倒的に高いのではないでしょうか。 今を生きる私たちと未来の人々のためにも安全に生きる権利を得たいです。 納得出来る回答と数値の再検討を強く願います。
2189	PFOA や PFOS などは人体に蓄積しやすい性質があるので、できるだけ人体に入らないように規制値を低く設定することが望ましい。さらに IARC は、ヒトに対する発がん性に関して PFOA をグループ１に、PFOS をグループ２B に分類しており、健康リスクとして相応に認識し、人体への摂取量を抑えていく必要がある。 EPA（2016）では動物実験（ラット）から指標値を算出していたが、EPA（2023）では新たに得られたヒトの疫学データから指標値を算出してより厳しい規制値に変更している。 EPA（2023）での PFAS の RfD 設定スキーム（評価書（案）P192 と P194 に記載の図）はとても合理的であり、日本でも同様にして疫学データを組み入れて TDI などの値を決めていって欲しい。疫学データに関しては、個々の論文の評価がバラついて判断が難しいということが不採用の理由の１つともされているが、メタアナリシスによる総合的な評価方法を採用すれば良いのではないか。
2190	身体への影響が今後新たに出てくる可能性がある中で、諸外国と比較して摂取許容量が高すぎると思います。規制の緩和でなく、取り込む量を減らす施策が必要だと思います。許容量をもっと引き下げてください。
2191	PFAS 血中濃度が高い人たち（高濃度曝露）の疫学データは汚染源となった工場に勤務する作業員など主に男性に偏っており、感受性が高いと思われる妊産婦や子ども（特に乳幼児）の高濃度曝露のデータに乏しいことから、より慎重に規制値を設定した方が良いと考える。 今回提示された暫定基準値は、飲料水の TDI が PFOS と PFOA で各 20ng/Kg/日とされているが、これを元に PFOS と PFOA の血中濃度を算出すると、それぞれ 250ng/mL、 143ng/mL になる（この計算結果は京都大学 小泉昭夫教授による）。 この値は一般的な人たちの血中濃度よりはるかに高くなり、米国科学・工学・医学アカデミーが 20 ng/mL を超えると健康影響のリスクが高まると提言していることを考慮すると、これで妊産婦や乳幼児などの安全性が十分に保たれるのか大いに疑問である。
2192	今回は PFOS、PFOA、PFHxS の３種類について検討されたが、産業分野（これまで PFAS を使用してきた半導体製造工場など）ではこれらの物質の使用が制限されたことで代替物質が使われることになる。新たに使用される代替物質についても上記３物質と同様な問題が生じる可能性があるので、それらについての監視と安全性チェックの体制も整えていき、必要に応じて迅速に規制できるように準備をして欲しい。
2193	欧米の基準値から見ても、全く安全だとは思えません。直ちに規定を見直してください。未来を生きる子どもたちのことを考えてください。健康でなければ経済成長もなにもかもありません。
2194	PFAS に曝露されるリスクを最小限に抑えるために以下を求めます。 ? ・食品や飲料水に含まれる PFAS の量を定期的にモニタリングし、規制基準を設定する。 ・欧米と比較して高い摂取許容量の見直し。 ・PFAS を使用する産業や製品に対して、代替物質の開発や使用を促進する。 ・消費者への情報提供や教育を強化し、PFAS の健康リスクに対する認識を高める。 ・環境への PFAS の流出を抑制するための規制や対策を強化する。
2195	命と健康を守るために、最低でも欧米と同じ基準値に変えるべきだと思います。
2196	(2)広報としては、災害時に借りたい民間の井戸の汚染調査をしているその地図が市報に掲載された程度だった。 そこで、市民への啓蒙として情報をオープンにすべきだと個人として公開質問状を出した。 Ｑ１　人体への毒性影響はどういうものなのか？ Ｑ２ 以前配水されていた地下水での汚染が，人体に今もどれだけ残留しているか？ （民間検査のサンプルでも良いので） Ｑ４ 今後市民はどう気をつけて生活したら良いのか？ Ｑ５ 市は防災井戸の検査以外にどんなことをするのか。 Ａ５ 環境省から公表された「ＰＦＡＳに関する今後の対応の方向性」をふまえ，国や東 京都と連携しながら対応して参ります。 Ｑ６ 血液検査は行政としてやる必要があるのでは？ Ｑ８ 今後の被害防止には原因調査が必要。それを都や国に要請しているのか？ Ｑ９ 周辺市との連携しての取り組みは？ 返ってきた回答は 8 割がた、環境省、都の環境、保健医療、水道局、保健福祉の各アドレスに振るものでした。その内に、東京新聞の「PFAS を追う」シリーズも下火になり、ネット放送でも扱いが少なくなりました、
2197	返ってきた回答は 8 割がた、環境省、都の環境、保健医療、水道局、保健福祉の各アドレスに振るものでした。その内に、東京新聞の「PFAS を追う」シリーズも下火になり、ネット放送でも扱いが少なくなりました、 日米地位協定によって基地内の事故調査などが出来ないという問題もあり、米軍の泡消火在に由来すると思われる PFAS 汚染の原因に近づけないこと、それを市民に明らかにしない(報道任せ）な状態は良くないと思う。公害に発展する可能性が大きい点に、行政はもっと真剣に取り組んでほしい。 2022 年 11 月に「多摩地域の PFAS 汚染を明らかにする会」を講師に呼んでの勉強会、から始まり、今まで 3 回行われた勉強会にはたくさんの市民が参加し、関心の高さを感じるが、そこの行政も参加してほしい。そして、園での調査結果を市としても入手して、より多くの市民に知らせてほしい。

2198	(1)　将来大きな公害問題になるかもしれないこの PFAS 汚染の蔓延について、一番問題なのは、基礎自治体が、水道の水に何が起きているのかを市民にオープンに説明しないことだおう。昨年の後半は特に PFAS という文字が何度も新聞に踊り、 一体何が起きているのか？ 数年前には市内に 3 つあった給水所のひとつが止められたとか、なぜ？ また、水道水だけでなくフライパンや繊維などに長く使われていた？ 秋には、横田基地がらみで漏水や処理法や長期保管など。しかもそこには調査に入れない」 この物質の発がん性レベルを「疑い」から「認定へ」 、…などなど。 新聞記事だけでは、どんなことが身の回りに起きているのか、不安が増すばかりだ。 この審議結果も含め、全市民対象の公開説明会を行うべきだと思う。 市に問い合わせれば、上水道は広域管理になったから、市の管轄ではないので…とか。 管轄がどこだろうが、市が市民に説明するべきでしょ?　と思うが。
2199	PFAS の摂取基準があまりにも日本は緩い(高い)ことに驚きです！先進国とは思えない。未来ある子ども達、そして国民の健康よりも何が重要なのでしょうか？国は何を守ろうとしているのでしょうか？インバウンドで国を盛り上げようとしている中で、この日本の安全基準を海外の方に胸を張って紹介できるのでしょうか？G7 加盟国として、こんなことしていて良いのですか？様々な分野で安全神話が崩れている日本です、誤魔化さないで、目を背けないで、未来に大きな負債を残さない「今」にして下さい。
2200	PFAS の摂取許容量が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍、と聞いて驚きました。国際標準を目指してほしいです。最終的にはゼロにしてほしい。
2201	岡山県吉備中央町で高濃度の PFAS が検出され、水道水の飲用が禁止されていることを知人から聞いた。これにより、PFAS の危険性に対する深い不安を感じている。同様の事例が東京多摩地区や沖縄でも報告され、住民の血液検査結果からも高濃度の PFAS が蓄積されていることが明らかになっている。土壌や水の汚染は人間だけでなく生態系全体に大きな影響を及ぼす。現時点では健康被害との直接的な関連性は確立されていないが、米政府や EU が PFAS の危険性を認識し、規制を強化していることを考慮して、日本でも同様の規制強化を望む。
2202	この基準値で、未来の子供たちの健康が守れるのか！ 再検討求む！！
2203	規制の基準値が高すぎるので、アメリカやヨーロッパでの基準値レベルに合わせて欲しい。 国民、とくに子どもたちの健康を守ることを重要だと考えるのならば、可能な限り低い基準値を採用するべきで、無駄にゆるい基準値の設定は、別の何かへの忖度ゆえのものではないかと、疑念を生じさせ、国が国民からの信用を失うことになります。
2204	海外に比べて日本の基準値が高すぎるので見直して下さい。
2205	子供たちの未来のために基準値の見直しをお願いします。 我が家にも小さな子供たちがいます。 日本という国が、いつまでも子供たちが元気で安心して暮らしていける場所であってほしいです。
2206	日本は、発がん性の疑われる有機フッ素化合物（PFAS）について、摂取許容量は海外と比べて緩い水準です。国際がん研究機関（IARC）は昨年 12 月に「ヒトに対して発がん性がある」と評価しているので日本もアメリカ並みの基準にすべきです。
2207	意見を集約してくださり、ありがとうございます。 PFAS の日本の基準が私も心配です。 できるだけ摂取したくないです。 今後も宜しくお願いします。
2208	何故日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか、日本に住む人の命を軽く見過ぎています。 やり直しを求めます。
2209	国際社会において日本は大きな役割を成すと考えています。しかし日本が示す態度はとてもあやふやで行動が遅く役割を果たせていないのでは？ 大切な国民の命、また未来に生きる子供達の為にもっと健康被害についての基準に厳しくあって欲しい！
2210	生体内で分解されない PFAS は、がん発生も疑われており、摂取量を限りなく少なくする必要があります。私はすでに 80 歳を過ぎていますが、子供達、若い人々のことを考えるととても心配になります。規制値は海外の数値をオーバーすることの無いようお願いしたい。
2211	設定された基準値の根拠が不明確。 欧州諸国、米国の基準値と比較して緩すぎます。同等又は、より厳しい値に設定すべきです。 国は水道事業に外資の民間企業を参入させようとしています。基準値をより厳しいものに設定しないと容易に飲めない水になります。 国民の生活、安全を守るのは国の責務です。
2212	世界的な基準、研究等になぜ劣っているのか、なぜ市民が調査をしないといけないのか、教えていただきたいと思います。
2213	子どもたち、私たち、全ての生命を第一に、 我々がこの国で安全に生きていけると確信できるよう、 直ちに基準値を見直してください。
2214	水の安全性をおそろかにすることは、国を滅ぼすことにつながります。せめて欧米並みの水質基準を保たなければ、日本の水質の素晴らしさは失われてしまう。 水道民営化にも反対ですが、水の安全基準も厳しくしてほしい。 それと、このパブコメ、電話番号入力は見本を消去する必要があるなど、投稿者(国民)に対して不親切な印象です。 パブコメを募集しながら、集まってほしくない、集まっても意見は汲み取らないという姿勢かと思われるので、もっと投稿のハードルを下げる方がいいでしょう。
2215	国民の健康を守る為にきちんとした基準を作ってください！それが国の責任です。
2216	各務原市に在住です。研究が進む欧米では摂取許容量が厳しくなっているのに日本では規制が甘いのは怖いです。本当に国民の命のことを将来の子どもたちのことを考えて下さい。

2217	国民の健康を守ってください。
2218	・規制対象について：海外では、代替物質を含むPFASをグループ化して規制しようという動きを見せている。PFOS、PFOAのみの規制では不十分。既に環境流出している事実を受けての後付けの規制化の動きに思える。PFOS、PFOA以外のPFASも工業的に使われている状況を鑑みると、PFASグループの健康影響評価と規制強化、そして発生源対策（使わせないこと、代替物質の開発支援）を積極的に行って頂きたい。 ・パブコメ内容について：パブコメ自体の内容が専門的過ぎて、一般市民からの意見が得られにくい内容となっている。一般市民の理解を助ける別添資料を付けることや、パブコメ事前の説明会の開催を行うべきレベルの内容と思います。 ・規制の設定に向けて：本審議結果を受け規制を設定するに向けては、一般市民にも適切に伝え、消費者として正しい判断をするための支援が必要です。
2219	PFASを水道水に増やすのは反対です。松果体に良くありません、不健康です。
2220	諸外国と比べ接種許容量が大幅に多いことに驚いた。それが住んでいる地域の近くでもあることから、家族や親戚の体調面が非常に心配です。適切な評価や情報公開、健康被害の防止を希望します。
2221	※ 文字数制限５００文字です。 ※ 超過する場合には、分割して送信をしてください。
2222	基準が諸外国に比べて緩く甘すぎると思うのですがどうしてこの基準に設定したのですか？全く信用出来ません。安心して水を飲むことすらできない国にしないでください。 やり直すか考え直していただきたいです。
2223	丁寧に対応していただいたたい。
2224	食品安全委員会が「20ngが妥当」と判断したことに大変驚きました。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて強く不安を覚えています。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 欧米は「PFASゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。また、 この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は50ナノグラムのまま変わらないと聞きました。 子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないことです。
2225	基準値が高いのでやめてほしいです。
2226	食品安全委員会が「20ngが妥当」と判断したことに大変驚きました。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 許容摂取量の見直しも宜しくお願い致します。
2227	欧米と比べても水準がとても高く、安全だとは思えません。 今の子どもたち(未来に大人になっていく世代)、これから生まれてくる子どもたちのためにも、基準を厳しくしてほしいです。
2228	水は、地球も人も生き物すべてに大切な欠かせないもの、源です。 このままで良いわけがありません。 このままでは、将来のこどもたち、孫たちに恥ずかしいです。
2229	1万以上のPHASの種類がある中で調べたPFOS,PHOAの摂取許容量他国と比べ高すぎる。国際がん研究機関の発がん性評価取り入れるべき。 飲料水についても米国は70ng/Lから4ng/Lへと規制強化。日本は50ng/Lのまま。すでに汚染が始まって20年以上経っているはずなので、またデータがしっかり出ているので至急汚染源調査、改善を行いしつかり取り組むべき。山紫水明だった日本、土、水、海こんな状態の国土になつて、されて、一刻も早く規制をかけて命の源の水しっかりと守ってほしい。 現在の私達、続く未来のために、疑わしきは使わず、病気の症状が出てからでは手遅れというもの、現在進行形で身体へは取り込まれている。 一刻も早い行政の対応に国民の命がかかっている。
2230	おおよそ5000種類あるとされる有機フッ素化合物の内、健康に影響があるとして指標対象としたのはPFOS,PFOAの二つだけであり、圧倒的多くの類似物質についての基準が設けられていないのは問題である。類似の多くの物質について「予防原則」に基づく早急な分析と対応が必要である。既に知られているように「永遠の化学物質」と呼ばれており、非常に長い環境残留性を持っている。その点から、TDIの設定値は極力低い値を設定すべきである。現在PFOS及びPFOAについては水環境中の存在状況に関する知見の集積を図ることから「要監視項目」とされているが、そのような”悠長な"取り組みではなく、早急に現在までに汚染が確認されている河川流域での十分な対策がなされるべきである。その際、水質のみならず流域に生息する生物体内の濃度の測定も行うこと。更に、地下水や環境水の汚染との因果関係が認められる事例（淀川水系、米軍基地、岡山吉備中央町等）については、その処理費は原因者責任として特定された者の負担とさせることが当然である。 　感受性の低い乳幼児の健康被害を起こさない為にも、国民が納得する施策を迅速に進めることを求める。
2231	日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）がアメリカのPFOSで200倍、PFOAで666倍、欧州の64倍以上と国際的潮流に反した非常に高い水準になってる意味が分からない。日本人だけPFOSやPFOAへの耐性があるというデータがあるならともかく、食品安全が聞いて呆れる。 ちゃんとよく考えてほしい。
2232	水道民営化、外資売却反対します。
2233	国民の健康を守るための基準を設けてほしい。 このままだと、健康被害を心配して外国から移住したい人も減ってしまうのではないか。
2234	食品安全委員会「評価書」が定めたPFAS（有機フッ素化合物）１日当たりの摂取許容量は、体重１ｋｇ当たり１日の摂取量としてＰＦＯＡは２０ｎｇ＋ＰＦＯＳは２０ｎｇと規定されています。しかし、この許容量に対して何ら科学的な根拠は説明されておらず、アメリカやヨーロッパの基準と比較しても格段の差異が認められます。アメリカでは、米国環境保護庁が長年に渡った研究成果から摂取基準をＰＦＯＡ＝０．０３ｎｇ、ＰＦＯＳ＝０．１０ｎｇと決定していますが、我が国においても独断評価ではなく世界の傾向を取り入れて再考察していただけるよう期待します。
2235	どのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか、多くの人が知りたい事項です。不明な点が多く、現在研究を進められ

	ていることと思いますが、予防原則の元に国民の健康・安全を守るべきだと考える。
2236	国民の命を大切に守って欲しい
2237	PFAS が含まれる下水汚泥を農地や水道に使わないで下さい。少しでもそういったもので汚染されれば私達国民の体はどうなりますか？ 私達の体にもしものことが起きたら、政府は最後まで責任取るつもりなのでしょうか？ 放射能汚染でさえ解決出来ないのに、PFAS 等について責任が取れるなどと到底思えません！PFAS は体内に残るだけで排出することは出来ません！それなのに 1 日この量取る分には問題ないです等と言ってますが、そんな嘘に騙されませんよ！ 本当に安全だというなら実際 PFAS に汚染させられてしまった沖縄の方を何故政府は放置してるんですか？安全でないものに安全ですなんてそんな嘘に騙されません。国民を舐めないで下さい！
2238	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ｶﾞｲﾀﾞﾝｽの PFOS で 200 倍、 PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った１１９３人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施しすべての情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。
2239	食品安全委員会「評価書」には PFAS の発がん評価を取り入れていません。その理由としては、疫学研究から検討して PFOA と肝臓がん、精巣がん、乳がん、また PFH x S と肝臓がん、乳がんとの関係について証拠は不十分であると判断した、と記されています。しかし、判断基準として明確な説明は見当たりません。そこで、海外の研究成果を参考にして、日本の評価を見直すべきだと考えます。海外では、国際がん研究機関（IARC)また米国環境保護庁（USEPA)の発がん性評価があり、それらを参考にする必要があると考えます。
2240	お世話になります。西東京在住の小坂と申します。 私は有機フッ素化合物がすでに問題となっている地域に居住しており、今後 PFAS による健康被害が発生する可能性のある当事者として意見いたします。 諸外国では、PFAS の発がん性が科学的に認められており、水道水に含まれる濃度も日本と比べ厳しく規制されています。これは、市民の健康を守るという大前提に加え、今後発生しうる住民による行政訴訟や、補償回避を鑑みての動きと考えられます。 翻って、日本ではすでに多大な被害が出ているコロナワクチン行政と同様、PFAS に関しても有害性を認めず、規制強化を見送る方針とのことで、当事者とし強い疑念を持たずにはいられません。 将来起こり得る行政訴訟や補償もすべて原資は税金であり、健康被害と併せ市民生活にとって大きな時間的・経済的損失となります。 よって、欧米以上の規制強化の実施を早急に行うことを要望いたします。
2241	身体に対して有害なものの取り締まりをしっかりおこなって下さい。 口腔内、歯に塗布するフッ素についての安全性の案内をおこなって下さい。
2242	「推定摂取量」が過小評価されている点が大きな問題。評価書（案）では『国内での PFOS/PFOA の 1 日あたり平均推定摂取量』の算出に「農林水産省 2012～2014 年度 18 食品群調査」を使用したが、このうち「飲料水」は「ペットボトル水２L と、東京都水道水２L の混合水」を分析していた。つまり、都内水道水をペットボトル水で半分の濃度に薄めたデータを使用し、PFOA 、PFOS は未検出であったので「飲料水の摂取寄与は低い」と結論づけた調査結果を使っている。 しかし実際には、この調査と同時期に多摩地域「浄水」では 2013 年「府中武蔵台浄水所」で 159ng/L、「東恋ヶ窪浄水所」で 134ng/L もの PFOS/PFOA が水道水に含まれており、この農水省データは都内での飲料水経由の PFAS 曝露実態を正確に反映できていない。 水は飲用と調理で 1 日に３～４L 使用するため、PFAS の大きな供給源になりうる。国民の生活と曝露実態を正しく反映せず、飲料水の摂取寄与率を過小評価したデータを元に「平均推定摂取量」を算出している点で、食品安全委員会の評価書（案）は重大な欠陥がある。TDI の見直しを強く求める。
2243	PFAS の中には人や環境に永久的に悪影響を及ぼす可能性のある物質が含まれていると思われます。 個々の物質毎に科学的及び医学的に有害性なしい無害性を確認の上で規制の程度を検討する必要があります。 PFAS は一度作り出してしまうと永久に存在し続ける可能性（危険性）があるため、十分な検証が行われていない現状において、規制基準を下げることは反対です。
2244	PFOA と PFOS の 1 日の摂取量を体重 1kg あたり 20 ナノグラムとする指標値について、世界では健康が懸念されているレベルが、日本では安全とされてしまう。 余りにも高い濃度が容認されています。欧米並の基準に見直してください。
2245	米国は、住宅地のそばに基地などの軍事施設は造りません。その米国の基準よりも大変ゆるい数値が日本の基準です。国民の健康に責任を持つべき政府は、せめて米国の基準に合わせるべきではないでしょうか。今回の汚染は、明らかに米軍基地からの流出によるものと考えざるを得ません。基地内の調査から始めるべきです。地位協定がそれを阻むのならば、日米合同委員会に国民の命にかかわる重大事なので、調査を受け入れるように、強く申し入れるべきです。日本人の人間の価値が、あまりにも低く見られていると感じるのは、私だけではないと思います。もっと誇りと責任を持った対応を願います。
2246	国の基準値は、見直すべきです。せめて、世界的な基準値に近づけるべきです。経済優先ではなく、イノチ優先の政策を検討していただきたい。イノチがなければ、経済は何の意味もなしません。 水は生きるために必要不可欠なものです。人間だけではなく、動植物や微生物にも影響する問題です。経済を第一に優先する時代は終わったのではないでしょうか。国民のイノチを、何よりも大事に考えていただきたいです。
2247	難しい事はわかりません。 でも、知らず知らずのうちに体に取り込む事で健康リスクが高まる物質の基準値が、あまりにも他国と差があることは、

	やはり納得がいきません。 まだ商品になったものは知る事で避ける事が可能ですが、吉備中央町のように、日常の暮らしに欠かせない水道水に含まれているという事は、あまりにもやるせないです。 子どもたちの未来は明るくあって欲しい。 自分たちの便利のために、汚染された水や土地を残すなんてことはあってはならないと思います。 基準値の見直し、不法投棄の取り締まり強化を強く希望します。
2248	国民の健康のための審議への取り組み有難うございます。今 PFAS の安全性について様々な報道が見られます。私は 2 社の新聞をとっていますがそのどちらにも PFAS によるすでに起こっている健康被害、血液検査による血中濃度の高さ、そのことに関連すると考えられる地域の河川の水質検査の PFAS 数値の高さが報道されています。かなりの紙面を使いこの問題を取り上げています。欧州や米国が目標値を厳しくしていくことが決定しているので日本でも同様な対応がなされるのだろうと思っていましたので今回の審議結果について只々驚きと不安しかありません。孫が通う学校周辺、農業区域における水の PFAS 濃度の高さに不安を感じています。国際がん研究所 IARC では PFAS の発がん性が認められました。健康被害の報告や胎児への影響も報告されています。このように危惧が高まっているならば、米国環境保護庁 EPA の今後出る最新の指標値の発表まで審議決定を待ってその数値を採用か又、欧州食品安全機関 EFSA の指標値を採用していただきたいです。国際的な動きから外れるような数値決定ではなく、国民の健康、日本の誇りを守る観点からの審議をお願い致します。
2249	日本の食品安全衛生委員会の PFAS 許容摂取量は欧州食品安全機関、アメリカ環境保護庁の基準に照らして著しく高い値となっています。なぜなのでしょうか。アメリカ環境保護庁は発がん可能性があると評価しており、WHO のがんの研究機関 IARC も PFOA について、4 段階ある分類のうち最も高い「発がん性がある」に 2 段階引き上げ、PFOS については、上から 3 番目の「発がん性がある可能性がある」に初めて位置づけたと公表しています。実際に健康被害が起きる前に、EU、アメリカのように予防原則の立場から規制強化すべきだと思います。
2250	食料安全委員会が示す許容摂取量案がアメリカの 200 倍と聞き驚いています。アメリカ環境保護庁は、発がん可能性があると結論づけているとのこと。健康被害が心配です。0 を目指すべきです。
2251	汚染が広がっているニュースにいたたまれない気持ちです、 フランスでは基準値が 1 だと聞き日本 50 との差に愕然としました。 安全な水が飲めるように検討をお願いいたします。
2252	食品安全委員会のオンラインセミナーの動画を拝聴しました。 PFAS は、ひとたび人の体内に入れば重篤な影響を及ぼし得ることが、すでに世界中で臨床レベルで報告されているのですから、可能な限り保守的に基準を定めるべきなのに、特に独自の大規模調査を行ったわけではない日本で、委員の方々が、やたらと「動物実験であって、人においてはまだ確証がないから、厳しい基準にするべきではない」と言われていることに、強い疑問を感じました。 基準を緩く設定することで守られるのは、市民社会ではなく、関連企業の利益です。 かつ、そのような主張を、厳しくする方向で議論が進んでいる国際社会に逆行して、日本が行っていることに、国民として恥ずかしさを禁じ得ません。 地球環境や生命や健康を軽んずる、人権後進国、そういう国際的評価が、日本に対して定着してしまうと思います。 1)科学的に証拠不十分とされた健康影響についても保護されるよう TDI を見直してください。 2)高濃度汚染地域には健康影響を受ける可能性の人たちがいることを念頭に TDI を見直してください。
2253	摂取許容量が海外と違うのはどうしてでしょうか？本当に精査されての数値なのか疑問です。健康は口から入るものがとても重要です。未来の日本を背負っていく子供達の為にもきちんと精査すべきです。
2254	PFAS の許容摂取量はアメリカと同じ程度かそれ以下が良いと思います。 日本人の 2 人に 1 人が癌になると言われています 社会保険料を抑えるためにも病気になる可能性がある物質を極力 日本国内から排除する必要があると思います。 何卒よろしくお願いします。
2255	WHO と米国で、ＰＦＡＳ関連有機化合物が腎癌の発癌性があるとの疫学的結果が出ている。 疑わしければ禁止するのが疫学的結論である。 水俣の二の舞いは絶対避けるべき、妊婦、子供の将来を守れ、米国と同じ基準にするべきである
2256	PFAS の安全基準値を欧米と同等にするよう求めます。 今現在、基準値を大幅に超える PFAS が検出されている地域の住民の血液検査の実施を希望します。
2257	食品安全委員会が 20ng/kg/日。としたのは何故なのか？ 米アカデミーの臨床ガイダンスで血中濃度 20ng/ml と聞いていたので、一瞬？？戸惑ったが、よく調べると、一日 20ng/体重 1kg あたり。という意味であり、体重 60kg の人の血中濃度に換算すると 250～300ng/ml となってしまうと知った。 米ガイダンスの 10 倍以上！ なんと言う緩さ！ わが国では、水俣病イタイイタイ病をはじめとして、産業廃棄物による環境汚染と人体汚染の経験を積んできた。大規模な疫学調査で有意な悪影響が証明されるには 10 年単位の長い時間がかかり、それを待つ間に多くの被害者が出てしまう。より早く迅速に、そして乳幼児や妊婦を守るために「予防原則」の理念に立って、より厳しい目標値を設定すべきです。 半導体企業への忖度だとの話を聞いた。半導体企業には安定して成長して欲しい。持続可能な産業振興のためにも、国民の命を最優先に判断するべきです。
2258	危険水道水を世界と同じレベルにし、テレビで報道して欲しいです。
2259	食品健康影響の指標値を、PFOS・PFOA ともに「20ng/kg/日」とする案に反対します。 アメリカの許容量は、PFOS が 0.1ng/kg/日、PFOA が 0.03ng/kg/日とのことですが、日本の数値はこの数値の数百倍に及ぶものです。 これより高い欧州でも 0.63ng/kg/日です。

	PFOS・PFOA ともに、IARC でも EPA でも「発がん可能性がある」と評価している物質です（PFOA については、IARC は「発がん性がある」と評価）。 従来日本でも、基準値の策定においてこの発がん性評価を参照してきました。 リスク評価においては、健康への悪影響がより大きく出る可能性をも考慮し、悪影響を防ぐために安全を最大限に見積もるべきです。 昨今日本では、ひとの身体から PFAS が高濃度で検出されたという事例が相次いでおり、住民の不安も高まっています。 こうした事情を鑑みればなおのこと、基準値は最大限の安全を見積もったものであるべきはずです。 日本で暮らすすべての命の安全を最優先に、その健康と安全を守る指標値の設定をしてください。
2260	アメリカやヨーロッパと全く桁が違う許容摂取量が示された。国が国民の健康を守る姿勢が感じられず、非常に不安を感じる。研究データが十分にないのであれば、予防原則に基づき取り込む量を減らすべき。 国際がん研究機関は昨年、PFOA は発がん性がある、PFOS は発がん可能性があると評価した。アメリカ環境保護庁も PFOS、PFOA は発がん可能性があると結論づけた。国際的な知見を受け止め、国として調査を行い、対策を行うべき。 ヨーロッパでは PFAS をグループとして規制する動きがある。全国で汚染された地下水を水道水として飲んだ住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い。PFOS、PFOA 以外の PFAS の毒性評価を行うべき。 すでに血中 PFAS 濃度が高い地域の住民が、今回の許容摂取量（案）で摂取し続けても今後の健康や安全が保障されるのか。 驚くほど高い許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。
2261	内閣府「食品安全委員会」オンラインセミナ（動画）では、”知見・データが少ない。これからだ”と仰っている。でもアメリカや欧米では、子ども達の健康を守るため先んじて厳しい指標値（毒性評価）を設けているのに、日本の安全委員会の、のんびり対応には呆れちゃいますよ。PFAS 毒性リスクが明瞭になってから手をつける？冗談は止しにして、内閣府あげて PFAS 複合暴露のリスク評価データの収集に努め国民の健康を守ってください。
2262	世界基準から比べると、日本の有機フッ素化合物（PFAS） の基準値は、改める必要があります。 国際機関においても、発癌性の危険性等、問題があるとなされています。 それどころか、自然界において、自然の力で浄化され得ないものは、害悪にしかならず、それが検出される現象は、非常事態なのです。 これは、一部の人、被災者のみの問題でなく、世界、地球規模で考える問題です。 経済至上主義的考えでは、地球が幾つあっても足りません。 私たちは、自然無くして生きていくことはできません。 自然界の有機、無機を問わず、様々な宇宙の恵みの中で生かされています。 この楽園を汚してはなりません。 今一度、人類が考え直すチャンスです。 間違えは正さなければなりません。 私は、歴史から様々な過ちを学びました。 それを活かさなければ、今までの教育はなんだったのでしょうか？ 本質に立ち返り、真理を求める必要があります。 すべての被災者に耳を傾け、今すぐに間違いを正しましょう。 それでなければ、私たちに明日はありません。
2263	委員会の「評価案」はＰＦＡＳの１日当たり摂取許容量を体重１キログラム当たりＰＦＯＳ20ng、ＰＦＯA20ng としています。 これは、欧州食品安全機関が 2020 年に定めた基準値の 64 倍にあたります。このような基準値を認めることはできません。 過小評価はやめてください。欧州食品安全機関が定めた基準値の６４倍は異常としか言いようがありません。 なにかあってからでは遅いです。 基準の見直し、適正な基準値の制定を求めます。
2264	PFAS について、検査の実施と、他の国々と足並みを合わせて規制を強化していってほしいです。経済も大切ですが、子供たちの健康があってこその国です。子供達やその先の命の為に。
2265	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）についての意見 １　審議結果（案）は、やたら膨大で難解。国民に分かりやすいものに。 ２　摂取許容量（案）は、アメリカの PFOS の２００倍、PFOA の６６６倍だ。高すぎる。これでは妊婦、乳幼児はじめ人の健康・安全は守れない。もっと低くすべきだ。 ３　がんの国際がん研究機関は、PFOA は発がん性がある、PFOS は発がん可能性がある、と評価した。食品安全委員会はこの評価をうけ、国際的知見で取り組んでほしい。「証拠は限定的」ではない。 ４　PFAS は４７００種、１００００種あるともいわれている。血中濃度検査で PFHxS なども高い濃度で検出されている。PFOA、PFOS だけでなく他の PFAS も毒性評価を行い、リスク評価を進めてほしい。 ５　これまで動物実験で基準を決めていたと知って驚いた。データは映画「ダーク・ウオーターズ」に出てきた７万人のデータ、PFAS 製造工場の従業員のデータ、日本にもたくさんあるはず。これからはヒトのデータを使ってほしい。 ６　欧米では「PFAS ゼロ」を目指している。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。
2266	水道の数値が、そんな事になっていたのを知らされない事も怖い。　みんなに、わかるように報道して欲しい。
2267	食品安全委員会が示す摂取許容量案は血中濃度に換算すると PFOS250ｎｇ／ｍｌ、PFOA143ｎｇ／ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスに比べると PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全性に問題なし」とすれば、感受性が高い妊婦、乳幼児、高齢者、障がい者をはじめとした市民の安全な生活は守られません。ヨーロッパでは PFAS 全品目を規制する動きもある中、国際的ながん評価を取り入れないのはおかしいです。「予防原則」に基づいて、少なくともアメリカ並みの基準にしてほしいです。
2268	有機フッ素化合物の基準値を欧米並みにして欲しい。 もっと国民に知らせて欲しい。

	未来の子供達に安全な水を残して欲しい。
2269	各家庭では浄水器を付けて PFAS の除去をしているところもあるかもしれませんが、定期的に替えるカートリッジの負担や、浄水器を買うこと自体も家庭によっては難しいところも多い思います。各家庭に水が届く前に最低でも基準値以下にしていただきたい。また、その基準値が健康維持の観点から妥当かどうか、他国を参照しながら定期的に見直していただきたい。 子ども達は学校で水道水を飲みます。水道水を安心して飲めるように、各地の水道水の調査や徹底的な除去をお願いしたい。除去できない場合、浄水器購入の補助や公共施設(学校等)にも設置をお願いしたい。
2270	・健康への影響（被害）を過小評価しすぎています。国際的に通用している基準に基づいて判断すべきだと思います。 ・PFHxS は、胎児や子どもへの影響を予防するための指標値が反映されていないことから、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用する必要があります。
2271	PFAS は、環境汚染だけでなく人体への影響が懸念される物質です。 ご提案の基準値が飲み水にも適用されるとなると、まだ解決策もままならない状況で更なる人体?環境への悪影響が懸念されます。 政府は国民の健康や住環境に対して、何か責任を取ってくれるのですか？ それが難しいと感じられるなら、欧州と同じ基準にしてください。
2272	許容摂取量（案）の見直しを希望します。
2273	指標値（ng/kg 体重/日）は、評価書案では PFOA も PFOS も２０と同じであるが、米国環境保護庁（USEPA、２０２３年）では PFOA が０．０３、PFOS が０．１である。発がん性は、評価書案では PFOA も PFOS も認めていないが、国際がん研究機関（IARC、２０２３年）では PFOA が「発がん性がある」、PFOS が「発がん性の可能性がある」と評価している。評価書案における PFOA と PFOS の有害性の評価は、USEPA と IARC の評価と大きく異なり、しかも非常に緩い評価になっている。由々しきことである。 このような差異は、PFAS の有害性を強調されている専門家が委員として参画されていないことによって生じていると考える。PFAS の有害性を長年追究してこられた小泉昭夫京都大学名誉教授、それを引き継いでおられる原田浩二京都大学准教授、IARC の議論に参加された菅野純国立医薬品食品衛生研究所毒性部客員研究員を委員に加えて審議をやり直していただきたい。
2274	PFAS 規定値の見直しを要求します。世界的にも発がん性物質、有害物質とされており、大きく基準値を下げている国が多々あります。有害性が証明されていないため、基準値も現状維持とするという結果では国民や現状健康被害が表れてしまっている患者の方々に対し説明がつきません。到底食品健康影響評価に係る審議結果での数値では納得ができません。汚染された水や井戸水などを活用した農作物を知らず知らずのうちに接種してきた横田基地周辺多摩地域に住む方々に対してもアメリカで改定したレベルの数値まで落とすべきと考えます。今後の日本を背負って立っていく若者や出産を行なう女性が安心して地域で日本で暮らしていけるよう数値の見直しを求めます。
2275	田舎に住む私たちのすぐ近くの町で、とても危険な数値が検出されたと聞いて驚いています。自然豊かで、大きな工場もない、地元の人たちが大切に田畑を育て、暮らしを営んでいる地域です。どうして？という気持ちと、情報の少なさに恐怖を感じています。今、水道水を体内に入れ続けている私たちの暮らしはもちろん、将来の日本に大きな不安を感じます。安心して暮らせるように、規制を強化してください。住民にわかりやすく、きちんと説明をしてください。
2276	欧米諸国同様の基準値の設定をお願いします。
2277	東京都昭島市の横田基地近くに住んでいます。２人の子供がおり、娘は将来出産していくことになろかと思います。WHO では PFAS は有害物質認定され世界では大きく摂取制限がかかるような基準値に改定されていく中、日本での規定値が変わらなかったことに対しとても驚いています。こここそ世界やアメリカに倣うところであり、日本国民から不安を除いていくのが政府の役割だと考えます。健康被害も次々と明らかになっているとのことです。基準値を海外並みもしくはそれ以下としていただくとともに、環境調査、体内調査を進め、国民への寄り添いを求めます。
2278	日本の未来のために基準値の見直しを
2279	PFAS の汚染源は、在日米軍基地周辺あるいは PFAS 製造工場に加えて産業廃棄物の（不法？）投棄など、留まるところを知らない。PFAS は新たな環境汚染物質であるゆえ、周辺住民の健康不安は相当なものがあると想像される。昨今、欧州や米国では水道水中の PFAS の規制値を厳しくしているのに対し、日本においては未だに 50ng/L の暫定目標値を下げようとしないのは一体、どういうことなのか。人間の健康よりも米軍や企業の活動を優先していると言わざるを得ない。行政には直ちに周辺住民の血液検査や健康診断を行い、それらを踏まえて疫学調査をすることが求められる。日本はかつて公害先進国と言われた。同じ歴史を繰り返さないためには、精緻な「科学」論議より予防原則が環境政策に貫かれなければならない。日本が先進国と言われたのであれば、PFAS 汚染への対応は欧米の示した基準をもとに考えるべきだ。
2280	水に化学物質を入れないでください。 体に悪影響です。 妻が妊娠した時、水道水もミネラルウォーターも飲めなくなり、山の清水をくんできたところ、おいしく飲めました。 清水を汲みにくるひとたちの中に、金魚を飼っているひとがいます。 水道水では病気になり、清水だと元気だからだそうです。 家庭で麺つゆを作った時、清水で作った麺つゆは何週間も日もちしましたが、水道水で作ったのは 1 週間でカビが生えました。 水にも、生き死にがあると学びました。 水と空気は体の素です。 これを読んでいるあなたや、その家族、すべての人が健康でいられるように、どうか再度検討していただきたいです。 また、知らない人が多いので広く意見を聞いていただきたい。 よろしくお願いします。
2281	評価案の PFAS 摂取許容量設定に反対します。欧州、米国の許容量に比べて、あまりにも高すぎるからです。日本はこれまで公害や薬害など、数々の健康被害を食い止めて来れなかった歴史を持っています。疫学的にも PFAS の血中濃度上昇は腎臓がんや脂質異常症、胎児発育低下などを引き起こすことが示されており、そのリスクを減らすためにも欧州や米国ではより低い設定がなされているのです。医師として、欧州や米国並みの許容量設定を求めます。
2282	是非未来の子ども達が安心して過ごせる世界にしてください。
2283	こちらが最終的なコメントです。もう一つ送りましたが、そちらは廃棄してくださるよう、お願いいたします。 PFAS の汚染源は、在日米軍基地周辺あるいは PFAS 製造工場に加えて産業廃棄物の（不法？）投棄など、留まるところ

	を知らない。日本全土に及ぶ大変深刻な環境問題である。PFAS は新たな環境汚染物質であるゆえ、周辺住民の健康不安は相当なものがあると想像される。昨今、欧州や米国では水道水中の PFAS の規制値を厳しくしているのに対し、日本においては未だに 50ng/L の暫定目標値を下げようとしないのは一体、どういうことなのか。人間の健康よりも米軍や企業の活動を優先していると言わざるを得ない。行政には直ちに周辺住民の血液検査や健康診断を行い、それらを踏まえて疫学調査をすることが求められる。日本はかつて公害先進国と言われた。同じ歴史を繰り返さないためには、精緻な「科学」論議より予防原則が環境政策に貫かれなければならない。日本が先進国と言われたいのであれば、PFAS 汚染への対応は欧米の示した基準をもとに考えるべきだ。
2284	● 欧米並の安全基準にするべきです。 ●武蔵野市の取水井戸でＰＦＡＳが検出された井戸に関して、除去装置を設置してください。
2285	すべての人が健やかに暮らせる日本であれるよう
2286	世界が予防原則に基づいた対応を急速に進めている中、疫学調査などの結果をことごとく否定し、摂取許容量を 20ng/kg/日としようとしていることに強く抗議します。「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS は 50ng/ml、PFOA は 143ng/ml に相当すると聞いています。米国アカデミーでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されると言っているのに対し、あまりにも楽観的な数値を設定しようとしていることが本当に理解できません。この摂取許容量をもとにしたら、現在の飲み水の暫定目標値 50ng/L がそのまま基準値になってしまうのではないですか。それは、世界の動向に逆行していますし、それでは日本人の健康を守ることはできません。目標値は日本人の体格を考慮に入れて、アメリカの基準値よりも低めに設定していたのですから、その姿勢を崩すべきではありませんし、水は生まれたての赤ん坊も体に取り込むわけですから、乳児を基準に考えてもいいくらいです。予防原則にもとづいた対応を強く求めます。委員会の有識者委員を入れ替え、議論のやり直しを求めます。
2287	食品安全委員会の評価対象は 2 物質にとどまっており、すでに規制対象になっている PFH x S さえ入っていません。PFOS や PFOA の代替 PFAS についても、有害性は不明なため、欧米では代替物質を含む PFAS をグループとして規制しようとしています。自然環境下では分解しにくく、体内にとどまりやすいという性質は、多少の差異はあっても PFAS 全体に共通する特徴なのですから、予防原則にもとづき、あらゆる PFAS を評価対象に含め、評価をやり直すことを求めます。
2288	フッ素化合物基準値引き上げに反対です。
2289	PFAS は１９５０年代にテフロン製造のために広く製造されたとあります。　いま、発がん性や病気発症の原因となることが分かり、米軍基地周辺やダイキンなどの工場近くの井戸水や水道水に高濃度で検出され大問題となっています。　不思議なことは、これまで地球上に存在しなかった化学物資や有機化合物や放射性物質の有毒性が、８０年もたった今なぜ明らかになるのかということです。８０年間その有害物質の垂れ流しで、どれだけ多くの人々の身体を蝕んでいったかを考えると、国民の命を守る義務のある政府の不作為と言う他ないのではないか。新しい化学物質の有害性・危険性を研究する機関とその製造・取り扱い巡る厳しいルールの作成は絶対に必要です。水俣病やキノホルム等の公害・薬害によって数多くの犠牲と人生破壊が起きた歴史から何も学ぼうとしない、企業や産業の発展のためには、人々を犠牲はやむなしとする、人権無視の考え方が政府の政策の根底にあるということではないか。水や空気や土地といった生命存在にとって欠かすことのできない公共財を汚染・破壊することは、犯罪行為です。直ちに、PFAS の実態調査と厳しい取り扱いの法的整備を求めるものです。
2290	健康や命は失えば取り戻すことは難しいものです。被害が出る前に欧米並みの基準値に厳格化をお願いします。過去の歴史を遡っても、欧米諸国から 1 歩 2 歩遅れた対応が健康被害を拡大させてきました。その教訓を生かしてください。
2291	基準はアメリカに見習って対応してほしいです。 全国的な調査が必要ですし、検査をきちんと公費でお願いしたいです。 国の問題です。向き合ってください。 公害問題に発展すると思いますので、早急に対応が必要です。
2292	食品安全委員会が PFAS の許容摂取量案を示しました。なんと、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍。 この様な数値が飲み水の水質基準に使われる事に断固反対です。 安心安全を期して下さい！
2293	フェロー諸島の研究による免疫毒性は、魚食が多い日本人に対する影響を示唆している可能性がある。水銀や PCB との複合影響を考慮して見直すべきである。 免疫毒性を示したフェロー諸島のデータは、鯨を多く食べるという特異食習慣のため、水銀や PCB などの PFAS 以外の有害物質の影響が交絡要因として十分調整されていないという理由で却下されている。 しかし、日本では、欧米の一般的な食習慣と比較すれば、海産物の摂取量は多く、人体中の水銀濃度も高い。このため、フェロー諸島の研究が示す影響は日本人にも当てはまる可能性がある。 日本国内で水銀（水俣病など）、PCB（カネミ油症など）の研究者の意見を求め、水銀、PCB、PFAS との複合影響を考慮したうえで、フェロー諸島のデータを基に TDI を見直すことが科学的に可能であると考えられる。 　たとえそれが難しいと判断された場合でも、「フェロー諸島のケースが特殊だから」という理由だけで終わらせるのではなく、科学的に検討した経緯を開示すべきである。その情報は今後の疫学や複合影響研究などに対するフィードバッグが可能となるであろう。
2294	血中 ALT 値、コレステロール値上昇リスクも有害影響とみなすべき 　今回の評価書案では、PFAS による血中の ALT 値の上昇、コレステロール値の上昇については、変動の範囲が正常閾値内に収まる程度であること、そのような増加が将来的な疾患（肝疾患や心臓病または脳卒中）に結びつくかが不明であるとして却下されている。 しかし、日本人の人間ドックデータを見る限り、血中の ALT 値もコレステロール値も増加傾向にある。正常値ギリギリの人が PFAS のばく露によりさらに上昇する可能性は否定できない。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/ningendock/30/4/30_750/_pdf 有害化学物質の健康影響評価に際しては、不特定多数の人たちがばく露する可能性を考慮して、こうした疾病につながる指針値の上昇が起こらないような TDI の設定が必要である。
2295	明確な用量反応関係がない場合でも有害影響を無視してはいけない 　今回の評価書案では、例えば血清 LAT 値の上昇や、コレステロール値の上昇について、高ばくろ量でも、低ばく露域の軽微な増加を上回るような増加は見られず、明確な用量反応関係は示されないことを理由に却下されている。

	しかし、そのメカニズムが、ホルモンやその他のさまざまな受容体のかく乱作用（いわゆるシグナル毒性）であった場合、生体内でダウンレギュレーションが起こり、高濃度での影響が低下することが起こりうると想定される。 PFAS にこのような高等な毒性メカニズムによる有害影響が起こるとしたら、より慎重に審査をする必要がある。 またヒトの疫学で影響が出ている場合には、そこで影響が出た値に基づいて TDI を定めておいて、被害拡大を防いだ状態で、時間をかけてメカニズムの解明の研究を進めるべきである。
2296	日本の未来の子ども達の為にも、周りの諸外国の基準値と比較し、この度、どうか日本の基準値を考え直して頂きたいです。 よろしくお願いします。
2297	IARC が PFOA について「ヒトに対して発がん性がある」というグループ 1 の評価を行い、PFOS について「ヒトに対して発がん性の可能性がある」というグループ 2B の評価を行ったことに対して、評価書案の説明では、ヒトに対する証拠は限定的で、動物実験では十分だが、ヒトへの外挿は難しい、メカニズムについてはいずれも間接的で強い証拠とは言えないとコメント。また IARC の評価はあくまで証拠の確実性に関する評価で、リスクを評価したものではないと強調している。 しかしガンなどの重篤な有害影響については、被害の未然防止の観点から、動物試験の結果が示された段階から対応して、ヒトでの影響が出ないようにすることが重要である。 動物実験では十分でも、ヒトへの外挿が難しい、ヒトでの影響が限定的、メカニズムは弱いということを理由に、TDI 設定から除外してしまってはいけない。 ￥発がん性での TDI を評価してみて、他の有害性の TDI と比較してより低い値を選ぶべきである。米国 EPA の用量推計モデルを使えば、発がん性の影響が出る血中濃度の人たちが、日本国内に多数存在することに対してもっと危機感を持って対応すべきである。
2298	動物実験での生殖・発生毒性試験データを TDI 算出データとして採用したことの妥当性について 最終的に TDI の根拠とされた発生毒性試験データであるが、用量反応関係が読み取れることと、胎児の前肢および後肢の近位指節骨の骨化部位数の減少などの有害影響を重篤と判断したのではないかとも思われるが、実際のところ、なぜこの有害影響だけが科学的信頼に足ると判断されたのかが不明瞭である。 別のコメントとしても提出しているが、用量反応関係の有無だけをあまりに重要視しすぎると、受容体を介した毒性などを見落とすことになってしまう。 また、血中 ALT 値やコレステロール値などの変化など一見軽微に見える有害影響についても、一般集団の多くが暴露する状況では、正常範囲を超える増加につながり、重篤な疾患のリスクを上げる結果になる可能性もあることが無視されることになる。 できるだけ多くの有害影響に基づいた TDI を計算した上で、一番低い値のものを採用する従来のリスク評価方法に戻して再評価するべきである。
2299	。基本的値に対して安全性の基準がなぜ高く基準値となっているのか理解できません。研究結果がどのように表れるかわかりませんが国民・住民の安全を守る基準を低く設定するのが本来と思います。
2300	PFAS の危険性がとても心配です。 発ガン性があると聞きました。 今回の摂取許容量値が高すぎると思います。 今やるべきことは国民の健康を考えて、規制をアメリカや EU なみにすべきだと考えます。
2301	ばく露評価の中に、高濃度汚染地域の人たちのデータが活かされていない点について TDI を決める一方で、国民のばく露量の推定も行われており、平均的な推定摂取量は TDI と比較すると低い状況にあると判断されている。 一方で、今回提案されている TDI、20ng/kg/day を摂取し続けた場合の血中濃度を、米国 EPA の用量推定モデルで計算すると PFOA で 167ng/mL となる。 国内の高濃度汚染地域の住民の血中濃度のデータでは、例えば水道水の PFOA 汚染が起きた岡山吉備中央町の住民の血中濃度は平均値で 171.2ng/mL であり、TDI に相当する血中濃度を超えている。 日本国内に TDI を上回る量のばく露を受けている人たちが存在することの危機感を持って、評価をやり直してもらいたい。 食品安全委員会では、各国の用量推計モデルはそれぞれさまざまな仮定を前提に構築されており、現時点ではモデルが確立された状況ではないという意見で、食品安全委員会で独自にモデルを構築する予定もないとのこと。 最適なモデルがない現状では、海外のモデルを採用して、国内のばく露評価に使うべきである。
2302	世界基準の人体への摂取許容量と、物質の危険度の判定を求めます。岡山県の高濃度の検出についても、調査と発信を願います。国益に直結する課題です。
2303	血中濃度のドイツ HBM 値および全米アカデミーのガイダンス値の評価について ヒトの血中濃度に関するドイツの HBM 値および全米アカデミーのガイダンス値について、食品安全委員会では、「その値の超過は必ずしも個人の健康影響の出現を意味するものではない」というアカデミーの説明の部分を、より強く説明している印象を受ける。 個々の人に必ず健康影響が出現する値を求めるということ自体は無意味で、健康影響が出現するリスクが上がる値で規制すべきである。ドイツの HBM 値も全米アカデミーのガイダンス値もリスクが上がる値として提案していると考えられる。 したがって、積極的にこれらの値を採用し、海外の用量推定モデルも積極的に採用し、国内のばく露評価に生かすべきである。
2304	PFAS を規制しないとは何事か。 先進国で癌が殖えているのは日本だけ。 恥ずかしくないのか。ばかもん。 欧米なみに食品添加物を規制しろ 自分の子供や孫が奇形や鬱病になった姿を思い浮かべよ
2305	自ら評価なのになぜ数値を出すことを優先したのか？ 食品安全委員会は、リスク管理の事情から独立し、科学的に公正中立にリスクを評価する機関として認識されている。今回の PFAS 評価に際して、記者向けブリーフィングの中で姫野座長は「個人的にはプラン A として、TDI は決められないのではないかという考えがずっとあったが、食品安全委員会として数値を出さないと、次のステップで水質を決める人

	たちが多分それは困るんではないかと思い直して」という発言を何度かされていた。 科学的な評価として証拠不十分だから TDI を決められなかったという結論にし、リスク管理機関に対しては、「ALARA の原則」に従って、達成可能な限りできるだけ低くするという提言でも良かったのではないか？ なまじ 20ng/kg/day という数値を出してしまったばかりに、それ未満であれば安全性に問題はない、水道水についても現状の 50ng/L 未満であればそれ以上低減する必要はないという誤った情報を提供することになるのではないか？
2306	評価書の内容について、EPA や EFSA からの批判も受け、その結果を国民に公表すべき 今回の評価書案は、海外の評価機関の間で TDI が 10 万倍の差があることの理由を見つけ、科学的に確実性の高い有害影響を見つけることを目的としていると説明されていた。つまり、食品安全委員会は、米国 EPA や欧州 EFSA の審議内容について、科学的に不確実な証拠を元に評価されたものであると批判した内容になっている。科学の世界での相互批判は必須のものであるが、相互批判が成立するためには、今回の評価書案を整理して、英語の学術ジャーナルに掲載するべきである。 また、食品安全委員会の英語のホームページにだけアップするのであれば、その内容を米国 EPA や欧州 EFSA に送付し、コメントを求めるべきである。 さらに、個別の研究論文についても批判を加える以上、掲載されたジャーナルにコメンタリー記事を投稿し、原著者との意見交換を行なうべきである。 また、その結果を国民に公表すべきである。
2307	専門家の皆さまへ 高濃度汚染地域に住んでいます。 これからの日本を背負っていく子どもたちの身体が心配です。 「予防原則」に立ち、総合的な判断を求めます。
2308	諸外国の評価書のデータをなぞるだけの簡易的なリスク評価ではなく、用量推計モデルの設定も含めた本格的なリスク評価に早急に着手すべきである。 通常の食安委の手法では、さまざまな毒性の試験データから最も低い毒性を見つけてそこから TDI を決定するが、今回の PFAS 評価では、海外の評価書ベースで、証拠の確実性の高い毒性を見つけるという手法になっている。その理由として食安委は PFAS の試験は公表文献が多く、農薬や添加物の評価のような企業による GLP 試験などのパッケージがない点を挙げている。しかしその結果、不確実性が高いと評価された毒性については評価から除外されてしまった。これは科学的不確実性がある場合、安全側に立って評価する従来のリスク評価から逸脱している。 またそうした毒性が出現する摂取量を、海外の用量推計モデルで血中濃度に換算すると、日本国内の多くの高濃度汚染地域の住民の血中濃度は超過している。そうした現状に危機感を持って食安委は、簡易的なリスク評価ではなく、独自の用量推計モデルの設定も含めた本格的なリスク評価に着手すべきである。
2309	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 全国的に問題視されていますよ！真摯に向き合ってください。
2310	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守りましょう。このままではいけません。
2311	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心して生活できるように、見直しをするべきです。
2312	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準がおかしい。未来の子供たちの健康を守ってください。
2313	今回の摂取許容量は不安です。子どもたち、孫たちの健康を守るため摂取許容量を欧米なみの規制にして下さい。国分寺市民の 1 人として、50 年以上水を飲んでいます。健康の不安をかかえながら、生きています。
2314	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS のフライパン等使わないようにしたい。
2315	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカなみの基準にして下さい。
2316	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめてヨーロッパなみの基準値で評価して下さい。
2317	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
2318	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今後の事につながるから、国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。
2319	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
2320	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れないのはおかしい
2321	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を害する妙なものを通してしまわないで！安全な基準をもうけて下さい。
2322	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2323	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米普みの基準でお願いします。
2324	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米並になる様に
2325	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 がんにならないようにして下さい。
2326	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

2327	評価書が「20 ng が妥当」と判断したことに衝撃を受けました。米国の摂取許容量よりも 666 倍高いと聞いて不安です。この数値をもとにして水道水や河川水の数値を決めないで下さい。日本の疫学調査は欧米に比べ極端に少ないと言われています。調査に協力しますからまずは欧米並みに行って下さい。そして PFAS 汚染対策を私達国民と共に取り組んで下さい。健康被害が出てからでは遅いのです。予防原則に立って未然に健康被害を防ぎ、安全な水と土、空気を未来の子どもたちに手渡しましょう 2024/3/4
2328	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
2329	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今までに起きた「公害」、農薬・薬品・化学物質等による健康被害について、日本では、企業による生産を保護することを優先しているように思える。被害が化学物質等によることを証明できなければ・・・という発想は逆で、安全であることを証明できない限り、その化学物質等を使用してはいけない、とするべきだ。被害が拡大してから大騒ぎする前に、根本的に対策をとってください。
2330	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発癌性評価を取り入れる事、早急にすべき。
2331	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
2332	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
2333	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。

2334	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私は長年、国分寺に在住していました。故に、血中濃度も非常に高い数値です。乳ガンにもなりました。これからの、日本を創っていく、子どもたちのためにも　アメリカ等を　お手本にして摂取許容量の数値を引き下げて下さい。
2335	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 先日、PFAS の健康影響評価に関する資料が知人より送られてきました。一読させていただきましたが、日本政府の依然として変わらない「国民の生活を大切にしない」姿勢にあきれてしまいました。私は、1950 年代に東京で生まれ、高校まで過ごしました。当時の東京での荒川、中川、墨田川等の河川の汚れ、全国各地で起きていた公害問題。いずれも、国民の安全・命を軽視し、企業活動を優先していたこと、そのことが次々に明らかになりました。そして今、WHO などの判断を無視した「発がん性は限定的」など信じられない姿勢です。断固抗議の意を表します。同じ誤ちはくりかえしてはダメです。国家にとって、最も大切なのは、国民の命なのです！！
2336	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人体への有害物質である「有機フッ素化合物 PFAS」の基準を少なくとも国際水準並にするように、希望します。
2337	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本もゼロに規制を!
2338	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発ガン性評価をとり入れないのは、おかしい。健康を守って欲しい。
2339	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2340	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 国によって基準が違うのおかしい。国際的な発がんの評価にあわせてほしい。
2341	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2342	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発ガン性評価を取り入れないのはおかしいと思います。
2343	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2344	国分寺市民です。血液検査を求めた結果、多くの市民が基準値を超えて、PFAS が残留していました。水は飲まないわけにはいきません。対策が必要であり、急がなければなりません。まずは ・摂取許容量を欧米並みに下げて下さい。貴委員会の審議結果では体重 1 kg あたり 20 ng としています。これは EU の 64 倍、米国の 666 倍といわれています。 ・安全な水の確保をめざして再検討を行い、摂取許容量の基準を下げて下さい。最新の知見を積極的に活かして下さい。 ・汚染の原因と今後の対策を示して下さい。 急ぎ再検討をお願い致します。
2345	■■■容量が米国・欧米よりもとても高い。 ■■■大変おどろいています。 ■■■もっと世界の知見を集めるなど再考し ■■■の対策に真剣に取り組んで下さい。 【食品安全委員会注：FAX の一部が送信時に読み取れていません。】
2346	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 「国が安全だ」というものに信じられる根拠がありません。私たち国民のいのちやくらいのことを考えているとは思えません。危険といわれているものはしっかり規制して下さい。
2347	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 孫の健康を守って下さい。
2348	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 孫の健康を守って下さい。
2349	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。ヨーロッパのように PFAS ゼロをめざして規制してほしい。
2350	企業の隠蔽と行政の不作為により　沢山の命が奪われた公害の歴史をふまえ、不確実な有害影響から国民を守る数値となるよう PFAS の TDI を見直して下さい。世界中の知見を集約・検討した結果、WHO の IARC が PFOA に「発ガン性がある」と認定しました。各国の推計モデルを不確実性が高いと判断しながら、独自のモデルを作る予定もないというのは、あまりに無責任です。どの様な根拠で、不確実が大きいと判断できるのでしょうか。不確実性がある場合には、安全側に立つのが食品安全委員の任務であるはずです。かつて、害が誰れの目にも明らかになる頃には、多くの人々の死があったということを認識して下さい。
2351	国分寺に住んで 50 年たちます。今回の摂取許容量では　心配です。子どもや孫たちの健康を守る為に引き下げて下さい。アメリカ並に下げて下さい。
2352	摂取許容量をアメリカ並みに下げて下さい。
2353	摂取許容量をアメリカ並に下げて下さい。世界の最新の知見をとり入れて下さい
2354	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国や欧州の基準を参考に、日本の基準も考えて欲しい。
2355	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧州やアメリカ並の安全基準を日本も作ってほしい。
2356	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 住民の健康を守って下さい。
2357	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	国民にもっと公明正大に情報発信し、予算取りしてしっかり国を挙げて取り組むとともに、被害がこれ以上拡大させない対応をすべきである。
2358	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 毒を川に流さないで下さい。
2359	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 企業のそんたくは、止めて、命　優先で考えて下さい。
2360	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れず、日本独自の評価基準をもうけるのはおかしい。国民の安全をしっかり守ってほしい。
2361	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心・安全な食品を提供して欲しい。
2362	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 知らない間に健康が害される世の中、本当に恐ろしい。大切な人の命をどうか守る為に見直しをして下さい。
2363	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちが将来、子どもを産み育てていく時代に対し、とても不安が残ります。少子化の問題に対しても、安心して産めるよう、身体への影響をできる限りとりのぞいてほしいです。

2364	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 上記に賛同します
2365	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 本当に安全な摂取許容量にして欲しいてず
2366	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS について知るきっかけとなりました。
2367	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 企業の有害化学物質、排出規制基準を厳格化して頂き、日本国民・地域住民の健康を守って頂く様お願い申し上げます。
2368	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 問題がおきてからだと遅いので、早めに対策を立てて　健康被害がでないように対策をたててほしい。
2369	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来の健康のために　もっと調べて厳しくしてしてほしい！
2370	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 規制を強化し安全が守られるようにして下さい。
2371	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 規制を強化して、健康を守ってほしいです。
2372	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全を保障して下さい。
2373	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2374	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2375	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2376	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

2377	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本もゼロを目指すべきだと思います。
2378	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2379	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の食品安全委員会の許容量のゆるさに驚きます。何でも外国と比べると低意識レベル。困るのは今生きている人々、未来の子供達です。口だけの約束はウソです。もっとシンケンに考えてくれ！！
2380	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2381	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川が数値が高いと聞いている。健康に被害が出てからでは遅い。国の環境基準を、米国や欧州なみにして下さい。
2382	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 近くの明石川でのデーターが気になっています。他の国と比べて　ちがいが大きいので深刻です。
2383	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米

	国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 許容量を下げて　発生場所を改善するべきです
2384	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 飲み水に健康を害する物質があることや、摂取許容量が、アメリカやヨーロッパと比べ数百倍も高いと知り、ビックリしてます。不安を解消する為、予防原則に立ち、取り込み量を減らすようにお願いします。
2385	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2386	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指してほしい。
2387	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして！
2388	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい！
2389	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 適正な基準を設けることで守れる命があります。国民、住民の命第一の基準を作って下さい。
2390	PFOA 製造メーカーダイキンの工場が近くにあるので私共はより深刻です。
2391	もっと規制を強め原因企業に対策させてほしい。市民の健康を守って下さい。
2392	ヨーロッパでは PFAS ゼロをめざし対策している。日本も（ゼロ）を目指してほしい。
2393	PFOS の事は今まで知らなかったので知ってこわくなりました。これからも知りたいと思います。よろしくお願いします。
2394	PFOA に「発がん性」があると WHO が世界に公表しているのに、日本でそれを認めないのはおかしいです。アメリカ、ヨーロッパ並みの基準とするように求めます。これから成長していく子どもたちのためにも規制を強めていただきたいです。
2395	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 知る人ぞ知るパブリックコメント、政府広報・テレビなども使って大々的に知らせることはできないものか。厚労省としては国民の健康を守るためフッソ化合物の危険性をもっと警鐘鳴らすべきでしょうに。
2396	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れ健康を守ってください。
2397	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民の健康を守ることは国の義務。少なくとも世界規準に合わせるべき。これ程の差がなぜあるのかも説明して欲しい。
2398	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への害がはっきり分からないのであれば、予防原則に基づいて、許容量を厳しくするべきである。
2399	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人体に害をおよぼすべき数値はみなおすべきであり
2400	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ぜひとも日本の基準を遵守していただくようお願い致します。
2401	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 目に見えない物だからこそ安全が確約出来る対応をお願いしたい。
2402	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への影響が心配です。
2403	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への影響が心配です。しっかり評価してほしい。
2404	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカや欧州で上記のような基準値がある中で、何故このようにゆるい基準になったのか。その根拠となる説明、資料が求められる。
2405	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	手遅れになる前に！早急に評価と対策を！
2406	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂取許容量とともに最低限の PFAS の濃度を日本の中でまず、決めることが、必要だと思う。
2407	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川で高い数値が検出されたと聞き　不安になっています。他の河川も　安全と限らないのでは。国際的な基準にあわせて下さい！
2408	食品安全委員会の PFAS に関わる食品健康影響評価の審議結果案について あまりに緩い「安全基準」に驚いています。横田基地の泡消火剤が PFAS 汚染源である事はいまや誰も疑いません。 私は、映画「ダーク　ウォーターズ」を鑑賞しています。同名の DVD も所有しています。この作品の中で、農場主に向かって突進してくる狂気した牛を思い出します。半導体工場が各地で建設されている事で、PFAS 汚染の被害は、一掃拡大する恐れも感じています。住民が声を挙げなかった事で、禍根を残すことのないように、私も「声」をお届けします。「安全評価」を根本的に見直される事を願います。
2409	有機フッ素化合物の許容基準を、欧米並みの厳しい数値にしてください。危険を証明することもできなければ、安全を証明することもできません。危険と疑われる基準値を厳しくすることが最善の安全策だと思います。
2410	これから成長する子供達の未来が心配です。安心して生活できる安全な水と土、空気を子供達に手渡しするのが、私達大人の責任です。PFAS リスク評価は子供達の健康にも、大きく影響します。世界の知見を集めて、再評価して、PFAS 対策に取り組んで下さい。
2411	PFAS のこと、新聞でちょっと目にしたくらいで余り知りませんでしたが私たち、特に子や孫の世代に関する大きな不安要因です。さらなるリスク評価について進めてほしいと思います。
2412	命の水三井水源地が PFAS に汚染。市は高濃度の PFAS 汚染水の公表後も市民に公表せず給水を続けてきました。「え」とびっくり。3 年近くも住民に黙っていたなんて。三井水源地利用住民、7 万人ほどです。公表以後活性炭敷設、浄水対策などされました。完全な除去にいたらずも住民の方々は飲み水、料理にはペットボトル水購入、洗濯などには浄水されているという水道水で自己防衛。しかし身体の中には PFAS が蓄積されていくのではないかと心配と言われています。 ・市長は市民に公表せず汚染対策が遅れた責任を感じて下さい。 ・市民が安心して誇れる各務原にして下さい。 ・安全な水、浄水器の購入費などを支給、援助下さい。 ・市は住民に対して血液検査、分析など行うべきです。
2413	今回の摂取許容量では、心配です。子どもたちや孫たちの健康を守るために数値を引き下げることを求めます。国の責任で血液検査を行って下さい。
2414	血液検査を是非希望者全員に行って下さい。命優先で、PFHxS についても摂取許容量を示して下さい。
2415	摂取許容量がアメリカの 666 倍ではとても心配です。何年も経ってから、健康や生命に問題あり、となります。きちんと、引き下げて下さい。
2416	国が血液検査をして下さい。
2417	今の摂取許容量は、論外だと思います。妊婦さんでも安心なレベルに、引き下げて下さい。
2418	摂取許容量をアメリカ並みに下げて下さい。子どもや孫の健康を守るためにお願いします。
2419	摂取許容量を米国並みに下げて下さい。
2420	居住している国分寺市民の血液検査では､都内で最高の PFAS 検査値が示されました｡私の友人の全員が､不安となぜ！？との怒りにつつまれています。歴史上、ほとんどすべての公害が、被害が拡大し、因果関係が否定できなくなるまで無責任状態が続いています。弱い庶民が被害者になっています。そうなる前に、責任ある方針を。すなわち、被害は最小限にとどめるための策を先進例（米国や欧米並みの水準）に劣らぬ対策をただちに具体化して下さい。これまでの公害と同じ誤ちは決して起こさないで下さい。
2421	平均推定摂取量の飲料水について、容器入り飲料水及び水道水都なっており、その内容が「ベットボトル 2L 十東京都水道水 2L の混合水」を分析したものということが分かり驚きました。 都民のほとんどが毎日のように或いは 2 日に 1 回ペットボトルの水を使ってなどいません。どのくらいの方が使っているか調べたのでしょうか？ 平均摂取量における PFAS 量を減らすためにあえて行った思われても仕方ありません。容器入り飲料水を 2L 使っている数値的根拠を示せますか？摂取量を考える際に、ペットボトル等使っていない、水道水だけを使用している普通の家庭を想定することが、リスク管理の上で当然のことではないでしょうか？平均摂取量の飲料水については全て水道水で算出しなおしてください。

2422	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからの子供達のためにも、基準値を欧米なみの 20 以下にして下さい。PFAS の検査の要求のある方に、予算援助をして下さい。誰でも検査し、安心した生活を送るためにも、検査は大切なものです。是非、援助して頂きたいと思います。
2423	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米は「PFAS ゼロ」をめざして対策をすすめている。日本もゼロをめざすべきだ。飲み水の暫定目標値は 50 ng/ℓ から大きく下げてほしい。
2424	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 身体に安心な「食」は当たり前の事です。欧米は「PFAS ゼロ」を目指している。日本も同様であるべきです。
2425	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の規準の甘さにビックリしました（←根拠は何ですか？）。何故厳しくしないのか、不思議です。
2426	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こどもたちのために基準を欧米なみにして下さい。
2427	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達のために欧米なみの基準にする様お願いします。血液検査を誰もがすぐできるように体制を整えてほしい。
2428	食品安全委員会が PFOS、PFOA 各々「20 ng 妥当」と判断したことに驚いた。米国や欧州の摂取許容量の数百倍も高い。国際がん研究機関が明らかにした PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」の知見を考慮し、食品安全委の「摂取許容量」を見直して下さい。
2429	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の基準は欧米にくらべてまだまだ高いです。未来の子供達の為にも、基準を欧米なみの値にして下さい。
2430	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の基準は　欧米に比して　まだまだ高いです。未来の子供たちのためにも　基準を欧米並みの値にして下さい。
2431	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の基準は欧米にくらべてまだまだ高いです。未来の子どもたちのためにも基準を欧米なみにして下さい。
2432	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 市民の健康をどう守るか、未来の若者が私達の働きにかかるのではないでしょうか。みんなに広げましょう。
2433	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	日本の基準は欧米に比べてまだまだ高いです。未来の子どもたちのためにも欧米並の基準の値にして下さい。
2434	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の基準は欧米にくらべて、まだまだ高いです。未来の子どもたちのためにも、基準を欧米なみの値にしてください。
2435	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 歴史を振り返ってみると、公害に対する誤った知識や個人の見解等によって、国民の命や生活が蔑ろにされてきた事実が多くあります。自分の世代はもちろんですが、子供やその次の代の健康を守る為に、今出来ることの一つが「食」ではないでしょうか。少子化対策に、この部分が全く反映されないことが残念です。
2436	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今回のリスク評価は、「発がん性は限定的」として、PFAS の 1 日当の摂取許容量を甘く設定している。国政的な潮流に反しています。ヨーロッパやアメリカ並みの基準で設定してください。 「発がん性は限定的」ということは、発がん性の可能性があるという事です。発がん性のある物質の摂取は極力避けるべきです。娘は、30 年間昭島市の水を摂取し続け、一昨年出産しましたが、低出生児でした。娘には伝えていませんが、昭島市の水を摂取しつづけていたことが影響しているのではないかと、私自身は、思っています。健康への影響が今後広がる事を防ぐためにも、安全をまもるためにも、基準の見直しを願います。
2437	内閣府は大企業がもうけやすい PFAS リスク評価ではなく国民の健康を第一に考えた PFAS リスク評価をして下さい。
2438	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS は 1 万種以上存在すると聞いています。それがたった 2 種類のみの評価。未確認 PFAS についても積極的に有害性の研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を早急にしてほしい。
2439	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧州の基準の 64 倍。アメリカの 666 倍なんてありえません。国民の「食」の安全に逆行しています。これのどこか「安全に問題なし」なのでしょうか。国際基準に反した摂取許容量の引き下げを直ちに求めます。
2440	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫の時代のためにも、欧米並みの基準値にして欲しい
2441	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な水を求めます。
2442	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の『皆が』『健康に』『安全に』暮らせる。命と飲み水はイコールです。日本、食品『安全』委員会様、どうぞ『安全』な取り組みを！！
2443	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 貴安全委員会は、WHO 傘下の国際がん研究機関が公表した PFOA を「ヒトに対して発がん性がある」との分類に対し「情報が不十分」などとして「発がん影響」を考慮しませんでした。逆ではないのでしょうか？健康被害や生命に関することは、たとえ「情報が不十分」であっても、考慮すべきだと考えます。
2444	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる

	妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫への健康被害が心配です。欧米の評価機関が厳しい値を出しているヒトの疫学研究を排除し、動物実験のみを根拠とした数値は納得できません。健康や生命に係るデータは、国はもっと真剣にとり扱うべきです。
2445	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 都合のいい評価では科学的とは言えない。米国の評価を学んでください。
2446	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 高いきびしい基準を日本でも採用すべき。半導体の会社も心配されている。いいかげんですませてはならないと思います。
2447	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国は、全国で大規模な血液検査を行い、PFAS の影響を調査して下さい。
2448	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康への影響の可能性の懸念や「人に対して発がん性がある」とされている物質の安全基準が、国際的知見を除外して決められるなど考えられません。予防の視点で積極的に吟味し取り込む量を減らして下さい。私たちの命と健康に係わることです。よろしくお願いします。
2449	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の出生数が年々減っています。経済的な不安だけでなく、子供たちをとりまく環境が不安で産み育てることをためらうのではないでしょうか。毎日飲む水も安全であってほしいです。
2450	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 75 才、安心してくらせる飲み水をおねがい致します。これからの子供達の為にも
2451	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康に害を及ぼす PFAS 立川で高い濃度の汚染水が出ています。“安全に問題なし”とはどういうことでしょう。しっかりと調べてほしい。安心して飲める水にして下さい。
2452	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS が体に悪い影響を与えることはとても恐いです。早急に対策をしてください。
2453	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こわいから、しっかり調査して下さい。
2454	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 毎日飲む水や食べ物の安全は最低限の市民の望みです
2455	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見

	に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して生活できるように、子供達のためにも早く取りくんで下さい。
2456	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 政府が責任を持って、原因究明と対策をして、さらに被害者の救済をしてください。
2457	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 科学的な根拠に基づいて評価すべきです。
2458	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 人間の命、健康はかけがえのないものです。PFAS の高い水準は、将来、歴史的な公害と言われることになるかも知れません。見直しを求めます。
2459	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちの未来のために動いて欲しいです。
2460	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 WHO が発がん性認定している PFAS をきびしく許容量値を設定して下さい。
2461	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 知らずに安全と思い、さんざん子ども達に飲ませ、料理に使ってきた。将来の影響について親は責任を持てない。急いで、子供を守るためにも調査をし、規準をせめてアメリカ並に！
2462	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 このような基準を設けることは、安全を守ることに逆行するものです。絶対に認めることは出来ません。
2463	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 横田基地からの汚染は非常に高い濃度です。早く住民の安全の為に国は動くべきです。健康でないと医療費も支出が多く生活が苦しくなります
2464	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 公害の歴史を持ちながら、なぜ同じ様な過ちを繰り返すのでしょうか？
2465	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 なぜ基準が高いのか、再度考え直し、適正な数値へ設定してほしい。
2466	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」

	に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 戦争中毒アメリカ令従の政府よ、さようなら！主权者国民こぞって日本国憲法を知り、これを、生かす！
2467	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 示された許容量では国民の健康に責任を持つものといえません。なぜ欧米の厳しい数値にしないのですか。すでに三多摩地域では基準値を超える PFAS が残留しているのですよ。
2468	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧州や米国と比べてあまりにも許容量が大きくて、健康への影響に不安が大きすぎます。まずは取り込む量を減らして安全確保するよう再考をお願いします。
2469	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 被害者を生み出さないことが重要です。予防原則しっかり守って安心して生活したいです。
2470	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子に安全な水をのませたい。とりのぞけないのなら、浄水器を支給してほしい。（対象地域に）
2471	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 がん患者が多くなっている今日、国民の健康を守るためのリスク評価を進めてほしい。
2472	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本もアメリカと同じ基準にすれば安心だと思う。（WHO など医療的な面でアメリカのほうが先進なので。）
2473	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これでは子供たちの健康は守れません！
2474	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今ある基準では、これからも多くの PFAS が体内に入ってくることが非常に不安です。せめて欧米なみの規制に！！
2475	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 同じ人間です。アメリカと同じ基準の値になるように安全な水が飲めるようにして下さい。
2476	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子どもたちのために基準を欧米なみにしてください。
2477	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品の安全は消費者の願いです。再評価お願いします。

2478	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こんなに高濃度でも OK などとんでもありません。国民の健康を守るために、欧米なみに『ゼロ』をめざすべきです。
2479	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ◎PFAS をどのくらい摂取するとガンのリスクとなるのか？ ◎住民の血液検査を業政でも実視すると。
2480	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 また、EFSA、EPA 等と共同して用量推計モデルの統一的なモデルの構築を急ぐことを求めます。
2481	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の摂取許容量は、アメリカやヨーロッパと比べて、なぜ非常に高いのでしょうか？同じ人間なのにと思うと日本の食品安全委員会で出した許容量の高さは驚きです。
2482	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 取り込み量をへらすことは、当たり前すぎるほどに当たり前です。こんなことをやらないことは、国民の命を何とも思っていないことです。そういう政治、内閣はすぐにやめて下さい。
2483	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康被害を未然に防ぐ為にも再評価をお願いします。欧米は「PFAS ゼロ」をめざし対策を進めようとしているとのこと。日本も「ゼロ」を目指して欲しい。未来も安全で安心して生活できるように。
2484	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私も PFAS の検査受けましたが（23 年 3 月？）基準値を超える 31 μg の値が出て不安な思いをしています。汚染源がどこに有るのか明らかにして欲しいと思います。
2485	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 上記よろしくお願いします。
2486	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 他国に比べ緩い規準を提案している合理的な理由の説明を求めます。
2487	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2488	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2489	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2490	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見

	に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2491	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2492	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2493	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2494	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2495	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2496	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2497	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2498	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2499	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2500	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2501	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2502	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2503	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2504	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2505	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 国民すべてが安全、安心に毎日を過ごすためには、国が国際的な疫学調査の結果・知見に基づいて国民の健康を守ることです。
2506	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者

	等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 私も血液検査で高値をです。再評価が早急に必要です。
2507	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 2 年前腎臓ガンの診断で、右腎の切除されたが、今後 PFAS 問題で検査したい。
2508	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 食品安全委員会が、今回答申した PFA の摂取許容量は世界と比較して高すぎます。大幅に許容量を下げて下さい。
2509	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 PFAS の摂取許容量を欧米なみに引き下げてください。
2510	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 健康への影響が否定できないものには、許容量をゼロに近づけるべきと考えます。再評価をして下さい。
2511	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 誰のための食品安全委員会なのでしょうか。摂取量を減らすためにも許容量は下げるよう再評価して下さい。
2512	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 許容量をもっと下げるべきと思います。食品安全委員会の信頼が損なわれます。
2513	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 毎日、口にする水の安全を守って欲しい。
2514	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上、摂取量を減らすことを最優先にするため、再評価を求めます。」 未来をになう子供達を大事にして下さい
2515	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 欧米よりも『ゆるい』摂取許容量基準がなぜそうなのか理解できません。
2516	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 この件に関して業務に携る方々にお願いします。どうぞご自分のことに置き換えてお考え下さいますよう切にお願いします。
2517	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今回の評価、評価に値しません。もっとちゃんとやっていただきたい。再評価を強く求めます！！
2518	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全を第一に考えて影響がない基準に最優先して下さい。
2519	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 もっと PFAS に関して積極的に公報して下さい！！
2520	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を引き下げて下さい。
2521	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の健康が心配です
2522	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国の食品安全委員会が出した安全基準案はアメリカの 200 倍です。この基準で摂取しつづけたら子供たちの健康が心配です。国は健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでほしい。国民を守ることは、軍備の拡大ではなく、水や食の安全を守ることだ。
2523	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米国やその他の国の企業が開発し、その有害性を認識している事を隠して、日本国内での規制を甘くするなどもっての外です。考え方が人体実験ではないか。
2524	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	水俣の水銀中毒の様に明らかな結果が出てからでは遅い。世界中で用心しているのに、日本だけが突出して許容量が高すぎる。
2525	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 明石市は水道に PFOA・PFOS が含まれていても、真剣に取り組んでいない。最低でもアメリカの基準に日本も引き下げるべきである。
2526	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の健康が心配です。
2527	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS 問題をメディア等にもっと呼びかける事が必要かと思います。
2528	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民をモルモットにするのですか？命・健康を守もる強い基準を!
2529	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来ある子ども達に安全・安心の環境を作るのは大人の使命だと思います！！
2530	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパやアメリカでは、問題点を調査 1 人当たりの許容量がとても低い問題物質なのに、日本の基準が高すぎます。未来の子らへの影響がこわいです。
2531	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 民主主義国家なので、PFAS に関するデータの開示を求める。摂取許容量の値を欧米の値に下げてほしい。
2532	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA の発がん性、不安です。欧米並みに日本も規制強化を！
2533	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守って下さい
2534	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2535	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2536	有機フッ素化合物評価書（案）を拝見しました。Q&A も、また様々な情報も読ませてもらいました。アメリカ、ヨーロッパの基準と比べて日本の許容量が高すぎること。発ガン性の評価が低すぎると感じました。 証拠は限定的という判断は理解できません。私達の日常生活で広く使われている物質であり増えていることから、人体への蓄積、土壌、水の汚染について規制を厳しくし、また使用について強く注意喚起すべきだと思います。 規制強化と国内への使用制限、注意喚起を求めます。
2537	科学的にはっきりしないことを理由に今までずいぶん公害問題で国民が苦しんできました。ぜひ予防原則に基づいて対策を行って下さい。
2538	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 何度同じあやまちを犯すのですか？
2539	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今日、公害となり得る物質は時代遅れだと思います。改善・対策を求めます。
2540	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 いい加減なことを言うな！！
2541	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2542	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康は取りかえしのつかないかけがえのないものです　欧米並みの基準を
2543	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心できるように規制を強化してほしい。

2544	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2545	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アスベスト問題の愚をくり返し、歴史に汚名を残すつもりですか。
2546	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本だけが異常にゆるやかな基準値になっていること自体、科学性を疑います。現在と未来の国民のいのちと健康を守って下さい。
2547	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康のため、ぜひ規制強化をお願いします
2548	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な水を飲めるように規制強化して下さい
2549	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も国際レベルに基準をあわせてほしい
2550	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2551	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2552	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめて、ドイツや米国の基準並のしっかりした基準（規制値）を作って下さい。
2553	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子と孫の健康を守って下さい。
2554	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準きびしくしてほしい
2555	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も正しい規制をしてほしい。
2556	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ゼロをめざしてガンバって下さい。
2557	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちの健康を守って下さい
2558	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 体に害のあるものは減らして下さい　心配で水も飲めません
2559	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今の子ども達の生命を守ることを、大切にしてほしいです。安全な水道水に。
2560	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2561	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安です。規制強化をして下さい。
2562	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際基準にあわせるべきです
2563	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命の水が汚染されているのは不安です！国際規準でしっかり規制してほしい！
2564	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 海外では危険性がはっきりしているのに日本では規準がゆるすぎる！対応を！
2565	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 不安がいっぱいです　未来ある子どもたちの健康を守って下さい
2566	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 何故、国際的評価と同程度でないのかわからない。早く規制の方向にいってほしい
2567	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからの子どもやまごを健康な体で
2568	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい！！
2569	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供の健康を守って下さい。
2570	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
2571	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
2572	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食の安心・安全を守る政策をして下さい
2573	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
2574	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってほしい。
2575	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発ガン性評価を取り入れないのはおかしいと思う。
2576	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
2577	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価をなぜ取り入れいないのか安全性を議ろんしてほしい
2578	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2579	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 皆が健康でいれる世界を！

2580	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本もPFAS 0を目指せ！
2581	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量が国際的な基準と比べて大きく異なるので見直しを検討してほしいです。
2582	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 市民の健康を守ってください
2583	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 しっかり規制してほしい
2584	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもらの健康をまもって
2585	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 海外と同じ規制をしてほしい
2586	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準をアメリカ並みにする。
2587	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもらの健康を守って
2588	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や大切な人を健康に守って下さい
2589	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2590	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
2591	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こんなにキケンなものが身近にあることを知りませんでした。こどもたちを守って下さい
2592	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康な食品が未来をつなぐ
2593	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康被害につながらない評価基準を！
2594	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 検査をして、必要な対応をして欲しい。
2595	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 きちんと調査してほしい。今後健康被害出るかもしれないのが怖いです。
2596	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 怖いので、きちんとしてほしい
2597	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ちゃんと調査してください
2598	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 検査お願いします。
2599	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の害は知らない人が多い（私も含め）新聞等でもっと取り上げて欲しい
2600	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
2601	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
2602	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもの健康を守って下さい
2603	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
2604	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発ガン性物質の規制強化を
2605	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 フライパンをフッ素加工にしないで下さい。
2606	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 （水道局の）水道水以外のんだことないのでこわい。たれ流しはダメ。

2607	米国や欧州と比べあまりにも高い摂取許容量の数値に驚いています。子や孫世代の健康被害を未然に防ぐよう、汚染対策を早急に進めてください。
2608	安全委員会が 2 月 6 日に発表した審議結果について、許容摂取量があまりにも高いので、せめてアメリカ並みに引き下げてください。 私は、国分寺市に 43 年在住していますが、地下水や井戸水など汚染が広がり、健康への影響が懸念されている有機フッ素化合物は発がん性のリスクなどが心配です。 数年先、または数十年先に、こんなはずではなかったではすまされません。将来の子どもたちにキチンとした説明ができるよう、ぜひ血液検査をすすめ疫学調査を実施し、将来にも正しい情報をしめしてください。 最後に、国際がん研究機関（IARC）等、世界の知見を取り入れてください。
2609	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは『PFAS ゼロ』をめざしている。日本も規制してほしい。
2610	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って！！PFAS ゼロを！！
2611	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性 1 になり不安が増しています。規制強化を！
2612	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 関西は PFOA に汚染されています。食品の PFOA の規制を強化して、守って下さい。
2613	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFHxS は子どもへの影響があります。EFSA の指標値を採用して下さい。
2614	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA は発がん性物質です。ヨーロッパのようにきちんと規制して下さい。
2615	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私たちの命を健康のためにも規制をして下さい。
2616	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	国際的な発がん性評価の取り入れを
2617	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価取り入れないのはおかしい。子や孫の健康を守って下さい。
2618	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパやアメリカのように、日本も PFAS を規制して下さい。
2619	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本もきちんとした規制をし、国として国民の健康を守る責任を果してください。
2620	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康が害されているなんて、本当に心配です。日本でも規制してほしい！
2621	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の食品安全委員会の発がん性規制はゆるすぎます。ヨーロッパのように PFAS 全品目を規制して下さい。
2622	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の食の安全を守って欲しいと思います
2623	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命にかかわる問題です。あきらかにしてほしい。
2624	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価取り入れるべきです。国民の健康を守るのが国の仕事、役目です!
2625	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい
2626	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発ガン性評価を取り入れて下さい。
2627	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2628	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 次世代の健康に責任を！
2629	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守って下さい。基準をきびしくして下さい
2630	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2631	日本は安全な国だと信じていたのに許容量の値を見て我が目を疑いました。国民の為、いや、世界中の生物の為、考え直して欲しいです。
2632	PFAS の数値がアメリカと 200 倍もあるなんて驚きです。こんなに高い数値なのに何もしないなんてどう考えてもおかしいと思います。
2633	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2634	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「永遠の化学物質」PFAS は多様な毒性を持っています。「海外機関による評価を踏まえ」とあるが、ならば、欧州の 60 倍、アメリカの PFOA、PFOS をそれぞれ 4 ng 未満という大幅規制をどう評価したのでしょうか。今回の示された許容量を摂取し続けた場合、血中濃度レベルは はるかに超え、国民の健康影響による国の損失は、はかりしれません。「予防医学」の時代に突入しました。日本も先進国並みに、「国民を守ることは、国を守ること」に力をそそぎましょう。よって、アメリカ並みの規制値を望みます。
2635	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
2636	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
2637	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
2638	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的発ガン性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化して下さい。
2639	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫の健康を守って下さい。
2640	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れ、安全な日本を守ってください。
2641	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2642	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
2643	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもや孫、ひ孫の健康を守ってほしい。
2644	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性ランク 1 とはとても恐いことです。子供達又孫の健康が心配でなりません。
2645	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 次世代のために、あいまいや先送りせずに取組んで下さい。
2646	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 次世代の子のために健康を守ろう。
2647	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2648	①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余・・・その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ②米軍基地内の環境調査もお願いしたい。
2649	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂津市に 55 年住んでいます。ダイキン工業が長年 PFOA を工場から流していたとは全く知りませんでした。子どもや孫への健康被害が心配です。国際的な基準を守るべきです。全国で同じことがおこっている今基準をきびしくすべきです。
2650	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。お願いします。
2651	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
2652	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	国に調査してほしいです。
2653	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと調査して下さい。
2654	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと調査して下さい。
2655	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 調査して下さい。
2656	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 よろしくお願いします。
2657	私は 70 歳代の女性です。沖縄の子や孫の健康が PFAS 汚染にまみれ「その影響がでているのではないか」という不安を抱いています。小泉昭夫氏（京都大学名誉教授）の調査によって、沖縄で 1980 年代以降続く PFAS 汚染が明らかになりました。「とりわけ PFAS の健康影響として新生児や胎児の発育抑制が強いエビデンスが得られた」と記されています。「出生時体重の低下」は沖縄では重大な問題です。内閣府食品安全委の評価案は「PFOS、PFOA について血清 ALT 値の増加、血清総コレステロール値の増加、出生時体重の低下、ワクチン摂取後の抗体応答の低下との関連は否定できない」と記しています。貴殿の評価書案には「耐用 1 日摂取量」を PFOS、PFOA それぞれ体重 1kg あたり 20 ナノグラムとしているが、EPA や EFSA と比べ非常に高い価です。水道水の基準値を限りなく「0」に近づけて下さい。「少子化」が不安視される時代、国は率先して子ども・若者の健康を守って下さい。
2658	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業が一流企業であるならば、社会的責任も一流な果たし方をすべきです。
2659	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめてアメリカ並みの基準にしてください。
2660	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
2661	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2662	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
2663	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な食品健康影響評価をとり入れるべきだと思います。
2664	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米の基準と比較しても発がん性物質の許容量が大変甘く、企業利益を優先させていることが明らかであり、日本の政治は原発行政と同様、国民の命を軽視していますね。この事実を早急に多くの国民に伝えると同時に、許容量の基準見直しをして下さい。
2665	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康のために　基準を正して下さい。
2666	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 心配なので減らしてほしいです。
2667	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供もいるため、心配がある。
2668	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい！！
2669	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA に対して不安があります。規制強化して下さい。
2670	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国はきちんと調査してほしい！！
2671	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2672	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2673	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国はきちんと調査してほしい！！
2674	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増しています。規制強化を！
2675	各務原市の水の汚染水の件心配です。どこが原因なのか調べてほしいです、PFAS 汚染。
2676	PFAS は 1 万種類以上存在すると言われています。未規制の PFAS についても積極的に有害性調査研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐための対応策を急いで下さい。欧米では代替物質を含む PFAS を規制しようとしています。自然環境下で分解しづらく蓄積しやすく、人の体内にも長くとどまるという PFAS、様々な製品にも使用され、至る所に存在する PFAS、日本も代替物質の毒性評価をして下さい。 2024.3.6
2677	明石川東側に住んでいます。健康被害が心配です。日本の基準をせめて米国並みにきびしくしてほしいです。明石の魚も不安です。国としての調査をお願いします。
2678	食品、水、あらゆる所に使用されていると聞きました。未来の子供達にも影響のある有害物質に対して早急に対応する必要性大と思います。製造に関しても、高い基準もうけるべきです。
2679	健康被害が出てからでは遅いので基準値を高め、未然に健康被害を防ぐようにしていただきたい！
2680	健康被害が出てからでは遅いので基準値を高め、未然に健康被害を防ぐようにしていただきたい！
2681	きちんと住民の健康調査をしてください。基準をアメリカ並みに厳しくして下さい、安心して飲める水道水を求めます。
2682	きちんと住民の健康調査をしてください。基準をアメリカ並みに厳しくして下さい、安心して飲める水道水を求めます。
2683	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS は多数存在すると言われていますが、食品安全委員会の評価はたった 2 物質のみと聞きました。未規制 PFAS についても積極的に有害性調査研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐために早急に対策をとって下さい!!
2684	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS をどのくらい摂取するとガン発生リスクがあるのか知りたい。今こそ、国は全国で調査し、PFAS の発がん性の評価・管理をしていってください。
2685	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 「がん」になりたくてなっている患者様はいない。苦しい闘病生活を見守るしか医療者にはできません。それ以前にがんにならないよう個人が注意できるような知識・情報を正しく発信してほしいと思います。
2686	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ、他国では基準値など決め対応しているが、日本ではその情報提供、事実報告が遅かった。健康被害がでてからではなく、安心して生活できる様に早めの情報提供や国の方向性を出してほしい。
2687	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性について気になるため、しっかり調査してほしい。調査した上で対応を早急にお願いしたい。
2688	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の基準値を海外の基準に沿った安全性の高い値にして下さい。
2689	大阪摂津市の市民団体で行った血液検査の結果、摂津市民 80 人の中で最も高い PFOA の血中濃度が測定されたのはダイキン工業（株）淀川製作所内で働いていた下請け企業の労働者でした。同様の問題が起きている静岡市内の化学メーカー

	では退職者を含め従業員の血液検査を行いました。ダイキン工業（株）には、退職者や下請け企業の労働者を含めた全従業員を対象とする血液検査を実施されたい。日本の PFAS 規制は甘すぎです。再検討されたい。
2690	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大阪では PFAS 汚染が広がり、特に摂津市では PFOA 製造メーカーのダイキンの工場があり、汚染は深刻です。今回の食品安全委員会の規制はアメリカ、ヨーロッパに比べて基準が甘いです。再検討をお願いします。
2691	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 環境汚染は後世に禍根を残します。国際的な疫学調査のもとで将来の国民の健康・安全を保障すべきです。
2692	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人を怖がらせることは簡単。だけれども、人を安心させるのは難しいと思うが世界の中でも水道水が飲める少ない国として水がきれく、安心と言い続けてきて、これからも言い続けていくためには世界よりも厳しい基準を新につくり、人々を保護する対策も行っていく必要があると思う。
2693	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界並みの基準にしてほしい。
2694	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界的な PFAS 規制の流れを後追いするだけでなく、一歩先んじるような改正を求めます。
2695	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	摂取許容量が多すぎる。国際的な評価を取り入れ国民の健康を守ってほしい。
2696	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
2697	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 審議結果（案）では、健康被害があるともないとも言い切れないものに対して「ない」と見なしている部分が多いように感じる。人の命に関わりかねない事象である以上、十分なデータが集まるまでは慎重になるべきだと感じる。
2698	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康によくない物は規制してください。
2699	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発ガン性が疑われているのに、きちんと調査をしない、規制しないのは、大問題です。国民の健康を守ることを第一に考えてください。
2700	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 有機フッ素化合物全てを食品に使うな！
2701	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちゃんと規制してください
2702	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米

	国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私達の健康を害する物質は規制を！
2703	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 他国では、規制されている物を、当然のように使いつづけることには、疑問を感じます。
2704	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 発がん性物質の規制を、欧米並みにしてください。
2705	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国が栄える為には、まず国民ファーストで
2706	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 企業の利益優先でなく、国民の健康を第一に考えた基準を
2707	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の判断は原発再稼働と同じ様に感じます。特定の大企業にそんたくする判断はやめて頂きたい。
2708	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2709	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2710	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2711	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと実態を把握するように努めて下さい。
2712	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私が乳児の時は、徳島のヒ素ミルク事件がありました。母は仕事をやめ、私と弟（年ご）を母乳で育てました。その話を聞き、食品への安全について、生涯の関心ごとになりました。PFAS は、健康に大きな影響を与えます。量を減らすことを最優先すべきです。
2713	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国民のいのちと健康を第一に考えた基準にして下さい。アメリカやヨーロッパ並みの基準にするよう、求めます。こどもたち、これからの人たちのため、もう一度考え直して下さい！！
2714	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たち、人間のそして生態系への影響が心配です。日本でも規制を強めて下さい。

2715	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA に発ガン性があると言われているのに　日本でそれを認めないのはおかしいです！市民の健康を守って下さい！！
2716	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパ並みの基準を、日本でも考えてほしいです。これからの、日本をになう、子どもたちの健康が心配です。
2717	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界的に規制強化が進む中、日本でも規制が強められると思っていました。子どもや孫の健康が心配です。もう一度、考え直してください。
2718	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 自主的な血液検査が広がり、アメリカの基準を上回る高い値が多くの人から出ています。規制を強め、原因企業に対策させることで、市民の健康を守るべき。再検討を！
2719	2 月 22 日に公開されました「有機フッ素化学物（PFAS）の食品衛生健康評価書（案)」に対してのコメントをお送りいたします。食品安全員会のワーキンググループでは PFAS の許容濃度の設定基準をお決め戴きまして誠にありがとうございました。しかし、姫野誠一郎先生のご講演については、「PFAS の毒性メカニズム」に関する見解が全く述べられていませんでした。このことは、「PFAS の毒性メカニズムはまだ未確定である」との立場から、このような発表になったものと思われます。しかし、ご講演で引用されましたように、すでに「北海道コホート」では、広範な研究調査によって、PFAS の毒性の主体は「エピジェネティック毒性」であることを多くの論文によって結論されておられるものと考えられます。「PFAS の毒性」に関しては、ともすれば水や土壌における「PFAS の異常な残留濃度」のみが喧伝され、むしろ国民の不安をあおっているような状態です。このような状況において、国民に安心していただくためには、それらの残留濃度よりも、「PFAS の毒性メカニズム」をいち早く解明し、それに基づいた毒性評価を迅速にまた正確に実施し、国民に正しい毒性情報を提示することであると思います。私達は「FPAS の毒性」は、その毒性メカニズムが完全に解明されてこなかった「内分泌かく乱化学物質； EDCs の毒性」と類似したものであり、その本体は「エピジェネティック毒性」であるものと考えております。さらにこれに関しては、これまでの生殖･発生毒性の概念を超えた、「継世代エピジェネティクス遺伝： Transgenerational epigenetic inheritance :TEI」という新しい毒性事象も求められつつあります。TEI はすでに多くの EDCs について動物実験で確認されており、ヒトにおいてもその誘発が懸念されております。PFAS においても TEI が誘発される懸念も考えられます。 過去のさまざまな「食品公害」においても、慎重を期する余りその対応に遅れが生じ、結果として多くの国民に被害が及んだ例が多くありました。「エピジェネティック毒性」はまだまだ新しい概念です。しかし、私達は、この「エピジェネティック毒性」によって、PFAS に関する正確な毒性評価が得られることを切望しております。「エピジェネティック毒性」はこれまでの毒性学で未知であった諸問題の解決に大いに貢献することが期待されています。結論になりますが、私どもの申し述べたい点は、PFAS に関する毒性研究を「エビジェネティック毒性」を基盤として迅速に推進していただきたいということであります。 追伸：「継世代エピジェネティック遺伝： Transgenerational epigenetic inheritance」とは、世代試験において、直接被験物質にばく露されていない世代においても、何らかの毒性兆候が認められる現象です。これはばく露された世代の生

	殖細胞に何らかのエピジェネティックな変異が生じ、これが代々伝達されることによるものと考えられております。
2720	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量がアメリカの 200 倍、とんでもありません。危険性があるなら、微量でも許容すべきではありません。
2721	10 年間ほど、ダイキン工業淀川製作所内で、働いていました。同居家族と一緒に血液検査も受けました。結果は、私だけが、非常に高い数値でした、周辺住民だけでなく、勤務している人にも検査させるべきだと思う。国民の健康に関してもっと目を向けて欲しい。
2722	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。
2723	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS そのものを、まだ知らない人は多いと認識しています。もっと々、皆んなに知ってもらう事が必須。
2724	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 職場で聞くまで知らなかったのでもう少しマスコミ等でもとりあえず　周知してもらえたらと思います。
2725	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今の健康、未来の健康の為、疫学調査を行い、使用量をへらすとりくみをお願いします。
2726	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 今まで特に気に掛けることもなかったですが、今回自分自身も検査をうけて考える機会が持てて良かったです。
2727	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を

	示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 適正な基準を設けることで守れる命があります。国民、住民の命　第一の基準を作って下さい。
2728	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして！
2729	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい！
2730	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 堺市の百済川では、近くの小学校の児童が川の清掃を行っていました。心配です。日本の有機物質規準は、企業頼りで甘すぎです。
2731	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制強化を！
2732	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の摂取許容量（案）は、PFAS をできるだけとらないようにという国際的な流れに逆行しています。見直しを求めます。命、健康を第一に。
2733	危険な水は飲みたくない。血液検査をしましたが、高い値でおどろきました。
2734	キケンな水は飲みたくない。
2735	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守って下さい。
2736	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の未来の為　基準改定を！

2737	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の健康の為に基準値見直しを！
2738	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 がんになりたくない！基準値見直しを！！
2739	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康な生活を希んで
2740	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業は責任取れ
2741	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守って下さい。
2742	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちゃんとしてほしい
2743	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちゃんとしてほしい
2744	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 子どもたちの為にもちゃんとしてほしいです。
2745	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 このようなことがあったことすら知りませんでした。規制すべきです。
2746	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も厳しくすべき
2747	東京新聞 2024 年 1 月 26 日の記事によると、発がん性が疑われる有機フッ素化合物（PFAS）の健康影響を評価する内閣府食品安全委員会の専門家会議「PFAS ワーキンググループ」は 26 日、東京都内で会合を開き、ヒトが 1 日に食品や飲料水などから摂取する許容量について、PFAS の一種である PFOS と PFOA の 2 物質でそれぞれ、体重 1 キロ当たり 20 ナノグラム（ナノは 10 億分の 1）との指標を了承した。水道水の暫定目標値の算出で採用した指標を飲食物全体に広げた形だが、欧州食品安全機関（EFSA）が採用する摂取許容量を 60 倍以上上回っている。評価書では、米国環境保護庁（EPA）が 2016 年に摂取許容量算出に用いた研究を採用した。一方、EFSA が 20 年に設定した許容量は体重 1 キロ当たり 0.63 ナノグラム。今回の許容量は PFOS と PFOA の合計は 40 ナノグラムで、EFSA の数値の 64 倍となっている。」と記載されている。 なぜ欧州食品安全機関（EFSA）が採用する摂取許容量を 60 倍以上も上回っているのか、それで本当に安全といえるのか、全く納得できない。 以上
2748	有機フッ素化合物 PFOS と PFOA のヒトの 1 日の許容摂取量を体重 1 キログラム当たり 20 ナノグラムとする指標値は、ヨーロッパの食品安全機関が 2020 年に定めた許容摂取量が、これら 3 物質と PFNA の 4 物質の合計で体重 1 キログラムあたり 4.4 ナノグラムであり、今回の指標値は 60 倍を超えます。アメリカの環境保護庁が 2023 年に提案した摂取許容量は PFOS が 0.1 ナノグラム、PFOA が 0.03 ナノグラムであり、PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍です。世界保健機関傘下の国際がん研究機関が昨年 11 月に公表した評価結果でも PFOA を「ヒトに対して発がん性がある」と分類しています。こうした国際的な知見を踏まえるべきです。PFHxS についても「指標値の算出は困難」としましたが、ストックホルム条約で製造・使用が禁止され、日本でも第 1 種特定化学物質として製造と輸入が禁止されています。 食品安全基本法は「国民の健康の保護が最も重要であるという基本認識」を規定しています。今回の許容摂取量では健康被害が発生することになります。よって、許容摂取量の再検討を求めます。
2749	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の安全基準が緩すぎ。日本も国際的な規準にしてほしい。
2750	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
2751	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
2752	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私の家系はガン系統であり、従弟が 3 人ガンで亡くなっています。脳や心臓の心配はなく、ガンのみが恐怖です。
2753	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性物質を問題なしとしないで！子どもや妊婦を守って。
2754	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並の基準にしてほしい
2755	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
2756	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 より安全な基準を作るのがあたりまえではないですか
2757	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。アメリカ並みの基準にして下さい。
2758	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 どうして当然のことが規制されずに放置に近い状況は許されません。
2759	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	食に対する安全基準は大変重要だと‥‥
2760	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2761	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
2762	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 目に見えないものが今回、検査によって、明らかになった。私、家族、地域の方々含め、このまま、何の対策もとらず放置することは絶対にダメだと思います。健康で安心できる生活を守るための政策をすすめるのは、国の責任です。知らないあいだに命の危険をおびやかしている現状、ぜひ対策をすすめて下さい。
2763	・PFAS の摂取許容量が日本は緩すぎる。欧米並みの基準にするべき。 ・大阪ダイキン工場の下流にある淀川の浄水場の水を何十年も使用している。大阪府・市の責任で府・市民の血液検査を実施してほしい。
2764	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全を優先してほしいです。
2765	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 0.03 ng/kg/日
2766	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
2767	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」

	同じ人間なのに日本はどうして欧米と数値がちがうのでしょうか、おかしいと思います。まじめに検討して下さい。
2768	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人の命を守ることを最先して下さい！
2769	東淀川区に住んで 50 年以上になります。知らず知らずの内に私達の体をむしばんでいると思うとくやしいです。未来ある子供達の為にダイキン、国にしっかりと責任を取らせて下さい。
2770	内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）」の健康影響についての食品安全委員会における評価書（案）」（以下、「評価書（案）」）では、PFAS の中の PFOS と PFOA の耐容 1 日摂取量（TDI＝毎日摂取し続けても安全とされる量）をそれぞれ 20 ng/kg/日という案を出しています。 　この許容摂取量「20 ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当すると言われています。米国アカデミー3)の臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20 ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会は、なぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのでしょうか。 また、この許容摂取量を基にしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないことです。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのでしょうか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきです。 この摂取許容量（案）が確定すると、日本の赤ちゃんは乳児（5 kg）でも「200 ng/日まで PFAS を摂取しても安全ですよ」という計算になります。その値は米国の 200～600 倍以上です。 赤ちゃん（5 kg）では、 日本：200 ng/日　※PFOS 100 ng/日、PFOA 100 ng/日。 欧州：3 ng/日　※PFOS、PFOA、PFHxS、PFNA 合計。 米国：0.65 ng/日　※PFOS 2 ng/日、PFOA 0.6 ng/日。 また、PFOA への暴露で出生体重が低下する知見が多く報告されていますが、日本は OECD 加盟国の中でも最も低体重児の出産が多いことが知られています。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち、総合的な判断を行うよう求めます。 日本は EPA が 2016 年に採用した古い動物実験結果を採用していると言われています。また、すでに体内汚染がある住民への健康影響については、考慮されていません。 昨年 12 月に国際がん研究機関（IARC）が PFOA を「ヒトに対して発がん性がある（グループ 1）」、PFOS を「ヒトに対して発がん性がある可能性がある（グループ 2B）」と分類しています。 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると考えられます。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないでしょうか。欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。
2771	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 保谷給水所を使う積極的理由があるのでしょうか？PFAS をしのぐものがあるのなら示していただきたい。
2772	食品安全委員会の評価対象は PFOA、PFOS の 2 物質になっています。すでに規制対象になっている PFHxS が入っていないのはどうしてでしょうか。代替として使用されている PFAS についても有害性は不明なため、欧米では代替物質を含む PFAS をグループとして規制しようとしています。自然環境下では分解しにくく、体内にとどまりやすいという性質は、多少の差異はあっても PFAS 全体に共通する特徴であり、規制の対象にするべきです。予防原則にもとづき、あらゆる PFAS を評価対象に含め、評価をやり直すことを求めます。
2773	審議結果を読みましたが許容摂取量を２０にした根拠が不明です。 また欧米より著しく高いのも納得できません。 この際欧米に匹敵する許容摂取量を目指してください。
2774	大阪府内の病院で医師をしていますが、住民の血液検査が行われて局地的に PFAS 血中濃度が高いことがわかってきており、健康影響についての不安が広がっています。PFAS の健康影響については不明な点も多いですが、アメリカ・ヨーロッパの基準を大幅に上回る基準の設定は根拠に乏しく、不明であるだけにより安全に配慮した設定にすべきと考えます。基準を再考していただきますようお願いします。
2775	今回の審議結果について、海外の基準からみると、安全基準を大幅に上回る濃度の汚染が確認されているにも関わらず、摂取許容量を現在の基準のまま変更しないというのはおかしくないでしょうか。 今回の報告を読んで、「まだわからないことが多いから当面このままの基準を維持する」という印象を受けました。 分かってからでは遅いこともあります。すでに、アメリカのように現在の日本の 10 倍の基準を設けている国もあります。そのままにするのであれば、その基準が間違いであることを証明する必要があるのではないでしょうか。 水道水は私たちの生活になくてはならないものです。その安全性が揺らいでいる中で、現在の基準で絶対安全であるとのエビデンスもないなかで、このような判断をしないでほしいです。
2776	P.1 PFAS の食品健康影響評価書（案）を拝読しました。作成に当たってはいろいろと困難な問題があったことがうかがえますが、この文書には、PFAS リスク評価のみならず、リスク評価のあり方についての基本的な問題があると感じています。

	大部の文書であり、気づいたことすべてを記載できませんが、以下に評価書（案）ついて、質問とコメントを数点記載させていただきました。ご検討いただくようお願いいたします。 1. 最新の科学的知見を取り入れていないのでは？ この評価書（案）は、リスク評価の対象とした PFAS 物質として、リスク管理機関による規制がなされるものとして、PFAS 分子種のうち、PFOS, PFOA, PFHxS の 3 種類を取り上げている。 食品安全委員会がリスク管理機関からの諮問によるのではなく、自らの判断でこのリスク評価を行った点は時宜を得たものだが、そ うであれば最新の科学的知見を踏まえて、近い将来においても通用するリスク評価とすることが望ましいのではないか？ {続く}
2777	私は岐阜の各務原市に住んでいます。PFAS の問題が出てから検査を受け、異常値をもらってます。しかしどこが汚染源なのか確定しておらず、原因がわからないと本当の対策が取れず、汚染水は無くならないと不安な気持ちで過ごしています。子供や孫たちにも危険が及ぶようでは安心して暮らす事ができません。PFAS ゼロを目指す政策をとって欲しいと思います。このままでは日本の危機だと思います。よろしくお願いします！
2778	P.2 評価書（案）にも記載されているように、米国環境保護庁 US EPA では、既に 9 物質についてのリスク評価を行っている。すなわち、US EPA は、PFAS 化合物のうち、9 種類（化合物及びその塩と構造異性体）を有毒物質と判断し、the Resource Conservation and Recovery Act (RCRA)において規制することを 24 年 2 月 8 日付で提案している。規制の根拠は、科学研究の結果に基づくとしており、その内容は、日本の官報にあたる連邦官報（Federal Register）にて開示されており、パブリック・コメントを 24 年 4 月 8 日まで受け付けている。また、評価書（案）が引用している米国科学工学医学アカデミーは、2022 年に PFAS に関する報告書をまとめている。これによれば、曝露との関連について、7 種類の PFAS 分子種を用いて血清濃度を管理することを提言している。{続く}
2779	PFAS 基準値、再評価を求めます。 欧米並みの数値を希望致します。 安心して水道水を使いたいです。 宜しくお願い致します。
2780	ご尽力いただき誠に有難うございます。以前から PFAS に関心があり、下水処理施設の見学などに伺ったりしながら、情報に触れる努力をしてきましたが、心配が募るばかりです。海外では禁止されているものが日本では基準が緩いことが多々あり、PFAS もその一つであると言わざるを得ません。何卒今後も情報の開示をよろしくお願い申し上げます。
2781	私たちもですが、子どもたち、また未来の子供たちが心配です。 日本は世界の動きに反して、どうして何もかも危険なものの基準を緩和するのか？ 規制は厳しくしてください。 このままでは地球が疲弊し、持続可能とはならないと思います。
2782	大阪市東淀川区にある診療所の職員です。 摂津市のダイキン工場に近く、全国でもまれにみる PFAS 汚染地域です。患者、職員も多く住んでいる地域であり、皆情報が出るたびに不安に駆られています。一番不安なのが、国際的な発がん性基準を取り入れておらず、今後健康被害が出た際の保証等が十分にされないのではないかということです。国、企業がしっかりと責任を果たすものにしてください。
2783	米国や欧州と比べ高い許容摂取量がけた違いに高いです。 食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 日本の水道水は安全だと思っていました。このまま基準を作れば内閣府が国民の発病に関与することになります。再考をお願いします。
2784	長期にわたる身体の負担を懸念している。海外基準より大幅に高い基準値にも疑問を感じる。孫たちの将来を考えると、基準値を下げていく方向に今の世代のわたしたちが考えるべきことではないだろうか。再度基準値を下げるようお願いします。
2785	知らぬうちに進んでいる環境汚染で、知らぬうちに健康被害が出てしまう恐ろしさ、それらを公にしない国で過ごすことが怖くて仕方がありません。水は生きて行く上で必要不可欠です。未来のためにも、これから生きて行く日々の安全のためにも、対応と対策を後回しにせず、国にしかできない行動をしてくれることを願っています。今だけでは無い環境を人々をどうか、守ってください。
2786	日本の安全基準値の設定が、アメリカやヨーロッパと比べ、あまりに高い数値に設定されている。水は生きていく上でなくてはならないものであり、それを安心安全に使用できないというのは大いに問題があると思います。ガンで苦しんで亡くなる人を多く見てきました。国民の安心安全をもっと真剣に厳しい目で考えて守っていってもらいたいです。
2787	東京多摩地区のＰＦＡＳは基準値を大幅に超えています。(そもそも基準値が欧米と比べ緩すぎ) 水道の民営化にも反対します。 また、これは体内で永遠に分解・排除されない化学物質であり、将来的にどういう影響を及ぼすかは解明されていません。自身の影響のみならず、その先の受け継ぐ遺伝子である子孫の世代まで影響する可能性すらあるのです。 そうなると日本人は滅びます。そうなることが目的なのでしょうか？ 私の住む武蔵野市も汚染されており、料理やお風呂に入るのに毎日使用しますが将来的な影響が懸念されます。 水は人間が生きていく上で必要不可欠であり命の水です。改悪するなんて許されない。日本の命である大切な水を守ってください。
2788	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚きました。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いと聞いて不安です。「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当すると。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのですか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだと考えます。 東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると聞きました。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないでしょうか。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしているときいています。日本も「ゼロ」を目指すべきではないでしょうか。また、この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。

	子どもたちの健康を考えると心配でとんでもないと思います。
2789	人の体に水は欠かせない、命にかかわる大切なもの。 どうして日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。 日本に住む人の命を軽く見過ぎている。水質基準を米国並みに見直すべきだ。
2790	内閣府食品安全委員会の案の基準は低すぎます。昨年 2023 年 12 月に出された国際がん研究機関（IARC)による PFOA の発がん性の判断を取り入れ、基準を厳しく設定しなおすべきです。
2791	有機フッ素化合物の規制値を引き上げてください。 炊飯器、歯磨き粉、滑走路のコーティング等全てです。 身体に悪影響だという明確な証拠がない＝安全でないかどうかまだわかってない ということです。「はっきりした証拠がないから禁止もしないし、規制値も下げるつもりがない」と読めます。これは国民に対して不誠実です。
2792	府中私は、先の血液検査で、高濃度の値を示しました。府中、国分寺に住んで 65 年です。今高血圧の症状があります。 日本は、アメリカと比較して、所要許容量が 200～666 倍とのことですが、欧米並にして、 生活習慣病、発癌との因果調査して！今まで何故か分からない疾患の増大、今は、もしかしたら PFAS?日本の水の安全安心は、一番崩れてしまった、それどころかか、世界で☆番危険な、水？安全安心をえるためには、原因究明、対策などをしっかりしてほしい。そして次世代、次次世代そのまた、そのまたまで永久に安心安全の水を供給できる水にしてほしい 現政府は、未来の人々に 責任を持ってほしいです
2793	友人の住んでいる京都府綾部市の川で高い濃度が検出された。知人の岡山の吉備中央町でも。 我が子もまだちいさく、調べれば 調べるほど、高い濃度の場所は出てくると聞き、怖くなった。全国で検査を実施してほしい。 また、アメリカ、欧米諸国と、容認してる値が違いすぎて、驚いてしまった。発がん性があることを、可能性があるということだけでも、もっと真摯に受け止めて、取り組んでほしい。日本は、東洋のゴミ、と言われている。 子供の将来が心配になる。 日本に住んでよかったと思える国にしてほしい。 水は繋がっている。
2794	水道の PFAS の基準値を欧州並に引き下げる事を 強く希望します。 また企業からの排水などによる河川の汚染による環境破壊を最小にする為の対策を再構築していただきたいと思います。 水は生命の基です。未来を担う次の世代によりよいものを。どうぞよろしくお願いします。
2795	※示された案は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を越えるもので、とても不安です。明石市でも近隣の川で、産業廃棄物処理場からの排水で高い数値が検出され血液検査の結果、血中濃度の高い方がおられました。欧米は PFAS ゼロをめざし対策を進めようとしています。日本もゼロをめざすべきです。
2796	PFOS、PFOA について日本での免疫データが少ないのにヨーロッパ EFSA の 64 倍の 20ng と判断したことに驚いています。まずは安心して健康に暮らせる 1 日摂取許容量を示してください。再評価をお願いします。
2797	PFAS は最近やっとマスコミ等にも取り上げられやっと一般の人にも知られる事になったけど、都合良く発信しないで身体に悪い影響有る事はしっかり伝えて過去に隠して来たことの反省しこれこらは正確な事を伝えて国民の健康を守ってほしいです。
2798	国民の健康と命をなんだと思ってるのか？何を考えてるんだ？お前ら現役政治家は健康被害が出た時にはこの世にいないから今だけ儲かればいいと思っているだろが長期的に考えて基準を低く見積もるのはやめていただきたい。あなた達の飼い主の国民からの意見です
2799	PFAS の基準について、欧州連合（EU)では 2020 年、アメリカでは今年 2022 年に大幅に引き下げられています。 日本での基準も同じように大幅に引き下げるべきです。 予防原則からは、EU や米国の以前の規制値レベルで困ります。 さて、 今回の評価書案は、海外の評価機関の間で TDI が 10 万倍の差があることの理由を見つけ、科学的に確実性の高い有害影響を見つけることを目的としていると説明されていた。つまり、食品安全委員会は、米国 EPA や欧州 EFSA の審議内容について、科学的に不確実な証拠を元に評価されたものであると批判した内容になっている。科学の世界での相互批判は必須のものであるが、相互批判が成立するためには、今回の評価書案を整理して、英語の学術ジャーナルに掲載するべきである。 また、食品安全委員会の英語のホームページにだけアップするのであれば、その内容を米国 EPA や欧州 EFSA に送付し、コメントを求めるべきである。 さらに、個別の研究論文についても批判を加える以上、掲載されたジャーナルにコメンタリー記事を投稿し、原著者との意見交換を行なうべきである。 その結果は国民に公表すべきである。
2800	PFAS PFOA に限らず、フッ素化合物の規制を欧米や北米並みにしてください。 人の安全だけでなく、環境保護においても重要な決断になります。 早急に問題意識を持って取り組んでくださることを願っております。
2801	母から聞いて、僕達のような学生や子どもの未来を守ろうと思ってコメントしました。 基準値を 0 にしてくれませんか、よろしくお願いします
2802	PFAS の安全基準を厳しくしてほしい。 なかなか分解されない PFAS の危険性はまだわからないことが多くあります。 体内に取り込まれた時にどのような作用があるのかがわかりません。 人間の身体は未知のものが体内に取り込まれた時、一部は内蔵に蓄積されることになります。 これが病気の原因の一つではないかと考えられています。 いつまでも環境に残り続けるとしたら、水を汚し、未来の子どもたちの健康も心配です。
2803	安全に暮らしていく為に、基準値の見直しを求めます！
2804	世界が予防原則に基づいた対応を急速に進めている中、日本は疫学調査などの結果をことごとく否定し、摂取許容量を

	20ng/kg/日としようとしていることに強く抗議します。食品安全委員会が示した「PFAS の許容摂取量（案）」は欧州の60倍、アメリカの200倍を超えるもので、「PFAS」の一部の物質については、WHO＝世界保健機関のがん研究機関が発がん性の評価の引き上げを公表しました。食品安全委員会も「予防原則」に基づき、国際的知見を受け止め、国民の健康への悪影響が未然に防止されるよう「発がん性」を認めるべきです。米国アカデミーではバイオモニタリングの結果をもとに、PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されると言っています。欧米では「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。これでは日本人の健康を守ることはできません。とくに子どもたちへの健康への影響が心配です。日本は世界の動向に逆行しています。予防原則に基づき「ゼロ」を目指すべきです。
2805	PFOS、PFOA は自然界に元々ある物質ではないので 水道水や食品から検出されることを調査していくことは必要ではあるけど 少なくとも飲用の上水道に混入することはあってはならない事態です 直ちに健康に影響しないという事を理由にして岐阜県各務原市では混入自体を公表せずに何年もそのまま水道水を配水していました 水道に係る厚生労働省ほか農林水産省，環境省等、関係する各部門に働きかけて 口に入るものに PFOS、PFOA が混入しないように働きかけて頂きたいです 宜しくお願い致します
2806	許容摂取量案は WHO・IARC の最新の基準に合わせてほしい。安全性に問題があれば、安心して水が飲めなくなる。
2807	※ 現在の基準が高すぎる、世界の警告に従って TDI を見直してほしい、厳しい安全な基準を定めてほしい。
2808	提案された指標値は高すぎると思います。欧州食品安全機構は食品安全委員会の指標値の６０分の１未満の許容摂取量を設定しています。米国もドイツも低い値です。世界的な流れの中で日本も厳しい基準を検討すべきだと思います。
2809	PFAS の許容摂取量が高すぎます。 米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い数値にしてるというのはありえないです。
2810	現在の基準が高すぎます。なぜ、欧米の基準よりも大幅に高いのでしょうか。国民の健康を真剣に考えているとは思えない。
2811	幼い子供ほど影響があると言われているのに、基準すらはっきりしない状況は不安です。
2812	素人で詳しくはわかりませんが、身体に悪いことはわかりました。 何故国は政府は日本国民を殺そうとするのでしょうか？日本国民が苦しむことばかりするのでしょうか？ そんなに日本人が嫌いですか？ そんなに日本人を減らしたいのですか？ どうか日本人が健康で過ごせるよう、守ってください。お願いします。助けてください！ 病気になりたくない！死にたくない！！家族にも友人にも死んでほしくない！！！ どうかお願いします。我々日本国民を見捨てないでください。 そして水道民営化・外資への売り渡しもしないでください。どうかどうかよろしくお願いいたします。 金持ちになりたいとは思いません。贅沢をしなければ生活出来る暮らしを健康で過ごし、天寿を全うしたいだけなのです。
2813	世界的には規制が強まり、欧米では検知可能な最小数値で規制がかけられている国があるのにも関わらず、なぜ日本では緩和の動きなのでしょうか。 IAEA においても、アメリカにおいても、発がん性を認めている中で、何を根拠に『この程度の摂取なら健康被害はない』という認識なのでしょうか？ 安全を求めます。 なお、わたしはフッ素アレルギーです。
2814	日本に住む人の命を軽く見過ぎているのか。体内に入れる物だという認識がないのか。 欧米では重大な有害性を認めている。にも関わらず欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超える基準というのはいかに軽く見ている証拠ともいえる やり直すべき
2815	国際がん研究機関 IARC において PFOA の発がん性評価が引き上げられたことをどのように評価しているのか、IARC の評価に反駁するのならば比較可能な形で示して頂きたい。また、直接摂取する水だけでなく、土壌についても暫定基準値を設定し、農産物への影響可能性を示して頂きたい。
2816	提示の TDI は　成人男性のモデルであり、子どもへの健康影響を　何ら考慮していないのは無責任です。アメリカ EPA やドイツなどの厳しい値のように「予防原則」で子どもを含めた健康影響を責任をもって見直して下さい。 ２００９年 POP s に追加された頃、私もフライパンは鉄製に変えたが、私は西山町「水神様」のそばの「簡易水道」を１９６４年から２０年ほど飲み続けてきた。地域住民も平均寿命に達せずに亡くなる方もこのところ続出なので大きな不安を抱いています。私は、４０代から健康検診では「脂質代謝異常」で引っ掛かる時が多いので早急に自治体検診で血液検査をして下さい。両親の病気や姉の乳がんも影響なのかと考えてしまいます。 化審法の 2010 年の以前については　自衛隊が「使用していたかどうかもわからない」という返答では　非常に無責任だ。 東京都も２０１０年から今回大騒ぎになるまで、まるで「人体実験」をしていたのか　と思ってしまいました。 提示のＴＤＩではＥＰＡモデルで１５６や１６７ng/mL と異常に高い値になってしまいます。ＴＤＩは、胎児や子どもへの影響を考慮した見直しをするべきです。
2817	自然豊かで大好きな場所、綾部市の川でも有機フッ素化合物が検出されて、住まわれている住民の方々やこれからを担う子ども達への身体的影響・発達への影響を非常に危惧しています。安心・安全な暮らしが営めるように、せめて海外と同等の基準値に！
2818	ヨーロッパ、アメリカなどではどんどん規制が強められているのに日本は甘すぎる。至急命を守るため規制を強化してください。日本は、とにかく基準が甘すぎる。
2819	PFAS 汚泥肥料を辞めさせて下さい
2820	日本の規準値が高すぎることが、問題です。

	規制と禁止をお願いします。
2821	「勇気フッ素化合物(pfas)」に係る審議結果(案)について *今回の摂取許容量では心配です。市民の安全をまもるために摂取許容量を欧米並みに引き下げて下さい。*摂取許容量は pfoa と pfos についてしか示されていませんが国分寺市民は pfhxs が大変高く心配です。この摂取許容量を示して下さい。 *この摂取許容量を血中濃度に換算すると非常に高い数値となります。証拠不十分ということなら、なお疫学調査が必要です。せひ血液検査を進めてください。 宜しくお願いします。
2822	PFAS の接種許容量が国際的な基準と比べると非常に高いのは非常に問題です。欧米はゼロを目指しているので、日本も同様にするべきです。 国際的な評価では PFAS、PFOA は発がん性がある（可能性がある）となっているのに、なぜ日本の評価には「限定的」となっているのでしょうか？　国際的な評価を反映させてください。 PFAS と PFOA 以外の PFAS の毒性も早急に評価してください。
2823	PFOS,PFOA の TDI の緩さに驚いています。 とても健康に考慮した数値ではありません。 PFH x S も規制されていますが、そのＴＤＩは計算すらできないとのこと。 今後も上記 3 つ以外のＰＦＡＳの毒性が判明する可能性もあります。 とするならば、現段階で”計算できない”ＰＦＨｘＳ以外の毒性まで加わり、さらに複合的に身体に悪影響を及ぼすわけです。 日本の毒性学は、世界と比較すると信じられないくらい遅れています。 今、世界的な毒性学の常識は、「長期微量摂取による毒性」、「世代を超えて悪影響を及ぼすエピゲノム毒性」、「多様な有害物質による複合毒性」など、さまざまな悪影響が明るみに出てきています。 それらはヒトだけではなく、多くの生命体に対しても同じです。 大人、子ども、胎児、それぞれの時期によって感受性も違います。 特に年齢が小さいほど、その影響は大きなものになります。 こんなことが一般レベルでも分かる世の中になっているのに、なぜ日本政府は時代遅れの考えに固執するのでしょうか。 新しい世の中を受け入れ、既存の政治の在り方を改めてください。 ＰＦＡＳのＴＤＩをもっと厳しく改めてください。
2824	水がどれだけ多くの生命にとって大事であるかを考えると、目先のことだけでなく、未来のためにも今ここでできる最善の判断、行動をとることを希望します。 水道水含有のＰＦＡＳ目標値を、欧州の基準並にまで下げることを希望します。
2825	未来の子どもたちのためにも有機フッ素化合物の基準値を見直していただきたいです。
2826	アメリカでは PFAS の影響による健康被害も報告されています。 沖縄で検出される PFAS の検出値はアメリカの基準を上回っているおり、市民の健康維持のためにも、基準値の見直しをお願いします。
2827	他の国での危ないと言われている量の pfas が飲み水に含まれていると知り驚愕しました。 日本は治安が良いとよく言われますが 普段使う水道水が害があるかもしれないのは恐ろしいことです。 すぐに身体の変化に繋がらなくとも身体を作る水。安全なものであってほしい。 どうか基準を見直してほしいです。
2828	なぜ EU やアメリカに比べて指標値が驚くほど高いのでしょうか？指標値の見直しを求めます。 北欧など更に厳しい基準にしている国も、昔の動物実験の成果をもとに規制を進めているのではなく、最新の疫学研究の成果で予防的に規制を進めているものと理解しています。 疫学研究の成果は証拠不十分という主旨で規制検討を先送りにするのではなく、このタイミングで厳しい基準を定めてください。 実家が東京都多摩地域周辺にあり、家族への健康被害がとても心配です。 2020 年に政府が決めた暫定目標値と変わらないような現状維持になるなら、なにも進展しない本評価書もワーキンググループも全く存在意味が無いと思います。 評価を初めて決めるこのタイミングでなければ、踏み込んだ規制はしにくくなります。だから今、厳しい指標値を定めることで「未来にかけて日本人の健康を守る」という姿勢を示してください。 （本評価書は最新の疫学研究が信用ならないという主旨の記載がありますが、ワーキンググループの疫学研究に従事されるメンバーや参考人はその主旨に同意しているのですか？疫学研究自体への信用が揺らぎます）
2829	PFAS の安全基準を厳しくしてほしいです。0 歳含む 3 人の子がいますが、TDI は子どものこともちゃんと検討されているのでしょうか？ 日本だけ基準が甘いように感じます。
2830	EU は、4 PFAS を評価しています。 PFAS は 1 万種以上だと言われています。 PFOS と PFOA だけでなく、もっと多くの PFAS を評価すべきです。 そして、子どもたちのために、予防原則で 決定してください。
2831	発がん性も疑われる PFAS の目標値を ヨーロッパやアメリカと同等の低い基準にすることを検討願いたい。 水はとても大切です。 環境省による水質管理の暫定的な目標値を見直すことを強く求めます。

	日本の会議の中ででた数値は 欧州食品安全機関（EFSA）が採用する摂取許容量を 60 倍以上上回っている。 という話題も出ていることをしっかり受け止めて、今後の日本の未来と国民の健康に直結する水の問題として、欧州の基準値に日本も準じることを考えていただきたいです。
2832	欧米に比べ、日本の PFAS 許容基準値がかなり高く設定されるとしたら、今以上に国民や日本に住む人、将来の子供たちに深刻な健康被害がもたらされると心配しております。 PFAS は体から自然に排出されることはなく、溜め込まれていき、発ガンリスクが高まるとききました。早い、便利、安いを求めて経済成長発展はよいですし、私もその恩恵に預かっている 1 人ですが、真実を深く知れば、健康、安全を願うし、その選択の権利はあると思います。 日本だけが、世界の安全基準から大きくかけ離れているのはなぜでしょうか。
2833	今回の摂取許容量では心配です。 摂取許容量をアメリカ並みに引き下げてください。
2834	PFAS はアメリカの研究で根拠のある結果として発がん性、大事や子供の成長阻害、代謝異常などが報告されており、分解されない永遠の化学物質と言われる。世界に逆行する、容認できない緩い基準にするなど、国民と国土を護るべき国の為すことではない。国民はモルモットではありません。
2835	海外では有機フッ素化合物（PFAS）の規制や健康被害について、重要視されているのと比較して、日本では規制も緩く、強制力が弱いことがとても問題だと思います。基準値については、欧米並みに低く試算する必要があると思いますし、全国的な調査についても拡大していく必要があると思います。基準値を大幅に超える検出があった例についても、公明正大に公表することや課題を速やかに整理して、取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。PFAS だけではなく農薬や食品添加物の規制についても日本は先進国の中で非常に規制や基準値が緩く、そのことは健康を脅かす大きな損失だと思います。国民が安心・安全の領域で過ごせるように、一人一人の健康や命を守るという視点をもって、取り組んでいただきたいです。
2836	岡山県吉備中央町に住む、私のお世話になっている方々が pfas の事で辛い思いをしていると知り、こちらに意見させていただきました。 ニュースになっている当事者の方々だけでなく、日本全国、地球すべて、つながっています。私たちの住んでいる場所の水も飲むには危険な水なのかもしれない。と思うとゾッとします。原因を究明することももちろんですが、飲み水の安全性に対する国の基準を考え直してもらいたい。国が決定しようとしている基準では私は安心して水が飲めません。あなたにも私にも大切な水です。pfas 基準の見直しを切に願います。
2837	WHO で発がん性があると認定されているとなった物質です。 今では全国的に問題になっています。ヨーロッパでは 1 ナノ以下と聞きました。日本では管理目標数値が 50 ナノ...随分と差があります。 取り込まれると分解されず体内に残るとのことですが、今何もせず手遅れになったら怖いことです。子供たちの未来も不安です。この数値では、リスク評価が低すぎませんか？再評価求めます！
2838	アメリカ、フランスに比べ PFES の目標数値レベルが高すぎると思います。PFES による健康被害などがはっきりと分かるようになるまで欧州のレベルまで下げるべきなのではないでしょうか。
2839	PFAS の基準値について日本の基準値は高すぎると思います。 体に残り続けること、自然界でも分解されず半永久に残ること、日常にも沢山の PFAS や PFOA があふれていること、例えばハンバーガーを包んでいる紙、レシート、化粧品、レインコートや繊維の撥水性加工のもの等、日常生活に溢れかえっています。 自然界で分解されず、どんどん水の中に含まれる濃度も高くなっていくと思うので、知らず知らず体の中に溜まっていくことに不安を覚えます。 家庭では除去できる浄水器をとりつけたりの対策ができるかもしれませんが、特に未来を担う子ども達が学校や外でとり続けることが心配です。 最新の研究では、人体に影響がでた場合、その障害や病気が子どもに受け継がれ続ける可能性が高いことも聞いたことがあります。 アメリカの環境保護局の基準案、「ＰＦＯＳ」と「ＰＦＯＡ」の飲み水に含まれる基準値をいずれも１リットルあたり 4 ナノグラム。 日本も目先の利益にとらわれず国民の安全を第一にアメリカと同等レベル、それ以上の厳しい視点と先を見る目で対応していってほしいと思います。
2840	日本の規制数値だけが欧州の６０倍、米国の 200 倍で良しとされていいわけがありません。 日本人を何だと思ってるんですか？
2841	食品安全委員会が示した「PFAS の許容摂取量（案）」は、PFOS、PFOA ともに 20ng/kg/日となっていますが、これは、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍を超えるものだと聞きました。 私たち日本人の体は、アメリカ人の２００倍、ヨーロッパ人の６４倍も PFOS、PFOA に強いのでしょうか？ そんなはずはありません。 また、国際がん研究機関（IARC)は PFOA は「発がん性がある」、PFOS は「発がん可能性がある」と評価し、米国・環境保護庁（EPA)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と評価しています。 食品安全委員会では「証拠は限定的」とされていますが、国際的に発がん性の評価がある以上、日本としても、予防原則に立ち、国民の PFAS 摂取量を減らす努力と、健康に対する影響評価を行うべきです 「PFAS の許容摂取量（案）」は、あまりにも基準が緩く、早急に見直しを行う必要があります。
2842	人の体に水は欠かせない大切なものが、何故に日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか。 国は、日本に住む人の命を軽く見過ぎている。 やり直しを求める。
2843	食品安全委員会はなぜ摂取許容量をアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍という高い標準案にしようとしているのか教えて欲しい。発がん性の可能性があると言われる物質なのに日本人には影響がないと言えるのか。 私の在住する東京都多摩地区の住民の PFAS 血中濃度も高いとの報告もある。 汚染された地下水が水道水を経由して深刻な体内汚染を引き起こしている。 その原因が米軍横田基地の泡消火剤の原液漏出（2012 年 11 月に 800 ガロン=3000 リットル漏出。1 年以上かけてゆっく

	りと進んだ）とされている。 日本政府と東京都は原因究明と説明責任を米軍に求めるべき。日本人の健康を害しても平気な米軍は日本に滞在する資格はない。
2844	２０２３年６月、豊山町では、54 人の血液検査を実施。その結果、半数近くの 25 人から、健康リスクに関する米国指標を超える数値が検出されました。2021 年 3 月に停止されるまで、豊山配水場の汚染された水道水をおそらく 30 年以上飲用してきたことに因ります。特に豊場地区では 37 人中 22 人（60%）が指標を超えており、同地区の 50 歳以上が 4,000 人とすると、実に 2,400 人となり、町民の間に大きな不安が広がっています。緊急に、愛知県民主医療機関連合会傘下の豊山町近隣の北病院（名古屋市北区）と千秋病院（一宮市）で腎臓や甲状腺エコー検査を定期的にしていただける体制を築きました。また、2023 年 9 月には、豊山町とその周辺の井戸水と河川のうち 30 カ所で PFAS 汚染状況を調査しました。その結果、地下水の流れを勘案すると、汚染源は小牧自衛隊の消火訓練（場）と推測されます。私たち住民は、愛知県と豊山町に対し、希望者への医療支援と徹底した汚染源対策を要求しているところです。健康への影響が否定できない以上、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきであり、摂取許容量案の再評価を強く求めます。
2845	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いというのに、要するに「影響がわからないから」妥当とするというのは、食の安全に対する職務放棄である。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求める。 非常に高い血中濃度になることを許容することになるが、妊婦、乳幼児、子供の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだ。
2846	諸外国では発がん性物質であるとされ、摂取できる量が厳しく制限されている PFAS について、日本では 20ng/kg/日という、だいぶ緩い規制案がだされていることに驚きました。諸外国並みのもっと厳しい規制にすることを希望します。
2847	米国では基準値を引き下げているところ、日本の許容数値を上げるのはとても不安に感じます。本当に安全なのでしょうか。見直しを願います。
2848	日本各地で、PFAS （有機フッ素化合物）などの汚染がわかってきています。私の知人も汚染された地域に住んでいて、不安を口にしています。どうか欧米のように「PFAS ゼロ」を目指す基準、政策を希望します。基準も欧米並みに厳しいものしてください。大規模な健康被害が起きてからでは遅いんです。もしも被害が起きた時に被害者を救済するより、いま未来の被害を防ぐ基準を定めた方が、理にかなっていると思います。
2849	海外の基準は日本より厳しいです。 日本の基準ももっと厳しくしてほしいです。体内に入ってからでは遅いです。日本の子供の未来のためにもより厳しい基準を設定して欲しいです。
2850	基準値をアメリカ同様の値に下げる事を検討して欲しい
2851	PFAS の基準値について危惧しています。外国の基準と比較しても、日本ははるかに高い数値であるということ。その状況が今後も続いた場合、本当に安全だと言えるのでしょうか？今だけではなく、これからの未来の人たちのためにも、しっかり基準値を抑えてほしいです。ゼロ、もしくはアメリカの基準値にするなど、再評価をしてください。健康に関することは、後になってからでは取り返しがつかないのではないでしょうか？どうぞよろしくお願いします。
2852	ヨーロッパでは PFAS ゼロを目指しているのに日本はなぜ規制しないのですか。 接種許容量がアメリカやヨーロッパと比べて数百倍も高いと聞いてとても不安になりました。日本もゼロを目指してください。 健康に生きる権利が大切にされていないと感じます。
2853	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFAS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFAS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血中濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し！都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 海外並みの基準にし、水質汚染、土壌汚染を含め真実の値を公表してください。
2854	「PFAS の許容摂取量(案)」では欧州の６０倍、アメリカの２００倍の値を示されていますが、それはあまりにも高い数値だと思います。欧米では PFAS を使わないように舵を切っています、日本もそれにならい、子供たちや高齢者・妊婦への健康影響が出ないような方策をとるべきです。 日本は 2016 年の EPA が採用した古い動物実験結果を採用していますが、欧米では「低出生体重」「ワクチン接種に対する抗体価低下」などをヒトの疫学データから認めて、重大な有害性があるとして、厳しい基準値を認定しています。日本も「予防原則」にたって、これ以上健康への悪影響を引き起こす可能性のある状態を続けるべきではありません。
2855	有機フッ素化合物は毒物なのでたとえ微量であっても食品に入れないでください。
2856	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFAS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFAS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血中濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し！都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 PFOA が発ガン性ランク 1 になり、不安が増してます。規制強化を。
2857	許容摂取量案は断固反対！ 基本的な国民の安全を守ってください。見直しを強く要請します。
2858	※ 一般市民がわからないうちに pfos を水道水　畑の食物や魚から摂取し 50 年経過したらどうなるか人体実験ですか? 沖縄県は米軍基地由来で沖縄が費用を負担して除去　米国本土は厳しい規制があるのに日本は緩すぎる　沖縄差別だな 小さな孫が歯磨きシャワー食事飲料から 10 年摂取して体内に蓄積する量　調べて 損害賠償ものになっていないかな
2859	アメリカやヨーロッパの基準に比べてこんなに高い血中濃度をどうして安全と言えるのか理解できない。 PFOS と PFOA だけでも発がん性が疑われている中で、飲み水の暫定濃度がこのまま放置されては全く安心できない。 本来自然界に存在しない PFAS はゼロを目指すべきではないか。
2860	一日あたりどれだけの水が飲食のために使われてるのでしょうか？それらの水質基準の許容値がなぜ欧州の 60 倍、アメ

	リカの 200 倍も緩くなるのでしょうか？健康被害が出る頃にはご自分たちはいらっしゃらないから関係ないですか？ 良い訳ないです。反対します。
2861	PFAS の摂取許容量を見直してください。 設定許容量を決めている関係者の方はご自身、またご家族にも摂取して大丈夫と心から言えるのでしょうか。 何のために摂取許容量を決めているのでしょうか。 未来のために大切なことを 考えていただきたいです。
2862	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、 PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 今徹底的に規制しなければ、健康被害はダラダラと続き、将来の優秀な人材をも失いかねません。目先の利益だけでなく、長期的な日本の利益も考え、検査・規制して頂きたい。
2863	※ 国際的ながん研究機関が PFOA には発ガン性がある、PFOS には発ガンの可能性があると認めました。 私は汚染源である横田基地のそばに住んでいます。国民の二人に一人にがんになると言われている中で、危険な物質が周辺にあるというのは恐ろしいことです。 まして、日本の PFAS の許容摂取量が EU の 64 倍、米国の 200～666 倍という非常に高い水準になることが発表され、ますます不安になりました。なぜこのような高い水準になったのか疑問です。 国民の健康を第一に考えていただき、許容摂取量の見直しをすることを強く求めます。
2864	日本の有機フッ素化合物に関する規制がゆるい。もっと厳しくして下さい。企業や米軍の方ではなく、住民の安心安全を守るのが、国のすべき事です。誇れる日本を次世代へと引き継げるように、よろしくお願いします。
2865	PFAS は体内に蓄積されやすく、排出されにくく、身体に悪い影響を与える物質だと聞きました。日本が許容摂取量２０ng とするのは、高すぎると思います。欧米並みの基準値並みにしていただきたいです。 健康被害が出るようになってからでは遅いと思います。 予防原則に立って、国が規制を厳しくするようにしてください。 そして住民の身体が既にどれくらい汚染されているかの疫学的な調査もすぐに始めてほしいと思います。 どうぞよろしくお願いします。
2866	日本における有機フッ素化合物（PFAS）についてもっと厳しく取り締まるべきだ。身体への大きな健康被害につながるにもかかわらず、日本の水質も有機フッ素化合物（PFAS）が高濃度で検出されているなど言語道断である。 、農作物や微生物や蜜蜂をはじめとする様々な生態系への悪影響も考えられる。将来の子どもたちへのためにももっときびしく検討し取締るべきである。
2867	PFOS、PFOA それぞれ 20ng/Kg/日は高すぎる。 アメリカや欧州の食品安全機関に倣い、1ng 以下にするべき。 また、人体に有害とされる有機フッ素化合物は上記 2 種類だけではないそうなので、そのほかの物質についても対象にするべきだ。
2868	私が住んでいる大阪ではダイキン工業さんが排出している PFOA が発がん性ランク 1「発がん性がある」に認定され、不安が増大しています。世界各国で規制が強まる中、日本では「知見が少ない」などの理由で、規制が緩くなるのはおかしいと思います。発がん性があるのですから、まず強い規制で今後の被害を食い止め、疫学調査など必要な知見はそのうえで国が責任をもって研究・収集してください。また、これまでの製造・排出などについても、行政や当該企業が調査や健康補償を実施するべきです。食品安全委員会さんは、市民の健康が「安全」に守られるために、力を尽くしてください。新たな公害を広げないためにも、規制強化で再検討・再評価をお願いします。
2869	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算する PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、 PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 こどもたちの健康を守るためにも、PFAS ゼロにしてください。
2870	食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250ng/ml、PFOA143ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、 PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。 ヨーロッパ並みの規制をして、子どもたちや孫たちが安心して暮らせるようにしてください。
2871	食品安全委員会が許容摂取量を「20 ナノグラムが妥当」と判断している。この数値は米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い。 50 ナノグラムを導き出した厚生労働省の数値も沖縄の住民は在日米軍基地由来の汚染で、この数値を超える水を長きに渡り飲まされている。在日米軍基地についての責任は日本国政府が負う事柄であるから、住民の命を守るためには水質管理・汚染除去等の費用は国家予算で賄って頂きたい。 科学的な不確実性を理由に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
2872	PFAS の問題はとても重要です。アメリカ、ヨーロッパではその危険性に慎重に対応しています。 国民の安全、幸福を第一に考え、審議するのがあなた達の役割なのではないでしょうか。 再度正当な審議をお願いします。
2873	食品安全委員会が 1 月末にまとめた「食品健康影響評価書（案）」の許容摂取量は、アメリカ環境保護庁が現在提案中の値に比べると PFOA で 666 倍、PFOS は 200 倍にもなる。　あまりにも 1 日当たりの摂取許容量が高すぎる。　２０２

	０年４月以降から暫定目標値５０ng 以下とされて以来、突然降ってわいた PFAS 問題に水道局職員は知識収集と対処に苦労し 20ng 以下に抑える努力をされているが、２０２３年９月の明石市民の血中濃度測定値は９人中６人がドイツ環境庁専門委による指標値を超えていた。それぞれ年齢も生活スタイルも違っても PFAS が分解されにくい物質だと分かり憂慮している。今のところ際立った症状のある方はいないとはいえ、WHO の専門組織が PFOA の人体への危険性について、「発がん性がある」に引き上げている。これに対し伊藤環境相は「発がん性の証拠の強さを示すもので、暴露量に基づくリスクの大きさを示すものではない」としたが、将来、アスベストのような被害が出ないと言い切れる根拠を説明するべきだ。先ず、次世代に影響が出る前に予防的な規制値を食品安全委員会に求めます。
2874	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率という影響の点でも調査結果が、EPA では得られており、この点からの PDOS の規制値を考え、一日摂取量を０．１ｎg/kg 体重/日とすべきです。なお、できれば、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、この点からは 0.0079ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由） 既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の Wikstr?m et al. 2020　の研究結果です。日本でも小泉氏らの疫学調査データもあります。これが一番厳しいレベルですが、子供こそ一番影響を受けます。「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果は、Grandjean et al. 2012; Grandjean et al.2017a; Grandjean et al. 2017b; Budtz-J?rgensen and Grandjean 2018 です。
2875	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率という影響の点でも調査結果が、EPA では得られており、この点からの PDOA の規制値を考え、一日摂取量を０．03ｎg/kg 体重/日とすべきです。なお、できれば、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、0.0015ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由） 既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の Wikstr?m et al. 2020　の研究結果です。日本でも小泉氏らの疫学調査データもあります。これが一番厳しいレベルですが、子供こそ一番影響を受けます。「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果は、Grandjean et al. 2012; Grandjean et al.2017a; Grandjean et al. 2017b; Budtz-J?rgensen and Grandjean 2018 です。
2876	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率の点での調査結果がないが、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、この点からは 0.63ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由）既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下について、Abraham et al. 2020)、(追加情報：Grandjean et al. 2012）の研究結果です。
2877	意見）PFAS 問題では、過去の日本の公害問題での教訓を生かすべきです。「ミナマタ病、大気汚染ぜんそく被害、カドミウム被害など、後手後手の対応と対策であったために、被害を大きくした。先手で早めに私企業の廃棄物規制を厳しくすれば、被害は低くできたという教訓を、この報告書の中で、記載すべきである。 理由）PFAS]問題は、そもそも米国のデュポン社、３M 社、日本の代金などの私企業が、健康被害を予測して様々の社内で秘密の調査をし、データを持ちながら、社外に伝えず、政府にすら秘密にして、生産量を増やし続けてきた結果、今回のように大きな社会問題にしたのである。この経過は、特に「ミナマタ病とよく似ている経過である。PFAS による被害が、日本においては、まだ顕著な健康被害が出てないとのことであるが、それはまだ政府の健康調査が本格的になされていないためであると思われるが、それでも、今こそ先手で厳しく規制すれば、これから出てくる被害を低く抑えられるといえます。
2878	意見）今回の摂取量の指標値により、 日本の環境中のあらゆる濃度規制が決められ、河川、地下水、浄水、排水などは、相当汚染のひどいレベルになると思われ、「将来の対策費用を見込み、先手を打って早めに厳しく規制」する道を選び、「今後の被害抑制と、将来的経済的損失が小さく抑えるために、この道を選ぶ」という結論に修正すべき。 理由）案のような緩い指標値であると、将来になって、健康被害者が出て、その指標値を下げるべきとなった場合、対策費用が膨大になると思われる。実際、アメリカでは、大きなエリア単位で、ＰＦＡＳ除去対策実施法や、スーパーファンド法を用いて、土壌改善、浄水対策が現在進行形でされており、その費用は３M社だけで１兆円の規模である。国全体での環境対策として浄化費用が膨大な金額になります。日本では一定の汚染状況の把握のための調査がされてきたが、あまりにも少ない。実際に沖縄県、東京都、大阪だけでなく、最近になって住民の自主的調査で、静岡県、岡山県、広島県、三重県など、次々と高濃度汚染地帯が発見されている。今回は厳しめに規制して、将来的の徐々にレベルを緩めていく方がよい。
2879	意見）委員会としての認識が一致しているのであれば、その結論として、ＰＦＯＡとＰＰＦＯＳの摂取量基準は、米国、ＥＵと同じにすべきである。 理由）姫野座長は、「日本人の摂取量とヨーロッパ、アメリカのそれとは桁のレベルでは違わない」、「ＥＰＡの基準では、アメリカ人の普通の生活をしている人たちがみんな基準を超える」「ヨーロッパでも、・・・同じ」とい発言がありましたが、それであれば「案の結論は反対に導かれるべきです。「アメリカのみの血液濃度指標に したら 日本のほとんどの人が汚染レベルを超える、それはまずい」というが、そういう事実であれば、アメリカと同じく、至急にＰＦＡＳ物資を環境中から除去する対策こそが必要である、指標値を緩めることは受け入れられない。日本では、過去に大気汚染物質の二酸化窒素 NO2 濃度基準で、経験しています。1978 年にそれまでのレベルの 2 倍～3 倍に緩めたが、そのことが結果的にぜんそく患者数を大きくしました。最近 WHO が日本のその基準の 1/4 以下のレベルが好ましいレベルと改定した。これは改悪前のレベルに近いです。このような過去の間違ったことを繰り返してはなりません。
2880	意見）委員会として、ＰＦＯＡとＰＰＦＯＳだけでなく、すべてのＰＦＡＳを禁止するための考えを出すべきです。案には「3 M 社は 2025 年にＰＦＡＳの全部を中止すると表明している」と記載すべき。 理由）3 M 社は 2025 年にＰＦＡＳの全部を中止すると表明しています。それに倣って、アメリカのマクドナルドはじめいくつかの食品や飲料のメーカーもそれに従うと表明しています。またヨーロッパでも全面禁止する方向が提案されています。このことは アスベスト問題とよく似ています。米国やＥＵで早くからアスベストの使用を禁止していたが、日本は国の方針でも「耐熱性などが優れている」として全面寄進が大変に遅れた。それが、被害が大きくして、最近の最高裁決定により「国と企業」に「賠償命令が出た。労災死亡で毎年約 1,000 名の被害者が出ています。 今回のＰＦＡＳで同じ間違いをしないように、この教訓を生かすべきです 。
2881	PFAS の数値の高い地域に住んでいます。 発がん性のリスクなど人体への影響について「証拠不十分」とされており大変不安です。血液検査を実施する等、疫学調査を進めてください。

2882	1) 「十分ではない」として採用されなかったものが EFSA や EPA で採用されているのは何故か。根本的な原則の違いがあると考えるが、まだデータが揃っていない段階の態度としてどちらの原則が正当であるかの説明が無い。将来的に見直す可能性に言及するだけでは不十分なので、少なくとも一定間隔（例えば、1 年毎など）で見直すことを明記しておくべきだと考える。 2) すでにいくつかの地点で突飛な値が計測されている。平均値を大きく上げるわけでは無いが、高濃度の汚染源が特異的に見つかるのが目下の特徴のように見える。単にエンドポイントを示すだけでなく、摂取量や血中濃度とリスクの大きさの関係が分かるようなグラフや表を示せるなら示して欲しい。 3) 今後も代替物とのいたちごっこになる可能性がかなりある。できるだけ幅広く監視できる体制を取るためには、先手を打ってデータが不十分な類似物質も積極的に監視する方策を示すべきである。
2883	4) パブリックコメントの入力項目には氏名、住所、職業、電話番号が全て必須となっている。他のパブリックコメントでは必須となっていないものが多かったと記憶している。何故今回は必須となっているのかお伺いしたい。特に PFAS では、専門家や企業従業員からの意見は貴重であると考えるが、このように個人を特定できる情報が必須となると躊躇せざるをえない人が出てくるということは当然に考えられる。一種の告発となる意見を回避したいのではないかと疑ってしまう。
2884	あ） (1) 数値「20ng が妥当」に驚きました。米国や欧州の許容量よりも数百倍も高い、と聞いて不安。 (2) 感受性が高い妊婦、乳幼児、疾患のある人の安全は守られるのか、国民に説明すべき。 (3) 沖縄の PFAS 血中濃度は高い。飲み水、食物の健康影響を、予防原則で判断してほしい。 (4) 欧米は「PFAS ゼロ」を目めざし対策を進めようとしている。日本もめざすべき。 い） (1) 国際がん研究機関（IARC)が「発がん可能性」を指摘した。「発がん性」の評価を反映すべき。 (2) PFAS とがんのリスクについて知りたい。沖縄の PFAS 血液検査で高い値が出ており不安。 う） (1)沖縄の住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い。PFOA・PFOS 以外の PFAS のリスクを評価すべき。 (2)PFAS は 1 万種類以上存在するが委員会の評価はたった 2 物質のみ。規制の対象になっていない PFAS についても有害性調査研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐ対策を示してほしい。 (3)欧州では「代替物質」を含む PFAS をグループとして規制する。審査結果で規制対象とされる PFOS、PFOA 以外の代替物質も健康への悪影響を引き起こす可能性がある。
2885	私たちの命に関わる水の安全を守ってほしいです。PFAS の基準値をアメリカと同程度にしてください。手遅れになる前にお願いいたします。
2886	私は普天間基地からの泡消火剤により水源を汚染された可能性のある宜野湾市に住んでいます。可能性と書かざるを得ないのは、米軍が基地内立ち入り調査を拒否しているからです。早急に立ち入り調査をし汚染源を特定し、住民の血液調査や土壌調査を行って下さい。癌や他の疾病のデータが無いのなら早急に疫学調査をするべきです。データを作るのは国の仕事です。EFSA の基準の 64 倍の食品安全基準は高すぎます。成長していく子ども達や、妊産婦の健康を優先し守る事が最重要です。体内蓄積による次世代への影響も言われており深刻です。水の基準値も EPA に順次 4n／g 以下にするべきです。又、土壌の基準値も早く決めて下さい。形だけの審議は要りません。もっと必死に国民の健康を守る方法を考えて下さい。特に沖縄は日本の米軍基地の 70%を抱えていて、日常的に米軍に安全に暮らす権利を脅かされ、日本の安全保障の為沖縄は犠牲になっています。これ以上の日米地位協定に守られた、やりたい放題の米軍による環境汚染は許されません。汚染された運動場で体育を受けるしかない私達の大切な子ども達の未来を守るのは、私達大人の、国の、責任なのです。
2887	環境、人体への今後の影響が計り知れないので、使用を禁止すべきだと思います。 生物濃縮がおこっているのは、確実で将来子どもたちに負の遺産を残したくないと思います。
2888	子どもたちの未来のために PFAS の許容基準値の見直しを希望します
2889	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚きました。 米国や欧州の許容摂取量よりも数百 倍も高い、と聞いて不安です。 これからを生きていく子供達のことをもっと考えてください。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち 総合的な判断を求めます。　子ども達を守りたいです。お願いします。
2890	日本の基準値は欧米と比べて低すぎます。 欧米並みの基準値にしてしっかり規制してください。 日本の水を守ってください。
2891	国民病と言われる癌。 その癌の一因と言われる物質を、なぜアメリカより高い数値基準で、安心安全と設定されるのですか？ アメリカと同じ基準値にしてください！ 日本は世界のゴミ捨て場ではないんです。 PFAS に限らず、グリホサート、ネオニコチノイドなど、他国で禁止され売れなくなったものを、なぜ国民の健康を害してまで、輸入しなければならないのですか？ 改善を求めます。
2892	日本の基準値は欧州の 60 倍、米国の 200 倍だそうですが、安全性の科学的根拠を示して下さい。日本に暮らす人々が、アメリカに暮らす人々の 200 倍、PFAS に耐性があるのでしょうか。そうでなければ、日本の基準値では、市民の生存権を脅かすことになります。 米国と同じ基準値にすることを求めます。
2893	人体への有害性が確認されている物質なのに、欧米よりもはるかに緩い基準を適用する理由がわからない。安全な水は健康な生活に欠かせない。欧米並みの厳しい基準をもうけるべきだ。政府には国民の健康を守る義務がある。
2894	水は生きていく上で必要不可欠なもの。 にもかかわらず、このような審議結果が出るということは、国民の命を軽視しているとしか考えられない。

	到底受け入れられるものではない。
2895	pfas を他国では使用しないとしている働きがある中で、日本全体でも使用しないようにしてほしいです。 便利だけに目を向けて、量を少なくしたとしても排出されず残ってしまうというのはとても不自然だなと感じます。
2896	PSFS の規制強化をしてください。日本全国、市町村の全ての浄水場で水質検査、調査をしてください。値の大きい地域の住民には血液検査をし、健康状況を記録してください。 目標基準値という曖昧なものではなく、欧米のように厳しい規制をし、日本の未来を担う子供達に問題を残さぬよう、汚染された地域の除去など早急に進め、国民が一人残らず安心して暮らせる環境を整えてください。お願いします。
2897	「多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会」「パブリックコメント１万人の声　子どもたちの未来のために」 からは （米国や欧州と比べ高い許容摂取量の問題に関して） ・食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 （すでに体内汚染がある住民への健康影響は？） ・上記の表は[東京・多摩地域住民の血中濃度平均値（ng/ml）の表]、国がより先見的な「予防原則」に立ち、PFAS を規制せず放置したことから、汚染された地下水を含む水道水等を経由して深刻な体内汚染を引き起こした明らかな例です。同様の事例は全国各地に発覚しています。これら PFAS 汚染地域の住民（特に妊産婦、乳幼児、高齢者含めた感受性の高い集団）にとって、今回、国が示す PFAS 許容摂取量で障害を通じた健康・安全が担保されるのでしょうか。許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。
2898	基準値が欧米に比べて高すぎる。健康への影響を考慮して科学的に検討された欧米と同じ基準値にするべき。 飲食業としても安心安全な食の提供をする責任があるわけで、そもそも基準値が高く危険度の高い水道水が提供されるというのは国の責任として問題がある。
2899	食品安全委員会が PFAS の摂取許容を 20ng と提案している事にとても驚いています。アメリカやヨーロッパの許容量に比べて桁が違います。何故これが安全とされるのか。国民の健康被害や河川や土壌への環境汚染に対して責任が持てる基準に変えるべきと考える。水俣病やアスベスト被害などの過去の経験に学ぶべきである。
2900	・米国や欧州と比べ PFAS の高い許容摂取量が高過ぎるので低く設定するべきです。 ・食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに怒りを感じています。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
2901	反対します。　示された数値は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍に相当だと思います。 「100%人体に影響がない」とは言えない物質を添加する必要はないと思います。 100%の安全が保障できますか？ できないと思うので辞めてください。
2902	東京多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると伺った。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」により取り込む量を減らすことが適切と思う。 また、欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしているが、その潮流に反する。日本も「ゼロ」を目指すべきだ。また、この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。子どもたちの健康を考えると心配に思う。
2903	食品安全委員会の評価対象は 2 物質の PFOA,PFOS にとどまっておりますが、PFHxS も今年 2 月 1 日に化審法に基づき第一種特定化学物質に指定されています。代替 PFAS も同じように自然環境下では分解しにくく、体内にとどまりやすいことは共通であることから、予防原則にもとづき、あらゆる PFAS を評価対象にし、評価のやり直しを求めます。
2904	安全な水で生活をしたい、日本はそんな願いも聞き入れられない国なのでしょうか？ 即座に規制を強化して安全な環境を将来に残せるよう大人の責任として対策をとってください。
2905	許容摂取量をアメリカと同じ量にしてください。
2906	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしていると認識している。子々孫々の健康を守る観点から日本も「ゼロ」を目標に掲げ、PFAS を減らしていく道筋を創ることが本来あるべき。また、この許容摂取量は欧米の規制と比べて極めて甘いものになっており、不安を覚える。
2907	ヨーロッパでは PFAS 0 を目指してると聞き、今の日本の暫定目標値の高さは不安になります。この先の日本のためにも、再検討願います。
2908	地下水、水道水から検出され、強い不安を抱いています。ＩＡＲＣがＰＦＯＡに対して 「人に対する発がん性がある」と判断。アメリカでは水道水基準４ｎｇ/Ｌを今年中に 決定する見込みです。日本の基準はアメリカ基準案の 13 倍も高いままです。 ＰＦＡＳは１万種以上あるといわれていますが 欧州連合は１万種類すべてを一つのグループとして捉え、原則全面的な製造・販売を禁止する法案が審議中です。 この評価書（案）では、現時点でのデータ不足で基準は現状維持となっています。 上記のように厳しい基準を設定する国々・地域が採用したデータを積極的に評価して予防的措置をとってください。
2909	PFAS の規制強化をしてください。日本全国、市町村の全ての浄水場で水質検査、調査をしてください。値の大きい地域の住民には血液検査をし、健康状況を記録してください。 目標基準値という曖昧なものではなく、欧米のように厳しい規制をし、日本の未来を担う子供達に問題を残さぬよう、汚染された地域の除去など早急に進め、国民が一人残らず安心して暮らせる環境を整えてください。お願いします。 目先の利益ではなく、子供たちが安心して暮らせる未来の日本のための政治を。
2910	安全委員会が「20ng が妥当」と判断したとのこと驚きました。 欧米各国との基準の格差があるのはどうしてなのでしょうか？ 早急に対策が求められると思います。 生活に一番必要で大切な水道水を安心して飲めることはとても重要なことです。
2911	有機フッ素化合物（PFAS）に対する国の対策が動きだしたこと、検査結果の報告公表などありがとうございます。 一つだけお願いがあります。 日本の基準値が高すぎます。 将来の日本を支える子ども達の安心した未来の為にもう一度見直して下さい。

	よろしくおねがい致します。
2912	※摂取許容量が高すぎます。 ※ 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。 #ＰＦＡＳ全品目を規制対象にして下さい。 ヨーロッパではＰＦＡＳゼロを目指している。 日本でも規制して下さい！
2913	欧米の基準値から遥かに離れた日本の設けている数値に驚愕しています。国民の健康を守る決断をお願いします。未来のある子どもたちに安全安心な世界を繋いでいきたいです。
2914	食品安全委員会が示した PFOS PFOA の許容摂取量案は欧米の数値と比較して恐ろしく低い基準。IARC の発がん性の判断をどう捉えているのか。
2915	基準値をもっと厳しくして欲しい。 せめて子供達が通う学校には浄水器の設置して欲しい。
2916	米国アカデミーの臨床ガイダンスでは、PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康被害が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血中濃度を安全と説明できるのですか？ 毎日、摂取する飲料水は生きていく上で欠かすことができないものなので、徹底的に排除し削減する対策も必要です。 抜本的な改善を求めます。
2917	知らなかったでは済まされない被害の拡大を懸念します。医療も経済もこれから生まれてくる子供達への影響も大きく日本の未来の明暗を分ける問題。日本政府の正しい行動を願います。
2918	日本の PFOS PFOA の摂取許容量を 欧米基準値に合わせてください。 経済優先しないでください。 今の私達と未来の私達が安全に暮らせるる事を最優先に考えれば こんな数値にはならないはずです。
2919	高濃度汚染地域には健康影響を受ける可能性の人たちが居ることを念頭にＴＤＩを見直して下さい。　あとになって禍根を残さないように!
2920	フッ素の安全性に疑問があるので 今一度、必要性を検討して安全性が 保証できなければ、なしにしてほしい。
2921	PFAS の摂取許容量の緩和に反対です。 慎重で公正な審議を願います。
2922	発がん性のあるものが水に混ざるのは考えがたいです。基準値の見直しを求めます！
2923	食品健康影響にかかる評価（案）における基準値案につき再評価を求めます。 PFAS が健康に与える影響に関し、動物研究でも疫学研究でも証拠不十分、知見不十分、情報不十分とされる項目が多いにも関わらず、日本の基準値を海外の基準値より甘く設定している点に合理的な説明がされていないと考えます。
2924	気付かぬうちに、自分が公害に加担しているのではという不安があります。 物を作る際の規制を厳しくすれば、難しくても新しい技術が生まれるやすくなると思います。 便利を求めて、化学物質に汚染された土地、自然をこどもに残したくありません。 沖縄・神奈川に多く検出されているとのことなので、米軍基地にも厳しい基準を求めていくべきだと思います。 世界に遅れた日本の状況を改善してください。
2925	（米国や欧州と比べ高い許容摂取量の問題に関して） ・食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 （すでに体内汚染がある住民への健康影響は？） ・上記の表は[東京・多摩地域住民の血中濃度平均値（ng/ml）の表]、国がより先見的な「予防原則」に立ち、PFAS を規制せず放置したことから、汚染された地下水を含む水道水等を経由して深刻な体内汚染を引き起こした明らかな例です。同様の事例は全国各地に発覚しています。これら PFAS 汚染地域の住民（特に妊産婦、乳幼児、高齢者含めた感受性の高い集団）にとって、今回、国が示す PFAS 許容摂取量で障害を通じた健康・安全が担保されるのでしょうか。許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。
2926	アメリカ、ヨーロッパと比較して PFAS の許容摂取量が高過ぎます。国際的な発ガン性評価もとりいれず、多摩地域住民の健康調査でも明らかに体内影響が出ていることなど、予防原則の観点から安全が担保されない許容摂取量の見直しを求めます。国民の命を何よりも優先してください。
2927	長年 40 年近く、アレルギー症状（特にアトピー性皮膚炎）に悩まされてきた。 入院したこともあるが、有名な医院のアレルギー検査の中で、初めてフッ素に反応が出ていると言われた。 なかなか除去が難しいが、テフロンや焦げつき防止、水にも含まれると聞き、見えないものでなかなか難しいができる限り除去したいと考えていた。 多摩地区等で問題になっているが、 食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに驚いた。米国や欧州他国の許容摂取量よりも数百倍も高い。発がんリスクや「予防原則」に立った判断を求めます。 また、未来に残せる環境をつくることが今を生きる私達のできることと思いコメントいたしました。
2928	基準値見直しをお願いします。 医療保険にお金が嵩むと問題視されているのに、体内に蓄積され排出されず健康問題が懸念される物質を安易に取り込むのは本末転倒です。

2929	許容摂取量の見直し、基準値をもっと厳しくして欲しいです。 数値が高いとされている地域の人達の血液検査をして欲しい事、全国でもっと水質検査もして欲しいです。 この先未来を安心して水が使える国になる事を願います。
2930	日本の規制が甘すぎます。 アメリカ、ヨーロッパの基準値にして下さい！
2931	PFOS の安全についてもう一度審議してください。 長い目で本当に安全と言い切れるのか調べて私たち国民に提示をお願いします。 国民の安全、健康を守るのが国の役目だと思います。
2932	PFAS は国内河川・地下水からも検出されています。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。また、この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。　私たちの、とくに子どもたちの健康を考えると心配です。 PFAS の接種とがんのリスクについては多くの人が知りたい事項です。国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性評価と管理・対策を速攻進めてください。
2933	「推定摂取量」について：「評価書（案）では『国内での PFOS/PFOA の 1 日あたり平均推定摂取量』の算出に「農林水産省 2012～2014 年度 18 食品群調査」を使用したが、このうち「飲料水」は「ペットボトル水 2 L と、東京都水道水 2 L の混合水」を分析していた。 この農水省調査では、都内水道水をペットボトル水で半分の濃度に薄めたデータを使用し、PFOA 、PFOS は未検出であったので「飲料水の摂取寄与は低い」と結論づけた。 しかし実際には、この調査と同時期に多摩地域「浄水」では 2013 年「府中武蔵台浄水所」で 159ng/L、「東恋ヶ窪浄水所」で 134ng/L もの PFOS/PFOA が水道水に含まれており、農水省調査は都内での飲料水経由の PFAS 曝露実態を正確に反映できていない。 水は飲用と調理で 1 日に 3 ～ 4 L 使用するため、PFAS の大きな供給源になりうる。 国民の生活と曝露実態を正しく反映せず、飲料水の摂取寄与率を過小評価したデータを元に「平均推定摂取量」を算出している点で、食品安全委員会の評価書（案）は重大な欠陥がある。TDI の見直しを強く求める。
2934	有機フッ素化合物について食品安全委員会が「20ng が変当」と判断したことに大変驚きました。 米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いてとても不安です。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
2935	人体にとって有害物質であるＰＦＡＳの摂取許容量を欧米並みに引き下げて下さい。
2936	日本の基準値がアメリカや欧州に比べ、著しく高いことに大変驚きと同時に不安を感じます。子育て真っ最中の私たちにとって、大変重要な問題であり、きちんとした調査と情報開示を求めます。 欧米では「PFAS ゼロ」を目指して対策を進めようとしているし、国際がん研究機関も PFOA は発がん性があると評価しています。対応を急ぐべきです。
2937	赤ちゃんからお年寄りの方まで、幅広く地域の方々がいらっしゃるカフェで、安心して食べられるヴィーガンのごはんやおやつを提供している者として、また 2 歳の子どもを育てる母として、安全な水が必須です。国際がん研究機関（IARC）は、PFAS の一種である PFOA と PFOS を「ヒトに対して発がん性がある」と分類しています。そのほかにも様々な身体への悪影響が考えられます。引用サイトのように、浄水器で除去するなど対策方法はあるかもしれませんが、どの家庭にも設置できるとはかぎりません。また、子どもを外で遊ばせるときなど、公園の水を当たり前に飲ませられる環境を守りたいです。フッ素化合物による身体への影響を考慮して、基準値を変更することに反対します。 https://waterstand.jp/waterlife/water_knowledge/waterlife00041.html#:~:text=PFAS には、免疫機能,ある」に認定しました%E3%80%82
2938	「ＰＦＡＳ」は、有機フッ素化合物の総称で、このうち、「ＰＦＯＳ」と「ＰＦＯＡ」については有害性が指摘されています。 多摩地域の市民団体などによる住民を対象にした血液検査では、ＰＦＯＳとＰＦＯＡをあわせた平均値は国の調査のおよそ２.３倍の血中濃度が検出されているとのこと。 具体的には、浄水所に活性炭を使った浄化装置を設置することや、血液検査を都の責任で行うこと、在日アメリカ軍横田基地への立ち入り調査を国に求めることなどを要望いたします。
2939	国は永遠の化学物質 PFAS が健康にもたらす影響 国際的な発がん性評価を受け止め、 次世代にまでも影響することも含めて 許容量の見直しをしてほしい。
2940	人体に対する影響があるか、証拠不十分なので採用するのは危険と思います。我が国の大問題は、がん患者が増え続け、国家予算に対する医療費が増え続け、税金が海外の製薬会社に支払われている事です。リスクが低いのは承知しておりますが、長年食すと影響が出る可能性を否定できません。使用するには、猿に投与する、長期の安全を証明する、海外の論文と比較するなど必要になると思います。一時の利益を追求するより、上記の大問題解決を追求した方が、利益がはるかに大きく、広く国民に還元されます、一部の方の利益にならないようご検討をお願いいたします。
2941	食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに大変驚いています。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 東京・多摩地域住民の血中濃度平均値（ng/ml）は、国がより先見的な「予防原則」に立ち、PFAS を規制せず放置したことから、汚染された地下水を含む水道水等を経由して深刻な体内汚染を引き起こした明らかな例です。 隣接する県に居住していますが、たった数メートルで、私達は検査すらしてもらえず不安な日々です。全国一斉検査をお願いいたします。 現在、同様の事例は全国各地に発覚しています。これら PFAS 汚染地域の住民（特に妊産婦、乳幼児、高齢者含めた感受性の高い集団）にとって、今回、国が示す PFAS 許容摂取量で障害を通じた健康・安全が担保されるのでしょうか。 許容摂取量（案）の見直しを強く求めます。
2942	水は絶対になくてはならない天の恵み。この水の安全性が疑われています。一刻も早く実態を調査することは当然として、水の安全は子々孫々の命にも関わるものである。他国の例も参考にしながら、安全性を第１とした許容摂取量にすべき。 原発事故の時、一時的に許容量を上げているがそれは、命を第１とする考えに反する。「公害」や「公害病」を発生する

	前に今できる事は何かを優先して考慮いただきたい。
2943	ダーク・ウオーターズという映画を見て、PFAS の危険性を知りました。 日本ではいまだに周知もされず、料理のサイトやテレビ番組を見ても、皆、テフロン加工のフライパンを使い、食品包装にも多用されています。小さい子供のいる家庭ほど、使用率も高く、生まれた時から日常生活の中で摂取し続けている子供たちの体にすでに影響が出ていないかと心配です。 各地で、水へのＰＦＯＡ汚染も確認され、映画のように工場等で大量に体内に取り込んでしまっているケースも次々に明らかになっています。食品の安全を守る面からも、ＰＦＡＳの危険のを知らしめることと、製品の使用禁止を進めてほしいです。
2944	米国や欧州の摂取許容量よりも数百倍も高い数値を食品安全委員会が判断した「20ng が妥当」とすることに不安を感じる。なぜこの高い血中濃度を安全と言えるのか。健康への影響が不確定であっても影響が出る可能性があると国際的にされている以上、「ゼロ」を目指すのが真の安全を守ることであるはずだ。生きるために欠かせない水の安全を守ることは人々や自然の未来を守ることに繋がると思うので、見直しをお願いしたい。
2945	アメリカ環境保護庁が提案中の値と比べると、PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍も大きく、欧州食品安全機関（EFSA）と比べても 60 倍以上になるとの事。 なぜ、日本では桁違いの PFAS を摂取しても健康への影響はないといえるのか、もっと現状把握をすべきだと思う。
2946	日本の基準は緩すぎる。欧米並みの基準値にすべきです。でないと「農薬基準超過により台湾から日本産イチゴ輸入拒否」みたいな事件が PFAS でも起きると思います。
2947	PFAS ゼロを目指し、対策に取り組んでください。未来に生きる子供たちに対する大人としての責任だと思います。食品安全委員会の示した基準は高く将来にとても不安を覚えます。
2948	環境や人体への影響が大変心配です。他国より緩い基準に納得いきません。原因究明と対策をお願い致します。
2949	有機フッ素化合物 PFAS は身体に悪影響があるとわかっているのに、日本での扱いがないがしろにされていることを改善するべきです。 有害物質の混入許容値が高すぎます。 混入 0 値が一番良いです。 日本の美しい自然を壊さないで。 日本国民の未来と、人として健康に生きる権利を守って下さい。
2950	示された許容値が他国に比べ多いのは不安です。安全率は大き目に設定ください
2951	有機フッ素化合物はご承知の通り永遠の化学物質と言われております。端的に申し上げて今回の食品健康影響評価はあまりにも甘すぎると思います。欧米の基準に比べてもはるかに甘すぎます。 アスベストのことを振り返りますと、国の対応が遅すぎたために中脾腫で亡くなった方が出ています。今後も出ると思います。時が過ぎて、体内に蓄積された有害物質が悪さをするのです。 PFAS も同じです。これからを生きる乳児や児童、生徒、子どもたちが心配です。次の世代を生み出す妊婦さんたちも心配です。どうか道理ある合理的な基準とするようお願いいたします。せめて欧米並みにすることを求めます。
2952	欧米での許容量をはるかに超える日本の許容量は、国民の健康を考えた数値とは思えません。 水は命に直結します。 安心して飲めるよう、許容摂取量を下げるよう見直しを要求します。
2953	日本及び琉球・沖縄の米軍基地、自衛隊基地の土壌調査を実施して有機フッ素化合物の数値を明らかにしてください。「20ng が妥当」に驚愕。沖縄の PFAS 血中濃度は高い。飲水、食物の健康影響を予防原則で判断すべきだ。また、血中 PFHxS 濃度もとても高い。PFOA、PFOS 以外の PFAS のリスクを評価すべきだ。PFAS とガンのリスクについて知りたい。沖縄の PFAS 血液検査で高い値が出ておりとても不安です。欧米は PFAS ゼロを目指してその対策を推進しようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきです。日本国は PFAS 汚染対策の先進国になぜ学ばない?被害者が表出してからは遅い。PFAS は体内に蓄積され続くものです。子どもたちの命を守る政治を行うべきです。
2954	PFAS というのは発癌性のある物質で、自然界では分解されない物質で、飲み水や食べ物に残存し、日本中のあらゆるところで基準値以上の PFAS が検出され、その土地に住む人が平均値以上の PFAS 濃度を血液検査により検出されています。 知り合いの住む地域の相模川流域でも規定値以上の PFAS を含む河川の生き物が発見されています。その相模川の水を彼らは飲んでいます。 その水は安全なのか、河川流域・海の生物は大丈夫なのか？ その基準は曖昧です。 世界では PFAS の基準値を年々下方修正して、極力取り除く、発生物質の規制をしていますが、日本はまだまだ規制が甘いと思います。 すでに体内に PFAS が入ってしまった人々が日本中に沢山います。 日本ももっと基準値を厳しくしてください。原因となるフライパンのフッ素加工や、梱包紙や撥水加工剤などの製品への使用の見直しや規制も対策としてあげてください。
2955	１．低体重児頻発の問題など、こどもへの影響を正当に考慮すべき 意見）　PFAS 問題で、一番心配なのはこどもへの影響だ。低出生体重児の発生率増加という点でも調査結果が EPA では得られており、この点からの PFAS の規制値を考え、一日摂取量を０．１ｎg/kg 体重/日とすべきです。 なお、できれば、「こどもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、この点からは 0.0079ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由）　既にある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、224 頁の Wikstr?m et al. 2020　の研究結果です。日本でも小泉氏らの疫学調査データもあります。これが一番厳しいレベルですが、こどもこそ一番影響を受けます。 「こどもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果は、Grandjean et al. 2012; Grandjean et al.2017a; Grandjean et al. 2017b; Budtz-J?rgensen and Grandjean 2018 にあります。
2956	欧米では PFAS ゼロを目指し対策を進めようとしている。日本も問題を先送りせずゼロを目指しましょう。 子どもたちの健康を考えるととても心配です。
2957	意見）PFAS 問題では、過去の日本の公害問題での教訓を生かすべきです。ミナマタ病、大気汚染ぜんそく被害、カドミウム被害など、後手後手の対応と対策であったために、被害を大きくした。先手で早めに私企業の廃棄物規制を厳しくすれば、被害は低くできたという教訓を、この報告書の中で、記載すべきです。この経過は、特に「ミナマタ病とよく似て

	いる経過である。PFAS による被害が、日本においては、まだ顕著な健康被害が出てないとのことであるが、それはまだ政府の健康調査が本格的になされていないためであると思われるが、それでも、今こそ先手で厳しく規制すれば、これから出てくる被害を低く抑えられるといえます。 これまでの公害裁判ではほとんど国は敗訴しています。最高裁判決でも判示されたように、「できる限り速やかに，適時かつ適切に国は規制権限を行使しなければならず、産業発展を優先して国民の生命・健康を犠牲にすることがあってはならない」ということに尽きます。
2958	世界的に使用を含めて pfas 規制を強化しようとしている時に、米軍や企業におもねる形で、日本だけ米国の数百倍という規制値を設けるというのは納得いきません。しかも、我々吉備中央町住民約 1000 人は１０年近くにわたって、ダイキン工業が浄化に使っていた活性炭から出た pfas の含まれた水道水を飲み続け、血中濃度が、世界的に見ても稀な高濃度となっています。これから血液検査結果と疫学調査によって健康被害の実態も明らかになると思われます。予防原則に従って見直すことを要請いたします。
2959	今回の摂取量の指標値により、日本の環境中のあらゆる濃度規制が決められれば、河川、地下水、浄水、排水などは相当汚染のひどいレベルになると思われます。「将来の対策費用を見込み、先手を打って早めに厳しく規制」する道を選び、「今後の被害抑制と、将来的経済的損失が小さく抑えるために、この道を選ぶ」という結論に修正すべきです。 案のような緩い指標値であると、将来になって、健康被害者が出て、その指標値を下げるべきとなった場合、対策費用が膨大になると思われる。実際、アメリカでは、大きなエリア単位で、ＰＦＡＳ除去対策実施法や、スーパーファンド法を用いて、土壌改善、浄水対策が現在進行形でされており、その費用は３M社だけで１兆円の規模となっています。国全体では膨大な金額になることは火を見るより明らかです。
2960	PFAS をどのくらい摂取するとガンのリスクがあるのか、世界の対策基準値とくらべて、日本が甘すぎるのはなぜ？水質汚染を軽視している理由、多くの人が知りたい内容です。今こそ調査、追跡、管理、対策、進めてください。
2961	有機フッ素化合物の水道水濃度について。 岡山県の吉備中央町での問題で知りました。 他の場所でも濃度が高い場所があること、すべての場所で調べられていないことからまだまだこれからこの問題は続くように感じます。 便利なものかもしれませんが、体に入れば排出しにくく、癌や病気のリスクになるのであれば徹底的に対処する必要があると思います。 せめてフランスやアメリカのレベルまで下げた数値設定にしてください。 今の世代だけでなく、後の世代のために。 また人間だけでなく地球全体のために広い視野での整備を希望いたします。 いま、問題が発生している地域の方々への出来る限りのサポートもお願いします。（検診など）
2962	みんなの地球、みんなの日本をまもってください
2963	きれいなお水にしてください
2964	ヨーロッパでは、基準値 0 を目指しているのに、日本のリスク評価は低すぎると思います フランス:1 で、日本:50 なんて…子どもたちの安全な未来を無視しています
2965	「評価書（案)」の問題は、科学の不確実性の下での意思決定をする場合の原則が示されていないことである。 科学を元にした意思決定には、使用しうる証拠、統計的裏付け等の欠如から不確実性が伴うために、その下でどのように意思決定をするかの原則を示すことが必要である。有害物質の健康影響の評価においては、証拠不十分とされる健康影響と、予防原則とのバランスをどう考えて評価するかの原則を示す必要があるが、本評価書（案）では、それが欠落している。全米アカデミーの”Guidance on PFAS Exposure, Testing, and Clinical Follow-Up”でも、2 章の’Principles for Decision Making Under Uncertainty’において、先行研究や事例、また汚染の影響を受けているコミュニティの声等を踏まえて 1)均整 2)正義 3) 自律性 4)実現性 5)適応性の 5 つを策定時の原則として挙げている。 このような手順を踏まない評価は、市民の信頼も得ず、国際的な基準にも達しない。評価書の意思決定の原則から見直し、値も見直すべきである。 ------
2966	発がん性データの評価の見直し 　IARC が PFOA について「ヒトに対して発がん性がある」というグループ 1 の評価を行い、PFOS について「ヒトに対して発がん性の可能性がある」というグループ 2B の評価を行ったことに対して、評価書案の説明では、ヒトに対する証拠は限定的で、動物実験では十分だが、ヒトへの外挿は難しい、メカニズムについてはいずれも間接的で強い証拠とは言えないとコメント。また IARC の評価はあくまで証拠の確実性に関する評価で、リスクを評価したものではないと強調している。 　しかしガンについては、未然防止できるよう動物試験の結果が示された段階から対応して、ヒトでの影響が出ないようにすることが重要ではないか
2967	食品安全委員会が初めて PFAS の許容摂取量を決めるということで期待をしていました。 示された 20ng/kg/日とは水道水の暫定目標値 50ng/L から導きだした値でした。 この 50ng/L は米環境保護庁が 2016 年に飲料水中の生涯健康勧告値として示したものですが現在の許容摂取量は PFAS ゼロを目指しています。 PFOS PFOA 以外にも製造中止となる PFHxS がありますが他の PFAS の毒性評価をして下さい。 このままでは何もしていないことになります。
2968	摂取許容量が諸外国に比べて極端に低いのに大変驚いています。 健康被害はすぐに出ないことを考えると、子どもたちの将来が非常に不安です。 水俣病など過去の苦い経験からも、厳しい基準で臨むべきだと思います。
2969	海外評価機関は２０１８年以降、最近の疫学研究結果（血清総コレステロール値の上昇や出生時体重の低下、ワクチン接種後の抗体応答の低下）からＰＦＯＳ及びＰＦＯＡの指標値を算出しています。それに対して、食品安全委員会は、これらのヒトの疫学研究結果を「十分な証拠がない」「一貫した知見が得られない」などとして全て退け、ラット（２００５年）やマウス（２００６年）などの古い動物実験結果に基づいた基準値を採用しています。この判断は、ＡＬＡＲＡの原則からに逸脱しているように思えます。科学的に「十分な証拠」や「一貫した知見」が得られるまでにはかなりの年数を

	要するため、深刻な健康被害が広がってしまう可能性もあります。独自の用量推計モデルを構築するために相応の体制及び期間を要するのであれば、現時点ではＥＰＡやＥＳＦＡなどの信頼できる評価機関の最新の基準値をそのまま採用してもよいのではないでしょうか。
2970	血中 ALT 値、コレステロール値上昇リスクも有害影響とみなすべき PFAS による血中の ALT 値の上昇、コレステロール値の上昇については、変動の範囲が正常閾値内に収まる程度であること、そのような増加が将来的な疾患（肝疾患や心臓病または脳卒中）に結びつくかが不明であるとして却下されている。血中の ALT 値もコレステロール値も増加傾向にあり正常値ギリギリの人が PFAS のばく露によりさらに上昇する可能性はあるのでは TDI の設定が必要ではないか
2971	放射性物質の基準値をヨーロッパやアメリカに見習い、もう一度決め直して欲しい。 もう少し日本国民を大切に思うべきです。
2972	今、飲み水の規制基準を２０２０年の暫定目標値と同様のゆるい規制にするのは時代の流れに逆行している。欧州食品安全機関が２０２０年に体重１kg あたり４．４ナノグラムの規制値を出したのに、その根拠の研究を「それらの証拠の質や十分さに課題がある」とケチをつけるならば、まず自ら徹底した調査研究を行うべきだ。しかし「データ不足の中で評価せざるを得なかった」と言い訳するだけとは情けない。すでにアメリカ環境保護庁も、２３年に体重１kg あたり４．４ナノグラムの基準を明らかにした。WHO も１２月に PFOA を発がん性において最も警戒すべきランクと発表した。日本のみが独自の調査研究をしないまま緩い規制にしがみつくのは、半導体工場の進出を見込んで緩い規制を求める産業界に忖度したと言わざるを得ない。自ら知見を得る努力をしないならばせめて、因果関係が十分に証明されていなくても対策を講じる「予防原則」にたって、欧米並みの規制基準とするべきである。
2973	ヒトの血中濃度に関するドイツの HBM 値および全米アカデミーのガイダンス値について、「その値の超過は必ずしも個人の健康影響の出現を意味するものではない」をより強く説明している印象 　個々の人に必ず健康影響が出現する値を求めるということ自体無意味で健康影響が出現するリスクが上がる値で規制すべきである。 　海外の用量推定モデルも積極的に採用し、国内のばく露評価に生かすべき
2974	米国基準の 200 倍、欧州とも 60 倍違うとは驚きです。再評価と基準見直しをしてください。
2975	評価書案は、海外の評価機関の間で TDI が 10 万倍の差があることの理由から、科学的に確実性の高い有害影響を見つけることを目的としていると説明されていた。 食品安全委員会は、米国 EPA や欧州 EFSA の審議内容について、科学的に不確実な証拠を元に評価されたものであると批判した内容になっている。 その内容を米国 EPA や欧州 EFSA に送付し、コメントを求めるべきである そのコメントを国民にすべき
2976	PFAＳの日本の基準値をアメリカの基準値と同じに下げてほしい。
2977	日本の基準が何の指標から算出されているのか判らないし、不安
2978	未来の子ども達のためにも！
2979	20ng/kg/day という数値を出してしまったばかりに、それ未満であれば安全性に問題はない、水道水についても現状の 50ng/L 未満であればそれ以上低減する必要はないという誤った情報を提供することになるのではないか？ 動物実験での生殖・発生毒性試験データを TDI 算出データとして採用したことの妥当性について 血中 ALT 値やコレステロール値などの変化などについても、正常範囲を超える増加につながり、重篤な疾患のリスクを上げる結果になる可能性もあることが無視されることになる。 　できるだけ多くの有害影響に基づいた TDI を計算した上で、一番低い値のものを採用してはどうか
2980	今回の評価書案では、例えば血清 LAT 値の上昇や、コレステロール値の上昇について、高ばくろ量でも、低ばく露域の軽微な増加を上回るような増加は見られず、明確な用量反応関係は示されないことを理由に却下されている。 　しかし、そのメカニズムが、ホルモンやその他のさまざまな受容体のかく乱作用（いわゆるシグナル毒性）であった場合、生体内でダウンレギュレーションが起こり、高濃度での影響が低下することが起こりうると想定される。 　PFAS にこのような高等な毒性メカニズムによる有害影響が起こるとしたら、より慎重に審査をする必要がある。 　またヒトの疫学で影響が出ている場合には、そこで影響が出た値に基づいて TDI を定めておいて、被害拡大を防いだ状態で、時間をかけてメカニズムの解明の研究を進めるべきである。
2981	ピーファス自体をまだ知らない方へわかりやすく伝えてほしいと思います。
2982	PFAS の許容摂取量数値がどうして日本はアメリカやフランスより何倍も高いのでしょうか。検討し直していただきたいです。 先日岡山県吉備中央町でも PFAS の報道があり、自分が住む市は大丈夫なのか不安になりました。
2983	日本の基準値は 50、フランスは１。おかしいです。 未来ある子供達のためにもっと大人がしっかり今の現状と向き合い、解決していく必要があると思います。再評価を求めます。
2984	情報を得ることは大切ですが、不安だけが増えている感じがします。 個人レベルで気をつけられることなど具体的に知れたらと思います。
2985	東京多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。健康への影響がはっきりわからないのであれば、予防原則に基づき取り込む量を減らす事が大事であると思う。欧米は、ゼロを目指して対策している。日本もゼロを目指すべき。
2986	今回の評価書案では、例えば血清 LAT 値の上昇、コレステロール値の上昇について、高暴露量でも、低ばく露域の軽微な増加を上回るような増加は見られず、明確な用量反応関係は示されないことを理由に却下されています。 　しかし、そのメカニズムが、ホルモンやその他のさまざまな受容体のかく乱作用である場合、生体内でダウンレギュレーションが起こり、高濃度での影響が低下することも想定されます。 PFAS にこのような高等な毒性メカニズムによる有害影響が起こる可能性もあり、より慎重に審査をする必要があると考えます。

2987	欧米と同等の基準値、規制を希望します。 環境や人体への悪影響について、「疑わしきは排除」すべきだと考えます。
2988	PFAS の許容摂取量（案）が、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるものと聞いて、大変驚いております。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすべきではないかと思います。
2989	アメリカやフランス並みの基準くらいにしていただけると安心出来ます。切によろしくお願い致します。
2990	最近の PFAS の以上数値が各地の河川や土壌からの検出結果を受けて、迅速な法整備等含め強力な措置を取っていただきたいです。 安全性と危険性の科学的根拠が判明していないものに関して安易に世の中に出回らないようにしていただきたい。 企業主導で扱う化学物質ではありません！ 使用済み浄水フィルターの処分方々などは明確にするべきである。 いつも後々になって、危険なので使用しないようにと国民は知らされますが、我々は実験台ではありません！ 国民を道具扱いではなく「宝」として扱っていただきたいものです。
2991	岡山県の洋服ブランドえみおわすの Instagram でのライブ配信のアーカイブを拝見し、PFAS について、知りました。安全と思っている水道水から目標値を大幅に超える数値の検出に大変驚きました。 定期的な検査の実施と、各都道府県及び市町の定期的な検査結果を簡単に閲覧できるようお願いします。
2992	世界の基準値をちゃんと見てください！ 日本の基準値はアウト過ぎます！ 東洋のゴミ箱に、これ以上日本をしないでください！
2993	「２０ng」が妥当と判断されたことに大変驚いた。 これから、この国で健康に生きていく為に、総合的な判断を求めます。
2994	体内に悪影響を与える物質を摂取し蓄積しないよう体外へ出すことは可能なのか。予防だけでなく、摂取してしまった人への対応も考えて頂きたい。
2995	近年明らかになってきた水の PFAS 汚染により血中の PFAS 濃度の高い人が近隣に多くいることがわかってきました。課題として認識されながら放置された問題ということも明らかになってきています。知らない間に公共水道を利用してきた間に体に取り込んで蓄積されている可能性が高いにもかかわらず、健康影響への検証が日本ではされないまま現在に至っているのではないでしょうか。 子どもたちや、妊産婦にも対応した基準値を早急に定めるべきと考えますが、今回だされた許容摂取量（案）は単体の PFAS、PFOA についてそれぞれ２０ng/kg/日とアメリカ環境保護庁が出した案や欧州の許容摂取量に比較しとても高い量となっています。早急に体内への取り込みをゼロにできるよう予防的原則で許容摂取量を見直してください。　飲み水の基準についても 4 PFAS 以上の総量で基準を定める必要があると考えます。対応をおねがいします。
2996	国分寺で一人暮らしをしていて、自炊をする際に水道水が使えず、飲料水を購入することになるのが痛手となっています。
2997	摂取許容量が諸外国と比べても桁違いに多く驚いています。日本人は許容量が多くてもよいという科学的根拠があるのでしょうか。化学物質の体内への取り込みについては予防原則で、慎重になるべきです。乳幼児や弱い人たちが先に影響を受けますが、それらは少数派として被害の声もまともに取り合ってもらえないことは過去の公害や現在だと化学物質過敏症患者などにも見られることです。日本の自然・文化、日本人の健康を守ってください。
2998	●米国や欧州と比べ著しく高い許容摂取量と聞いて不安です。 食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を 安全と説明できるのか。 ●全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。国は全国で調査・追跡し、PFAS の発がん性を評価と管理・対策に動くべきです。 ●特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべきだ。 ●科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
2999	海外での基準値と比較にならないほど緩い数値なのが恐ろしく、信用できません。見直しをお願いいたします。
3000	知らず知らずのうちに摂取してしまうことが怖い
3001	耐用 1 日摂取量（TDI）20ng/kg というのは、あまりに高いと思います。今まで科学的根拠がないと水道水の基準にもなりませんでした。「科学的根拠」ということで、このまま見直さない可能性を考えてしまいます。健康調査において、「科学的に証拠不十分」ということがないよう、TDI の数値を見直してください。
3002	有機フッ素化合物（PFAS）は必要でしょうか。 わたし自身は、ひつようなものはすべて自然の中にあると考えています。 わたしは自然でないものをとると、からだがしんどくなり、重くなる傾向があります。 できるだけ避けていますが、避けられない状態があります もっと有機フッ素化合物（PFAS）による食品健康影響について調べ、検討を重ねてください。 いのち、健康をまもることをたいせつにすること、なによりたいせつです。 それができるのが、大きな組織、公的な立場にいるかた、行政のかたです。 どうぞ基本をたいせつにしてください
3003	評価書（案）でも、PFOS、PFOA 及び PFHxS の難分解性、高蓄積性が指摘されています。だからこそ、「予防原則」に立つことが必須というべきではないでしょうか。リスク評価は、不確実なものも含めて、どう有害性を評価するかが大事です。そうした視点が欠落していると言わざるを得ません。 米国・欧州の基準や、国際的な発がん性評価もふまえ、許容摂取量（案）を見直すことを、強く求めます。
3004	評価書案は、多くの市民・国民がその毒性や危険性について不安に思っているＰＦＡＳについて、現在の対処対策で問題ないという結論ありきからスタートし、そのための材料集め、理屈づくりをしているように読める。市民・国民の不安に正面から向き合い、予防原則に立ち、厳しい規制を打ち出すべきである。水俣病では対策の遅れが被害を拡大させ、イタ

	イイタイ病は汚染された農作物等を食べ続けたことが被害を生んだ。過去に嫌というほど公害病を経験してきているのだから、そうした教訓を生かすべきである。まずは厳しい規制を打ち出し、安全が確認された段階で規制を緩和したり、廃止したりするべきだ。 　そもそも評価書案はＰＦＯＳ、ＰＦＡＳの許容摂取量をいずれも２０ng/kg 体重/日としているが、この大前提が最新の国際的知見等と整合していないのではないか。しかも個々の検討では、動物実験の結果が人間に当てはまるとは言えないとの論を展開しながら、許容摂取量自体、動物実験からはじき出した数字ではないのか。この評価書案を決定し、数年後、数十年後にＰＦＡＳによる健康被害が出た場合に責任を取れるのか。福島第１原発事故のような言い訳は通用しない。
3005	水道水の目標値や PFAS の１日あたり許容摂取量の数値を、検討していただけたらと思います。あまいです。水は、生きていくために必要なものです。今の水の現状を意識してない方々も、まだ、いらっしゃいますので、関心を持っていただきたいためでもあります。 血液検査も、できる様に進めていただきたいです。 よろしくお願い致します。
3006	PFAS は発がん性の他、新生児の体重増加抑制や免疫抑制、脂質異常など、健康への影響が指摘されており、１万種類以上存在するといわれている。しかし、今回指標値が設定されたのは PFOS と PFOA の２種類のみとなっている。他の PFAS についても早急に指標値を設定すべきだ。 今回食品安全委員会が了承した評価書案では、PFOS と PFOA のヒトの一日の許容摂取量を、それぞれ体重１キログラムあたり２０ナノグラムとした。欧州食品安全機関が定めた許容摂取量は、７種類のＰＦＡＳの合計で１週間に体重１キログラム当たり４.４ナノグラムだ。また、評価書案の PFOS、PFOA を毎日摂取し続けた場合、血中濃度は PFOS が１ミリリットルあたり２５０ナノグラム、PFOA が同１４３ナノグラムになる。全米アカデミーズは、７種の PFAS の合計で血中濃度が２０ナノグラムを超えると健康リスクが生じるとの指標値を示している。これら欧州食品安全機関や、全米アカデミーズの基準と比較すると、今回の指標値はあまりにも高いことが分かる。健康への影響を考慮し、全米アカデミーズや欧州食品安全機関と同レベルの厳しい許容摂取量とすべきだ。
3007	また、世界保健機関（WHO）傘下の国際がん研究機関が２０２３年１１月に公表した評価結果で、PFOA を「ヒトに対して発がん性がある」と分類しているにもかかわらず、今回の評価書案では「情報が不十分」として、指標値算出の際に発がん影響を考慮しなかった。「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」でも PFOA、PFOS、PFH x S については長期毒性などの理由から使用が制限されている。それにも関わらず最新のデータや評価を疑って、指標値算出から除外したことは問題だ。 安全性が証明できないならば、予防原則にたって、厳しい基準にして国民を守るべきだ。
3008	日本もアメリカやヨーロッパの基準にして下さい。 私たちの健康を守って下さい。
3009	PFAS のリスクを見ても、基準値設定が海外と比べて高すぎます。日本という国を、そして子供達の未来を守るために、今さえ良ければ、自分さえ良ければそれでいいという考えを改めてほしいです。フランスでは基準値は１を目標としてます。発がん性のリクスが少しでもあるなら基準値を下げるべきです。日本は敗戦国であり、ずっと都合のいいようにされてきましたが、少しずつの勇気を持って現実を変えたい。そのためにもまずは国民の健康を守るところから。日本国憲法の基本的人権の生存権に違反することです。
3010	ＷＨＯの機関がＰＦＯＡを「発がん性」物質と認定したのに、評価書案では、肝臓がんとの関連は「証拠は不十分」、腎臓がんや精巣がんとの関連は「有無を判断するための証拠は限定的」などとして、発がん性を認めようとしていない。 それ以外の臓器ごとの疾患の関しても「(関連は）可能性は否定できないものの、証拠は不十分」と繰り返し結論づけている。では、がん患者が多発して、初めて「証拠がそろいました、実は発がん性物質でした」とでも言うつもりなのか。 低体重児に関しては国内研究ですら証明されているなのに「低出生体重児等への影響についての研究は限られている」などとして、問題ないかのような記述になっている。 仮に研究が限られている、あるいは証拠不十分だとしても、日本独自の知見が集まっていないのは行政の責任だ。政府が、この極めて第三者的な評価書案の結論をもって「だから大丈夫、この程度の基準で大丈夫」などと判断するとしたら、国・行政としてあまりに無責任な態度だと考える。 人の命と健康に深く関わる問題なのだから、少なくとも疫学調査で因果関係が疑われるものについては、予防原則に立って、規制を強化するべきだ。
3011	多摩地区の住民で PFAS の血中濃度が高い方が居ることを知ったので、血液検査を希望します。 食品安全委員会の摂取許容量の基準が欧米と比べて格段に高いことがとても不安です。未来の子供達の為にも摂取許容量を欧米並みにして頂きたく、見直しをお願いいたします
3012	2023 年に国際がん研究機関によって PFOA が発がん性が「ある」の最高レベルに引き上げられたことを無視し、米国環境保護庁（EPA）の 2023 年の草案を無視して、EPA2016 年の見解を採用しました。 　すなわち、PFAS 規制の強化に向かう世界に逆行する時代遅れの指標値です。 市民の安全を守るよう PFAS の規制を強化してください。
3013	現在の水道水の暫定目標値 50ng/L は、2020 年 4 月、データが少ないにも関わらず、2016 年の米国環境保護庁（USEPA）の耐容一日摂取量（RfD）20ng/kg 体重/日に基づく生涯健康勧告値 70ng/L を参考にして決められた。 今回の評価書案では、2020 年当時よりもデータが多くなっているにも関わらず、2023 年の USEPA の RfD（PFOA が０．０３、PFOS が０．１）ではなく、20１６年の RfD が採用された。2023 年の RfD が厳し過ぎるために採用しなかったと考える。言い換えれば、厳し過ぎる値にすると、困る企業に忖度したと想像できる。 1 月 30 日、伊藤環境大臣は、記者会見で「専門家による現時点での最新の科学的知見に基づく評価と受け止めています」と述べている。そして、2 月 20 日、厚生科学審議会生活環境水道部会に評価書案が資料として配布されている。 これでは、出来レースのような気がしてならない。パブリックコメントの意見を真摯に受け止めて、2023 年の USEPA のような厳しい指標値に修正していただきたい。
3014	自然界の一部として発達してきた人類の一人として、自然界の化学反応によって、食べたものを消化してエネルギーや体を維持しているわけですから、 自分の細胞が、古代からの地球に食べ物として存在しなかった元素によって 長い年月かかったとしても、、傷つくことを懸念しています。 それは、がんをはじめ、「原因不明の体調不良」「精神疾患」などに結ばれていくことが、生活者である私は肌で知ってい

	ます。まして、がんも経験しました。 すべての体質の赤ちゃんからお年寄りまでのために、 食の安全は予防原則にたって守るべきです。基準が厳しいことを希望し、産業から PFAS を生まない仕組みを作ることを、政府に期待し、希望いたします。
3015	命に直結する「水」の問題は、深刻である。 健康被害や環境汚染を未然に防ぐために、調査・対策を徹底してほしい。
3016	例えばフランスの基準値と日本の基準値の違いに驚きです 誰も得しないですよ。安全な日本でいてほしい
3017	日本の摂取許容量が国際的指標から見てかなり高い水準である事に不安を感じます。妊婦や子供、高齢者など本当に安全が保たれるのでしょうか。予防原則からも取り込む量を極力減らすことが大切ではないでしょうか。
3018	とにかく納得いきません。 ・摂取許容量をアメリカ並みに下げて下さい ・今回の摂取許容量では心配です。子どもたちや孫の健康を守る為に引き下げて下さい。 ・妊娠をしている人でも安心できるように、摂取許容量を引き下げて下さい。 ・証拠不十分ということなので、なおさら疫学調査が必要です。是非血液検査を進めて下さい。 ・摂取許容量はＰＦＯＡとＰＦＯＳについてしか示されていませんが、国分寺市民はＰＦＨｘＳが大変高く心配です。ＰＦＨｘＳについても摂取許容量を示してください。
3019	摂取許容量がアメリカや欧米と比べても高すぎます。予防原則に立ち総合的な判断を求めます。
3020	基準値が、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍も緩いのはなぜなのでしょうか？ 大人は勿論、少子化を本気で考えるのなら、化学の進歩めざましい今、古い動物実験の結果を元にするのではなく、新しいデータから基準値を導き出して欲しい。
3021	食品安全員会が「20ng が妥当」とした判断は、米国や欧米と比べ著しく高い許容摂取量で大変驚いています。米国アカデミーのガイダンスでは、腎臓がん、脂質異常など指摘されているが、本当に 20ng を摂取していて大丈夫なのか、科学的根拠を国民の前にお示しください。 日本でも河川、水道水で PFAS の濃度が高い地域が多く報告されています。健康被害がないからと言って、調査もせず、水俣病の健康被害が繰り返しがされると心配しています。「予防原則」に基づいて、取り込む量を減らすよう、厳しく設定されたい。
3022	日本各地の水道水から、基準値以上の有機フッ素化合物が検出されてると認識しております。 東京多摩地区でも少し前に問題になりました。 日本は、その基準値をまた上げるのですか。 フランスは 1 以下、アメリカは 5 以下、日本は 50 以下と、他国と比べても非常に高い基準値です。 水は命の源であり、私たちの健康に大きな影響を与える資源です。 基準値を他国と同水準に下げると共に、健康影響のある有機フッ素化合物の排出を厳格に規制する仕組みを直ちに整備してください。 未来に続く命が守られるよう真摯に取り組んでください。
3023	最近聞いた PFAS、PFOS など有機フッ素化合物に関することですが、国際基準よりずっと多い基準値、今の状況のままでいいとする基準値がいいわけがありません。つまり、何の対策も取らないという意思表示にしか思えません。どう処理するのかわからないなら、積極的に研究すべきです。何かわからない不安は風評被害をあおるだけです。
3024	日本の PFAS の摂取許容量(案)は欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるもので、欧米の規制強化の動きと逆行しています。 海外とはかけ離れた評価に疑問と不安を感じており、日本でなら数百倍摂取しても大丈夫だとは到底思えず心配です。 摂取許容量(案)をせめて欧米並みに見直していただけますよう強く求めます。
3025	この度 PFAS の測定をしてもらう機会がありました。 私の住んでいる地域はきっと安全だろうと思っていて、それを確認したいという軽い気持ちでした。 ところが結果はアメリカの基準値を少し上回る値でした。 原因が何か分からない不安、 子供たちの健康に影響はないのだろうかという心配に襲われてしまいました。 人はなんとなく「きっと自分は大丈夫」と根拠のない安心をしたがります。 政府は真剣に取り組み、せめてアメリカ並みの基準で、安全性の確認をしていただきたいと願います。とりあえず、希望者の PFAS 値の測定をお願いいたします。
3026	環境省の「PFAS に対する総合戦略検討専門家会議」の提言「PFOS、PFOA に関する Q&A 集」に「WHO の飲料水のガイドラインとして PFOS も PFOA も各々100ng/L とする案が公表されている」と書かれている。この頃は政府が「日本の暫定目標値 50ng/L は WHO より低い、WHO は発がん性を認めていない」などとの趣旨の発言を行なっていた。 2023 年 12 月に WHO の国際がん研究機関が「PFOA が発がん性あり」、「PFOS が発がん性の可能性あり」と評価すると、政府は「一つの考え方として受け止めたい」に変わったが、暗に「その考え方には従わない」とも解釈できる発言であった。そして、評価書案では、こともあろうに発がん性を葬り去った。 このように、政府とその審議体は、WHO の評価を、あるときはお墨付きのように奉り、あるときは葬り去るという理解できない判断を行なっている。 このような姿勢を改めて、評価書案において、PFOA と PFOS の発がん性を認定し、指標値 20ng/kg 体重/日を 2023 年の米国環境保護庁の値(PFOA が０．０３、PFOS が０．１)にまで厳しくしていただきたい。

3027	欧米諸国では制限されている数値がなぜ日本では可能なのか。基準値を改めてほしいです。
3028	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価について。 フェロー諸島の研究による免疫毒性では、魚食が多い日本人に対する影響を示唆している可能性があります。水銀や PCB との複合影響を考慮して、評価の在り方を見直すべきです。 免疫毒性を示したフェロー諸島のデータは、鯨を多く食べるという特異食習慣のため、水銀や PCB などの PFAS 以外の有害物質の影響が交絡要因として十分調整されていない、という理由で、フェロー諸島のデータを、却下されています。しかし、日本では、欧米の一般的な食習慣と比較して、海産物の摂取量は多いため、人体中の水銀濃度も高く、その事から、フェロー諸島の研究が示す影響は、日本人にも当てはまる可能性があり、却下は妥当ではないと思います。 日本国内では、水銀（水俣病など）、PCB（カネミ油症など）の研究者の意見を求め、その知見を踏まえて、水銀、PCB、PFAS との複合影響を考慮したうえで、フェロー諸島のデータを基にした TDI を見直すことが、科学的に可能です。 これからの人たちの健康と安全とのために、どうか本格的なリスク評価を宜しくお願い致します。
3029	私は PFAS の血液中濃度の検査に市民に一人として協力しました。八王子市は地下水汚染が比較的少ないと思っていましたが、結果はＰＦＯＳとＰＦＯＡの合計値で 0.9ng/kg と全く問題のない量を超えていました。私の子どもや孫たちを守るためにもＰＦＡＳの安全基準は厳しくしてほしいと思います。食品安全員会の「PFAS の摂取許容量（案）」はアメリカや欧州の摂取許容量の 60～200 倍を超えるもので、あまりにも大きすぎます。日本は安全性データの蓄積も少なく、欧米に遅れているということですが、科学的根拠を示して国民が納得できるようにすべきです。国民の健康と命を守るための食品安全委員会の役割をきちんと果たしてください。今回出された「PFAS の摂取許容量（案）」は絶対に認められません。
3030	今回の評価書案は、海外の評価機関の間で TDI が 10 万倍の差があることの理由を見つけ、科学的に確実性の高い有害影響を見つけることを目的としていると説明されていた。つまり、食品安全委員会は、米国 EPA や欧州 EFSA の審議内容について、科学的に不確実な証拠を元に評価されたものであると批判した内容になっている。科学の世界での相互批判は必須のものであるが、相互批判が成立するためには、今回の評価書案を整理して、英語の学術ジャーナルに掲載するべきである。 また、食品安全委員会の英語のホームページにだけアップするのであれば、その内容を米国 EPA や欧州 EFSA に送付し、コメントを求めるべきである。 さらに、個別の研究論文についても批判を加える以上、掲載されたジャーナルにコメンタリー記事を投稿し、原著者との意見交換を行なうべきである。 また、その結果を国民に公表すべきである。
3031	内閣府食品安全委員会が提示している有機フッ素化合物の安全基準値の案ですが、それはアメリカ、フランスに比べて 50-200 倍も高い値です。 とうてい我々日本に住む者にとって安全な値であると言えません。 この度の有機フッ素化合物の安全基準値の値を取り下げ、再度国民が納得し安心できる値に考え直していただくことを求めます。
3032	有機フッ素化合物の国の安全基準の見直しを希望します。ヨーロッパ諸国並みの基準へ見直してください。この先も安心して飲める飲み水が水道から供給されること、 子どもたちに飲ませることができる水の安全性の確保は国、大人が責任をもって次世代に繋げて行かなければいけないものです。
3033	欧米より桁違いに高い許容量である。 発がん性の評価を取り入れてない。 対象がＰＦＯＳ、ＰＦＯＡのみ。 厳密な基準を設定し、国民の健康と適切な環境を保持するための施策を！
3034	東京都福生市など 5 市 1 町にまたがる米軍横田基地内に、発がん性の疑われる有機フッ素化合物を含む泡消火剤で汚染された水が、約 140 万リットル保管されていると記事でみました。処分には高額な費用がかかるとみられることや、保管が長期化する可能性が高いこと、漏出すれば、周辺住民が水道水源として使う地下水の汚染につながるリスクをはらんでいるとのことですが、これらにきちんと対策を取って欲しいです。横田基地だけでなく沖縄の基地に関しても同じ状況にあると思います。米軍に忖度せずに、日本国民を、日本の自然環境を守る行動をとってください。
3035	ヨーロッパは PFAS ゼロ（0）を目指しています。現在の日本のリスク評価は低すぎませんか？この基準値で果たして未来の子ども達の建康は守られるのでしょうか。アメリカなみの基準値にして欲しいです。
3036	欧米は「ＰＦＡＳゼロ」を目指し、対策を進めていると聞きました。 日本も「ゼロ」を目指して欲しいです。きれいな土、川、空を安易に汚染しないでください。私たちの健康を大切にしてください。 「予防原則」で基準値を決めていただきたいです。 よろしくお願い致します。
3037	私の住む金武町は地下水に PFAS が含んだ水道水を何十年と知らずに使わされてきました。 昨年の市民の寄付金で血中濃度を PFAS を含む地域を対象に調べた所、金武町ではかなり高い数値が出ています。 実際にガンや、妊婦の低体重出産や切迫、子ども達の発達障害児が多いと言われています。これは昔から言われて居る事なので 因果関係は無いとはいいきれません。 学校の浄水器も PFAS を除去するモノではないし、数年前にはレッドビーチの水深沖にもかなり高い値が出ています。 基地から流れて、土壌をつたっている証拠ではないでしょうか！ 国は私達の人権だけではなく土地までもうばうのでしょうか！ しっかりとした調査は勿論！公表し、対策を して欲しいです。

3038	PFOS には性ホルモンをかく乱し、特に女性ホルモンの機能を阻害する可能性があることを指摘しています。その結果女性ホルモンに関連する疾患である乳がんや卵巣がんの上昇につながるという研究もあることを指摘しています。少子化問題にも繋がるのでは、ないのでしょうか。 厳しく取り締まりをお願いします。
3039	食品安全委員会が TDI としてＰＦＯＳ、PFOA それぞれ 20ng/kg 体重/日と異常に高い数値に設定したことに驚いています。 また、ＰＦＨｘＳなどの毒性評価を見送ったことに大きな疑問をいだいています。 私が住む隣の各務原市では、高いレベルの汚染が進行しています。私の住む水道市にもＰＦＡＳが検出されています。子、孫たちに負の遺産を残し、未来を奪うことはしたくありません。 国がしっかり「予防原則」の立場に立ち、許容摂取量（案）を見直すことを強く求めます。
3040	国際的には PFAS ががんを誘発するとの研究結果がでており規制が始まっているが日本はあまりに遅れている。子どもたちの未来のためにも有害であることを明記すべきである。
3041	外国（欧米）では、PFAS 0 を目指して対策を進めようとしているのに、どうして日本はそれを進めることができないのでしょうか。 暫定目標値は 50 ナノグラムで、本当に健康が保障されるのでしょうか。水は全ての源です。 どうにか健康に暮らす権利を奪わないでください。
3042	許容摂取量基準値の見直しをお願いします。フランスと比べて日本は桁違い。 子供たちの未来のためにも正しく知っていこうと思います。
3043	ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」を目指しています。日本は最新の国際的な評価やデータを受け入れ、ヨーロッパ並みの規制をしてください。子どもたちの健康を守ることを第一に考えて下さい。何かが起こってからでは遅いのです。
3044	他の皆さんも送られていると思いますが 既に他国では規制基準を引き下げ 予防原則を持って自国の国民と国土を守る体制に入っています。 土壌を汚染すれば地下水汚染に繋がるのは想像に易い事です。 また、土壌汚染や水質汚染の問題だけではなく ディスポーザブルの食器や調理器具も同様です。 既に焦げ付かない加工の調理器具が売られていないので 外国人旅行客の多い築地では フライパンや鍋を洗うための「たわし」が良く売れているそうです。 国民と国土の健全を守らなければ経済も農業も教育も医療も介護も福祉も成立しません。 予防原則を取り入れ、今すぐ国民を守って下さい。 空港の泡紹介材等を石鹸を使った安全な薬剤に変更し、 ファストフードの包装紙や容器の規制をすぐに始めて下さい。 今すぐできる事があるはずです。
3045	日本は基準が緩すぎます。 健康を害する恐れがあるのならば、予防医学の観点からきちんと検証し、病気になる可能性はないと分かるまで、立ち止まることも必要ではないでしょうか？
3046	自分が育った東京多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知り、衝撃を受けました。水は人間の生活を支える大事な資源なので、今すぐに PFAS に関する安全化に向けた対策に取り組んでほしい。 情報の開示もするべきであるし、政府やマスコミがこうした環境汚染について隠蔽しようとしても、現代は SNS やインターネットの普及によって瞬時に広く認知されて、全国規模の運動になり得るでしょう。見ないフリをしないで、個人の声を真摯に受け止めてもらいたい。これからもこの問題に注視していくつもりです。
3047	PFAS の許容摂取量案に関して、食品安全委員会が米国や欧州の許容摂取量よりもはるかに高い基準を示したと知り、府中市に暮らす市民のひとりとして、大変不安に感じています。 なぜこの基準値となったかについて、広く一般に向けた具体的な説明が必要ではないでしょうか。 PFAS の発がん性について「証拠は限定的」とされているようですが、従来の基準値策定の際に参照していた国際がん研究機関の発がん性評価では「発がん可能性がある」ものとして扱われています。たとえ不確定なものであるとしても、積極的に対策を行わない理由には値しないと考えます。 また、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても毒性評価を実施し、汚染地域で現在も生活している市民の健康を優先して、総合的に正しい判断が行われるよう強く求めます。
3048	水道に含まれる有機フッ素化合物（PFAS）に関して、小さい子供がいるので健康被害がとても気がかりです。各都道府県の市町村において、安心して住むためにも、現状の値を知ることができるようにしてほしいです。
3049	水道水、井戸水のフッ素検査を各地で行なってほしい フッ素による人体影響を明確にしてください
3050	現在の評価では、PFOA、PFOS、PFHxS に焦点が当てられていますが、人間の体に影響を及ぼす PFAS はこれら３つ以外にも存在し、健康影響について未知数です。今後、まだ検討されていない PFAS の一種が新しいハザードとして判明することも考えられ、個別での検討だけでは十分ではありません。より包括的な評価が必要であり、今後「総 PFAS」という形で評価を実施する必要があると考えます。 ヒトの暴露量の検査をする際にも、総 PFAS での考え方を採用することで効率的かつ一般消費者に分かりやすい結果になると考えます。 そのため、今後、総 PFAS の自ら評価をしていくことを食品健康影響評価の「今後への課題」の項目に文言として追加することを提案いたします。 さらに、評価をするだけでなく、リスク管理機関に専門機関や民間団体への協力を促す文言の追加も提案いたします。 様々な機関と連携し、より効果的なリスク管理策を共同で検討することで、食品の安全性を向上させることができると信じています。 ご検討いただければ幸いです。
3051	人の体に水は欠かせない大切なものなのに、今回の日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのか？ワク

	チンの問題といい日本に住む人の命を軽く見過ぎているの？ それとも現状の水質等がその基準まで緩めないと、ダメな環境になってきているってことですか？それなら緩めるのではなく、処理施設の強化や環境悪化防止作では？ 日本は甘すぎる添加物問題。何の基準でも欧州や米国並みに強化してほしい。 子育て世代に食の安全、生活の安心がなければ、日本は終わりに向かうばかり…
3052	※ 「今後への課題」についての意見です。 「【リスクを懸念して食生活を変更することは…】という表現についての意見」 PFAS 関連の研究が途上であり、日常生活・食生活における注意点が明示できない現段階においては、一般の消費者の警戒意識を削いでしまうような表現は避けた方がいいと考えます。 今後の評価・研究と並行し、消費者が PFAS を「正しく恐れる」ことができるよう、生活面での注意事項等を具体的に提示くださるようお願いいたします。
3053	「毒の水」の本で PFAS を知りました。 調べてみたら、日本各地も汚染してる。 知らずにそのまま水を飲んでいる国民がいるのに国はなにも対応していない。 国民を殺す気ですか？
3054	評価書案の要約（ｐ．７～８）には、「証拠は不十分である」、「まだ不明である」、「判断できない」、「一貫性がない」、「証拠は限定的である」、「十分な知見は得られていない」、「かなりの不確実性がある」などと統一されていない語句で表現されているため、科学的に理解することが難しい。 更に、「将来的に、今回の検討時には不十分であったＰＦＡＳの健康影響に関する研究・調査結果の一貫性、影響の度合いの臨床的意義、用量反応関係等に関する情報等の科学的知見が集積してくれば、ＴＤＩを見直す根拠となる可能性はある」などと言い訳とも解釈できることが他の頁にもくどくどと書かれている。 このような表現になるのであれば、評価書案の提言自体を断念した方がよいと考える。 そこで、ＰＦＡＳの有害性と予防原則の重要性を強調されている専門家の皆さんを委員に加え、国際がん研究機関（2023 年）・米国環境保護庁（2023 年）・EU の欧州食品安全機関（2020 年）の評価及び今回の評価書案に採用されなかった研究者の皆さんの結果も採用して、評価書案の全面見直しを進めていただきたい。
3055	ＰＦAS は、飲料水などから、体に入ると、癌になったりするので嫌です。それに、PFAS が安全だという確実な証拠がないのもあるので、PFAS には反対です。 私たちのような子どもも水を飲むので、PFAS が混ざった水を飲むと子どもも病気になって、少子高齢化にも悪影響だと思います。 さらに、地球環境の悪化を進める原因の一つにもなっているので、それも、PFAS に反対する理由です。 防水のものなどの PFAS が入っているものも地球に優しい、エコなものにすると、PFAS が少しでも減らせるのではないでしょうか。
3056	反対です
3057	東淀川区では土壌汚染や地下水での汚染が報告されていたします。 今回、食品安全委員会が示す摂取許容量（案）数値については反対です。本気で議論されてこの数値なのでしょうか？全く理解出来ません。 他国と比べて再検討をお願いいたします。
3058	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）についての意見・情報の募集について 欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めようとしている。日本もゼロを目指すべきです。この許容摂取量をもとにしたら、のみ水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞きました。とんでもないことだと思います！子どもがいるのに日本で安心して生活できません。
3059	食品安全委員会の作業部会が，PFAS の健康への影響評価をほぼ現状維持としたことに危機感を持ちました．「飲料水・農産物・水産物などは人間が摂取するものなのに，その認識が甘いのではないか？」と． 私は神戸市西区の明石川の辺りで生まれ育ちました．現在，その川が PFAS 汚染の状況（水質観測地点により暫定指針値の約４～８倍）にあります．明石市民の飲料水の約２５％は明石川から取水した原水を浄水して給水されています．浄水後でも PFAS 残留濃度が１５～２０ナノグラム／Ｌ超あります．また，その流域では農産物の生産も盛んで，実際に明石川から取水して農業がなされています．農業地域の土壌や生産された農産物の PFAS 濃度も非常に気になります．それを生業にしている知り合いが何人もいます． 作業部会の皆さまにおかれましては，過剰に因果関係にこだわるのではなく，「予防原則」に則り，是非ともアメリカやドイツのように厳しい基準を導入するよう強く要望します．また，風評被害を払拭するために農産物や水産物の安全確認をしてあげて欲しいです．何卒よろしくお願い申し上げます．
3060	日本独自の数値にしないでください。 せめて欧米レベルの数値に抑えるべきです。 廃棄物や色々な問題が起こった時、日本が物質のゴミ捨て場にならないようにしてください。高い数値が OK だと平気で持ち込まれます。 よその国の文献や論文を日本でも使うようにしてください。 日本だけの論文では数値や結果が操作されていても分からない。
3061	1.米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い、と聞いて不安です。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。 2.PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのか。特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会はきちんと国民に説明すべき。 3.東京・多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。研究データが十分になく、

	健康への影響がはっきりわからないのであれば、「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことが大切ではないか。 4.欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべき。また、この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。 子どもたちの健康を考えると心配です。
3062	食品安全委員会が、PFOS、PFOA の許容摂取量を一日に 20ng/kg までと判断したことに怒りを覚えます。米国や欧州の摂取基準に比べて数百倍も高い数値です。「予防原則」に従って、総合的な判断を求めます。
3063	欧米の発癌評価を無視しないでほしい。アメリカの２００倍ヨーロッパの６４倍の基準は到底納得できない。 健康予防側の基準にすべきで、ヨーロッパ並み基準にすべきと思う。 委員会の各委員は、国民の安全を守るための職責と倫理を守ってほしい。
3064	国際がん研究機関（IARC)による PFOA の発がん性の判断を取り入れてください。発がん性物質である PFOA について、PFOS と同じ許容量は理解しがたいです。特に、関西は PFOA に汚染されていることへの留意が必要。このようなゆるい指標値では、私たち関西の人間の健康を守ることができません。ヨーロッパ並の規制強化を求めます。
3065	生きていくうえで、必要で大切な水、食料、が有機フッ素化合物がどれだけ影響しているか、確実に安全だということをしっかり調べてほしいです。私たちにはわからないものなのでぜひお願いします。 これからの子どもたちの健康も心配です。
3066	PFOS，PFOA それぞれ 20 ng/kg 体重/日の許容量とは、血中 PFAS 濃度にすると PFOS＜250ng/ml、PFOA<143ng/ml を引き起こす量であるとききました。全米アカデミーズ委員会が示した健康へのリスクが高くなる血中 PFAS 濃度 20ng/ml、ドイツが緊急に曝露対策を取る必要な値とする PFOS 20ng/ml、PFOA 10ng/ml を大きく上回り、健康への影響への不安が高まる値です。　ヨーロッパ並の規制強化を求めます。
3067	欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めようとしている。日本は環境や健康に関することにとても疎いと感じており、欧米のようにゼロを目指すべきだ。また、この許容摂取量を基にしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノ g のまま変わらないと聞いた。自分もだが、子供達の健康を考えると心配である。少子化対策をしたところで産んだ子達が健康でなければなんの意味もないのではと思う。
3068	日本の PFAS 基準値を欧米の基準値に合わせ、人々の健康を脅かさないようにしてほしい。
3069	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果の pp.224～226 の 海外評価機関による許容量の指標値の表からわかることは、胎児や子どもへの影響を予防するための指標値が、まったく反映されていないということです。PFOA と PFOS だけでなく、PFHxS は子どもへの影響が危惧されることから、予防原則を充分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用することを求めます。
3070	ＷＨＯなど、国際標準では PFAS は発がん性の高い分類のうち最高ランクに位置付けたとのことですが、日本では基準の見直しなど前向きな方針を出す様子がないと聞いています。被害者の声が大きくなってから動くのではなく、国民の健康と安全を予防によって守るという姿勢をとってください。大阪府内では市民グループと阪大などが共同で 1000 人の調査が始まっていますが、大阪市内の住民にも予想をはるかに超える高濃度の数値が検出されている方がいるとのことです。基準を見直すよう、早急に手立てを打ってください。
3071	反対です。 基準が欧米に比べ、緩すぎると感じます。 特定 PFAS 以外の、多くの PFAS にも基準をしっかり設けてください。
3072	発ガン性物質にも関わらず、規制の基準が緩すぎると思います。 人々の命を守るために規制の基準を高めてください。 せめて欧米並みに。
3073	以前から、有機フッ素化合物については、気になっていましたが、今回吉備中央町の一件を聞き、このままでは日本国民の安全が著しく脅かされると確信し、コメント致します。 海外の何十倍緩い規制をし、よくわからないまま、人体へ取り込み将来の健康が不安になる事を望む国民は、いません。 アメリカやフランス並みの規制にし、可能であれば 0 を目指す政策こそ、環境を考えた最先端とも言える国家としての形では、ないでしょうか? また、これ以上 PHAS の基準値を上げる事は、後世まで続く汚染の負の連鎖に繋がります。 世界のゴミ捨て場と言われて、平気な国民は一人としていません。 悪いとわかっていながらがら、進める政策に未来はありません。 将来の日本が、このままでは住めなくなるのではないかと、不安でたまりません。
3074	私は岡山県、吉備中央町在住の者です。 最低でも 3 年間、産業廃棄物から漏れ出た PFAS を含んだ円城浄水場の水を飲用していました。 有志の会で調べた血中 PFOA の濃度は 150ng/ml を超えており、最近 5 年ぶりに行った人間ドックで脂質異常と甲状腺異常が確認されて、来週は精密検査を受けます。 古い動物実験の結果から導き出した、世界から後進する様な基準値を設定するのは狂気の沙汰です。これ以上、日本の恥を晒すのはやめて下さい。 私たちの地域で起こった事を、乱暴な判断でなかった事にしないで下さい。 どうぞ私たちのデータを活用して新たに健康勧告値を制定し、これからの為に是非役立てて下さい。 その為には現段階での決定はあまりにもお粗末な為、一度立ち止まる必要があるのではないでしょうか。
3075	PFAS について、様々な困難はあると思いますが、私達の健康を守るために、しっかりした基準を決めて下さい。せめて、欧米並みの厳しい基準が必要です。この基準は、我が国の文化水準をも示すものとなると思います。
3076	日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と非常に高い水準です。血中濃度に換算すると PFOS＜250ng/ml、PFOA＜143ng/ml に相当します。 これだけ、国際基準よりゆるいというのは、 日本人だけがこの毒素に対して強いということではなく、 色々なしがらみ、、ということかと思います。

	世界の基準から著しく離れているのは危険と思うのが普通です。 食品、水質に関わる基準を作る仕事の方々は、 ひとりひとりが、最期、亡くなるとき、自分はこの世に対してよい仕事をした。 自分、自分の子供、孫に対して胸を張れる人生だった。 と思える仕事・人生を歩んでもらいたいです。 そうすれば、おのずと、答えが出ると思います。
3077	みんな公害で苦しんでいる人や環境問題を気にしている人は注目しています。 添加物や農薬や放射能はじめ、基準値が異常なほど高いのを知っています。 米軍基地は要りませんし、ダイキン初め、大企業有利な社会も要らないです。 これからは小さなコミュニティや人との繋がり、その対話を大切にする社会が必要です。 時代に反した政治や企業の方針に反対しています。 有機フッ素化合物（PFAS）の摂取量については世界的な基準に基づいて、設定されるべきです。 これから更に汚染が明らかになってくると思います。 人の寿命はこれ以上伸びないでしょう。 少子化も加速する一方です。 人がよりよく暮らすためにできることは、なんでもするべきです。
3078	わたしの住む熊本市北区植木町で地下水や河川から基準値を超える PFAS が検出されていて、関心をもっています。汚染源は特定されていません。 この評価書（案）では、現時点でのデータ不足で基準は現状維持だが、汚染が明らかとなった地域に住む住民として、不安でしかたないので、予防的措置をとってもらいたい、
3079	「動物試験では経口投与した PFOS、PFOA 及び PFHxS はほとんどが体内に吸収される。ヒトにおける PFOS、PFOA 及び PFHxS の吸収率に関する報告はないが、飲用水汚染があった地域の住民の血中濃度の高さから実験動物試験同様に吸収されやすいと考えられている。」との評価書の記述からも、飲用水汚染は水だけでなく、農産物や土壌等の様々な物質から体内に取り込まれ蓄積すると思われる。それぞれの経路や媒体をすべて調べることは困難であることから、測りうる物の摂取基準値を欧米や世界的な知見を参考に、日本でも最小限にするべきである。特に子供への害は将来に毒性を認めても取り返しがつかず、アメリカでは汚染地域の子供への害が明らかにされている。「PFOS、PFOA 及び PFHxS は臍帯血、母乳、母乳哺育の乳児におけるの血清中にも存在することがで認められている。ヒトにおいて、PFOS、PFOA 及び PFHxS の臍帯血と母体血の血清中濃度には正の相関関係関連がある。」との結果からも早急に予防的な防御体制を講じることは必要であり、許容基準値の引き下げを強く希望する。
3080	短期間での健康被害や、明確な因果関係が分かりづらいことが、行政にとっても PFAS 対策を進めきれない一因となっていると思います。多摩地域の住民の血中濃度が高いという事実を真摯に受け止め、まずは予防原則に基づいて、許容摂取量を最低限、諸外国並みの水準に設定すべきだと考えます。
3081	東京多摩地区に長くお住まいの方の血中 PFAS の濃度が著しく高いと聞いております。国分寺市に住む者として、とても心配です。岡山県吉備中央町に住む同じく PFAS で困っている友人からパブリックコメントを勧められました。フランスで水道水に含まれる PFAS の値は 1%以内と知りました。是非日本も同様の数値を目指していただきたいと思います。水は命の基本です。この国での今の、そして未来の暮らしを守っていただきたいです。よろしくお願いいたします。
3082	食品安全委員会は、2016 年以降のヒトの疫学研究結果を「十分な知見がない」として全て退け、EPA が 2016 年に飲料水基準値を策定時に採用した古い動物実験結果を基に、米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高い許容摂取量を導き出しました。一方、欧米は「低出生体重」「ワクチン接種に対する抗体価低下」など子ども達に関わる重大な有害性を認め、厳しい指標値を設定しています。日本も「予防原則」に立ち、国際的な知見、国内各地の深刻な体内汚染を踏まえ、健康への悪影響が未然に防止される指標値を示すべきです。 「PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」については、多くの人が知りたい事です。全国各地で PFAS 汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されています。今こそ、国は高汚染地域を含め、全国で血液検査などの調査を実施し、住民への健康影響を継続的に観察し、PFAS の発がん性の評価と管理・対策に動くべきです。 PFAS は 1 万種類以上存在するが、食品安全委員会の評価はたった 2 物質。欧米では PFAS をグループとして規制しようとしています。日本でも代替物質を含めた毒性評価を急ぐべきです。
3083	リスク評価に足りる情報が不十分という評価を重ねて結論を結んでいるが、であればそもそもリスク評価機関である食品安全員会がそのリスク評価を行うべきではないか。それに対する立場をとっていないのは委員会自身が自身の存在意義を否定しているのではないか。 EPA や EFSA の評価を不確実として排除しているものがあるが、このような判断をしたというからには、これらの評価機関に対して意見や議論を求める立場でいるのか。 食品安全員会の IARC 評価に対する評価は、IARC の原文の評価と一致していない解釈をしているように思えるので、不適切ではないか。 PFAS デコレステロール値が上がったのは正常値の範囲内であり、問題ないという解釈ではなく、これは明らかに人体に対して影響性を持っているということを示すものとして捉え、一つのリスク要因として安全性評価に反映する姿勢を持つべきではないか。 そもそも今回の、評価全体の方向性として、市民の安全を守るという立場が欠如しているのではないか。食品安全員会の責任の所在があまり見えない。
3084	100 パーセント井戸水の公営水道水の PFAS 汚染（175ng)が発覚し,水源が変更され、町民自慢の夏は冷たく冬は温い井戸水は真逆になりました。二十数年前にはトリクロロエチレンが検出され貯水槽上部には大きな浄化装置が今も取り付けられたままです。 豊山町には自衛隊小牧基地及び三菱重工小牧南工場があり、泡消火剤や航空機の表面加工等に PFAS が大量に使用されて来たと推察されます。 私は 50 年近く飲用してきましたので汚染源の調査や血液検査に協力し、結果私は、PFOS、PFOA、PFHeXs、PFNA

	の合計 41.3ng／ml でした。国際的な発がん性評価がＰＦＯＡはランク 1、ＰＦＯＳは２にランクアップされ不安は増す一方です。国際機関や諸外国の流れに逆行するようなことにならないことを願ってやみません。 町内には地下水を利用して食品を加工している中小企業、上水道を接続しないで大量の飲料水や工業用水として全て地下水で賄っている大手企業もあります。 私は、子供や若い世代、日本と人類、生物、地球の未来のためにもせめてヨーロッパやアメリカ並みの規制や基準を設定されよう賢明なるご判断を願って止みません。
3085	日本の食品安全委員会が示す基準値は国際的な潮流からみるとあまりにも甘すぎます。なぜアメリカの２００倍のＰＦＯＳ、６６６倍のＰＦＯＡを安全としたのか理解できません。 基準値をアメリカ並みに引き上げてほしいです。 ＰＦＯＡ、ＰＦＯＳの発がん性について証拠を限定的とした理由は何でしょうか。世界標準となっている基準に則って判断していただきたいです。 ＰＦＨｘＳ，ＰＦＮＡ等、他のＰＦＡＳについての毒性評価を実施していただきたいです。やらない理由は何でしょうか。 日本食品安全委員会が示した案の根拠となる実験結果は２０１６年以降のヒトの疫学研究結果を退けていますが問題です。有害性の特定をするためにも疫学データを活用していくべきです。 住民への健康上の影響を鑑みれば、多摩地域住民の血中濃度についても基準に反映させるべきです。今回示された基準値はあまりにも高すぎます。 住民の健康を守ることは国の責務です。 危険な基準の見直しを多摩地域の住民のひとりとして強く求めます。
3086	PFAS をどのくらい摂取すると、がんのリスクとなるのか」非常に関心が高いです 数値の基準も、アメリカの 200 倍、国民の健康を真剣に考えてるとは思えません
3087	日本政府の食品安全委員会は「PFAS の摂取許容量（案)」を示しましたが、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるもので、PFAS をできるだけ取らないようにという国際的な潮流に反しています。 どうして欧州やアメリカは、基準を設けているのでしょうか。 PFAS もともに同様です。 日本も日本に暮らす人のために、同じ基準にするべきでしょう！
3088	食品安全委員会の案で TDI は、欧米の基準値に比べて、とても高いです。なぜこのような基準値にしたのか疑問です。 健康への影響について、多くの分野で「影響は不明」「信頼できるデータが無い」と評価できないとしています。でも IARC が PFOA について「ヒトに対して発がん性がある」という評価を行い、PFOS について「ヒトに対して発がん性の可能性がある」という評価を行ないました。これをふまえる姿勢が必要だと思います。 ガンなどの有害影響は被害の未然防止のため、動物試験の結果が示された段階から対応して、ヒトでの影響が出ないように対策する事が大事です。 欧米では「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めているのに、日本では危機感をもった対応がされていないように感じます。また毒性が出現する摂取量を、海外の用量推計モデルで血中濃度に換算すると、日本国内の多くの高濃度汚染地域の住民の血中濃度は超過しています。この現状に食品安全委員会は、独自の用量推計モデルの設定も含めた本格的なリスク評価をするべきです。 ぜひ評価を、やり直してください。
3089	許容摂取量がＰＦＯＳでアメリカの 200 倍、ＰＦＯＡで 666 倍では、国民の健康が守れないと思います。発ガン可能性があるとＩＡＲＣが評価している。 見直しをお願いします
3090	発がん性が高いということで水道水を使わず、ミネラルウォーターを飲むことにしました。生活に欠かせない水に危険があるということは、何よりも大きな不安です。PFAS によって身体にどのような影響があるのかに関しても今後詳しく調べていただきたいです。ミネラルウォーターを購入する金銭的負担も大きいです。どうか地位協定の壁を破り、米軍基地内でしっかりと調査していただけるようお願い申し上げます。
3091	他国の基準値との大きな差に不安を感じています。 子どもを育てている身としては、特に子どもたちへの影響も心配です。 人体への影響について根拠を元にした正しい調査と結果報告、説明責任をしていただきたいです。 許容摂取量の見直しを求めます。
3092	歯科治療でフッ素を歯に塗ったすぐから口内が酷く炎症するので、フッ素を禁止してます。飲み水に入るなんてあり得ない事です。毒水は飲めません。
3093	水は生まれたての乳児から体に取り込みます。乳児を含めた子ども基準が設定されていない事は子どもの権利条約や、こども基本法にも反するものでは無いでしょうか？ 世界が予防原則に基づき対応を急速に進めている中、疫学調査などの結果を否定し、摂取許容量を 20ng/kg/日としようとしていることに強く抗議します。「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると、PFOS は 50ng/ml、PFOA は 143ng/ml に相当すると聞きます。米国アカデミーではバイオモニタリングの結果をもとに、PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されると言っているのに対し、あまりにも楽観的な数値を設定しようとしていることが本当に理解できません。この摂取許容量をもとにしたら、現在の飲み水の暫定目標値 50ng/L がそのまま基準値になってしまうのではないかと懸念します。それは世界の動向に逆行していますし、それでは日本人の健康を守ることはできません。暫定目標値 50ng/L は日本人の体格を考慮に入れて、アメリカの基準値よりも低めに設定していたのですし、、欧米に倣ってゼロを目指すべきです。
3094	「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価についての意見・情報の募集」 について、とても気なっています。 ２０００～2012 年くらいまで西東京市に在住。 ２０１２～現在の小金井市に居住しています。 健康診断でコレステロール値が高く出ているのは水と関係があるのでしょうか？血液検査をなんとか出来ないのでしょうか？
3095	１） 今回、食品安全委員会は PFAS の摂取許容量（案）として「20ng が妥当」と判断したことについて、非常に疑問を感じています。米国基準の 200 倍、欧州の 60 倍とされる数値と比べて極めて高いと言えます。健康被害が疑われる物質

	であることからも、「予防原則」の元で再検討が必要だと考えます。 ２） また、沖縄県宜野湾市、岐阜県各務原市、東京都多摩地区、岡山県倉敷市など、すでに飲料水や水道水などから高い数値が検出されている地域については、住民の健康被害に関する毒性評価など急いで行いう必要があります。 ３） また、すでに高濃度汚染の指摘がある地域以外での汚染のあぶり出しの必要も含め、地下水・飲料水の汚染状況に関して、緊急一斉調査が必要ではないかと考えています。 ４） こうした状況を踏まえた際に、今回の評価物質が２種類のみであるというのは非常に根拠にかけるものと思われます。 ５） 特に飲料水や土壌汚染の状況把握、また、生体濃縮の可能性も含め、予防原則を重視した上での健康影響への基準値の定めが必要であり、特に成長期の子供や妊婦には、適用基準を厳しくおく必要もあるのではないでしょうか。
3096	アメリカや EU では。毒性についての新たな知見の積み重ねを反映して、基準値がどんどん下げられているのに、日本は PFOA と PFOS の TDI が 20ng/kg というのは緩すぎるのではないでしょうか。PFH x S については 現時点では算出困難というのも理解に苦しみます。PFOA、PFOS、PFH x S はストックホルム条約で禁止、化審法でも禁止の扱いになっているので、これからは曝露量も減っていくはずです。それ以外の PFAS についての基準値も必要なのではないでしょうか。食品安全委員会は本気で日本国民の健康を守ろうとしているのでしょうか。本気さが感じられませんでした。
3097	日本の水道水に含まれる pfas の上限値を人体に影響がない値まで下げてもらいたいです。アメリカのように厳しくしてほしいです。
3098	未来の子ども達の健康を守る為に基準値を下げて下さい！
3099	世界が予防原則に基づいた対応をしている中、摂取許容量を「20ng/ｋｇ/日」としようとしていることに強く抗議します。ＰＦＡＳは、難分解性で分解されにくく、取り込んだとしたら、身体の中に半永久的に残り続けます。また大人よりも感度の高い、子どもたちが暴露するとより低い濃度でも有毒性があると聞いています。アメリカ環境保護庁による再評価の結果、生涯健康勧告値は、0.004ng/L と 3750 万分の 1 にまで下がってきたそうです。より高い値の「20ng/ｋｇ/日」に決めるのは間違いであると思います。ＥＵでは、全てのＰＦＡＳのあらゆる用途での使用を期限付きで全面禁止する措置が提案されています。欧米に倣ってゼロを目指してください。
3100	多摩市で子育てをしています。 水道水を飲ませている幼稚園もあるため、掛け合い水筒を持たせています。 基準値を EU や、アメリカと同量の基準値を日本でも定めてください。 水によりさまざまな文化が発展してきた日本、その根幹を揺るがす事態です。 私たちも学び、生活の中でも PFAS が製造過程に使われないものを選ぶなど、努力や工夫をしていきます。 あとは、年に一度血中濃度を測ることを、国、または自治体に要求します。
3101	私たちにとってとても大切な水の安全を見直してください。
3102	フッ素化合物の健康被害が不安です。 日本の基準値の見直しと安全性を検討してください。
3103	欧米に比べてあまりにも緩い基準値 将来の子供達への健康被害への影響も懸念されるため、出来うる限りの制限をもうけてほしい。
3104	PFOS、PFOR のみが評価の対象になっているが、欧米のように、すべての PFAS を対象としてほしい。
3105	国際的に発ガン性が危惧されている PFOA や PFOS の許容摂取量が日本はアメリカや欧州に比べて著しく高く設定されていることに強い不安を感じました。 人間の体は 60%以上水分でできています。また水は食事や洗濯、掃除など人間が生活する上でなくてはならない要素のひとつです。そんな人間の身体としても生活としても最も重要な要素の一つである水が安心して使えないことは苦しいことです。 国際がん研究機構やアメリカ環境保護庁が出した PFOA と PFOS の発ガン性についての評価を、日本も今一度見直してほしいです。 また国際的な評価を元に、日本の食品安全委員会が示す許容摂取量をアメリカや欧州並に見直してほしいです。 そして１万種類以上存在するとされている PFAS ですが、日本では PFOA と PFOS の２種類のみが毒性評価の対象となっています。PFAS をグループとし、代替物質を含めた毒性評価もして欲しいです。 日本にいる全ての人が、安心安全に水を利用できるように真摯な対応をお願いします。
3106	いとこが吉備中央町に住んでおり、この問題について知りました。 なぜこのような消極的な評価になったのでしょうか。世界の流れと全く違う方向にいっていて、これからの日本が心配です。 生活に欠かせない水。 やっぱり影響がありました、発がん性ありました、では遅いです。早め、早めの対策を！
3107	他国の基準と比較して明らかに日本の基準は緩いと思います。PFAS は体内に取り込まれると排出に長い時間を要します。諸外国と遜色ない基準として、日本人のデータを解析し修正すべきと考えます。
3108	日本の有機フッ素化合物の許容摂取量がアメリカや欧州と比べるとあまりにも日本の基準が高いことに驚きました。 ヒトの疫学データをから導き出した欧米と同様な基準値にしてください。 国民の安心、安全を守るためによろしくお願いします。
3109	世の中には色々なフッ素化合物があります。日本の基準値は海外に比べて高めになっているのはなぜでしょうか？アメリカの 13 倍です。生まれてから死ぬまで一生涯で考えると水道水以外からも暴露される可能性もあり、怖いです。水俣病などこれまでの国の対応を振り返り、是非今度は世界基準と同じように厳しく定めるべきだと思います。そして慎重に経過を追っていくべきだと思います。国民へ速やかに正しい情報伝達と注意喚起をして規制して下さい。
3110	PFAS の基準について、欧州連合では、2020 年、アメリカでは、2022 年に、大幅に引き下げられました。これからの子どもたちへの、脳や免疫、生殖への悪影響が心配されるからです。日本も、欧米なみか、同等以上の基準に、するべきだと思います。
3111	・外国と同等の基準値を設定して頂きたいです

	・汚染地域の住民へ安心して水が飲めるようにウォーターサーバー等の手配をお願いしたいです ・汚染原因となる企業や業者への罰則を定めて頂きたいです ・汚染地域に住民へ健康被害がないか、長期に渡り健康調査を実施して頂きたいです
3112	今回、食品安全委員会が示した摂取許容量案は、アメリカの PFOA で 666 倍と国際的知見に逆行した非常に高い水準だと思いました。妊婦、乳幼児などこれから日本で生活し続ける次の世代が安心して過ごすためにも、健康への影響が否定できる基準にすべきだと思います。 ぜひ、再評価をしてください。
3113	insta で情報を得ました。 これからの子供たちの身体が汚染されていくことに反対です。 すぐに自治体ごとに血液検査を施行してください。 日本の認可されている値は大きすぎます。基準を見直してください。
3114	大阪府在住の一市民です。衣食住に関する安全は最優先に考えて、安全評価をしていただく必要があると思います。今回、ＰＦＡＳについてアメリカやヨーロッパでの安全基準値よりもゆるい基準が検討されていると知り、大変心配しています。意見をあげさせていただきます。 発がん性が指摘される物質はあまた多くあると思いますが、国際的な基準のひとつであるＩＡＲＣは、ＰＦＯＡについて危険度のランクを変更し、「人への発がん性の可能性がある」と位置付けたと知りました。 取れる限り安全な施策をほどこしていくことは、将来への責任だと思います。一度、拡がってしまうと取り消せない物質の安全基準は、国際的な知見に基づいた高い設定が必要だと思います。 少なくとも、現段階では、ＰＦＡＳの危険度は、アメリカやヨーロッパの基準と照らしても、同等かそれ以上に厳しく設定しておくことが大事です。 今回の審議結果は危ういと考えます。再検討お願いします。
3115	PFAS の基準値を他国の基準値、国際的基準値より高く設定するのはやめていただきたい。日本人だけ大丈夫だという根拠がどこにあるのでしょうか。
3116	PFAS を含んだお水が家庭に流れてることに不安を覚える
3117	パブコメ電子送信、500 字以内制限は、不適切ではないでしょうか。食品安全委員会のご苦労もお察しし、数回で意見をお送りしますが、今後の参考にして頂きたく、ご検討ください。 １．POFA、PFOS 以外の PFAS についても評価すべきではないか ストックホルム条約で規制対象の PFHxS については、国内でも多摩の住人で高い濃度（81ng/ml)が検出され、水道水の要検討項目にも入っており、健康影響に関する論文が多数出ていることから、基準を決めるべき。 多摩住人のデータは以下に記載。科学（岩波書店）2022 年 92 号「 有機フッ素化合物による多摩地域の 水道水汚染と住民への影響」 PFHxS 以外も、EU では PFAS 全ての規制を検討しており、米国でも PFNA, PFHxA, PFDA など 9 種の PFAS について規制を検討している。ＰＦＡＳの毒性はまだわかっていなこともあるが、難分解性だけに規制強化必要ではないか。国内の環境で検出され、ヒトで曝露が確認されている(環境省の資料より）PFAS は、PFOA, PFOS 以外も多種類確認されており、早急に評価し基準を決めるべきではないか。
3118	まず欧米の基準や EPA の最近の報告を無視して海外の基準値と比較して PFOS で 200 倍、PFOA で 600 倍、PFAS にいたっては値の設定無し、としたことに驚いています。貴機関は日本に住む人間の健康（単に病気ではないというだけでなく肉体的・精神的・社会的に健かに活動できる状態のことです）を守るための組織だと信じています。許容値の設定について再考を望みます。 エンドポイントから癌が軒並みはずされていることも納得できません。審議結果（案）ではアメリカで行われた調査結果の中から、対象人数の少なさから因果関係があることが統計的に有意にあることが示されなかった調査報告だけをとりあげて関係は無いと結論づけています。統計的な話なので、関係ないではなく関係があると証明できなかっただけです。また関係があると示された調査報告もあります。それらをとりあげず、なかった報告だけをとりあげるのは不適切です。 それらの報告を無視して欧米の基準より数十倍高い許容量を設定するのは、科学的に誠実な態度ではありません。関係が不明なら不明で、あるとする報告も考慮して、欧米なみに低い基準にするべきです。
3119	２．発がん性について IARC は昨年末決定した発がん性で、PFOA はグループ１、PFOS はグループ２B とした。IARC の評価はハザード評価であり、リスク評価ではないが、この評価は科学的知見を基にした基準値となる。食品安全委員会はリスク評価機関であるが、日本人の曝露については、PFOA、PFOS の血中濃度で高い例が実際に報告されている。とくに PFOA は、大阪(20 人、幾何平均で約 15ng/ml)、兵庫（19 人中最大 27ng/ml)、岡山（27 人の平均で 171.2ng/ml）の住民で高濃度曝露が確認されている。これらは論文にはなっていないが、食品安全委員会で確認してリスク評価に取り入れるべきではないか。 大阪のデータ：「これでわかる PFAS 汚染」合同出版　原田浩二著。兵庫のデータ：兵庫県議会議員の HP 資料より https://www.ne.jp/asahi/maruo/hourensou/ 。岡山のデータ：ヤフーニュースの岡山放送の動画 https://news.yahoo.co.jp/articles/d7533645afdaf23a492f0051b1866eae1b5dad8f
3120	３．脆弱な胎児や小児、妊娠中女性への基準値を設けるべき PFAS 曝露により、低出生体重、妊娠高血圧などの報告があり、これらも確実性がないとして却下されている。しかし、評価書案 84 頁には、“これらの関連を否定できない”と記載している。評価書案 218 頁にも、“疫学では、国内外の複数の疫学研究の結果から、血清 PFOS 及び PFOA 濃度と出生時体重の低下との関連が多く報告されている。”としながらも“在胎不当過小（SGA）児、低出生体重児（2,500 g 未満）等の影響を報告した研究は限られている”として、評価に入れていない。日本の基準では、これまで脆弱な人への基準は設けられていないが、低出生体重が多い日本では、この点を十分考慮すべきではないか。
3121	海外の調査結果を無視して欧米の基準より数十倍高い許容量を設定するのは誠実な態度ではないと思います。関係が不明なら不明で、あるとする報告も考慮して、欧米なみに低い基準にするべきです。 低い基準にしたとして、日本の環境で実現不可能というわけではないでしょう。審議結果（案）によると、日本で現状での摂取量は、どちらにせよ、欧米の許容値に近い数字です。超過はしていますがこの許容値未満に収まるよう、行政的に実現可能な数字だと思います。

	私どもは PFAS 汚染地域に数十年住んでいます。父は血液癌になりました。私が子供を生むことのできる年齢だったとしても、この地域で子供を生み育てるのは怖くてできないでしょう。
3122	食品安全委員会が１日の許容摂取量を PFOS,PFOA ともに２０ｎｇ／１KG が妥当と判断したことにがっかりしました。 欧米の関係機関が示した許容摂取量とかけはなれた案が出された理由が科学的な不確実性では納得がいきません。 日本での対策が欧米から遅れることなく予防原則にたった判断を求めます。
3123	４．フェロー諸島などの疫学研究を重視すべき 評価書案では、フェロー諸島の疫学研究で、PFAS が免疫系に影響を及ぼすという論文を、食文化が特殊として評価していないが、日本人は欧米に比べて魚介類を多く摂取しており、フェロー諸島の例と類似性がある。日本人では、PCB、ダイオキシン、有機塩素系農薬など多種類の難分解・蓄積性有害化学物質を曝露していることが環境省の調査で公開されており、複合影響を評価すべきであろう。複合影響については、まだ決まった評価は特定されていないが、水銀など重金属類と PFAS の暴露により、心血管疾患のリスクを高めるという論文が報告されている。フェロー諸島の疫学論文を軽視すべきではない。 Toxics. 2023 Dec 1;11(12):979. doi: 10.3390/toxics11120979. Association of Combined Metals and PFAS with Cardiovascular Disease Risk. Yvonne S Boafo et al
3124	放射性物質の基準値と同様に、PFOS,PFOA の摂取許容量が日本は、ヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超えることは、人間が健康に生きる権利が大切にされていないということであり、それを平然と公言する日本の政府にはとても残念だが不信感しかない。 経済を優先させず、予防原則で基準値を決めるべきだと思う。 一度土壌が汚染されたら、それをきれいにするには莫大なコストがかかるということは誰にでも分かること。 直近の経済成長を優先して、未来の子供たちへ汚された土地、川、海、空を託すようなことをしないで欲しい。 欧米基準に合わせてください。 日本の政府が最高の政府だと胸を張って言えるような国になって欲しい。 そうなれると信じ、心から願います。
3125	５．PFAS 曝露による動物実験及び疫学研究の健康影響の結果が一致しない例があっても、予防原則に基づき、規制が必要 PFOA や PFOS の生体内半減期は、人で長く、マウス、ラット、サルでも半減期が短いと評価書案にも記載されている。従って、PFAS 類の人への影響は、動物よりも慢性長期影響が大きくなることが予想される。動物実験で確実な健康影響が明らかでなくとも、軽視すべきではないと考える。PFAS は人間が作り出した難分解性・蓄積性の有害化学物質である。不確実性があったとしても、予防原則に基づき、規制基準を設定し直して頂きたい。 また、その上で、不確実係数のうち、種間不確実係数を３、種内不確実係数を１０としているが、通常、種差は１０を使うことが多い。海外の評価で種間不確実係数を３としている例が多いことを踏襲しているようだが、根拠が不明。とくに生体内半減期は、人で長いため、種間不確実係数を３とするのは不適切ではないか。
3126	欧州食品安全機関（EFSA）は 2020 年、摂取許容量を PFOS と PFOA 合計で、0.63 ナノグラム／体重 1 キロ当たり、としています。人が 1 日に食品や飲料水から摂取する許容量です。一方、食品安全委員会の「PFAS ワーキンググループ」は、PFOS・PFOA 合計で、体重 1 キログラム当たり 40 ナノグラムと評価しました（各 20 ナノグラム）。これは EFSA による評価の 64 倍です。ここは欧州を見倣いたいところです。また、米環境保護局（EPA）は 2023 年 3 月 14 日に、有機フッ素化合物（PFAS）について、飲料水の規制値案を発表しました。PFOS と PFOA の合計で８ナノグラム／１?です（各 4 ナノグラム）。従来の勧告値は、合計 70 ナノグラム／1?でしたので、とても厳しくなりました。日本の水道水暫定基準値は、PFOS・PFOA 合計で 50 ナノグラム／1?のままです。水道水に関しても、EPA に追随すべきです。
3127	非常に人体に危険なものとわかっているのだから規制、検査、例えば大阪ならダイキンなどの会社や沖縄なら米軍基地などへの原因究明など行うとともに、規制を厳しくする、基準値を高いままに設定せずよく、検討して設定するなど対応してほしい。日本は農薬や添加物など、規制がゆるすぎて非常に残念に思う。
3128	東広島市の PFAS が基準値の 300 倍の値で源がわからないとのニュースを見ました。 至急対策が必要なのではないでしょうか？
3129	ただちに調査をお願いします。
3130	水道水の安全性は、人の命、健康に関わることです。 政府が水道水の基準を緩めていくことは国民の信頼性を失わせることになると思います。 安全性の基準を緩めることには反対です。 有機フッ素化合物の国内基準は、50ｎｇ/L は高いと思いますので、せめて 10ｎｇ/L 以下でお願いします。
3131	今回の許容摂取量「２０ng／１ｋｇ／日」を血中濃度に換算すると PFOS＜２５０ｎｇ／ｍｌ、ＰＦＯＡ＜１４３ｎｇ／ｍｌに相当する。7 万人を対象に行ったＣ８研究の結果から米国アカデミーの臨床ガイダンスではＰＦＡＳ血中濃度が２０ｎｇ／ｍｌを超えると健康影響が懸念されるため、ＰＦＡＳの暴露を減らすよう勧めているのに、食品安全委員会はなぜ 2024 年現在でもこのような非常に高い血中濃度を許容範囲だと判断するのか、全く納得がいきません。 食品安全委員会は感受性が高いとされる妊産婦、乳幼児、高齢者にとっても安全な許容摂取量を示す義務があると思う。
3132	各務原市に住んでいる。 市の水道として使われている井戸水に基準以上の PFAS が含まれており、健康被害が起きるのではないかと心配。 有機フッ素化合物の含有基準を欧米並みの厳しさの基準にして、一般市民の健康が脅かされない様にして欲しい。 また、市民に正しい情報を提供し、隠蔽せず、報告する制度も確立する様に強く要求したい。
3133	PFAS の摂取許容量を現在のアメリカの基準に合わせること。該当地域の住民の血液検査を無料で行い、健康被害の実態を明らかにすること。汚染源と見られる米軍基地への立ち入り調査を行なうこと。
3134	PFAS は、人体だけでなく、生態系への悪影響も、すでに研究者からは、懸念の声が上がっています。 牛の食べる牧草なども、井戸水などから、PFAS が、混入する場合も、考えられます。 その生命の水が、汚染にさらされる可能性大の今、国の基準は、どうあるべきか、火を見るより明らかではないでしょうか？ 日本の基準も、欧米並みに厳しくすべきだと思います。 そして、今、はっきり判明しないからと言って、緩めるべきでないと思います。栄養素の基準も、5 年に一回訂正されて

	いるようですが、世界中の研究結果を鑑み、緩めるのではなく、環境破壊や、人体に影響のないように、厳しくしていくべきだと考えます。 どうか、日本の子ども達への、悪影響の結果が、出ないように、欧米並みに、厳しい基準を求めます。以上
3135	これ以上沖縄のお水を汚染しないでください、、 誰もが安全に飲めるお水を 守ってください！！ 沖縄の自然や海、私たちのカラダ、健康を 守ってください！
3136	アメリカや欧米と比べて摂取許容量がとても高いのに驚きました。自分にも小さい子供がいます。その子供が摂取することを考えたら、恐ろしくてたまりません。
3137	支持母体の顔色を伺った結果、国の未来を考えてるとは言えない結論に至ったなと感じます。 責任ある立場の人間が、責任感を持たずに判断を押し付け合うと大体こうなるという典型ですね。 こんな意見を投稿したところで、何の意味も為さないと感じるほど、政治は既に一部の人間のためのビジネスに成り下がったと言わざるを得ません。 民が関心を失ったのではなく、民が関心を維持できなくなる政治を継続したことは、既得権益を受益している為政者やその周辺にとって好都合だったのは明白です。 この環境問題について、国民の健康を優先していないと公言するような基準に定めたプロセスを開示すべきです。 きっと出来ないし、やらないでしょうけれども、責任を意図的に霧散させ、誰もが無責任でいられる政治の慣習を象徴している事態に辟易しております。
3138	日本では、PFOS、PFOA の摂取許容量が、ヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるようですが、このことについて問題ないと判断された根拠を、わかりやすく国民に知らせてほしいと思います。 日本の政治がいつも大企業優先であることは、国民は皆気づいていることだと思いますが、「水」という誰にとっても不可欠なものまでこういった危険に晒すことについて容認してしまうのはなぜなのでしょうか。説明していただきたいです。 また、有機フッ素は PFOS と PFOA 以外にも非常に多くの種類があるとのことです。それらについての調査研究は、されているのでしょうか。また、規制の必要がないのかどうかも教えてください。
3139	突然、有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）について意見を送ることをお許しください。 早速ですが、 すべての有機フッ素化合物のように脂質異常症、腎臓がん、乳児・胎児 の成長・発達への影響や他の健康被害起きるものを製造、使用、販売を禁止して、すべての地域で飲まれている水で有機フッ素化合物を調査して、 １リットルあたり０ナノグラムに PFAS を吸着する高性能の活性炭以上のものを開発して住宅や浄水施設に導入できるようにしてほしいです。
3140	水って身体を司るとても大切なもの。 PFAS の基準値をアメリカと同程度にして欲しい。子どもたちに安心出来る水を日本に残したい。
3141	「リスクの証拠が不十分だから規制を厳しくしない」というスタンスではなく、「証拠が不十分であるが、リスクの可能性がある限り、残留基準は厳しく設定する」というのが、本来、国民の健康を第一に考えるなら当然と考えられますが、なぜそうできないのでしょうか？
3142	意見です。 消化剤や調理器具などに長年使われてきた永久に無くならない物質、PFAS、PFOA などの化学物質が河川や水道水から検出されたり、他国によって使用されていた土地の汚染がひどいという記事を多く見ます。 多く利用されていたのだし、永久に無くならない物質と聞くので、浅学の私にも、これ以上増やしてはダメな物質だということは分かります。 外国の団体が長年利用していた土地なら、撤去の際に双方で調査し、このたぐいの汚染土を剥がして本国で処理させるような法制度を作っていただかないと、日本列島は世界の産廃場になり下がるのではないかと危惧しております。 多少の毒でも、明らかな証拠がなければ規制しない、という姿勢のままでは、複合汚染で理由もわからず病気になったり、出生率が下がったり、先天的な病で苦しむ親子が増えたり、社会保障費が財政を圧迫し税金に跳ね返ったり、GDP が下がったりすることもあり得ます。　無くせるところからすぐにでも規制をしなければならない、という方向で報告書をまとめていただきたいと思いました。
3143	フッ素化合物の安全基準を厳しくしてください。蓄積されます。 子供達の未来、地球上の多様な生物のために。汚染された土、水、空気では生きられません。
3144	他国に比べて、安全評価の値が異様に高いので怖いと感じています。 発がん性が心配されるのであれば、危険度の高い食品が、出回らないよう規制してほしいと思います。 健康被害が出てしまってから規制しても、病気になってしまった方にとってはもう遅いですし、 国として 国民が病気で働けなくなる可能性や、医療費が上昇するようなリスクは、きちんと防いでほしいです。 高額の安心安全と宣伝される食品を購入できるのは、ごく少数の人だと思います。 私は健康に気をつけたいと思っていますが スーパーで買い物をする時、値段も見て 妥協して食品を買うことがあります。 妥協して選んだ食品に、有機フッ素化合物が 大量に入っていたら悲しいです。市場に出回らないよう、他国の基準や調査研究結果を生かした基準値に修正してほしいです。
3145	この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS<250ng/ml、PFOA<143ng/ml に相当します。米国アカデミーの臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのでしょうか。 特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会にはきちんとした国民への説明

	を求めます。 「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めようとしている欧米に準い、日本も「ゼロ」を目指すべきです。 10 歳の我が子は「そんなものを摂取し続けて病気になりたくない」と話しています。 子どもたちや未来の日本のためにも、科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に基づき、総合的な判断を求めます。
3146	欧米は「PFAS ゼロ」に舵を切っているが、大規模なヒトバイオモニタリング調査結果を重視しているからではないのか。今回の許容摂取量を採決するにあたり 2016 年の EPA のマウスの実験結果を重視しているが、動物とヒトでは健康影響が同じではない。ヒトバイオモニタリングの研究結果を重く評価するべきではないか。
3147	規制基準がゆるすぎます。 米国か欧州並の基準設定とすべきです。インバウンド産業にとってマイナス要素となり得ます。市民の命を守ることは人権の要請であり当然のことです。更に、外国からの旅行者が、短期間の滞在とはいえ、安心・安全を求めるなら、日本国を避ける虞があります。
3148	(1) 食品安全委員会が「20ng が妥当」と判断したことに驚きました。米国や欧州の許容摂取量よりも二桁も高いのは不安以外の何ものでもありません。研究データが十分になく健康への影響が不明なのであれば、「予防原則」に基づいて、取り込む量を減らすことが大切です。 (2) 国際がん研究機関（IARC)も米国・環境保護庁（EPA)も PFOS、PFOA は「発がん可能性がある」と結論づけています。わが国だけ「発がんの可能性」をしないのであれば、『日本人の 2 人に 1 人ががんにかかる』ことが促進されることでしょう。 (3) PFAS は 1 万種類以上存在するが、食品安全委員会の評価はたった 2 物質のみ。アメリカは飲料水で 6 つの PFAS、欧州は食品中で 4 つの PFAS の毒性を評価し規制しています。我が国も他国を見習ってリスク評価を進めないと、『日本人の 2 人に 1 人ががんにかかる』ことが促進されることでしょう。
3149	他の例えば放射性物質の基準値と同様に、PFOS、PFOA の摂取許容量が日本はヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超えることは、同じ人間なのに日本人だけが多くの化学物質に強いとは思えず、人間が健康に生きる権利が大切にされていないと感じます。 予防原則で基準値を決めていただきたいです。 経済を優先しないでいただきたいです。 一度土壌が汚染されたら、それを綺麗にするのはとても大変なことで、それこそ莫大なコストがかかると思います。 有機フッ素は 1 万種類あると聞きましたが、全て同様に規制を設けて、使用自体にも規制をかけてください。 吉備中央町のケースの様に排水浄化槽のカートリッジなどの保管もきちんと法で適正な処置が行われるよう、監視するシステムを作ってください。 直近の経済成長を優先して、未来の子供達へ汚された土地、川、海、空を託すようなことはしたくありません。 土が健康であることは、人間を含む全ての生き物にとって必要不可欠です。 欧米基準に合わせてください。 よろしくお願いします。
3150	この文書は全般的に、科学的な観点から真理を追究する厳しい態度で貫かれていると思います。EPA の「Drinking Water Health Advisories for PFAS　Fact Sheet for Communities」は多少目的は異なりますが、国民が PFAS の取り込みによって健康被害を受けることの危険性を排除するという基本的態度で貫かれていると感じました。例えば本報告書案では腎臓がんについて「結果に一貫性が みられないことから、現時点では関連の有無を判断するための証拠は限定的であると考えられる」とまとめられているなど多くの疾病対象に対してデータの不備が指摘されていますが、それらの中には累積ひ曝を推定するため測定データのない過去のデータを推計するために居住歴などを用いた例など、真実に近づくためのものなどもあると思います。EPA は、Shealer らの報告は、指摘されるような問題点はあるものの、中程度の信頼性があるとして、これらのデータから情報を得る努力をしています。科学的に不十分だとして排除するのではなく、国民の健康を守るという目的を果たすために、見直しをお願いしたい。
3151	米国や欧州の許容摂取量よりもかなり高い数値に驚きと不安を感じております。なぜ世界と逆行するのでしょうか。。国際的知見を受け止め、健康への悪影響が未然に防止されるよう「発がん性」を認めてください。辛い思い、悲しい思いをする国民を増やすおつもりですか。どうぞよろしくお願い致します。
3152	米国 EPA は、動物実験などの研究結果から、米国の PFOS と PFOA の摂取許容量をそれぞれ 0.1ng/kg/日と 0.03ng/kg/日としている。このことは、PFAS 有機フッ素化合物を飲料水や食品にわずかな混入さえも認めないとする極めて厳格な姿勢の現れだ。また、アメリカと日本の成人男女の平均体重比はそれぞれ 1.4 倍と 1.47 倍であり、体重比の観点から見ても、米国の規制値よりも厳格にすべきだ。 一方、日本政府は科学的根拠を示さずに、PFOS と PFOA の摂取許容量を一律 20ng/kg/日に設定している。この数字はそれぞれ、米国の基準と比較して 200 倍と 666 倍も高く納得できない値だ。さらに、PFAS は人体に蓄積されるため、単に摂取濃度を規制するのではなく、摂取総量を規制すべきだ。 2018 年の OECD の報告によると、有機フッ素化合物は 4730 種類以上あるとされている。日本政府は、これらの化合物が使用される食品や製品が数多く存在するため、科学的根拠を示さず、企業の利害関係を重視した結論を出していると言える。この姿勢は、「水俣」の教訓がまったく生かされてなくとても残念だ。
3153	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率という影響の点でも調査結果が、EPA では得られており、この点からの PFOS の規制値を考え、一日摂取量を０．１ｎg/kg 体重/日とすべきです。なお、できれば、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、この点からは 0.0079ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由）既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の Wikstr?m et al. 2020　の研究結果です。日本でも小泉氏らの疫学調査データもあります。これが一番厳しいレベルですが、子供こそ一番影響を受けます。「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果は、Grandjean et al. 2012; Grandjean et al.2017a; Grandjean et al. 2017b; Budtz-J?rgensen and Grandjean 2018　です。

3154	IARC において、PFAS ののうち PFOA は「発がん性がある」とするに足る証拠が揃ったと公表されました。アスベストやカドミウムと同じ、最もランクの高い「グループ 1」に分類されています。また PFOS についても「発がん性の可能性がある」と評価されています。大阪府における調査では、妊婦への深刻な影響も認められています。評価書（案）には「情報不足」「不確実」といった言葉が記載されていますが、そのような状況で「問題なし」「影響なし」と評価するのは国民の命と健康を軽視した無責任な対応です。国がすべきことは、PFAS ゼロの社会を実現するための取り組みだと考えます。
3155	この許容摂取量をもとに今後定める水道水の基準値は今の目標値 50ｎｇのままとなるのだろうか。PFAS の暴露源の一番は水道水だ、と吉備中央町に住んで痛感した。PFAS は体から排出されにくく、長く蓄積すること、健康影響のリスクがあることを考えると日本も欧米の様に低い水道水の基準値となるよう、評価の再考を求めます。
3156	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率という影響の点でも調査結果が、EPA では得られており、この点からの PFOA の規制値を考え、一日摂取量を０．03ｎg/kg 体重/日とすべきです。なお、できれば、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、0.0015ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由）既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の Wikstr?m et al. 2020　の研究結果です。日本でも小泉氏らの疫学調査データもあります。これが一番厳しいレベルですが、子供こそ一番影響を受けます。「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果は、Grandjean et al. 2012; Grandjean et al.2017a; Grandjean et al. 2017b; Budtz-J?rgensen and Grandjean 2018 です。
3157	意見）PFAS 問題で、一番心配なのは子供への影響です。低出生体重児の発生率の点での調査結果がないが、「子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下」の研究結果からの規制も考えるべきで、この点からは PFOS、PFOA、PFHxS、PFNA の合計 0.63ｎg/kg 体重/日とすべきです。 理由）既に ある程度のデータがアメリカでデータが得られている。すなわち、２２４頁の子どもの血清抗ジフテリア抗体価の低下について、Abraham et al. 2020)、(追加情報：Grandjean et al. 2012）の研究結果です。
3158	今回、泡消火剤以外にフッ素系モノマーの重合時に用いる乳化剤が、問題であることを知りました。この目的に使われる PFOA や PFOS は製造、輸入が禁止されていると聞いています。これらは残留性が高いので引き続き管理の必要があるのはもちろんですが、従来取り上げられている化合物以外にも着目する必要があると思います。私はテフロンなどの重合の経験はありませんが、もし自分が、担当者であったら、代替物の探索に努めるはずです。乳化剤としては PFAS あるいは PFAS 類似物の中から探索するのが最も可能性の高い方法だと思います。しかしそれらの化合物はやはり PFOA などと同様の毒性を有する可能性があります。メーカーとしても困った状況だと思いますが、これらの毒性をきちんと評価する必要があると思います。現在の化審法で対処できるのか、できないとしたらどうするのか、また現在フッ素樹脂メーカーが操業を続けているとしたらどのように対処しているのか調査し、後手とならないように対処する必要があると思います。
3159	意見）PFAS 問題では、過去の日本の公害問題での教訓を生かすべきです。「水俣病、大気汚染ぜんそく被害、カドミウム被害など、後手後手の対応と対策であったために、被害を大きくした。先手で早めに私企業の廃棄物規制を厳しくすれば、被害は低くできたという教訓を、この報告書の中で、記載すべきです。 理由）PFAS]問題は、そもそも米国のデュポン社、３M 社、日本のダイキン工業株式会社などの私企業が、健康被害を予測して様々の社内で秘密の調査をし、データを持ちながら、社外に伝えず、政府にすら秘密にして、生産量を増やし続けてきた結果、今回のように大きな社会問題にしたのである。この経過は、特に「ミナマタ病とよく似ている経過である。PFAS による被害が、日本においては、まだ顕著な健康被害が出てないとのことであるが、それはまだ政府の健康調査が本格的になされていないためであると思われるが、それでも、今こそ先手で厳しく規制すれば、これから出てくる被害を低く抑えられるといえます。
3160	意見）委員会としての認識が一致しているのであれば、その結論として、ＰＦＯＡとＰＰＦＯＳの摂取量基準は、米国、ＥＵと同じにすべきです。 理由）姫野座長は、「日本人の摂取量とヨーロッパ、アメリカのそれとは桁のレベルでは違わない」、「ＥＰＡの基準では、アメリカ人の普通の生活をしている人たちがみんな基準を超える」「ヨーロッパでも、・・・同じ」という発言がありましたが、それであれば「案」の結論は反対に導かれるべきです。「アメリカなみの血液濃度指標に したら 日本のほとんどの人が汚染レベルを超える、それはまずい」というが、そうであれば、アメリカと同じく、至急にＰＦＡＳ物資を環境中から除去する対策こそが必要である。指標値を緩めることは受け入れられない。日本では、過去に大気汚染物質の二酸化窒素 NO2 濃度基準問題で、痛い経験をしています。1978 年にそれまでのレベルの 2 倍～3 倍に緩めたが、そのことが結果的にぜんそく患者数を大きくしました。最近 WHO が日本の基準の 1/4 以下のレベルを改定指標とした。これは改悪前のレベルに近いです。このような過去の間違ったことを繰り返してはなりません。
3161	東京多摩地区の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。研究データが十分になく、健康への影響がはっきりわからないというのならば、予防原則に基づいてまず取り込む量を減らすことが大切なのではないでしょうか？ 50ng という基準値は全世界的に見て妥当な判断とは思えません。 国民の PFAS 血中濃度をしっかりと調べた上で、国民の健康を第一に基準値を定めて欲しい。
3162	基準値をもっと厳しくして欲しいです。
3163	世界各国が次々と PFAS 基準を厳しく設定している中において、なぜ日本の基準がこれほど緩い基準になっているのか理解出来ない。 日本は多くの公害を経験し、そして、新たな環境汚染も次々と起こっている。 過去に学ばない者は愚者だと言わざるを得ない。 各国の基準以下を目指していくことが過去に学ぶ賢者のやることだと思う。
3164	PFOS、PFOA ともに接種許容量が世界の基準値と比べて日本の基準値が高い。これを欧米の接種許容量にして欲しいです。生きていく上で絶対必要な水を安心して飲めない日本にして欲しくないです。健康を損なう恐れがある高濃度の PFOS、PFOA を含む水道水を検査できちんと判定できるシステムを各地で構築する必要があると思います。加えて水道の利権も海外の企業に売れないような法改正をして欲しいです。どうか日本の国民が安心して飲める水道水基準にして下さい。よろしくお願いします。
3165	水や食品は、市民が生きて行く上で最も大切な摂取物。だからこそ、安全第一に慎重にすべき事。食品安全委員会が PFAS の許容摂取量案には、ヨーロッパの６０倍! 更に、何とアメリカの２００倍!!!!! 即、止めてください?
3166	評価書案を拝見すると PFAS の人に対する健康リスク評価にかかる多数の研究について「証拠不十分」であると採用却下していますが、貴委員会が取り扱っているものは刑事裁判ではなく食品の安全基準なのですから、知見が不十分ながらも

	健康への悪影響を示唆している研究については、取り入れるべきではないでしょうか。そのような判断をしなかった理由、そして、米国・欧州と比較し数 10～数 100 倍高い耐容一日摂取量としてもなお、その基準値で食品の安全と私達の健康を守ることができると判断された根拠について明確な説明がなされていないと感じます。ご説明をお願いします。
3167	子どもたちのために
3168	食品安全委員会が妥当とした「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると、PFOS＜250ng/ml、 PFOA＜143ng/ml に相当し、これは米国アカデミーの臨床ガイダンスで健康影響が懸念されるとして特別の注意を勧めている血中濃度 20ng/ml を越えることになるのに、なぜ食品安全委員会はこの数値を安全と判断できるのでしょうか。健康への影響がはっきり分からない今、欧米を見習って「PFAS ゼロ」を目指すべきです。
3169	国際動向を考慮していない。示されている PFAS の摂取許容量は、欧州の６０倍以上、アメリカの２００倍以上である。日本の場合は国土面積と人口密度を考慮し、これら国々よりも慎重になってしかるべきではないか。 現在、水資源の PFAS 汚染が深刻化しており、私の住んでいる地域でも、河川から基準値より桁が２つ違う数値が検出されている。近隣の農地では、現在でも地下水を利用しているところもある。また、多摩地区の住民の血液検査では、平均値で基準の２，４倍の PFAS が検出されている。 資料には諸々の疾患に対して PFAS がその発症原因であるという証拠はないと記載があるが、証拠が出てからでは遅いのではないか？現に、がんや内分泌系疾患の発症率は年々増加し、留まる気配がない。 これら諸々の現状を鑑み、PFAS に関しては慎重に、せめて国際社会の規準と足並みをそろえるべきであると考える。
3170	P27 3.代謝 PFOS 及び PFOA は化学的に安定であり、生体内で代謝されない。PFHxS も同 様に代謝されないと考えられている。 生体内で代謝されないような物質であるならば可能な限り生体に取り込むリスクはゼロにするべき。 排出においても尿や糞便から体外に排出されるが再吸収も起こり、長い期間 PFAS にさらされる腎や大腸に癌の発生リスクが高いことは安易に想像出来る。 これらの理由でも食品中に含まれる PFAS 基準は欧米の人々に比べ体格が小さく、腸管の長さも長い日本人においてリスクが高いと考える。 少なくとも EPA の基準を越えるべきではない。
3171	海外よりも基準値が高くなっているので再評価をしてほしい。 ヨーロッパではピーファスゼロを目指してるので日本も目指してほしい。 汚染が確認された地域では血液検査の実施をしてほしい。 汚染の原因を調べて、指導や罰則などの条例をつくってほしい。
3172	食品安全委員会が 20ng が妥当と判断したことに大変驚きました。米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いと聞いて日本は大丈夫かと不安です。健康への影響がはっきりわからないのであれば 0 に近い許容摂取量に減らすべきです。
3173	PFAS の基準値を下げるべきです。 こどもの未来を考えたら、半永久的に残る物が、ましてや毎日必要な水に含まれるのは将来が怖いです。
3174	昨年、国際がん研究機関で PFOA に発がん性があること、PFOS にも発がん性の可能性があると評価が出ています。 これまでの蓄積と今後の健康被害を明らかなしていくためにも調査や管理が必要だと思います。 国際研究機関の基準に沿って、発がん性があることを明記してください。 市民の健康を守る視点て゛より厳しい基準で対策をとることを行政に求めます。
3175	PFAS の基準ですが、発癌性の疑いがあるので基準を緩和するのは犯罪的な行為です。EU の基準に準拠してください。 米軍基地からの漏洩に関して、可能性があった時点で公表すべきです。国民の生命を大切に、ちゃんと仕事してください。
3176	海外よりも高い許容摂取量の再評価を求めます。 汚染された地域での血液検査の実施を行なってほしい。
3177	IARC が PFOA を「ヒトに対して発がん性がある」、PFOS を「発がんの可能性がある」と評価したにも関わらず、食品安全委員会は「証拠は限定的」としている点は非常に問題だ。たくさんの動物実験から有害性があることが既にわかっている。PFOA,PFOS 以外の未規制 PFAS についても強い有害性が懸念されている。産業に未規制の PFAS がたくさん使われ、結果たくさんの PFAS が環境中に排出されている。未来に向けて有害性のある物質を規制するせっかくの機会なのに有害性、発がん性を正しく評価しないのでは、1 年間をかけて協議する意味がないと思う。 現在大規模半導体工場の誘致、稼働が進むが、未規制 PFAS がどれだけ環境中に放出されているのかわからない。 このタイミングで行う PFAS のリスク評価が低いままで、将来の日本国民の健康被害と環境汚染を未然に防ぐことはできないと思う。 当たり前だが、将来にわたっての健康被害と環境汚染を未然に防ぐことのできるリスク評価を示してほしい。
3178	水は、全ての源です。安心、安全は、人間が作った薬では、作れません。未来の日本のために子どもたちのために自然を守り、育てて行きたいです。その為には、まず PFAS は、必要ありません。昔ながらの生活の大切さに、今、注目するときが来ていると思います！
3179	ピーファスの許容摂取量の再評価を求めます。 原因を調べてほしい。 汚染物質を出している企業や工場などに指導や罰則の条例を作ってほしい。
3180	日本の PFAS の基準は、欧米に比較して異常に高く、国民の健康に対する安全性に不安を感じます。 国には、何より国民の安全を最優先に考えて、しっかりとした対策を検討してもらいたい。国民の危険は国の危機であり、将来を担うこれからの若者が安心して生活できる世の中にすることが、我々に課せられ義務だと思います。
3181	安心できる水が飲みたいです。海外と基準値がここまで大きく違うのは、納得できません。見直しを検討してください。
3182	PFAS 有機フッ素化合物は、発ガン性、免疫低下、､胎児の発達の遅れなどの原因になることがわかっていますが、よくわからないのでと、規制を甘くするのは、非常に危険だと思います。厳しい規制に向かっている世界の流れにも反しています。人命や健康第一の視点で厳しい規制をすることを望みます。
3183	2020 年の EFSA の基準を採用すべきではないでしょうか。もしくは、EPA の最新版が発表されるまでは審議を続けるべきではないでしょうか。時期尚早ではないでしょうか。 特に子どもへの影響に関する検討が不十分であることや、関西において PFOA に汚染されていることも留意が必要かと思います。

	諸外国の動向に逆行しているような気がしますし、目に見えないもので、身近なものだからこそ、私たちが安全に暮らせるよう専門家の先生方による更なる慎重な審議を求めます。よろしくお願いします。
3184	許容摂取量における日本の基準は国際的に見て異常に高く見積もられています。欧米基準の数百倍になっています。そして、健康被害についても発ガン性が懸念されるとしてPFAS使用を禁止する方向に進んでいるにも関わらず、日本の姿勢は及び腰です。現に水道水の飲用から住民のPFAS血中濃度が高く出ている地域が複数あるにも関わらずです。自然に分解されることのない汚染物質である事は確かで、日本中が汚染され大勢が落命した後に実は悪いものでしたと言っても遅いのです。健康被害の有無が確認できないというような呑気な事を言わずに予防原則に基づいて動く事はできませんか。世界の潮流を見て他国に倣うことはできませんか。即時禁止を強く求めます。安全な水道水がなければ子供たちに未来を残せません。
3185	昨今、化学物質過敏症の人が増えています。最近行われた、日用品への香料の徐放技術の規制を求める人の数は8000人程です。化学物質過敏症になると、極少量の化学物質でも反応し頭痛、めまい、吐き気など様々な症状が出ます。日常生活を送ることは困難になります。PFASは化学物質過敏症の人にも影響がある可能性があります。水道水は生活用水として毎日飲むものです。人間は1日に2l近くの水分を必要とします。その水が汚染されていては、生きていくことが困難になります。人間だけでなく、魚などへのPFASの蓄積も懸念されます。現在大丈夫だとしても数十年後も安全なPFAS濃度であると断言することはできないと思います。現在、水道局では、柔軟剤などに含まれている香料のマイクロカプセルを除去でにないそうです。PFASも同じではないでしょうか？水が汚染されては、農作物、水産物、衣食住全てに悪影響が出ます。人間が生活できなくなります。アメリカや欧州の基準値にならうべきだと思います。より厳しいPFAS濃度での規制をお願いいたします。
3186	IARCの発がん性の判断を「証拠は限定的」とするだけでは納得がいかない。「PFASをどのくらい摂取するとがんのリスクとなるのか」一刻も早く日本での疫学調査をするべきだ。全国各地でPFAS汚染が発覚し、住民の血液検査で高い値が検出されている。全国で調査・追跡してPFASの発がん性の評価をするべきだ。
3187	今回の審議では、ＰＦＯＳ及びＰＦＯＡについての評価が行われましたが、まだ不明な点があるという項目もあります。発がん性についてもヒトに当てはめられるかどうかは判断できないという評価です。 これまで環境中に放出されたＰＦＡＳが土壌や河川を汚染するなど飲料水や食品等の安全を脅かし、今後も人体への影響が懸念されます。PFASには多くの種類があり、フッ素が隙間なく含まれている分子構造が共通しており、難分解性と高蓄積性、そして強い有害性が懸念されています。それらの有害性研究を急いで進め、指標を設定するなど、次の健康被害と環境汚染を未然に防止することが重要です。海外では、代替物質を含むＰＦＡＳをグループ化して規制しようという動きを見せています。（続く）
3188	私は幼稚園あたりからウォーターサーバーで水を飲む生活をしています。これが当たり前と思っていたのですが、静岡県など、県外を出ると水道水が普通に飲めることに衝撃を受けたことがあります。私の住んでいるうるま市では特に普天間基地など、影響が見えないと思われがちですが、周辺の畑では徐々にPFAS汚染の影響で収穫が困難であると新聞記事でも読みました。水が飲めて当たり前の生活であったはずの沖縄が今ではこうして米軍下に置かれ、常に悩まされています。全国で低体重で生まれてくる赤ちゃんが最も多いなど、理不尽なことばかりです。
3189	（続きです) どれだけ摂取するとわたしたちにとってがんのリスクがあるのか、目安をつくるためにも、北海道だけではなく、全国の、あるいは少なくても神奈川県、沖縄県のコホートの活用を行うべきです。また、ＰＦＡＳについて健康影響に関する情報が不足していて評価できないのであれば、飲料水、食品等におけるデータの収集を進め、その調査結果を元に再評価する必要があります。既に評価したから行わないと言うことではなく、更なるデータを集めて評価し直して下さい。 以上
3190	欧州ではすでに規制が厳格化されていると聞いています。 今回の案では、発がん性を示す先行研究がないなどとする記述が多数見られます。 先行研究がないから安全とは結論づけるのは危険です。 水などすべての国民の健康に重大な影響を及ぼすことが懸念されます。 国内での健康への影響をきちんと調査・研究し、 より慎重に議論を進める必要があると考えます。
3191	未来のこどもたちのため、真剣に考えてください
3192	有機フッ素化合物評価書で海外の知見が示されているが、まだまだ解明されていない物も多い. 解明されていない≠安全なもの 予防原則に則って基準を作るべきものと考える。 最低でも2020年EFSA。 EPAならば2023年のものを参考に我が国の基準を設定すべき。
3193	東京多摩エリア在住です。国際的知見を無視した判断に愕然としています。自身の身体の安全が確保されない国でどうして子どもを産み育てたいと思えるのでしょうか？
3194	摂取許容量が高すぎるのではないでしょうか。下げてください。
3195	日本人がこれほど癌に罹患していることの原因はなんなのか、についてよく考えます。高齢化など要因もありますが、水の安全性は必須だと思います。国は、日本の水の安全性について、世界的な見地からはっきりと国民に知らせていただきたいです。今回審査結果が出たのであれば包み隠さず報告し、対策に予算を費やしていただきたいです。体を作っている水、食べ物の安全性を国が本気で守らないと、国民の健康は守れないと思います。 PFOR.PFOSが飲料水に含まれる影響を含めて、正確に公表をお願いします。
3196	海外の知見からPFAS の血液濃度と健康被害との因果関係が明らかになっています。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を早期に求めます。 EUの動きやアメリカの一部の州の法律を見習って、早期にPFAS 全面禁止にすべきと考えます。
3197	水道水の有機フッ素化合物の基準値をもっと上げてください。 健康被害がある高い濃度の有機フッ素化合物が入った水道水は撤退的に原因追求をし、改善するよう国が動いてください。国民の健康を守ってください。
3198	PFASの基準について、欧州連合や、米国の基準のように、日本の国内の基準も厳しくすべきと考えます。 水質汚染、環境汚染の、被害は、これから、判明してくるものです。 欧州では、もうすでに医学的研究者が、人体への悪影響のデータも、明らかにしています。 将来に、禍根を残さないように、食品安全委員会としての賢明なご判断を、お願い申し上げます。

3199	他の国々（アメリカやフランスなど）の基準に対して なぜ日本の PFAS の数値はこんなに高いのか 人のいのち健康、安全を軽視しているように感じます 命の源である大切な水を守っていくために 見直しを求めます
3200	国際的な発がん性の評価をなぜ取り入れないのか。食品安全委員会は「証拠は限定的」と評価したが、IARC 原文では「PFOA は発がん性がある。それは実験動物の発がんの十分な証拠と、曝露されたヒトにおける強力なメカニズムにもとづくあ」と評価した上で「ヒトのがん(腎細胞がん、精巣がん)の限られた証拠もある」と書いてある。食品安全委員会姫野座長の「IARC もわれわれも限定的であるという結論で、IARC と実は結論はほぼ一致しています」との説明は、IARC プレスリリース原文と文脈も結論も異なる。 これまで国が化学物質の基準値策定を行う際は、国際がん研究機関(IARC)の発がん評価を基本とし、米国 EPA 等の発がん評価も参考としてきたはず。なぜ今回評価書ではこの基本を無視するのか。汚染地域はいま全国各地に存在する。予防原則に基づき、健康への悪影響を未然に防ぐよう「発がん性」を認め、最新の疫学研究での陽性所見をすくいあげ、国民(とくに子供達)を守るための RfD を算出しなければならない。私は自分の家族の血中濃度を知り得た上でこの発言をしています。データ不足を理由にこれ以上の評価先送りをすることは許されません。
3201	PFAS について、日本では最近になって問題になっていますが、大阪のダイキンへの対応などを見た時に、国は規制に後ろ向きであるような気がします。 また、米軍基地の消火剤による汚染の影響を隠そうとする意図も感じます。 そうした中で、今回の提示資料は膨大ですが、結論としては、この問題の先進国であるアメリカや EU の規制より大幅に緩い規制を導き出すためのものに見えます。日本も先進諸国の規制水準に合わせるべきです。
3202	有機フッ素化合物が含まれた製品の販売を禁止して、国民を守ってください。 そういうことができる政党を全力で応援します！
3203	命、健康を守るためにも欧米並みの低い基準に改定してほしい。 日本もゼロを目指すべき、子供たちの健康を考えるととんでもない事です。
3204	数字にしてしまえば微量（と思わせられるる）の変更が、数年後・十数年後にどれだけの影響を及ぼすかは現状誰にとっても未知ですよね。身体に 1 番必須である「水」に影響が未知の化学物質が含まれているとしたら、不安に思わない人はいますでしょうか? わたし自身、フッ素化合物の問題を知ってからすぐに浄水器を買い直し、念のためポット式も使用して二重に浄水を行うようにしました。 購入時は浄水できる項目を各メーカーいろいろ見ましたが、「フッ素化合物（または PFAS）」なんて項目はないわけです。それだけでもさらに不安になりました。浄水したから安心なんて、とても思えません。しないよりはマシと思い込んでいるだけです。そうしないと、暮らせませんので。 「みなさんずーっと昔から、お爺さんの代から知らないうちにじゃんじゃん飲んできました。でも、平気でしょ？だから大丈夫です！」なんてものではないですよね。将来の（現在も）健康被害が未知の、不安な化学物質です。 そのようなものの「健康被害評価」の数値を、さらに諸外国とかけ離れた数値にするなんて、正気とは思えません。反対です。 どうぞ考えなおしてください。
3205	まず、欧米に比べてはるかに緩い基準となっていることが信じられません。 国際がん研究機関(IARC)が PFOA/PFOS に発がん性がある/発がん可能性があると公表していますが、なぜこれを評価しないのでしょうか。 すでに住民の血中 PFHxS 濃度が非常に高い地域が全国にあります。PFOA/PFAS のみならず、日本も「PFAS ゼロ」を目指して、早急に毒性評価を進めるとともに、健康被害を未然に防ぐ対策を進めるべきだと考えます。
3206	予防原則に則り、欧米諸国並みに規制を強化するべきです。 規制しなかった結果、地下水等が汚染され、それらで汚染された水を飲んだ住民に健康被害が広がりつつあります。 これは明らかに国が予防原則を無視、軽視した結果です。 一刻も早く、幅広い PFAS の規制を求めます。
3207	すでに、東京多摩地域においては、PFAS における体内汚染がデータとして出ています。私の住んでいる地域も近く、このまま放置すれば、長年の蓄積により、将来的に健康被害が出るのではないかと心配です。許容摂取量の基準を欧州並みに厳しくし、一刻も早く対策をとるよう、日本政府に強く求めます。
3208	1)食品安全基準と言う、国民の健康や安全に直接関係のある基準を決めるのがなぜ、政権の中心「内閣府」なのか。基本的部局である「厚生労働省」に戻すべきである。そもそも、食品安全委員会が内閣府に置かれていることが疑問。 2)本報告は、「健康影響の評価として取り上げるエンドポイントに、海外評価機関の評価書で検討・整理した」、というが、結果は、政権の都合のいいように解釈しているとしか思えない。ALT 値についても、一般的な健康診断に使われており、報告書が言う「のちに疾患に結びつくか否かが不明であり臨床的な意義が不明」などとはしていない。採用しない理由も不明確である。 3)グリーンランドの先住民族の中に高濃度の PFAS 蓄積が報告されている。同じ魚食民族である日本人として無視できない。EU 基準と同様の厳しい基準であってしかるべきである。 4)出生時体重の低出生体重児等の及ぼす影響についてはまだ不明であるなどで、終わらせてはいけない。EU は調査・対策をとっている。将来世代の想いを馳せ、まじめに取り組むべきだ。
3209	PFAS の使用は環境に深刻な損害を与える可能性があるため、私はその使用に反対です。地球の生態系や私たちの健康を守るために、PFAS の代替物を探すべきです。
3210	基準値の引き下げを要望します。 欧米ではゼロを目指しているそうです。 綾部市でも、検出されています。 産業廃棄物の処理の厳格な管理を求めます。
3211	この許容摂取量「20ng/kg/日」を血中濃度に換算すると PFOS<250ng/ml、PFOA<143ng/ml に相当します。

	米国アカデミーの臨床ガイダンスでは PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康影響が懸念されるため特別の注意を勧めているのに、食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を安全と説明できるのでしょうか。 特に感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、高齢者の安全は守られるのか、食品安全委員会にはきちんとした国民への説明を求めます。 「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めようとしている欧米に準い、日本も「ゼロ」を目指すべきです。 子どもたちや未来の日本のためにも、科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に基づき、総合的な判断を求めます。
3212	食品安全委員会が、この度、PFAS の許容摂取量案を示しました。 欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍というあり得ない基準です。 日本人は、信じられないくらい体が丈夫になったのですか？全く科学的ではありませんね。 アメリカの基準に照らし、同基準にして、国民の健康を守ることに尽力してください。 そして、PFAS 汚染に関しての調査をすること、原因究明をし、汚染の除去をすること、国民の健康調査を行うことを求めます。こどもたちの未来を守るために必要です。 健全な判断を求めます。
3213	欧米では PFAS ゼロを目指し対策を進めようとしています。日本でもゼロを目指すべきではないでしょうか。またこの許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと知りました。かつて日本の水道水は安全だと言われていましたが、とんでもないことだと思います。未来ある子どもたち含め国民の健康を考えると、とても心配です。安心して飲める飲み水であってほしと思います。
3214	生身の体を大切にそして 国民が皆しあわせになる様にお願いします。 良く原因を調べてください 自分が当事者になった気持ちでお願いします。
3215	日本の基準（許容量）に驚きました。アメリカなどの他国の基準を遥かに超えるゆるゆるの基準。未来を生きる子供たちのことを考えての行動なのか、疑問でなりません。なぜ、海外ではそれだけの基準に抑えているのか、よく検証して設定してください。有害なものを使わなくても生きていける社会を作ってください。
3216	多摩地区在住で、高濃度汚染地域に職場があり、健康被害を懸念しております。食品安全委員会が「20ng」と判断したとの事ですが、米国や欧州の許容摂取量より数百倍高いという情報を知り、とても不安に感じております。PFAS 汚染地域に住む住民として、許容摂取量(案)の見直しを強く求めます。
3217	日本政府の食品安全委員会は「PFAS の摂取許容量（案)」を示していますが、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるものです。 日本は PFAS をできるだけ取らないようにという国際的な潮流に反しており、今回の岡山での数値はあってはならないことです。 未来ある子供たちや、自然にも被害があれば日本の未来はどうなるのでしょう、再検討お願い致します。
3218	他の先進国を参考にしっかりと検討して頂きたいと思います。 目の前の利益ばかりに走って、他の国に踊らされて利用されては先進国とは言えません。 自分たちの住む国くらい、自分たちの責任でこの先の事を見据えた決断をお願いしたいです。 よろしくお願い致します。
3219	欧米は PFAS ゼロを目指し、対策を進めようとしている。日本もゼロを目指すべきだ。また、この許容摂取量を基にしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノ g のまま変わらないと聞いた。子供達の健康を考えると心配でとんでもないことだ。
3220	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきです。子どもたちの健康を考えると心配です。 目先のことだけでなく、10 年 50 年 100 年先の未来まで考えてほしい。
3221	(1)食品安全委員会が PFOS,PFOA の耐容一日摂取量（TDI）（案）をそれぞれ「20ng/kg 体重/日」と提案しているが、欧州の許容摂取量や米国で議論されている許容摂取量よりも数十倍から数百倍以上高いことは、国際的潮流に反している。科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく、「予防原則」に基づき、総合的な判断を求める。 (2)沖縄県宜野湾市を筆頭に全国で PFAS に汚染された地下水を水道水として取り込んだ地域住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い状況にある。各地で確認されている深刻な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、リスク評価を進めるべきである。 (3)提案された PFOS,PFOA の TDI（案）を基にすると、飲料水の PFOS・PFOA の合計値は、暫定目標 50ppt のままであると説明されている。2022 年に EPA が発表した PFOS と PFOA の飲料水の暫定生涯健康勧告値はほぼ 0 である。日本も PFAS ゼロ摂取となるよう TDI（案）を見直すべきである。
3222	いつも尽力してくださりありがとうございます。 この度 国から示された PFAS の摂取許容量の多さに大変驚いています。人体への悪影響を WHO も認めており、欧米や欧州に比べ数百倍もの量であるにも関わらず、許容摂取量を引き上げるのは何故ですか？ 水道水は私たちが生きていく上で必要不可欠なものですので不安で仕方ありません。 どうか日本の未来を担う子どもたちが健康でいられるよう、欧米や欧州などと同等の基準に下げてください。よろしくお願いします。
3223	沖縄県宜野湾市は湧水で昔から有名なところが今米軍基地の消火訓練施設からの汚染であるだろうと言われている PFAS 汚染で苦しめられています。自分自身の健康もとでも不安ですが、影響を受けやすいこどもたちにとって、命を作る水が脅かされていることがとても心配です。 2016 年に PFAS に私たちの誇りの湧水が汚染されていると聞いた時は大きなショックでした。地元にとって、聖なる場所でもあり、昔からずっと赤ちゃんから亡くなるその日まで、繋がりのある伝統や文化です。 アメリカの Seattle 新聞を友達がインターネットで送ってくれたのですが、アメリカの航空隊と国立ガン研究所が研究していて、血中濃度か高い男性は精巣がん、女性は乳がんが発生率高い、という結果がでているというものでした。 米軍のフェンスと向かい合わせの普天間第二小学校の運動場の土壌も、市民が募金を集め、土壌調査をやると、やはり、高い数字が出ました。心配するお母さんたちは、運動場の土を入れ替えてほしいと市に訴えてますが、市の回答は、国の

	基準値が定められてないから、できません??というは答えです。 (1)汚染の元を特定する。 (2)血中濃度検査したい
3224	(4)沖縄県の宜野湾市や金武町など、PFAS で汚染されている水源を利用した飲料水を摂取している地域の多数の住民の血液中に、米国科学・工学・医学アカデミーがガイダンスで発表している指針値（4 種類の PFAS の合計値 20ng/mL）を超えた PFAS が確認されている。これらの PFAS 汚染地域の住民でも生涯を通じて健康・安全が担保されるよう TDI（案）の見直しを求める。
3225	沖縄や神奈川に並び、ピーファス問題に意義を唱えます。許容摂取量が米国や欧州の許容摂取量よりも数百倍も高いことは納得いかないです。「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
3226	2023 年 12 月に出された国際がん研究機関（IARC)による PFOA の発がん性の判断を取り入れること。発がん性物質である PFOA について、PFOS と同じ許容量は理解しがたい。特に、関西は PFOA に汚染されていることへの留意が必要ですから、この案には反対です。
3227	日本・食品安全委員会の提示する PFOS 摂取許容量(案)が、アメリカ・欧州と比べてものすごく量が多いです。健康面で不安でしかありません。 発がん性があるようでしたら、記載をお願いしたいです。
3228	PFAS の摂取基準や安全性の基準を国民の理解を得る前に専門家や半導体事業をはじめとする企業、政治家のみで決めてしまういままでと同じやり方に憤りを覚えます。 国民の理解を得るとは、少なくとも PFAS の事をしっかりとマスコミ等で取り上げられ、国民が PFAS の概要が説明できる程度まで認知度を上げる事を指します。 そこからが国民的な議論のスタート地点だと考えます。 それからやっと国民が PFAS について判断できるようになるのです。現在のやり方は民主主義からは程遠い、専門家、企業、有識者、政治家、官僚主導の中国のような中央集権型政府のありかたとあまり変わりません。 都合の良い安全神話だけでなく、都合の悪いことも含めてきちんと国民に情報共有してください。そこから始めてパブリックコメントを始めることができます。
3229	PFAS（ピーファス）は、『フォーエバー・ケミカル（永遠の化学物質）』とも呼ばれ、自然界で分解されず、一度人間の身体に入ってしまうと排出されず、害があると海外の方は認識しています。日本は世界と比較しても基準値が甘いです。自国の水や土地を大切に頂きたいです。
3230	他国の数十倍数百倍の緩い規制にせず、日本国民、子供達を守ってください。 この国は国民を守る意識ぐなさすぎる。 香害対策も早くしてください。
3231	米国や欧州よりも日本の方が PFAS の基準値が高いのは明らかにおかしいと思います。 なぜそのような高い基準値になるのか説明をするべきだと思います。 PFAS の基準値をゼロ若しくは米国、欧州並みにするには莫大なお金がかかると思います。ですが日本の基準値 20ng をこのまま継続しこの先健康被害が出た場合もっと莫大なお金がかかってくるのではないでしょうか？自然破壊に関してはお金では解決出来ない取り返しのつかないことになってしまいかねません。 PFAS をできるだけとらないようにという国際的な潮流があることを日本は今一度逃げずに向き合っていかなければならないのではないでしょうか？ 目先のことだけに目を向けるのではなく日本の未来のため、将来の子どもたち、全人類、動植物たちのためにご検討よろしくお願いいたします。
3232	知り合いが吉備中央町に住んでいるので心配です。 どうしてこんなに高い値が出るのか、原因がわからないと対策も立てにくいと思うので、まずは原因を早く解明してほしいです。
3233	安心して水道水が飲めるようになりたいです。これからの子供たちのためにも宜しくお願いいたします。
3234	ＰＦＡＳと呼ばれる有機フッ素化合物は耐熱性、対薬性に優れておりコーティング材、泡消火器、半導体などに広く利用されてきました。ですが、分解されることなく、人体に長く留まることから発癌、脂質異常症、甲状腺機能障害、免疫不全などの健康被害が明らかとなり、使用の規制がされています。日本では対策が遅れているとの事です。 せめて基準値の見直しをお願いしたいです。 よろしくお願いいたします。 水は血液と同じだと思います。 水が汚れていれば、どんな身体でも不調が起こります。 人だけでなく、全ての動植物、地球の為によろしくお願いいたします。
3235	フッ化化合物の基準が米国より 20 倍近く高いことに驚きました。 有害化学物質への感受性の高い国民が増えてきました。 私もその 1 人、化学物質過敏症患者です。 安心安全に過ごせる環境を心から望みます。
3236	PFAS は欧米で追放が進んでいますが、日本は規制強化見送りとの記事を読みました。専門家に再度調べて頂き、全国における PFAS 問題の道標になれば幸いです。
3237	審議結果（案）食品健康影響評価のまとめにおいて、一様に証拠不十分としているが、健康影響がないという証拠にもなっていません。 米国や欧州よりも数百倍も高い許容摂取量の設定では全く受け入れられません。 こちらの記事 https://www.fnn.jp/articles/-/666276 によれば、フッ素樹脂のテフロンを製造する仕事で 13 年間、手袋や防塵マスクをせず素手で粉状の PFOA を扱う作業をしていた方は、退職してから 40 年余りたった調査で血漿から 29.7ng/ml の PFOA 検出、2021 年に舌がんとわかった。因果関係不明とされたが PFOA を扱わなかった元同僚の血中濃度は 10ng/ml 未満。「PFOA を扱う、扱わないで血中濃度に違いがあるのか知りたい」「長年使って、その仕事を離れていたとしてもまだ体に残っているということは、一つの資料として大事だと思う」とおっしゃっています。

	利用者、消費者としては製造に関わって原料を直接触れる人々や製品を使う消費者どちらにとっても健康影響がない安全なものを認可すべきです。同時に安全が証明できていないものは禁止することが国の責務だと考えます。
3238	２２５ページの「表８-2 海外評価機関による PFOA の指標値（エンドポイント別）」にある「マウス生殖・発生毒性試験における 胎児の前肢及び後肢近位指節骨の骨化部位数の減少、雄の児動物の性成熟促進（Luebker et al. 2005a）」の EPA の指標値の一日摂取量換算値 20 ng/kg 体重/日を、本評価書（案）の摂取許容量としていると思われますが、この表では、他にこの値よりも小さい 0.03ng/kg 体重/日などのエンドポイントの値が存在します。予防原則に立って、低い値を採用すべきと考えます。なぜ、このように古いデータに基づく数値に設定するのですか。
3239	20ｎｇを超えなければ安全ということになってしまうと思う。アメリカではもっと低い数値になっています。体に悪いものであることがわかっているのだからできるだけ低い数字にしてほしいです。 今自分の体にたまってしまっている人は本当に不安だと思う。まだわからないことも多いかもしれないけれど、わからないのだったら少しでも安全な方に、少しでも日本人が悪いものを取らないような方向で決めてほしいです。
3240	健康に大切な飲料水は安全第一です。水道の水が安心して飲めるということは幸せなことです。水道水に有機フッ素化合物が入るのは困ります。審議結果（案）によると、動物実験から得られた結果をヒトに対する判断に使っているのですね。これでは安心できません。すでに血液の PFAS 濃度が高いことがわかっている地域がある、という現状を見ると、ヒトのデータで判断するべきと考えます。。
3241	PFAS は 1 万種類以上存在するにもかかわらず、食品安全委員会の評価はたった 2 物質のみ。欧米では PFOS、PFOA 以外の PFAS も健康への悪影響を引き起こす可能性があるため、PFAS をグループとして規制しようとしています。 利用可能な毒性値がないと問題を先送りせず、代替物質を含めた毒性評価を急ぐべき。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指して対策を進めようとしており、安全のため日本も「ゼロ」を目指すべきです。 また、この許容摂取量をもとにしたら、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いています。　子供たち他の健康を考えると心配でとんでもないことです。 さらに、国分寺市、岐阜・各務原市、沖縄・宜野湾市を筆頭に全国で汚染された地下水を水道水として取り込んた?地域住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い状況にあります。岡山、大阪含め各地で発覚している深刻な体内汚染の状況を踏まえ、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても早急に毒性評価を行い、様々な側面を考慮して国民の安全・健康を守るためのリスク評価を進めるよう要望します。
3242	地元住民ではありませんが、馴染みの深い土地です。いままでずっと知らないで飲んでて、どれだけ身体に毒素が溜まっているか、不安でたまらないとききます。 慎ましく暮らしている人達の立場にたち、人間として心ある対応を希望します。
3243	PFOS と PFOA の耐容 1 日摂取量を 20ng/kg/日と案を提出していますが、この値は他国に比べて高く、水道水の基準値にも影響を与える重要な数値です。 欧米では何年も前から話題になり「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めようとしています。 日本も同じく「PFAS ゼロ」とし、すでに汚染が確認されている地域の安心安全な生活づくりに邁進すべきです。 私は沖縄に住んでいますが水を飲むのも料理に使うのもシャワーやお風呂などで使うのも気持ちが悪く精神衛生の汚染すら感じる毎日です。 2019 年に京都大学で行われた 1981 年の沖縄市 5 名からはすでに高い血中濃度の調査がとられています。 証拠不十分な有害影響を無視せず、国内の汚染がどれほど前から続き今現在の人々の健康への影響はないかを調べることに注力してください！
3244	PFAS の基準値がなぜアメリカが 4 ナノグラムなのに、日本は 50 ナノグラムなのですか？ 有害性が言われている物質なのに、何を根拠に日本は基準値がこんなにゆるいのですか？ 基準値をアメリカの 4 ナノグラムに合わせてください。
3245	PFAS 汚染のことを知ってから、健康被害が大変気になります。健康への影響を調べるには体内の PFAS 蓄積量を調べることです。測定ができる機器を大至急導入し、希望者全員に実施してください。 そして、懸念される場合には、公費で治療ができるようにしてください。 PFAS 汚染は、水銀、PCB、アスベストのように政府?国をあげての対策にのりださねばなりません。これは、新しい公害です。
3246	今回、高濃度汚染が判明し、その頃の対応にも心を痛めています。夜も眠れない住民の方が多数いらっしゃいます。子供たちの未来のためにも、より広い範囲での調査を希望します。
3247	(1)アメリカ FDA は、油漏れ防止や耐水性を高めるファストフード包装紙等の PFAS 成分を含む食品包装の販売を禁止しました。１日の摂取量がＯＫならば良しではなく、脂肪に蓄積され腸脳関門から脳にも蓄積されていくものと思います。特に日本人は現代の食生活で自己免疫疾患やアレルギー、生活習慣病疾患者が多く、更に発達障害や認知症の人口を増加させるリスクは高いと思います。リーキーガット・腸脳関門など最先端の統合医療の専門家と相談してください。全ての選択において生命に重きを置くべきで、日本でもＰＦＡＳやＢＰＡを含む製品の規制を（特に発達中の子供に触れる物を最優先に）進めるべきです。企業の売上や利便性より、命に係わるリスクは可能な限りスピーディーに排除をお願いします。 (2)人工芝生、摩耗による河川や海への大量流出も問題ですが、芝生の基盤にＰＦＡＳが使われており、人工芝生使用場所の利用者の健康被害や周囲の環境悪化が懸念されます。土壌汚染や地下水に影響する可能性もあり、詳しく実態を調査して頂きたいです。そもそも環境悪化要因となる商品は、市場に出回らないようにする精査や定期的な見直しの仕組みも検討お願いします。
3248	PFAS の許容摂取量（案）が欧州の 60 倍、米国の 200 倍であると聞きましたが、酷すぎると思いますよ。 経済優先なのか、米軍基地からの汚染に目を瞑る為なのかと疑念が湧きます。まるである程度の汚染を許容する下準備の様な基準の設け方ではありませんか？ 最大限国民の健康を守る国としての立場で基準を設けていただきたい。 当然のことですよね。

	このまま、緩々の基準を押し通した場合、国民の周知と認知が進むにつれ批判に晒される事を覚悟してください。 水俣病など多くの犠牲から何の教訓も学ばず国土を汚染し国民の健康を蝕む事を許容するなら、この国は更に衰退していく事でしょう。 せめて欧州や米国並みの基準を設けて、国土とこの国で暮らす人々の健康をしっかり守ってください。
3249	日本の安全食品委員会の示す許容摂取量がアメリカや欧州の許容摂取量より数百倍高いと聞きました。大変不安です。日本の公害問題に対する取り組みはは国際的な潮流に逆行していると感じます。国民の健康を守るために予防原則に則るべきです。
3250	多摩地区にある保育所として、子どもたちの健康被害があるのではないかと、かなり不安を感じています。 今回の評価書の一日の PFAS 摂取許容量（PFOS20ng/ｋｇ体重/日、ＰＦＯA20ng/ｋｇ体重/日）は、米国・欧州の摂取許容量よりも数百倍（米と比較で PFOS200 倍、PFOA666 倍／欧州と比較で 2PFAS で 64 倍）も高いです。 血中濃度に換算するとＰＦＯＳが 250ng/ml、PFOA が 143ng/ml と非常に高い数値を許容することになり、これもまた欧米の数値と比べると、かなり高すぎる量です。 日本ではやっとＰＦＡＳの汚染が明らかになってきたところであり、これから慎重な調査が必要だと思います。
3251	昨年、日本各地で有機フッ素化合物に汚染されたお水を飲んだ住民の血中濃度が基準値を大幅に超え、深刻な体内汚染を引き起こしている問題がニュースで取り上げられました。 その点について政府として健康被害の調査および結論を出していないにも関わらず、現在政府が検討している許容摂取量(案)は矛盾しており強く反対致します。 また科学的知見に基づいて安全性が確証されていない場合、予防原則に基づき厳しい検査基準を設けるべきです。2016 年の古い動物実験をもとに算出した基準値では、人への安全性が確証できているとは言えません。そもそも毒正反応を検証するためには人の疫学データを用いるべきであり、動物実験の結果では正しい摂取許容量を算出することは出来ません。 欧米や欧州では正しい方法での毒性検査を行い、予防原則に基づきすでに厳しい摂取基準を設けているのは周知のとおりだと思います。 摂取許容量(案)に強く反対致します。
3252	日本の川を汚さないでほしいです。PFAS の基準値をアメリカと同じレベルまで下げてください。身体の 7 割は水でできています。人間の身体に入る水が清らかで安心できる水であって欲しいと願います。
3253	すでに体に良くないと分かっているものですので、根本的解決に向けるため基準値を他国同様、もしくはそれ以下に下げる要検討お願い致します。 ゆくゆくは、原因になる物質を含む製品の使用や製造そ中止してください
3254	許容値案を見ると、欧米の 2023 年案よりもはるかに高い値であることに驚きました。当該国の規制値案は無駄な事だと言わんばかりです。食の安全・安心を担保するには国際的に共通の値を用いることが必要と考えます。
3255	「有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果(案)」について 近所の川魚から PFAS が検出されました。 湧く場所は近く、ホタルも見られる所なのに驚きました。 夏には子供達が川遊びをし、生き物をとります。 過去にも色々な場所で(井戸など)検出され問題になっていると記事を読みました。 具体的な問題解決に対する行動はされているのでしょうか？ PFAS を使用している商品、企業へ禁止するなどの措置はされたのでしょうか？(消化器や車の洗車、コーティング剤等) 現時点で健康被害がないからと野放しにするのなら、今後健康被害が出た場合にはどう責任を取るつもりなのか？ 川魚から検出されたなら、貝、海でとれる魚も危ないですね。 自分の家族や大切な人も健康被害を受ける可能性があります。 危機感を持って頂き、基準を海外のようにもっと厳しくし、広い範囲の魚や水を調査し、原因因子を取り除いていくように願っています。
3256	２０２３年１１月７日から１４日にかけて、ＩＡＲＣモノグラフプログラムにより、１１カ国から３０人の国際専門家からなるワーキンググループがリヨンで開催され、公表された広範な文献を徹底的に検討した後、ＰＦＯAをヒトに対 して発がん性がある（グループ１）と分類し、ＰＦＯＳをヒトに対して発がん性の可能性がある(グループ２B)と分類。１２月１日、世界保健機関（WHO）のがん機関である国際がん研究機関（ＩＡＲＣ）は、ＰＦＯAとＰＦＯＳの発がん性のリスク評価を上げました。 私もＰＦＡＳ血中濃度検査をし、高い値が出ています。 水だけではなく、農作物や海産物等もＰＦＡＳに汚染されている調査結果が世界中であります。低体重出生や発達障害、腎臓がん、ワクチン効果の半減など世界中で研究報告があります。 世界では、ＰＦＯAとＰＦＯＳ以外のＰＦＡＳも健康影響が懸念されています。 今回の審議結果は、私たちの健康への影響を軽くみているのではないかと感じました。２０ｎｇを妥当とした事に不信感しかありません。日本では、１ｎｇ／ｍｌ以下の検査をする事も可能です。欧米の許容量より厳しくし、限りなくゼロにするべきだと思います。
3257	健康被害、環境被害が出る前に、予防原則をとりいれ、基準を上げるようにお願いします。
3258	予防原則を忘れていませんか？ゼロを目指すべきで、20ng/kg/日という大甘ではなく、今すぐ欧米なみとは行かないまでも PFOS は 1ng/kg/日、PFOA は 0.1ng/kg/日、4PFAS は 1ng/kg/日くらいには定めておくべきです。 海外からの旅行者に不安を思わせてしまうと、SNS の威力で一気に引いてしまいます。
3259	欧米各国と比較してかなり高い許容量となる案に、危機感を覚えます。 私の住む町では米軍の弾薬庫周辺から高濃度 PFAS が検出され、地域住民からは不安が広がっています。WHO 等でも発がん性が認められています。そのような物質の許容量を引き上げる根拠が理解できません。なぜ欧米に比べて何十、何百倍も高い許容量となるのか、腹立たしい思いです。経済や米国の顔色をうかがうことばかり重視し、国民の健康を本当に考えていないのではないでしょうか。 この許容量を良しとするのならば、欧米各国はなぜ厳しい数値なのか、それが不当であることの客観的根拠を示して欲しいです。
3260	フッ素は海外では身体悪いことが証明されている。その点を調査、参考にしていただきたい。
3261	PFAS 基準を、日本が、格段に緩めることは、将来に禍根を残す判断だと思います。

	食品安全委員会は、日本の子どもを、悪影響の生態実験に、晒すのでしょうか？ EU の食品安全機関や、アメリカの環境保護庁のように、医学研究者の真摯な研究結果に、誠実に向き合い、安全基準を、厳しくすべきです。 未来に生きる子どもたちのために、大人の判断の過ちは許されません。 どうか、厳しい判断となりますように、ご決定ください。 よろしくお願いいたします。
3262	国の PFAS の摂取許容量がヨーロッパの 60 倍、アメリカの 200 倍を超えることは日本人が健康に生きて行けるとは思えずとても不安です。同じ人間なのに日本人だけ科学物質に強いとは思えません。そのようなエビデンスがあるのでしょうか？多摩地区、相模原市、静岡市、浜松市、各務原市、岡山吉備中央町、熊本市などでは住民の血液からも高い数値の PFAS が検出されて健康不安が広がっていると言う報道もあります。 また有機フッ素は PFOS、PFOA 以外にも 1 万種類あると聞きます。国民の健康のためにそれらも同様に規制を設けてください、使用自体に規制を掛けてください。欧米基準に合わせた数値にしてください。 食品安全委員会が在るおかげで私たち国民は安心安全に暮らせると思えるような機関として存在してください。よろしくお願いします。
3263	フッ素化合物の摂取許容量の緩和について断固反対します。
3264	評価書案２０３ページに記載されているように、IARC は、2023 年 11 月 30 日に PFOA を、新しい研究結果を踏まえて、従来のグループ２B「ヒトに対して発がん性がある可能性がある」から、グループ１「人に対して発がん性がある」に変更し、国際がん研究機関（IARC）は２０２３年１１月に PFOA を IARC グループ 1(ヒトに対して発がん性がある)に、PFOS を IARC グループ２B「ヒトに対して発がん性がある可能性がある」に、分類しました。本評価書（案）では、「Luebker et al. 2005a」の報告データに基づく EPA2016 の評価と同様の耐容一日摂取量 20 ng/kg 体重/日等を科学的知見に基づくものとして設定していると考えられるますが、この IARC の２０２３年の新しい発がん性評価を反映した見直しが必要だと思います。 The Lancet Oncology https://www.thelancet.com/journals/lanonc/article/PIIS1470-2045(23)00622-8/fulltext
3265	欧米は PFAS ゼロを目指し対策を進めようとしている。日本もゼロを目指すべきだと思う。 今の許容摂取量をもとにすると、飲み水の暫定目標値は 50 ナノグラムのまま変わらないと聞いた。子どもたちの健康を考えると心配だ。
3266	国際的に厳しい評価になっている中、日本ではその流れに逆行するかのような緩い評価結果が発表され、多摩エリアに住む住民として、とても安心・安全に暮らすことができません。もう一度、考え直していただきたいです。
3267	多摩地域では、PFAS の地下水汚染問題が明らかになり、住民の PFAS 血中濃度が大変高いものであることは市民団体と京都大学の調査で分かりました。今回の案は、こうした全国各地の汚染の実態調査に基づいての数値ではないことは明らかです。理論上の動物実験のデータからの評価ではなく、現時点で欧米の基準を大幅に上回る PFAS を抱えた住民もいるなどの実際の状況を鑑みた上で、国際的な知見を取り入れるなどして厳しい数値を設定していただきたいと切に願います。
3268	日本では国際的な発がん性評価を取り入れず、このことに大変不安があります そして、日本は米国や欧州に比べると採用したのは古い動物実験結果を採用しています。その点もおかしいといえます。 これらのことから PFAS は欧米のように ゼロを目指すべきです。
3269	日本の PFOS、PFOA の指針値はヨーロッパの食品安全機関の 64 倍です。 これでは、国民は安心して食品を口にすることはできない。 データーがなくて健康被害が確証できないというのであれば、他国のデーター分析に頼らず、国の責任において早急に国民の疫学調査を行うべきです。 資料の分析だけでなく、国民の健康を守るため現実に起こっている危険性を深く知るべきです。どうぞ親身になって働いてください。
3270	PFOS 及び PFOA をはじめとする PFAS については、健康影響に関する情報 が不足しており、不明な点なども多いので、PFAS にばく露され得る媒 体（飲料水、食品等）における濃度分布に関するデータの収集を早急に進め、こ うした調査結果等を一般の人々にもわかりやす情報提供を望みます。また、PFOS、PFOA 及び PFHxS については、その難分解性、高蓄積性を考慮すると、なるべく早く使用規制や排出源対策を適切に行うことが重要だと思います。 いずれにしても PFOS 及び PFOA をはじめとする PFAS についてのリスク管理の現状など正しい情報をわか りやすいリスクコミュニケーションを健康調査を実施することを望みます。
3271	PFHxS は子どもへの影響が危惧されることから、予防原則を充分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用する事を希望する。
3272	PFAS による汚染が全国で見つかっています。評価書では、「データ不足で基準は現状維持」となっていますが、国際がん研究機関ＩＡＲＣが、最新の研究結果をもとに PFOS、PFOA について「人に対して発がん性がある」「人に対して発がん性がある可能性がある」と認めました。米国では環境保護庁 EPA が、今年中に水道水基準を（4ng/L)とする見込みです。欧州では 1 万種すべてのＰＦAS を 1 つのグループとして捉え、原則全面的に製造・販売禁止とする法案が審議中です。現時点で国際的に認められているデータを総合的に検討し、住民のいのちと健康を守るため、予防原則に則って欧米並みの基準を設けるべきです。それでこそ「食品安全委員会」の存在意義があると言えるのではないでしょうか。 ＰＦＡＳが高濃度に検出されている自治体はたくさんあり、私の住む熊本県でも原因が特定できない汚染地域があります。しかし、これまで住民の健康調査は行われていません。高濃度ＰＦＡＳが検出されている地域での健康調査や出生児の健康調査を行うように、国に働きかけてください。
3273	PHOA に発ガン性があると IARC が公表していることも踏まえ、食品安全委員会の健康影響評価をこれも反映してほしいです。欧米が PHAS ゼロを目指しているなか、日本は時代を逆行していくようで心配です。リスク評価が低すぎませんか？再評価をお願いします。水はとても大事です。
3274	自分の住む地域が PFAS の値が高いと知り、とても不安です。小さい子どもがおり、妊娠中でもあるため、不安は尚更です。水は毎日飲むものであり欠かすことのできないものです。生きていくのに必要なものの安全性は何よりも大切に守っていただきたいです。日本が定めた許容摂取量はアメリカや欧州が定めた数値より遥かに高いと知りました。世界基準に合わせ、安心安全な水を供給してください。よろしくお願いいたします。
3275	今回日本の食品安全委員会が示す許容摂取量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上

	と国際的潮流に反した非常に高い水準である。 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている中で、日本も「ゼロ」を目指すべきなのに、なぜ逆の高い水準になるのかが理解できないし、あり得ないことである。 理由をきちんと説明できるのか、知りたい。 私は保育士をしているので、将来の子どもたちの健康を考えると心配しかない。 安全、安心な水の提供できるように努力して欲しい。
3276	食品安全委員会が 20ng が妥当と判断したそうですが、米国や欧州の許容量より何百倍も多い為反対です。今まで日本人は清潔な環境で生きてきたため他国の人に比べて免疫力が低く、病気になる人が多発する可能性があります。欧州では PFAS を 0 にしようという活動がされている中、逆に増やすとは正気なのでしょうか？
3277	PFAS は 0 を目指してほしい！せめてフランスやアメリカの基準値にすべき！ 日本の子供たちの未来がどうなってもいいのか。日本の人々や環境を守ってこその政府ではないのでしょうか？ 事実を明らかにして、国民を守ってください。
3278	・PFAS の許容摂取量が、欧州の６０倍、アメリカの２００倍を超えることに疑問があり不安です。なぜ日本の基準値が緩いのか説明をしてください。また、日本でも欧米並みの基準値にしてください。 ・PFOA と PFOS の２つだけに限らずその他の PFAS についても、しっかりと毒性の評価を行い、国民の健康を守ってください。欧米のように PFAS をグループとして規制してください。 ・PFAS の発がん性について海外の評価を参考にし、日本でも厳しく評価してください。国際がん研究機関やアメリカ環境保護庁では、PHOA,PHOS は発がんの可能性があると結論付けています。日本でも予防原則に基づき厳しい評価をすることで国民の健康を守ってください。 ・産業を守るための甘い評価が国民の健康を損ない、結果的に国のためにならないと思います。目先のことにとらわれず、子どもたちの未来のために厳しい基準を設けてください。 ・すでに体内汚染がある住民の健康をどのように守るのでしょうか。これ以上被害が大きくならないように、基準値を厳しくしてください。
3279	北海道や熊本の半導体工場反対です！ ダイキン工業の責任追及を求めます！ 半導体ビジネス優先で、日本をつぶさないで！ だれも病気になりたくないです！
3280	６．？ 評価書案の PFOA, PFOS の TDI は緩すぎる 今回の食品安全委員会の評価書案では、PFOA、PFOS 共に耐容一日摂取量 20ng/kg/日とした。その根拠を“PFOS については、ラット 2 世代生殖・発生毒性試験（Luebker et al. 2005a）でみられた児動物における体重増加抑制を、PFOA については、マウス生殖・発生毒性試験（Lau et al. 2006）でみられた胎児の前肢及び後肢の近位指節骨の骨化部位数の減少、雄の児動物の性成熟促進をそれぞれ採用した“としているが、EPA の用量推定モデルでは、PFOA で 167ng/mL となるが、岡山吉備中央町の住民の血中濃度は平均値で 171.2ng/mL であり、TDI に相当する血中濃度を超えている。 欧米の最新の TDI 設定や設定案と比べ、日本の TDI の基準は緩すぎるのではないか。確実な科学情報を追及して、用量反応依存性がない影響を無視しているが、内分泌撹乱作用などは用量依存性が認められないことが科学的に確認されている。最新の科学情報を基に、TDI を見直してほしい。
3281	評価書は、肝臓への影響、甲状腺、出生時の成長に及ぼす影響、ワクチン接種後の抗体応答の低下、発がん性などについて文献で評価し、いづれも PFOS、PFOA の影響は否定できないが、証拠不十分、証拠の質などに課題、知見が不十分としています。また、北海道大学のコホート調査を活用していますが、エコチル調査は全国 15 か所で行っているはずです。せめて、関東地区の横浜市立大学の調査や、南九州、沖縄地区の琉球大などの調査も活用すべきです。PFAS の健康影響に関する情報が不足、不明な点が多いという事であれば、飲料水、食品等におけるデータの収集を早急に行い再評価してください。
3282	私は沖縄県大宜味村に住んでいる者です。 大宜味村は基地もなく、飲み水も国のダムからではなく村独自の水源を使っています。 沖縄のＰＦＡＳ汚染が深刻になる中、２０２２年6月２６日に大宜味村在住の５８人の人たちが有機フッ素化合物（ＰＦＡＳ）の血液検査(血中濃度測定)を受けたところ、５８人の平均値がＰＦＯＳ＝５．８ｎｇ／ｍＬ、ＰＦＯＡ＝２．３ｎｇ/ｍＬ、ＰＦＨｘＳ＝１．７ｎｇ/ｍＬという結果でした。 ２０２１年の環境省の調査の平均値がＰＦＯＳ＝３．９ｎｇ/ｍＬ、ＰＦＯＡ＝２．２ｎｇ/ｍＬ、ＰＦＨｘＳ＝１．０ｎｇ/ｍＬ、ということですので、すべてにおいて環境省の基準を超えています。 血液検査の後に水道水も検査しましたが、水道水からＰＦＡＳは検出されませんでした。 なぜすべてにおいて環境省の基準を超えたのか、私たちは肥料として用いられる下水汚泥に原因があるのではないかと危惧しています。 米軍基地の下水処理場の汚泥が汚泥肥料として使用されているのであれば、沖縄全土にＰＦＡＳ汚染の汚泥肥料が使われているのではないかと心配です。 国として、沖縄の汚泥肥料にＰＦＡＳが含まれていないか調査をお願いします。
3283	なぜ、日本の水質基準案はヨーロッパの 60 倍、米国の 200 倍なのでしょうか。 日本に住んでいるだけでリスクを負わないといけないのでしょうか。 人の体は、口から入るもの、食べるものからできています。 とりわけ水は、栄養素は含まれないものの人体に必要不可欠です。 電気ガスは止められても、最後まで水道は止まりません。それくらい生きるために水が必要なんですよね。 大切な水だからこそ、より慎重に、厳しい基準をお願いします。 せめて諸外国に準じてください。 お願いします。
3284	 今から 13 年前の 3 月 11 日東電の福島原発事故後の 「100 万人に対して年間 1～2 人の発病」と言われる極めて少ないはずの「小児甲状腺ガン」と診断された子ども達が 300

	人もいる事をご存知でしょうか？ 2022 年に 6 人の子どもが、「自分の病気の原因は原発事故による放射線被爆によるものだ」とし、事故を起こした東京電力を相手取り「311 子ども甲状腺ガン裁判」を、起こしました。原告として声を上げたのは、原発事故当時 6 歳ら 16 歳、幼稚園から高校生だった 6 人（現在は 7 人）の若者たち。 彼らが救済されるためには、原発事故に伴う放射線被爆と、病気の因果関係を立証する必要があります。　が、一般市民にとって難しい科学的な立証をしなければならない事は、誰が考えてもとてつもない困難が伴うことは想像できます。でも企業や国は何の痛みも感じません。 福島原発事故により、放射線物質が、ばら撒かれた事は事実であるし、それによって甲状腺ガンを発病したことも、事実です。今回の PFAS も同じ事が起こるのは、火を見るより明らかです。最後に犠牲になるのは、市民です。今は立ち止まってください。命の安全を最優先にしてください。
3285	欧州食品安全機関が 2020 年に設定した PFOS と PFOA の摂取許容量は体重 1 キロ当たり 0.63 ナノグラムであるのに対して、今回、食品安全委員会の専門家会議では許容量は体重 1 キロ当たり 40 ナノグラムとされたが、これは欧州食品安全機関の 64 倍の数値であるにもかかわらず、「国際がん研究機関が指摘した発がん性については証拠不十分」として健康影響評価を用いなかった事について、一般市民は全く納得できない。何故なら明石海峡で魚釣りを楽しみ食している人や、明石川流域の野菜を食べている人の数値が高かったので、摂取許容量についての予防原則は用いるべきだと考える。
3286	発がん性が疑われているのに、日本はヨーロッパやアメリカの基準値より数十倍も高いことに驚いています。 これを読まれてるあなたご自身やご家族にも関わる大切なことです。 他人事ではないないです！ 安全な水のために、もう一度検討し直していただきたいです！
3287	今回、PFAS の食品健康影響評価「リスク評価」を行う機関（内閣府食品安全委員会）と水の「リスク管理」を行う機関（厚生労働省 水質基準逐次改正検討会）で、何名か委員の重複が見られます。特に「リスク評価」と「リスク管理」を兼ねている委員については、選定理由、利益相反（潜在的な利益相反を含む）の有無について、国民への説明責任があるのではないでしょうか。 評価書（案）の『国内での PFOS・PFOA の 1 日あたり平均推定摂取量』算出には「農林水産省 2012～2014 年度 18 食品群調査」が使用されましたが、このうち「飲料水」は「ペットボトル水 2 L と、東京都水道水 2 L の混合水」を分析したものであることを食品安全委員会と農水省に確認しています。ほとんどの方は 100%水道水を飲料水と調理の水として使用しています。なぜ食品安全委員会は市販ペットボトルの水で薄めた水道水の調査結果を使うのでしょうか。国民の生活と曝露実態を正しく反映せず、飲料水の摂取寄与率を過小評価したデータを元に「平均推定摂取量」を算出している点で、食品安全委員会の評価書（案）は大変大きな問題を抱えています。
3288	私は、2020 年と 2023 年に PFAS 血液検査をしました。今回の摂取許容量では、心配です。誰もが安心できるよう、摂取許容量を引き下げてください。予防原則に立って、血液検査を進めて下さい。
3289	子供たちが安心して飲める、一生健康に飲み続けることができる水を、今からでも全国民に提供できるよう速やかに整備をしてください。よろしくお願いします。
3290	食品安全委員会が、妥当といている数値は、米国や欧州の許容摂取量の数百倍も高い。 欧米では、PFAS ゼロを目指して対策を進めようとしている。日本もそれに並ぶとべきではないのか。 PFAS については、種類も多く、健康への影響も否定はできない状況。安全性が不確実と言われているので、示された数値では不安がある。 また、高濃度地域の血中濃度がどうなのか、安全である数値を出すためには、時間をかけて検査をすべき。そして、高濃度汚染地域には健康影響を受ける可能性の人たちがいることを念頭に TDI を見直してください。 科学的に証拠不十分とされた健康影響について、影響する可能性は否定できない。可能性があるものについて、もっと慎重に、”国民の健康のために”、”国民の健康が保護されるよう”TDI を見直してください。
3291	国民の健康に対する安全性を保障すべく、PFAS 摂取量指標値基準には慎重になるべきだと考えます。
3292	各地の PFAS 数値調べてください 基準数値は 0 にしてください 未来のこどもたちのためにも宜しくお願いいたします。
3293	日本の水道水基準は緩すぎます。 納税者の命を守る事は、省庁の職員の給料を保証する事。 日本人なら、日本人の命を大切に。 危ないと証明できてからでは、すでに被害が広がっています。 アメリカや EU の基準より、日本人の体格は小さいのだから 基準を厳しくすべきなのでは？
3294	許容摂取量を 20ng とする判断は見直していただきたいです。 ヨーロッパでは早くからこれよりずっと厳しい指標値が採用され、アメリカでもようやく一気に厳しい指標値が採用されました。それは調査が進み、実際にごく微量でも健康に影響が出ると分かってきたからです。 日本でも行政がより積極的に、水道水や井戸水の検査、住民の血液検査をすべきです。調査もしない上に、指標値も時代遅れの欧米の数百倍というのでな、国民の命と健康を守ることはできないと思います。 アメリカは日本人の命と健康などどうでもよいと考えて、自国の PFAS 対応と日本の被害に対する対応が全然違いますが、日本政府はそんなアメリカに合わせる必要はないと思います。 これまですでに被害にあっている人が救済されるためにも、これからの新しい被害を増やさないためにも、欧米と同等の指標値を採用してください
3295	問題点は大きく 3 つ。 １つめ、飲料水と同じく米国や欧州と比べて著しく高い摂取許容量であること（たとえば日本の数値はアメリカの PFOS で言うと 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍です）、２つめ、IARC の国際的な発がん性評価を取り入れていないこと、３つめ、1 万種類以上あると言われる PFAS の中から PFOA･PFOS の 2 種のみに限定していること。あまりに杜撰な決め方と言えます。PFAS を第二の水俣病になり得ると危惧する人も少なくありません。また、多摩地域の住人として

	は、自身の健康とともに市民の健康が大変心配です。予防原則に則り、欧米並みの厳しい基準にすべきです。再考を求めます。
3296	PFOS、PFOA の TDI　２０ng/kg/日は欧州食品安全機関の値と比べてはるかに高く、安全係数をより大きな値に設定すべきである。 血中濃度に関しても欧米の勧告と比べてはるかに高い値であり再検討を要する。
3297	1. 数値「20ng/L が妥当」に驚いた。米国や欧州の許容量よりも数百倍も高く、不安。そもそも、日本のこれまでの調査検討が後手後手の感あり。 2. 沖縄の PFAS 血中濃度は、京都大学による検査の結果、全国平均よりも高い。飲み水、食物の健康影響を、予防原則で判断すべき。 3. 欧米は疫学調査をもとに「PFAS ゼロ」を目めざし、対策を進めている。日本も「ゼロ」をめざすべきではないか。 4. 発がん性に関して PFAS とがんのリスクについて詳細を知りたい。 5. PFOA・PFOS 以外の PFAS について、 沖縄の住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い。PFOA・PFOS 以外の PFAS のリスクも評価すべき。 6. PFAS は 4700 種類以上とか 1 万種類以上存在すると言われているが、委員会の評価はたった 2 物質のみ。規制の対象になっていない PFAS についても有害性調査研究を行い、健康被害や環境汚染を未然に防ぐ対策を示すべきです。 7. PFOS、PFOA 以外の代替物質も健康への悪影響を引き起こす可能性があるのではないか。欧州や米国での調査結果などを参考にし、深く調査すべきと考えます。
3298	PFAS の基準値をアメリカと同じレベルまで下げてください
3299	食品安全委員会が、妥当といている数値は、米国や欧州の許容摂取量の数百倍。欧米では、PFAS ゼロを目指して対策を進めようとしている。日本もそれに並ぶべきだと思う。 特に高濃度汚染地域をはじめ、妊婦、小児など、国民の健康を犠牲にする可能性も否定できない。 科学的な不確実性を口実に対策を遅らせることなく「予防原則」に立ち総合的な判断を求めます。
3300	まず初めに、パブリックコメントとはいえ、かなり勉強しないと書けないと思うものでした。市民に広く意見を求めるには、もっと分かりやすくして欲しいと思いました。 その上で、このかん、学習会などに参加し、分かったのは、2023 年に国際がん研究機関によって PFOA が発がん性が「ある」の最高レベルに引き上げられたことを無視して、米国環境保護庁（EPA）の 2023 年の草案を無視しているのだということです。 公害の観点、人権の観点から、審議結果の見直しを求めます。
3301	安全性についてまだ未確認、未周知のことが多い分野かと思います。そのような場合、国内での議論だけでなく、他国での基準を参考に決めていく方法があると思うのですが、現在の値は他国に比べて基準値が高すぎると感じます。福島原発事故のときのように、国や企業のための基準値ではなく、国民の市民のための基準値を策定ください。よろしくお願いします。
3302	命を守るため、早急に pfas の規制をするべきです。
3303	有機フッ素化合物（PFAS）に係る食品健康影響評価に係る審議結果（案）についての意見 ・情報 食品安全委員会によって摂取許容量を 20ng/kg/日が妥当と判断したことに大変驚きました。なぜなら、アメリカや EU など世界の流れと逆行しているからです。 アメリカアカデミーでは、PFAS 血中濃度が 20ng/ml を超えると健康へのリスクが心配されるとしており、国際がん研究機関（IARC)では PFOA を「発がん性がある」、PFOS「可能性がある」と格上げした評価をしています。 食品安全委員会が妥当だと示した値は、飲み水の暫定目標値に置き換えると 50 ナノグラムあるいはそれ以上だとも聞きます。 リスクへの懸念が高まっている中、緩める今回の評価では安心できません。 国際がん研究機関（IARC)の評価を食品安全委員会も反映してほしいです。 PFOA、PFOS だけでなく、PFHxS についても毒性評価・規制を求めます。 予防原則に立った判断をお願いします。
3304	200 ページを超える評価結果を通読し、日本国内における疫学研究、科学的知見のソースとなるデータがあまりにも少ない印象を持った。 今後、世界的な疫学研究や科学的知見の蓄積を待つまでもなく国内の研究を促進するような働きかけをしてほしい。 特に懸念されるのは、妊婦と胎児への影響があることが結果として出ている点だ。ここに焦点を当てた研究を促すような働きかけを望む。
3305	私は今、3 人の子どもを育てています。 まず、自分の住む場所のお水は安全なのか、どれくらいの数値のものと日々触れ合っているのかちゃんと、簡単に知れるようになってほしいです。 どの地域でどれくらいの数値を出しているのか、住んでいる方への影響が今の時点でどれくらい、どのように出ているのかまず知りたいです。 本当に、米軍基地の影響なのか、日々の暮らしの中で使っているものが水へ悪影響を与えているのなら、それを改善していけるように、知っていきたいです。 お水が危険かもしれない、と分かってきたということは、日本各地に繋がり影響することだと思います。 とにかく、わかりやすいデータを開示してもらいたいです。
3306	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私たちの健康を守ってください！基準をきびしくしてください！
3307	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供の健康に気をつけて下さい
3308	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして下さい
3309	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 孫の健康が気になる
3310	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を世界レベルにして下さい
3311	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 まんがいちにも病気にならないようにしてください。安心して暮らせるようにしてください。
3312	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来ある子供たちを守るための正しい対応をして下さい。
3313	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制の強化を望みます
3314	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性なのに不安です
3315	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 誰か責任をとって下さい
3316	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性の評価が低すぎる
3317	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康が気になる
3318	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカやヨーロッパ並みの基準にしてほしい。みんなの健康を守ってください。
3319	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3320	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3321	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
3322	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供の健康を守ってください。日本の基準値はおかしい。
3323	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 もう、被害はではじめているんじゃないでしょうか？このままでいいの？

3324	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康で安心のできるよう考えてもらいたい。
3325	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 原因を作ったとこに、責任をきちっととらす。
3326	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供には、いい環境で育ってほしいと思い吉備中央町に移住してきましたが、その思いが、子供の体に害のある水を飲ませてしまい、私は、町長はじめ役町の人が、ゆるせない。毎日、子供の体が心配でしかたない！
3327	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFASは発ガン性が高いとか安心して暮せる基準にしてほしい　血液検査を望みます
3328	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 血液検査をして下さい
3329	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 妊娠中なので、胎児への影響が怖いです。
3330	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性評価を取り入れてほしい
3331	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもの健康が心配です。
3332	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 子供がまだ小さいので、心配です。
3333	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達、孫が心配です。
3334	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康被害を考えてほしい！
3335	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今後、将来の身体のことを思うと凄く不安です。
3336	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 元気ですごしたいです
3337	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 孫のことが心配です
3338	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康が 1 番大切です
3339	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 長年町水の生水を飲用していました。高齢者です。今だ恐ろしくて飲めません『助けて下さい』
3340	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の事を考えると、不安でしかたないです
3341	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちの子どもたちのずっとずっと先まで安心して飲める水を！！
3342	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちのために安心して飲める水を！！！！
3343	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のことを考えてもらいたい。
3344	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のことを考えてもらいたい。
3345	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のことを考えてもらいたい。
3346	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のことが 1 番です
3347	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康でいたいです
3348	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 地元で元気で過ごしたいです
3349	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水は一番の大切
3350	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 考えるとこわくてしかたないです。
3351	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 わたしたちのけんこうをかんがえてほしいです。
3352	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 体が心配でたまりません。
3353	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 私たちの健康を考えてほしいです。しんぱいでしかたありません。
3354	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 私たちのけんこうを考えてほしいです。浄水機などを買うときの費用もふたんしてほしいです。
3355	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 水をのむ前の体をかえしてください。
3356	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 ぼくは、おとなのひとがうそをついてへんな水をのまされてくやしいです。
3357	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 都合の良いデータや産業中心の考え方を改めて、国民１人１人の健康、未来の事をもっと真剣に考えてください。
3358	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」

	みんなの健康を守ってください。
3359	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で、IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障害者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合のよいデータのみを採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいて、まず、取り込む量を減らすことを最優先すべきです。再評価を求めます。」 ぼくは夏とかに水をたくさんのんでいました。今考えるとこんご体の心配がたえません。
3360	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOS 汚染の社会的責任をとらせてください
3361	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもも大人も老人も安心して安全な食品が食べられるように、アメリカ並みの基準にして下さい。発がん性のあるものは規制強化して下さい。
3362	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を下げるな！！
3363	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3364	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。孫が元気で育つように。
3365	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもたちのいのちと健康はどう守られるのか不安が一杯です。
3366	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
3367	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	食の安全は大切です
3368	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA 規制強化を
3369	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にして欲しい
3370	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量が高すぎる
3371	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康に被害が出かねないものを国が認めないで下さい。安全、安心な日本の生活環境をめざして下さい。
3372	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 人体実験ですか？
3373	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こんなゆるい基準では不安です　私たちの命を守ってほしいです
3374	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 人のいのち最優先で守るように立場をしっかりして下さい。
3375	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守る事大事です
3376	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 学校給食等でも規制されなくなると、子ども達に知らない内に蓄積されていくのは困る
3377	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全基準を遵守することは国民の命を守る国の責任です。規制は強化を！
3378	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください。
3379	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3380	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA は発ガン性評価ランク 1 になり不安が増しています。強制的に規制を！
3381	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制強化を！
3382	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキンは責任とれ！
3383	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準に。
3384	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 許容量が高すぎる
3385	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3386	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の規制は被害が明確になってから出している。これが、公害の由来である。ヒトに被害の出る前に規制せよ！
3387	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 被害が大きくなってから規制を強めるというくり返しは止めてください。
3388	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健第第 1 にして下さい！
3389	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守ってください。
3390	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい！
3391	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。規制強化してほしい
3392	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康守って下さい。国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい
3393	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしています。日本も規制して下さい。

3394	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA は身体の中に蓄積されこわいです（毒性あり）しっかり認めて、対応してほしい！
3395	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並の基準にしてほしい
3396	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3397	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3398	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパのように PFAS ゼロに！
3399	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な基準を守って下さい
3400	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3401	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心した生活が出来ます様
3402	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	未来の命、子ども達が安心して暮らせる町になることを望みます。
3403	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さ。『PFAS ゼロ』をめざして欲しい
3404	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 特に小さな子どもたちのことを考えると、健康で生きていける社会でなければなりません
3405	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今すぐ PFAS ゼロをめざして規制をしてほしい。
3406	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来に生きる子どもや若い人も含め健康を守って下さい。
3407	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3408	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業にしっかり調査してもらいたい。大企業の責任を果たして下さい！
3409	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私たちの健康を守って下さい。ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
3410	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂津市だけの問題だと思っていましたが私達の身近にあるのですね
3411	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキンがここまでひどいとは！！又、日本政府もだらしない～！！
3412	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキンはまずアメリカ、欧州なみの基準とするように、強く求める。
3413	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的に見ても日本の許容量は高すぎる。どうしてこうなるのか？この数値にどうしてなったのか説明が必要だと思います。
3414	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA PFAS 汚染を社会的問題にして欲しい。
3415	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 こんなゆるゆる基準ではミナマタの再来になるアメリカ並みの基準に！
3416	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私は先が見えていますが、健康で一生をおえたい！子孫たちも！！
3417	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 同じ事を繰り返すな　被害者をつくるな　規制強化を！！
3418	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは『PFAS ゼロ』をめざしています。日本も規制して欲しい。
3419	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 早く火を消したほうが良いですよ。「公害」として大変なことになりますよ。
3420	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3421	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3422	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発ガン性評価を取り入れること。規制を強化すること。
3423	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3424	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並の基準にしてほしい。
3425	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3426	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 井戸水を使って家庭菜園をしているが、その井戸水が汚染されている。ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
3427	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を第一に考え、アメリカ並みの基準にしてほしい。
3428	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	アメリカ同等の基準値にして下さい
3429	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子やまごの健康を守ってください
3430	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA 汚染責任を、健康を、守もれ
3431	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に対して、社会的責任をとらせて下さい。
3432	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守ってほしい
3433	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパ並みの強い規制で国民の命を守ってほしい。
3434	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水とか安心してのめない　化粧品は、きっちりしらべなあかん
3435	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 有害だと分っている物質は『ゼロ』にするために即、動いてほしい！！
3436	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
3437	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子ども達の成長に害となるものは厳しく制限して下さい。
3438	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を下げるなど許されない
3439	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOS 汚染の社会的責任を果たさせてください。
3440	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な知見に逆行することは許せません。食品の安全を守ることが行政の使命です。
3441	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 市民を守るため、しっかりと調査することを求めます。
3442	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康が一番です。
3443	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民みんなの健康を守ってください
3444	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 『影響が否定できない』ものを甘い基準で許可するのはこわいです、やめて！！
3445	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 厳しい規制を望みます
3446	現状でこのまま汚染地域で子供 孫を生活させるのは問題があると考えております。まずは摂取許容量の早期変更（アメリカ並みに）と今後の規制強化は必須です。最悪、国が評価基準を変えないのであれば大阪のみでもなんとか規制強化の方向で行政が動いてほしいです（大阪府又は摂津市）

3447	この地域（摂津市）の汚染は深刻な状態だと知りながらもダイキン工業、市、大阪府、国も今はほとんど動いていない状態！規制を強め、対策を早々に打ち、市民の健康を守らないとダイキン工業周囲には人が住めないといった状態となり、「摂津市は人の住めない所」となる。未来の子供達に日本の基準もアメリカやヨーロッパと同じようにすべきだと思う。
3448	
3449	WHO が PFOA に発ガン性があると世界に公表しています。日本でそれをみとめないのはおかしい。世界の基準と日本もしてほしいです。子どもや孫の健康が心配です。もう一度考えなおしてください。
3450	PFAS 汚染による加工食品、及び人体の影響についての究明を早急に実施すること わたしの住んでいる米軍嘉手納基地から発生するけたたましい騒音そして現在データで示されている沖縄の PFAS 汚染も米軍基地が原因であるものが大半をしめています。これらの原因は基地内での連続的な訓練や、米軍機事故の多発によって泡消火剤が土壌や地下水に長期間蓄積し、基地周辺の河川や湧水に滲出することによって起こっていることが明らかになりました。米軍は 1970 年代から泡消火剤を使用してきているにも関わらず県民からの抗議や意見を無視し続けています。 とりわけ、「PFAS による新生児への影響」の問題についてこの間何度も要請してきているにも関わらず放置され続けています。ぜひ、これらの課題に対して真摯に検討して下さることを要望します。
3451	1. 2023 年 12 月に出された国際がん研究機関（IARC）による PFOA の発がん性の判断を取り入れること。発がん性物質である PFOA について PFOS と同じ許容量は理解しがたい。特に、関西は PFOA に汚染されていることへの留意が必要 2. 米国環境保護庁（EPA）の 2016 年ではなく、最新の指標値を採用すること。少なくとも、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用、または、EPA の最新版が発表されるまで審議を継続すること。 3. PFHxS は子どもへの影響が危惧されることから、予防原則を充分考慮して 2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値を採用すること。
3452	今回の審議では、PFOS 及び PFOA についての評価が行われましたが、まだ不明な点があるという項目もあります。発がん性についてもヒトに当てはめられるかどうかは判断できないという評価です。 これまで環境中に放出された PFAS が土壌や河川を汚染する等飲料水や食品等の安全を脅かし、今後も人体への影響が懸念されます。PFAS には多くの種類があり、フッ素が隙間なく含まれている分子構造が共通しており、難分解性と高蓄積性、そして強い有害性が懸念されています。それらの有害性研究を急いで進め、指標を設定するなど、次の健康被害と環境汚染を未然に防止することが重要です。海外では、代替物質を含む PFAS をグループ化して規制しようという動きを見せています。 どれだけ摂取するとわたしたちにとってがんのリスクがあるのか、目安をつくるためにも、北海道だけではなく、全国の、あるいは少なくても神奈川県、沖縄県のコホートの活用を行うべきです。また、PFAS について健康影響に関する情報が不足していて評価できないのであれば、飲料水、食品等におけるデータの収集を進め、その調査結果を元に再評価する必要があります。既に評価したから行わないと言うことではなく、更なるデータを集めて評価し直して下さい。
3453	各務原市は特に長い事毎日飲んでいる水が PFAS 汚染の事実が公表されませんでした。今回食品安全委員会が妥当とされた一日摂取量 20 g をもとにして、水道水や河川水の数値を決めないで下さい。子ども達の未来が心配。安心して生活できるよう米国や欧州と同じように数値をさげて欲しいです。どうぞ健康に関する事です。被害がでてからでは遅いです。先進国といわれる日本です。PFAS 対策に取り組んで下さい。健康といのちを守って下さい。
3454	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 1. 東京都と連携し、原因を究明し汚染源を特定すること 2. 汚染拡大防止のため、地下水の PFAS を除去すること 3. 予防原則に立ち、PFOS、PFOA、PFHxS だけでなく、PFAS 全体を対象に使用を規制すること。 4. バイオモニタリングを行ない、沖縄県、東京都も含めたエコチル調査を行い、子ども基準も設けること 5. これらを実行するため、予算措置をすること
3455	1. 米軍基地を守る（日米協定）ために PFAS 基準をゆるくする旨かと思われる。 2. あるいは日本全国おしなべて PFAS に汚染されていて高基準値の設定が要請されているのか・・・でしょうか。
3456	化学の発展は自然をこわす
3457	この PFAS 問題についての解決策は、米軍の日本国からの撤退以外にないと思います。かつて沖縄県内で「マツくい虫」が大量にはんしょくしマツが全て全滅状態にまでなった時期がありました。日本政府は米軍に基地の中の駆除を要請したのですがむげに断られました。この小さな島国沖縄を部分的に米軍の生み出す問題を解決したのでは何の意味もありません。みなさん、国際連盟脱退を宣言された松岡洋右様を見習いましょう。 日本人は、どうしてこんなにも白人に対して萎縮してしまうのか。私たち金武町のまわりには米軍人がいっぱいいて、彼等はどうしてかくもレベルがひくいのか。自分の名前以外に文字が書けない人もおおぜいいます。白人の程度を知りつくした沖縄県民は彼等の上に位置し何事に対しても彼らに物申す事ができます。内閣府各課のみな様にも、私達のように白人慣れしてほしいと思います。いつも彼等の悪い事だけに従順では、いかなる問題も解決できません。英語力のなさも 1 つの要因となります。対等に会話ができたなら日本人にまさる国民はおりません。日本国民よ、自分達がどんなにすぐれた国民なのか気づいて下さい。世界中の識者たちはこぞって、日本が沈没するのを恐がっています。そして、日本人なしでは世界はありえないと言っています。白人と英語で対等にお話しできる時がきた時が、この PFAS 始めいろいろ問題を解決する事ができます。どんな問題も全て欧米がらみでは何も解決する「すべ」がありません。現に今クイオス的な「キキ」を前にしても、日本国は何もしません。日本国民には何も知らされていません。これは PFAS 以前に語るべき大きな課題なのです。日本国よ、日本国民よ、もっと自国と自国の文化を尊重し愛しそして大事にしましょう。そしてもう一度、「Japan as No.1」になりましょう！
3458	金武町は戦後 70 年余りも地下水が生活飲料水でした。昨年、基準値を超える「PFAS」が検出され、町民に不安なおもむき生活を強いられた。長い年月飲み続けされた「ピーフォース」。町民の健康被害状況や発ガン生率を調査すべき。さらに、未然防止策を急ぐべきである。
3459	1. 食品安全委員騎亜の本件リスク評価にあたっての方法及び目標に対する疑問 本年 2 月 22 日に実施された「食品安全・オンラインセミナー『有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価（案）』を見ると、本件リスク評価の方法は、「国際機関及び各国政府機関等の評価に関する情報と、最新の科学的知見を、1 つ 1 つ丁寧に専門家が精査・確認する」ことで、その目標は、「現時点で何がわかっているのか、また、何がわかっていない

のかを明らかにすることにより、PFAS の健康影響を評価する」とされています。
しかしながら、PFOS、PFOA をはじめ複数の PFAS 類の曝露が進行する中で、国民の安全を確保するために、現行の規制値で十分かどうかを科学的に見直すのが、本件リスク評価の使命であって、決して、単に「何がわかっているのか、何がわかっていないのか」を明らかにすることだけではありません。このような使命に照らすと、本件リスク評価の方法は、従来の動物実験データに基づく 20 ng/kg/day に、疫学などの最新知見からどの程度の安全係数を設定するべきかをエクスパートジャッジの能力を発揮して科学的に見直すということになると考えます。
これに加えて、多数ある PFAS 類は、その共通の物性により、いずれも難分解性・高蓄積性であること、および、現在国民が PFOS, PFOA を含む複数の PFAS に同時に曝露されていることに鑑みるならば、PFAS のリスク評価にあたっては、PCB、水銀などと同様に、過去と現在の状況での判断では明らかに不足であり、今後の将来にわたる国民のリスクを予測することが最優先課題といえます。データが十分ではないことはその通りですが、だからといって、今回の PFHxS のように、リスク評価をしないことは、結果として現状維持を容認することになり、食安委自身が自らの使命を放棄することに他なりません。
データ不足の中で科学的に最善の予測を行うためには、現在使用可能なデータの信頼性の評価に加えて、周辺情報を活用し、エキスパートジャッジによる科学的な蓋然性に基づいた推論を駆使してリスク評価を行うことが求められています。例えば、PFOA 以外の PFAS 類の平均的な毒性を PFOA と同等と仮定することも選択肢のひとつと考えられます。折角、日本における各分野の多くの優秀な専門家を集めながら、情報の信頼性をチェックさせるだけで、上記のようなエキスパートジャッジの能力を発揮させないのでは、余りにもモッタイナイと言わざるを得ません。再度、各専門家がその能力を如何なく発揮して、国民が安心して食安委を信頼できるようなリスク評価を示されるよう提案します。

2. フェロー諸島の研究についての評価に関する疑問
2023 年の EPA の評価値の見直しで重要視された Grandjean らのフェロー諸島での疫学研究については、フェロー諸島の住民には鯨肉を多く摂食するという特殊な食習慣があることから、「ワクチン接種後の抗体値をエンドポイントとした場合の PFAS ばく露の影響と PCB などその他の残留性有機汚染物質ばく露の影響を切り分けた検証は行われていません。PFAS ばく露の影響を明らかにするためには、さらに検討が必要と考える。」として、本件リスク評価にとって重要と判断されませんでした。
しかしながら、特殊なのは欧米人に対してであり、日本人は欧米人の一般的な食習慣と比較すれば、海産物の摂取量が多く、人体中の水銀濃度はフェロー諸島の住民に近いので、PCB は日本人よりも多いとしても、フェロー諸島の研究が示す健康影響は日本人にも当てはまる可能性があるといえます。
加えて、日本人には、世界に誇る水銀（水俣病など）や PCB（カネミ油症など）の専門研究者がおられるのですから、それら専門家の意見を求め、水銀、PCB、PFAS との複合影響を考慮した上で、フェロー諸島のデータに基づく TDI の見直しを含むリスク評価が科学的に可能であると考えられます。
よって、上記のような観点から、再度リスク評価をやり直すことを提案します。もしそれが難しい場合でも、単に「フェロー諸島の研究は特殊だから」という理由だけで終わらせるのではなく、今後の疫学や複合影響研究にも資するよう、フェロー諸島でのデータを科学的に検討した経緯を明記すべきと考えます。

3. 血中 ATL 値、コレステロール値の上昇や肝障害への影響の評価に対する疑問
評価書（案）では、PFAS による血中の ALT 値の上昇やコレステロール値の上昇について、変動の範囲が正常閾値内に収まる程度であること、そのような増加が将来的な疾患（肝疾患や心臓病または脳卒中）に結びつくかが不明であるとして、それらの現象を示す研究を重要なものとは認めませんでした。
しかしながら、正常値は、一般的に、健康と考えられる人の集団の 95%が分布する範囲（正規分布を想定）です。今回の評価において限られた数の検体の変動が示したのは、それらが正常閾値内であること、および、変動が有意な上昇を示していることの 2 つの事象です。後者は、曝露された集団の ALT 値の上昇、コレステロール値の上昇が引き起こされることを示しているとみるのが正しい解釈です。そうすると、それは、正常閾値を超え、罹患者群の分布に移動する集団が増加することを意味しますので、将来的な疾患（肝疾患や心臓病または脳卒中）に結びつくと考えるのが正当と考えられます。
有害化学物質の健康影響評価に際しては、不特定多数の人々ー言い換えれば一般国民ーが曝露することを考慮して、こうした疾病につながる指針値の上昇が起こらない TDI を設定する必要があると考えます。この点からも、本件評価の見直しを提案します。

4. 発がん性データの評価に対する疑問
周知の通り、IARC は、従来の評価を見直して、PFOA については「ヒトに対して発がん性がある」（グループ 1）、PFOS については「ヒトに対して発がん性がある可能性がある」（グループ 2B）とする新たな評価を公表しました。これに対し、「食品安全・オンラインセミナー『有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価書（案)』」では、「疫学研究に関する見解は、本ワーキンググループとおおむね同様」、「動物試験に関する知見は、ヒトへの外挿は難しい」「発がん性の機序に関する知見は、発がん性との関係はいずれも間接的なものであり、発がん性につながるメカニズムが示されていないこと等から、強い証拠が得られているとは言い難い」とコメントし、さらに、「IARC の評価はあくまで証拠の確実性に関する評価で、リスクを評価したものではない」と強調しています。
しかし、発がん性などの重篤な有害影響については、リスク評価機関およびリスク管理機関は、被害の未然防止の観点から、動物試験の結果が示された段階から、それに基づくリスク評価・リスク管理を実施し、国民に影響が出ないようにすることが求められるというのが国際社会の常識となっており、上記のような食安委のコメントは、日本のリスク評価機関が世界から遅れていることを示すものに他なりません。
本評価書（案）は、PFOS・PFOA の発がん性について、動物実験では、一定の影響が認められるものの、「ヒトに当てはめられるかどうかは判断できない」とし、疫学研究では、PFOA については「結果に一貫性がなく証拠は限定的」、PFOS については「証拠不十分」として霊要なものとして認めませんでした。
しかしながら、PFOS・PFOA が、難分解性・高蓄積性・毒性を有する物質（PBT）である上、発がん性という重篤な有害影響についてのリスク評価であることを勘案するならば、リスク評価を補完するために、「人の健康や環境に重大かつ不可逆的影響を及ぼすおそれがある場合には、科学的不確実性があることをもって、対策を講じない理由としてはならない」旨の予防原則が適用されるべきは当然です。なぜなら、難分解性・高蓄積性があるため、今後人の健康被害が明らかになる可能性があるが、被害が明らかになった時に対策を講じても手遅れになってしまうからです。このような予防原則は、PFOS・PFOA・PFHxS を対象物質とするストックホルム条約においても明記されています。

	従って、本件リスク評価においては、少なくとも、上記のようなデータに基づいて発がん性に対する TDI を算出し、他の有害性の TDI と比較して、より低い方の値を選ぶことを提案します。 5. 本件リスク評価における曝露評価において、高濃度汚染地域の住民の血中濃度データが参照されていないことに対する疑問 本評価書（案）では、固民の曝露量の推計が行われていますが、それによると、平均的な推定摂取量は TDI と比較して低い状況にあると評価されています。 しかしながら、今回のリスク評価値である 20 ng/kg/day を摂取し続けた場合の血中濃度を、米国 EPA の用量推定モデルで計算すると、PFOA で 167 ng/mL となりますが、水道水の PFOA の高濃度汚染が判明している岡山吉備中央町の住民の血中濃度は平均値で 171.2 ng/mL で、TDI に相当する血中濃度を超えています。 ダイオキシン類については、難分解性・高蓄積性の性状に鑑み、リスク評価においては、体内負荷量という考え方を採用し、それが増大することのないように低減策が講じられました。PFAS 類についても同様の措置が必要と考えられます。少なくとも、食安委は岡山吉備中央町の住民の危機感や不安を共有して、住民が安心できるようリスク評価値の見直しを提案します。 以上
3460	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国や欧州の摂取許容量より数百倍も高いのは許せません。
3461	①何故、日本の食品安全委員会は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と摂取許容量（案）を国際的な潮流に反して示したのか理解に苦しみます。食品安全委員会に望みたいのは、現地調査を行い住民の意見をぜひ聞いていただきたい。 ②PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」とした国際がん研究機関（IARC）の評価を認めていただきたい。 ①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余‥その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ②米軍基地内の環境調査もお願いしたい。
3462	①何故、日本の食品安全委員会は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と摂取許容量（案）を国際的な潮流に反して示したのか理解に苦しみます。食品安全委員会に望みたいのは、現地調査を行い住民の意見をぜひ聞いていただきたい。 ②PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」とした国際がん研究機関（IARC）の評価を認めていただきたい。 ①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余‥その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ②米軍基地内の環境調査もお願いしたい。 沖縄全体が早く安全な水を。
3463	①何故、日本の食品安全委員会は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と摂取許容量（案）を国際的な潮流に反して示したのか理解に苦しみます。食品安全委員会に望みたいのは、現地調査を行い住民の意見をぜひ聞いていただきたい。 ②PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」とした国際がん研究機関（IARC）の評価を認めていただきたい。 ①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余‥その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ②米軍基地内の環境調査もお願いしたい。
3464	①何故、日本の食品安全委員会は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と摂取許容量（案）を国際的な潮流に反して示したのか理解に苦しみます。食品安全委員会に望みたいのは、現地調査を行い住民の意見をぜひ聞いていただきたい。 ②PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」とした国際がん研究機関（IARC）の評価を認めていただきたい。 ①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余‥その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い

	町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ②米軍基地内の環境調査もお願いしたい。
3465	①何故、日本の食品安全委員会は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と摂取許容量（案）を国際的な潮流に反して示したのか理解に苦しみます。食品安全委員会に望みたいのは、現地調査を行い住民の意見をぜひ聞いていただきたい。 ②PFOA「発がん性がある」PFOS「発がん可能性がある」とした国際がん研究機関（IARC）の評価を認めていただきたい。 ①私の住む金武町は町面積の 60%が米軍基地に占められ、75 年余‥その影響が地下水の飲料水から PFOS・PFOA が検出され町民 53 名の血液検査の結果、37 名から血中濃度 50 ng/ml を超えることが判明しました。そのため、子どもたちも水筒を持って通学し、町民も不安な生活を強いられています。また発がん性が強いとされる PFOA の血中濃度が高い町民が 13 名検出されました。現在、町民のガンの発生率を調査中です。是非こういう状況を理解され、積極的に有害調査研究を行い健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでもらいたい。 ①米軍基地内の環境調査もお願いしたい。
3466	この案はとんでもない数字だと思います。日本国民の健康を先々まで考えるのでしたら絶対にゼロに近づけ、アメリカ並みに下げるべきだと思います。
3467	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS で血中濃度が高値になると、どのような症状でどれくらい経過すると問題なのか等不透明で正しい情報がほしいです
3468	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 早急に実態把握のうえ公表せよ。
3469	水は命です。PFAS の規制強化をしてください。全国の浄水場の水質検査をして、値の高い地域は住民の血液検査をして、健康状態をチェックして下さい。未来を担う子どもたちに問題を残さないように、国はリスクを減らす責任があります。私たちが安心して暮らせる国でありますように願います。
3470	現在の実体を国民に周知せしめ、環境改善にとり組むべきである。
3471	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3472	国内では環境省 2021 年調査では米国（国民栄養調査 2015～16 年）と比較して血中 PFNA 濃度が 8 倍も高い。これは国内で PFNA が使用・排出されてきたため、特異的な PFNA 汚染が存在すると指摘されています。しかし食品安全委員会では PFNA の毒性値を全く評価していない。国分寺市や沖縄の宜野湾市などでは汚染された地下水を水道水として使用した地域住民の血中 PFHxS 濃度は非常に高い状況です。こうした国内の汚染状況を踏まえ、PFOA・PFOS 以外の PFAS についても毒性評価を行い汚染から国民の命と健康を守るため、管理並びに対策を急いで下さい。PFAS 汚染は全国に広がっており 1 万種類を超える PFAS 対策は地球規模の課題です。持続可能な日本、地球のため、積極的な疫学研究と対策にこそ国家予算を投じて下さい、少子化が危機的な状況にある日本にとっては緊急の課題です。食品安全委員会の重責を果たして頂くよう切望します。 2024/3/7
3473	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 健康不安な環境は問題だと思います。安全は守ってほしいです。
3474	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害がある以上、国民の健康を守るのは、国・政府の義務だ。
3475	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国が責任を果たして下さい。
3476	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 深刻な被害が出てからでは遅いので、早急に対策をして下さい。
3477	日本の食品安全委員会は、PFOS20 ng/kg/日、PFOA は 20 ng/kg/日と摂取許容量を設定しています。（案）アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍も高い水準です。国際ガン研究機関（IARC）は、発がん性があると評価されており非常に不安です。どうか日本もアメリカなみにしてほしく思います。
3478	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS ゼロを目指して、日本も規制強化して下さい。
3479	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS ゼロを目指して、日本も規制強化して下さい。
3480	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	子や孫の健康を守る為に PFAS 規制強化して下さい。
3481	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 半導体の工場を水源地に作る計画があるようです。汚染が心配です
3482	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来の子どもたちのためにも　安全な基準値が必要です
3483	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 高い値が出ている事実があるので　国の責任でちゃんとしらべて下さい。
3484	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大企業のたれ流しは許せません。ちゃんと安全な基準値にして国の責任で　調査を実施して下さい。
3485	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちに汚染されていないきれいな水と大地を。
3486	PFAS の食品健康影響評価書（案）を拝読しました。作成に当たってはいろいろと困難な問題があったことがうかがえますが、この文書には、PFAS リスク評価のみならず、リスク評価のあり方についての基本的な問題があると感じています。大部の文書であり、気づいたことすべてを記裁できませんが、以下に評価書（案）ついて、質問とコメントを数点記載させていただきました。ご検討いただくようお願いいたします。 1. 最新の科学的知見を取り入れていないのでは？ 　この評価書（案）は、リスク評価の対象とした PFAS 物質として、リスク管理機関による規制がなされるものとして、PFAS 分子種のうち、PFOS、PFOA、PFHxS の 3 種類を取り上げている。食品安全委員会がリスク管理機関からの諮問によるのではなく、自らの判断でこのリスク評価を行った点は時宜を得たものだが、そうであれば最新の科学的知見を踏まえて、近い将来においても通用するリスク評価とすることが望ましいのではないか？評価書（案）にも記載されているように、米国環境保護庁 US EPA では、既に 9 物質についてのリスク評価を行っている。すなわち、US EPA は、PFAS 化合物のうち、9 種類（化合物及びその塩と構造異性体）を有毒物質と判断し、the Resource Conservation and Recovery Act（RCRA）において規制することを 24 年 2 月 8 日付で提案している。規制の根拠は、科学研究の結果に基づくとしており、その内容は、日本の官報にあたる連邦官報（Federal Register）にて開示されており、パブリック・コメントを 24 年 4 月 8 日まで受け付けている。また、評価書（案）が引用している米国科学工学医学アカデミーは、2022 年に PFAS に関する報告書をまとめている。これによれば、曝露との関連について、7 種類の PFAS 分子種を用いて血清濃度を管理

	することを提言している。 米国はじめ諸外国で 3 物質以外の PFAS 類のリスク評価が行われ始めているにもかかわらず、自ら引用した信頼できる国外リスク評価機関等の報告書の内容を採用せずに、PFOS、PFOA、PFHxS の 3 物質に限定したことは、「最新の科学的知見」を取り込んでいるとは言えないのではないか。9 物質もしくは PFAS 全体へのリスク評価が国外で取り上げられる可能性が高いことから、先を見越した取り組みが必要ではないだろうか。 また、評価書（案）では、US EPA の 2023 年のリスク評価情報ではなく、改訂前の 2016 年のリスク評価情報を主として用いている。付言すれば、US EPA は 2024 年 2 月にも新たな情報を同機関の HP で公開している。US EPA の改訂は不適切で有るのであれば、その点を明確にしたうえで、2016 版を引用するべきでしょう。 以上まとめると、評価書（案）は、「利用可能な最新の科学的知見に基づき、科学的判断のもとで適切に（下線筆者）、一貫性、公正性、客観性および透明性をもってリスク評価を行い、評価内容を明確に文書化する」との食品安全委員会の方針にも抵触するように思われる。見解を求めたい。 2. PFAS 評価書（案）作成はリスク管理から独立して行われているか？ 評価書（案） P.237、ならびに「有機フッ素化合物（PFAS）」評価書（案）に関する Q&A（2 月 13 日）第 3 版：令和 6（2024）年 2 月 13 日更新」の Q10 の回答には、「一般に、食品中の汚染物質については、「ALARA（as low as reasonably achievable：合理的に達成可能な限り低く）の原則」に従い、“無理なく到達可能な範囲でできるだけ 低くすべき”'とされています」と記されている。食品中汚染物質の濃度を ALARA 原則のもとで低くすることは、リスク管理を担当する CODEX の立場ではないか？この見解は、食品安全委員会のものなのか、あるいは既報の引用であればその点を明示していただきたい。 筆者が知る限り、ALARA の原則とは、元来、放射線防護の関連から導入された概念である。ICRP Pub 103, P.52（2007 邦訳）によれば、「最適化の原則は，経済的及び社会的要因を考慮して，（被ばくすることが確実でない場所での）被ばくの発生確率，被ばくする人の数，及び個人線量の大きさのいずれをも合理的に達成できる限り低く抑えるための線源関連のプロセス」であり、原子炉事故など甚大な被害をもたらす事例を想定したものである。このような状況で、経済的・社会的要因を考慮して犠牲を一定程度までは許容することを含むリスク管理の概念（下線筆者）である。リスク管理から独立して行うリスク評価を担当する食品安全委員会の文書に記載すべき事柄ではない（下線筆者）。付言すれば、食品安全委員会この評価書（案）や Q&A の記載では、誰がどのような 根拠で「無理がない」と判断するのかが不明瞭であり、かつ「無理がない」と「合理的に達成する」の意味も明らかに異なるという別の問題もある。 US EPA と EFSA のリスク評価のでは、リスク管理上達成が極めて困難ないし不可能なほど低い数値を指針値に設定する事例がある。EPA の PFAS の事例（飲料水の生涯健康勧告値：PFOA で 0.004 ng/L、PFOS で 0.02 ng/L、2022 年 6 月 15 日）、EFSA のダイオキシン類（TWI、2 pg/kg/週、2018 年 11 月 20 日）やビスフェノール A（TDI、0.2 ng/kg/日、2023 年 4 月 19 日）の事例がこれに当たる。両リスク評価機関では、リスク管理機関が指針値を達成できるように管理できるかを付度せずに、指針値を設定したからにほかならない。（なお、この両機関のリスク評価のこれらの指標値の導出には、科学的に問題があると筆者は考えるが、ここでは論じない）。一方、今回の評価書（案）で設定された TDI は、2020 年に厚生労働省が水道水の暫定目標値を決める際に、他国の例を参考に採用した耐容摂取量を踏襲していることから、食品安全委員会はリスク管理の立場を付度して TDI を設定したと受け取られかねないのではないか。見解を求めたい。 3. TDI 導出への動物試験データの適用の整合性が無いのでは？ PFOA については、「マウス生殖･発生毒性験（Lau et al. 2006）でみられた胎児の前肢及び後肢の近位指節骨の骨化部位数減少、雄の児動物の性成熟促進を用いて、それぞれ指標値を算出した」としているが、「PFOA での出生した児動物の体重増加抑制、指節骨の骨化遅延等については、動物試験での血中温度はヒトに比べ千倍以上高いこと、メカニズムが不明である（評価書（案）P.217）」という。肝臓（動物実験）のまとめ（P.34－P.35）では、個体・臓器・細胞レベルで観察された肝障害に関するリスク評価のエンドポイントについて記載している。ここで、血清 ALT 値の増加は、「ヒトの曝露量と比較して高用量でみられたものであること」「PFOS、PFOA 及び PFHxS の肝障害には PPARα活性化が関与していること」「PPARαの発現と活性化剤への感受性には種差があること」「これ以外の肝障害発生の機序について不明の点が多くあること」から、肝障害の実験動物の結果を（ヒトへの）定量的リスク評価に用いることができないとの結論を導いている。これら二つの指標共に、高用量の条件で見いだされ、メカニズムが不明であるならば、指標値への試験データの採否について一貫性が無いように思われる。見解を求めたい。 4. 「不確実性が高い用量推計モデル」を否定しているにもかかわらず、これに基づく毒性指標をもとに TDI を導出している根拠は？ 評価書（案）は、「動物試験及び疫学研究の結果からヒトにおける POD を算出するためには、用量推計モデルが必要となる」と述べ、国外の 5 つのリスク評価機関（US EPA、EFSA、FSAN、Health Canada、ATSDR）がそれぞれ独自に考案したリスク評価の指針値を得るための用量推計モデルを、かなりのページを割いて（P.169~P.188）紹介している。そして、それぞれのモデルがもつ不確実性を挙げて、「PFOS、PFOA 及び PFHxS の用量推計については、現時点では国際的に統一されたモデルが利用できるという状況にはない」と結論している。 (1) US EPA（2016 年）は、PFOA に関するリスク評価では、児動物の指節骨の骨化遅延を、同機関が考案したモデルに当てはめて指標値を導出している。評価書（案）では USEPA のリスク評価を採用しているが、「不確実性が高い用量推計モデル」を用いることは、上記の結論に矛盾しているのではないか？ (2) US EPA の 2023 年発表のリスク評価では、上記（1）の US EPA（2016）の評価方法を用いることはせず、ヒトの疫学に基づく抗体価を指標としたリスク評価を行っている。評価書（案）において、US EPA の古いバージョン（2016）のリスク評価のほうが適切と判断したということは、US EPA（2023）の改訂版のリスク評価は適切では ないとの判断に基づいて評価書（案）が作られているという理解でよろしいか？ (3)評価書（案） P.236 において、「今後、独自の用量推計モデルの構築を行う必要性を検討することが望ましい（下線筆者）」と記載している。この評価書（案）では、国外リスク評価機関が作成した用量推計モデルを極めて詳細に 20 ページにも渡って記載しているのであるから、「必要性」は検討済みで、問題点を整理する段階なのでは？今後、「必要性を検討することは望ましい」とは、食品安全委員会は、諸外国のリスク評価機関によって国際的に統一モデルが作成されるまで待ち、独自の方針でリスク評価を行う意思が無いように取られかねない。あるいは、どのような条件が整えば、用量推計モデルを用いるのか、そして独自のリスク評価を行うことになるのかをご教示願いたい。

	(4)リスク評価に用いられる実験動物とヒトとの間には、解剖学的にも機能的にも超越できない種差があることから、不確実要因が無くなることはあり得ない。疫学調査結果についても、曝露集団の特性や環境状況が様々であることから、不確実な部分は必ず残る。政策科学の実践として行われるリスク評価では、ある種の「割り切り」を行わざるを得ないことは、リスク評価を担当する関係者の暗黙の了解で行われている。従って、国外リスク機関の動向に追随するだけでなく、必要であれば独自にリスク評価の方法を考案し、リスク評価指針値を提示することが必要ではないか? 今回の委員会には、専門分野で著名な研究者も多数おられることから、国内外の研究者の批判に耐え得る評価書を作成することをお願いしたい。 5. 疫学調査の論文の取り扱いが軽視されているのでは？ 食品安全委員会は、残留農薬のリスク評価においては、疫学調査に関する公表文献を実質的に排除してきた。その方針に反して、この PFAS 評価に際しては、疫学調査に関する公表文献を積極的に審議の対象としたことは評価したい。しかし、出生体重、発がん性、免疫などのエンドポイントについて、複数の疫学調査が同様の結果を示していると記識しつつも、「一貫性が無い疫学調査がある」などの理由で指標値の設定には疫学調査の結果を用いていない。例えば、評価害（案）では、「疫学では、国内外の複数の疫学研究の結果から、血清 PFOS 及び PFOA 濃度と出生時体重の低下との関連が多く報告されている」と判断しつつも、「在胎不当過小（SGA）児、低出生体重児（2,500g 未満）等の影響を報告した研究は限られており、出生後の成長に及ぼす影害についてはまだ不明な点がある」という理由で健康アウトカムとしては取り上げていない。動物実験及び疫学調査で同様の傾向が認められているからには、リスク評価に用いるべきではないか。もし出生時体重の低下はPFOS/PFOA曝露を反映する生体反応というべき指標であり、SGA児や低出生体重児はPFOS/PFAS毒性による影響指標であるということが食品安全委員会の見解ならば、その旨を明記すべきだろう。 同様に、評価害（案）では、「疫学研究の結果から、PFOS 及び PFOA との関連を否定はできないが証拠は不十分であると評価した」「血清 ALT 値の増加、血清総コレステロールの上昇、出生時体重の低下、ワクチン接種後の抗体応答の低下については、現時点ではいずれも指標値を算出するには情報は不十分である」としている。国外のリスク評価機関は、これらの情報を指標値算出に用いているので、これらが妥当性を欠いているというのであれば、不採用とすることの論拠を明確にすることが必要ではないか？とりわけ、この評価書（案）を英文化するのであれば、国外でも引用されるレベルの整合性がとれた明快な説明が必要と思われる。 6. 曝露指標と影響指標を区別して記載をしては？ 評価書（案）は、「ヒトでは PFOS、PFAS、PFHxS 曝露による血清 ALT 濃度の上昇は、肝機能が正常範囲で収まる程度であることから毒性の指標とは認めない」との判断をし、リスク評価における検討項目から排除している。このレベルの血清 ALT 値が毒性の指標ではないとの判断に筆者も同意する。だが、ホメオスターシスの範囲での生体応答の曝露指標として、（毒性）影響指標から区別して用いることで、健康を守る観点からリスク評価に利用できると思われる。あるいは、NOEL を算出する指標として用いることができるだろう。見解を伺いたい。 7. 個別問題へのコメント 本文中に推敲が不十分と思われる箇所が極めて多数存在する。以下に例示するが、文書全体を通して見直しが必要である。 ・ 座等→座長 ・ 経血経由（P.35:2 カ所）→意味不明。学術用語として認められていない。 ・ 調査された→調査が行われた（多数） ・ EPA→US EPA として引用すべき。US EPA の文書で、自らこのように引用している。州ごとに EPA があることのみならず、他国において、EPA の前に国名を冠して記す事例がある。 ・血清 PFOA、PFOS の測定単位が不統一（ng/ml、mg/dL、μg/L、ppb）,もしくは未記載のため、比較が困難であり改訂を望みたい（例、P.45-P.46）。 ・ PFAS 等の血清中濃度とバイオマーカー（血清 TC など）の相関を検討しているが、結果は対数変換の有無で変わる。対数変換と明記されているところと無いところがあるが、すべて対数変換したのか論拠を明記すべき ・ わかりやすい用語への変更：例： 臨床的転帰；新しいモダリティとして mRNA ワクチン使用；プラス（マイナス）変化と無変化など。 参考：「医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト」 <https://ez2understand.ifi.u-tokyo.ac.jp/about/>. ・ （著者らの挙げた本研究の留意点については上述の通り。） （参照 XXX）｛再掲｝が 10 カ所以上にわたって記載されている。参照番号 XXX が異なり、「本研究」「上述」「再掲」が何を指すのかがわかりにくく、杜撰な印象を与えかねない。 ・ 不確実係数（安全係数）には、動物とヒトとの種差と、ヒトにおける個体差を考慮して、10×10（=100）が慣例として広く使われている。ヒトの試験データを用いたため種差を考慮しない場合等では、100 より小さい値を用いることがある。また、毒性データが不十分なときや、毒性が重篤な場合等には、係数を追加することもある。しかし、これらの係数の値には、科学的な根拠はなく、専門家による総合的判断（エクスパート・ジャッジ）による。今回、実験動物からヒトへの外挿ため種間の係数を 10 ではなく 3 を用いた根拠は何かを説明すべきであろう。 まとめると、国内外で活躍をされている健康科学・疫学・毒性学の研究者の方々が専門委員等として参画してできあがった評価害（案）としては、このままで国内外に発信をすることは、日本のリスク評価のレベルの信頼を損なうことになりかねない。現在の AI の格段の進歩によって極めて高水準の翻訳が可能となっていることから、評価書全文が AI 翻訳で国外研究者やリスク担当者の目にも触れることが予想される。拙速とならず、身長に見直しをしていただくことを期待します。 （以上）
3487	東京多摩地域の住民の PFAS 血中濃度は高いと知りました。米軍基地からの PFAS もれも考えられます。立ち入り調査を行い、日本の許容摂取量もきびしくして下さい。
3488	有機フッ素化合物の許容基準を米国や欧州並みの厳しい数値にして下さい。今のゆるい日本の基準に、多くの人が安心してしまいます。水俣病やイタイイタイ病の二の舞にならない様、早急に厳しい基準に変更して下さい。真に安心で安全な水道水になるように願っています。
3489	有機フッ素化合物に係る食品健康問題は公害問題だと考えます。日本に於ける公害は高度成長時期に生じた水俣病であり、これは熊本県八代海沿岸及び新潟県阿賀野川流域において発生した公害病である。原因は企業が垂れ流したメチル水銀が引き起こしたものであった。また富山県神通川流域で発生したイタイイタイ病も企業によって引き起こされたカドミ

	ウムによる水質汚濁が原因でありました。両公害ともに、その後に奇異な症状を発症した近隣住民の症状と企業による水質汚濁と因果関係が確認できないとかの問題も発生しました。当時、この企業に勤めていた化学研究者は、少なからず危機を感じていた者もいたと考えています。企業にとって不具合な情報は出させないという企業風土があったと思われます。残念ながら、現在も隠蔽する企業風土は受け継がれているように思います。 PFAS の健康に関するスク評価ですが、国内では関連データーが少ない事とからも 1 日に摂取する許容量は限りなく 0 に近い 10 pg（ピコグラム）/kg 体直/日以下が妥当と考えます。また、自治体による疫学調査などのデーターは許容される範囲で開示されるようにお願いします。そして当該化合物の製造していた企業並びに使用した企業や保管している米軍も含めた企業や団体にも情報開示を要求します。そして適正な保管管理されているかの監視も必要と考えます。水俣病など 2 世代発症して、今も苦しんでおられる方がいるという悲惨な公害と二度と起こさせないためにも、限りなく 0 に近い基準にすることと情報開示を要求します。 以上
3490	摂取許容量（日本）では心配です。証拠不十分ということなので疫学調
3491	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 体格で劣る日本人です。摂取許容量をアメリカ以下に下げて下さい。
3492	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界のダイキン工業として PFOA 汚染の責任をきちんととってほしいです。
3493	米国や欧州の摂取許容量より数百倍も高いと知って驚きました。これから大人になる子ども達の未来が心配です。安全な水と土、空気の中で子ども達を育てたい。「PFAS」ゼロを目指して取り組んでほしいです。
3494	欧米と比べて高すぎる許容量でありとても不安です。PFOS をどれくらい摂取するとがんのリスクになるのかも知りたいです。PFOS 汚染は全国的に広がっておりニュースでも日々報道されています。国は全国で調査や追跡を行い、PFOS の発ガン性の評価、対策に動くべきです。PFOS のリスク評価は未来ある子ども達の健康に大きく影響していくことでしょう。
3495	PFOS、PFOA について、「発がん性がある」「可能性がある」と国際的ながん研究機関（IARC）が評価をしています。少しでもリスクの可能性があるのなら様々な研究結果を参考に評価を見直すべきではないでしょうか。これからを支える日本の子どもたちの未来のためにも再評価して下さい。
3496	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい。
3497	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
3498	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 ・海外の国と同様基準を低くし、きちんとした疫学調査をすること。 ・水俣病を忘れてません！
3499	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 生きていく上で水は欠かすことができません。その水が命にとって安全ではないということは人類の破滅につながっています。早急に検査を実施してください。
3500	①日本の食品安全委員会が示す摂取容量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上と国際的な潮流に反した非常に高い水準です。血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、 PFOA<143 ng/ml に相当します。 ①欧米は「PFAS ゼロ」を目ざし、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべき。 ②PFAS とガンのリスクについて知りたい。沖縄の PFAS 血液検査で高い値が出ており不安です。
3501	基準値を下げて
3502	基準値を下げてください。
3503	基準値が甘すぎると感じます。フランスの基準を参考に、子供達の健康を考えてもらいたいです。
3504	PFAS がどれ位人間や自然に対して影響されるのか分かりません。化学的に検証して頂く事、その旨を全国民に発信する事をお願いすると共に海外（フランス）の安全値 1 に対し 55（日本）は高すぎると思います。まずは国民の健康被害をなくして欲しいです。
3505	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3506	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 上記のとおり。国民のいのち最優先で再評価をすべし！！！
3507	子供達に安全な生活を送ってもらう為に「PFAS ゼロ」をめざし対策を進めている欧米に学んで日本も「ゼロ」目指すべきです。
3508	米軍由来と思われる PFOS の汚染が明らかになっている。安全であるべき飲料水が高い濃度で汚染されているのに驚いている。国はただちに米軍基地内の調査を実施し、その原因を把握の上除去を進めるよう切にお願いする。
3509	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 過去の公害による健康被害の教訓から、二度とこのような被害を繰り返すべきではない。
3510	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国が国民の健康を守る観点から、科学的知見に基づき、情報開示をして、国民の不安に応えていくべきである。
3511	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3512	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3513	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3514	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本もきびしく規制してほしい。
3515	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。アメリカ並みのきびしい基準にしてほしい。
3516	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 戦後最しょの水俣病、アスベスト等の公害等の教訓があるのにそのままにしている事がわるいのです。
3517	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい。アメリカ並みのきびしい基準にしてほしい。再評価を求めます。
3518	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本もきびしく規制してほしい、再評価を求めます。
3519	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのは、おかしい。日本もアメリカ並みのきびしい規制してほしい。再評価を求めます。
3520	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。国際的な発がん性評価を取り入れないのは、おかしい。アメリカ並みのきびしい基準にしてほしい。再評価を求めます。
3521	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も、きびしく規制してほしい。再評価を求めます。
3522	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。国際的な発がん性評価をとり入れて、アメリカ並みのきびしい基準にしてほしい。再評価を求めます。
3523	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA の汚染の社会的責任をとらせてください。PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増えました。きびしい規制評価をお願いします。再評価を求めます。
3524	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS を含む物（製品等）を明らかにして、その危険性を一般に、周知してほしい。
3525	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい。アメリカ並みのきびしい基準にして欲しい。再評価を求めます。
3526	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。国際的な発がん性評価を取り入れないのは、おかしい。アメリカ並みのきびしい基準にして下さい。再評価を求めます。
3527	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。ダイキン工業に PFOA の汚染の社会的責任をとらせて下さい。アメリカ並みのきびしい基準へ　再評価を求めます。
3528	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ちがう話ですが、サッカリンや今まで廃止になった食品のことを思い出して下さい。アメリカ並みのきびしい基準へ　再評価を求めます。
3529	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのは、おかしい。PFOA が発がん性ランク 1 になり不安です。アメリカ並みのきびしい基準にして下さい！再評価を求めます。
3530	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。

	また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 正しく評価がされることと、その公表を求めます。
3531	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 次世代を担う世代のためにも未来に禍根を残さないようにシッカリとした対応をしてください。
3532	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準のみなおしを！人間、健康でないと、未来はない。
3533	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本は、国際的に見ても PFAS についての意識が低い。対応が遅れていると聞きました。実際に明石川で PFAS 血中濃度が高い結果がでています。なんらかの人体に影響がでるのはすぐではないかも知れないが、出てからでは遅いと思う。国として住民を守る対策を早急にする必要があると思う。
3534	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 後の年代に負の遺産を負わせないのはもちろんのこと、今も大事！
3535	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 せめて、世界と同じ基準にしてください！という事です。どんどん日本が後進国になっていくように思います。
3536	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の摂取許容量がアメリカ環境保護庁や欧州食品安全機関にくらべて、あまりにも高いです！どこの地方自治体も国の水準に従うとのことです。健康被害や環境汚染を未然に防ぐ管理・対策を急いでほしいです！
3537	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本の食品安全委員会が示す摂取許容量（案）はアメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、ヨーロッパの 64 倍以上で非常に高い水準です。健康被害を未然に防ぐ管理・対策を急いでほしい！
3538	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国の基準を見直すことを要望します。被害が拡がらない為にも事前に検査すべきです。
3539	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 地元でも話題になっています。住民の健康を第一に考えた措置を要望します。
3540	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカやヨーロッパ並みの摂取許容量にして下さい。
3541	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 食品安全委員会が「20 ng が妥当」と判断したことに大変驚いた。せめて米国なみにすべきである。
3542	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 米国基準にもとづく規制値をつくって下さい。
3543	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 複合汚染をさけるためにも　よりきびしい摂取許容量を求めます。
3544	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3545	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3546	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3547	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3548	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」
3549	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川の汚染源が特定されていないのが最大の問題。行政の責任として、調査の先使を求めます。
3550	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS の基準を国際的な基準とせよ。
3551	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカが 0.1 で日本はなぜ 20。国民の健康をどう思ってる？
3552	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米は PFAS ゼロを目指し対策を進めています。日本もゼロを目指すべきです。
3553	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供達の健康の事を考えると心配です。よろしくおねがいします。
3554	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 欧米規準に基準値を引き下げるべきだ。
3555	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカやヨーロッパの許容量の数百倍も高いときいてビックリ。本当にだいじょうぶなの？心配です。
3556	発がん性があることがわかっているのに規制しないのはなぜでしょうか？未来ある子供達の健康と命を守るためアメリカ、ヨーロッパ並みの基準にすることを望みます。
3557	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3558	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 667 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3559	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 668 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3560	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 669 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3561	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 670 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3562	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 671 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3563	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 672 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3564	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 673 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3565	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 674 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3566	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 675 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3567	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 676 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3568	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 677 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3569	内閣府食品安全委員会の評価書（案）は、EPA2023 と比較して、PFOA が 666 倍、PFOS が 200 倍という数値に驚いています。これらは、WHO 国際がん研究機関による発がん性が言及されています。癌には、高額な医療費と、人的損失も大きく、医療費削減に向ける国の動きそのものに反しています。国際的な基準から、余りに大きくはずれ、対策に遅れをとることは、日本の科学、医療、政治に対する国際的信頼にもかかわることだと危惧しています。
3570	身体に大切な事ですね　がんばってください
3571	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 正しい評価を得れなければ　私達は安心して暮らすことが出来ません
3572	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 きっちり調べて下さい。
3573	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 テフロン加工を使っているので心配です。
3574	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 検査しっかりして下さい
3575	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康のためにも　しっかりと検査をして下さい
3576	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全が世界より低いのは恥　子の安全を高めて下さい。
3577	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 しっかり取り組んで下さい
3578	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3579	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 検査しっかりして下さい
3580	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の未来の為に！安全安心な毎日を！
3581	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 自治体が実施する学校給食や保育所の給食食材にも重大な問題をおよぼします。ぜひ再評価を求めます。
3582	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫たちの健康を守って下さい！！
3583	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の命を守る基準にして下さい
3584	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパを見習って、日本も規制をして下さい！ダイキン工業に社会的責任をとらせて下さい。
3585	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 子供たちの健康を守ってください
3586	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 経済も大事だが、環境も大事です。両方うまくできるのが、会社経営者として、やっていくべきことではないですか?
3587	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な基準にしてください
3588	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供の健康を守って下さい！
3589	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業さんに PFOS 汚染の社会的責任をとらせるべきだと思います。
3590	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康なくして国の発展はありません。
3591	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 住民の検査を行い。検査結果を公表を求めます。
3592	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任を取らせて下さい。
3593	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOS に感心有り。勉強になりました
3594	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS ゼロをめざして、規制をして下さい。
3595	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。規制強化を！
3596	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これからの若い人達の健康が守もられてほしいです
3597	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私達の未来が不安になります
3598	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
3599	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に米国同様、PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
3600	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の水はその安全性が世界に誇れるものだと思って暮らして来ましたが、今回のような世界基準から大きくかけ離れた安全性無視の評価を恐しく感じます。再評価願います
3601	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本は、規制基準が明確でなく、強化の方向になっていない。なぜなのか！？日本で生きる人の事を真剣に考えるべきだ。
3602	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 発がん性のあるものを使用許可されるなんて、考えることができません。反対します。

3603	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてください
3604	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい。
3605	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパみたいにきちんとした評価をしてほしい　知らん間に体に影響してるのとか嫌です
3606	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 我が国も人命を第１にすえよう。
3607	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供孫の健康を守って下さい
3608	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の為に規制強化を！！
3609	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3610	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子供達に安全な環境を
3611	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	発がん性ランク 1 は改善してほしいです
3612	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 土壌と水を守りたい　子どもたちに安全を
3613	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の安全基準は守られていると思っていたのに、PFOA・PFAS の基準もきちんと評価してほしい。
3614	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な食品の提供。安心して健康にすごせるための環境にしてほしいです。
3615	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 テフロンフライパンや歯に塗るフッ素との関係をわかりやすく示して下さい。半導体工場との関係も（熊本にも説明）
3616	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3617	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3618	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 今まで便利だと思って使っていたのに、発がん性があると知ってショックです。早く PFAS がヨーロッパと同じように『ゼロ』にして欲しいです。
3619	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり不安が増えてます。規制を強化してください
3620	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 安全安心の食品を！
3621	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な食品を提供しよう。土がこわい！！空気がこわい
3622	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 有害物質垂れ流し反対！！
3623	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂津ダイキンの責任は重いし、国としての対応急いで。人のいのちを何とおもっているのか。市民が声を上げても対応しないのなら許せない。
3624	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業を告発して汚染の実態をあばくべし！！
3625	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫、家族の健康を守って下さい
3626	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発ガン性ランク 1 になり不安が増しています　規制強化を
3627	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3628	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業さんホンマこれでええの？！と憤りを感じます。モウドニデモシテ～～？！
3629	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 最低、ヨーロッパなみの規準にすべきです。
3630	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3631	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 家族の健康を守ってください。
3632	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心に食品を！！
3633	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 身体的な影響があると知りました。ぜひ評価してほしいです。
3634	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 正しい情報提供をしてください。
3635	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も努力して世界基準にしてほしい。
3636	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS 汚染はこまります
3637	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の命を守るのが国の役目ではないのか　他国より基準をゆるくする政府はおかしいぞ！
3638	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制を強化して、安心して飲める水を！
3639	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康第一の制度を！
3640	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3641	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れてほしい！
3642	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい！
3643	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 先日、孫が生れました。汚染源の会社はもちろんの事ですが日本がしっかりと規制していく事が、絶対必要です。運動の必要性を強く感じます。微力ながら私も孫のためにも頑張ります。
3644	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な評価を取り入れてほしい。他の国ではダメと言われているのに、日本では OK というのはおかしいと思う。
3645	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA が発がん性ランク 1 に。不安です。規制強化を！！
3646	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 厳格な規制で、未来を担う子どもたちの健康を守ってください！！

3647	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもの健康を守ってください。
3648	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫のために PFOA の規制強化。
3649	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 フライパンに使用しているフッ素樹脂には問題ないという話を聞いたこともありますが、生活用品やハンバーガーの包装紙に使用されているなど健康被害を起こすようなものが私たちの知らない部分にも使われているのは恐ろしい。
3650	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な基準にしてください。
3651	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も PFAS ゼロをめざして規制してほしい。
3652	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米軍基地周辺の汚染が指摘されています。しっかりした調査をお願いします。
3653	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の範囲を決めるべき。PTFE-PFA 等の高分子は発がん性が証明されてないはず。広い解釈でフライパンをすてた人もいます　もっと勉強が必要です
3654	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 これ以上公害をふやさないで
3655	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も国際並みに基準を設けてほしい。
3656	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 他国の基準をもっと参考にして、国民の健康を守る努力をして下さい。
3657	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水は命の源です　もっと大切に考えましょう。
3658	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
3659	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFOA の規制強化を
3660	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3661	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3662	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制を、きびしくして下さい
3663	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい
3664	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するもので

	す。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守るのは政府の責任です！
3665	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も PFAS ゼロをめざしてほしい
3666	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守って下さい
3667	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安心して暮らしたい。再評価を！
3668	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめて、アメリカやヨーロッパなみの基準にして下さい。
3669	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパ、アメリカ並みに規制を強化して下さい。
3670	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 消費することからリサイクルへとなっていくよう、SDGs を推奨されているのに、こんなにゆるい基準でよいのでしょうか？基準を見直してほしいです
3671	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守ってください
3672	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子どもに影響することは早急に改善してほしい。しっかり調査して安全を守ってほしい。

3673	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の評価はアメリカやヨーロッパに比べて極端にゆるいのは納得できません。国民の健康をアメリカ政府やヨーロッパ諸国政府より軽んじているのでしょうか。
3674	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 人体影響への説明をしっかりしてほしいです。
3675	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 命にかかわる問題。規制強化、安全第一を求めます。
3676	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 誠実に対応して下さい。
3677	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の摂取許容量が高すぎるので国際的な基準にしてほしい
3678	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来を担う子ども達の健康を守るためにも欧米諸国並の基準にして下さい
3679	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な基準にしてほしい
3680	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 しっかり調査して、安全対策を行え！
3681	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算するとPFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/mlに相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べPFOSで200倍、PFOAは666倍でIARCはじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 米国と足並みそろえ PFOA・PFOS から国民を守ってください！
3682	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量の基準を見直し、水や食品への影響が深刻になる前に検査の十分な実施を早期に願いたい。
3683	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ○子や孫の健康を守って下さい ○国際的な発ガン性評価を取り入れないのはおかしいのでは！！
3684	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守る為に、広く皆に知らせて下さい。
3685	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせて下さい
3686	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私達の健康を守って下さい
3687	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本は、本当に食品添加物が多い。少しでも減らして欲しいです
3688	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください！
3689	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制強化をもとめます。
3690	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高

	齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準の見直しをお願いします。
3691	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 守って下さい。
3692	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ヨーロッパ並の『PFAS ゼロ』に日本も規制すべきです。
3693	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 被害患者がたくさん出現してからでは困ります。その前にしっかり再評価をお願いします
3694	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価をとり入れて下さい
3695	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の未来の為に規制強化して下さい！
3696	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界を見て! 目先のことばかりじゃなく、未来を見すえた基準にして下さい！
3697	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 将来をになう子供達の健康を守るために調査、対策を厳重に実施して下さい。
3698	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食べ物などからの影響が心配です
3699	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 次世代にこれ以上の汚染が進まないように、産業の PFAS 使用を禁止してほしい。
3700	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3701	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の健康を守って欲しい！！
3702	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 統一した国際規準で判断・規制して欲しい！将来のために！
3703	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水の規制を強め、規準値をドイツ並みにしてほしい。
3704	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 土壌を改善して安心できるように。
3705	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 知らず知らずに被害拡大している　そんなことになる前に。
3706	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な基準にしてほしい
3707	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	アメリカ並みの基準にしてほしい
3708	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 未来の子どもたちに、汚染を残さないようにして下さい。
3709	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 再評価を求めます
3710	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 2 人に 1 人ががんの時代。これ以上がんで苦しむ人を増やさない為にも規制強化を求めます。
3711	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全な許容量にして下さい。
3712	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子や孫の健康を守ってください
3713	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私達の健康を守って下さい。
3714	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国民の健康を守る基準にして下さい
3715	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 勉強会に出たいと思っています
3716	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	子や孫の健康を守って下さい。
3717	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 もっと PFAS について世の中が知ってもらい、国民がもっと声をあげ政府に対策をきちんとしてほしい（早急に）。
3718	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 『発がん性』に関する『姫野座長』コメントに異議有り。食品安全委員会は IARC『発がん』評価を基本とし『発がん物質』『閾値あり』反応として最新疫学データに基づき用量反応曲線を選択し、国民を守るための RfD を算出しなければならないと思います。
3719	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 薬害の歴史はくり返えされています　不適切な医療行政の関与が疑われたものを指します。責任があります。
3720	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 地下水の汚染は飲料水のみならず　すべての産業にも影響を与え命と暮らしをおびやかします。早急に対策を求めます。
3721	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品安全でなく、汚染を助長する許容量と言わなければなりません。見直しを要求します。
3722	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 大変高い数字の濃度がでているのでおどろきました。しかし全然報道されないので知らない人も多いはず。自分の身体は自分で守らなければならないですが、限度があります。濃度の高い地域に住んでいる人達はちゃんと知るべきです。
3723	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 全国で調査し、追跡して下さい
3724	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 住民全員の血液検査を受け国でしっかりと調査をしてほしいです。そして追跡してほしいです。
3725	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康への影響が否定できない以上予防原則に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきであると思います。再評価を求めます。
3726	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 せめてアメリカの基準に合わせて欲しい。
3727	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 上記に賛同いたします。

3728	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 気やすめで「即健康には影響しない」としないで調査にもとづいた国際的知見による予防原則を重視して欲しい。
3729	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS はそもそも兵器として開発されたもので、それをフライパンにしたのがテフロン加工（デュポン社）　基地以外でも高い数値の所があり、原因がはっきりしない。全国で水と血液の数値を調べるべきと思います。
3730	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水はとても大切です。体の 60%は水です。PFAS の「20 ng が妥当」と食品安全委員会が判断したことに大変驚きました。国民の体をもっと考えた判断を要求します！！
3731	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国に科学的知見に目をそむけることなく、国民の安全を守る基準を作成しなければならないと考えます。
3732	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS について、こんな高い数字では困ります。
3733	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 『生命の水』の汚染は許せません　子供達の為にきれいな水を守りましょう　PFAS の基準は欧州並に!
3734	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 昭島市は、水がおいしいというが数字が高いのにおどろきました。
3735	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供がしんぱいです
3736	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私は脂質異常症です　安全と考えるのですか？　ギモンです
3737	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 私の血中濃度は 20.3 ng/ml です。米国のガイダンス値を超えています。摂取許容量の基準は米国の水 4 ng/ℓ にすべきです。米国の科学的な評価を否定する論証がないのが『不十分』です。
3738	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達が健やかに暮せるようにして下さい。
3739	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見

	に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 水は命のもとです。安心できる基準にして下さい
3740	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 WHO が昨年 PFOA を『発がん性があると認定しています。その上 EU の 64 倍　欧米の 200～666 倍ととても許容範囲を超えています。証拠不十分であるならば　なおさら疫学調査が必要と言えます。納得できる数値ではありません。
3741	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます食品安全委員会としての評価としては、不十分、一貫性がないと思います。 食品安全委員会としての評価としては、不十分、一貫性がないと思います。
3742	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全だという数字ではないですね。こんなに高い数字では、困ります。
3743	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 永く保育園勤務していました。私自身の検査数値がとても高く、一緒に生活していた子どもたちにも影響があるかと思うと、申し訳なく感じました。そもそも基準がゆる過ぎです！子どもたちの健康を守って！
3744	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 エビデンスに基づいた、国民の生命と食事安全を優先した対応を願います。
3745	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量は外国と比べても非常に不安です。下げる対策を望む。
3746	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 横田基地の側に住んでいます。この先 PFAS が原因でガンになるとしたら、悔やまれます。国民の命を最優先に考えて下さい。
3747	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 PFAS の許容摂取量が欧州、米国と比べてあまりにも違う値に愕然としています。この高い水準で国民の健康・安全・安心は担保される訳がありません。何よりも若い人達や子ども達の健康を考えると不安でたまりません。欧州の対策と同様に日本も『PFAS ゼロ』を目指すべきです。
3748	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 東京、多摩の住民の PFAS 血中濃度は高く、飲み水の汚染と体内汚染に相関があると知った。まずは飲水の安全のため許容摂取量を欧米並の基準にし、対策を打っていくことが、住民・国民を第一に考える政策ではないでしょうか。
3749	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供や孫のためにも安全な水をと願っています。よろしくお願いします。

3750	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 摂取許容量をアメリカ並みに下げて下さい。子供達や孫の健康を守るために引き下げて下さい。
3751	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 この基準では身体の安全が守れません
3752	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3753	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3754	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3755	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 大事な孫たちが健やかに暮らせるようにして下さい。人の命は平等です。
3756	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的知見を重視し、過去の被害教訓を活かした対応をすべきだと思います。国民の健康を守る責務を果たすべきです。
3757	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康への影響をはっきり調べて公開してほしい。
3758	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3759	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	国やダイキン工業の責任でしっかりと調査し結果を公表してください。
3760	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国がとるべき責任はとってほしい
3761	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国が責任を持って取り組んでほしい。
3762	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 数十年後、「あの時の判断は間違っていた」と簡単に済せられそうで怖い。健康はその人にとって何より優先すべき事なのできちんと調査してほしい。
3763	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい
3764	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たちの未来のため、健康にすごせるようにキチント対応すべきです。
3765	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3766	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康でいられる基準を求めます。
3767	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米並みの数値にして下さい。
3768	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私達の健康を守って下さい！
3769	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 知らないうちに人体に影響のある物質を摂取するのはとても怖いです。安全基準を見直しを求めます。
3770	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3771	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3772	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 PFAS ゼロを目指して規制を強化してほしい。
3773	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 未来の健康を守って下さい。
3774	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子の健康を守って下さい！
3775	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本もヨーロッパにまけずに規制して下さい。
3776	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 自身が高齢になった時に苦しむことにもなりかねない問題なので注目していきたいと思います。
3777	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。
3778	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 永遠の化学物質　PFAS は規制を！
3779	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米

	国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS 規制に関して、しかるべき法改正を求めます。
3780	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守るために基準を下げてください。
3781	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 「安全に問題なし」と科学的に理論がなければ、基準を減らすべきです。
3782	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 疑いがある以上、基準を下げて守り、日本を守りましょう。
3783	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3784	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な疫学調査を実施して、国民の命・生活を守ってください。
3785	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
3786	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは「PFAS ゼロ」をめざしている。日本も規制してほしい。
3787	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFOA が発がん性ランク 1 になり、不安が増しています。規制強化を！
3788	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
3789	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ヨーロッパでは、PFAS ゼロをめざしている。日本も、健康に害があるようなら教えて下さい。
3790	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3791	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。

3792	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのはおかしい〜〜〜〜！！
3793	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3794	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って！！
3795	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 毎日摂取する水や食品がとても心配です。特に子ども達や孫の健康を守って欲しい。
3796	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
3797	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みのきびしい基準にしてほしい
3798	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもの健康を守って下さい。
3799	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 欧米なみの規制にしてほしい。国際的な発ガン性評価を取り入れないのは、おかしい
3800	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を守って！！
3801	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのがおかしい。
3802	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価をとり入れないのはどうかと思う。住民の健康を守って下さい！！
3803	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3804	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先

	すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れて下さい！子供達が安心して生活できる様に基準の見直しをお願いします。
3805	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にしてほしい
3806	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ワクチン効果の減少が一番気になります。脂質異常もありますので。
3807	23 歳の時、結婚してここに住むようになりました。50 歳頃からコレステロール値が上がり始め、70 歳の時には LDL コレステロール値が 200 近くなったため高脂血症の薬をのみ始めました。年をとると、みなさん同じかナァ～と思っていましたが、ピーファスの話を知り、ビックリ。昨年あわてて浄水器をつけました。孫や娘と同居しているので心配大です。各務原市の対応に腹だたしい限り！！
3808	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な安全基準を大幅に上回るような許容量を認めていることにおそろしさを感じる。早急に規制すべき。
3809	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちのために、これから産まれてくる子たちのために、きちんと対応して下さい。
3810	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 企業は責任を持って地域の方の健康について対応してください。
3811	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。私も健康おかされるのイヤです。

3812	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちの健康を守って下さい。
3813	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 少子化が問題になっている中、不妊症のリスクがあるのは問題だと思います。日本も世界基準並に規制して下さい。
3814	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たちが安心して暮らせるように、子供たちを安心して育てられるようにして下さい。
3815	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと情報を公開して、国民の健康を守って下さい。
3816	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供や孫、そして　これから産まれてくる子供達が健康で安全に生活できる環境を作ってほしい。
3817	私にはまごがおります。今回の摂取許容量では心配です。アメリカ並みに下げて下さい。子どもたちや孫の健康を守るために引き下げて下さい。お願い致します。
3818	○血液検査結果で、かなり高い数値が出ています。すぐ健康被害に結びつくものでは無いとはいえ、不安です。世界的にも汚染が問題にされている PFAS 基準がなぜ日本は低いのか！汚染源に心当りが無い私の場合、食品、フライパンなど、フッ素加工品を長年愛用しており、心配です。しかし、規制が低いために、台所用品のほとんどはフッ素加工ばかり。当然の様になっています。国民の命・安全を守る上でも、一刻も早く PFAS 規制を強化して下さい。 ○企業等への指導を強め、最低でも毎日の食生活にかかわる製品への規制は強めて下さい。 ○国民への周知徹底を強めて下さい。
3819	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害など

	の深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 有機フッ素化合物血中濃度測定しようとした経緯は、又、きっかけは、なにだったのでしょうか。
3820	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国は、大気汚染、農作物などへの影響や、健康被害との関連性の調査をもっと進め、規制の強化など一刻も早い対策を考えるべきである。
3821	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 日本も食品安全基準値は、諸外国に比べ甘いとよく聞きますが、身近でもこのような公害があることは、本当に怖いです。他の先進国並みに規制して下さい。
3822	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安全な食品、土地（土壌）がない。発がんリスクが高いのに国際的発がん評価を取り入れないのはおかしい。
3823	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカはもっと低い基準になっていると聞きました。国民の健康に責任を持つ態度とは思えません。考えなおして下さい。
3824	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 発がん性の濃厚な PFAS に関して、西東京市の井戸水取水を停止して下さい。三多摩地域でも高水準の PFAS 濃度となっており、大変不安な日々です。
3825	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 欧米はピーファス・ゼロを目指し、対策を進めている。自然界にないものだ。日本もゼロをめざすべき。
3826	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきと思います。
3827	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混

	ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリか・ヨーロッパは、「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしている。日本も「ゼロ」を目指すべきだ
3828	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 多摩の住民の PFAS 血中濃度が高いと聞きます。又日本の摂取許容量は米国や欧州と比べ著しく高いものです。こういう情況は即変えられねばなりません。
3829	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 この（案）の摂取許容量は、アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍以上という（案）です。このような高い水準では、発癌性有機フッ素化合物に対する不安は高まるばかりです。健康に知見をもち、厳しい水準に決定して下さい。予防医学の立場での見直しを求めます。
3830	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 乳幼児ほど影響を受け易いです。症状が出てからでは遅いです。健康で未来の社会をつくる人のために、ぜひ許容量を検討しなおしてください。
3831	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 食品安全委員会で出した PFAS の摂取量（案）は、とうてい認める訳にはいきません。なぜ、このような数値を出したのかを知りたい。欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍を超えるなんで驚き以外の何ものでもありません。私達が毎日使う「水」を安全だと誰もが認めるまで　私達は追求していく。どうか見直しをお考えいただきたいと思います。
3832	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 毒性のある PFAS は摂取許容量を下げるべきところを濃度を高くするとは、人の健康を考えているとは思えません。世界は摂取許容量を下げる方向で進めています。飲料水の濃度を高くすることには絶対反対です。
3833	「西東京市保谷町給水所は東京都の PFAS 管理強化給水所となっています。今でも PFAS120 ng/l の井戸水を川の水と混ぜ基準内として、蛇口から人の口に入っています。これ以上発癌性の健康リスクのある飲料水を高い濃度に増やされてはたまりません。 食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、非常に高いです。これでは「安全に問題なし」とは言えません。未来の子ども体の健康を守るために、こんな高い摂取許容量は認められません。見直してください。」 アメリカの PFOS で 200 倍、PFOA で 666 倍、欧州の 64 倍です。日本の 20 ng が妥当とはなんと高い数値ですか!
3834	私は 3 人の子を持つ父親です。今回意見書を出そうと思ったのは沖縄に住む中で避けて通れない基地被害について、爆音や事件事故だけではなく生きて行く上で大切な水（環境）への影響も日本政府が見て見ぬふりをしているからです。なぜ、欧米では PFAS ゼロを目標に対策を進めているのに日本の取り組みが見えないのか非常に疑問に思っています。先ずは原因究明と対策を早急におこないこれ以上の被害を食い止める努力をして欲しい。県民の健康、子ども達の健康を守って欲しい、不安を取り除いてくれることを切に願っています。
3835	明石川の上流に産業廃棄物処分場がありそこが原因かと思われますが明石川の水が PFAS で汚染されています。住民の血液検査により基準数値を超える数値が出ました。特に若い人の数値が高かったようです。水は生活に欠かせない物。農業、水産業にとってもすべてかかわってきます。国の基準を低くして、生活を守るべきと思います。又、企業の廃業物の処理は国の指導で行うべきと思います。基地の周辺も高い数値ときいてます。全国の状況を国民にお知らせ下さい。
3836	長年 PFAS に汚染された水道水を飲み続けてきました。ここに住んでいる限り PFAS 汚染の水を飲み続けることになります。一緒にくらしている子どもたちの健康も心配です。一日も早く対策をとってください。
3837	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。

	大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 住民の健康を守る基準にして下さい。
3838	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並の基準にして下さい。
3839	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 公害で苦しんでいます。同じ様な人を作らないでください。
3840	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 身体の 60%以上が水なのに、その水が安全でないだなんて、私や夫は大人になってからだから、何とか無事かもしれないが、多摩で生まれ育った息子は体全部がその水でできていると思うと将来心配です。
3841	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な到達に学び、日本として行動すべきだ。
3842	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ダイキンと行政は責任を持って市民に安全な水を供給すべく処理をして下さい。
3843	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 将来のために　今のうちに規制を強めてください！よろしくお願いします。
3844	健康に関しては、食品添加物も含め基準は厳しくして欲しい。

3845	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心して暮らせる基準にして下さい。
3846	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の水は安心して飲めたはず。以前は水道の蛇口から安全な水を疑いもなく飲んでいました。外国とは違い日本の水は安心して飲めるねと子供達と話していたのは過去の事になりました。アメリカと同じレベルに出来ないのは何故でしょうか？原発と同じで一部の国民が騒いでいるだけだし安全神話で乗り切れば、忘れるだろうと思っているのでしょうか。未来の子供達に安全な水を甦らせて下さい。摂取しなければ病気になる人も減り健康保険も破綻しないと思います。宜しくお願いします
3847	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 誰のための摂取許容量かわからない
3848	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 米軍横田基地の近くに居住しており、PFAS 汚染に不安をいだいています。水は生命維持に不可欠であり、毎日摂取するものです。そして PFAS の影響は子孫まで及びます。少なくとも、欧米を超える PFAS 許容摂取量の規制を求めます。
3849	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心して暮せる基準にして下さい。
3850	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 地域住民、労働者が安心して暮し働ける基準の設定を求めます。アメリカ、大企業言いなりの基準にしないで下さい。
3851	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 農作物を食べても安全か検査が必要だと思います。

3852	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康被害が心配です。検査が必要だと思います。
3853	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 三多摩健康友の会武蔵村山支部の事務局長をしています。審議結果案を 20 人で学習しました。会員 100 人にパブコメを出すようよびかけました。なぜこんなに高い数値になるのでしょう。米国や欧州と比べあまりにも高い基準。健康が守れるのか心配です。
3854	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 上記コメントに同意します。「食品安全委員会」の「20 ng 妥当」の基準では健康を害します。
3855	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 EPA や EFSA と比べて大きな差がありますが、他国のこういった機関との意見交換、検討の交流などを行っているのでしょうか。日本の食品安全行政全体への信頼にもかかわる問題だと思います。再検討を求めます。
3856	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人体に有害と思われるものは出来るだけ取るべきではない。
3857	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康被害が発生してからでは遅いのです。
3858	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 人体に PFAS が入ると一生その成分はぬけない。がん等の発病率が高くなるとの発表もある。ただちに対策をとるべきだ。
3859	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

3860	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3861	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3862	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3863	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3864	欧米は「PFAS ゼロ」を目指し、対策を進めようとしています。日本も「ゼロ」を目指すべきだと思います。
3865	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS で血中濃度が高値になると、どのような症状でどれくらい経過すると、問題なのか等不透明で　正しい情報がほしいです。
3866	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 早急に実態把握のうえ公表せよ。
3867	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	PFOA が発がん性リスク 1 になり、不安が増しています。きびしく規制を強化して下さい。
3868	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発がん性評価を取り入れないのは、おかしいです。アメリカ並みのきびしい基準への再評価を求めます。
3869	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 ダイキン工業に PFOA 汚染の社会的責任をとらせてください。
3870	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守って下さい。
3871	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心安全が守られる健康な社会にしてほしい。
3872	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 国際的な発ガン性評価を取り入れないのはおかしい！！絶対におかしい！！
3873	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子や孫の健康を守ってください。アメリカ並の基準にしてほしい。
3874	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるの

	か。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 アメリカ並みの基準にして欲しい。
3875	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 早急に PFOA 汚染を止めてください。日本も先進国であるな　ら国際基準を無視・軽視しないでほしいです。米軍は　自国と同じルールで、PFOA をたれ流さないでほしいと思います。
3876	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 具体的に含まれているものがまだまだ知れわたっていないのでしめしていってほしいし、安全な物もしめしてほしい
3877	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 世界基準に合わせた規制を行ってほしい。
3878	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子供たちの健康と未来を守ってください。
3879	日本人に PFAS が与える影響に対する疫学調査について、対象数が極めて少ない中で、資料文献調査のみに基づき、アメリカ環境保護庁（EPA）、欧州食品安全機関（EFSA）と比較して、極めて多い数値を摂取許容量とする案は見直すべきと考えます。 　大規模の疫学調査結果が出るまでは、予防措置として、少なくとも、我が国が輸入及び取引を禁止している、PFOS、PFOA、PFHxS 等については、暫定的にアメリカ環境保護庁（EPA）、欧州食品安全機関（EFSA）等の数値を基準とするよう求めます。 　国際がん研究機関（IARC）の PFAS 評価と比較しても、発がん性を低く評価する記述は、健康被害を未然に防ぐ観点が不十分であり、国際的な研究の到達点を踏まえ、見直すべきよう求めます。
3880	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」

	子どもたちの健康が守られる基準にして下さい。
3881	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 府政の責任として、摂津市ダイキン工業周辺中心に住まわれている住民の血液検査を実施して公開すべきです。
3882	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 きちんと情報公開し、安全であるか知らせて下さい。他の国で規制されている危険度を超えて規制緩和しないで下さい。
3883	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 大阪で自主的に血液検査が行われ明らかに影響が出ています。欧州の 64 倍以上となる許容値はやはり心配です。
3884	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3885	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3886	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3887	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3888	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3889	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用してい

	ることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3890	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守って下さい。
3891	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ゆるさへんぞ
3892	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食品の為に安全をお願いします。
3893	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 子どもたちに影響がないよう早い対処をお願いします。
3894	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3895	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3896	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3897	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的

	知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3898	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3899	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3900	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 PFAS にとり組むべきである
3901	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 私はともかく、まごの事を考えると不安で仕方ありません。安心して生活出来る環境を未来に残してほしい。
3902	やはり農薬や添加物と同じで、欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍と基準値が大変高いことはどうしても気になります。データが少ないとはいえ、こうして取り上げられるということは、何かしら問題があるからだと考えますし、データが少ないからこそ、健康や子どもや胎児への将来への影響への不安を考慮し、予防原則という考え方で基準を下げて頂きたい。 2023 年 12 月に出された国際がん研究機関（IARC）による PFOA の発がん性の判断を取り入れて頂きたいことと、米国環境保護庁（EPA）の 2016 年版ではなく、2023 年版の指標値か、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値の採用を望みます。又は、EPA の最新版が発表されるまで審議の継続を望みます。PFHxS に関しては子どもへの影響が危惧されますので、予防原則に充分に考慮して、2020 年の欧州食品安全機関（EFSA）の指標値の採用を望みます。よろしくお願い申し上げます。 2024 年 3 月 7 日（木）
3903	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の食品安全委員会は何故 PFAS の摂取許容量を欧米と比べて数百倍も高い数値でよしとしているのか驚き、大いに不安である。「国民の健康の保護が最も重要である」という委員会の基本認識に立ちかえり、科学的知見に基づいた、客観的かつ中立公正なリスク評価を行ってほしいものです。

3904	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の摂取許容量（案）は高すぎます。安全性から許容量を減らすように再評価して下さい。
3905	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準値をきびしくして下さい。
3906	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」
3907	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川の高い数値検出は不安。情報を公開し適正な対策を行うよう求めます。
3908	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂取許容量が欧州の 60 倍、アメリカの 200 倍とはオドロキです。子ども達の健康が心配です。国の責任で早く見直して下さい。
3909	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂取許容量の基準をきびしくして下さい。
3910	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による

	PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 健康を害するような分質を川や海に流さないでほしい。基準値をきびしくしてほしい。
3911	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 安心安全な生活を維持していくことを優先してほしい。
3912	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 基準値をきびしくしてほしい。安心して飲める水をよろしく！
3913	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 予防原則に基づいてまず取り込む量を減らすべきです。
3914	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。血液検査してほしい。
3915	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 過去の教訓を活かし有害な物質には厳しい基準を。
3916	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は、欧州の 64 倍以上、アメリカの PFOA で 666 倍と IARC はじめ国際的知見に逆行した非常に高い水準です。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。健康への影響が否定できない以上「予防原則」

	に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 20 年以上前、新築祝いに友人からドイツ製のフライパンをもらいました。フッ素樹脂加工のものです。フッ素樹脂がとれてきたらまた、再加工をとの日本語のパンフレットもついていました。数年（?）後　友達から電話あり。「もう、あのフライパン使わないで」と。今思えばドイツではフッ素樹脂加工が問題になっていたのではと思います。それは WHO の発表やアメリカ、ヨーロッパの摂取許容量の低さをみて思います。日本の高さは異状です。私は子、孫をガンにしたくありません。
3917	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS<250 ng/ml、PFOA<143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスの PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍、欧州の 64 倍以上となり、IARC はじめ国際的知見に逆行するものである。食品安全委員会はなぜこのような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」と説明できるのか。感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等の安全は守られるのか疑問である。 兵庫県の明石川では高い数値が検出され不安が巻き起こっています。大阪で自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度は摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示している。国の責任で住民の血液検査含む疫学調査を実施し、情報を公開すべきである。 また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみを採用している。過去には水俣病、アスベスト被害などの深刻な教訓がある。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべきである。」 摂取許容量を米国並みに下げて下さい。
3918	PFOS、PFOA それぞれに 20 ng/kg/日が妥当と判断したことに驚きました。その数値は欧州やアメリカの何倍も高い数値です。WHO、国際がん研究機関（IARC）が「発がん可能性」を指摘し、欧米では「PFAS ゼロ」を目指し対策を進めようとしている。国際的な流れに反しています。日本でも限りなきゼロを目指すべきだと思います。PFAS は難分解性で環境にも人体にも残り続けるといわれ、永遠の科学物質といわれているものです。沖縄県では水道水の中に残留し、50 年以上も PFAS の入った水道の水を飲んでいます。長寿県をほこっていたのに今や無惨な状況です。因果関係は証明することはむつかしいと思いますが無関係ではないと思っています。欧米の疫学調査でも明らかなように乳児や子供に影響が大きいといわれている。日本ではどのような根拠で決定しているのでしょうか。沖縄の市民団体の調査では血中の中に PFOS、PFOA だけでなく PFHxS の数値も高く出ています。それらも含めたものにすべきではないでしょうか。
3919	まず、要約に記載されているが、『PFOS 及び PFOA について、疫学研究で報告された血清 ALT 値の増加、血清総コレステロール値の増加、出生時体重の低下、ワクチン接種後の抗体応答の低下との関連は否定できないと評価した。』とある。PFAS がその構造特性として、中鎖脂肪酸とよく似た脂肪酸ミミクリーとして細胞内では認識されることがわかっている。肥満者により肝機能異常がより顕著に表れやすい結果などを見ても前出の肝機能異常はこの特性に基づくものとして、ある程度の科学的合理性をもって推察される。 PFAS については、P26 に『ヒトにおいて、PFOS、PFOA 及び PFHxS の臍帯血と母体血清濃度には正の相関がある。』と記載され、これについての反対意見の記載はなく、評価書案において胎児への PFAS の移行は確認されているとみなされる。人の場合において、排泄されにくく、半減期が長く、蓄積しやすい PFAS のようなものが生体内でどんどん蓄積していって良いはずがないことは明らかであり、長期間曝露によって軽微とされているその害がより大きくなる可能性も充分にありうる。健康被害においては、予防原則が鉄則である。このような PFAS について、明確な疾病としての被害発生をエンドポイントにおいて、その健康被害評価を行うことは、全くもって不適切である。我が国では、被害が発生した折にその被害発生の因果関係の立証を被害者に求めている。これは、大きな誤りであり、該当物質の生産者並びに利用者が、無害であることを証明するのが本来である。PFAS について、今回、冒頭で軽微かどうかは別にして、明らかにヒトの生態に害があることが判明しているものについて、軽微であるから、明確な疾病被害がもたらされることが証明できないから、許容すべであるがごとき意見が述べられているが、これは、全く赦されざることである。人はだれしも健康的な生活を生涯にわたって送る権利を保障されており、その権利を自身とかかわりのあまりないものによって侵害されて良いはずなど、全くもってない。 明確に健康被害を発生させるほどの有害性がなければ、社会的に許容されると判断しているとしか思えない今回の評価書案は、PFAS 製造企業、利用企業、産業の保護政策の一翼を担うものでしかなく、その基本姿勢において、国民の健康を食品安全性の立場から守るべき食品安全委員会の責任を放棄したものと言わざるを得ず、悪質であるとさえ言える。 P17 からの環境省による一般環境調査、P21 からの厚生労働省の水質検査においても PFAS による汚染が拡大しつつある現状は明らかである。 P25 からの『体内動態に関する知見の概要』において、PFAS の生体への吸収、蓄積は明らかとなっており、P34 からの肝臓にまつわる検討においても動物、疫学いずれの調査においても肝酵素への影響は明らかであり、P41 に「PFOS、PFOA 及び PFHxS は、人の肝臓に影響を及ぼす可能性は否定できないものの、証拠不十分』と恣意的に文言で歪めようとしてもしきれずに表現として残さざるを得ないものである。P44 からの脂質代謝においても同様で、低濃度被曝、高濃度被爆において肝障害の影響を受け、TC 濃度の推移等に変容が表れることを述べながら、そのことを評価に入れないままにデークのバラツキとして意図的に評価し、PFAS の脂質代謝・肝臓への影響を曖昧にさせてしまっている。明らかに科学的中立性を損なう見解であり、到底受け入れられない。 P54 からの『甲状腺機能と甲状腺ホルモン』においては、動物実験において、T3、T4 への影響を認めながら、TSH への影害が見られないから、影響がないとの判断を下しているが、T3、T4 の影響を受けて TSH に影響が出るのは、かなり T3、T4 の値が異常になってからであり、これも軽微な影響は、「生体に影響なし」とする恣意的、健康被害の矮小化あるいは、将来的健康被害予測を隠蔽する悪意に満ちた不当な判断である。同様の判断は、疫学においても見られ、男性への影響、高齢者を中心に長期被曝によると思われるへの影響を示すデータがあるにもかかわらず、総括的に取り扱うことで、影響を過小評価する意見を付している。 出生時体重についても明らかに影響があることを示すデータがあるにもかかわらず、甲状腺ホルモンデータと意図的に関連付けることで、結論を曖昧なものへと誘導している。PFAS の総合的な影響を受けて、低出生児が誕生するというのが事実であるとするのが、科学的に妥当である。 今回、食品安全委員会は、PFAS の摂取許容量（案）を決定するにあたり、「発がん性については、動物試験でみられた事象は、げっ歯類特有のメカニズムである可能性がある又は機序の詳細が不明であることから、ヒトに当てはめられるかどうかは判断できないと評価した。ヒトでの疫学研究から提起されている PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関

	連については、研究調査結果に一貫性がなく、証拠は限定的であると判断した。PFOS と乳がん、PFHxS 腎臓がん及び乳がんとの関連については、証拠は不十分であると判断した」として、摂取許容量（案）を PFOS、PFOA それぞれ 20 ng/kg/日と設定している。これは現在の水道などの暫定目標値の算出の際に使用したのと同じ値であり、暫定目標値も現状維持となると考えられる。しかし、この値を採用していた EPA（米環境保護局）は昨年、PFOS、PFOA の規制値を 0.1 ng/kg、0.3 ng/kg へと大幅に厳しくしてことを考えると、結果には大いなる疑念があり、恣意性を感じる。 本評価は、実験動物の結果のみを採用しているが、ヒトの血中濃度における PFOA の半減期は約 4.4 年と実験動物に比べて非常に長いことも指摘されていることを踏まえていないと思われるし、国際がん研究機関（IARC）が PFOA について、限定されたエビデンスであるものの PFOA と精巣がん・腎臓がんのリスク増加の関連性を認めて、「発がん性がある」に分類を引き上げていることについても限定的として結果に反映されていないことも問題である。こうした化学物質の被曝影響は、高等動物の方が精神活動を初めてとして、進化した分、種々の影響を受けやすいと考えられ、被害想定を矮小化するべきではない。 米国科学アカデミーが 2022 年 8 月に公表した臨床ガイダンスでは、血液中における 7 種類の PFAS（(PFOS･PFOA を含む）の合計値が 20/ng/ml を超えると健康被害の恐れが高まるとしているが、今回の摂取許容量では、この血中濃度を大幅に超える値である。 食品安全委員会はこのような非常に高い血液濃度を設定した上で、「PFOS 及び PFOA をはじめとする PFAS については、健康影響に関する情報が不足しており、不明な点が多い」とし、今後知見があれば判断が変わる可能性があるとしているが、情報が不足しているから評価せず、規制を行わないという姿勢は、他国と比べても、国民の健康を積極的に守る姿勢に欠けていると指摘せざるを得ない。疑わしきは健康被害予防の原則に従い慎重に扱うべきである。疑わしきを放置し、被害発生が認められた後にその因果関係の立証を被害者に求めている現在の日本政府の姿勢は転換されるべきである。全国の米軍基地周辺に始まり、その製造工場や半導体工場や産業廃棄物処理場周辺でも、PFAS の高い数値が検知され、PFAS 汚染は全国的な問題となってきており、国民の不安は高まっている。兵庫県内でも明石川で非常に高い数値が検出されている。大阪で大学や住民らが自主的に行った 1193 人の血液検査による PFAS 血中濃度では、摂津市ダイキン工業周辺を中心に明らかに高い結果を示しており、PFAS が健康被害を発生させている、もしくは今後発生させてくる可能性は極めて高い。 新たな知見を待つのではなく、国の責任で積極的に住民の血液検査などを含む疫学調査を実施し、情報を公開し、PFAS の健康影響を前向きに明らかにしていくべきである。 水俣病、大気汚染、アスベストなど数々の公害の教訓を生かし、いのちと健康を守る観点から、 PFAS の摂取許容量について、「予防原則」に基づき、より厳しい値に設定することが必要であると考える。 また、PFAS の汚染源に対して、積極的に拡散、拡大抑止に向けて政策を立案すべきである。例えば、PFAS の除去においては、飲料水をはじめとして、活性炭などが吸着除去剤として主に使われており、PFAS 吸着後の除去剤が廃棄処理にあたっては、PFAS が廃棄規制物質とされていないために一般廃棄物として、事実上垂れ流し状態になっている現状に対して、早急に廃棄規制物質に指定して対応する必要がある。
3920	水源が水路が、日本国内米軍基地付近の場合に漏れていると思います。 明らかにこれは公害だと思います。国民を脅かして不安を与えています。 更に、水道局を民営化する事は、断固反対です！ 今の日本はとても怪しくておかしいです。 国民を全く大事にしていません。 国民に不安しか与えていません。 パブリックコメントが、普及していません。 国民にもっと周知徹底をお願い致します。
3921	欧米並みに摂取許容量を下げてください。世界の最新の知見を取り入れてください。疫学調査を進めてください。
3922	飲料水や農作物から体内に日々摂取されたり、生活用品に含まれているのでは毒性の消失もあり得ないことがはっきりしています。日本も諸外国のように「ゼロ」をめざすべきだと強く感じます。既に国内各地の状況も報道されているので非常に不安です。
3923	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供たちが安心して暮らせる日本にして下さい。
3924	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を上げて欲しい。子供たちに安全を！
3925	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先す

	べき。再評価を求めます。」 PFOA の規制強化を！！子や孫の健康を守って下さい。
3926	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康への影響を重大なこととしてとらえていってほしいと思います
3927	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 規制や基準の見直しを早くして下さい。
3928	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3929	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3930	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3931	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 ガンの少ない社会を目指して国は動くべきと考えます。
3932	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準にして下さい
3933	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な発がん性評価基準の取り入れを求めます。
3934	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3935	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 健康を守るために、基準の見直しをお願いします。
3936	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準にしてほしい
3937	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」
3938	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 世界基準にして下さい
3939	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 一人ひとりの食を守ることは日本を守ること！
3940	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も PFAS ゼロをめざしてほしいです。
3941	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 基準を見直して下さい。
3942	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 子供達の健康を守って下さい。
3943	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 アメリカ並みの基準にしてほしい。
3944	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科

	学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的基準に合わせるために、日本も行動するべきだと思います。
3945	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 国際的な評価を取り入れて規制してほしいです。
3946	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 宜しくおねがいします。
3947	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本の食生活の安全を守ってほしい。
3948	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 安全・健康第一！！
3949	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 食の安全は、未来の子供たちのために守りたいです。
3950	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 事実を知らされていないということは本当に恐ろしいことです。国、自治体にはしっかりと対策をとってほしいです。
3951	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」 日本も食の安全をしっかり守れるように規制を厳しくして下さい。
3952	「食品安全委員会が示す摂取許容量（案）は血中濃度に換算すると PFOS250 ng/ml、PFOA143 ng/ml に相当し、米国科学アカデミーの臨床ガイダンスと比べ PFOS で 200 倍、PFOA は 666 倍で IARC はじめ国際的知見に逆行するものです。このような非常に高い血液濃度を「安全に問題なし」とすれば、感受性が高いとされる妊婦、乳幼児、障がい者、高齢者等をはじめ市民の安全は守られません。また今回は、国際的な疫学調査を軽視し、都合の良いデータのみ採用していることは問題です。健康への影響が否定できない以上「予防原則」に基づいてまず、取り込む量を減らすことを最優先すべき。再評価を求めます。」

	健康な生活を求めます。